2026年度

情報コミュニケーション学部シラバス

授業概要

School of Information and Communication

明 治 大 学

目　次

科目ナンバリングについて ····· 2
講義内容（2026 年度開講科目）
ゼミナール科目群
基礎ゼミナール ····· 5
問題発見テーマ演習 ····· 19
学際科目群 ····· 47
専門科目群
社会科学 ····· 51
人文科学 ····· 64
自然科学 ····· 79
社会システム ····· 84
文化と表象 ····· 113
人間と環境 ····· 136
外国語科目群
英語 ····· 155
ドイツ語 ····· 204
フランス語 ····· 212
スペイン語 ····· 220
中国語 ····· 228
韓国語 ····· 235
タイ語 ····· 241
研究方法・実践科目群
情報リテラシー科目 ····· 246
日本語表現科目 ····· 255
クリエイション科目 ····· 262
リサーチリテラシー科目 ····· 277
海外留学科目群 ····· 285
ウェルネス科目群 ····· 288
キャリアデザイン科目群 ····· 295

授業科目名索引 ····· 298

科目ナンバリングについて

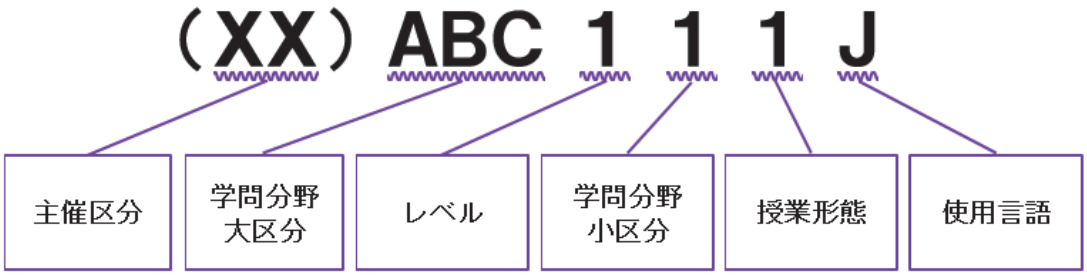
科目ナンバリング制度の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングコードの概要

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

＜科目ナンバーの構造＞



＜各ナンバリングコードの定義＞

① 主催区分コード

科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット２文字で示しています。

② 学問分野 大区分コード

学問分野を大きく区分したもので、それぞれの学問分野をアルファベット３文字で示しています。

③ レベルコード

教授する授業レベルを数字１文字で示しています。

④ 学問分野小区分

本大学が大区分として分類した各学問分野をさらに細かく分類したものを小区分として数字１文字で示しています。

⑤ 授業形態コード

授業の実施形態について数字１文字で示しています。

⑥ 使用言語コード

授業で使用される言語をアルファベット１文字で示しています。

※各分類コードの詳細は、明治大学ホームページから確認できます。

講義内容（2026 年度開講科目）

科目ナンバー：		
科　目　名		
単位数	履修開始年次	**担当者名**
1．授業の概要・到達目標 ……		

※入学年度により、科目名が異なる場合があります。
　情報コミュニケーション学部シラバス 履修の手引き ２１ページを参照してください。

※「問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ」および「問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ」については、
　2026 年度ゼミナール案内を参照してください。

ゼミナール科目群

基礎ゼミナール

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	今村　哲也

1．授業の概要・到達目標

このゼミナールでは、大学生としてのスタディ・スキルをどのように身につけていくのかをテーマにして、講師が担当している科目である知的財産法（その他、情報倫理やビジネスと法も含む）を素材として、演習形式の授業を行います。受講生は、指定した教科書を用いながら、このゼミナールで互いに共有し、議論をすることで、学びの程度を深めていきます。受講生にとっては、大学生として日々学習していく上での「ペースメーカー」的なゼミとして位置付けられます。授業中は、授業に集中して欲しいのと、自分の頭で考えることとを重視するので、許可した場合を除いて、スマートフォンやタブレット端末の使用を制限します。

本ゼミナールの方針は、以下の三つです。第一は、毎週このゼミで報告したり、学生同士でフィードバックするなかで、大学生として身につけるべき、論理的思考、資料の収集・分析、グループワークでのプレゼンテーション等の技法について修得すること。第二は、これらの学びを通して、現代社会における情報とコミュニケーションの意義と機能を知り、受講生の問題関心を高めること。第三に、受講生が今後の学習計画を明確にできるよう、履修指導、学習の進め方などについて、アドバイザーとして適宜学生の相談に応じることです。

2．授業内容

第１回　イントロダクションーゼミの進め方、自己紹介などー
第２回　プレゼンテーションの方法　グループ分け
第３回　グループワーク、ディスカッション
第４回　グループワーク、ディスカッション
第５回　グループワーク、ディスカッション
第６回　グループワーク、ディスカッション
第７回　グループワーク、ディスカッション
第８回　グループワーク、ディスカッション
第９回　グループワーク、ディスカッション
第10回　グループワーク、ディスカッション
第11回　グループワーク、ディスカッション
第12回　グループワーク、ディスカッション
第13回　グループワーク、ディスカッション
第14回　グループワーク、ディスカッション
第15回　秋学期のゼミナールに関する案内　グループ分け
第16回　グループワーク、ディスカッション
第17回　グループワーク、ディスカッション
第18回　グループワーク、ディスカッション
第19回　グループワーク、ディスカッション
第20回　グループワーク、ディスカッション
第21回　グループワーク、ディスカッション
第22回　グループワーク、ディスカッション
第23回　グループワーク、ディスカッション
第24回　グループワーク、ディスカッション
第25回　グループワーク、ディスカッション
第26回　グループワーク、ディスカッション
第27回　グループワーク、ディスカッション
第28回　グループワーク、ディスカッション

3．履修上の注意

対面での議論や意見交換を重視する授業であるため、授業中は、講師が許可した場合を除き、パソコンおよびスマートフォンの使用を認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、該当箇所について、教科書を精読してくること。
復習としては、授業内で学んだこと及び疑問に思ったことを整理し、理解すること。

5．教科書

今村哲也『いちばんやさしい知的財産法入門』（有斐閣、2025年12月）。

6．参考書

ゼミナール内で指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業においてフィードバックを個別に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度 60%、プレゼンテーション40%
正当な理由なく各学期4回以上（春・秋を通算して8回以上）、欠席した場合、演習の性質上所定の教育効果が得られないため、単位は与えない。
正答な理由のない遅刻は、3回で1回の欠席とみなす。講師が全員の出席を採り終える時点よりも遅い場合を「遅刻」とする。

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	岩渕　　輝

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】　＜いのち＞とは何なのか、＜いのち＞は何故大切にしなければならないのか等、＜いのち＞に関する問題は、すべての人が考えるべき問題ですが、小学校から大学に至るまで、学校という場でこうした問題について議論する機会は残念ながらあまり多くはありません。そこで本ゼミでは毎年、＜いのち＞や生き方を考えるための題材を提供し、学生のみなさんが自由に意見交換できる場を提供しています。

本年度は、「自分の身を自分で守る」ために必要な知見を学ぶための題材として、医薬品の健康被害の問題と食の安全の問題の2つを中心テーマとします。厚生労働省が公開している資料や、サンテレビ、CBCテレビ等の報道によれば、新型コロナワクチンで健康被害を受けたり死亡したりしたとして、国の健康被害救済制度に救済申請があった件数が14600件以上あり、そのうち、医療費支給や死亡一時金支給などによる救済が認定された件数は9400件以上（因果関係を否定出来ないとして認定された件数。厳密な医学的因果関係があるかどうか不明なものも含む）あるとのことです。なお、全救済認定件数のうち、死亡の認定件数は1050件を超えています（2026年1月現在）。この、新型コロナワクチン一種類だけで1050件を超える死亡認定件数は、新型コロナワクチン以外の過去約45年間の24種類のワクチンの死亡認定件数を全部あわせた数である151件を大きく上回っています。春学期は主に、医薬品の健康被害の問題について考えます。秋学期は主に、食の安全の問題について学びます。外国ではリスクがあるとみなされている食品が、わが国では普通に輸入され広く流通していることに警鐘を鳴らしている農業問題の専門家がいます。また、食品添加物についても、多くの国で使用が禁止されているのにわが国では使用が認められているものが、少数ではありますが存在します。それら食の安全と関係のある様々な問題について話し合う予定です。

ゼミの時間は、全員で読む輪読用テキストを決めて発表当番を割り当て、当番の人に発表していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。また、読用テキストとは関係なく、日ごろ自分が抱いている疑問を提示し、それについて他のゼミ生から意見をもらう時間もとる予定です。他のゼミ生からの質問に答えたり、様々なコメントをもらったりする中で、自分の考えを深めて下さい。

【到達目標】　本ゼミの目標は、医薬品の健康被害の問題と食の安全の問題を題材に、社会全体に目を向けながら、＜いのち＞や生き方についての各自の興味と考えを深めて行くことにあります。

2．授業内容

第１回　はじめに（春学期）
第２回　薬の基礎知識
第３回　議論（発表者A）
第４回　ワクチンと免疫学の基礎知識
第５回　議論（発表者B）
第６回　薬害事件の歴史
第７回　議論（発表者C）
第８回　コロナワクチンの基礎知識
第９回　議論（発表者D）
第10回　コロナワクチンの健康被害
第11回　議論（発表者E）
第12回　予防接種健康被害救済制度について
第13回　議論（発表者F）
第14回　まとめ（春学期）
第15回　はじめに（秋学期）
第16回　予防原則について
第17回　議論（発表者G）
第18回　遺伝子組換え作物の基礎知識
第19回　議論（発表者H）
第20回　ゲノム編集食品の基礎知識
第21回　議論（発表者I）
第22回　巨大企業の食料戦略
第23回　議論（発表者J）
第24回　食の安全の問題について
第25回　議論（発表者K）
第26回　食料自給率と政策の問題について
第27回　議論（発表者L）
第28回　ａのみ：まとめ（秋学期）

3．履修上の注意

予備知識は必要ありません。

輪読用の本の購入費（一学期につき2000円以下）が必要になります。輪読用の本は参考書欄の本の中から選ぶ可能性が高いですが、最終決定はゼミ開始直前になりますので、まだ買わないで下さい。

質問等がある場合は次の専用アドレス宛にメールして下さい。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

当番制で発表していただきますが、発表当番になった人は発表テーマについて十分な準備をして下さい。また、他の人の発表を聞くときも、関連することを予習・復習し十分な議論ができる準備をしてゼミに臨んで下さい。

5．教科書

とくに定めません。

6．参考書

厚生労働省の薬害教育テキスト『薬害を学ぼう』（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_yakugaiwomanabou.html）。
『コロナワクチン後の世界を生きる ―薬害の現実と私たちにできること―』岡田正彦。花伝社、2025年。
『科学という名の信仰 ―新型コロナ「ワクチン」政策を問う―』福島雅典。岩波書店、2024年。
『mRNAワクチンの罪と罰』mRNAワクチン中止を求める国民連合（著）、村上康文（編）。方丈社、2025年。
『新型コロナワクチン 影の輪郭 ―誰も報じなかった3年の記録―』大石邦彦。方丈社、2024年。
『ルポ 食が壊れる ―私たちは何を食べさせられるのか？―』堤未果。文春新書、2022年。
『日本の食料安全保障とは何か？』深田萌絵・鈴木宣弘。かや書房、2025年。

7．課題に対するフィードバックの方法

最終授業日または最終授業終了直後に課題の解説と講評を行ないます。

8．成績評価の方法

発表当番時の発表内容と議論の内容：50%。授業の参加度と課題内容：50%。

9．その他

考えることが好きな人、「本当のことが知りたい」という気持ちの強い人、本好きの人、普段話す機会があまりない話題について誰かと話してみたい人、答の無い問題に向かう意欲のある人を歓迎します。ゼミ生の中から、物事を深く考える人がたくさん出てくれると嬉しいです。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	上西　智子

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
大学入学後の新たな人との出会いが､自己の強みや弱みなどの自己理解の発見につながり､その後の成長につながります。AIやIoTが進化している現代では、フィジカル空間のみならずサイバー空間で、多様なバックグラウンドをもつ人々とコミュニケーションを取る必要がでてきます。本講義では知識として対人コミュニケーションとキャリア発達のメカニズムを学び、そのインプットした知識をグループでのディスカッションやレポート作成等の個人ワークを通してアウトプットを繰り返します。オンライン上でアジア圏の学生とのコミュニケーションや企業訪問等のフィールドワークを行う機会を用意しています。
本講義の履修を検討していただくにあたり、現時点の対人コミュケーション力は一切問いません。
教室の中で、失敗しながら自分を成長させたいという意欲があれば大丈夫です。
異なる背景を持つ人々とコミュニケーションを取りクラスメイトと共に成長していきましょう。
【到達目標】
1.対人コミュニケーション能力の重要性を理解し、積極的に人の話を聞き、自分の意見をわかりやすく伝える（書く・話す）ことができるようになる
2.大学生活のキャリアデザインを自らの意志によって計画し、具体的行動に着手できている
3.自分の強みと弱みを受け入れ、それを言語化することができ、強みは伸長行動に、弱みは改善行動ができている。

2．授業内容
第１回　オリエンテーション・成績評価の説明・自己紹介
第２回　自己紹介動画①を作って仲間を知ろう･自分の魅力をみつける(プレゼンテーション①)
第３回　自己紹介動画①のフィードバック・コミュニケーションとは
第４回　海外の大学生とのオンライン国際交流①
第５回　グループディスカッション①・文化の影響
第６回　日本の紹介（プレゼンテーション②）
第７回　海外の大学生とのオンライン国際交流②
第８回　グループディスカッション②・国際交流振り返り
第９回　国際交流振り返り発表（プレゼンテーション③）・非言語・言語コミュニケーション
第10回　営業・販売をやってみる（プレゼンテーション④）
第11回　グループディスカッション③
第12回　自分らしい自己紹介動画②を作ってみよう
第13回　自己紹介動画②のフィードバック（プレゼンテーション⑤）・異文化接触
第14回　第14回 春学期まとめ、夏休みの行動計画を考える
第15回　夏休み課題の発表①・グループディスカッション
第16回　夏休み課題の発表②・グループディスカッション
第17回　フィールドワークについて、キャリア発達理論①
第18回　キャリア発達理論② フィールドワークの事前準備① 訪問先研究
第19回　キャリア発達理論③ フィールドワークの事前準備② 訪問先発表準備
第20回　フィールドワークの事前準備③ 訪問先発表準備
第21回　他大との学生とのオンライングループディスカッション
第22回　フィールドワークの事前準備④ 訪問先研究・発表準備
第23回　フィールドワーク①
第24回　フィールドワーク②
第25回　フィールドワーク③
第26回　グループディスカッションによる振り返り
第27回　個人課題ワークの発表①
第28回　個人課題ワークの発表②・総まとめ
※講義期間中にアジア圏の大学生と日本語でオンライン交流を行います。積極的に参加してください
※フィールドワークではお昼休み時間を利用し、キャンパス近郊の校外活動を予定しています。交通費は自己負担となります。
※講義の内容理解度に応じて、講義内容を変更することがあります

3．履修上の注意
・コミュニケーション（聴く・話す）に対して自発的、積極的に取り組んでください
・毎回の講義で課題もしくはリアクションペーパー（成績評価あり）を提出してもらいます
・下記の項目は厳しくチェックし評価点に反映させます
①他の学生の迷惑行為（私語、飲食、スマホ、携帯、ゲーム機等の使用）
②遅刻、早退、途中退出、③講義の中でワークショップを行います。チームメイトに迷惑をかけないようにしてください。
・PCは毎回持参ください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
・授業内ワークを行うために、事前課題レポートの提出が必要となります。
・適宜、講義スライドを印刷してお渡しします。ファイリングなど、保管・再確認できるようにしてください。
・オンライン国際交流の準備としての動画・資料作成は授業外での活動となります。
・フィールドワークの準備として、授業外でグループ活動が必要となります。
・適宜、参考資料や参考書籍をお勧めします。興味ある方は各人で学習ください。

5．教科書
特になし

6．参考書
本を読む本　M.J.アドラー&C.V.ドーレン：著　外山滋比古・槇未知子：訳　講談社学術文庫
思考を鍛えるレポート論文作成法　［第３版］井下 千以子：著　慶応義塾大学出版会

7．課題に対するフィードバックの方法
課題へのフィードバックは授業内で全体に公表して行います。必要に応じて授業時間外にもOh-o!Meijiやメールなどを活用して行います。

8．成績評価の方法
授業参加姿勢28%、授業内･夏休み課題30%、中間期末課題（両方提出しないと評価不能）42%

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	大久保　美花

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
テーマ：自己理解、言語化、国際交流
　このゼミナールでは、他者との対話を通して、自分自身についての理解を深めることを目的としています。前期はグループワークを通して、資料の調べ方や発表の仕方など、大学生にとって必要な知識や技術を学びます。後期は前期に身につけたことを活かして、中国で日本語を学ぶ大学院生たちと､日本語で国際交流をします。国際交流で取り上げるテーマは、日本語、日本文学、日本文化に関する内容（例：「個人」という言葉、東野圭吾の作品解釈、恋愛・結婚文化の日中比較など）を考えていますが、最終的にはみなさんとご相談しつつ決める予定です。
【到達目標】
①大学生にとって必要な基礎的な知識や技術（資料の調べ方・分析の仕方、レポートの書き方、PPTの作り方、発表、対話の仕方、グループワークなど）を身につける
②自分自身や日本の文化について、海外の方に「やさしい日本語」で説明することができる

2．授業内容
【春学期】
1　はじめに―世界における日本語・日本文学・日本文化
2　「やさしい日本語」で自己紹介してみよう
3　グループ分け、テーマ決め
4　グループワーク①調査
5　グループワーク①調査
6　グループワーク②発表台本の執筆
7　グループワーク②発表台本の執筆
8　グループワーク②発表台本の執筆
9　グループワーク③PPTの作成
10　グループワーク③PPTの作成
11　グループワーク④発表と対話
12　グループワーク⑤振り返りレポートの執筆
13　中国文化について学ぼう
14　まとめ
【秋学期】
1　はじめに―中国人のコミュニケーションの特徴
2　中国の学生に向けて自己紹介動画を作ろう
3　国際交流の準備
4　国際交流の準備
5　国際交流①
6　振り返りレポートの執筆
7　国際交流の準備
8　国際交流の準備
9　国際交流②
10　振り返りレポートの執筆
11　国際交流の準備
12　国際交流③
13　振り返りレポートの執筆
14　まとめ

3．履修上の注意
・この授業では、グループワークや国際交流への参加を最も重視しています。
・みなさんに事前にお知らせしたうえで、国際交流の回数や内容を変更することがあります。
・自分自身の意識の変化を自覚できるよう、振り返りレポートを書く回があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
基本的には授業中に発表や国際交流の準備をしますが、もし時間内に終わらないグループに対しては、授業外にも予習・復習を求めます。

5．教科書
特に定めません。

6．参考書
・戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』（NHK出版）2012年
・酒井聡樹『これから学会発表する若者のために―ポスター発表と口頭のプレゼン技術』（共立出版）2013年
そのほか発表内容に関する参考書については、授業中に適宜ご紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
対面、メール、Oh-o!Meijiシステムのアンケート機能

8．成績評価の方法
グループワークや国際交流への参加30％、他の方への質問・声かけ30％、発表内容：20％、振り返りレポート：20％

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	小田　光康

1．授業の概要・到達目標
このゼミのテーマは「スタートアップ・メディア入門」です。スタートアップ・メディアとは、米国で台頭している起業間もないネットのメディアを指します。スタートアップとは、新しい事業を起業することを指します。その起業する人を英語では「entrepreneur（アントレプレナー）」といいます。デジタル時代を迎え、多くのメディアがイノベーションを起こす必要性に迫られています。
毎回のゼミは前半の「a」と後半の「b」に分け、前半の「a」ではその回の学習項目について担当グループが資料にまとめて発表をします。その際、学習内容と関連のあるビジネスの事例を織り込むことにしています。後半の「b」では主にグループワークの時間に割り当てます。こうして、ゼミではスタートアップ・メディアに関するに必要な基本的な経済・経営学的な知識の基礎を身につけ、秋学期末までにスタートアップ・メディアのビジネスプランを完成することを目標にします。
また、このゼミでは学期中に個人面談を実施して履修科目や学習状況についてのアドバイスの機会を設けます。これによってゼミの学生が学部での学習方針を組み立てることを目標にします。

2．授業内容
第１回　夏学期イントロダクション　メディア環境の劇的変化と起業ジャーナリズム
第２回　企業活動と経営戦略の概要、環境分析（ＳＷＯＴ分析）
第３回　競争戦略（業界構造の分析、競争回避の戦略、競争優位の戦略）
第４回　成長戦略（ドメイン、競争優位性、市場マトリクス、ＰＰＭ）
第５回　技術経営（イノベーション、ベンチャー企業のマネジメント）
第６回　組織構造論（組織構造の設計原理、組織構造の形態）
第７回　組織行動論（モチベーション理論、組織文化、リーダーシップ論）
第８回　個人面談1
第９回　個人面談2
第10回　マーケティングの基礎概念、マーケティングマネジメント戦略の展開
第11回　マーケティングリサーチ
第12回　消費者購買行動
第13回　プロダクト戦略（ブランド）
第14回　夏学期まとめ（ビジネスプラン中間発表）
第15回　秋学期イントロダクション
第16回　個人面談3
第17回　個人面談4
第18回　価格戦略
第19回　チャネル・流通戦略
第20回　プロモーション戦略
第21回　関係性マーケティングとデジタルマーケティング
第22回　財務会計の基礎
第23回　財務諸表概論
第24回　経営分析
第25回　個人面談5
第26回　個人面談6
第27回　課題最終発表
第28回　課題最終発表、まとめ

3．履修上の注意
高校教科の「政治経済」と「公民」の知識があることを前提にゼミを進めます。これらの知識が不足している学生はゼミ履修の事前に学習しておいてください。将来、メディアを起業して活躍したい学生を歓迎します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回のゼミの前半ではその回の学習項目について担当グループがパワーポイント資料にまとめて発表をします。その際、学習内容と関連のあるビジネスの事例を織り込むことにしています。後半は発表内容を復習して、その内容をビジネスプランに織り込むことを議論するグループワークを主に実施します。

5．教科書
特に定めません。教員が教材を準備します。

6．参考書
一般的な高校の政治経済と公民の各教科書。大学学部レベルの企業経営学と財務会計学の教科書。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題発表での質疑応答や教員からの指摘・助言でフィードバックをします。

8．成績評価の方法
授業への参加度と課題発表（50％）と最終発表（50％）で評価する。全授業の４分の3以上が単位修得の評価対象とする。

9．その他
このゼミで学んだ内容をもとにメディアを起業するほか、大学院でＭＢＡを取得するのもいいですし、中小企業診断士の資格にチャレンジするのもいいと思います。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	川島　高峰

1．授業の概要・到達目標
授業の概要
受験勉強ではじっくり考える暇がなかった「**自分らしさ**」、「**日本らしさ**」について考え、この日本と世界で今、おこりつつあること（国内外の時事問題）を学び、「時代にふさわしい自分らしさ、日本らしさ」とは何かを考えることにします。
冷戦崩壊後の1990年代前後から世界は激変の連続となりました。その中で、日本はガラパゴスとか、平成は「失われた30年」と称され、世界から取り残された島国のように言われています。しかし、日本も激変をしてきました。**変わらなかったのは人材育成（受験勉強と偏差値主義）・人事（終身雇用と組織人）のシステムや文化だけ**かもしれません。まず、そのこと、つまり「**知**」**の問題**について確認をします。
次に、**たくさんあった激変について、きちんと知識の確認**をしておきましょう。激変の分かりやすい事例こそ「情報とコミュニケーション」でした。君たちが小・中学生の時になかった「もの」や「こと」、スマートフォン、Youtube、LINE、デリバリサービス、マッチングアプリ、電子マネー／仮想通貨、AI、Dx、Gx等々、今や日常になっています。数年後にどうなっているのか？ということさえ予想が容易ではありません。激変は気候変動、自然災害の激甚化、人口減少社会、人生100年時代、中華人民共和国の超大国化、感染症脅威の日常化、脱炭素社会、自動車産業のモビリティ産業へのシフトなど、世界は全分野的に激変の連続です。これについて確認をしておきましょう。
さて、それでは**日本の何が**何に変わったのでしょうか？　意外と「**何が**」を説明できる人はいません。これに変わった、あれに変わったとは、よく言いますが、そもそも、日本って元々何だったのかが、どんどんわからなくなっています。最近、説明の必要はないとか、日本的なんてない、という人までいます。でも、それって絶対におかしいです。だって、日本語でそう言ってるんですから。ということで日本を、**日本語と自然**、**日本語と歴史**、そして、先生の専門分野から勉強をします。
到達目標
学ぶことは大きくいって四つです。「知」について、激動の時代の重要事項、日本とは何か、私らしさについて。自分の環境について理解や知見もないのに、自分らしさも何もあったものではありません。そして、皆さんが、この激変期の日本と世界に関する基本情報を学ぶことで、将来のライフスタイルや人生、自分らしさを考えるのに必要な観点を養うことを目標としています。

2．授業内容
春学期
導入編　私らしさのアーキテクチャ
第１回　学生生活心得（危機回避的／イノベ的）、アイスブレーキング（自己紹介・他己紹介・グルーピング・アクティビティ）
第２回　学校知・受験知・メディア知・世間知・学問知、いくら何でもバラバラ過ぎる日本
第３回　日本人としての教養　折節・時節・季節、地誌文化について　七二節季１
第４回　そろそろ、マイカリキュラム
第５回　私たちらしさについてグループでスマホ動画を作る
「私」を支えてきた人について考える
第６回　親族の戦争体験・戦死者について　七二節季２
第７回　特攻の思想１ 特攻作戦への経緯
第８回　特攻の思想２ 統率の外道
第９回　特攻の思想３ 隊員はどう選ばれたのか その瞬間、君は生きていた
第10回　特攻の思想４ 私兵特攻
「日本の今」について考える
第11回　内外雑居の日本　ホンダバイクの世界販売1980万台、国内販売は僅か19万台！　日本は国内市場で食べていません。
第12回　ツーリズムとクールジャパン／ローカル・クール・ジャパン
第13回　ベトナムの学生が見た日本のサブカル　七二節季３
第14回　故郷喪失、地方消滅、地方創生、故郷創出の時代　人はなぜ旅をするのか ツーリズムとノスタルジア（郷愁）
秋学期
日本を考える
第15回　戦後、冷戦後、令和降 三つの時代を生きる　　七二節季４
第16回　戦艦大和の物語 『戦艦大和ノ最後』と『戦艦大和の最後』
第17回　そして、『宇宙戦艦ヤマト』へ
変革の今を知る
第18回　Web3、ブロック・チェーン（非国家主体認証なのです）、電子マネー
第19回　DAO ？ デジタル庁って何してるの？ アベノマスクを思い出そう
第20回　昭和のすごろく人生から人生１００年時代へ　結婚・恋愛・家族の未来
第21回　AIによりシンギュラリティが実現し、Basic IncomeとかBlue Color Shiftの時代になる、て何？
第22回　モビリティ産業
第22回　石坂産業の挑戦　Zero Wests Society
世界の現実を知る
第23回　カシム・ザ・ドリーム
第24回　資源安全保障の現実　チョコレートとスマートフォン
第25回　ジュネーヴ戒記 国連人権理事会であったこと
第26回　ウクライナ戦争と日本
年間総括編
第27回　回顧２０２６年
第28回　展望・これからの日本と世界 2035 ～ 2045年の予想
※　情勢の変化により内容に変更が生じる場合があります。

3．履修上の注意
ゼミの理解と学生の親睦を深めるために先生の「政治学」（秋学期開講）の履修をおすすめします。内容的に政治学とリンクした総合教養・学際的アプローチのゼミとなっているので、政治学の理解も容易になると思います。課外活動や、外部研修といったことをゼミの活動として行うことは一切、ありませんが、総務省や各市町村が実施している地方インターン制度については、例年、派遣実績がありますので、これを紹介します。また、担当教員はベトナム国家大学日越大学の設立メンバーであり、必修講義（オンラインと対面）を担当している関係で、日程の調整ができた場合にはオンライン交流か、有志のみでの現地派遣交流を実施します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
『未来年表』生活総研（博報堂）　https://seikatsusoken.jp/futuretimeline/

5．教科書
特にありません。そもそも、教科書のない問題ばかりです。レジュメは適宜配布します。

6．参考書
授業時に指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
ゼミナールなので、毎週、学生とのインタラクティブな教育を実施しています。

8．成績評価の方法
授業へのリアクション・コメント／アンケートが70％、春学期・秋学期のレポートがそれぞれ15％（多分、みんなでショート動画作製をします）

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	熊田　聖

1．授業の概要・到達目標
このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになることです。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。
思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる
過去のテーマ例
・USJかディズニーランドか
・仕事はやりがいか給料か
・自転車は乗れるようになっておくべきか
・ファンデーションはカバー力かテクスチャーか
【授業の概要】
前期
SHOW（A）：理科の実験を小学生に伝えるつもりで分かりやすく発表しよう。
SHOW（B）：質疑応答の形式で発表しよう。
SHOW（C）：自由に発表しよう。
なぜSHOWをするのか、なぜ理科実験の形式なのか、半期を通して考えてみましょう。
後期
SHOW（A）：起業家を演じましょう。
SHOW（B）：本について発表しよう。
SHOW（C）：自由に発表しよう。
どうしたら理科実験をしないで伝えられるのかを、半期を通して考えてみましょう。
エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。
その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。
SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。
【到達目標】
自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。

2．授業内容
第１回　発表スケジュール決定、名札作成
第２回　ＳＨＯＷ（A）・思索トレーニング
第３回　ＳＨＯＷ（A）、思索トレーニング
第４回　ＳＨＯＷ（A）、思索トレーニング
第５回　思索トレーニングディベート
第６回　ＳＨＯＷ（B）、ディベートのテーマに関する感想提出、思索トレーニング
第７回　SHOW（B）、思索トレーニング
第８回　ＳＨＯＷ（B）、思索トレーニング
第９回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第10回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第11回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第12回　商品開発ゲーム
第13回　仕掛け学に基づくアクティビティ（１）
第14回　仕掛け学に基づくアクティビティ（２）
第15回　発表テーマ、グループ決定
第16回　社会企業家を演じる（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第17回　社会企業家を演じる（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第18回　社会企業家を演じる（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第19回　ディベート
第20回　本について発表しよう（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第21回　本について発表しよう（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第22回　本について発表しよう（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第23回　ディベート
第24回　自由に発表しよう（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第25回　自由に発表しよう（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第26回　自由に発表しよう（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第27回　絵本を用いた質疑応答形式発表（１）
第28回　絵本を用いた質疑応答形式発表（２）

3．履修上の注意
このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。
使用する教科書の実践編がゼミです。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかった情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。
このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。

5．教科書
熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。

6．参考書
授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。

7．課題に対するフィードバックの方法
前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。
課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。

8．成績評価の方法
評価は、
１）レジュメと発表内容　30%
２）発表者へのアドバイス　30%
３）ディベートへの参加　20%
４）思索トレーニングへの参加　20%
以上４点で行います。

9．その他
男女比約１：１で楽しく仲良く活動しています。
教科書はゼミ費より支給します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	後藤　晶

1．授業の概要・到達目標
授業の概要：
パスカルの「人間は考える葦である」と言う言葉は非常に有名であるが、人間は死ぬまで「考える」ことを続けなければならない。一方で、「考える」とはどのような行為であるのか、と問われると一つの回答を導くことは困難である。少なくとも、検索して容易にわかることではない。
本基礎ゼミナールでは、2冊の教科書を手がかりとして、「考える」ことをについて検討する。思考法に着目することで、将来に渡って使える思考のスキルの基礎を身につけて、そのスキルを実践するという一連を体験することを目的とする。前半では「アイデア発想」志向の思考法に着目する。現状を変える新しいアイデアを生み出すためには、過去に学び、将来を志向するという真摯な態度が求められる。中盤では「問題解決」志向の思考法に着目する。問題解決の一連のプロセスは「問題認知」から始まり、「解決策の探求」、「解決策の実行」、「結果の吟味」を経て次の問題解決へと繋がるものである。それぞれのプロセスについて1つずつ検討する。
そして、後半では思考の実践のテーマとして「より良い社会制度のあり方」を設定する。どのような状況ではどのような社会制度が適しているのか、アイデア発想手法と問題解決手法を用いて検討する。また、制度設計における行動経済学・行動科学の役割についても検討し、大学での研究の一連のプロセスである報告と執筆のお作法について学ぶ。
なお、毎回の授業は担当者の報告とそれに基づいたディスカッションにより進行する。
さらに、適宜簡単なレポートの執筆とピアレビュー（相互評価）の機会を設定し、文章執筆能力の向上を図ったり、テーマに関連するデータ分析の手法を紹介するなど、大学生として求められる基礎能力の向上を図る。

到達目標：
1. 自身の力で資料の整理・発表資料の作成・プレゼンテーションの実施の一連の流れを行うことができる。
2. 新しいアイデアを出すための方法と同時に、姿勢を涵養することができる。
3. 問題を解決するための方法と同時に、姿勢を涵養することができる。

2．授業内容
第１回　春学期イントロダクション
第２回　受講環境のセットアップ
第３回　発表とディスカッション（1）
第４回　発表とディスカッション（2）
第５回　発表とディスカッション（3）
第６回　発表とディスカッション（4）
第７回　レポート執筆のトレーニング（1）
第８回　発表とディスカッション（5）
第９回　発表とディスカッション（6）
第10回　発表とディスカッション（7）
第11回　発表とディスカッション（8）
第12回　レポート執筆のトレーニング（2）
第13回　発表とディスカッション（9）
第14回　発表とディスカッション（10）
第15回　秋学期イントロダクション
第16回　テーマ設定・AIとの正しい付き合い方について
第17回　リサーチクエスチョンの立て方
第18回　先行研究の調べ方・文献の引用の仕方
第19回　研究計画の作成（1）
第20回　研究計画の作成（2）
第21回　調査分析（1）
第22回　調査分析（2）
第23回　論文の書き方，執筆作業（1）
第24回　執筆作業（2）
第25回　プレゼンテーション準備（1）
第26回　プレゼンテーション準備（2）
第27回　プレゼンテーション
第28回　秋学期まとめ

3．履修上の注意
演習形式の授業であるために、出席を重要視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料を用意して出席すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
小課題の提出・発表の準備等が必要となる。

5．教科書
『アイデア大全』、読書猿、フォレスト出版　／　『問題解決大全』、読書猿、フォレスト出版　／　『あなたを変える行動経済学』、大竹文雄 、東京書籍

6．参考書
『独学大全――絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための５５の技法』、読書猿、ダイヤモンド社
その他、授業中で紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

8．成績評価の方法
毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30%
毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。
課題の評価：発表資料を評価する。
レポート：学期末にレポートを課す。

9．その他
ゼミナールは各学生のコミュニケーションにより学びが創発される。他者の意見に耳を傾け、自身の意見を明確に伝える姿勢が求められる。一生懸命悩みましょう。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**齋藤　　航**

1．授業の概要・到達目標
・授業の概要
　この授業では、法律のもっとも基本となる知識を学んだうえで、社会における実際の事例についてグループディスカッションなど通じて考える。また、履修者のスケジュールが合う場合には、東京地方裁判所において裁判傍聴を行う。
　各回の授業は基本的に以下の流れで行う
①法律の基本的な文献の講読
②具体的な法律問題の検討
　法律問題の検討において扱う題材は、民法を中心に、刑法その他の分野における身近な事例や、ニュース等で取り上げられる社会的関心の高い事例とする。これらの事例を法的な視点から検討し、自分の考えを整理し、他者と相談して解決策を考える力を養う。
・到達目標
①社会で生じる法律トラブルについて、その背景にある基本的な法的知識や考え方を理解できるようになる。
②法律トラブルを自分自身の問題として捉え、トラブルに直面した場合に、どのような対応が考えられるかを法的に検討できるようになる。
③法律問題について、自分の考えを根拠とともに説明し、他者の意見を踏まえて議論できるようになる。

2．授業内容
第1回　ガイダンス
第2回　法律学の基礎知識①
第3回　法律学の基礎知識②
第4回　憲法①
第5回　憲法②
第6回　民法①
第7回　民法②
第8回　民法③
第9回　会社法①
第10回　会社法②
第11回　会社法③
第12回　民事訴訟法①
第13回　民事訴訟法②
第14回　民事訴訟法③
第15回　前期の復習
第16回　刑法①
第17回　刑法②
第18回　刑法③
第19回　刑事訴訟法①
第20回　刑事訴訟法②
第21回　刑事訴訟法③
第22回　行政法①
第23回　行政法②
第24回　労働法①
第25回　労働法②
第26回　倒産法①
第27回　倒産法②
第28回　知的財産法
※実際の内容や、扱う項目の順番は学生の希望や時事を踏まえて決定する。
前後期それぞれ、履修者と相談し、可能であれば1～2回程度裁判傍聴を行う。

3．履修上の注意
毎回、①教科書②筆記用具③紙のノートを持参すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
問題を考えるのに必要な知識は基本的に授業時間中に扱い、授業中に完結するため、授業時間中は集中して取り組んでください。

5．教科書
『法学部、ロースクール、司法研修所で学ぶ法律知識[第2版] 主要10法と法的思考のエッセンス』（ダイヤモンド社、2021年）

6．参考書
指定しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
初回授業

8．成績評価の方法
授業の出席（30%）、授業中の発言および議論への参加状況（70%）
授業中の活動への参加が重要なため、遅刻・欠席については特に厳しく評価する。

9．その他
市民社会と法I・IIを履修することが望ましい。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**鈴木　雅博**

1．授業の概要・到達目標
　このゼミナールでは、「教育」をテーマとして、アカデミック・ライティングの基礎的能力を身につけることをめざします。「教育」は、皆さんのすべてが既にそれを経験しており、また教師／親となるか否かにかかわらず、ある種の教育を受ける後続世代とともに生きていかなければならないという点で、これまでも／これからも皆さんと密接に関わる重要なテーマです。世の人は、教育について学校で、あるいは家庭で、はたまた国会／居酒屋／SNS等々で自らの経験や理想に基づいて、さまざまに発言します。ただし、こうした語りはアカデミック・ライティングの技法によって書かれた研究論文やレポートとは性格を異にするものです。後者には、それなりの「作法」があり、そこでは対象をクリティカルに検討することが求められます。クリティカルとは、対象となる議論の前提を問い直しながら、論理的でオープンな吟味を進める姿勢と言い換えることができるでしょう。クリティカル・シンキングは、どの分野のレポート作成においても必要とされ、大学入学初年次にしっかりと身につけておくことが望まれます。「教育」をテーマに大学生活を実り豊かにするための思考の基礎トレをしていこう、というのが本ゼミナールの目標です。
　ゼミは4部から構成されます。第1部ではアカデミック・ライティングについての基礎的なトレーニングを行います。第2部ではディベートと　テキスト批評を通して、論理的に議論を進める／深めることを学びます。第3部ではグループに分かれてテーマを設定し、プレゼンテーション資料の作成・発表を行います。第4部では，学校教育をめぐる諸問題をとりあげ，ディスカッションを行います。

【到達目標】
①アカデミック・ライティングの基礎的能力を身につける。
②自らが関心を持つテーマに関する先行研究を収集し、批判的検討を加えることができる。
③自らが関心を持つテーマに関してプレゼンテーション資料を作成し，発表することができる。
④今日の学校教育の現状に関心を持ち、論理的に議論を進めることができる。

2．授業内容
第1回　イントロダクション
第2回　研究論文の構造
第3回　リーディングの基本スキル・テキスト要約の練習
第4回　テキスト批評の基本
第5回　教育問題ディベート
第6回　テキスト批評：スクールカースト①
第7回　テキスト批評：スクールカースト②
第8回　グループ分け・グループごとのテーマ設定
第9回　テーマに関する先行研究の探索
第10回　テーマに関するテキスト批評①
第11回　テーマに関するテキスト批評②
第12回　研究計画報告①
第13回　研究計画報告②
第14回　研究計画報告③
第15回　途中経過報告①
第16回　途中経過報告②
第17回　途中経過報告③
第18回　途中経過報告④
第19回　途中経過報告⑤
第20回　プレゼンテーション①
第21回　プレゼンテーション②
第22回　プレゼンテーション③
第23回　情コミ研究交流祭①
第24回　情コミ研究交流祭②
第25回　教育問題を考える:教師の働き方改革①
第26回　教育問題を考える:教師の働き方改革②
第27回　教育問題を考える:教師の働き方改革③
第28回　まとめ

3．履修上の注意
欠席10回（春学期5回、秋学期5回）で評価対象外となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業中に指示します。

5．教科書
『教室内（スクール）カースト』鈴木翔、光文社，2012年。

6．参考書
授業中に指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内で実施します。

8．成績評価の方法
平常点（20%）、テキスト批評（20%）、レポート作成・発表（60%）。

9．その他
まずは、日頃から教育関連のニュースに目を向け、いろいろと考えてみましょう。また、ゼミで聞いたこと／言ったこと／言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**大黒　岳彦**

1．授業の概要・到達目標
大学でのこれからの4年間をどういう心構えで過ごしたらよいか、また大学生活を充実させるための基本的なリテラシー（資料検索、資料アクセス、討論、発表、討議、プレゼン、文書作成）の基礎を伝授します。
基礎ゼミナールは、高校から大学への橋渡しの位置付けなので、できるだけ素材は受講生に馴染みやすいものを選ぶよう心懸けるつもりです。

2．授業内容
前期は映像を素材として使用し、後期は文書を素材として使用します。いずれも簡単なアウトプットができるところまで進みたい。
前期
1　自己紹介（1）
2　自己紹介（2）
3　映像の文法――映画（1）
4　映像の文法――映画（2）
5　映像の文法――映画（3）
6　映像の文法――CM（1）
7　映像の文法――CM（2）
8　映像の文法――CM（3）
9　映像の文法――写真（1）
10　映像の文法――写真（2）
11　映像の文法――写真（3）
12　映像制作（1）
13　映像制作（2）
14　映像制作（3）
後期
1　映像制作（発表1）
2　映像制作（発表2）
3　資料アクセス（1）
4　資料アクセス（2）
5　文献の読み方（1）
6　文献の読み方（2）
7　文献の読み方（3）
8　AIとの付き合い方（1）
9　AIとの付き合い方（2）
10　文書作成（1）
11　文書作成（2）
12　文書作成（3）
13　文書作成（4）
14　まとめ

3．履修上の注意
ワークショップ的なカリキュラムになりますので、出席を重視します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
数回に一度、簡単な課題を出します。

5．教科書
特になし。

6．参考書
授業の中でその都度挙げます。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業の中で口頭で行います。

8．成績評価の方法
アウトプット50%、授業中のパフォーマンス50%

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**高橋　華生子**

1．授業の概要・到達目標
本ゼミは、国際開発･国際協力を「海外の、遠い国を支援する活動」として理解するのではなく、日本社会が日常的に他国、とりわけ途上国の労働力、資源、環境、知識に依存して成り立っている構造そのものを問い直すことを目的とする。
机上の空論を乗り越えるため、実際に現場で事業を展開するNGO（非政府市民組織）「の協力を仰ぎながら、国際開発・国際協力を実践からも学ぶ。受講生は、ソーシャルビジネス、サプライチェーン、企業の社会的責任（CSR）、気候変動（環境問題）などのイシューに触れながら、国際開発・国際協力を自らの社会や日常生活と結びつけて理解する視点と力を養う。
本ゼミの目的は、受講生が大学生の視点から社会課題を捉え、それを基にして社会に向けた情報発信プロジェクトを企画・実践することにある。動画、ウェブコンテンツ、教材などの制作を通じて、大学生ならではの問題提起を追求したい。
【到達目標】
・　国際開発・国際協力を「支援と被支援」ではなく、相互依存と不均衡な関係構造として理解する
・　現場で活動するNGOの知見を活かして、近年の開発イシューを理論と実践の両面から把握する
・　学んだことをもとに、自分たちの言葉で社会に向けた情報発信の方法を企画・実施する

2．授業内容
以下に、現段階における本クラスのスケジュールを示す。
第１回　春学期のイントロダクション
第２～３回　国際開発・国際協力　概論
第４～６回　NGO活動の理解
第７回　アカデミックスキルの習得①
第８～９回　プロジェクトトピックの検討
第10回　アカデミックスキルの習得②
第11～12回　トピックに関する文献輪読
第13回　春学期のまとめの発表
第14回　秋学期に向けての準備
第15回　秋学期のオリエンテーション
第16～17回　プロジェクト案のプランニング
第18～19回　プロジェクト案に関する発表準備と発表
第20～22回　プロジェクト実施に向けたグループワーク
第23回　グループワークの中間報告
第24～26回　プロジェクト実施に向けたグループワーク
第27～28回　最終成果の共有・発信

3．履修上の注意
内容によっては、授業前の昼休みから開する場合もある。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
指定作業を必ず行い、授業外の学びにも努めること。

5．教科書
必要に応じて、授業内で周知する。

6．参考書
必要に応じて、授業内で周知する。

7．課題に対するフィードバックの方法
適宜、口頭あるいは文面でコメントを提供する。

8．成績評価の方法
以下の点から総合的に判断する。
40%　平常点（出席、ゼミへの参加姿勢や貢献度など）
30%　課題（グループワーク、レポート、発表など）
30%　最終成果物

9．その他
第１回目の授業で、より詳細な、最終版のシラバスを配布するので、受講希望者は必ず出席のこと。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	竹中　克久

1．授業の概要・到達目標
現代社会は高度情報社会である、といわれて久しいですが、私たちが日頃ふれている情報とは何でしょうか？
新聞、TV、インターネット上では統計などの量的データや、インタビューや投書などの質的データがあふれかえっています。正しい情報に行き着こうにも、「情報の洪水」のなかでは、どれを「正しい」ととらえれば良いのか難しい時代に私たちは生きています。そのような状況において、社会は今どうなっているのか、どのように変わってきたのか（あるいは変わっていないのか）ということを考える際には、自分なりの「モノの見方」を身につけることが重要になってきます。本ゼミナールでは、主として社会学的な「モノの見方」をともに学びたいと考えています。春学期は文献や資料を輪読しながら、ディスカッション能力を養っていきます。秋学期には、身近なテーマを取り上げ、グループを編成し協力して研究を進め、プレゼンテーション能力を身につけていきます。
春学期・秋学期を通じて、「社会学的なモノの見方」の基礎を身につけることが到達目標になります。

昨年度扱った社会問題のテーマ（一部）
教育の社会問題：性教育の是非、教師と社会、教育格差
生と死の社会問題：死刑制度、少子化
その他の社会問題：ルッキズム、子供の騒音、カスハラ

グループ研究のテーマ（一部）
「死の再定義とその未来」「児童の食生活と家庭内環境」「SNSにおける歪んだ正義感」「公立中学校教員の抱える問題」

2．授業内容
第１回　イントロダクション：社会学とは何か
第２回　社会問題についてのディスカッション1
第３回　社会問題についてのディスカッション2
第４回　社会問題についてのディスカッション3
第５回　社会問題についてのディスカッション4
第６回　社会問題についてのディスカッション5
第７回　社会問題についてのディスカッション6
第８回　社会問題についてのディスカッション7
第９回　社会問題についてのディスカッション8
第10回　社会問題についてのディスカッション9
第11回　社会問題についてのディスカッション10
第12回　社会問題についてのディスカッション11
第13回　社会問題についてのディスカッション12
第14回　中間まとめ――秋学期に向けて
第15回　グループ分け・テーマ設定1
第16回　グループ研究1
第17回　グループ研究2
第18回　中間発表1
第19回　グループ研究3
第20回　グループ研究4
第21回　最終プレゼンテーション1
第22回　社会問題についてのディスカッション13
第23回　社会問題についてのディスカッション14
第24回　社会問題についてのディスカッション15
第25回　社会問題についてのディスカッション16
第26回　レポート・論文を書くにあたって
第27回　マイカリキュラムの検討
第28回　マイカリキュラムの講評
※内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
社会問題・時事問題について普段から関心を持っていることが参加条件である。
また、「社会学」というモノの見方に興味を持っている学生が好ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
事前にOh-o!Meijiにupされた資料を熟読し、ゼミに臨むこと。また、ディスカッションにおいて得たことを記録し活用すること。
グループ研究においては、メンバーと分担し、事前に綿密な準備を行うこと。

5．教科書
教科書は基本的に使用しない。毎回資料を事前にOh-o!Meijiにupする。

6．参考書
使用の予定はない。

7．課題に対するフィードバックの方法
毎回のゼミナールにおけるディスカッション・中間発表・最終プレゼンテーションにおいてフィードバックを行うほか、年度末にはマイカリキュラムについてのフィードバックを行う。

8．成績評価の方法
平常点（資料読解度・ディスカッションへの貢献度等）70％、ディスカッションおよびプレゼンテーション30％

9．その他
物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎します。また、ゼミナールの一員になった折には、ディスカッションやプレゼンテーションに主体的に関わることを強く求めます。
質問等は基本的にゼミ中に受け付けますが、急な場合はtakenakakatsuhisa[@]hotmail.com（[ ]を外してください）に氏名を件名に入れて連絡すること。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	田村　　理

1．授業の概要・到達目標
　このゼミでは、「私たちは教育によってどのような能力を身につけてきたか」を学び、どうしたら各人が必要な能力を高められるのかを考えます。みなさんも「キー・コンピーテンシー」という言葉をきいたことがあると思います。情報や言葉や技術を活用する力、異質な集団で協力して仕事を成し遂げる力、自分で計画を立てて自ら実行する力などがこれにあたります。情報コミュニケーション学部で磨くのに適した能力です。しかし、「キー・コンピーテンシー」が言われるようになって四半世紀近くたちますが、現実には、未だに正解主義、暗記・詰め込み、指示待ちなどが日本の教育の問題として指摘されています。さらに、日本の子どもたちの学力は世界的にみても高いが、賃金は低いこと等が指摘され、教育の成果と賃金が「別の話」になっているという指摘もあります。
　こうした「別の話」現象は大学における日常生活から学問の中身にいたるまでみられるように思います。例えば、「勉強は大学入試までで大学はたっぷり遊んで仕事は就職してから」と「別の話」と考える学生は少なくありません。私が専攻する憲法学では「自律的個人」がすべての憲法秩序の核であると強調されてきましたが、それがどのようなもので、実社会に生きる私達にとってどんな意義があるのかをしっかり教わった人は少なく、現実と学問は「別の話」になっているように思います。
　このゼミでは、私たちがどのような「しくみ」のもとでどのような能力を身につけ、どのような能力を身につけてこなかったかを学び、どのように「しくみ」を変えればいいのか、どうしたら各自が大人として楽しく生きていくのに必要な能力を身につけられるかを考えます。
　春学期はメディアでも活躍する尾木直樹さんが一般向けに分かりやすく書いた『取り残される日本の教育』（講談社＋α新書・2017年）を皆で丁寧にしかし批判的に読みます。秋学期は教育社会学者・田中由紀さんの『教育は何を評価してきたか』（岩波新書・2020年）の必要な部分を読みつつ、私たちがそれぞれ身につけるべき能力、取り組むべき課題を考えます。

2．授業内容
＜春学期＞
第１回：このゼミの目的と目標
第２回：現在の教育で身につけた能力の現状
第３回～第12回：テキストを読み、議論する
第13回・第14回：各自の課題報告
＜秋学期＞
第15回：課題の確認と報告
第16回：大学におけるレポートの書き方
第17回～第26回：「私にどんな能力が必要か」についての各自の報告
第27回～第28回：各自の課題報告

3．履修上の注意
　ゼミは共通のテーマを皆で分担して調べ、議論して理解を深める場所ですので、明確な理由もなく、事前の報告もなく遅刻・欠席されると仕事の分担を任せることができません。したがって、遅刻・欠席は減点します。また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。
　どうしても避けがたい理由で欠席しなければならない時は事前に事情を説明し、ゼミ全体の了解をとってください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
　テキストの読解を進める時には、必ずすべてのゼミ生に該当箇所の内容についての文章で簡単な要約を作って提出してもらいます。
　また、ゼミ中に参加者からだされた意見や質問についても、必ずそれに対するフィードバックを文章に残して提出してもらうこととします。

5．教科書
尾木直樹『取り残される日本の教育』（講談社＋α新書・2017年）
田中由紀『教育は何を評価してきたか』（岩波新書・2020年）

6．参考書
参考文献は、必要に応じてその都度指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
　課題は必ずゼミの時間中に全員で共有し、それに対するフィードバックも原則として授業中に行って参加者全員で共有することにします。
　授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各ゼミ生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

8．成績評価の方法
以下の配点で成績評価をします。
　ゼミ中の発言・質問・応答：30点
　ゼミ中の提出物：30点
　学年末提出のレポート（テーマは参加者のみなさんに提案して協議して決め得ます。）40点
　　＜＊レポートの詳細についてはゼミ中に指示します。＞

9．その他
　みなさんは厳しい受験勉強を終えてホッとしているところだと思います。しかし、「これで先々大丈夫だろうか？」と思っている人もいると思います。決められたレールにのってそこそこ成功したら「これでいい」とは心からは思えず、うっすら不安を抱え、したいと思っている人にこのゼミに参加してほしいです。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	塚原　康博

1．授業の概要・到達目標

この授業では、経済学やゲーム理論を用いて、現実の社会において企業が実際に採用している戦略の合理性について考える。授業の進め方は、教科書の内容に沿ったテーマをゼミ生に割り当てるので、担当部分についてのプレゼンテーションをパワーポイントを用いて行ってもらう。その後、質疑応答に入る。さらに、その後、教員が補足説明をして、質疑応答に入る。春学期と秋学期それぞれの最後の2回分については、「わたしが伝えたいこと」や「わたしとはこのような人です」というテーマで、順番にパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行ってもらう。

この授業を通じて、ゼミ生に物事を論理的に考える思考を身につけてもらうこと、現実の経済や社会についての知識を深めてもらうこと、人の話を聞き、自分の話を正確かつわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力を身につけてもらうことを目標とする。

2．授業内容

第1回　春学期イントロダクション
第2回　学割の存在理由
第3回　吉野家の価格戦略
第4回　映画や本の時間を通じた価格差別戦略
第5回　化粧品、車の顧客ターゲット戦略
第6回　コストコの2部料金戦略
第7回　ユニクロのSPA戦略
第8回　問屋の存在理由
第9回　キリンビールのシェアが低下した理由
第10回　コカコーラの自販機戦略
第11回　サントリーのセサミンのネット戦略
第12回　ネットフリックスのサブスクリプション戦略
第13回　プレゼンテーション（1）
第14回　プレゼンテーション（2）
第15回　秋学期イントロダクション
第16回　ゲーム理論と囚人のジレンマ
第17回　繰り返しゲームと日本の長期的な雇用・取引関係
第18回　生物学的ゲームとオウム返し戦略
第19回　第3者の介入による協調関係の維持
第20回　大きな町と小さな町の出店戦略
第21回　弱いものが勝つケース
第22回　オークションと勝者の呪い
第23回　タクシードライバーの給与の報酬体系（固定給か歩合給か）
第24回　預金でペイオフを行う理由
第25回　新卒者、広告におけるシグナルによる質の判断
第26回　フレーミングと消費者の選択
第27回　プレゼンテーション（1）
第28回　プレゼンテーション（2）

3．履修上の注意

現在の経済や社会について関心を持ち、授業では、質疑応答に積極的に参加し、発表の際には十分な準備をしておくことが求められる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業で取り上げる教科書の部分をあらかじめ熟読しておき、わからない点については、教員に質問をすることが必要である。「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」を受講することが望ましい。

5．教科書

『ビジネス・エコノミクス（第2版）』伊藤元重（日本経済新聞出版）2021年

6．参考書

使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法

各回の授業のテーマを各ゼミ生に割り当て、それついてのパワーポイントを作成し、授業内で発表することがゼミ生にとっての課題となる。それについてのフィードバックは、発表時の授業内で行う。

8．成績評価の方法

発表70%、質疑応答30%で評価する。

9．その他

担当教員の連絡先は、tukahara@meiji.ac.jpである。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	内藤　まりこ

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

受講生が「社会構築主義」(Social Constructionism)と呼ばれる事物を捉える視点を体得し、その視点に立って自ら研究対象を選んで、その対象に対して学期末レポートや論文を執筆できるようになることを目的としています。

「社会構築主義」(Social Constructionism)とは、事物の性質が事物の内部ではなく、事物を認知する個人や社会によって構築され、制度化され、慣習化されるとする考え方や立場を意味します。社会構築主義に基づくと、事物の性質は人々の解釈や認識の変化に応じて絶え間なく変化すると捉えられます。

社会構築主義と対立的な考え方のことを「本質主義」(Essentialism)といいます。「本質主義」とは、事物は必ずその本質を持ち、それによって内実を規定されるとする考え方のことです。本質主義に基づくと、事物の本質は特定の社会的状況や文脈を超えて不変であると捉えられます。

社会構築主義は、社会学やジェンダー研究、教育学などの社会科学や、哲学や文学、美術研究などの人文科学の研究領域のような幅広い分野において、それまでの主流の立場であった本質主義に代わって積極的に支持されています。

本ゼミナールでは、社会構築主義に関する複数の論文を輪読することによって社会構築主義の考え方を包括的に理解します。さらに研究対象を選び、その対象を社会構築主義の見方に基づいて調査分析することを通じて、社会構築主義の立場をより深く理解します。

また、本ゼミナールでは、レポートや論文の書き方も学習します。まず、社会構築主義に関する論文を読むことで、「レポート」や「論文」と呼び称される論述文は、〈あるテーマに対して自ら論点（問い）を作り、その問いに対する仮説（答え）を立てて、その仮説の妥当性を論理的に証明する〉文章であることを学びます。次に、論述文の構成要素や論証のために必要となるアウトラインの組み立て方を学習します。最後に、他のゼミ生とのアウトラインの相互批評、担当教員からのアウトラインへの添削指導を通じて、説得力のある議論が展開できるまで何度もアウトラインを修正し、レポートを書き上げます。

【到達目標】

本ゼミナールの到達目標は、受講生が「社会構築主義」の視点を体得することで、その視点に基づいてさまざまな事物を解釈できるようになり、自らの解釈を学期末レポートや論文という文章の形で説得的に論証できるようになることです。

2．授業内容

・春学期

【授業内容】

春学期は、「身体」というテーマに着目し、身体に対する社会構築主義の視点を学習します。まず、受講生は、社会構築主義の立場から身体について論じた複数の論文を輪読します。授業外の課題としてグループでそれらの論文のアウトラインを作成することで論文の内容を把握し、授業内に論文の内容に関する口頭発表を行い、議論を行います。次に、講義を通じてレポートの書き方を学習します。そして、「身体」というテーマに関わる研究対象を選び、社会構築主義の視点からその対象を調査分析します。他のゼミ生との相互批評や担当教員による添削指導を得ながら論証過程を修正し、レポートを書き上げます。

【日程】

第1回：オリエンテーション
第2回：[講義] 社会構築主義と本質主義
第3回：[講義] レポートの書き方の学習1：論文の構成要素（内容）の学習
第4回：[グループ発表] 課題論文に関する発表1
第5回：[講義] レポートの書き方の学習2：論文の構成要素（形式）の学習
第6回：[グループ発表] 課題論文に関する発表2
第7回：[講義] レポートの書き方の学習3：アウトラインの作成
第8回：[グループ発表] 課題論文に関する発表3
第9回：[講義] レポートの書き方の学習4：パラグラフ・ライティングの学習
第10回：[グループ発表] 課題論文に関する発表4
第11回：[講義] レポートの書き方の学習5：引用方法の学習
第12回：[グループ発表] 課題論文に関する発表5
第13回：[講義] レポートの書き方の学習6：わかりやすい文章の書き方の学習
第14回：学期末レポートの相互批評

・秋学期

【授業内容】

秋学期は、「芸術」というテーマに着目し、芸術に対する社会構築主義の視点を学習します。まず、受講生は、社会構築主義の立場から芸術について論じた複数の論文を輪読します。授業外の課題としてグループでそれらの論文のアウトラインを作成することで論文の内容を把握し、授業内に論文の内容に関する口頭発表を行い、議論を行います。次に、「芸術」というテーマに関わる研究対象を選び、社会構築主義の視点からその対象を調査分析します。他のゼミ生との相互批評や担当教員による添削指導を得ながら論証過程を修正し、レポートを書き上げます。

【日程】

第1回：オリエンテーション
第2回：[講義] 芸術に対する社会構築主義の視点
第3回：[グループ発表] 課題論文に関する発表1
第4回：[グループ発表] 課題論文に関する発表2
第5回：[グループ発表] 課題論文に関する発表3
第6回：[グループ発表] 課題論文に関する発表4
第7回：[個人発表] 学期末レポートの構想発表1
第8回：[個人発表] 学期末レポートの構想発表2
第9回：[個人発表] 学期末レポートの構想発表3
第10回：[個人発表] 学期末レポートの構想発表4
第11回：[個人発表] 学期末レポートの構想発表5
第12回：[講義] レポートの書き方の復習1
第13回：[講義] レポートの書き方の復習2
第14回：学期末レポートの相互批評

3．履修上の注意

・ほぼ毎週、個人もしくはグループで授業外の課題に取り組むことになる。
・欠席した場合は、次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し、授業プリントをダウンロードしておくこと。
・担当教員が受け持っている授業「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」における論文の書き方についての授業内容と重複する点がある。
・多くの課題が設定されるので、授業外で相当の時間と労力をかける必要のある"タイパ"の悪い授業である。こうした負荷の高い授業であるが、課題に取り組むことを厭わず、真剣に取り組んでいた過去の受講生は著しい成長を遂げていた。物事に対する新たな見方を獲得できるようになるため、また、論理的な思考を組み立て、説得力あるレポートや論文を書けるようになるために相当の努力を継続する意思のある学生にのみ受講をすすめる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・ほぼ毎週、授業外での課題に取り組むことが求められる。
・宿題の内容は、課題論文の読解、グループ・個人発表の準備などである。

5．教科書

毎週、授業プリントを配布する。参照する論文の代表例は、以下の通りである。
・マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ―性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』晃洋書房、2017年
・ハルオ・シラネ『創造された古典: カノン形成・国民国家・日本文学』新曜社、1999年
・鈴木貞美、岩井茂樹ほか『わび・さび・幽玄:「日本的なるもの」への道程』水声社、2006年
・エリック・ホブスボウム『創られた伝統 』紀伊國屋書店 1992年、
・ナタリー・エニック『ゴッホはなぜゴッホになったか―芸術の社会学的考察』藤原書店、2005年

6．参考書

受講生の問題関心に応じて適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパー、メール、個別面談

8．成績評価の方法

・課題への取り組み 40%
・学期末レポート 60%

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	中川　雄大

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

大学では自らの関心にしたがって、「ある主張を提示し、その主張が正しいことを論証する」力を身に着けなければならない。このような知的生産という実践は学術界において論文等を通じてなされるが、それ以外の社会においても必要なスキルである。この能力を育成するためには、自らが社会の一員であることを認識した上で、自身の問題関心を深く掘り下げつつ、適切に文章を読み解き、調査を実施したうえで、それらを解釈し、相手に理解できるように文章などの形式で表現しなければならない。本授業では文献輪読、調査、レポート執筆等の活動を通じて、これらのテクニックとルールを身につける。春学期では文献輪読と地域の調査を通じて、学術的関心を育み、秋学期では論文の読み方と書き方を中心的に学ぶことを予定している。

なかでも、本基礎ゼミナールでは「都市の社会学」をテーマに文献購読・レポートの執筆を行う。都市はさまざまな再開発を通じてマクロに大きな変化を経験し、メディアや技術はこうした都市の変化を後押ししている。だが、同時に都市は人々にとっての生活の場でもあり、人々は都市のあり方を根本から規定する地形的条件や、変貌する社会的条件と日々交渉しながら、日常的な生活を継続している。

この授業では東京という都市の変容のなかで、生じる新しいモノや現象と、消えていく古いモノや現象について着目しながら、そこには、どのような社会的な力が働いているのか、どのような人々の欲望や関係性があるのか検討する。春学期にはグループで一つの地域を選択して街歩きを行った上でその歴史についてリサーチし、地域の歴史的地層を把握する視点を育む。秋学期には論文の分析的な読解を通じて、都市を取り巻くよりマクロな社会的文脈について議論する。

この作業を通じて、受講者にはもっとも身近な社会の一つである「都市」を批判的に考える力を身に着けてほしい。

【到達目標】

(1) 都市に関するひとりひとりの問題関心を、社会学的視点から考察していくための基礎学力を形成する。
(2) 学術的な文章を読解する基礎的な力を養う。
(3) レポートの作成を通じて、基礎的な文章力の向上を目指し、社会学的な論文が書けるようになるための第一歩を学ぶ。

2．授業内容

第１回　イントロダクション　都市へのアプローチ
第２回　文献輪読（1）『東京裏返し』
第３回　文献輪読（2）『東京裏返し』
第４回　文献輪読（3）『東京裏返し』
第５回　まち歩き計画WS
第６回　調査準備・ルート決定
第７回　文献輪読（4）
第８回　文献輪読（5）
第９回　街歩き調査の中間報告
第10回　問いを立てるワーク
第11回　レポート構成づくり
第12回　ドラフト執筆＋ピアレビュー
第13回　推敲と仕上げ
第14回　提出と振り返り
第15回　イントロダクション　「ひとり空間」へのアプローチ
第16回　文献輪読（6）『ひとり空間の都市論』
第17回　文献輪読（7）『ひとり空間の都市論』
第18回　文献輪読（8）『ひとり空間の都市論』
第19回　文献輪読（9）『ひとり空間の都市論』
第20回　文献輪読（10）『ひとり空間の都市論』
第21回　「ひとり空間」の調査計画立案（1）
第22回　「ひとり空間」の調査計画立案（2）
第23回　「ひとり空間」の調査まとめ（1）
第24回　「ひとり空間」の調査まとめ（2）
第25回　「ひとり空間」の発表（1）
第26回　「ひとり空間」の発表（2）
第27回　レポート検討会（1）
第28回　レポート検討会（2）
授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。

3．履修上の注意

1）参考書に挙げている文献の購入を求める場合があります。また、都内における調査の交通費が必要です。
2）毎回必ず、PCまたはタブレットを持参するようにしてください。
・資料をプリントしたものは配布しません。
・発表担当の人にも、原則としてシステム上でファイルを提出してもらう予定です。
3）出席の「回数」そのものは成績評価の対象ではありませんが、10回以上の出席が必要です。つまり、5回欠席した時点でアウトということです。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

文献輪読やプレゼンテーションの準備、フィールドワークの実施。

5．教科書

吉見俊哉，2020，『東京裏返し』（集英社）
吉見俊哉，2024，『東京裏返し 都心・再開発編』（集英社）
南後由和，2018，『ひとり空間の都市論』（筑摩書房）

6．参考書

阿部幸大，2024，『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』（光文社）
トーマス・S・マラニー；クリストファー・レア，2023，『リサーチのはじめかた』（筑摩書房）
上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』（筑摩書房）

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントやアドバイスをする。

8．成績評価の方法

平常点60%、レポート40%

9．その他

課題やワークが多い授業のため、モチベーションの高い学生の履修を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	中里　裕美

1．授業の概要・到達目標

本ゼミナールでは、「ソーシャル・キャピタル」――『人々の協調的な行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることができる、「信頼」、「規範」、「ネットワーク」といった社会的仕組みの特徴』と定義され、社会関係資本と訳される――をテーマとします。このように人と人とを結びつけるソーシャル・キャピタルは、教育や健康、市民活動、企業活動、政府と民主主義など重要な経済・社会的事象と深く結びついています。本ゼミナールでは、ソーシャル・キャピタルにかんする基礎知識を習得してもらうとともに、私たちの日常生活における重要な経済・社会事象をソーシャル・キャピタルとのかかわりから検討してもらうことをねらいとします。

春学期は、テキストの輪読を通して、ソーシャル・キャピタルの基礎的な事柄にかんする理解を深めてもらいます。輪読は、受講生をいくつかのグループに分けて、「レジュメ」を用いた報告を行ってもらいます。そして受講生は、「経済・社会的な課題（テーマ）」にかんする興味・関心領域別のグループに分かれて、秋学期にむけた「研究計画書」を作成し、発表してもらいます。

秋学期は、ひきつづきグループ単位で、春学期に選定した「経済・社会的な課題（テーマ）」とソーシャル・キャピタルとの関係について、文献研究や先行調査からの知見を整理するとともに、それらの研究の弱点や強みを探し出し、それをどのように克服できるかを検討します。またその成果を授業内にて発表し、「成果報告レポート」としてまとめてもらいます。

【到達目標】

一年間の授業を通して、大学生活を送るために必要となる文章読解力、レジュメの作成法やプレゼンテーション技法、文献資料やデータの探し方から論文の組み立て方の基礎までを身につけてもらうことを目指します。

2．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　社会関係資本とは何か（テキスト1章）
第３回　信頼・規範・ネットワーク（テキスト第2章）
第４回　社会関係資本は何の役に立つのか（テキスト第3章）
第５回　何がかたちづくるのか、どう測るのか（テキスト第4章）
第６回　健康と福祉の向上（テキスト第5章）
第７回　社会関係資本の男女差（テキスト第6章）
第８回　社会関係資本を壊す（テキスト第7章）
第９回　社会関係資本のダークサイド、豊かな社会関係資本を育むために（テキスト第8・9章）
第10回　調査研究のテーマ決め、研究計画の立て方、論文検索のし方
第11回 グループワーク①
第12回　グループワーク②
第13回　研究計画書の発表①
第14回　研究計画書の発表②
第15回　イントロダクション（春学期のふりかえりと秋学期の進め方など）
第16回　夏休みの課題の報告
第17回　社会調査の基礎①
第18回　社会調査の基礎②
第19回　グループワーク①
第20回　グループワーク②
第21回　中間報告会
第22回　グループワーク③
第23回　グループワーク④
第24回　進捗報告会
第25回　グループワーク⑤
第26回　グループワーク⑥
第27回　成果報告会①
第28回　成果報告会②
履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。

3．履修上の注意

ゼミ形式のため、期末レポートともに、出席や平常点を重視します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりに十分な議論ができる準備をしてゼミに出席すること。また、グループ研究においては、メンバーと分担し、事前に綿密な準備を行うこと。

5．教科書

『ソーシャル・キャピタル入門―孤立から絆へ』稲葉陽二著 (中公新書) 2011年
※初回の授業にて教科書を配布する予定のため、個人で事前に購入しないようにして下さい。

6．参考書

『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』大谷信介・木下栄二・後藤範章他編著 (ミネルヴァ書房) 2013年
『ソーシャル・キャピタルと社会―社会学における研究のフロンティア』佐藤嘉倫著（ミネルヴァ書房) 2018年

7．課題に対するフィードバックの方法

各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。

8．成績評価の方法

平常点50%、期末レポート50%

9．その他

普段から社会問題・時事問題について関心を持つように心がけることが望まれます。また、とくに秋学期からはグループ単位で行なう課題が中心になるため、他の受講生と協働しつつ、積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	日置　貴之

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

「〈日本〉はどのように語られているか」を考える。

本格的な近代化・西洋化が始まった明治期以降、日本という国のあり方やその文化・精神等を、外国語も用いつつ、どのように対外的に紹介していくかは、今日まで重要な問題であり続けている。その語り方は、一刻も早く日本を世界の一等国として世界（＝欧米社会）に認めさせることを目的としていたり、対外的に孤立を深める中で自国の文化の優位性を誇示するものであったり、高度経済成長の背景として日本文化・社会の「独自性」を強調するものであったり、インバウンド需要を見込んで文化を「売り込む」ものであったりと、時代や語り手の立場によってさまざまである。

この授業では、1900年代の岡倉天心、新渡戸稲造といった人々の著作から、現代までおよそ100年あまりの間に、〈日本〉のイメージが対外的にどのように紹介されてきたか、その背景にはどのような意図や時代・社会の状況があったのかを考えていきたい。

春学期は具体的な著作、映画・映像等を取り上げながら、〈日本〉のイメージがどのように語られてきたかを学び、秋学期には受講者各自でテーマを設定した上で、〈日本〉紹介の実例について調査をおこない、発表・レポート執筆をおこなう。必要に応じて適宜フィールドワーク等もおこなう可能性がある。

【到達目標】

日本のイメージが対外的にどのように語られてきたかという問題について、歴史的な背景等を踏まえた上で考察し、自身の考えを持つことができるようになる。また、自分の考えを発表・レポート等の形で他者に適切に伝えることができるようになる。

2．授業内容

【春学期】

第１回　イントロダクション
第２回　明治・大正期の〈日本〉紹介（1）
第３回　明治・大正期の〈日本〉紹介（2）
第４回　明治・大正期の〈日本〉紹介（3）
第５回　昭和戦前期の〈日本〉紹介（1）
第６回　昭和戦前期の〈日本〉紹介（2）
第７回　昭和戦前期の〈日本〉紹介（3）
第８回　昭和戦後期の〈日本〉紹介（1）
第９回　昭和戦後期の〈日本〉紹介（2）
第10回　昭和戦後期の〈日本〉紹介（3）
第11回　現代の〈日本〉紹介（1）
第12回　現代の〈日本〉紹介（2）
第13回　現代の〈日本〉紹介（3）
第14回　春学期のまとめ

【秋学期】

第15回　イントロダクション
第16回　受講者による発表（1）
第17回　受講者による発表（2）
第18回　受講者による発表（3）
第19回　受講者による発表（4）
第20回　受講者による発表（5）
第21回　受講者による発表（6）
第22回　受講者による発表（7）
第23回　受講者による発表（8）
第24回　受講者による発表（9）
第25回　受講者による発表（10）
第26回　受講者による発表（11）
第27回　受講者による発表（12）
第28回　まとめ

3．履修上の注意

・授業におけるディスカッションやグループワークには積極的に臨むこと。
・各回の授業後にクラスウェブ上でコメント・質問等を提出すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・各回の授業で取り上げる文献などを必ず事前に読んだ上で、疑問点の確認等をおこなうこと。
・授業中の指示や他の受講者との相談にもとづいて、授業時間外に文献の調査やフィールドワーク等をおこなってもらう。
・外国語能力は受講に必須ではないが、一部主に英語が用いられた文献や映像を取り上げる（特別に高度な語学力は不要です）。

5．教科書

特に指定しない。

6．参考書

岡倉天心『茶の本』岩波文庫、1961年
新渡戸稲造『武士道』岩波文庫、1938年
森岡督行『BOOKS ON JAPAN 1931–1972　日本の対外宣伝グラフ誌』ビー・エヌ・エヌ新社、2012年
外国語で「日本文化を紹介する」書籍は（玉石混交だが）山のように存在する。これらの書籍自体が授業での考察の対象になり得る。
また、NHK国際放送でも伝統的なものから現代の文化まで、さまざまな形で〈日本〉を紹介する番組が放送されており、Webサイト上でも視聴可能である（https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/）。
この他、必要に応じて指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

レポートについてはクラスウェブ等を通して個別に講評をおこなう。

8．成績評価の方法

授業におけるディスカッション等への参加・貢献度（50%）、グループワークの最終発表とレポート提出（50%）。

9．その他

心身の条件等により受講に際して特別の配慮を希望する場合には、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへご連絡いただければ、授業準備の段階から各自の事情に応じた対応を検討することが可能です。
なお、教員が作成する授業資料には原則としてUDフォントを使用し（既刊書籍からのコピー等は除く）、PDFファイルの形式で事前にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	堀口　悦子

1．授業の概要・到達目標

ジェンダーの問題は、何か特別なことではなく、実は身近なところに、たくさんある問題である。けれども、つい見逃してしまうような、危うさを持った問題でもあることは確かである。

本ゼミでは、日本に欠けている「性教育」の問題に真正面から取り組んだドラマである、英国のドラマ「セックス・エデュケーション」の視聴を通して、考えて行こう。世界的に好評で、第４シリーズまで制作されて終了した。多様なジェンダーの問題をはじめ、いろいろな問題に気付こう。事前に、動画配信サービス（ネットフリックス）を利用して、視聴しておいてほしい。月額1千円程度、春学期・秋学期各13回程度観ておいてほしい。

「性教育」の問題から、恋愛、友情、親子関係など、多様な現代の問題を描いている。「性教育」及び「性的同意」は、堀口ゼミ全学年の統一テーマでもある。合宿やZOOM会議などを通して、先輩たちとの交流を図る機会もある。もう一つのゼミの統一テーマは、「日本のエンタメにジェンダー視点を！」である。外国のドラマを通して、考えてみてほしい。

一つのテレビドラマを継続的に視聴しながら、上記のような多様な問題や視点の発見を目指す。ただ、漫然とテレビドラマを見るだけではなく、積極的にドラマから学ぼうとする姿勢で視聴してほしい。

ドラマの中に描かれた、自分が関心を持ったテーマについて、レポートを書くことが到達目標である。レポートは年内に完成させ、冬休み中に1年生のゼミ生全員のレポートを読み、短い講評を各人のレポートについて書く。自分たちの書いたレポートを、担当教員に読んでもらうだけではなく、ゼミ生全員がお互いのレポートを読むことによって、一つのドラマの中に多様なテーマがあることだけではなく、一口にレポートといっても、様々な書き方があることを学ぶ。

年明けのゼミでは、そのお互いの講評をもとに、意見を出し合い、フィードバックする。

毎回のゼミでは、前半に上記のテレビドラマの意見や感想を出し合う。後半は、教科書の輪読やイベント参加のための研究活動等を行う。

夏休みには、合宿を２泊３日で、明治大学山中セミナー（山中湖）で行う。宿泊費食事代等で、約7千円＋交通費（高速バス代　新宿から山中湖まで往復5千円程度）。合宿は、1年生から4年生まで合同で、お互いの研究成果を報告する。夜には花火なども行い、交流する。

秋には、イベントもある。東京ウィメンズプラザのフォーラムに参加して、外部の参加者の前で研究報告を行う。それから、学部の情コミ交流祭にも参加する。3月には、NGOCSWのパラレルイベントにオンラインで参加する。英語での報告だが、英語が全く得意でなくても、臆することはない。指導もするし、報告原稿はネイティブチェックも行う。これらのイベントへの参加のための研究及び準備も行う。これがアクティブ・ラーニングの実践である。

春学期の初期に、『恋愛基本のキ』打越さく良　岩波ジュニア新書を読み、DVやデートDVの基本的なことを学ぶ。授業で輪読し、春学期の最後のゼミに読後感を書いたものを提出する。上記のネットフリックスで配信中の韓国ドラマ「ロースクール」も観てほしい。ロースクールの学生のデートDVなども描かれている。書籍とドラマとのメディアミックスで、デートDVの問題も考えてほしい。

１年生の最初に、基本的な、話す力・読む力・書く力を付けることも目指す。取り上げる本は変更するかもしれない。

2．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第１回意見交換・教科書輪読
第３回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第２回意見交換・教科書輪読
第４回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第３回意見交換・教科書輪読
第５回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第４回意見交換・教科書輪読
第６回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第５回意見交換・教科書輪読
第７回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第６回意見交換・教科書輪読
第８回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第７回意見交換・教科書輪読
第９回　『セックス・エデュケーション』第1シーズン第８回意見交換・教科書輪読
第10回　夏合宿の事前学習①
第11回　夏合宿の事前学習②
第12回　夏合宿の事前学習③
第13回　外部講師の講演（予定）
第14回　春学期のまとめ一学年末レポートに向けてのレジュメ提出
第15回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第１回意見交換・チームごとの研究
第16回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第２回意見交換・チームごとの研究
第17回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第３回意見交換・チームごとの研究
第18回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第４回意見交換・チームごとの研究
第19回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第５回意見交換・チームごとの研究
第20回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第６回意見交換・チームごとの研究
第21回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第７回意見交換・チームごとの研究
第22回　『セックス・エデュケーション』第2シーズン第８回意見交換・チームごとの研究
第23回　『ロースクール』意見交換
第24回　チームごとの研究
第25回　チームごとの研究
第26回　チームごとの研究
第27回　チームごとの研究
第28回　ゼミ生のレポートの講評
*諸事情により、変更することがある。

3．履修上の注意

毎回、じっくりとテレビドラマを視聴してください。必ず、何らかの発見があるはずである。

教科書を読むことで、基本的なことを学び、これをきっかけに、多様なジェンダー問題を考えてみてほしい。

予定では、9月にゼミ合宿を開催、11月に東京ウィメンズプラザでフォーラム参加、秋に学部の情コミ交流祭参加、2026年3月にNGOCSW７１のパラレルイベント参加である。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

若者のテレビ離れが激しいが、たまにはテレビを見てみよう。

教科書の必要な部分は、ゼミの前に読んでおいてほしい。

5．教科書

『恋愛基本のキ』　打越さく良　岩波ジュニア新書　変更の可能性あり

6．参考書

各自で、ドラマ、映画、小説　漫画など参考になるものを探してください。

7．課題に対するフィードバックの方法

随時、課題に対するフィードバックを行う予定である。最終回のゼミで、全体の課題のフィードバックを行うが、時間が足りない場合は、Oh-o!Meijiの「授業のお知らせ管理」などを使用して補足する。

8．成績評価の方法

積極的なゼミ参加30%、合宿・イベントへの参画50%、レポート20%

9．その他

大学で学ぶテーマがない方もある方も、参加してみよう。

いろいろなイベントに参加する機会の多いゼミなので、とにかく1年間を通して忙しいが、やりがいはあると思う。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	宮本　真也

1．授業の概要・到達目標
情報コミュニケーション学という学問において重要なポイントの一つは、社会と個人の関わり合いをどのような視点から観察し、分析し、いかなる言葉で語るのかにある。普段私たちは「当たり前」のこととして、日常生活において誰かとコミュニケーションをおこなう。しかし、この「当たり前」は、本当は特定の（例えば21世紀の日本の）文化、社会、世界についての考え方に強く影響を受けている。社会や、自分自身のあり方を、正確に理解しようとするなら、こうした影響関係を明らかにできなければならない。そのための一つの方法として、この基礎ゼミでは、社会学という学問を広く浅く学びながら、大学生活で必要な「考えること」、「話すこと」、「報告すること」、「問いを立てること」などの基本的なスキルを身につけることが目的である。いわば大学での学びのための基礎的な「筋トレ」をおこなう。
まずは社会学の歴史とテーマについての入門的なテキストを参加者全員が前もって読み、担当者にポイントを絞って発表を行ってもらう。そしてその後で参加者が自由に議論をすることで、テキストについてのお互いの理解を確かめ合う。ここでは、扱ったテキストの内容を歴史的現象、具体的な社会問題、身の周りの出来事を例として検討することをおこなう。このようにして、まずは社会学が扱ってきた対象とその説明のあり方を、応用して考えることができるようにトレーニングしてみたい。みなさんが今まで漠然と見ていた日常的な事柄を社会学的に、個々の出来事における個人、社会、文化の絡まり合いに注意して観察するためのセンスを磨いてもらいたい。
また、それぞれのグループが最近一週間のニュースのなかで重要だと思われることを紹介し、それについて意見を交換する時間も用意する。このことで、学問的な知識と社会情勢、国際関係のあいだの橋渡しを行いたい。
これらの思考のトレーニングは、それだけではなかなか具体的に理解したり、学ぶ楽しみなどが得られにくいかも知れない。したがって、合間にテーマに関係する映像作品（ドラマ、映画、ドキュメンタリー）を共に鑑賞して意見を交換したい。

2．授業内容
第1回　イントロダクション1　春学期の進め方について
第2回　社会と行為
第3回　集団
第4回　家族
第5回　都市
第6回　映像作品と社会1
第7回　逸脱
第8回　歴史
第9回　コミュニケーション
第10回　宗教
第11回　映像作品と社会2
第12回　ジェンダー
第13回　現代社会
第14回　まとめの討論
第15回　イントロダクション2　秋学期の進め方について
第16回　文献講読と報告1－1
第17回　文献講読と報告1－2
第18回　文献講読と報告1－3
第19回　映像作品と社会3
第20回　文献講読と報告2－1
第21回　文献講読と報告2－2
第22回　文献講読と報告2－3
第23回　映像作品と社会4
第24回　文献講読と報告3－1
第25回　文献講読と報告3－2
第26回　文献講読と報告3－3
第27回　映像作品と社会5
第28回　まとめの討論

3．履修上の注意
自分の報告の日でなくとも、テキストは読んでくること。報告担当ではなくてもコメントを求める。
積極的な発言は高く評価するので、話す機会を利用すること。
欠席、遅刻が多い場合は、失格になる場合がある。また居眠りや、不適切なスマホなどの操作は注意の対象となる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
報告担当グループは、グループ内の他の報告者と打ち合わし、理解を確認しておくこと。
また、当日報告者以外の参加者も、テキストは読んで望むこと。復習としては、ゼミでの不明点をまとめておき、次回に質問できるようにしておくことが重要である。

5．教科書
『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』、出口剛司、角川文庫
秋学期については、参加者と相談して決定する。

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
メールや事後的に授業内でコメントを返すこととする。
使用するメールアドレスについては、最初の授業で告知する。

8．成績評価の方法
発表50%、レポート50%。ただし出席状況が悪い場合は評価しない。

9．その他
間違いを恐れず、積極的に疑問や意見をぶつけてください。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	山口　生史

1．授業の概要・到達目標
社会科学とは､「社会」における様々な現象を分析する科学といえるでしょう。今起こっている現象が、どのようなプロセスで構築されてきたのか、あるいは、現在の現象を引き起こしている要因は何かといったことを探求することが社会科学の使命ともいえます。それを研究するということになると、まずみなさんが普段の生活において、自分の身の回りで起こっていることについて、関心があることを調べてみようという動機から始まります。それを「○○はどのような経緯で今のような状況になっているのだろうか？」とか「○○が起こっている原因は何だろうか？」といった疑問文形式で表現するとき、それを「問い」「研究課題」「リサーチクエッション」と呼びます。自分で問題を設定したならば、その回答も自分で探らなければなりません。初めから与えられる決まった問題もなければ、決まった回答も用意されていません。これが「研究」というものです。すなわち、このゼミナールでは、社会科学における「研究」のアプローチと方法の基礎的なことを理解することが目的です。このアプローチには大きく分類すると2つあります。一つは、ある現象を構築してきたプロセスを調べ、仮説を生成する機能的アプローチ、もう一つは、現象の原因と結果の（因果）関係を検証する仮説検証の演繹的アプローチです。前者の研究方法としては、インタビュー調査などの質的調査で得られたデータや文書資料などの「ことば」などの質的データを分析します。後者の研究方法としては、質問票（アンケート票）などで得た数値情報（量的調査）である量的データを統計解析する方法です。このゼミナールでは、前者の質的調査（本クラスではインタビュー調査）に関して、春学期に基本的なことを教科書を読みながら学び、秋学期には実際にインタビュー調査をしてもらう予定です。秋学期の研究・調査はチームで行い（履修人数により変更はありえますが）、研究のテーマはチームで決めます。この一連の社会科学における質的調査の基本を学ぶことがこのゼミナールの目標です。

2．授業内容
1．授業内容の概要説明とイントロダクション
2．(a) 社会調査とは;
　(b) 質的研究と量的研究の違い
　(c) 質的研究とは
3．研究課題（Research Question）
4．先行研究の文献調査
5．インタビューでわかること
6．研究方法
7．研究倫理
8．質的データ分析の方法
9．調査結果のまとめ方
10. 調査結果から得る示唆
11. 質的調査の「妥当性」「信頼性」の問題
12. 研究テーマの確定
13. 研究課題・問い(research question)の設定
14. 研究課題の修正
15. インタビューガイドの作成1
16. インタビューガイドの作成2
17. インタビューガイドの作成3
18. インタビューの調査手順・手続きと研究倫理の再確認
19. データ分析の方法の再確認とデータ分析1
20. データ分析2
21. データ分析3
22. データ分析4
23. データ分析5
24. 理論モデルと仮説の生成1
25. 理論モデルと仮説の生成2
26. 調査結果の発表1
27. 調査結果の発表2
28. 論文のまとめ方

3．履修上の注意
課題などの提出は期限を厳守して下さい。秋学期の調査はチームで行いますが、秋学期のファイナルペーパーは個人で書きます。調査に関しては積極的参加とチームワークが必須です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
教科書指定ページのサマリーペーパー、調査準備、データ分析などです。

5．教科書
太田 裕子 (著) 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ ―研究計画から論文作成まで―』
(東京図書)

6．参考書
クラスにて適宜紹介

7．課題に対するフィードバックの方法
コメントやクラスでの解説でおこないます

8．成績評価の方法
出席が十分であれば以下の通りに評価します。
（1）ファイナルペーパー 50%
（2）課題提出・発表 50%

9．その他
この授業の重点は、プレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考、基礎的社会調査（質的調査）の実施です。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**横田　貴之**

1．授業の概要・到達目標

この授業のテーマは国際問題です。国際問題、国際関係、国際政治、国際情勢、などがキーワードとなります。国際政治を理解する基礎的な能力を修得することがこの授業の目的です。そのために、読み・書き・発表の実践的訓練を行います。

国際問題を理解する能力は、現代を生きる我々にとって不可欠の能力です。日本という殻に閉じこもってやり過ごせる時代は過ぎ去りました。では、国際問題について理解する力はどうやって修得すればいいでしょうか？学生の皆さんが自分自身で、国際問題について「知り」、「考え」、「述べる」ことによってはじめて可能になります。

授業においては、初学者に適した教科書として、足立研幾・坂本雅彦他編『プライマリー国際関係学』（ミネルヴァ書房、2021年）を指定します。指定教科書の輪読と発表、それを踏まえてのレポート作成が基本的な流れになります。グループ単位での調査、および研究成果の発表も適宜課す予定です。一連の作業を通じて、異文化や国際情勢に関する理解の基礎を習得するとともに、ディスカッション、プレゼンテーション、文献収集・調査など大学生に必須の基本的スキルを習得することを到達目標とします。なお、具体的な国際問題そのものの分析ではなく、その分析に不可欠な力を修得することを目標とします。

2．授業内容

第1回　春のイントロダクション：授業の目的と方法（aのみ）
第2回　大学図書館を学ぶ―文献資料収集の意味
第3回　国際関係における「秩序」とは何か（輪読・解説）
第4回　国際経済と国際関係（輪読・解説）
第5回　国際関係と文化（輪読・解説）
第6回　受講生によるグループ研究発表
第7回　受講生によるレポート発表・講評
第8回　国際法と国連（輪読・解説）
第9回　デモクラシー（民主主義）とは（輪読・解説）
第10回　貧困と開発（輪読・解説）
第11回　SDGs（輪読・解説）
第12回　受講生によるグループ研究発表
第13回　受講生によるレポート発表・講評
第14回　春学期総括と夏季休暇課題の説明
第15回　秋のイントロダクション＋夏季課題提出（aのみ）
第16回　国際関係とジェンダー（輪読・解説）
第17回　国際関係とメディア（輪読・解説）
第18回　紛争を考える（輪読・解説）
第19回　国際関係から考える地球温暖化（輪読・解説）
第20回　受講生によるグループ研究発表
第21回　受講生によるレポート発表・講評
第22回　移民問題（輪読・解説）
第23回　越境的組織犯罪（輪読・解説）
第24回　米中対立（輪読・解説）
第25回　EU統合再考（輪読・解説）
第26回　アフリカ（輪読・解説）
第27回　受講生によるグループ研究発表
第28回　マイカリキュラムの講評＋授業総括

3．履修上の注意

毎学期最初のイントロダクション（第1回･15回）には必ず出席すること。宿題・課題の分量は大学入試よりは少ないですが、サボると脱落するでしょう。せっかくの大学生活の始まりなので、この「ブートキャンプ」でみっちり鍛えましょう。そのためには、必ず課題を済ませ、課題発表･ディスカッションへ主体的に参加してください。後々、良かったと思える授業にしましょう。

なお、ゼミは学生の皆さんが主役です。授業の充実度は、皆さんの取り組み次第です。また、ゼミでのディスカッション等において発言しない場合、欠席扱いとなります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で適宜指定する文献を必ず事前に読了すること。各テーマの要点の復習のために、文献の読み返しを行うこと。

5．教科書

足立研幾・坂本雅彦他編『プライマリー国際関係学』（ミネルヴァ書房、2021年）。

6．参考書

なし

7．課題に対するフィードバックの方法

課題を課す場合は、その次の回で受講生に対面で講評・解説を行います。

8．成績評価の方法

授業内での発表（40％）、ディスカッションなど授業への貢献（40％）、レポート（20％）

9．その他

国際関係や国際問題にに興味を持つ学生を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**脇本　竜太郎**

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

教科書および論文を読んで社会心理学の知見を学ぶとともに、エクササイズや実習を交えて大学での学びに必要なスキルを習得する。批判的な読み、基礎的な量的分析と結果の説明(レポート執筆)を重視する。

具体的な活動としては、①教科書および論文のレジュメ発表と相互評価、②実験や調査の体験、③Rを用いた量的データの分析、④レポート執筆を行う。

【到達目標】

①社会心理学の重要知見について、その手続きを含めて理解することができる。
②自分の主張を論理的に伝えることができる。
③統計的分析の結果を理解し適切に説明することができる。
④図と表を目的に応じて使い分けることができる。
⑤他者の発表に対して、建設的な批判ができる。

2．授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　図書館ガイダンス
第3回　輪読　影響力の武器第1章および第2章
第4回　輪読　影響力の武器第3章および第4章
第5回　輪読　影響力の武器第5章および第6章
第6回　輪読　影響力の武器第7章および第8章
第7回　論文輪読：恋愛関係
第8回　サンプルデータの分析：恋愛の色彩理論
第9回　レポート執筆：恋愛関係
第10回　論文輪読：自己概念
第11回　調査体験：自己概念
第12回　レポート執筆：自己概念
第13回　測定法の比較
第14回　春学期の振り返り
第15回　論文輪読：リサーチリテラシー
第16回　データの二次分析：リサーチリテラシー
第17回　レポート執筆：リサーチリテラシー
第18回　論文輪読：自尊感情
第19回　研究体験：自尊感情の測定
第20回　レポート執筆：自尊感情
第21回　論文輪読：性役割態度
第22回　調査体験と分析：性役割態度
第23回　レポート執筆：性役割態度
第24回　論文輪読：公正さについての信念
第25回　調査体験：公正さについての信念
第26回　レポート執筆：公正さについての信念
第27回　マイカリキュラムへのフィードバック
第28回　総括
※内容は履修者の人数や興味関心に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

・輪読では履修者の発表に基づいて議論を進めるので、責任をもって準備すること。テキストや論文の棒読みは発表とはみなさない。
・Rでの分析やレポート執筆の回に欠席した場合、自分自身で資料を読んで学習して分析を行い、レポートを提出すること。関係資料はOh-o! Meijiにアップする。欠席してもレポートの提出は免除にならない（ただし、感染症等の特別な事由による欠席を除く）。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当でなくとも、教科書の該当箇所や論文を読んでおくこと。講義内で理解度を確認するための質問をすることがある。

5．教科書

『影響力の武器 新版』チャルディーニ、R. B.（著）社会行動研究会（訳）誠信書房

6．参考書

授業中に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

プレゼンやレジュメについては授業時にフィードバックを行う。レポートについては提出の都度フィードバックを行う。

8．成績評価の方法

授業への参加度40%、レポート60％

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND112J

基礎ゼミナール

4単位	1年次	**和田　悟**

1．授業の概要・到達目標
このゼミナールでは、文献の講読や発表を通じ、「世界経済の成長センター」とも呼ばれる東南アジアの事情をや現代社会の現状や課題・日本との関係について学びます。まずは国際協力に関するテキストを題材に話合いながら途上国の問題と解決策について考えてみましょう。その他、アジアの政治・経済や社会・文化についての文献に触れつつ、多様なアジアと日本について理解を深めます。
到達目標は、途上国の課題について理解し、それに日本がどのような方法で取り組んでいるかについて知識を得ること。また、SDGsの課題について具体的に考えられるようになること。グループワーク、発表を通じた基本的なプレゼンテーションスキルの修得することです。

2．授業内容
第1回　イントロダクション 国際交流について
第2回　東南アジアと日本経済の関わりについて
第3回　途上国の現状を知る（1）
第4回　途上国の現状を知る（2）
第5回　途上国の現状を知る（3）
第6回　途上国の現状を知る（4）
第7回　課題図書①の発表 (1)
第8回　課題図書①の発表 (2)
第9回　課題図書①の発表 (3)
第10回　課題図書①の発表 (4)
第11回　課題図書①の発表 (5)
第12回　SDGsについて考える（1）
第13回　SDGsについて考える（2）
第14回　春学期の総括・夏休み課題について
【秋学期】
第1回　夏休み課題について (可能なら タイの大学との学生交流)
第2回　課題図書②の発表（1）
第3回　課題図書②の発表（2）
第4回　課題図書②の発表（3）
第5回　課題図書②の発表（4）
第6回　課題図書②の発表（5）
第7回　課題図書③の発表（1）
第10回　課題図書③の発表（2）
第11回　課題図書③の発表（3）
第12回　課題図書③の発表（4）
第13回　課題図書③の発表（5）
第14回　総括・マイカリキュラムについて

3．履修上の注意
本年度は前半グループワークを積極的に導入する予定です。
後半のテキストを使った学習では発表は、4回に1回程度の頻度で行ってもらう予定です。ただし、回数については参加人数により異なります。
また、秋学期にオンラインでの学生交流の実施を検討しています。交流相手はタイのシーナカリンウィロート大学で日本語を学んでいる学生たちです。実施形式は未定です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
春学期は主に教科書に基づいてグループワークをします。いくつかの途上国の社会課題を取り上げます。授業でのグループワークを実りあるものにするため、事前にどのような問題なのかを自分なりに予習するよう求めます。
後半は、基本的に、各回の課題図書について分担を決め順に発表し話し合います。

5．教科書
テキストはアジアや日本の経済社会に関する文献を選定します。
テキストの準備方法などは授業中に説明しますが、学部のゼミへの助成金を最大限活用する予定なので、最初のテキストについては、事前に自分で用意する必要はありません。
2025年度は、以下のテキストなどを使いました。
佐原隆幸・徳永達巳『国際協力 アクティブ・ラーニング』弘文堂
後藤健太『アジア経済とは何か - 躍進のダイナミズムと日本の活路 』中央公論新社(2019)
恒川恵市『新興国は世界を変えるか 29カ国の経済・民主化・軍事行動』中央公論新社(2023)

6．参考書
加納雄大『東南アジア外交-ポスト冷戦期の軌跡』現代選書、信山社(2023)
伊藤亜聖『デジタル化する新興国 - 先進国を越えるか、監視社会の到来か』中公新書、中央公論新社(2020)
岩崎育夫『入門東南アジア近現代史』講談社現代新書、講談社(2017)

7．課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパー、レポートなどの提出物へコメントは、提出期限後にOh-o! Meijiでフィードバックする。

8．成績評価の方法
グループワークへの参加状況50%、発表・発言 30%、レポート20%
タイの大学との交流を含む場合には上記のうち「発表・発言」の一部として評価します。

9．その他
いま社会で求められている「コミュニケーション能力」は同質・同世代の友人の多さで決まるわけではありません。異なる背景や価値観をもつ人々と共に働けることが大切です。この授業の担当者は「国際交流（タイhttps://www.oh-o.meiji.ac.jp/lms/course?idnumber=202518C001310001）」も担当しています。実際にタイにいって現地の学生らと交流を楽しむことができます。そうした機会も是非有効に活かしてください。
（参考）国際交流 2025年度ガイダンス動画 https://r.qrqrq.com/5Bi5hQq5

問題発見テーマ演習

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	岩渕　　輝

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】「薬やワクチンの基礎知識と薬害の歴史」を中心に学びます。
私たちのほとんどが薬やワクチンを使いながら生活していますが、それらがどのように製造されているのか、また、それらの安全性はどのように確保されているのかといった基礎知識については、あまり知らない人が多いように思われます。医薬品には多かれ少なかれ副作用がありますので、比較的少人数であることが多いですが、健康被害にあう人が一定数出てしまいます。健康被害を防止するには、医薬品の基礎知識と共に薬害の歴史を学ぶことが役立ちます。わが国でも、これまでサリドマイドやエイズなどに関する様々な薬害事件が発生しましたが、このゼミでは、そうした過去の薬害の歴史を学びつつ、近年のコロナ禍における健康被害の問題についても議論します。厚生労働省が公開している資料や、サンテレビ、CBCテレビ等の報道によれば、新型コロナワクチンで健康被害を受けたり死亡したりしたとして、国の健康被害救済制度に救済申請があった件数が14600件以上あり、そのうち、医療費支給や死亡一時金支給などによる救済が認定された件数は9400件以上（因果関係を否定出来ないとして認定された件数。厳密な医学的因果関係があるかどうか不明なものも含む）あるとのことです。なお、全救済認定件数のうち、死亡の認定件数は1050件を超えています（2026年1月現在）。この、新型コロナワクチン一種類だけで1050件を超える死亡認定件数は、新型コロナワクチン以外の過去約45年間の24種類のワクチンの死亡認定件数を全部あわせた数である151件を大きく上回っています。一部のメディアを除き大多数のメディアは、このことに関する報道をあまりして来なかったように見受けられます。健康被害の問題と関わりの深いメディアのあり方についても、議論の時間をとる予定です。
ゼミの時間は、全員で読む輪読用テキストを決めて発表当番を割り当て、当番の人に発表していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。また、読用テキストとは関係なく、日ごろ自分が抱いている疑問を提示し、それについて他のゼミ生から意見をもらう時間もとる予定です。他のゼミ生からの質問に答えたり、様々なコメントをもらったりする中で、自分の考えを深めて下さい。
【到達目標】本ゼミの目標は、薬やワクチンを題材に薬害の歴史を学びつつ、＜いのち＞や生き方についての各自の興味と考えを深め、本当に大事だと思える自分独自のテーマを発見することにあります。

２．授業内容
第１回　はじめに
第２回　薬の基礎知識
第３回　従来型ワクチンの基礎知識
第４回　サリドマイド事件
第５回　薬害エイズ事件
第６回　HPVワクチンと報道の問題
第７回　パンデミックの歴史
第８回　遺伝子治療の基礎知識
第９回　DNAワクチン開発の歴史
第10回　コロナ禍の諸問題
第11回　mRNAワクチンの基礎知識
第12回　コロナワクチンの健康被害
第13回　予防接種健康被害救済制度の諸問題
第14回　ａのみ：まとめ

３．履修上の注意
予備知識は必要ありません。
輪読用の本の購入費（一学期につき2000円以下）が必要になります。輪読用の本は参考書欄の本の中から選ぶ可能性が高いですが、最終決定はゼミ開始直前になりますので、まだ買わないで下さい。
質問等がある場合は次の専用アドレス宛にメールして下さい。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
当番制で発表していただきますが、発表当番になった人は発表テーマについて十分な準備をして下さい。また、他の人の発表を聞くときも、関連することを予習・復習し十分な議論ができる準備をしてゼミに臨んで下さい。

５．教科書
とくに定めません。

６．参考書
厚生労働省の薬害教育テキスト『薬害を学ぼう』（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_yakugaiwomanabou.html）。
『コロナワクチン後の世界を生きる ―薬害の現実と私たちにできること―』岡田正彦。花伝社、2025年。
『科学という名の信仰 ―新型コロナ「ワクチン」政策を問う―』福島雅典。岩波書店、2024年。
『mRNAワクチンの罪と罰』mRNAワクチン中止を求める国民連合（著）、村上康文（編）。方丈社、2025年。
『コロナワクチン ―その不都合な真実―』アレクサンドラ・アンリオン・コード。詩想社新書、2023年。
『構造薬害』片平洌彦。農山漁村文化協会、1994年。

７．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日または最終授業終了直後に課題の解説と講評を行ないます。

８．成績評価の方法
発表当番時の発表内容と議論の内容：50%。授業の参加度と課題内容：50%。

９．その他
考えることが好きな人、「本当のことが知りたい」という気持ちの強い人、本好きの人、普段話す機会があまりない話題について誰かと話してみたい人、答の無い問題に向かう意欲のある人を歓迎します。ゼミ生の中から、物事を深く考える人がたくさん出てくれると嬉しいです。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	小田　光康

１．授業の概要・到達目標
このゼミのテーマは「経済ジャーナリズム基礎」です。このゼミでは経済ジャーナリズムで求められる経済学の基礎的な知識を習得したうえで、国の財政政策や金融政策など経済政策について分析し、報道記事を編集できる能力を身に付けることを目標とする。

このゼミは４月11日土曜日（１限～４限）に和泉キャンパスで１回、明治大学セミナーハウスで５月22日午後１時から24日正午まで２泊３日の合宿形式で実施します。

ワークショップ形式の協働学習なので**すべての授業に必ず出席することを履修要件**とします。

２．授業内容
第１回　イントロダクション（和泉）経済政策と経済ジャーナリズム
第２回　国民経済計算と主要経済指標とジャーナリズム（和泉）
第３回　財政政策とジャーナリズム（1）
第４回　財政政策とジャーナリズム（2）
第５回　金融政策とジャーナリズム（1）
第６回　金融政策とジャーナリズム（2）
第７回　雇用とジャーナリズム
第８回　物価水準とジャーナリズム
第９回　各種経済報道の事例研究に関するグループワーク（1）
第10回　各種経済報道の事例研究に関するグループワーク（2）
第11回　各種経済報道の事例研究に関するグループワーク（3）
第12回　各種経済報道の事例研究に関するグループワーク（4）
第13回　経済報道の事例研究発表（1）
第14回　経済報道の事例研究発表（2）

３．履修上の注意
このゼミの学習内容はマクロ経済学を基盤にしています。この教科を事前に履修しておくことが望ましい。高校「政治経済」の経済分野を学生が理解している前提でゼミを進めます。

このゼミは４月11日土曜日（１限～４限）に和泉キャンパスで１回、明治大学セミナーハウスで５月22日午後１時から24日午後正午まで２泊３日の合宿形式で実施します。ワークショップ形式の協働学習なので**すべての授業に出席することを履修要件**とします。合宿参加費として約１万５千円が必要です。パソコンは各自用意すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
新聞の経済記事は毎日必ず目を通すこと。

５．教科書
毎回のゼミで配布します。

６．参考書
高校「政治経済」の教科書、学部レベルの一般的なマクロ経済学の教科書

７．課題に対するフィードバックの方法
合宿での研究発表について学生からの質疑応答や教員からの補足・助言でフィードバックをします。

８．成績評価の方法
ワークショップへの参加度（50%）とアウトプット内容（50%）で評価する。全授業の出席を成績評価の条件とする。

９．その他
学生同士である経済関連の時事問題を見つけ、それを徹底的に考え抜き、そのまとめを発表し、学生同士で議論するアプローチを学んでください。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**大久保　美花**

１．授業の概要・到達目標

テーマ：日本語表現、国際共修

このゼミナールでは、国際共修を通して、自己や他者について理解を深めることを目的としています。具体的には、中国で日本語の翻訳を学ぶ大学院生たちと、ある課題（例：就活、アニメ、SNSの使い方など）について共に考えます。そこで取り上げるテーマは、みなさんが中国の大学院生たちと相談しつつ自由に決めることができます。最終的に学んだ成果をみなさんの前で発表します。

【到達目標】

①他者と共に学び、その成果を発表することができる。
②日本語表現の背景にある日本文化の特徴について理解することができる。
③日本と中国の文化の特徴について理解することができる。

２．授業内容

1 はじめに―言葉と文化について
2 中国の学生に向けて自己紹介動画を作ろう
3 国際共修の準備
4 国際共修の準備
5 国際共修①
6 振り返りレポートの執筆、対話
7 国際共修の準備
8 国際共修の準備
9 国際共修②
10 振り返りレポートの執筆、対話
11 国際共修の準備
12 国際共修③全体発表
13 振り返りレポートの執筆、対話
14 まとめ

３．履修上の注意

・この授業では国際共修への参加を最も重視しています。
・みなさんに事前にお知らせしたうえで、国際共修の回数や内容を変更することがあります。
・自分自身の意識の変化を自覚できるよう、共修後は振り返りレポートを書きます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には授業中に国際共修の準備をしますが、もし時間内に終わらない方やグループに対しては、授業外にも予習・復習を求めます。

５．教科書

特に定めません。

６．参考書

・戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』（NHK出版）2012年
・酒井聡樹『これから学会発表する若者のために―ポスター発表と口頭のプレゼン技術』（共立出版）2013年

そのほか発表内容に関する参考書については、授業中に適宜ご紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

対面、メール、Oh-o!Meijiシステムのアンケート機能

８．成績評価の方法

国際共修への参加30％、他の方への質問・声かけ30％、発表内容：20％、振り返りレポート：20％

９．その他

言葉に興味がある方、異なる考えや文化に触れてみたい方を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**川島　高峰**

１．授業の概要・到達目標

授業の概要

旅が好き、という人にはとても向いているゼミと思います。このゼミの主題は「**日本国家論・地方地域社会総合政策の研究**」を考えるゼミである。地方自治体の多くが、少子高齢化・都市圏への人口流出により、過疎・人手不足・自治体の機能不全、さらに消滅自治体になりかねない実情にある。このゼミでは、自分をどうしたいとか、自分らしさがどうだということではなく、**日本をどうしたいのか、日本社会はどうあるべきなのか、日本らしさとは何かを、「人の移動（旅）」を通じて考えるゼミナール**である。そのために喫緊の課題として、総合政策としての地方創世（地域コミュニティ創造）を考えようとしている。

首都圏は一極集中のみならず、国際化・グローバル化においても首都圏一極集中であり、東京及び北関東地方はあたかも「東京合衆国圏」の様相を呈している。経済的な利害関係では東京と地方の関係は、都民ファーストが日本ファーストを凌駕・圧倒する勢いにあり、首都圏とそれ以外の地域の利害は分断を深化させつつあり、ネイティブ首都圏の人にとって地方社会は、もはや外国のような印象を持つ存在となっている。地方旅行は渡航と同等か、外国よりは便利なもう一つの外国と、行っても良いだろう。

しかし、地方消滅は日本の消滅でもある。よく人口減少による地方消滅が懸念されるが、まず、人口ではなく地方社会や文化の記憶が人々の間から消滅する。地方という価値が消滅するのである。都市圏だけで島国日本が成立するというのは相当に甘い考えであり、首都圏ネイティブには地方は農業と観光でなんとかやってく他人事社会であるが、日本の都道府県のGDPで見ても一次産業や観光が25％を超えるところなどほとんどない。日本の産業総体は地方とのサプライチェーンにより成立しているのである。

熊被害の増加は、今でこそ地方社会がバッファーになっているが、地方社会が消滅すれば首都圏は熊の生息域に包囲され、直ちに侵入されることになる。治山・治水にも似たことが言える。気が付いたら外国人コミュニティが特定地域に形成されていたということも既に一部に始まっている。

地方政策を考えるということは、東京一極集中問題を考えるということであり、いわゆる、地方創成や地方移住政策を、地方文化（ローカル･クール･ジャパン）を考えることであり、外国人政策を考えることでもあり、学際的な総合政策的なアプローチが必要である。

到達目標

地方消滅と東京一極集中が国家にもたらしている状況を的確に理解し、一極集中が日本の問題の殆どの原因となっていることを理解すること。

２．授業内容

第１回　アイスブレーキング　旅と地方
第２回　都道府県人口動態　所謂なくなる自治体問題
第３回　地方移住促進政策＝関係交流人口政策、とは何か　地方インターンの紹介
第４回　地方消滅どうしてそうなるの？　都市への集中と分散をめぐる人類史と日本史
第５回　日本は列島改造の歴史の繰り返し　新潟・越の国から潟の国へ
第６回　地誌文化・紀行学入門１　７２時間／新日本紀行
第７回　地誌文化・紀行学入門２　７２時間／新日本紀行
第８回　地域おこし協力隊の研究
第９回　自然界隈・里山界隈　Ｚ世代の里山チャレンジの数々
第10回　故郷概念とツーリズム　ツーリズムはどうしてイズムなの？
第11回　地方消滅後の日本　安全保障的観点
第12回　地方消滅後の日本 日本的なものの消滅
第13回　高速道路網が作る新しい地誌紀行
第14回　グーグルマップで作る私だけの地誌紀行
＊　順番は適宜、変更されます。また内容に変更されることがあります。

３．履修上の注意

本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるためにできるだけ講義科目「政治学」の履修（地方問題にも触れる）を強くおすすめします。課外活動や、外部研修といったことをゼミの活動として行うことは一切、ありませんが、総務省や各市町村が実施している地方インターン制度については、例年、派遣実績がありますので、これを紹介します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

その都度適宜指導する。

５．教科書

政府の重点政策に関する文書は良い参考になる。適宜URLを紹介する。

６．参考書

適宜、授業時に示す

７．課題に対するフィードバックの方法

レポートとして実施する学生の講義に対するコメントは、原則としてクラスでシェアして、その都度、講評を行う。

８．成績評価の方法

各回講義でのリアクション・コメントが75％、期末レポートが25％。成績は各講義でのリアアクション・コメナントの比重が高いので、結果として出席重視となっている。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	清原　聖子

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
2016年アメリカ大統領選挙以降、「フェイクニュース」という言葉が世界的に広まり、ソーシャルメディア上でフェイクニュース（偽情報）の拡散が大きな問題となった。2024年のアメリカ大統領選挙では、新たに生成AIによる偽の選挙CMが問題になった。日本の選挙においてもSNSの利用が活発になり、政治的な偽情報の拡散による民主主義への影響がますます懸念されている。本ゼミナールを履修して、「フェイクニュース」の問題にどう対処していけば良いのか、検討する目を養ってもらいたい。
【到達目標】
到達目標は、3・4年次のゼミでの研究にも役立つように，資料を分析する力やプレゼンテーション能力を高めることである。

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　講義（アメリカにおけるフェイクニュースの問題）
第３回　教科書輪読①
第４回　教科書輪読②
第５回　教科書輪読③
第６回　教科書輪読④
第７回　教科書輪読⑤
第８回　教科書輪読⑥
第９回　教科書輪読⑦
第10回　教科書輪読⑧
第11回　教科書輪読⑨
第12回　教科書輪読⑩
第13回　ゲストスピーカー
第14回　まとめ
＊授業内容や順番には変更の可能性があります。

３．履修上の注意
無断欠席をしないこと。欠席する場合は、クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を用いて必ず連絡すること。この授業ではプレゼンテーションおよびディスカッションを重視しているため、積極的に授業に参加する必要がある。教科書、ノートPC又はタブレット端末を授業に各自持参すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
発表の担当にあたっていない回であっても、毎回教科書の指定された箇所を読んで発表者との質疑応答に積極的に臨むこと。日ごろから政治ニュースに関心を持ち，テレビや新聞，オンラインニュースなどで情報収集をすること。

５．教科書
清原聖子（編）『フェイクニュースに震撼する民主主義―日米韓の国際比較研究』（大学教育出版、2019年）
山口真一『炎上で世論はつくられる―民主主義を揺るがすメカニズム』（ちくま新書、2026年）

６．参考書
山口真一『ソーシャルメディア解体全書―フェイクニュース、ネット炎上、情報の偏り』（勁草書房、2022年）
藤代裕之（編著）『フェイクニュースの生態系』（青弓社、2021年）
田中辰雄、浜屋敏『ネットは社会を分断しない』（角川新書、2019年）
林香里『メディア不信―何が問われているのか』（岩波新書、2017年）
その他授業中に紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
適宜授業時間内にフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
平常点（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加貢献度）60%、期末レポート40%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	熊田　　聖

１．授業の概要・到達目標
このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになることです。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。

思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる
過去のテーマ例
・USJかディズニーランドか
・仕事はやりがいか給料か
・自転車は乗れるようになっておくべきか
・ファンデーションはカバー力かテクスチャーか

SHOW（A）：理科の実験を小学生に伝えるつもりで分かりやすく発表しよう。
SHOW（B）：質疑応答の形式で発表しよう。
SHOW（C）：自由に発表しよう。

なぜSHOWをするのか、なぜ理科実験の形式なのか、半期を通して考えてみましょう。

エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。
その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。

SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。

【到達目標】
自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。

２．授業内容
第１回　発表スケジュール決定、名札作成
第２回　ＳＨＯＷ（A）・思索トレーニング
第３回　ＳＨＯＷ（A）、思索トレーニング
第４回　ＳＨＯＷ（A）、思索トレーニング
第５回　思索トレーニングディベート
第６回　ＳＨＯＷ（B）、ディベートのテーマに関する感想提出、思索トレーニング
第７回　SHOW（B）、思索トレーニング
第８回　ＳＨＯＷ（B）、思索トレーニング
第９回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第10回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第11回　ＳＨＯＷ（C）、思索トレーニング
第12回　商品開発ゲーム
第13回　仕掛け学に基づくアクティビティ（１）
第14回　仕掛け学に基づくアクティビティ（２）

３．履修上の注意
このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。
使用する教科書の実践編がゼミです。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかった情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。
このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。

５．教科書
熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。

６．参考書
授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。

７．課題に対するフィードバックの方法
前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。
課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。

８．成績評価の方法
評価は、
１）レジュメと発表内容　30%
２）発表者へのアドバイス　30%
３）ディベートへの参加　20%
４）思索トレーニングへの参加　20%
以上４点で行います。

９．その他
男女比約１：１で楽しく仲良く活動しています。
教科書はゼミ費より支給します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	後藤　晶

1．授業の概要・到達目標

テーマ：

「実験社会科学入門：社会科学・行動科学のためのプログラミング」

授業の概要：

昨今では、心理学や神経科学のみならず、従来は実験という手法が用いられてこなかった経済学、会計学、政治学や社会学といった分野でも「実験」という手法が用いられている。ここでいう実験とは、実験室で実験参加者を対象に実施する実験室実験に限らず、広義な意味で現実の生活場面に実験を持ち込んだフィールド実験やコンピュータシミュレーション等も含まれている。「実験」を用いて社会における人間の行動の解明、さらに人間行動を踏まえた制度・政策設計を試みる「実験社会科学」という領域も確立されつつある。

本演習においては、様々な社会科学領域における「実験」の方法として、インターネットを使ったオンライン実験の手法について概要を学ぶ。

具体的には、Pythonの1ライブラリであるoTreeを用いて、「アンケート」と「経済ゲーム実験」をインターネット上で実施するためのプログラミングを学ぶ。同時に、ゲーム理論的な思考法についても涵養していくこととする。

また、ゼミの中では積極的に生成AIを用いてプログラミングを行う予定である。プログラミングの中で生成AIを用いることで、生成AIのメリット・デメリットなどについても実感してもらいたい。

なお、本演習ではプログラミング経験は問わない。過去にプログラミングを学んだことがない学生も臆せず参加してほしい。

到達目標：

1. 社会科学・行動科学領域における実験の意義について説明することができる。
2. Pythonによるプログラミングの基礎を理解できる。
3. ゲーム理論の基本的な考え方を理解できる。

2．授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　生成AIを用いたプログラミング環境の構築
第3回　プログラミングの基礎（1）：アンケートの作成
第4回　プログラミングの基礎（2）：公共財ゲーム実験の作成1
第5回　プログラミングの基礎（3）：公共財ゲーム実験の作成2
第6回　プログラミングの基礎（4）：さまざまな入力方式の検証
第7回　プログラミングの応用（1）：独裁者ゲームの作成
第8回　プログラミングの応用（2）：最終提案ゲームの作成
第9回　プログラミングの応用（3）：信頼ゲームの作成
第10回　実験計画の立案
第11回　実験設計（1）
第12回　実験設計（2）
第13回　実験設計（3）
第14回　発表・総括
※ただし、履修状況により変更することがある。

3．履修上の注意

・演習形式の授業であるために出席を重要視する。また、発表担当者になった場合は必ず発表資料（講義資料）を用意して出席すること。
・この授業ではPythonを用いたプログラミングを行う。授業でも紹介するが、自宅のPCにもPythonおよび適切なIDEをインストールすること。
・この科目ではBYOD（Bring Your Own Device）を前提とするため可能であればノートPCを持参すること。ただし、持っていない場合でも履修に大きな問題はない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

小課題の提出・発表の準備等が必要となる。

5．教科書

『oTreeではじめる社会科学実験入門- Pythonのインストールから実験の実施まで -』、後藤晶、コロナ社

6．参考書

必要に応じて紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

8．成績評価の方法

毎回の授業への参加状況30%、課題の評価40%、レポート30%
・毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。
・課題の評価：発表資料を評価する。
・レポート：学期末にレポートを課す。

9．その他

演習形式としているが、授業内ではグループワークを重視する。担当教員が開講する「問題発見テーマ演習A」と「問題発見テーマ演習B」は異なるテーマを中心とするために連続して受講することを勧める。しかし、必ずしも連続した受講を前提としない。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	小林　秀行

1．授業の概要・到達目標

本講義は「環境と災害」をテーマとします。すでに知られているように温暖化をはじめとしたいわゆる地球環境問題は、近い未来に起こる問題ではなく、今まさに影響があらわれ始めている問題であり、人類に共通する喫緊の課題として対策が進められています。とくに日本では地震や火山とともに台風のような風水害が多いことでも知られており、温暖化がもたらす台風の大型化や集中豪雨の増加は、われわれの生活を直接的な形で脅かすものでもあります。その一方で、こうした問題はスケールが大きく、複雑でもあるため、なかなか実感をもつことが難しいのも実際です。そのため、なんとなくは知っていながらも、具体的に何が起こっているのかまでは立ち入ってはこなかったという方が多いのではないでしょうか。本講義では、このような考えから「環境と災害」というテーマを据え、皆さん自身によるグループワークを通じて、問題に接近する機会としてほしいと考えています。この際、ぜひ大事にしてほしいことは「分かること」ではなく「戸惑うこと」です。ここでいう「分かること」とは「分かった気になること」と言い換えてもいいかもしれません。地球環境問題にせよ自然災害にせよ、複雑な問題は見る立場によってその姿を変えます。そのため、どれほど勉強したとしても、ただ一つの正解が見つかることは恐らくありません。こうした問題はむしろ、そうした違いを前提にしたうえで妥協点を探り、関係者間で共有できる答えを創りだしていく種の問題です。そうした現実に触れることは、社会なるものを研究する際の問題発見の1つの道筋になります。実際の講義では、前半に基礎的な内容を座学で学んだ後、グループに分かれてそれぞれに問いを立て、その問いへフィールドでの観察から接近していくことになります。問題発見テーマ演習AとBでは内容に大きな差異はありませんが、座学において環境問題を取り上げるのがA、自然災害を取り上げるのがBとなりますので、グループワークの方向性もそれによって変わるものと思います。ただし、担当教員からAでは環境、Bでは災害とグループワークのテーマを指定することはしませんので、各グループの意思によって決定してください。本講義の到達目標は「自然災害に関する基礎的知識の獲得」および「フィールド調査をもとにしたレポート作成能力の涵養」としています。なお、本講義は3年次に担当教員が開講する問題分析ゼミナールの入門編としての性格をもちます。もちろん、どのような学生の参加も受け入れることを前提にはしていますが、当ゼミへの入室を希望されている場合にはできるだけ問題発見テーマ演習AまたはBいずれかの受講をお願いいたします。

2．授業内容

第01回　イントロダクション／環境とは何か
第02回　地球環境問題のこれまで①
第03回　地球環境問題のこれまで②
第04回　地球環境問題のこれまで③
第05回　グループワーク①：問いの設定
第06回　グループワーク②：問いの設定
第07回　フィールドワーク①：予備調査
第08回　グループワーク③：予備調査の結果を検討
第09回　グループワーク④：予備調査の結果を検討
第10回　フィールドワーク②：本調査
第11回　フィールドワーク③：本調査
第12回　グループワーク⑤：報告書の作成
第13回　グループワーク⑥：報告書の作成
第14回　最終報告会
（担当教員の判断により、適宜変更することがあります。）

3．履修上の注意

○本講義は主としてゼミナール形式となり、講義外の時間での作業など、受講生の主体的な関わりなしには成立しません。こうした関わりが不十分な場合、履修の意思がないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。
○**本講義はディスカッションやフィールドワークを課しており、成績評価の対象としています。そのため、履修者間での対話を行うことや講義外での活動が必須となります。**履修の際には、このことを理解したうえで参加をしてください。
○配布物やリアクション・ペーパー等はoh-meijiを通して配布し、難しい場合のみ紙での配布を行います。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：専門書を読む、資料館を訪れるなど、積極的に問いを発見する努力をすること。
復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。

5．教科書

特になし。適宜資料を配布します。

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。

8．成績評価の方法

講義への主体的な参加（50%）、期末レポート（5,000字以上(図表ふくむ)）（50%）
期末レポートは**グループワークの一環であるフィールドワーク**が前提となります。
インターネットで記事や資料を調べたのみなどのレポートに対しては、単位認定を行いませんので注意してください。

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**島田　　剛**

１．授業の概要・到達目標

コーヒーやチョコレートはどんな人が生産し、どのようにして私たちの元に届くのでしょうか？そして生産者の人たちはどんな暮らしをして、何を考え、感じているのでしょうか？

グローバリゼーションが進み世界が一体化するとともに、国内でも世界でも経済格差が拡大しています。このゼミでは国内と途上国の貧困を同時に考えます。

このゼミではグループでのディスカッションとプレゼンテーションが中心です。コーヒー（あるいはチョコレート）を題材として取り上げ､国内外の貧困問題を皆で議論をします（数週間に1度は発表)。最終的にはグループでテーマを決めて、どのようにすれば貧困問題を解決できるのかについて発表を行います。

(到達目標）ゼミ生はコーヒーという財を通じて、世界経済と国際協力のあり方について理解を深め国際経済を見る視点を身につける

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　研究のノウハウの復習
第３回　コーヒーからみるグローバリゼーション
第４回　国内の貧困問題の現状分析 ①
第５回　国内の貧困問題の現状分析 ②
第６回　途上国の現状分析 ①
第７回　途上国の現状分析 ②
第８回　国内の貧困問題と途上国の貧困問題に共通するものは何か、違いは何か
第９回　街づくりを考える
第10回　国内外の格差と地方
第11回　グループ発表準備 ① データー収集・分析
第12回　グループ発表準備 ② 論点の確認
第13回　グループ発表 ①
第14回　グループ発表 ②
第15回　まとめ

３．履修上の注意

3-4年の島田ゼミのHPを見るとゼミの内容がイメージしやすくなるのでぜひ見ることをおすすめします。
・神保町コーヒープロジェクト（https://jimbocho-coffee.com/）

講師が別に開講しているミクロ経済学、マクロ経済学の授業を受講することが望ましい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

プレゼンテーションの準備が必要。

５．教科書

なし

６．参考書

島田剛（2025)「いまを読み解くマクロ経済学 ー 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社)
島田剛（2023)「ミクロ経済学への招待」(新世社)

７．課題に対するフィードバックの方法

ゼミにおける発表に対しコメントをすることによりフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

発表（60%)、ディスカッションへの貢献度（40%)
欠席・遅刻が多い場合は不可とします。欠席4回で以後の参加を認めません。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**清水　晶紀**

１．授業の概要・到達目標

【授業概要】お酒の法律学
20歳になる（なった）みなさんにとって一番劇的かつ身近な変化は、お酒が「解禁」になることでしょう。これは、法律が20歳未満の飲酒を禁止しているからです。実は、お酒をめぐっては、製造・流通・販売・消費・廃棄の各段階で、様々な法律が関係しています。そこで、本演習では、私たちに身近な「お酒」を素材に、法律学の基礎的な思考方法を身につけてもらいたいと考えています。
具体的には、「お酒」に関わる憲法・民法・刑法の各分野の裁判例を検討することによって、各法分野の特徴や発想を把握してもらうとともに、「お酒」の世界を通じて、法律学が私たちの社会生活の基礎を形成する身近な学問だということを実感してもらいたいと思っています。
これからの人生において、お酒を嗜む（予定の）みなさんは勿論、そうでないみなさんも、社会生活上の色々な場面でお酒の問題と接点を持つことになるでしょう。お酒の世界を通じて、法律学の世界を一緒に覗いてみませんか。
なお、下記【履修上の注意】にも必ず目を通すようにしてください。
【到達目標】
・法律学の全体像を大まかに把握できていること
・法的な発想に基づいて演習中の議論を行えていること
・基本的な法律用語を独力で使いこなせていること

２．授業内容

1．イントロダクション（自己紹介・演習の進め方）
2．図書館ガイダンス
3．報告・ディベートの作法
4．法学入門①〈刑法〉
5．ディベート準備①〈刑法〉
6．ディベート①〈刑法〉
7．映画視聴
8．法学入門②〈民法〉
9．ディベート準備②〈民法〉
10．ディベート②〈民法〉
11．施設見学
12．法学入門③〈憲法〉
13．ディベート準備③〈憲法〉
14．ディベート③〈憲法〉
※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。

３．履修上の注意

現在検討中ですが､現代社会の仕組みやその問題点の本質を「伝わる」形で発信できるようになることを目的として、NHKから番組ディレクターや映像デザイナーをお招きし、講義やワークショップを実施する可能性があります。その際には、上記授業内容の一部を変更する可能性があることをご承知おきください。
また、参加者のみなさんの希望によっては、施設見学（ビール工場、ウィスキー工場、酒蔵、ワイナリー等）の実施を検討します。その際には、演習時間外に実施する可能性があります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

報告・ディベート等の準備は、演習時間外に行うことになります。
また、担当教員としては、演習で企画する各種イベントへの参加も、広い意味で「学習」の一環と考えています。

５．教科書

特に指定しません。

６．参考書

適宜指示しますが､「お酒の法律学」に関わる入門書として､松井茂記・松宮孝明・曽野裕夫『はじめての法律学〔第7版〕』(有斐閣・2025)を挙げておきます。

７．課題に対するフィードバックの方法

ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。

８．成績評価の方法

演習は学生主体のクラスのため、出席は当然の前提です。その上で、演習での報告内容（50%)、議論への参加状況（30%)、レポート内容（20%）を総合的に評価します。

９．その他

「演習の主役」は学生であり、この演習を楽しくするのも、つまらなくするのも、みなさん次第です。「よく学び、よく議論し、よく遊ぶ」みなさんの履修を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**鈴木　　健**

１．授業の概要・到達目標

「問題発見テーマ演習Ａ：映画批評を学ぶ：メディア研究と現代思想」
鈴木　健 (tsuzuki@meiji.ac.jp)
■ 演習テーマ：映画批評の理論と実践
■ 到達目標：単なるおもしかった、つまらなかったという印象批評ではなく、批判的研究法論をあてはめて、どのような社会・歴史・文化的重要性があったのかを踏まえた独自の意見をメディア批評として提唱できるようになることを目指している。

２．授業内容

■ 授業内容：メディア研究の中でも、大学生に人気のある映画批評に関して学ぶ。物語論、イデオロギー批評、マルクス主義、構造主義、ポストモダニズム、フェミニズム等の批判的研究方法論と、メディア批評の実践を学ぶ。
第１週　イントロダクション
第２週　映画批評とは何か（教科書第１章）
第３章　なぜ映画批評をするのか（教科書第２章）
第４週　どのように映画批評をするのか（教科書第３章）
第５週　監督研究と映画批評（教科書第４章）
第６週　物語の展開パターン（教科書第５章）
第７週　ジャンル分析（教科書第６章）
第８週　物語批評の枠組みと神話分析（教科書第７・８章）
第９週　記号論と社会批評（教科書第９・10章）
第10週　精神分析批評（教科書第11章）
第11週　イデオロギー批評（教科書第12章）
第12週　ジェンダー批評（教科書第13章）
第13週　ポストモダン批評（教科書第14章）
第14週　学生プレゼンテーション

３．履修上の注意

４．準備学習（予習・復習等）の内容

■　学生へのアドバイス：　授業にはきちんと予習して望むことを必須条件とする。毎回、担当者によるプレゼンテーションと全員によるディカッションを行う。映画研究やメディア批評に興味のある学生の履修を希望する。
評価方法：１～２回のプレゼンテーションと毎回のクラスディスカッションへの貢献度（全体の60％）を加味して、成績評価をする。出席と予習を重視する。最後に、映画批評のレポートを提出してもらう（全体の40％）。

５．教科書

■教科書：鈴木健『現代思想を使って映画批評！』小鳥遊書房、2025年.

６．参考書

７．課題に対するフィードバックの方法

・毎週の授業では、発表担当者が教科書プラスアルファの事例研究や追加リサーチのプレゼンテーションを行う。履修生からのコメントを受けた上で、担当教員がフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

■評価方法：１～２回のプレゼンテーションと毎回のクラスディスカッションへの貢献度（全体の60％）を加味して、成績評価をする。出席と予習を重視する。最後に、６ページ程度の映画批評のレポートを提出してもらう（全体の40％）。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**鈴木　健人**

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】国際社会における対立と協調の両面から、国際関係論を学び、「問題分析ゼミナール」で自らの研究課題を設定し学習するための準備をする。国際政治における戦争と平和の問題に焦点をあて、国際社会のあり方についての思想に焦点を当てながら歴史を振り返る。
ゼミでは毎回、一人が設定されたテーマや教科書の割り当て部分について研究報告をしてもらい、問題点を全員で議論する。
【到達目標】３年次以降の専門性の高い授業に対応できるような能力を身に付ける。理論や歴史を駆使して現代の国際社会で起こっている様々な問題を理解できるようにする。

２．授業内容

第１回　導入と報告者の割り当て
第２回　国際関係の理論（１）現実主義
第３回　国際関係の理論（２）自由主義
第４回　国内政治と国際政治の関連
第５回　戦争違法化の歴史と発展
第６回　20世紀の戦争（１）第一次世界大戦
第７回　20世紀の戦争（２）第二次世界大戦
第８回　20世紀の戦争（３）冷戦
第９回　核兵器の誕生とその意味
第10回　民主的平和論の展開と問題点
第11回　新しい戦争か？テロと対テロ戦争
第12回　日米安保体制の諸問題
第13回　変わる日本外交
第14回　展望：21世紀の世界

３．履修上の注意

教科書をしっかり読み込むことが重要になるので、単に読書するだけではなく、内容を批判的に考察し、自分の意見をまとめられるようにすること。専門用語についても臆せず学ぶ意欲を持つこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

平素から国際問題に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットなどで広く知識を求めること

５．教科書

入江昭『二十世紀の戦争と平和』(増補版)(東京大学出版会(UP選書)、2000年)
小川・板橋他『国際政治史』(新版)(有斐閣、2024年)
その他、適宜資料を配付する。

６．参考書

無し

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行ったり、授業終了後にOh-oMeiji!で講評を連絡する。

８．成績評価の方法

発表の内容２０％、クラスでの参加度３０％、レポート５０％として全体的な評価をする。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	鈴木　雅博

１．授業の概要・到達目標

従来の研究では、まず研究者が対象に関わる概念を定義づけ、それを起点にデータを収集・分析し、一般化可能な知見を導き出す、といったことが試みられてきました。これは自然科学に範をとったものですが、社会（科）学が対象とする当事者たちは、研究者が外挿する定義とは関係なく、自分たちなりに何らかの概念を参照して日常生活を送っています。しかもそれは、参照されることもあれば、されないこともあり、そうでありながらも当のその人たちは意識するまでもなく十分にそれを使いこなしているという代物です。

例えば、「授業」について研究者が定義を与えたとしても、人びとはそれに従って「授業」をしているわけではないでしょう。むしろ「授業」はその場の人びとの具体的なやりとりのなかで、それとして達成されているのです。ある場面を考えてみましょう。教師が「今、授業中ですよ」と発言する時、私たちはそれを単なる事実の報告ではなく、不真面目な生徒への「注意」として聞いています。「生徒」には「授業を真面目に受ける」ことが、「教師」には「授業中に不真面目な生徒を注意する」という活動がそれぞれ規範的に結びついており、こうした概念間の結びつきが先の発言を「注意」として成り立たせています。

しかし、人びとはこうした規範を内面化し、それに従って生きているわけではありません。生徒のなかには教師の注意に対し、「は？うぜーんだよ、おっさん」と答える者もいるでしょう。確かにその教師は「おっさん」であり、そのこと自体は「正しい」のですが、おそらく教師は「そうです、私がおっさんです」とは応じないでしょう。彼が「教師である」ことを達成できるか否か、すなわち「教師／おっさん」のどちらがその場において有効な枠組みとなるかは、外から与えられる定義や制度ではなく、その場のやりとりにかかっているのです。

このような、その場のやりとりをそれとして理解可能なものとしている人びとの方法を明らかにする研究をエスノメソドロジーと呼びます。これは「今、授業中ですよ」といった教師の「注意」を数えたり、発言をめぐる教師や生徒の心理を聴きだすことで「授業」に関する何らかの仮説を生成／検証しようといったプログラムではありません。そうではなく、エスノメソドロジーは、私たちがその発言を「注意」として理解する／してしまうことをめぐる「授業／教師／生徒」といった概念間の布置やその達成を人びとの実践に即して明らかにすることを目指します。

本演習の到達目標は、エスノメソドロジーの基礎を理解することです。授業は文献の読解と討論によって進められます。人びとの実践を明らかにするとはいかなることなのか、一緒に学んでいきましょう。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　エスノメソドロジーとは何か①
第３回　エスノメソドロジーとは何か②
第４回　第１章　社会的相互行為・言語・社会
第５回　第３章　エスノメソドロジーと自己省察
第６回　第４章　家族生活と日常会話
第７回　第５章　公共の場所に出かける
第８回　第６章　助けてもらうためにトークを使う
第９回　第７章　教育を観察する
第10回　第８章　医者にかかる
第11回　第９章　組織のなかで働く
第12回　エスノメソドロジー論文講読①
第13回　エスノメソドロジー論文講読②
第14回　まとめ

３．履修上の注意

問題発見テーマ演習B（学校社会学入門）でもエスノメソドロジーに関連する文献を検討をするので、あわせて受講することをお勧めします。
欠席５回で評価対象外となります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。

５．教科書

特に指定しません。

６．参考書

『エスノメソドロジーへの招待』フランシス／ヘスター著、中河伸俊・岡田光弘・是永論・小宮友根訳、ナカニシヤ出版、2013。
『ワードマップ　エスノメソドロジー』前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編、新曜社、2007。
『相互行為分析という視点』西阪仰、金子書房、1997。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行います。

８．成績評価の方法

授業ごとの小課題の提出（40%）、レポーターとしての発表（60%）。

９．その他

ゼミで聞いたこと／言ったこと／言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	関口　裕昭

１．授業の概要・到達目標

「メルヘン研究」
グリム童話を中心にメルヘンを様々な角度から考察します。

まず、グリム童話「白雪姫」の原テクスト（最終版＝第7版、1857年版）を日本語訳(拙訳)で読み、それが初版(1812年版)から版を重ねるにつれてどのように書き換えられてきたのか、また変更された理由を考えます。また原テクストとさまざまな絵本との比較を通して、時代や対象年齢などに応じてどのように書き換えられているのか、またその理由も考えます。さらに「いばら姫」「ラプンツェル」、「灰かぶり（シンデレラ）」などのプリンセスものを、ディズニーをはじめとするさまざまな映画と比較検討し、時代に応じて道徳観や女性のイメージがどのように変化し、受容されたかを考察します。

次に「ヘンゼルとグレーテル」を題材にして、絵本の比較のみならず、その作品が日本でどのように読まれ、別の文学作品に書き換えられていったのかを多和田葉子や大友克洋らの改作をもとに考えます。

最後に、日本をはじめ世界各地のメルヘンと比較して、共通点と相違点を探ります。

テクストを精読し、モチーフの比較など、基礎的な文学テクストの解読方法を身につけます。また文学と映画、アニメなど様々なジャンルを比較考察する手法を学びます。

２．授業内容

第１回　イントロダクション――メルヘンとは何か？
第２回　グリム童話「白雪姫」の原典(第7版)精読
第３回　「白雪姫」の様々な絵本の比較
第４回　「白雪姫」の初版と最終版の比較
第５回　「白雪姫」の分析―類話、話型、モチーフ、アダプテーションなどの視点から
第６回　グループごとのミニ・プレゼンテーション
第７回　グリム童話におけるプリンセスものを読む①―「いばら姫」
第８回　グリム童話におけるプリンセスものを読む②―「ラプンツェル」
第９回　グリム童話におけるプリンセスものを読む③―「灰かぶり(シンデレラ)」
第10回　グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」精読
第11回　「ヘンゼルとグレーテル」のさまざまな絵本の比較
第12回　「ヘンゼルとグレーテル」の日本における受容
第13回　学期末プレゼンテーション①
第14回　学期末プレゼンテーション②＋まとめ
(以上はおおよそのスケジュールで、受講生の希望も聞きながら変更することがあります)

３．履修上の注意

・10回以上出席しないと単位は取得できません。
・授業中の飲食、スマホ利用を禁止します。大学の勉強ではノートの取り方も重要ですので、このゼミでは自分の手で要点をまとめていくことも学んでもらいます。プレゼンの際には1枚のレジュメ(紙媒体)を作って、参加者に配布することを求めます。したがって、授業の際もいつもスマホを覗き込む癖の抜けない人の受講は薦められません。

毎年思うのですが、大学での学習で一番重要なのは「積み重ね」であり、あるテーマを深く掘り下げることです。広い視野を持つことは大切ですが、だからといってむやみに広く浅く学ぶだけでは本当の学問は身につきません。このゼミナールは「問題発見」と名付けられているように、3年生、4年生の「問題分析ゼミ」「問題解決ゼミ」でさらに学習を深めていくための準備段階と私は位置づけています。もちろん強調しておかなければなりませんが、このゼミを履修したからと言って、3年生の本ゼミで私のゼミを選ぶ義務はまったくありません。履修した後に、興味が変わったり、ゼミの内容が思ったのとは違ったり、不満を感じることもありうるでしょう。しかし「ちょっと面白そうだから」「メルヘンってかっこよさそうだから」「ディズニー・プリンセスが好きだから」などという極めて安易な理由で(実際、このゼミはこの数年間そうした学生で満杯の状態です)、最初から2年生の前期限定で、「雑学」を身に着けることが目当で受講しようとしている学生はどうかご遠慮下さい。メルヘンのことは「外国文学」や「比較文化・比較文学」でも扱っておりますので、そちらを聴講して下さい。

大学での専門的な学問に入る前に、なるべく親しみやすいテーマを選び、多くの人に門戸を広げることは重要で、そうした意味からこのゼミでも「メルヘン」を扱っています。しかし私が皆さんに本当に伝えたいのは、そうした背後にある本物の文学の豊かな世界と奥深さであり、文学はこの複雑で理解不可能な現代の情報社会を生き抜くためにもきわめて有効な手段なのです。ところが、本当に伝えたい深い内容に移行する前に、その前座にある仮の像をほんの少しかじるだけで、ほとんどの学生が目の前から去ってしまうのは誠に残念な話ではありませんか！　こうしたことをご理解の上、履修するかどうかを決めてください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業開始までにグリム童話の文庫本を1冊以上購入し、10以上の話を読んでおいてください。最初の授業で確認します。この時点で読んでいない人には、それ以降の参加について検討させてもらいます。

５．教科書

随時プリントを配布し、パワーポイント資料を提示します。

６．参考書

各自、グリム童話を文庫で購入して、読んでおくこと。訳は特に指定しません。参考書は授業中に紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜指示します。

８．成績評価の方法

平常点50%（出席＋発言＋グループ発表）学期末のレポート（またはプレゼン）50%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	高橋　華生子

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

「ファストファッションが流行っている裏で、世界では何が起こっているのか？」私たちが着ている洋服の多くはどこでどのように作られているのか？

この数十年の間に、「グローバル化」と呼ばれる現象が伸張し、さまざまな経済活動が国境を超えておこなわれている。その結果、日本にいる私たちは世界中のものを簡単に手に入れられるようになっているが、そうした恩恵を受けられる人がいる一方で、取り残されて貧困に陥る人も増加している。近年、「格差」の問題が広く論じられているが、それが拡がっている理由を理解するには、どのような構造で貧困が生まれているのかを見つめる必要がある。

この授業では、とりわけ途上国と呼ばれる地域に焦点をあてて現代の開発課題を学び、貧困や格差の原因を検討していく。そのうえで、「先進国社会が果たすべき責任」と「わたしたち市民が担っている役割」という視座から、これからの国際開発と国際協力のあり方を捉えていくことを目標とする。本授業を通して、受講生は国際的な課題を知るだけでなく、解決に向けた施策－問題に対する具体的な取り組み－を考えてもらいたい。

【到達目標】

以下の3点に関する知見の習得を目標とする。

1. 理論－座学－と実践－現場－のつながりを理解すること
2. 見学者・傍観者になるのではなく、当事者意識をもって問題に向き合うこと
3. 自分の考えや意見を論理的にまとめ、分析・発信の力を磨くこと

2．授業内容

第１回　演習のガイダンス
第２回　「貧困」とは何か？
第３回　ジェンダーとボトムアップ・アプローチ①
第４回　ジェンダーとボトムアップ・アプローチ②
第５回　多国籍企業と開発①
第６回　多国籍企業と開発②
第７回　現地社会と支援のあり方（ガバナンス）①
第８回　現地社会と支援のあり方（ガバナンス）②
第９回　先進国の責務①
第10回　先進国の責務②
第11回　日本における国際開発協力を考える①
第12回　日本における国際開発協力を考える②
第13回　外部講師による特別授業
第14回　演習のまとめ

3．履修上の注意

以下の点を確認のうえ、慎重に受講を決めること。

＊真剣に学ぶ意欲のある学生を対象にしているため、かなりの予習・復習が受講の前提になること。
＊国際的なイシューに興味をもち、3年次以降に国際系のゼミを考えている学生を対象にしていること。
＊ディスカッションやグループワークといったゼミの形式に沿うものだが、個人で課題をおこなう演習の要素も含み、積極的な参加が条件であること。
＊このゼミの最終版のシラバスは、初回授業に紙で配布する。それを参照のこと。

出席率が著しく低い場合（3分の2を下回るなど）は、最終評価の対象から外すので注意すること。ただし、やむを得ない理由での欠席については、特別の措置を検討することもあるため、随時、担当教員にまで連絡・相談のこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

受講生は、毎回、指定された課題文献・資料を必ず確認し、要点や関心のある点を整理しておくこと。その予習を軸にして、授業内でグループでのディスカッションを進めてもらう。

5．教科書

各回のトピックに合わせた資料を提示する。

6．参考書

特になし。適宜、授業内で紹介・周知する。

7．課題に対するフィードバックの方法

教室内外での課題に対して、適宜、コメントやフィードバックを提供する。

8．成績評価の方法

30%　個人課題
70%　平常点（出席だけでなく、ディスカッションや発表への参加・貢献度などを重視）

9．その他

状況によっては題目や順番に変更が入る場合も考えられる。その際は、早急に変更を周知する。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	竹中　克久

1．授業の概要・到達目標

私たちは多様な価値観に基づく社会に生きています。
そこでは、「常識」と呼ばれるものが存在していますが、その根拠についてはあまり詳しく論じられることはありません。私たちは、恋愛や家族といった身近な社会から、階層や国家という大きな社会まで、ふだんの生活を送るなかで「当たり前」となったモノの見方にとらわれていることが少なくありません。
しかし、物事を常識的に考えるだけでは、社会で起こっている様々な問題――モンスターペアレント、格差問題、環境問題など――を解決することは不可能なことはもちろん、何が問題になっているのかを考えることすらできません。常識を疑い、自分なりの論理で説明し直すためには、まず自分なりの「モノの見方」を身につけることが重要です。
本ゼミナールでは、主として常識にとらわれない見方の一つとして社会学的な「モノの見方」を学びます。
ゼミナールでは、教科書に沿って、ディスカッションを行っていきます。また、その際、各章の担当者はグループ・ディスカッションを行うテーマを設定することが求められます。
3年次以降の卒業論文作成のためのテーマを見つけることを到達目標とします。

2．授業内容

第１回　aのみ：イントロダクション――社会学とは何か
第２回　社会学とはどいういう学問かー個人と社会
第３回　日常生活と社会ー相互行為の社会学
第４回　社会の時間と個人の時間ー時間の社会学
第５回　ファッションがつなぐ社会と私ー身体の社会学
第６回　現代的な生きづらさーマイノリティの社会学
第７回　性／性別の「あたりまえ」を問い直すージェンダーとセクシュアリティの社会学
第８回　社会のなかの医療ー健康と病の社会学
第９回　マンガが生み出す読者たちの共同体ーメディア受容の社会学
第10回　観光現象から考える「社会」と「私たち」のすがたー観光の社会学
第11回　日常の中の非日常ー消費の社会学
第12回　秩序が束縛かー組織の社会学
第13回　現代社会の諸問題Ⅰ
第14回　現代社会の諸問題Ⅱ
※シラバスは変更になることもある。

3．履修上の注意

事前準備ならびにディスカッションへ積極的な取り組みが必要となる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

必ず事前に教科書を熟読し、与えられた課題について自らの考えを用意して臨むこと。
※教科書は一括で購入するため、事前に購入する必要はない。

5．教科書

『社会学（3STEPシリーズ）』油井清光，白鳥義彦，梅村麦生 編、(昭和堂)
※教科書は一括で購入するため、事前に購入する必要はない。

6．参考書

特に使用する予定はない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回のディスカッションのプロセスおよび結果についてグループごとにフィードバックを行い、全体で共有する。

8．成績評価の方法

平常点50%、ディスカッション25%、レポート25%

9．その他

質問等は基本的にゼミ中に受け付けるが、急な場合は
takenakakatsuhisa[@]hotmail.com（[ ]を外してください）に氏名を件名に入れて連絡すること。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	田村　　理

１．授業の概要・到達目標

2012年7月1日、東京の大学生が横浜市の小学校のサイトに脅迫文を書き込んだとして逮捕されましたが、後に大学生のパソコンを遠隔操作した別人の仕業だったことが判明します。2019年1月9日、愛媛県松山市の大学生が全く身に覚えのない窃盗を疑われて誤認逮捕されました。みなさんと同じように普通の大学生活を楽しんでいたはずの人に突然ふりかかった災難です。

この2つの事件がどのように起こってしまったのかを丁寧に調べ、その原因を理解し、解決策を考えてみましょう。日本国憲法はひとつの解決策を示しています。警察のような行政組織には、治安の維持など国民の利益を実現するために強い権限が与えられていますが、国会の定める法律に従わなければならないという強い縛りもかせられています。憲法31条以下には多くの条項を割いて治安維持のためでもしてはいけないことをリストアップしています。強い権力の行使とそれへの規制、相反する要請に同時にこたえるための「葛藤」が必ず生まれます。犯人逮捕のためなら警察は何をしてもいいなら、憲法は不要です。

では、日本の警察・行政の実際はどうでしょうか。私達国民の意識はどうでしょうか。「葛藤」がなければどんな問題をかかえるのか、適切な「葛藤」を生み出し、維持するには、警察・検察、マスコミ、私たち市民が何をする必要があるのかを考えます。

マルかバツか白か黒かで線引きせず、相反する要請の間で「葛藤」することが社会と国家にとって重要であることを理解することを授業の到達目標とします。

２．授業内容

第１回：ゼミの目的と方法：ガイダンス
第２回：日本国憲法の「世界観」
第３回～第８回：2つの大学生の事件を徹底的に調べる
第９回：警察・検察の現実①
第10回：警察・検察の現実②
第11回：マスコミはどうあるべきか①
第12回：マスコミはどうあるべきか②
第13回：各自の課題に関する報告
第14回：まとめ

３．履修上の注意

出席して、言われたことをやっているだけの参加者には単位を出しません。

ゼミ時間外にも時間を割いて、自分がこれまで蓄えてきたものとはちがう新しい知識と価値観を学び、それを使って行う新しい思考と主張の方法を身につけるために積極的に取り組む意思をもって受講してください。

また、ゼミは共通のテーマを皆で分担して調べ、議論して理解を深める場所ですので、明確な理由もなく、事前の報告もなく遅刻・欠席されると仕事の分担を任せることができません。したがって、遅刻・欠席は減点します。また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。

どうしても避けがたい理由で欠席しなければならない時は事前に事情を説明し、ゼミ全体の了解をとってください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

○予習
毎回次の会までに取り組んでもらう課題を支持します。
○復習
授業中の議論で解決できなかった問題については持ち帰って調べ、文章で報告をしてもらいます。

５．教科書

６．参考書

原田宏二『警察捜査の正体』（講談社新書・2016年）

７．課題に対するフィードバックの方法

課題は必ずゼミの時間中に全員で共有し、それに対するフィードバックも原則として授業中に行って参加者全員で共有することにします。

授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各ゼミ生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法

以下の配点で成績評価をします。
○ゼミ中の報告・発言・質疑・応答：５０点
○学期末提出のレポート：５０点

レポートのテーマについては「私たちの社会にとって必要な葛藤について」を大テーマに、具体的な題材を各自で選び、まとめてもらいます。詳細については参加者のみなさんと相談しながら決めていきます。
※正当な理由を事前に知らせないままの遅刻・欠席は減点します。
また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	内藤　まりこ

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

小説や映画、演劇、漫画やアニメ、絵画等、私達の周囲にはさまざまな表象作品が生み出され、流通しています。しかしながら、日常の作品鑑賞の場においては、そうした表象作品が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っていることや、表象作品が社会の構造や規範にさまざまな形で影響を与えていることはあまり意識されません。

そこで、本ゼミナールでは受講生が「批評理論」と呼ばれる、表象作品を読み解くための理論を学ぶことで、日常的な鑑賞では捉えきれない作品の構造の捉え方や解釈の仕方を体得するだけではなく、作品と社会との関係を捉えるいくつかの視点を獲得します。

また、本ゼミナールでは、レポートや論文の書き方も学習します。まず、受講生は「レポート」や「論文」と呼び称される論述文は、〈あるテーマに対して自ら論点（問い）を作り、その問いに対する仮説（答え）を立てて、その仮説の妥当性を論理的に証明する〉文章であることを学びます。次に、論述文の構成要素や論証のために必要となるアウトラインの組み立て方を学習します。最後に、他のゼミ生とのアウトラインの相互批評を通じて、説得力のある議論が展開できるまでアウトラインを修正し、レポートを書き上げます。

【授業の到達目標】

本ゼミナールの到達目標は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、受講生がさまざまな作品を解釈できるようになり、自らの解釈を学期末レポートや論文という文章の形で説得的に論証できるようになることです。

２．授業内容

第１回：オリエンテーション
第２回：批評理論の学習１：批評理論とは何か
　　論述文の書き方の学習１：論文の構成要素
第３回：作品鑑賞１：映画『ゆれる』（西川美和, 2006年）
　　批評理論の学習２：フェルディナン・ド・ソシュール「差異の体系」
第４回：作品鑑賞２：映画『ゆれる』（西川美和, 2006年）
　　批評理論の学習３：ジャック・デリダ「脱構築」
第５回：作品鑑賞３：映画『ゆれる』（西川美和, 2006年）
　　論述文の書き方の学習２：アウトラインの作成
第６回：批評理論の学習４：ジェラール・ジュネット「語りの構造」
第７回：批評理論の学習５：ジュディス・バトラー「ジェンダー・クイア批評」
第８回：批評理論の学習６：ガヤトリ・スピヴァク「ポスト・コロニアル批評」
第９回：論述文の書き方の学習３：文献調査方法・引用方法の学習
第10回：学期末レポート構想発表１
第11回：学期末レポート構想発表２
第12回：学期末レポート構想発表３
第13回：論述文の書き方の学習４：パラグラフ・ライティングの学習
第14回：論述文の書き方の学習５：わかりやすい文章の書き方の学習

３．履修上の注意

・事前の知識は不要である。
・グループに分かれて課題に取り組む場合がある。
・欠席をした場合は、次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し、授業プリントをダウンロードしておくこと。
・多くの課題が設定されるので、授業外で相当の時間と労力をかける必要がある”タイパ”の悪い授業である。こうした負荷の高い授業であるが、課題に取り組むことを厭わず、真剣に取り組んでいた過去の受講生は著しい成長を遂げていた。物事に対する新たな見方を獲得できるようになるため、また、論理的な思考を組み立て、説得力あるレポートや論文を書けるようになるために相当の努力を継続する意思のある学生にのみ受講をすすめる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

・毎週、宿題が課される。宿題の内容は、リアクション・ペーパーの回答、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解等である。

５．教科書

・指定しない。
・毎週、授業プリントを配布する。

６．参考書

・遠藤英樹『現代文化論ー社会理論で読み解くポップカルチャー』(ミネルヴァ書房、2011年)
・テリー・イーグルトン『文学とは何か―現代批評理論への招待』(岩波書店、1997年)
・大橋洋一『新文学入門―T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』(岩波セミナーブックス、1995年)
・筒井康隆『文学部唯野教授』(岩波書店、2000年)
・橋本陽介『ナラトロジー入門―プロップからジュネットまでの物語論』(水声社、2014年)
・石原千秋・小森陽一他『読むための理論』(世織書房、1998年)

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパー、メール、個別面談

８．成績評価の方法

・課題（リアクション・ペーパー、発表等）　50%
・学期末レポート50%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	中川　雄大

１．授業の概要・到達目標
大学では自らの関心にしたがって、「ある主張を提示し、その主張が正しいことを論証する」力を身に着けなければならない。このような知的生産という実践は学術界において論文等を通じてなされるが、それ以外の社会においても必要なスキルである。この能力を育成するためには、自らが社会の一員であることを認識した上で、自身の問題関心を深く掘り下げつつ、適切に文献を読み解き、調査を実施したうえで、それらを解釈し、相手に理解できるように表現しなければならない。本授業では、コンビニ、モール、サウナといった現代都市の複製的な消費環境＝「無印都市」を対象に、文献購読、フィールドワーク、レポート執筆等の活動を通じて、これらのテクニックとルールを身につける。
なかでも、本演習では「都市の現在、消費のリアリティ」をテーマに社会学の観点から文献購読・レポートの執筆を行う。都市はグローバル化や情報化を通じてマクロに均質化（ジェネリック化）し、どこにでもある「非-場所」を増殖させている。だが、同時にそこは人々にとっての生活の場でもあり、人々は記号化された空間のなかで独自の身体技法（身散じ）を駆使し、日常的な生活を継続している。
この授業では、一見すると没個性的な「無印都市」の変容のなかで、新たに生じている現象や人々の振る舞いに着目しながら、そこにどのような社会的な力が働き、どのような欲望が潜んでいるのかを検討する。具体的には『無印都市の社会学2』の読解とグループによるフィールドワークを実施することで、地域の微細な変容を捉える視点を育む。最終的には、受講生一人ひとりが本書のフォーマットに基づき、「無印都市の社会学に付け加えるべき新しい一章」を個人で執筆することを予定している。この作業を通じて、受講者にはもっとも身近で凡庸な社会である「無印都市」を、単なる消費の場としてではなく、社会学的な問いの宝庫として批判的に考える力を身に着けてほしい。
1.「ジェネリック／ノンジェネリック」「非-場所」といった都市社会学の基本概念を用い、身近な都市空間を社会学的な視点から考察できる基礎学力を形成する。
2. 社会学の新書を中心とした学術的な文章のロジック（情報の収集・処理・展開）を的確に読解する力を養う。
3. レポート作成を通じて、自身の観察と客観的データを融合させ、説得力のある「新章」を執筆できるようになる

２．授業内容
第１回：ガイダンス：都市の「無印」とは何か
第２回：フィールドワークの理論：今和次郎の考現学とシカゴ学派の都市調査
第３回：消費空間を読み解く（1）
第４回：消費空間を読み解く（2）
第５回：趣味とエンタメの空間
第６回：身体とイベントの空間
第７回：フィールドワーク計画：問いの立て方 グループ分け　各自が調査したい「無印空間」を選定
第８回：情報の生産と先行研究の探し方 CiNiiや新聞記事データベースの活用法
第９回：フィールドワーク実施（学外演習）各自（または班ごと）に現場へ出向き、観察・記録を実施
第10回：中間報告：まち歩きの報告
第11回：分析と考察の深化
第12回：レポート執筆ワークショップ
第13回：最終プレゼンテーション（1）
第14回：最終プレゼンテーション（2）
授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。

３．履修上の注意
1）参考書に挙げている文献の購入を求める場合があります。また、都内における調査の交通費が必要です。
2）毎回必ず、PCまたはタブレットを持参するようにしてください。
3）出席の「回数」そのものは成績評価の対象ではありませんが、10回以上の出席が必要です。つまり、5回欠席した時点でアウトということです。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
文献輪読やプレゼンテーションの準備、フィールドワークの実施。

５．教科書
近森高明・工藤保則編（2025）『無印都市の社会学2』法律文化社

６．参考書
近森高明・工藤保則編（2013）『無印都市の社会学』法律文化社
吉見俊哉，2020，『東京裏返し』（集英社）
吉見俊哉，2024，『東京裏返し 都心・再開発編』（集英社）
阿部幸大，2024，『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』（光文社）
トーマス・S・マラニー；クリストファー・レア，2023，『リサーチのはじめかた』（筑摩書房）
上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』（筑摩書房）

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中にコメントやアドバイスをする。

８．成績評価の方法
平常点60%、レポート40%

９．その他
課題やワークが多い授業のため、モチベーションの高い学生の履修を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	中里　裕美

１．授業の概要・到達目標
本ゼミナールでは、近年、地域社会で生じる諸問題を解決する担い手として期待される非営利組織、いわゆる「NPO」をテーマとします。受講生には、NPOの定義や規模、法・税制度などNPOを巡る現状にかんする基礎知識を習得してもらい、そのうえでその事業運営の実態や課題を探るとともに、その発展の方向性について考察してもらうことをねらいとします。
本ゼミナールは、以下のスケジュールで進める予定です。
まず、テキストを輪読し、NPOの定義とそれが注目されるようになった経緯などNPOの基礎的な事柄について学びます。またその過程で、具体的なNPOの事例を随時紹介するので、それらを参考にしながら各自が関心のある／研究してみたい分野のNPO（福祉、環境、教育、まちづくり、文化・スポーツなど）を決めてもらいます。そして、NPOのマネジメントにかんする知識を深めてもらうとともに、受講生は関心領域別のグループに分かれて、当該分野のNPOの実態や課題、その発展の方向性について、文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を通して検討し、授業内にてその報告と議論を行ってもらいます。また、その成果を「最終レポート」としてまとめてもらいます。

２．授業内容
第１回　イントロダクション（文献担当決め等）
第２回　NPOとは何か（テキスト第1章）
第３回　非営利組織の活動から（テキスト第2章）
第４回　社会の中のNPO（テキスト第3章）
第５回　NPOのマネジメント・過去から未来へ（テキスト第４・５章）
第６回　調査NPOの分野決め、調査計画の立て方、論文検索のしかた
第７回　先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（1）
第８回　先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（2）
第９回　先行研究の整理、調査設計とインタビュー調査の実施（3）
第10回　中間報告会
第11回　調査データの分析とまとめ（1）
第12回　調査データの分析とまとめ（2）
第13回　成果報告会（1）
第14回　成果報告会（2）
履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。

３．履修上の注意
ゼミ形式のため、出席や平常点を重視します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習として、テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。

５．教科書
『はじめてのNPO論：一緒に役割を考えよう』、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子著（有斐閣）2017年
※初回の授業にて教科書を配布する予定のため、個人で事前に購入しないようにして下さい。

６．参考書
『テキストブックNPO：非営利組織の制度・活動・マネジメント［第3版］』、雨森孝悦著（東洋経済新報社）2020年
『新・社会調査へのアプローチ―論理と方法』大谷信介・木下栄二・後藤範章他編著（ミネルヴァ書房）2013年

７．課題に対するフィードバックの方法
各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。

８．成績評価の方法
平常点50%、最終レポート50%

９．その他
本ゼミナールでは、受講生にグループ単位でNPOにかんする文献調査やオンラインを活用したインタビュー調査を行ってもらう予定です。そのため、他の受講生と協働しつつ社会調査に積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。このようなゼミでの活動を通して、NPOに関する知識の習得はもちろんのこと、社会調査の手法、コミュニケーション能力、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションスキルの向上を目指しましょう。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	日置　貴之

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
表象芸術とファッションについて考える。
ファッションはそれ自体が一種の表現であり、芸術と言えるが、同時にしばしば文学、演劇、映画、絵画といった他の芸術の中で重要な意味を持つ存在として描かれてきた。髪型や服装、装飾品は、その持ち主の属性（年齢、階層、ジェンダー、出身・居住地etc.）や思想、心境と結びつく。特に近代化によって人々の服装が大きく変化した近代の日本においては、和服を着るか洋服を着るかは少なくともある時代まではその人物の地位や職業、生活環境等を表す重要な要素であった。そして、演劇や映画の舞台衣裳を想像すればわかるが、さまざまな芸術作品の中では、衣服や装飾品のそうした側面が、登場人物を描写するために巧みに用いられてきた。
この授業では主に日本の明治期から2020年代までのファッションがどのようにさまざまな芸術作品の中で、どのように描かれ、どのような意味を担わされてきたかを考える。はじめにいくつかの作品について教員からのレクチャーおよびディスカッションをおこない、その後、受講者それぞれが任意の作品を取り上げて報告をおこなう。
【到達目標】
芸術作品について、それが生み出された時代・社会等の背景を含むさまざまな観点から分析をおこない、自らの考えを適切な言葉を用いて他者に伝えることができるようになる。

2．授業内容
第1回　イントロダクション
第2回　歌舞伎の衣裳と「散切物」
第3回　近代小説とファッション
第4回　百貨店とファッション
第5回　日本映画の衣裳（1）
第6回　日本映画の衣裳（2）
第7回　バブル経済前後のファッションと文化
第8回　受講者による発表（1）
第9回　受講者による発表（2）
第10回　受講者による発表（3）
第11回　受講者による発表（4）
第12回　受講者による発表（5）
第13回　受講者による発表（6）
第14回　まとめ

3．履修上の注意
・授業におけるディスカッションには積極的に臨むこと。
・各回の授業後にクラスウェブ上でコメント・質問等を提出すること。
・発表形式（個人、グループの別など）は履修者数に応じて決定する。必ず1回の発表をおこなうこと。
・授業に参加する際の服装は、特にファッショナブルである必要はありません。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
・各回の授業で取り上げる文献などを必ず事前に読んだ上で、疑問点の確認等をおこなうこと。
・授業中の指示や他の受講者との相談にもとづいて、授業時間外に文献の調査やフィールドワーク等をおこなってもらう。

5．教科書
特に指定しない。

6．参考書
刑部芳則『洋服・散髪・脱刀　服制の明治維新』講談社選書メチエ、2010年
平芳裕子『日本ファッションの一五〇年　明治から現代まで』
和田博文『三越 誕生！ 帝国のデパートと近代化の夢』筑摩選書、2020年
この他，必要に応じて指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
各回授業後に提出された質問・コメントについては必要に応じて次の回の授業時、またはクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。

8．成績評価の方法
授業におけるディスカッション等への参加・貢献度（50%）、発表（50%）。

9．その他
心身の条件等により受講に際して特別の配慮を希望する場合には、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへご連絡いただければ、授業準備の段階から各自の事情に応じた対応を検討することが可能です。
なお、教員が作成する授業資料には原則としてUDフォントを使用し（既刊書籍からのコピー等は除く）、PDFファイルの形式で事前にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	蛭川　　立

1．授業の概要・到達目標
問題発見テーマ演習Aでは、人類学と意識科学の基礎を学ぶ。拙著『彼岸の時間ー〈意識〉の人類学ー』を輪読しながらディスカッションを行う。具体的な内容については「授業内容」に各章の題名を列挙しているので、参照のこと。

人類学的研究においては古い調査資料のほうが価値があるとはいえ、二十年以上前に書かれた本なので、近年の研究の進展によって改められるべき部分については補いながら進めたい。

2．授業内容
第1回：全体の展望
第2回：「他界への旅：アマゾンのシャーマニズムと臨死体験」
第3回：「象徴としての世界：バリ島民の儀礼と世界観」
第4回：「穢れた女の聖なる力：インド世界とタントリズムの思考」
第5回：「巫女という対抗文化：沖縄の民間信仰をめぐる権力構造」
第6回：「ルサンチマンと権力：タイの仏教とシャーマニズム」
第7回：「〈自我〉という虚構：インド・チベットの瞑想哲学」
第8回：「転生するのは誰か：『霊魂の死後存続』をめぐる論争」
第9回：「非局所的な宇宙：旧ソ連圏における認識論的政治学」
第10回：「理性と逸脱：ミクロネシアのドラッグカルチャー」
第11回：「聖なる狂気：沖縄シャーマンの巫病は『精神病』か？」
第12回：「原始の復権：色好み日本人とネオ・シャーマニズム」
第13回：「労働・貨幣・欲望：グローバル化する資本主義と〈南〉の社会」
第14回：「回帰でも超越でもなく：アマゾン的未来の可能性・日本的未来の可能性」

3．履修上の注意
発表担当以外の授業でも積極的にディスカッションに参加すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
教科書に書かれていることだけでなく、随時、関連する知識を学ぶことが望ましい。

5．教科書
蛭川立（2002）.『彼岸の時間―〈意識〉の人類学―』春秋社.（新装版は2009年）

6．参考書
特に指定しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
演習形式の授業なので、授業中のディスカッションの中でフィードバックを行う。また、授業に連動したWEBサイトでも授業内容についてのコメントを随時更新していく。

8．成績評価の方法
演習に出席して発表しディスカッションを行うこと（100%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	堀口　悦子

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】　本ゼミナールでは、４学年を通じて共通の目標をを立てている。それが、「日本のエンタメにジェンダー視点を！」である。エンタメの現場には、「セクハラ」などの性暴力が起こりやすい環境がある。まずは「セクハラ」を知ることである。世界的に日本だけは、「＃Me Too」運動があまり盛り上がらなかった。しかし、2022年3月から、芸能界でのセクハラが日本でも明らかにされるようになった。『その名を暴け』という本を教科書に、調査報道から「セクハラ」問題を考えてみよう。この内容でのゼミを行いたかったが、教科書が品切れで手に入りにくい。版元の新潮社に聞いてみたが、重版の予定はないとのことであるが、これが現在の出版不況の原因なのかもしれない。多くの人が関心を持つ本を提供しないのだから。そのため、急遽、テーマを、ジェンダーに基づく女性に対する暴力の、DVとデートDVに変更する。上間陽子『裸足で逃げる』ちくま文庫　２０２６年を教科書とする。沖縄の低年齢での結婚・離婚、それによる若年女性の貧困等、あんぜか、高校中退では学歴は中卒である。どのような仕事について、子どもを育てて行くのか。日本の中で忘れ去られている沖縄のことも学ぶ。「日本人ファースト」に」沖縄の人は含まれているのだろうか。２０２５年に、映画では、「国宝」は大ヒットしたが、沖縄が舞台だった「宝島」はヒットしなかった。その理由を考えてみよう。沖縄の基地問題、日米安保条約、日米地位協定、そして、「アメラジアン」の存在を知ろう。米軍男性と沖縄女性との間に生まれた子どもである。たとえ、親が法的に国際結婚をしても、１９８４年までは、「無国籍」児だった。その理由を知ろう。日本法律の中の「家父長制」を知ることになる。
【到達目標】　到達目標は、テキストを読むことで、リーガル・リテラシー（法識字）を身に付けることであり、ジェンダーを含めた、多様な、生き方や考え方を知ることである。また、実践として、調査や外部でのワークショップなどを行い、積極的にプレゼンテーションができるようにすることである。随時、感想文など、書く力をつける課題も用意しているので、提出物は忘れないこと。
【合宿】　夏休みに、明治大学山中セミナーハウス（山中湖）で、２泊３日で合宿を行う。この合宿は、2泊3日で7千円プラスベーベキュー代2千５百円、その他交通費(新宿から山中湖までの高速バス代が5千円)である。費用は予定である。合宿は、必修であり、夏休み中の短期留学などのやむを得ない事情がある場合以外は、必ず参加すること。ただし、合宿は新型コロナの影響で変更があり得る。
【外部活動】　オンライン等で、随時参加予定である。
　以上のようなワークショップにより、ゼミ活動を外部に発信する。国立女性教育会館は、国の施設であり、アーカイブなど、ジェンダー研究に必要な資料がそろっているので、ぜひ、活用してほしい。東京ウィメンズプラザは、都内にあり、行政関係の資料などがそろっているので、こちらもぜひ、活用してほしい。
*全体的に、新型コロナの状況により変更がある。
【要望】　学ぶことは、効率の悪いことである。学問に王道なし。ショートカットでよいのだろうか。無駄だと思っても、いろいろなことに挑戦してほしい。積極的で、やる気がある学生を求める。たとえ、積極的でなくても、やる気がなくても、本ゼミに入れば、心持ちに変化が生じることを願う。

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　『裸足で逃げる』の報告と討論(1)
第３回　『裸足で逃げる』の報告と討論(2)
第４回　『裸足で逃げる』の報告と討論(3)
第５回　『裸足で逃げる』の報告と討論(4)
第６回　『肌比で逃げる』の報告と討論(5)
第７回　『裸足で逃げる』の報告と討論(6)
第８回　『裸足で逃げる』の報告と討論(7)
第９回　『裸足で逃げる』の報告と討論(8)
第10回　『裸足で逃げる』の報告と討論(9)
第11回　『裸足で逃げる』の報告と討論(10)
第12回　沖縄問題の事後学習(1)
第13回　沖縄問題の事後学習(2)
第14回　まとめ
『その名を暴け』を原作にした映画を鑑賞する予定である。
予定は、変更する可能性もある。

３．履修上の注意
毎日の生活を、好奇心を持って生活してほしい。ニュースに関心を持とう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
太宰治『人間失格』を読んでおいてください。

５．教科書
『その名を暴け　#Me Tooに火をつけたジャーｂなリストたちの闘い』　ジョディ・カンター、ミーガン・トゥーイー、古屋美登里訳、新潮社
この書籍が映画化された「シーセッド　その名を暴け」も観てほしいので、ゼミの時間内に鑑賞予定。
教科書は変更
『裸足で逃げる』上間陽子　ちくま文庫　２０２６年

６．参考書
『海をあげる』　上間陽子　筑摩書房
『私たちは言葉が必要だ―フェミニストは黙らない』イ・ミンギョン　タバ・ブックス

７．課題に対するフィードバックの方法
　できるだけ毎回のゼミで、課題へのフィードバックを行う。最終回のゼミで、全体の課題へのフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
毎回のゼミへの参加姿勢80%、課外活動等への参加０%、提出物20%
いろいろな活動に参加参画してほしい。

９．その他
小説を読んだり、学割の使える映画や美術展などを、貪欲に観に行ったり、してほしい。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	増野　亜子

１．授業の概要・到達目標
[概要]この授業の年間を通したテーマは「音楽・人・社会」です。この授業では音楽を演奏したり、聞いて楽しんだりするだけでなく、音楽が人間にとってどのような意味をもっているのか、社会の中で音楽はどのような役割を果たしているのかという問いについて考察します。そもそも人間は太古の昔から歌を歌い、石や骨で楽器を作り、音や音楽によって他者とコミュニケーションしてきました。テクノロジーが発達した現在でも、音楽は人々の社会や生活の中で重要な役割を担っています。歴史を通して音楽は単なる娯楽ではなく、人々の労働や祈りとともにあり、また政治や社会制度や歴史と密に連動する文化の一部なのです。
　授業では単純に音楽をエンターテインメントとして楽しむだけでなく、音楽の構造や社会的背景を考察の対象とします。また世代や地域の異なる人々、あるいは異文化の社会における多様な音楽のありかたを知ることを通して、人間と社会について理解することを目指します。人と音楽のかかわりのあり方について、楽器演奏、文献や情報のリサーチ、他の履修生とのディスカッションやプレゼンテーション、インタビューなど様々な方法を試みながら、音楽について学びましょう。
　前期のテーマは「私の音楽、あなたの音楽」です。(1)音楽作品の特徴を言語化して他の履修生に伝える個人プレゼンテーション、(2)異文化の音楽を体験的に知るワークショップ、(3)子供時代の歌の記憶に関するインタビュー調査とそれに基づくグループ発表を予定しています。
[目標]授業の目標は以下の3点です。
①音楽に関する従来の自身の考え方や音の聞き方を更新し、より広い視点（あるいは「聴点」）を身につける
②音楽を通して、自分と異なる価値観や習慣を持つ他者や他文化について理解する
③音楽について言語化し、また学術的に調査考察する基本的方法を学ぶ

２．授業内容
(1) イントロダクション、音楽について語ろう
(2)「私の音楽」について説明する①　個人によるミニプレゼンテーション
(3)「私の音楽」について説明する②　個人によるミニプレゼンテーション
(4)「私の音楽」について説明する③　個人によるミニプレゼンテーション
(5)「私の音楽」について説明する④　個人によるミニプレゼンテーション
(6) 異文化音楽ワークショップ　インドネシア・バリのリズム体験（楽器合奏）①太鼓
(7) 異文化音楽ワークショップ　インドネシア・バリのリズム体験（楽器合奏）②インターロッキング
(8) 異文化音楽ワークショップ　インドネシア・バリのリズム体験（楽器合奏）③合奏
(9) 異文化音楽ワークショップ（世界の音楽文化紹介）
(10)「あなたの音楽」を考える① 講義
(11)「あなたの音楽」インタビュー調査の準備と練習
(12)「あなたの音楽」リサーチ結果発表（グループ発表）①
(13)「あなたの音楽」リサーチ結果発表（グループ発表）②
(14)「あなたの音楽」リサーチ結果発表（グループ発表）③　講評

３．履修上の注意
(1) 音楽に関する授業ですが、五線譜の読譜能力や楽器の演奏経験の有無や能力は問いません。ただし授業では声を出したり、手を叩いたり、楽器を演奏するといった実践的なワークショップも行いますので、主体的に参加してください。
(2) この授業は基本的に学生自身が考察・調査・発表し、互いに議論したりコメントしたりすることを重視します。ディスカッション、研究発表、簡単なインタビュー調査などを行います。
(3) 授業の構成や順番は一部変更になることがあります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業回によって研究発表の準備やミニ調査など、準備が必要な課題があります。①資料検索、②動画の事前視聴、③プレゼンテーションの準備、④周囲の友人や家族に対する簡単なインタビュー、⑤リサーチ結果のまとめなどです。履修生が順番に発表を行うため、これらの準備が特に必要な回とそうではない回があることが考えられますが、授業回数で平均すると各回1時間程度の授業時間外学習が必要です。

５．教科書
特になし

６．参考書
特になし

７．課題に対するフィードバックの方法
発表やディスカッション、提出課題に関しては、原則として直接、授業時間内に総合的なコメントやフィードバックを行うほか、必要に応じて個人的なフィードバックや、oh-o! Meijiでの総合的なコメント公開を行います

８．成績評価の方法
平常点(授業への積極的参加と授業内課題)60%、期末レポート40%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**山内　　勇**

１．授業の概要・到達目標
このゼミでは、イノベーション・プロセスに関する経営学的・経済学的な考え方を学習します。そもそも企業はなぜイノベーションを起こすのか、付加価値はどのように生み出していくべきなのか、といった観点から検討を行っていきます。特に、製品・サービスの差別化や、それらを市場に普及させるための戦略について、経営学や経済学の理論を学んでいきます。そのうえで、抽象的な理論を具体的な製品に当てはめて議論したり、自ら仮説を立て、データを使ってそれを検証したりします。
こうした活動を通じて、このゼミでは、イノベーションのプロセスを対象に、学問の理論を現実の社会現象と結び付けて理解する能力を身に付けること、また、この情報化社会で必要となる情報処理やデータ分析のスキルを習得することを目標としています。

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　企業におけるイノベーション活動の目的
第３回　グループワーク：プロセス・イノベーションと生産性
第４回　グループワーク：プロダクト・イノベーションと製品差別化
第５回　グループワーク：ニーズの把握
第６回　グループワーク：ターゲティング
第７回　グループワーク：事業機会の発見と選択
第８回　グループワーク：差別化の追求
第９回　グループワーク：業界研究
第10回　グループワーク：企業研究
第11回　グループワーク：データ分析の方法
第12回　グループワーク：マーケティング・リサーチ
第13回　グループワーク：ブランディング
第14回　最終報告

３．履修上の注意
発言のない学生は授業に貢献していないものとみなします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：演習で扱うテーマについて、議論に必要となる情報を参考書等から収集しておくこと。また、担当者は報告資料を用意すること。
復習：演習での報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にいかすこと。

５．教科書
指定しない（資料を配付する）。

６．参考書
イノベーション&マーケティングの経済学』金間大介・山内勇・吉岡(小林)徹著、中央経済社
『マーケティング・サイエンス入門』古川一郎・守口剛・阿部誠著，有斐閣アルマ
『The Economics of Innovation: An Introduction』G. M. Peter Swann 著，Edward Elgar Pub.

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中にフィードバックを行います。

８．成績評価の方法
報告内容（５０％）、授業への貢献（５０％）

９．その他
データ分析のためにノートパソコンを持参してもらうことがあります。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ａ

２単位	２年次	**山口　生史**

１．授業の概要・到達目標
このゼミナールのテーマは、「組織コミュニケーション風土、組織文化、組織事故、組織不祥事の関係」です。組織の事故や不祥事は、枚挙にいとまがないほど、次から次と報道されています。これらの問題には様々な原因がありますが、組織コミュニケーションと組織文化がその原因・遠因の一つであることが少なくありません。新聞報道を読むだけでも、多くの場合、情報が隠ぺいされる（コミュニケーション問題）体質や風土（組織文化の問題）で、情報がうまく伝達、共有、交換されていなかったなどの記述を目にします。また、そのような組織風土・文化を醸成するのはコミュニケーションでもあります。したがって、このゼミでは、組織文化とコミュニケーション、メンバー間相互作用、メンバーの行動の相互関係を分析しし、さらに、安全の組織文化を醸成するにはどうすればよいかなどを探ることが目標です。14回の授業のうち、前半は配布資料を読み、基盤となる理論と分析枠組みを学び、事例を分析して、このテーマについて理解を深めようと思います。皆さんの発表に関して、ディカッションとQ&Aを行い、コメントをしながら組織文化とコミュニケーション風土の形成と安全文化の構築プロセス及びメカニズムについて説明します。後半の報告書の事例分析に関しては、実際に起こった組織事故あるいは不祥事の報告書を自分で探し、それについて前半で習得した分析枠組みを適用して、それらの事故や不祥事の発生プロセスや発生メカニズムを考察して、発表してもらいます。「構築されている組織文化とコミュニケーション風土」と「組織の事故や不祥事という現象」がどのように相互作用しているのかを探っていきたいと思います。各自個別にそれらをペーパー（論文）としてまとめてもらう予定です。

２．授業内容
第１回　組織文化、組織コミュニケーション、組織事故、組織不祥事の関係と分析のための理論の説明
第２回　指定配布資料発表（1）
第３回　指定配布資料発表（2）
第４回　指定配布資料発表（3）
第５回　指定配布資料発表（4）
第６回　指定配布資料発表（5）
第７回　指定配布資料発表（6）
第８回　報告書事例の分析の解説（1）
第９回　報告書事例の分析の解説（2）
第10回　報告書事例の分析の発表（1）
第11回　報告書事例の分析の発表（2）
第12回　報告書事例の分析の発表（3）
第13回　報告書事例の分析の発表（4）
第14回　論文のまとめ方
*諸般の事情により変更の可能性はあります。

３．履修上の注意
課題などの提出は期限を厳守して下さい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
配布資料のサマリー（課題）の提出と事例となる報告書を探して分析をして、発表準備をしてくることが必要です。

５．教科書
特に指定しません。

６．参考書
『組織不祥事』，間嶋崇，文眞堂，2007
『企業はなぜ危機対応に失敗するのか:相次ぐ「巨大不祥事」の核心』，郷原信郎，毎日新聞社，2013
『組織不祥事研究』，樋口晴彦，白桃書房，2012
その他クラスにて適宜紹介

７．課題に対するフィードバックの方法
提出された課題に対しては、コメントあるいは解説を返すことによりフィードバックを行います。

８．成績評価の方法
出席が十分であれば、以下の項目の以下の通りに評価します（以下のいずれかの項目で提出0回、発表0回の場合は評価の対象になりません）。
ファイナルペーパー 40%；
課題 40%；
プレゼンテーション 20%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習A

2単位	2年次	和田　悟

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

学部の国際交流プログラム（https://www.meiji.ac.jp/infocom/office/shorttermexchange.html）で関係が深い、タイを中心とする東南アジアの国々にや日本との関係などについて、文献講読や映像資料を通して学びます。アセアンは、2015年末に経済共同体が発足し、加盟国間の連携強化など大きく社会状況が変わりつつあります。日本との関係が深く今後も引き続き重要でありつづける地域です。、他国の事情を考えることで、日本の社会についての見方が変わるかも知れません。東南アジアの歴史や社会情勢を学びつつ異なる文化や価値観を尊重できる姿勢を学びましょう。

また。映像資料としては過去の国際交流プログラムで収録された現地学生との交流の様子や、現地で活躍する先輩達の講演の記録など、現地で撮影した映像も活用し、現地を身近に感じられるようになってもらいたいと思います。

【到達目標】

アジアとくに東南アジアの経済・社会に焦点を当て、近現代史における日本との関係や、現在のパートナーシップの重要性について理解を深めます。また、現地で活躍する先輩達の様子を知ることで、自分のキャリア形成に海外での活躍を視野に入れて考えられるようになります。

（注）**秋学期は、全く異なる内容の授業です**。秋学期に同時間帯を受講しようと考える学生は、必ずシラバスを参照を確認してください。

2．授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　東南アジアと日本の経済発展
第3回　東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（1）
第4回　東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（2）
第5回　東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（3）
第6回　東南アジア諸国の経済発展と今後 文献講読（4）
第7回　課題図書2の文献講読（1）
第8回　課題図書2の文献講読（2）
第9回　課題図書2の文献講読（3）
第10回　課題図書2の文献講読（4）
第11回　課題図書3の文献講読（1）
第12回　課題図書3の文献講読（2）
第13回　課題図書3の文献講読（3）
第14回　課題図書3の文献講読（4）・まとめ

3．履修上の注意

基本的には、共通となるテキストの担当部分を決めて順に発表してゆくほか、各国事情についての映像資料を視聴しながら進めます。頻度は参加人数によりますが、一つの文献あたり1回以上は発表機会があります。

なお、「新興国事情」では関連するテーマについて、PCによる実習をしながら学習します。理解を深めるのに役立ちます。あわせて受講すると理解が深まるでしょう。

（注）この授業担当者の秋学期の「問題発見テーマ演習B」は、全く異なる内容の授業です。電子工作やプログラミングを扱います。秋学期に同時間帯を受講しようと考える学生は、必ずシラバスを参照を確認してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

テキストの分担を決めて発表をしながら上記の内容を進めてゆきます。予習として指示されたことを、きちんと取り組んできてください。

5．教科書

テキストの準備方法などは授業中に説明しますが、学部のゼミへの助成金を最大限活用する予定なので、事前に自分で用意する必要はありません。

後藤健太『アジア経済とは何か 躍進のダイナミズムと日本の活路』中央公論新社, 2019

日本経済新聞社編『ビジネス安全保障 経済・暮らし・サイバー空間でいま起きていること』日本経済新聞社, 2025

岩崎育夫『入門 東南アジア近現代史』, 講談社, 2017ほかを候補とします。

6．参考書

伊藤亜聖『デジタル化する新興国』中公新書など

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー、レポートなどの提出物へコメントは、提出期限後にOh-o! Meijiでフィードバックする。

8．成績評価の方法

授業時間における発表・発言 70%，小レポートを含む提出課題30%、

9．その他

いま社会で求められている「コミュニケーション能力」は同質・同世代の友人の多さで決まるわけではありません。異なる背景や価値観をもつ人々と共に働けることが大切です。学部で用意している国際交流の機会（https://www.meiji.ac.jp/infocom/office/shorttermexchange.html）を是非有効に活かしてください。

（参考）国際交流 2025年度ガイダンス動画 https://r.qrqrq.com/5Bi5hQq5

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**岩渕　　輝**

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】 いのちや生き方の諸問題を考える一環として、本年度のゼミのテーマを「食の問題と関連の科学的言説の批判的解読法」にします。わが国の食料自給率は非常に低いことが知られていますが、ゼミの前半では、その原因をさぐりつつ農家の補助金やコメの流通など様々な問題について議論します。ゼミの後半では、遺伝子組換え食品やゲノム編集食品の安全性に関する科学的言説を題材に、利権関係者のプロパガンダに惑わされずに、科学的言説を批判的に解読する方法を解説します。一般の人々や未来の子どもたちにとって大事なのは何なのか、ということを考えながら、食のあり方について、さらには日本のあり方について議論します。

【到達目標】本ゼミの目標は、食の問題と食に関連した科学的言説を批判的に解読する方法を学びつつ、＜いのち＞や生き方についての各自の興味と考えを深め、本当に大事だと思える自分独自のテーマを発見することにあります。

２．授業内容

第１回　はじめに
第２回　食料自給率
第３回　化学肥料の問題
第４回　貿易自由化と食料不足
第５回　農家の補助金問題
第６回　コメの流通の問題
第７回　令和の米騒動
第８回　種苗法問題
第９回　遺伝子組換えとゲノム編集
第10回　利権とプロパガンダの問題
第11回　食の安全と科学的言説
第12回　科学的言説の批判的解読法
第13回　自由と自己決定権
第14回　ａのみ：まとめ

３．履修上の注意

予備知識は必要ありません。

輪読用の本の購入費（一学期につき2000円以下）が必要になります。輪読用の本は参考書欄の本の中から選ぶ可能性が高いですが、最終決定はゼミ開始直前になりますので、まだ買わないで下さい。

質問等がある場合は次の専用アドレス宛にメールして下さい。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

当番制で発表していただきますが、発表当番になった人は発表テーマについて十分な準備をして下さい。また、他の人の発表を聞くときも、関連することを予習・復習し十分な議論ができる準備をしてゼミに臨んで下さい。

５．教科書

とくに定めません。

６．参考書

『子どもを壊す食の闇』山田正彦。河出新書、2023年。
『売り渡される食の安全』山田正彦。角川新書、2019年。
『食の属国日本 ―命を守る農業再生―』鈴木宣弘。三和書籍、2025年。

７．課題に対するフィードバックの方法

最終授業日または最終授業終了直後に課題の解説と講評を行ないます。

８．成績評価の方法

発表当番時の発表内容と議論の内容：50％。授業の参加度と課題内容：50％。

９．その他

考えることが好きな人、「本当のことが知りたい」という気持ちの強い人、本好きの人、普段話す機会があまりない話題について誰かと話してみたい人、答の無い問題に向かう意欲のある人を歓迎します。ゼミ生の中から、物事を深く考える人がたくさん出てくれると嬉しいです。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**上西　智子**

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】
日本社会には、すでに多くの外国にルーツをもつ労働者、その子供たちや高齢者が住んでいます。また外国からの観光客も増えています。彼らは異なる文化背景をもつ人々になります。我々は多様な文化背景をもつ人々とコミュニケーションをとる必要がでてきています。そこで、本ゼミナールでは「やさしい日本語」を用いて実際に異なる文化背景の人々とコミュニケーション（書く・話す・聴く）をとり異文化コミュニケーションの理論の知識の理解を深めます。「やさしい日本語」は、相手に合わせて分かりやすく伝える日本語のことであり、日本語を母語としない・高齢である・障がいがあるなど様々な人に用いられています。また海外の移民の教育の事例を学び、多文化共生社会をめざす日本社会と政策を批判的・論理的に考える力を身につけます。グループワークと個人ワークを中心に授業を進めていきます。学外の人々との交流（オンライン交流や関連施設への訪問等）の機会も用意しています。積極的に参加して理解を深めてください。

【到達目標】
①「やさしい日本語」のワークを通して異文化コミュニケーションの理論を理解する
②文献講読による論点の取り出しとディスカッションを通して批判的・論理的に考えることができる
③自ら問いを立てることができている
④問いの探求にむけて、今後の大学生活の計画をたて行動に起こす準備ができている

２．授業内容

第１回　ガイダンス・授業の進め方
第２回　日本に定住する外国にルーツをもつ人々
第３回　「やさしい日本語」について
第４回　公共資料を「やさしい日本語」にする①
第５回　公共資料を「やさしい日本語」にする②
第６回　公共資料を「やさしい日本語」にする③
第７回　「やさしい日本語」で話す①
第８回　「やさしい日本語」で話す②　オンライン国際交流
第９回　「やさしい日本語」で話す③　オンライン国際交流
第10回　欧州の多文化共生　移民の教育
第11回　北米の多文化主義　移民の教育
第12回　日本に滞在する外国人観光客
第13回　日本における移民の教育
第14回　まとめ、期末レポート発表
※受講者の理解度や関心や学外交流先の都合に応じて、講義内容を変更することがあります

３．履修上の注意

・コミュニケーション（聴く・話す）に対して自発的、積極的に取り組んでください。
・関連施設へ訪問時（キャンパス近郊へ授業内に実施）の交通費は自己負担となります。
・毎回の講義でリアクションペーパー（成績評価あり）を提出してもらいます。講義の感想や質問など記入して下さい。
・下記の項目は厳しくチェックし評価点に反映させます。以下に留意し他者と信頼関係を築くことにより協働できるようになります。
　①他の学生の迷惑行為（私語、飲食、スマホ、携帯、ゲーム機等の使用）
　②遅刻、早退、途中退出　始業チャイム終了までに着席してください。
　③毎回ディスカッションをする講義です。クラスメイトに迷惑をかけないようにしましょう。
・5回欠席した場合は評価不能とします。
・PCは毎回持参してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

「やさしい日本語」の書く・話すワークでは、授業外でグループワークを行う必要があります。移民の事例の学習では事前に指定する文献を講読しレジュメを作成頂きます。授業内ではレジュメの発表とディスカッションを中心に行います。

５．教科書

特になし。講師が用意したスライドと文献を使用します。適宜、参考書籍を紹介します。

６．参考書

『新しい多文化社会論』万城目正雄・川村千鶴子編者（東海大学出版部）
『移民から教育を考える』額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編者（ナカニシヤ出版）
『入門・やさしい日本語　外国人と日本語で話そう[増補版]』吉開章著（アスク）

７．課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは授業で全体に公表して行います。必要に応じて授業時間外にもOh-o!Meijiやメールなどを活用して行います。

８．成績評価の方法

授業参加姿勢（リアクションペーパー含む）28%、ミニ課題30%、中間期末課題（両方提出して評価可能）42%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**大久保　美花**

１．授業の概要・到達目標

テーマ：日本語表現、国際共修

このゼミナールでは、国際共修を通して、自己や他者について理解を深めることを目的としています。具体的には、中国で日本語の翻訳を学ぶ大学院生たちと、ある課題（例：就活、アニメ、SNSの使い方など）について共に考えます。そこで取り上げるテーマは、みなさんが中国の大学院生たちと相談しつつ自由に決めることができます。最終的に学んだ成果をみなさんの前で発表します。

【到達目標】

①他者と共に学び、その成果を発表することができる。
②日本語表現の背景にある日本文化の特徴について理解することができる。
③日本と中国の文化の特徴について理解することができる。

２．授業内容

1　はじめに―言葉と文化について
2　中国の学生に向けて自己紹介動画を作ろう
3　国際共修の準備
4　国際共修の準備
5　国際共修①
6　振り返りレポートの執筆、対話
7　国際共修の準備
8　国際共修の準備
9　国際共修②
10　振り返りレポートの執筆、対話
11　国際共修の準備
12　国際共修③全体発表
13　振り返りレポートの執筆、対話
14　まとめ

３．履修上の注意

・この授業では国際共修への参加を最も重視しています。
・みなさんに事前にお知らせしたうえで、国際共修の回数や内容を変更することがあります。
・自分自身の意識の変化を自覚できるよう、共修後は振り返りレポートを書きます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には授業中に国際共修の準備をしますが、もし時間内に終わらない方やグループに対しては、授業外にも予習・復習を求めます。

５．教科書

特に定めません。

６．参考書

・戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』（NHK出版）2012年
・酒井聡樹『これから学会発表する若者のために―ポスター発表と口頭のプレゼン技術』（共立出版）2013年

そのほか発表内容に関する参考書については、授業中に適宜ご紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

対面、メール、Oh-o!Meijiシステムのアンケート機能

８．成績評価の方法

国際共修への参加30％、他の方への質問・声かけ30％、発表内容：20％、振り返りレポート：20％

９．その他

言葉に興味がある方、異なる考えや文化に触れてみたい方を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**小田　光康**

１．授業の概要・到達目標

このゼミのテーマは「ジャーナリズムの権力監視と経済調査報道」である。ゼミではジャーナリズムの監視機能と経済調査報道をテーマにしたワークショップを実施する。グループ分けをし、それぞれが決めたテーマについて調査研究をして発表・議論することで政治や経済の諸問題を理解することを目標とする。このゼミでは**和泉キャンパスで土曜日１回（１限～４限）（９月26日）、基礎知識を習得する講義を行う。**、基礎知識を習得する講義を行う。その後、明治大学山中セミナーハウスで**２泊３日（10月16日－10月18日）**のワークショップを開き、グループごとの調査研究をし、最終発表会を実施する。

２．授業内容

第１回　イントロダクションと経済調査報道入門、グループ分け（和泉）
第２回　財務諸表概論（貸借対照表、損益計算書、ＣＦ計算書）（和泉）
第３回　経営分析法概論（収益性・効率性・安全性分析）
第４回　管理会計概論（ＣＶＰ分析、利益差異分析）
第５回　ＢＳ／ＰＬ分析法
第６回　ＣＦ分析法
第７回　原価計算分析
第８回　企業の会計不正・粉飾決算と政治家の裏金スキームの事例研究
第９回　ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（１）
第10回　ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（２）
第11回　ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（３）
第12回　ワークショップ：プレゼンテーション資料制作（４）
第13回　調査結果発表（セミナーハウス）
第14回　まとめと反省（セミナーハウス）

３．履修上の注意

このゼミは簿記や財務会計の知識がある程度必要になります。不安な学生は初回の和泉でのゼミでこれらの独学の方法を教えますので、合宿ゼミまでに学習しておいてください。細かな計算は必要ありません、大枠を理解する程度で結構です。また、このゼミでは和泉キャンパスで土曜日１回（９月26日１～４限）とその後、明治大学山中セミナーハウスで２泊３日（10月16日－10月18日）の合宿形式のワークショップを開きます。合宿参加費（宿泊代・交通費）として約１万５千円の個人負担が必要です。グループワークが主体なので、これら全てに参加できる学生のみ履修してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

政治経済の汚職事件の新聞記事は毎日必ず目を通すこと。

５．教科書

松瀬学・小田光康著『東京五輪とジャーナリズム』

６．参考書

EdX　Global Muckraking: Investigative Journalism and Global Media
長谷部恭男、山口いつ子、宍戸常寿編『メディア判例百選　第２版』有斐閣、2018年

７．課題に対するフィードバックの方法

ゼミ授業中の質疑応答で対応します。

８．成績評価の方法

ワークショップへの参加度（50％）とアウトプット内容（50％）で評価する。全授業の出席を成績評価対象とする。

９．その他

政治経済の問題を発見し、その報道の社会的なインパクトを理解してください。学生同士で政治経済の問題を見つけ、世間にそれを問い、社会的な傾向を見つけるアプローチを学んでください。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	川島　高峰

１．授業の概要・到達目標

授業の概要

この入門Bのゼミの主題はわかりやすく言えば戦後日本のサブカルチャーですが、主題は**現代日本人論**で、これに**日本国家論・文化政策編**が加わります。担当教員の専門は政治学、日本国家論・日本人論です。国家というものは、その成員と成員のアイデンティティーがないと成立しません。このアイデンティーに対する興味から、文化や世代の意識・価値観に比重を置き、その近代･現代史を「青春の歴史」という観点で講じてみることになりました。「青春」文化は、戦後昭和になると多世代化するようになり、高齢化社会に伴い、全世代的な現象、つまり、これがサブカルのメインカルチャー化、ということになるわけです。そして、今やサブカルは、インバウンドとか、ソフトパワーと呼ばれる国策の重要なカテゴリーにもなっています。

到達目標

新しい日本人・日本文化を養う気概と素養を学生が養うことです。

２．授業内容

第１回　アイスブレーキング　青春を語ろう！
第２回　文化とは何か？　若者文化というジャンルが形成されるまで
第３回　青春の歴史　明治日本　「坊ちゃん」たちとそれ以外
第４回　青春の歴史　戦争と文化
第５回　青春の歴史　戦後世界　サブカルのグローバル・ヒストリー　それは青春と不良の物語から始まった
第６回　盆踊りからYOSAKOIへ
第７回　サブカル黎明期　電気（エレキ）以降
第８回　サブカル世界と日本　電子以降　Y.M.OとMTV
第９回　タワーという文化と太陽の塔という異端
第10回　圧倒的原点ＡＫＩＲＡとエヴァンゲリオン
第11回　ガンダムは何故、ニュータイプを求めたのか　そのパラダイムシフトと総合知財戦略
第12回　まほろしの郊外とKamikaze Girls
第13回　日本はどうして日本ではなくなってしまったんだろうか
第14回　２０２６年、サブカルの回顧と展望
※情勢の変化により内容に変更が生じることがあります。

３．履修上の注意

本ゼミの理解と学生間の親睦を深めるためにできるだけ講義科目「政治学」の履修をすることをおすすめします。課外活動や、外部研修といったことをゼミの活動として行うことは一切、ありませんが、総務省や各市町村が実施している地方インターン制度については、例年、派遣実績がありますので、これを紹介します。また、担当教員はベトナム国家大学日越大学の設立メンバーであり、必修講義（オンラインと対面）を担当している関係で、日程の調整ができた場合にはオンライン交流か、有志のみでの現地派遣交流を実施します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

平成の自分史をワードなどで年譜風にまとめておきましょう。年表、アップロードしておきます。自身と日本と世界の政治・社会・経済・文化の出来事についての年表のようなものです。

５．教科書

『キーワードで見る 平成カルチャー 30年史』三栄書房は、カタログ的に整理されていて便利です。内容がとても軽いので気楽に読めて良いでしょう。

６．参考書

宮台真司『まほろしの郊外』朝日新聞社、「家－ムラ－クニ」という日本の文化社会の地殻崩壊を世に最初に指摘した本。
宇野常寛『ゼロ年代の想像力』ハヤカワ文庫、これぞ平成文化論というところです。そこに含まれる正誤も含めて、です。
宮沢章夫『ニッポン戦後サブカルチャー史』NHK出版、面白いが、昭和世代による昭和世代のための回顧の観があり、平成世代には共感がしにくい語りかもしれない。しかし、日本のサブカルの歴史を戦後から2013年まで俯瞰するにはよいですよ。
古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社　指摘していることはとても正しい。作者の人柄の好悪はともかくとして。昭和と平成の世代的な交錯と断絶を考えるのにとても良い。
『押し活経済』リチェンジ
毎日新聞社『平成史全記録』(2019)　辞書のように使えて便利。

７．課題に対するフィードバックの方法

レポートとして実施する学生の講義に対するコメントは、原則としてクラスでシェアして、その都度、講評を行う。

８．成績評価の方法

各回講義でのリアクション・コメントが75%、期末レポートが25%。成績は各講義内で実施するリアアクション・コメナントの比重が高いので、結果として出席重視となっている。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	清原　聖子

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

2026年はアメリカ合衆国建国250周年にあたる。アメリカに関する報道は日本でも多いため、学生の皆さんも最近のアメリカについての情報に触れる機会は多いだろう。そこで、本ゼミナールの目標は、日本との比較の視点からアメリカ政治、社会に対する理解を深めることにある。授業は、多角的な視点からアメリカについて学ぶ文献やドキュメンタリー番組を用いて、現代アメリカ研究を学際的に行う導入的な内容である。11月に行われる2026年中間選挙の動向についても観察する。

【到達目標】

到達目標は、3･4年次のゼミでの研究にも役立つように、グループワークとして問題を発見し、分析する力やプレゼンテーション能力を高めることである。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　ドキュメンタリー番組を通して見るアメリカ・ディスカッション①
第３回　教科書輪読①
第４回　教科書輪読②
第５回　中間選挙についてグループワーク①
第６回　中間選挙についてグループワーク②
第７回　中間選挙についてグループワーク③
第８回　中間選挙についてグループ研究成果発表
第９回　教科書輪読③
第10回　教科書輪読④
第11回　教科書輪読⑤
第12回　教科書輪読⑥
第13回　ドキュメンタリー番組を通して見るアメリカ・ディスカッション②
第14回　まとめ
＊授業内容や順番には変更の可能性があります。

３．履修上の注意

無断欠席をしないこと。欠席する場合は、クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を用いて必ず連絡すること。この授業ではプレゼンテーションおよびディスカッションを重視しているため、積極的に授業に参加する必要がある。教科書、ノートPC又はタブレット端末を授業に各自持参すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

発表の担当にあたっていない回であっても、毎回教科書の指定された箇所を読んで発表者との質疑応答に積極的に臨むこと。2026年中間選挙があるので、日ごろからアメリカ政治関連ニュースについて、テレビや新聞、オンラインニュースなどで情報収集しておくことを勧める。

５．教科書

清原聖子（編著）『教養としてのアメリカ研究』（大学教育出版会、2021年）

６．参考書

清原聖子、鈴木健、兼子歩、下斗米秀之（編著）『アメリカの〈分断〉とは何かー学際的視点からその諸相を探る』（大学教育出版、2025年）
山岸敬和、岩田伸弘編著『激動期のアメリカー理論と現場から見たトランプ時代とその後』（大学教育出版、2022年）
久保文明、中山俊宏、山岸敬和、梅川健（編）『アメリカ政治の地学変動―分極化の行方』（東京大学出版会、2021年）
久保文明、金成隆一『アメリカ大統領選』（岩波新書、2020年）
岡山裕『アメリカの政党政治―建国から250年の軌跡』（中公新書、2020年）
その他授業中に紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

適宜授業時間内にフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

平常点（プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションへの参加貢献度）60%、グループ研究発表20%、書評レポート20%

９．その他

本授業は、アメリカ政治･文化･国際関係に興味のある人だけでなく、将来アメリカへ留学を希望する人にとっても役立つであろう。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	熊田　　聖

１．授業の概要・到達目標
このゼミのねらいは、調査、発表、レポート作成を行うことが出来るようになることです。つまり、ある分野について学習したことをうまく伝えていくことをトレーニングしていきます。対人的well-beingともいえます。そのため、選んだテーマに対し、調査・準備をし、授業は自由に皆さんの考えをのべてもらう場となります。その上で、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。
思索トレーニングの内容：AかBの選択肢があるものを議論し、どちらが自分は良いと思うかをレポートにまとめる
過去のテーマ例
・USJかディズニーランドか
・仕事はやりがいか給料か
・自転車は乗れるようになっておくべきか
・ファンデーションはカバー力かテクスチャーか
【授業の概要】
SHOW（A）：起業家を演じましょう。
SHOW（B）：本について発表しよう。
SHOW（C）：自由に発表しよう。
どうしたら理科実験をしないで伝えられるのかを、半期を通して考えてみましょう。エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。
その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。
SHOWはパワーポイント、口頭、その他やりやすい方法で自由に発表可能です。
【到達目標】
自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。

２．授業内容
第１回　発表テーマ、グループ決定
第２回　社会企業家を演じる（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第３回　社会企業家を演じる（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第４回　社会企業家を演じる（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第５回　ディベート
第６回　本について発表しよう（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第７回　本について発表しよう（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第８回　本について発表しよう（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第９回　ディベート
第10回　自由に発表しよう（１）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第11回　自由に発表しよう（２）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第12回　自由に発表しよう（３）、思索トレーニング発表、思索トレーニング
第13回　絵本を用いた質疑応答形式発表（１）
第14回　絵本を用いた質疑応答形式発表（２）

３．履修上の注意
このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。
使用する教科書の実践編がゼミです。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
あえて理想的なShowを紹介することはしません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じたが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかった情報は何か。あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。
このような一連のプロセスを分析・改善し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。

５．教科書
熊田聖「意思決定論理」泉文堂等、詳しくは授業内で連絡します。

６．参考書
授業内で連絡します。また、必要な書籍はゼミ費で購入し配布します。

７．課題に対するフィードバックの方法
前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。
課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。

８．成績評価の方法
　評価は、
１）レジュメと発表内容　30%
２）発表者へのアドバイス　30%
３）ディベートへの参加　20%
４）思索トレーニングへの参加　20%
以上４点で行います。

９．その他
男女比約１：１で楽しく仲良く活動しています。
教科書はゼミ費より支給します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	後藤　　晶

１．授業の概要・到達目標
テーマ：
「統計的因果推論入門：実験社会科学のための因果効果の考え方」
授業の概要：
社会科学や行動科学において、「ある施策や介入に効果があったのか」を検証することは極めて重要である。しかし、単純なデータの比較では、真の因果効果を捉えることができないことが多い。例えば、ナッジ施策の効果を測定する際に、施策を受けた人と受けなかった人を単純に比較しても、そもそも両者の特性が異なっていれば、その差が施策の効果なのか、元々の違いなのかを区別できない。 本演習では、このような問題に対処するための「統計的因果推論」の基本的な考え方を学ぶ。具体的には、因果ダイアグラム、バックドア基準、潜在結果モデル、ランダム化比較試験（RCT）の意義、そして傾向スコア法、差の差法、回帰不連続デザインといった因果効果の推定手法について、その原理を図と言葉を用いて直感的に理解することを目指す。
この講義を通じて、「なぜ実験が因果効果を推定する上で理想的なのか」「実験ができない場合にどのような方法があるのか」という問いに答えられるようになることを目指す。 また、単に手法を学ぶだけでなく、推定された「因果効果」が何を意味し、何を意味しないのか、エビデンスをどのように社会で活用すべきかについても議論する。
なお、本演習では数式を多用せず、概念的な理解を重視する。また、適宜Rを使って、具体的な問題にもとづいて理解を深める予定である。統計学やプログラミングに苦手意識がある学生も積極的に参加してほしい。
到達目標：
1. 相関関係と因果関係の違いを説明することができる。
2. 因果ダイアグラムを用いて、交絡変数やバックドアパスを特定することができる。
3. 代表的な因果推論の手法（RCT、傾向スコア法、差の差法、回帰不連続デザイン等）の考え方と適用条件を理解できる。
4. 実験や観察研究の結果を批判的に評価することができる。

２．授業内容
第１回　イントロダクション：相関と因果の違い
第２回　因果推論の基本的な考え方（1）：特性の分布のバランス
第３回　因果推論の基本的な考え方（2）：因果ダイアグラムとバックドア基準
第４回　因果推論の基本的な考え方（3）：潜在結果モデルと反事実
第５回　因果推論の基本的な考え方（4）：無作為化とRCTの意義
第６回　因果効果の推定手法（1）：層別化・マッチング・重回帰分析
第７回　因果効果の推定手法（2）：傾向スコア法
第８回　因果効果の推定手法（3）：差の差法・回帰不連続デザイン
第９回　因果効果の推定手法（4）：操作変数法・媒介変数法
第11回　因果効果の解釈（1）：処置効果を揺るがすもの
第12回　因果効果の解釈（2）：エビデンスの社会利用
第13回　事例検討（1）：ナッジ研究の因果推論
第14回　事例検討（2）：研究デザインの批判的検討
　※ただし、履修状況により変更することがある。

３．履修上の注意
・演習形式の授業であるために出席を重視する．また，発表担当者になった場合は必ず発表資料（レジュメ等）を用意して出席すること．
・この授業では輪読形式で進めるため，担当回以外でもテキストを事前に読んで授業に臨むこと．

４．準備学習（予習・復習等）の内容
小課題の提出・発表の準備等が必要となる。

５．教科書
『はじめての統計的因果推論』、林岳彦、岩波書店

６．参考書
適宜授業内で紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

８．成績評価の方法
毎回の授業への参加状況40%、課題の評価40%、レポート20%
　毎回の授業への参加状況：リアクションペーパー等を含めた授業への参加状況を評価する。
　課題の評価：発表資料を評価する。
　レポート：学期末にレポートを課す。

９．その他
演習形式としているが、授業内ではグループワークを重視する。担当教員が開講する「専門情報リテラシー（社会統計）」ならびに「問題発見テーマ演習A」で得られた知識が「問題発見テーマ演習B」の理解に有用であるために受講することを勧める。しかし、必ずしも受講を前提としない。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**小林　秀行**

１．授業の概要・到達目標
本講義は「環境と災害」をテーマとします。すでに知られているように温暖化をはじめとしたいわゆる地球環境問題は、近い未来に起こる問題ではなく、今まさに影響があらわれ始めている問題であり、人類に共通する喫緊の課題として対策が進められています。とくに日本では地震や火山とともに台風のような風水害が多いことでも知られており、温暖化がもたらす台風の大型化や集中豪雨の増加は、われわれの生活を直接的な形で脅かすものでもあります。その一方で、こうした問題はスケールが大きく、複雑でもあるため、なかなか実感をもつことが難しいのも実際です。そのため、なんとなくは知っていながらも、具体的に何が起こっているのかまでは立ち入ってはこなかったという方が多いのではないでしょうか。本講義では、このような考えから「環境と災害」というテーマを据え、皆さん自身によるグループワークを通じて、問題に接近する機会としてほしいと考えています。この際、ぜひ大事にしてほしいことは「分かること」ではなく「戸惑うこと」です。ここでいう「分かること」とは「分かった気になること」と言い換えてもいいかもしれません。地球環境問題にせよ自然災害にせよ、複雑な問題は見る立場によってその姿を変えます。そのため、どれほど勉強したとしても、ただ一つの正解が見つかることは恐らくありません。こうした問題はむしろ、そうした違いを前提にしたうえで妥協点を探り、関係者間で共有できる答えを創りだしていく種の問題です。そうした現実に触れることは、社会なるものを研究する際の問題発見の1つの道筋になります。実際の講義では、前半に基礎的な内容を座学で学んだ後、グループに分かれてそれぞれに問いを立て、その問いへフィールドでの観察から接近していくことになります。問題発見テーマ演習AとBでは内容に大きな差異はありませんが、座学において環境問題を取り上げるのがA、自然災害を取り上げるのがBとなりますので、グループワークの方向性もそれによって変わるものと思います。ただし、担当教員からAでは環境、Bでは災害とグループワークのテーマを指定することはしませんので、各グループの意思によって決定してください。本講義の到達目標は「自然災害に関する基礎的知識の獲得」および「フィールド調査をもとにしたレポート作成能力の涵養」としています。なお、本講義は3年次に担当教員が開講する問題分析ゼミナールの入門編としての性格をもちます。もちろん、どのような学生の参加も受け入れることを前提にはしていますが、当ゼミへの入室を希望されている場合にはできるだけ問題発見テーマ演習AまたはBいずれかの受講をお願いいたします。

２．授業内容
第01回　イントロダクション／災害とは何か
第02回　災害と避難①
第03回　災害と避難②
第04回　災害と避難③
第05回　グループワーク①　：　問いの設定
第06回　グループワーク②　：　問いの設定
第07回　フィールドワーク①：　予備調査
第08回　グループワーク③　：　予備調査の結果を検討
第09回　グループワーク④　：　予備調査の結果を検討
第10回　フィールドワーク②：　本調査
第11回　フィールドワーク③：　本調査
第12回　グループワーク⑤　：　報告書の作成
第13回　グループワーク⑥　：　報告書の作成
第14回　最終報告会
(担当教員の判断により、適宜変更することがあります。)

３．履修上の注意
○本講義は主としてゼミナール形式となり、講義外の時間での作業など、受講生の主体的な関わりなしには成立しません。こうした関わりが不十分な場合、履修の意思がないものとみなし、単位認定を行わないことがありますので注意してください。
○**本講義はディスカッションやフィールドワークを課しており、成績評価の対象としています。そのため、履修者間での対話を行うことや講義外での活動が必須となります。**履修の際には、このことを理解したうえで参加をしてください。
○配布物やリアクション・ペーパー等はoh-meijiを通して配布し、難しい場合のみ紙での配布を行います。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：専門書を読む、資料館を訪れるなど、積極的に問いを発見する努力をすること。
復習：各回における資料や議論を整理し、発見した点や疑問点を明確にしておくこと。

５．教科書
特になし。適宜資料を配布します。

６．参考書
特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法
フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。

８．成績評価の方法
講義への主体的な参加（50%）、期末レポート（5,000字以上(図表ふくむ)）（50%）
期末レポートは**グループワークの一環であるフィールドワーク**が前提となります。インターネットで記事や資料を調べたのみなどのレポートに対しては、単位認定を行いませんので注意してください。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**島田　　剛**

１．授業の概要・到達目標
コーヒーやチョコレートはどんな人が生産し、どのようにして私たちの元へ届くのでしょうか？そして生産者の人たちはどんな暮らしをして、何を考え、感じているのでしょうか？
グローバリゼーションが進み世界が一体化するとともに、国内でも世界でも経済格差が拡大しています。このゼミでは国内の貧困と途上国の貧困を同時に考えます。
このゼミではコーヒーを題材として取り上げ、そこから国内外の貧困問題を考えて皆で議論をします（数週間に1度は発表）。
街づくりでは主に神保町を対象にします。それは、この地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからです。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもあります。
こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成します。同時に、より途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成します。
(到達目標）ゼミ生はコーヒーという財を通じて、世界経済と都市のあり方について理解を深め国際経済を見る視点を身につける

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究のノウハウの復習
第３回　コーヒーからみるグローバリゼーション
第４回　生産国の現状分析 ①
第５回　生産国の現状分析 ②
第６回　生産国の現状分析 ③
第７回　各班による中間発表
第８回　生産国に共通する課題は何か、違いは何か
第９回　経済成長を考える
第10回「利潤」はどこから来るか
第11回　グループ発表準備 ① データー収集・分析
第12回　グループ発表準備 ② 論点の確認
第13回　グループ発表 ①
第14回　まとめ

３．履修上の注意
3−4年の島田ゼミのHPを見るとゼミの内容がイメージしやすくなるので履修前に見ることをおすすめします。
・神保町コーヒープロジェクト（https://jimbocho-coffee.com/）
講師が別に開講しているミクロ経済学、マクロ経済学の授業を受講することが望ましい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
プレゼンテーションの準備が必要

５．教科書
なし

６．参考書
島田剛（2025）「いまを読み解くマクロ経済学 ー 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」（日本評論社）
島田剛（2023）「ミクロ経済学への招待」（新世社）

７．課題に対するフィードバックの方法
ゼミにおける発表に対してコメントをすることによりフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
発表（60%）、ディスカッションへの貢献度（40%）
欠席・遅刻が多い場合は不可とします。欠席４回で以後の参加を認めません。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**鈴木　健人**

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】冷戦とその後の歴史を学ぶことで、現在の国際社会が直面している様々な問題の背景を知り、国際関係論を学ぶ。このゼミでは理論的な枠組みを生かしながらも、具体的な個々の問題を分析することを重視する。それによって「問題分析ゼミナール」で自らの研究課題を設定し学習するための準備をする。冷戦期の米国の大戦略、米露の核戦略、第三世界の民族問題、日本と東南アジアの関係、EUの発展など、国際政治における重要な争点について研究する。これらを踏まえて、冷戦後の国際社会のあり方に関する理解を深める。また国際社会における情報やコミュニケーションのあり方が、現実の政治にどのような影響を与えるかを考える。

ゼミでは毎回、一人が設定されたテーマや教科書の割り当て部分について研究報告をし、それに基づいて問題点を全員で議論する。ある程度専門的な知識を活用して議論できるようになったら、グループ分けをしてディベートをしたり、グループごとの研究発表を行う。

【到達目標】問題分析ゼミに入って自分で研究を進めるための能力を身に付ける。国際社会の問題を自分で理解し、初歩的ながらも自分で解決策を構想できるようにする。

２．授業内容

第１回　導入と研究報告の割り当て
第２回　冷戦期の国際政治構造（１）
第３回　冷戦期の国際政治構造（２）
第４回　冷戦期の国際政治構造（３）
第５回　アメリカ一極支配と対テロ戦争
第６回　中国の台頭（１）経済の発展
第７回　中国の台頭（２）軍事的意味
第８回　アメリカの大戦略について
第９回　EUの発展と問題
第10回　第三世界の変容
第11回　リベラルな国際秩序の終わりか？
第12回　日本と世界（１）経済の停滞とその意味
第13回　日本と世界（２）外交と防衛政策の変容
第14回　総括：国際秩序変容の方向

３．履修上の注意

教科書をじっくり読み込むので、ただ単に読書するだけでなく、内容を批判的に考察し、自分の意見をまとめられるようにすること。専門用語についても臆せず学ぶ意欲を持つこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

平素から国際問題に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットなどで広く知識を求めること

５．教科書

益田実・齋藤嘉臣（共編著）『冷戦史』（法律文化社、2024年）
鈴木健人『封じ込めの地政学』（中公選書、2023年）
必要な場合には、その他に資料を配布する。

６．参考書

鈴木健人『「封じ込め」構想と米国世界戦略』　渓水社、平成14年。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行ったり、授業終了後にOh-oMeiji!で講評を連絡する。

８．成績評価の方法

発表の内容２０％、ゼミへの参加度３０％、レポート５０％として全体的な評価をする。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**鈴木　雅博**

１．授業の概要・到達目標

学校では、さまざまなコミュニケーションが交わされています。教室では、教師が質問し、生徒が答えていますが、授業はいくつかの面で日常会話とは異なる形式をとります。例えば、通常は、知らない者が問い、知っている者が答えるのですが、授業では逆です。知っている者が知らない者に尋ね、返答に評価を与えることで授業が進んでいきます。もちろん日常会話と重なるところもあります。評価の与え方を見てみましょう。教師は生徒の返答が正しければ、すぐに「そうですね」とプラスの評価を述べますが、間違っていた場合はどうでしょうか。即座に「違います」と言う先生はあまりいないはずです。「うーん、そういう見方もできるかもしれないけど……」と言葉を継ぎながら生徒の返答をどうにか正答へとつなげていこうとするのではないでしょうか。ポジティブな評価にはためらいがない一方、ネガティブな評価を与えなければならない場合には、「うーん」とか「いやー」といった言い淀みが生まれます。これは相手への配慮を示すものであり、日常会話でも見られます。

また、職員室や会議室では、生徒の成長や問題をめぐって教師間で盛んにコミュニケーションがとられています。そこではどんな言葉が発せられ、それによって何が為されているのでしょうか。教師間のやりとりは、組織としての学校がそれとして立ち現れる場面として捉えることができます。他にも、保健室や休み時間中の廊下におけるやりとりなど、学校は多様なコミュニケーションであふれています。

本演習では、このような学校における相互行為を対象とした研究をレビューしていきます。とりわけ、エスノメソドロジーの方針による先行研究を中心に検討していきます。これは「どうすれば学校がよくなるのか」という問いに直接答えるものではありません。しかし、そうした処方を考える上で、まずは何がどうなっているのかを明らかにすることが必要なのだと考えます。

【到達目標】
・学校におけるさまざまな相互行為に関する先行研究を読解し、批判的に検討することができる。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　エスノメソドロジーとは何か
第３回　学校組織（１）
第４回　学校組織（２）
第５回　教師の自律性
第６回　教師の多忙
第７回　生徒指導
第８回　いじめ（１）
第９回　いじめ（２）
第10回　授業（１）
第11回　授業（２）
第12回　保健室
第13回　生徒文化
第14回　教員文化

３．履修上の注意

問題発見テーマ演習Ａ（エスノメソドロジー入門）と連続して受講することをお勧めします。
欠席５回で評価対象外とします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。

５．教科書

特に指定しない。

６．参考書

授業中に適宜指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行います。

８．成績評価の方法

授業ごとの課題提出（100％）。

９．その他

ゼミで聞いたこと／言ったこと／言えなかったことを反芻することが思考を深化させます。心がけましょう。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	関口　裕昭

１．授業の概要・到達目標

「映画と文学の比較研究」

「読んでから見るか、見てから読むか」とは、かつてある映画の宣伝に使われた文句ですが、みなさんも実際に迷ったことがあるのではないでしょうか。文学と映画はメディアが異なるので、同じ原作をもとにしていても、内容にも微妙なずれが見られ、表現の方法や理解の仕方も異なってきます。同じ原作を文字と映像という二つの異なるジャンルから「読む」ことを通して、作品の持つ豊かさとまた解釈の難しさを学びます。

この授業では、前半は前期に扱ったメルヘンがどのように映像化されているのかを考えます。また後半では、有名な文学作品がいかに映像化され、どのような変容が生じているのかを詳しく考察します。テーマの性質上、映画を見る時間が多くなることをあらかじめ承知しておいてください。

２．授業内容

第１回　イントロダクション―映画分析の手法・映画の文法を学ぶ
第２回　映画の中のグリム童話―『手なし娘』の鑑賞と分析②
第３回　映画の中のグリム童話―『白雪姫』の様々な映画を比較する
第４回　グリム童話のオペラ化―フンパーディングのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』
第５回　「田舎医者」をカフカの原作とアニメーションで比較する
第６回　映画『第三の男』の鑑賞と分析①
第７回　映画『第三の男』の鑑賞と分析②
第８回　シェイクスピア『ヴェニスの商人』原作と映画化の比較研究①
第９回　シェイクスピア『ヴェニスの商人』鑑賞と原作との比較研究②
第10回　シュリンク『朗読者』とその映画化『愛を読むひと」の比較研究①
第11回　シュリンク『朗読者」とその映画化『愛を読むひと』の比較研究②
第12回　映画『グッバイ・レーニン』からドイツ統一の歴史を学ぶ①
第13回　映画「グッバイ・レーニン」からドイツ統一の歴史を学ぶ②
第14回　まとめ
(以上は大体のスケジュールです。受講者の希望も聞きながら、扱うテクストや映画を変更することもあります)

３．履修上の注意

「問題発見テーマ演習A」「問題発見テーマ演習B]は一応それぞれ独立していますが、Bの前半はAで学んだ前半の応用でもあるので、セットで受講すると理解が一層深まります。前期と同様、授業中の飲食、スマホの利用を禁止します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

前期を履修していない人は､グリム童話を20以上読み(「しらゆきひめ」と「ヘンゼルとグレーテル」は必須)、加えてメルヘンに関する基本的な文献に目を通しておいてください。

５．教科書

特にありません。プリントを配布するか、またはパワーポイントを用います。

６．参考書

たくさんありますので授業中に紹介します。しかし後半見る映画の原作はどれも長編ですので、あらかじめ読んでおくことをお勧めします。訳は複数出ているものがほとんどですので､特に指定しません。
・カフカ「田舎医者」
・グレアム・グリーン『第三の男』(早川文庫)
・シェイクスピア『ヴェニスの商人』
・ベルンハルト・シュリンク『朗読者』

７．課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜指示します。

８．成績評価の方法

出席＋平常点(50％）＋学期末レポート(50％)

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	高橋　華生子

１．授業の概要・到達目標

【授業概要】

グローバル化が進展するなか、都市はヒト・モノ・カネの集積地として巨大化し、世界中に拡がるネットワークの結節点として機能している。従来、都市の成長は、国家開発の枠組みの中に埋め込まれ、都市と国の繁栄は同一線上にあった。しかしながら、現代の都市の特徴は、国家の成長とは切り離された形で発展していることである。つまり、都市は超国家的な空間として再編されつつあり、多様な人びとを収容し、それぞれの価値観や利害が交差する場として立ち現れている。

このような流れのなかで、都市はいかなる課題に直面しているのだろうか。本授業では、グローバル化時代において変容する都市の性質や構造を考察し、都市間の関係性、分離や格差、二極化と新たな貧困、移民･外国人労働者、多文化・多民族社会などのポイントを検討していく。グローバル化が都市空間とそこに住まう人びとに与えているインパクトを見つめることによって、現代の都市開発と都市政策の課題と展望を捉えていきたい。なお、受講生の理解を促すため日本や東京の事例も取り上げていくが、授業全体では成長著しい新興国や途上国の事例を含む、諸外国の動向に目を配っていく。

【到達目標】

以下の3点に関する知見の習得を目標とする。
1. グローバル化が都市のあり方と市民の生活に与えている影響を捉え、問題意識を高めること。
2. 現代の都市が直面している課題を理解し、今後の取り組みを探っていくこと。
3. 自分の考えや意見を論理的にまとめ、分析・発信の力を磨くこと。

２．授業内容

第１回　演習のイントロダクション
第２回　グローバル化とは何か？
第３回　グローバル化と都市
第４回　産業・労働構造の変容と二極化社会
第５回　都市空間と貧困の拡がり
第６回　活発化する再開発の波
第７回　アカデミックスキルの習得：ペーパーの書き方
第８回　脱工業化時代の都市開発戦略
第９回　台頭するアジアの都市①：成長の動力
第10回　台頭するアジアの都市②：格差の現場
第11回　外国人労働者・移民と都市環境
第12回　多民族社会・多文化共生の現実と課題
第13回　東京のあり方を考える
第14回　演習のまとめ

３．履修上の注意

以下の点を確認のうえ、慎重に受講を決めること。
＊学ぶ意欲のある学生を対象にしているため、かなりの予習・復習が受講の前提になること。
＊国際的なイシューに興味をもち，3年次以降に国際系のゼミを考えている学生を対象にしていること。
＊ディスカッションやグループワークといったゼミの形式に沿うものだが，個人で課題をおこなう演習の要素も含んでいるため、それらの点を理解の上で参加すること。
＊このゼミの詳細なシラバスは、初回授業に紙で配布する。それを参照のこと。
出席率が著しく低い場合（3分の2を下回るなど）は、最終評価の対象から外すので注意すること。ただし、やむを得ない理由での欠席については、特別の措置を検討することもあるため、随時、担当教員にまで連絡･相談のこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

受講生は，毎回，指定された課題文献・資料を必ず読み，要点や関心のある点を整理しておくこと。その予習を軸にして，授業内でグループでのディスカッションを進めてもらう。

５．教科書

各回のトピックに合わせた文献を提示する。

６．参考書

特になし。適宜，授業内で紹介・周知する。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業内において、コメントやフィードバックを返すことで、受講生の理解を深めていく。

８．成績評価の方法

30％　個人課題
70％　平常点（出席だけでなく，ディスカッションや発表への参加・貢献度などを重視）

９．その他

状況によっては題目や順番に変更が入る場合も考えられる。その際は、早急に変更を周知する。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**竹崎　一真**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
本授業は、スポーツをテーマに社会学的洞察力を養う演習授業です。「スポーツは社会の縮図」と呼ばれるほど、社会の現状や課題、そして未来を映し出しています。とりわけ、人種やジェンダー、障害、民族といったマイノリティ性に関わる問題は、オリンピックなどのメガスポーツイベントでは必ず噴出します。また近年では科学時術の進展がもたらす社会への功罪がスポーツの内部で見られるようになりました。
本授業ではそうしたスポーツをテーマにすることで現代の社会問題について広く考察していきます。
【到達目標】
スポーツを通じて社会問題を認識し、その課題解決を考える下地を作ることを目標とします。

２．授業内容
第１回　クラスの概要説明
第２回　文献講読１－①
第３回　文献講読１－②
第４回　文献講読１－③
第５回　文献講読２－①
第６回　文献講読２－②
第７回　文献講読２－③
第８回　研究プロジェクト①グループ
第９回　研究プロジェクト②グループ
第10回　研究プロジェクト③グループ
第11回　研究成果発表①グループ
第12回　研究成果発表②グループ
第13回　研究成果発表③グループ
第14回　まとめ

３．履修上の注意
予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
グループで研究を行ってもらいます。ゼミ以外での学習（研究）時間を確保してください。

５．教科書
石岡丈昇編『スポーツで社会学する』有斐閣（２０２６年）

６．参考書
適宜、紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
毎授業時に行います。

８．成績評価の方法
平常点50%、研究発表50%

９．その他
何かあれば連絡します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**竹中　克久**

１．授業の概要・到達目標
現代社会においては、組織とかかわらずに社会生活を営むことは難しい。学校という組織以外の場所で学ぶことは難しいし、病院という組織以外の場所で病気を治療することも難しい。また、多くの労働者は、企業や行政機関といった組織で給与を得るだろうし、多くの消費者は、企業や行政機関といった組織から製品やサービスを享受しているだろう。このように私たちは組織と深く関わりを持っており、そのために組織と社会について学ぶ必要がある。
組織とは個人ではなしえないことを可能にするために、人間が産み出した発明品である。この発明品は非常に優れており、大きな成果を生み出すこともあれば、そこに所属することによって愛着などの感情を得ることを可能にし､居場所ともなり得る。これは組織の「正」の側面といっていいだろう。
ところが、組織は成果を生み出すために犠牲となる存在、すなわち、「過労死」「過労自殺」を産み出すこともある。また、組織内である種の価値観の押しつけ＝洗脳が行われることによって、愛着に見せかけた絶対的な忠誠心をメンバーに持たせることもある。その意味では、居場所だと信じていたところは監獄かもしれない。これは組織の「負」の側面といえるだろう。
　本ゼミナールでは、論文や記事を輪読することによって、組織という対象について深く学び、組織の「正負」の側面を分析できる能力を身につけることを目標とする。また組織にかかわる問題として、家族や運動といった現象についても取り上げる。

２．授業内容
第１回　aのみ：イントロダクション――組織社会学とは何か
第２回　論文読解1：組織とコミュニケーション
第３回　記事読解1：社内恋愛
第４回　論文読解2：現代社会における家族の変容
第５回　記事読解2：GAFAと愛社精神
第６回　論文読解3：ヘイトスピーチ
第７回　記事読解3：人前で泣くリーダー
第８回　論文読解4：テレワークでの社員監視がもたらす5つの恐怖
第９回　記事読解4：カスハラ
第10回　論文読解5：監視社会と組織
第11回　記事読解5：理不尽な校則
第12回　論文読解6：なぜ「貧困」という問題が表面化しないのか
第13回　記事読解6：AI婚活
第14回　まとめ
※内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
事前準備ならびにディスカッションへ積極的な取り組みが必要となる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
必ず事前に論文・記事を熟読し、与えられた課題について自らの考えを用意して臨むこと。

５．教科書
教科書は使用しない予定である。論文・記事はOh-o!Meijiにupする。

６．参考書
特に使用する予定はない。

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回のディスカッションにおいて、フィードバックを行う。

８．成績評価の方法
平常点50%、ディスカッション25%、レポート25%

９．その他
物事について深く考えるのが好きな学生、物事を疑ってかかる学生を歓迎する。また、記事・論文を精読する文章読解能力を有していることが必要である。
質問等は基本的にゼミ中に受け付けるが、急な場合はtakenakakatsuhisa[@]hotmail.com（[ ]を外してください）に氏名を件名に入れて連絡すること。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**田村　　理**

１．授業の概要・到達目標

みなさんにとって自由とはどんなものでしょうか？イヤなことをやらないこと、やりたいことをじゃまされないことなど、自由の理解も当然ながら様々です。

フランス1789年人権宣言第4条は「自由とは他人を害さないすべてのことをすることができること」であると定義しています。「やりたいことがある人は好きにやってよい」ということが定められいるように読めます。もちろん、「やりたくないことを無理にやらされない」こともそこに含まれていると理解することはできます。では、「やりたくないことは何もしなくてもなんとかしてもらえる」ことはどうでしょうか？

「何もしない方が得」という「合理的な選択」を消極的利己主義と名付け、「何もしない病」が蔓延する日本社会の構造を分析し、解決策を模索する太田肇『何もしない方が得な日本――社会に広がる「消極的利己主義」の構造』（PHP新書・2022年）を題材に、どのような自由が私たちと私たちの社会にとって必要とされているのか、社会で自由に楽しくすごしていくために私たち自身は何をしたらよいのか、何をしてはならないのかを考えます。

２．授業内容

第１回：ゼミの目的と方法；ガイダンス
第２回：私が「やりたいこと」「やりたくないこと」と社会の関係をみんなで語り合おう
第３回～第10回：テキストの講読
第11回～第14回：各自の課題報告

３．履修上の注意

出席して、言われたことをやっているだけの参加者には単位を出しません。

ゼミ時間外にも時間を割いて、自分がこれまで蓄えてきたものとはちがう新しい知識を身につけ、それを使って行う新しい思考と主張の方法を身につけるために積極的に取り組む意思をもって受講してください。

また、ゼミは共通のテーマを皆で分担して調べ、議論して理解を深める場所ですので、明確な理由もなく、事前の報告もなく遅刻・欠席されると仕事の分担を任せることができません。したがって、遅刻･欠席は減点します。また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。

どうしても避けがたい理由で欠席しなければならない時は事前に事情を説明し、ゼミ全体の了解をとってください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

○予習

第3回から第10回は、教科書に指定した本を全員で読んで、議論します。これについては、毎回全員に要旨のまとめ、疑問点を文章で提出してもらい、それに基づいて議論します。

○復習

授業中の議論で解決できなかった問題については持ち帰って調べ、文章で報告してもらいます（復習）。

５．教科書

太田肇『何もしない方が得な日本――社会に広がる「消極的利己主義」の構造』（PHP新書・2022年）

６．参考書

７．課題に対するフィードバックの方法

課題は必ずゼミの時間中に全員で共有し、それに対するフィードバックも原則として授業中に行って参加者全員で共有することにします。

授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各ゼミ生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等でフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法

以下の配点で成績評価をします。
○ゼミ中の報告・提出物、発言・質疑・応答：５０点
○学期末提出のレポート：５０点

レポートは「私の自由と社会」を大テーマに、各自で具体的題材を選択してまとめてもらうこととします。具体的なことは参加者のみなさんと相談の上、決めていきます。

※正当な理由を事前に知らせないままの遅刻・欠席は減点します。
また、全体の三分の一以上欠席した場合は、単位認定をしません。

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**中川　雄大**

１．授業の概要・到達目標

大学では自らの関心にしたがって、「ある主張を提示し、その主張が正しいことを論証する」力を身に着けなければならない。このような知的生産という実践は学術界において論文等を通じてなされるが、それ以外の社会においても必要なスキルである。この能力を育成するためには、自らが社会の一員であることを認識した上で、自身の問題関心を深く掘り下げつつ、適切に文献を読み解き、調査を実施したうえで、それらを解釈し、相手に理解できるように表現しなければならない。本授業では、都市社会学・地域社会学・歴史社会学の精読を通じた議論とレポート執筆等の活動を通じて、これらのテクニックとルールを身につける。

都市はさまざまな再開発を通じてマクロに大きな変化を経験し、メディアや技術はこうした都市の変化を後押ししている。だが、同時に都市は人々にとっての生活の場でもあり、人々は都市のあり方を根本から規定する地形的条件や、変貌する社会的条件と日々交渉しながら、日常的な生活を継続している。

この授業では都市の変容のなかで、生じる新しいモノや現象と、消えていく古いモノや現象について着目しながら、そこには、どのような社会的な力が働いているのか、どのような人々の欲望や関係性があるのか検討する。その上で自ら都市空間の歴史についてリサーチし、人々の生活史も含め、地域の歴史的地層を把握する視点を育む。この作業を通じて、受講者にはもっとも身近な社会の一つである「都市」や「地域」を批判的に考える力を身に着けてほしい。

1.「儀礼的無関心」「第三空間」といった都市・地域に関する社会学の基本概念を用い、身近な空間を社会学的な視点から考察できる基礎学力を形成する。
2. 社会学を中心とした学術的な文章のロジック（情報の収集・処理・展開）を的確に読解する力を養う。
3. レポート作成を通じて、自身の観察と客観的データを融合させ、説得力のある文章を執筆できるようになる

２．授業内容

第１回：ガイダンス：都市の「無印」とは何か
第２回：課題の論文を読み，議論する①
第３回：課題の論文を読み，議論する②
第４回：「都市の歴史」の調査報告①
第５回：「都市の歴史」の調査報告②
第６回：課題の論文を読み，議論する③
第７回：課題の論文を読み，議論する④
第８回：「都市の歴史」の調査報告③
第９回：「都市の歴史」の調査報告④
第10回：課題の論文を読み，議論する⑤
第11回：課題の論文を読み，議論する⑥
第12回：課題の論文を読み，議論する⑦
第13回：最終プレゼンテーション（1）
第14回：最終プレゼンテーション（2）
授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。

３．履修上の注意

1）参考書に挙げている文献の購入を求める場合があります。また、都内における調査の交通費が必要です。
2）毎回必ず、PCまたはタブレットを持参するようにしてください。
3）出席の「回数」そのものは成績評価の対象ではありませんが、10回以上の出席が必要です。つまり、5回欠席した時点でアウトということです。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

文献輪読やプレゼンテーションの準備、フィールドワークの実施。

５．教科書

田中大介（2025）『電車で怒られた！：「社会の縮図」としての鉄道マナー史』（光文社）

６．参考書

清水亮（2023）『軍都を生きる：霞ヶ浦の生活史1919－1968』（岩波書店）
吉見俊哉・若林幹夫編（2005）『東京スタディーズ』（紀伊国屋書店）
岸政彦（2025）『生活史の方法』（筑摩書房）

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントやアドバイスをする。

８．成績評価の方法

平常点60%、レポート40%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**中里　裕美**

１．授業の概要・到達目標

本ゼミナールでは、社会学をはじめ経営学、政治学、人類学、社会疫学といった幅広い分野で近年発展を遂げてきている「社会ネットワーク分析」をテーマとします。社会ネットワーク分析は構造主義的なモノに対する考え方が背後にあり、行為者の属性ではなく、その「関係性」に着目して現象を捉えようとする方法論になります。そして、社会ネットワーク分析の対象は、人間関係から企業・組織間関係、国家間の関係など様々なものが含まれます。

本ゼミナールでは、このような社会ネットワーク分析にかんする基礎知識を習得するとともに、実際の関係データを分析することを通して、自己と他者、そして社会現象に対する多角的な視点を身につけてもらうことをねらいとします。

本ゼミナールは、以下のスケジュールで進める予定です。

まず、テキストを輪読して、ネットワーク分析の背後にある理論やこれまでのネットワーク分析を用いた研究事例など、基礎的な事柄について学びます。またその過程で、様々なネットワークの事例を紹介するので、人間関係のネットワークを中心に、各自が関心のある／研究してみたい分野・領域のネットワークを決めてもらいます。そして、そのネットワークを分析するためのデータの作成とその解析用のソフトウェア（UCINET）に関する知識を深めてもらうとともに、受講生は関心領域別のグループに分かれて、それぞれのネットワークを分析してもらいます。また、その結果を授業内にて報告・議論し、その成果を「最終レポート」としてまとめてもらいます。

２．授業内容

第１回　イントロダクション（文献担当決め等）
第２回　ネットワーク分析とは（テキスト第1章）
第３回　ネットワークのデータとモデル①（テキスト第2章前半）
第４回　ネットワークのデータとモデル②（テキスト第2章後半）
第５回　ネットワーク分析の応用研究①（テキスト第3章前半）
第６回　ネットワーク分析の応用研究②（テキスト第3章後半）
第７回　ネットワークを支えるもの（テキスト第4章）
第８回　ネットワーク分析（UCINET）の実習（1）
第９回　ネットワーク分析（UCINET）の実習（2）
第10回　中間報告会
第11回　データ分析とまとめ（1）
第12回　データ分析とまとめ（2）
第13回　成果報告会（1）
第14回　成果報告会（2）
履修者数などにより、授業内容の配分を変更することがあります。

３．履修上の注意

ゼミ形式のため、出席や平常点を重視します。また、社会ネットワーク分析を行うためのWindowsが使用できるノートＰＣを各自で用意してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、テキストの該当部分を事前に読んでおくこと。

５．教科書

『ネットワーク分析―何が行為を決定するか』安田雪著（新曜社）1997年
※初回の授業にて教科書を配布する予定のため、個人で事前に購入しないようにして下さい。

６．参考書

授業時に随時紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

各報告に対するフィードバックは、授業内等にて行います。

８．成績評価の方法

平常点50%、最終レポート50%

９．その他

グループ単位で行ってもらう課題が多いため、他の受講生と協働しつつ、積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を期待します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**波照間　永子**

１．授業の概要・到達目標

「和文化」の魅力を発見し伝えよう：琉球舞踊ワークショップ

授業の概要

「和文化」は、日本を訪れる外国人からみると非常に魅力的で高い関心を持たれていますが、私たちは「和文化」について、どれだけ知っているでしょうか。その魅力を伝えることはできますか？

本演習は、「和文化」のなかから「琉球舞踊」をとりあげ、その表現特性を、舞踊史等の理論だけでなく、実践（舞踊の実技）を通して修得することを目的とします。

到達目標

「和文化」の魅力を、自身の「言葉」と「体」で表現できるようになることを目標とします。

さらに、自身が紹介したい文化（和文化でなくても良い）を一つとりあげ、その魅力を探求し発表します。

芸術文化の研究や発信を通して、日本と世界をつなぐ架け橋になりたいと希望している人はぜひ受講していください。留学生も歓迎します。

２．授業内容

第１回　ガイダンス（授業計画と評価の方法）
基礎実習
第２回　琉球舞踊の概要
第３回　《貫花》の歌詞〈貫花〉・実技①
第４回　《貫花》の歌詞〈貫花〉・実技②
第５回　《貫花》の歌詞〈貫花〉・実技③
第６回　《貫花》の歌詞〈南嶽節〉・実技④
第７回　《貫花》の歌詞〈南嶽節〉・実技⑤
第８回　《貫花》の歌詞〈南嶽節〉・実技⑥
創作実習
第９回　　フォーメーションの創作実習⑦　グループワーク
第10回　フォーメーションの創作実習⑧　グループワーク
第11回　フォーメーションの創作実習⑨　グループワーク
発表と交流
第12回　作品発表会
第13回　作品動画の鑑賞会・振り返り
第14回　最終課題の研究発表・レポート「私が伝えたい文化：（　副題は各自で設定　）」
上記の計画は受講生の理解度や関心に応じて多少変更することがあります。

３．履修上の注意

浴衣一式が必要です。無ければ学部の備品をかしだします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業で実習した内容（歌詞と振付）を復習しておいてください。授業開始時に確認します。
第１回ガイダンスで提示した最終課題「私が伝えたい文化」（発表・レポート）について準備しておくようにしてください。適宜、進捗報告をしてもらいます。

５．教科書

授業時に必要な資料を配布します。

６．参考書

勝方＝稲福恵子，　前嵩西 一馬編『沖縄学入門－空腹の作法－』昭和堂
ほか、適宜授業時に紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業時に実施する小レポートは、次の授業で講評します。
作品発表会および最終課題の研究発表では、その場でコメントします。

８．成績評価の方法

舞踊実技到達度・作品（20%）、最終レポート（20%）、授業時の小レポート（60%）

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**日置　貴之**

１．授業の概要・到達目標

【授業概要】

「奉納」と文化・芸術について考える。

奉納とは神仏等に供物を捧げる行為であるが、そこで捧げられる供物は神酒等の飲食物や金銭にとどまらず、近代的なジャンル意識で言えば絵画、彫刻、文学（和歌等）、音楽、芸能、建築など多岐にわたる。そして、これらの供物は神仏を崇め、喜ばせるという本来の目的にとどまらず、奉納をおこなう当事者たち、あるいはその行為や供物を目撃する第三者をも喜ばせるものへと発展していった。

たとえば、絵馬は元来は生きた馬の代替物として神仏に奉納される像や絵画であったものが、次第に名高い絵師に製作が依頼されるようになり、そうした絵馬が掲げられた寺社の絵馬堂は、一種の美術館のようになっていった。こうした現象は今日でも生きており、東京・浅草寺の絵馬堂（通常時は非公開）には歌川国芳など江戸時代の著名な絵師の絵馬とともに漫画家・青山剛昌氏による絵馬が収められているし、人気歌手が奉納として寺社で歌うことも珍しくない。

この授業では、文献講読だけでなく、実際の寺社等におけるフィールドワークもおり混ぜながら､「奉納文化」について総合的に考えたい。

【到達目標】

文化・芸術について、それが生み出された時代・社会等の背景を含むさまざまな観点から分析をおこない、自らの考えを他者にわかりやすく伝えることができるようになる。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　文献講読とディスカッション（1）
第３回　文献購読とディスカッション（2）
第４回　文献購読とディスカッション（3）
第５回　文献購読とディスカッション（4）
第６回　フィールドワーク（1）
第７回　フィールドワーク（2）
第８回　受講者による発表（1）
第９回　受講者による発表（2）
第10回　受講者による発表（3）
第11回　受講者による発表（4）
第12回　受講者による発表（5）
第13回　受講者による発表（6）
第14回　まとめ

３．履修上の注意

・フィールドワークをおこなう予定であるが、行き先や日程については受講者とも相談の上、本来の開講時限以外の日時（週末等）に実施する。
・授業におけるディスカッションには積極的に臨むこと。
・各回の授業後にクラスウェブ上でコメント・質問等を提出すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

・各回の授業で取り上げる文献などを必ず事前に読んだ上で、疑問点の確認等をおこなうこと。
・授業中の指示や他の受講者との相談にもとづいて、授業時間外にも文献の調査やフィールドワーク等をおこなってもらう。

５．教科書

特に指定しない。

６．参考書

岩井宏實『絵馬』法政大学出版局、1974年
岩井宏實『絵馬に願いを』二玄社、2007年
木下直之『美術という見世物』講談社学術文庫、2010年
小島独観『奉納百景　神様にどうしても伝えたい願い』駒草出版、2018年
台東区教育委員会編『浅草寺の絵馬と扁額』（資料篇・解説論考篇）台東区教育委員会、2015年
この他，必要に応じて指示する。

７．課題に対するフィードバックの方法

各回授業後に提出された質問・コメントについては必要に応じて次の回の授業時、またはクラスウェブ上でフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法

授業におけるディスカッション等への参加･貢献度（50%）､発表（50%）。

９．その他

心身の条件等により受講に際して特別の配慮を希望する場合には、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへご連絡いただければ、授業準備の段階から各自の事情に応じた対応を検討することが可能です。
なお、教員が作成する授業資料には原則としてUDフォントを使用し(既刊書籍からのコピー等は除く)、PDFファイルの形式で事前にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**蛭川　　立**

１．授業の概要・到達目標

脳神経科学と意識科学の基礎を学ぶ。イギリスで出版されている人文科学系の超小型入門シリーズ「A Very Short Introduction」は、日本語では「〈一冊でわかる〉」シリーズとして翻訳されている。このうち「脳」と「意識」の二冊をテキストにして輪読する。全体として、脳神経系の生化学から、知覚や認知、意識と自我、そして夢や変性意識状態へと議論を進めるが、具体的な内容については、「授業内容」を参照のこと。

２．授業内容

第１回：脳を考える
第２回：体液から細胞へ
第３回：脳の中の情報伝達
第４回：ビッグバンからビッグブレインまで
第５回：感覚・知覚・行為
第６回：記憶はこうしてできる
第７回：なぜ意識は謎なのか
第８回：人間の脳
第９回：時間と空間
第10回：壮大な錯覚
第11回：自我
第12回：意識的な意志
第13回：変性意識状態
第14回：意識の進化

３．履修上の注意

発表担当以外の授業でも積極的にディスカッションに参加すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予備知識は必要ないが、高校生ていどの生物学の知識があれば、なおよい。

５．教科書

オーシェイ, M., 山下博志（訳）(2009).『一冊でわかる 脳』岩波書店.
オーシェイ, M., 山下博志（訳）(2009).『一冊でわかる 脳』岩波書店.
（原書は、O'Shea, M. (2005).*The Brain: A Very Short Introduction.* Oxford University Press.）
ブラックモア, S., 篠原幸弘・筒井春香・西堤優（訳）(2010).『一冊でわかる 意識』岩波書店.
（原書は：Blackmore, S. (2005).*Consciousness: A Very Short Introduction.* Oxford University Press.）

６．参考書

特に指定しない。

７．課題に対するフィードバックの方法

演習形式の授業なので、授業中のディスカッションの中でフィードバックを行う。また、授業に連動したWEBサイトでも授業内容についてのコメントを随時更新していく。

８．成績評価の方法

演習に出席して発表しディスカッションを行う（100%）

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	堀口　悦子

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】　本ゼミナールでは、アメリカのフェミニズムの歴史を、教科書を用いて概観してみよう。「フェミニスト」とは誰か、という問題について、テキストを読みながら、「ミソジニー」など関連の問題を含めて学んでいく。「フェミニスト」は怖い、などのイメージがあるだろうが、それはなぜ、そう思うのだろうか。深く考えてみよう。

大阪なおみ、ローザ・パークス、アンジェラ・Ｙ・デービス、ハウナニ＝ケイ・トラクス、、ルース・ベイダー・ギンズバーグなどの名前を知っていたか。教科書を通して、10名の女性を知ろう。

【到達目標】　到達目標は、テキストを読むことで、ジェンダーを含めた、多様な考え方を知ることである。また、実践として、外部に向けてのワークショップなどを行い、積極的にプレゼンテーションができるようにすることである。随時、感想文など、書く力をつける課題も用意しているので、提出物は忘れないこと。

【外部活動】　11月の週末には、東京ウィメンズプラザ（都内表参道駅下車）のフォーラムまつりで、ゼミ生参加のワークショップを行う。参加費は無料。交通費は必要である。

秋の土曜日の本学部の「学の情コミ　研究交流祭」にも、ゼミとして報告・参加する。

そのほか、大学生として参加する意義のあるワークショップには、積極的に参加したい。

以上のようなワークショップにより、ゼミ活動を外部に発信する。東京ウィメンズプラザは、都内にあり、行政関係の資料などがそろっているので、こちらもぜひ、活用してほしい。

【要望】　学ぶことは、効率の悪いことである。学問に王道なし。ショートカットでよいのだろうか。無駄だと思っても、いろいろなことに挑戦してほしい。積極的で、やる気がある学生を求める。積極的でなくても、やる気がなくても、本ゼミに入れば、心持ちに変化が生じることを願う。

各イベントの参加したのち、その「参加の記録」をレポートとして書いてもらう。自分及び自分のチームが報告するだけでなく、他の人や団体の報告にも関心を持ってほしい。

２．授業内容

第１回　イントロダクション：　フェミニズムとは―第1波フェミニズムと第2波フェミニズムー女性参政権の歴史など
第２回　教科書の報告と検討(1)・チームごとの研究
第３回　教科書の報告と検討(2)・チームごとの研究
第４回　教科書の報告と検討(3)・チームごとの研究
第５回　教科書の報告と討論(4)・チームごとの研究
第６回　教科書の報告と討論(5)・チームごとの研究
第７回　教科書の報告と討論(6)・チームごとの研究
第８回　教科書の報告と討論(7)・チームごとの研究
第９回　教科書の報告と討論(8)・チームごとの研究
第10回　教科書の報告と討論(9)・チームごとの研究
第11回　教科書の報告と討論(10)・チームごとの研究
第12回　チームごとの研究
第13回　チームごとの研究
第14回　チームごとの研究・まとめ

関連する映画などを鑑賞する予定である。

予定は変更する可能性もある。

３．履修上の注意

毎日の生活を、好奇心を持って生活してほしい。ニュースに関心を持とう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

太宰治『人間失格』を読んでおいてください。

５．教科書

『私たちが声を上げるとき　アメリカを変えた10の問い』　和泉真澄・坂下史子・土屋和代・三牧聖子・吉原真里著　集英社新書　2022年

６．参考書

『私たちには言葉が必要だ　フェミニストは黙らない』　イ・ミンギョン著　すんみ、小山内園子訳　タバブックス
『差別はたいてい悪意のない人がする』　キム・ジへ著、尹治景訳、大槻書店
『女嫌い』　上野千鶴子、朝日文庫
『早く絶版になってほしい＃駄言辞典』日経BP

７．課題に対するフィードバックの方法

随時、課題へのフィードバックを行う。最終のゼミで、全体の課題へのフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

毎回のゼミへの参加姿勢80％、課外活動等への参加０％、提出物２０％
できるだけ、課外活動等にも参加参画してほしい。

９．その他

映画やドラマを観たり、小説や漫画を読んだり、学割の使える映画や美術展などを、貪欲に観に行ったり、してほしい。

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	増野　亜子

１．授業の概要・到達目標

[概要]この授業の年間を通したテーマは「音楽・人・社会」です。この授業では音楽を演奏したり、聞いて楽しんだりするだけでなく、音楽が人間にとってどのような意味をもっているのか、社会の中で音楽はどのような役割を果たしているのかという問いについて考察します。そもそも人間は太古の昔から歌を歌い、石や骨で楽器を作り、音や音楽によって他者とコミュニケーションしてきました。テクノロジーが発達した現在でも、音楽は人々の社会や生活の中で重要な役割を担っています。歴史を通して音楽は単なる娯楽ではなく、人々の労働や祈りとともにあり、また政治や社会制度や歴史と密に連動する文化の一部なのです。

授業では単純に音楽をエンターテインメントとして楽しむだけでなく、音楽の構造や社会的背景を考察の対象とします。また世代や地域の異なる人々、あるいは異文化の社会における多様な音楽のありかたを知ることを通して、人間と社会について理解することを目指します。人と音楽のかかわりのあり方について、楽器演奏、文献や情報のリサーチ、他の履修生とのディスカッションやプレゼンテーション、インタビューなど様々な方法を試みながら、音楽について学びましょう。

後期のテーマは「社会の中での音楽」です。(1) 文献を読み、グループでディスカッションする、(2)異文化の音楽を体験的に知るワークショップ、(3)「音楽とジェンダー」「音楽と政治」「音楽とテクノロジー」「音楽と社会」の4つのテーマの中から各自が題材を選んで行う個人研究に基づくプレゼンテーションを実施します。

[目標]　授業の目標は以下の3点です。
①音楽に関する従来の自身の考え方や音の聞き方を更新し、より広い視点（あるいは「聴点」）を身につける
②音楽を通して、自分と異なる価値観や習慣を持つ他者や他文化について理解する
③音楽について言語化し、また学術的に調査考察する基本的方法を学ぶ

２．授業内容

(1) 文献講読とディスカッション①　「ミュージッキング」を考える
(2) 文献講読とディスカッション②　「参加型音楽」を考える
(3) 文献講読とディスカッション③　「音楽と現代社会」について考える
(4) 世界の音楽文化ワークショップ①　楽器から考える
(5) 世界の音楽文化ワークショップ②　体から考える
(6) 研究発表① 音楽とジェンダー　　日本の事例から
(7) 研究発表② 音楽とジェンダー　　世界の事例から
(8) 研究発表③ 音楽と政治　社会運動と音楽
(9) 研究発表④ 音楽と政治　国家と音楽
(10) 研究発表⑤ 音楽とテクノロジー　　録音とメディア
(11) 研究発表⑥ 音楽とテクノロジー　　障害と音楽
(12) 研究発表⑦ 音楽と現代社会　　AIと著作権
(13) 研究発表⑧ 音楽と現代社会　　観光と音楽
(14) まとめ・講評

３．履修上の注意

(1) 音楽に関する授業ですが、五線譜の読譜能力や楽器の演奏経験の有無や能力は問いません。ただし授業では声を出したり、手を叩いたり、楽器を演奏するといった実践的なワークショップも行いますので、主体的に参加してください。
(2) この授業は基本的に学生自身が考察・調査・発表し、互いに議論したりコメントしたりすることを重視します。ディスカッション、研究発表、簡単なインタビュー調査などを行います。
(3) 履修生の関心や調査の進度によって授業の構成や順番は一部変更になることがあります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業回によって研究発表の準備やミニ調査など、準備が必要な課題があります。①資料検索、②動画の事前視聴、③プレゼンテーションの準備、④周囲の友人や家族に対する簡単なインタビュー、⑤リサーチ結果のまとめなどです。履修生が順番に発表を行うため、発表準備が特に必要な回とそうではない回があることが考えられますが、授業回数で平均すると各回1時間以上の授業時間外学習が必要です。

５．教科書

特になし

６．参考書

クリストファー・スモール『ミュージッキング』野澤豊一・西島千尋訳、水声社
トマス・トゥリノ『ミュージック・アズ・ソーシャル・ライフ 歌い踊ることをめぐる政治』、野澤豊一・西島千尋訳、水声社
徳丸吉彦監修、増野亜子編、『民族音楽学12の視点』音楽之友社

７．課題に対するフィードバックの方法

発表やディスカッション、提出課題に関しては、原則として直接、授業時間内に総合的なコメントやフィードバックを行うほか、必要に応じて個人的なフィードバックや、oh-o! Meijiでの総合的なコメント公開を行います。

８．成績評価の方法

平常点（授業への積極的参加と授業内課題）60%、期末試験40%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**山口　生史**

１．授業の概要・到達目標
このゼミナールのテーマは「組織コミュニケーションとビジネスコミュニケーション」です。具体的には、以下のテーマを研究します（１）国際ビジネスコミュニケーションで使われる英語やコミュニケーションスタイル、（２）グローバル企業の海外のステークホルダーとのコミュニケーション、（３）ビジネス活動における異文化コミュニケーション、（４）リーダー―メンバー間のコミュニケーションとメンバーの態度（職務満足など）や行動（離職行動の抑制等）、職務遂行・業績（パフォーマンス）の関係、（５）組織内の情報共有や情報の流れ（情報フロー）を阻害する要因とその影響、そしてその方策、（６）クライシスマネジメントとクライシスコミュニケーション。（１）、（２）、（３）は、国際ビジネス活動において実践的に使われる国際・異文化間ビジネスコミュニケーションのテーマです。（４）と（５）は、組織内のビジネスコミュニケーションがテーマです。（６）は、組織の危機的状況におけるコミュニケーションですので、組織コミュニケーションのテーマといえるでしょう。これらのテーマに関して、指定教科書を読み、それを元に議論をします。さらにこれらのテーマに関して受講生が事例を探して、それを説明して議論をして、組織コミュニケーションとビジネスコミュニケーションのビジネス活動における重要性を理解することが達成目標です。また、各テーマを教科書と議論で理解したうえで、自分で事例を探し分析することで、これらのテーマの理解をより深めるとともに応用力を高めることもこのゼミナールの達成目標です。

２．授業内容
第１回　(a) クラスの概要説明; (b) 組織コミュニケーションとビジネスコミュニケーションとは
第２回　発表 (1)：国際ビジネスコミュニケーションで使われる英語やコミュニケーションスタイル
第３回　発表 (2)：グローバル企業の海外のステークホルダーとのコミュニケーション、
第４回　発表 (3)：ビジネス活動における異文化コミュニケーション
第５回　発表 (4)：リーダー―メンバー間のコミュニケーションとメンバーの態度（職務満足など）や行動（離職行動の抑制等）、職務遂行・業績（パフォーマンス）の関係、
第６回　発表 (5)：組織内の情報共有や情報の流れ（情報フロー）を阻害する要因とその影響、そしてその方策
第７回　発表 (6)；クライシスマネジメントとクライシスコミュニケーション
第８回　事例発表 (1)
第９回　事例発表 (2)
第10回　事例発表 (3)
第11回　事例発表 (4)
第12回　事例発表 (5)
第13回　事例発表 (6)
第14回　事例発表 (7)
＊諸般の事情（履修者の人数など）により変更の可能性はあります。第2回～第7回までの発表は、教科書の各章の内容に関しての発表です。第8回からの事例の内容は、第2回～第7回までの内容に対応しています、受講生各自がそれぞれのテーマの事例を探して、その事例を分析することが課題となります。

３．履修上の注意
課題などの提出は期限を厳守して下さい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
教科書各章のリーディングのサマリー提出（課題）が必要です。自分でケースを探し、分析してくることが必要です。

５．教科書
国際ビジネスコミュニケーション学会編 (2005)『ビジネスコミュニケーション入門―基本理論と実践への活用―』創成社

６．参考書
クラスにて適宜紹介

７．課題に対するフィードバックの方法
提出された課題に対しては、コメントあるいは解説を返すことによりフィードバックを行います。

８．成績評価の方法
出席が十分であれば、以下の項目の以下の通りに評価します（以下のいずれかの項目で提出0回、発表0回の場合は評価の対象になりません）。
ファイナルペーパー 40%；
課題 40%；
プレゼンテーション 20%

９．その他

科目ナンバー：(IC)IND212J

問題発見テーマ演習Ｂ

２単位	２年次	**和田　　悟**

１．授業の概要・到達目標
本ゼミナールでは、人気の高いマイコンボードを使って、基本的な電子回路を組みながらプログラミングを学びます。LEDを光らせたり、音をだしたり、センサーを通じて、コンピュータと私たちの住む物理的な世界を繋げることを学びます。「IoT」や「フィジカルAI」といった今後の社会に大きな影響をあたえる技術動向について、より具体的なイメージをもって理解することを目的とします。
実習を通じてプログラミングの基本を習得し、自分自身でも簡単な簡単な回路を動かすプログラムを自分で書けるようになることを到達目標とします。

２．授業内容
第１回　イントロダクション、使用する開発環境の準備、教材配布
第２回　プログラミングの基礎 (1) LED制御で学ぶ回路とプログラム・・・基礎
第３回　プログラミングの基礎 (2) LED制御で学ぶ回路とプログラム・・・制御構造
第４回　プログラミングの基礎 (3) LED制御で学ぶ回路とプログラム・・・関数の定義など
第５回　ボタンを使った制御 / シリアル通信の利用 (通信速度、通信方式)
第６回　ブザーを使って音を出すなどその他の出力の利用
第7回.　実習で使う回路や部品の基本的な知識の理解
第８回　アナログ入力の利用(1)・・・・可変抵抗、光センサーなど
第９回　アナログ入力の利用(2)・・・・センサーの値を利用するプログラムを考える
第10回　I2C通信と液晶表示器・・・・・回路の作成と動作確認
第10回　I2Cデバイスの追加 温湿度センサーの追加
第11回　ここまでのまとめと調整
第12回　他のデバイスとの通信（音声合成 または Wi-Fi接続）
第13回　他のデバイスとの通信（続き）
第14回　まとめ

３．履修上の注意
授業中にプログラムや電子回路を組んだりすることになります。
サンプルプログラムを動かしたり、改良しながら学習を進めます。事前にプログラミングに関する知識がなくても取り組めますが、授業中はプログラミング言語の文法などについて授業中に多くの時間を割くことはできないので、必要に応じて、プログラミングに関する知識を自分自身で補う努力をしてもらいたいと思います。使用するプログラミング言語は「C」(からの派生言語)です。
授業では学生同士で互いに助け合いながら課題に取り組んでもらいます。実際に集まった受講者と相談しながら、じっくり進めるようにします。逆にこの授業は入門レベルです。この分野について経験や経験がある人にはもの足りないかもしれません。敢えて履修する場合には、他の学生へのサポートなどで力を発揮してください。
この授業は継続して回路を組み上げてゆくので、毎回継続して授業に出席することを前提としています。継続して出席できる方のみ履修をしてください。特に初回は欠席しないようにしてください。
【授業進め方】
実習：原則として個人作業。ただし、計測器の共有、不具合の確認や回路の見比べなど周囲と相談する時間はあります。
発表：ありません。
　マイコンや部品などは学部の助成金制度などを活用して担当者が用意しますが、実習で使うPC(WindowsまたはMacであることが必要。タブレット端末は不可)は各自で持参してください。PCへの開発環境のインストールなど事前に準備して欲しいこともあるので、春学期終わり頃からのOh-o!Meijiのお知らせに注意してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
夏休みに、初回授業までに準備すべきこと（開発のインストールなど）を指示します。必ず事前に行っておいてください。
実習は主に教室で行います。応用例について自分で考えたり、授業中は、実際に手を動かしてサンプルプログラムをもとにトライ・アンド・エラーを楽しんでほしいと思います。
実習の前提となる知識やその定着には配付資料、小テスト等を活用します。特に授業前半2～7回では、事前の予習資料を配布し、小テストを実施し知識の定着を図りながら進める予定なので、指示通り学習のうえ授業に臨んでください。

５．教科書
必要な資料は配付しますが、初心者は参考書に挙げた『Arduinoをはじめよう』の入手をすすめます。

６．参考書
『Arduinoをはじめよう』第３版，Massimo Banzi著 オライリージャパン
『エレクトロニクスをはじめよう』Forrest M. Mims III著，オライリージャパン
『ArduinoとProcessingで始めるプロトタイピング入門』、青木直史，講談社
(『Processingをはじめよう』、Casey Reasほか，オライリージャパン)

７．課題に対するフィードバックの方法
課題は、授業中に指示するプログラミングや回路の組み立てであるが、これらは原則として授業中にその場でフィードバックし、授業時間内に講評・まとめを行う。

８．成績評価の方法
小テスト等への取組（30%）、授業内での課題への取組（50%）、応用的課題への取組（20%）
※ 授業内での課題の取り組みが重要なので、必然的に出席すること自体がとても重要となります。

９．その他
マイコンボードの開発環境などを使うので、USBポートを備えた自分のノートパソコン(タブレット端末は不可)を持参することを原則とします。実習で使うセンサーなどの機材は、秋葉原で安価に手に入るものです。皆さん自身の発想で新しいものを実現できるように頑張りましょう。

学際科目群

科目ナンバー：(IC)IND116J

情報コミュニケーション学入門Ａ〔M〕（春学期）

２単位	１年次	コーディネーター 坂本　祐太

１．授業の概要・到達目標
今後の社会で生じる問題は、より一層、複雑で多岐にわたるであろう。このような社会を理解し、積極的にかかわっていくには、広い視野で状況をとらえ、様々な領域にまたがる知を協働して問題に取り組むことが重要である。このような観点からこの講義では、自ら問題を設定し、学域横断的な視点・アプローチで問題に取り組むための力を養うことを目的とする。授業はオンライン（オンデマンド型）のオムニバス形式で実施され、各担当教員の専門分野が、社会科学・人文科学・自然科学のいずれに該当しており、また当該分野を情報コミュニケーション学部で学ぶ意義、関連分野との学際的な考察例を示し、各教員がそれぞれの専門的視座から現代社会の諸問題を講義する。
各回の授業内で課されるレポート作成や小テストへの解答を通じて、論理的な思考力を養うとともに、学域横断的に展開される講義の全体から、「カリキュラムのカスタマイズ」を行う能力を身につけ、４年間で自身が研究するテーマ設定の基礎作りをすることが到達目標となる。

２．授業内容
第１回　a:イントロダクション、情コミ入門･マイカリキュラム（坂本祐太）b:明治大学と情報コミュニケーション学部（阿部力也）c：情報コミュニケーション学とは（島田剛）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回　社会科学：教育学
労働者の権利と労働への教育―「ブラックな職場」と「やりがい搾取」を超えて（鈴木雅博）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回　人文科学：人文地理学
都市空間とテーマパーク（中川雄大）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回　自然科学：認知科学
人間研究の学際アプローチ：生成ＡＩの発展に寄せて（石川幹人）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回　社会科学：社会ネットワーク論
社会ネットワークとコミュニティマネー（中里裕美）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回　社会科学：社会学
現代社会を生きる･見る･変える（宮本真也）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回　人文科学：演劇学・文学
〈伝統演劇〉と近代（日置貴之）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回　自然科学：情報科学
コンピュータの問題点（山崎浩二）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回　社会科学：家族社会学
つながる私たち：恋愛、結婚と家族のあり方（施利平）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回　人文科学：哲学
情報社会とメディアを哲学する（大黒岳彦）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回　人文科学：生命論
いのちを踏みにじる優生思想 ―ヒトラーの場合―（岩渕輝）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回　社会科学：組織論
組織やコミュニティにおける監視――「見張り」と「見守り」（竹中克久）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回　人文科学：地域文化論
超域文化としてのファッション（高馬京子）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回　春学期授業のまとめ（坂本祐太）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意
この講義は必修科目である。
次の日付に動画を配信する。
第１回：４月14日
第２～５回：４月21日
第６～９回：５月19日
第10～13回：６月16日
第14回：７月14日
毎授業ごとに、授業時間内に出された課題や小テストを提出すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
自分が受講している他の授業をテーマ群と関連付けることで、学際的な「情報コミュニケーション学」とは何かを自ら日常的に考えること。また、この授業はオンデマンド形式なので、配信期間中に適宜繰り返し視聴することで復習を行って欲しい。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
特に指定しない。

７．課題に対するフィードバックの方法
フィードバックについては、Oh-o! Meijiのディスカッション機能で適宜実施します。また、授業最終回で全体講評を含む授業総括を行います。

８．成績評価の方法
出席・レポートおよび小テスト：100%
毎回の授業で提出するレポート・小テストをもって出席とみなす。
なお、課題および小テストを５回以上欠席（未提出）の者はFとする。

９．その他
授業を聴講していないと解答できない課題・小テストが出題されるため、集中して授業に臨むこと。
授業動画の配信期間や課題提出期間等に十分に確認すること。特に、提出物については期限を厳守すること。

科目ナンバー：(IC)IND116J

情報コミュニケーション学入門Ｂ〔M〕（秋学期）

２単位	１年次	コーディネーター 坂本　祐太

１．授業の概要・到達目標
今後の社会で生じる問題は、より一層、複雑で多岐にわたるであろう。このような社会を理解し、積極的にかかわっていくには、広い視野で状況をとらえ、様々な領域にまたがる知を協働して問題に取り組むことが重要である。このような観点からこの講義では、自ら問題を設定し、学域横断的な視点・アプローチで問題に取り組むための力を養うことを目的とする。授業はオンライン（オンデマンド型）のオムニバス形式で実施され、各担当教員の専門分野の見地から、問題意識や課題について講義を行う。３～４回で１つのテーマを取り扱うことで、同一テーマに対する多彩なアプローチ、多様な見方があることの体感を目指す。また、各教員がそれぞれの専門的視座から現代社会の諸問題を講義する。
各回の授業内で課されるレポート作成や小テストへの解答を通じて、論理的な思考力を養うとともに、学域横断的に展開される講義の全体から、「カリキュラムのカスタマイズ」を行う能力を身につけ、４年間で自身が研究するテーマ設定の基礎作りをすることが到達目標となる。

２．授業内容
第１回　テーマ①商品開発における多角的視点：行動経済学
行動変容とコミュニケーション（後藤晶）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回　テーマ①商品開発における多角的視点：イノベーション（開発）
情報化によるイノベーションを経済学で考える（山内勇）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回　テーマ①商品開発における多角的視点：言語学
音のある言語とない言語 ―手話の可能性（坂本祐太）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回　テーマ①商品開発における多角的視点：心理学
消費行動を自己と感情から理解する（脇本竜太郎）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回　テーマ②AIと法的責任：知的財産法
生成ＡＩによって作ったものは誰が権利をもつのか（今村哲也）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回　テーマ②AIと法的責任：メディア論
立法事実と規制（江下雅之）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回　テーマ②AIと法的責任：憲法
大きな社会の変化と個人の自律――近代法の視点から（田村理）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回　テーマ②AIと法的責任：民法
コミュニケーションツールとしての法学（齋藤航）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回　テーマ③文化的多様性：異文化理解
おとなりさんは外国人―多文化共生と異文化コミュニケーション（根橋玲子）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回　テーマ③：文化的多様性：災害社会学
防災を問うこと、災害を問うこと（小林秀行）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回　テーマ③：文化的多様性：国際開発
コーヒーカップの向こう側 ― フェアな経済とは何か？（島田剛）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回　テーマ③文化的多様性：地域文化論
イスラームは怖い宗教なのか？（横田貴之）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回　研究テーマ設定のために――大学院生の研究から（坂本祐太）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回　a:「マイカリキュラム」の講評、b:秋学期授業まとめ（坂本祐太）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意
この講義は必修科目である。
次の日付に動画を配信する。
第１～４回：９月22日
第５～８回：10月20日
第９～12回：11月24日
第13回：１月12日
第14回：１月19日
毎授業ごとに、授業時間内に出された課題や小テストを提出すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
自分が受講している他の授業をテーマ群と関連付けることで、学際的な「情報コミュニケーション学」とは何かを自ら日常的に考えること。また、この授業はオンデマンド形式なので、配信期間中に適宜繰り返し視聴することで復習を行って欲しい。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
特に指定しない。

７．課題に対するフィードバックの方法
フィードバックについては、Oh-o! Meijiのディスカッション機能で適宜実施します。また、授業最終回で全体講評を含む授業総括を行います。

８．成績評価の方法
出席・レポートおよび小テスト：100%
毎回の授業で提出するレポート・小テストをもって出席とみなす。
なお、課題および小テストを５回以上欠席（未提出）の者はFとする。

９．その他
授業を聴講していないと解答できない課題・小テストが出題されるため、集中して授業に臨むこと。
授業動画の配信期間や課題提出期間等に十分に確認すること。特に、提出物については期限を厳守すること。

科目ナンバー：(IC)IND311J

情報コミュニケーション学

２単位	３年次	コーディネーター 清原　聖子

１．授業の概要・到達目標
〔授業の概要〕
2026年はアメリカ合衆国の建国250周年にあたる。深まる社会の分断が懸念される中で、これからアメリカはどう変わるのか。本講座は明治大学の教員が中心となってオムニバス講義を行い、学際的なアプローチから現代アメリカ政治や社会が抱える諸課題について最新の研究を紹介する。履修者がアメリカ社会に対する理解を深め、分析力を養うことを目的とする。
〔到達目標〕
履修者は講義を受け身で聞くだけでなく、積極的にディスカッションへ参加することが求められる。履修者が幅広い視野からアメリカ社会を捉えることができるようになることを目指す。

２．授業内容
第１回　イントロダクション「学際的なアメリカ研究」（清原聖子・明治大学情報コミュニケーション学部）（メディア授業【オンデマンド型】）
第２回　「〈分断〉社会における政治レトリック」（鈴木健・明治大学情報コミュニケーション学部）
第３回　「現代アメリカ政治の〈分断〉はどこへ進むのか？」（清原聖子）（メディア授業【オンデマンド型】）
第４回　「〈分断〉の時代の政治コミュニケーション論」（鈴木健）
第５回　「分断を深めるアメリカの移民問題」（下斗米秀之・明治大学政治経済学部）（メディア授業【オンデマンド型】）
第６回　「記者の目で見るアメリカ」（金成隆一・朝日新聞Globe編集部記者）／「中間選挙の展望」（清原聖子）
第７回　「SNS上の偽・誤情報をめぐる問題」（清原聖子）（メディア授業【オンデマンド型】）
第８回　「トランプ政権の「歴史との戦争」」（兼子歩・明治大学政治経済学部）
第９回　「アジアからの高度人材の「頭脳流出」と「頭脳循環」」（下斗米秀之）（メディア授業【オンデマンド型】）
第10回　「中絶論争の歴史とトランピズム」（兼子歩）
第11回　「アメリカのヘルスケア政策」（山岸敬和・南山大学）（メディア授業【オンデマンド型】）
第12回　「米国政治とビッグテック」（塩野誠・経営共創基盤 代表取締役CEO）
第13回　「アメリカ外交の理想と現実」（鈴木健人・明治大学情報コミュニケーション学部）（メディア授業【オンデマンド型】）
第14回　「トランプ外交と国際報道」（杉田弘毅・明治大学政治経済学部／ジャーナリスト）

３．履修上の注意
この授業は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。奇数回の授業はオンデマンド形式でクラスウェブの「授業内容・資料」より、毎週金曜日、10:00に配信する。偶数回の授業は毎週金曜日３限に対面形式で行われる。オンデマンド形式の第1回の講義の動画の配信は対面形式の第2回の授業日（6/5）に開始される。オンデマンド形式の授業については、講義の動画を閲覧後に、リアクションペーパーを翌週木曜日の23:59までにアンケート機能を用いて提出すること。対面授業では授業時間内にリアクションペーパーを提出する。履修者には学際的なアメリカ研究の面白さを理解してもらいたい。
成績評価は期末レポートのみだが、初回を除く13回の講義の課題のうち、計９回以上のリアクションペーパーの提出が単位取得のための必須条件である。提出回数が９回に満たない場合は原則として期末レポートの採点対象とならず、単位は付与されない。すなわち、正当の理由と学部事務室で認められた欠席でない場合は、課題未提出の理由として認めない。公平性を期すため、締め切り後の課題提出は認められない。締め切りまでに余裕をもって提出することが望ましい。期末レポート作成の際は剽窃にならないように注意すること。本授業のコーディネーターである担当教員に連絡を取りたい場合には、クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を用いて問い合わせをすること。ただし、欠席届や単位の嘆願といった問い合わせには返答しない。各回の講義の内容に関する質問については、対面授業の場合は各回の担当教員にすること。オンデマンド形式の授業については「教員とのメッセージ」を使ってコーディネーターの教員に連絡をしてほしい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
本授業では、授業の予習・復習に教科書を読むことを推奨する。以下は、各回の授業で参照する教科書の範囲である。
第２回第３章
第３回第１章
第４回第４章
第５回第７章とコラム６
第７回第２章
第８回第５章
第９回第７章とコラム７
第10回第６章

５．教科書
清原聖子、鈴木健、兼子歩、下斗米秀之（編著）『アメリカの〈分断〉とは何か ― 学際的視点からその諸相を探る ―』（大学教育出版、2025年）

６．参考書
大橋陽・中本悟（編著）『現代アメリカ経済論―新しい独占の広がり』（日本評論社、2023年）
山岸敬和、岩田伸弘（編著）『激動期のアメリカー理論と現場から見たトランプ時代とその後』（大学教育出版、2022年）
清原聖子（編著）『教養としてのアメリカ研究』（大学教育出版、2021年）
久保文明、中山俊宏、山岸敬和、梅川健（編著）『アメリカ政治の地殻変動―分極化の行方』（東京大学出版会、2021年）
鈴木健人、伊藤剛（編著）『米中争覇とアジア太平洋：関与と封じ込めの二元論を超えて』（有信堂、2021年）
久保文明、金成隆一『アメリカ大統領選』（岩波新書、2020年）
岡山裕『アメリカの政党政治―建国から250年の軌跡』（中公新書、2020年）
岡山裕、西山隆行（編著）『アメリカの政治』（弘文堂、2019年）
鈴木健『政治レトリックとアメリカ文化～オバマに学ぶ説得コミュニケーション』（朝日出版社、2010年）
その他授業中に指示する。

７．課題に対するフィードバックの方法
各回の講義内で適宜フィードバックを行う。

８．成績評価の方法
期末レポート（100％）。ただし、計９回以上のリアクションペーパーの提出が必須条件。対面式の定期試験は行わない。

９．その他
他学部生の履修も歓迎する。

科目ナンバー：(IC)IND311J

情報コミュニケーション学

２単位	３年次	コーディネーター 小林　秀行

１．授業の概要・到達目標
気候変動が進む現在、豪雨や洪水、旱魃などがこれまでに見られなかった姿で起こり始めていることもあり、「災害」は日本に限らず世界的にも重要な課題となってきています。こうした災害の問題を考えるとき、われわれはどうしても被害に備えるための実践的な方向へと頭を働かせてしまいますが、そもそも我々は災害をどのようなものだと捉えてきたのでしょうか。自然を切り拓き、改変する形で生存圏を確立してきた人類にとって、その歴史は災害と向き合ってきた歴史でもあります。この講義では、われわれが災害という出来事をどのように理解し、向き合ってきたのかという点を、情報とコミュニケーションという視点から学んでいくことを目的としています。講義は外部講師の先生を招聘するオムニバス講義として展開し、新聞やテレビ、映画など様々な面から災害の捉え方を学ぶこととなります。
到達目標は以下の3点とします。①「災害が社会現象であることを理解する」、②「災禍をめぐるコミュニケーションの困難と可能性を理解する」、③「他者に接近すること／理解することの困難と可能性を理解する」

２．授業内容
第01週　第01回　災害と社会①　：　災害と社会のこれまで
第01週　第02回　災害と社会②　：　災害とレジリエンス〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第02週　第03回　災害とメディア①　：　災害と新聞
第02週　第04回　災害とメディア②　：　災害と手記〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第03週　第05回　災害とメディア③　：　災害とラジオ
第03週　第06回　災害とメディア④　：　災禍の継承〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第04週　第07回　災害とメディア⑤　：　災害とテレビ(1)
第04週　第08回　災害とメディア⑥　：　災害とアート〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第05週　第09回　災害とメディア⑦　：　災害とテレビ(2)
第05週　第10回　災害とメディア⑧　：　災害と映像〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第06週　第11回　災害とメディア⑧　：　災害と映画
第06週　第12回　災害とメディア⑩　：　災害とライフ・ヒストリー〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第07週　第13回　災害とメディア⑪　：　災害と社会の新たな時代
第07週　第14回　災害とメディア⑫　：　災害と神・妖怪〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊講義内容・ゲスト講師は変更となる場合があります

３．履修上の注意
○**この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。オンデマンド形式により実施する回については、毎週の対面講義終了後にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信しますので、各自で受講をお願いします。**
○この講義は外部講師の先生の講義を通して、視点の多様性を理解していくオムニバス講義となります。**基本的には講師の先生からの講義により進めますが、対面講義では講師の先生の方針によってディスカッションの時間を設ける場合があります。**
○紙資源の節約のため、資料およびリアクションペーパーはすべて、oh-meijiを通して実施します。紙媒体での配布は行いませんので、必要な方は各自で用意をお願いいたします。また、講義中は資料閲覧のためにPC・タブレットなどの使用を認めますので、自由にご利用ください。スマートフォンでの閲覧のみ、講義資料を閲覧するには画面が小さすぎるという理由から使用を禁じます。
○本講義は研究・実務の第1線で活躍する方々を外部講師としてお招きしています。対面講義中の私語など、講義の妨害については単位認定不可を含む厳格な処置をしますので、十分に注意して受講してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
＜予習＞
メディアや参考書を通じて、災害の論点についてあらかじめ理解を深めたうえで講義にのぞむこと。
＜復習＞
各回の講義を自分なりに整理し、理解を深めること。疑問点があれば、講義後やリアクション・ペーパーなどを通じて質問を行うこと。

５．教科書
特に定めない．担当教員の作成した資料にそって講義を進める．

６．参考書
日本災害情報学会『災害情報学事典』朝倉書店
日本災害復興学会『災害復興学事典』朝倉書店
地域安全学会『防災と福祉のハンドブック』朝倉書店

７．課題に対するフィードバックの方法
フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う．

８．成績評価の方法
期末レポート(4,000字以上)（100％）
○**単元ごとにリアクション・ペーパーを課します。リアクション・ペーパーの未提出が4回以上となった場合、単位認定を行わないので注意すること。**
○リアクション・ペーパーについては理由に関わらず遅延等は一切認めません。忌引・公式試合・病気療養による登校禁止等についても基本的には同様の扱いとしますが、これらが複数回重なる場合はそれぞれの事情を考慮して判断しますので、確認可能な資料を提示してください。

９．その他

専門科目群

社会科学

科目ナンバー：(IC)SOC111J

家族社会学概論

2単位	1年次	陳　　予茜

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
家族はもっとも身近な存在でありながら、「家族」という言葉が何を指すのかを考えたり、家族の条件とは何かを説明したりすることは難しい。本授業では歴史的変化や国際比較をふまえながら、家族をめぐる諸現象や諸問題について考えていく。例えば、若者の恋愛・結婚と子育て、高齢者の扶養と介護といったトピックを取り上げる。自分にとって「当たり前」の家族を問い直し、多様な家族のかたちがあることを理解することを目指す。

【到達目標】
・家族社会学の基礎的な概念や理論を学び、現代の多様な家族のかたちを考えるための知識と社会学的思考を身つける。
・現代の家族が直面している様々な問題とその背景を多角的な視点から理解する。

2．授業内容
第1回：イントロダクション
第2回：家族とは何か
第3回：恋愛と結婚
第4回：性別役割分業
第5回：夫婦関係
第6回：世界中の家族
第7回：中間テスト
第8回：妊娠・出産・中絶
第9回：子どもの教育と社会化
第10回：少子化の原因
第11回：成人子の自立と親との関係性
第12回：高齢者の扶養と介護
第13回：貧困、格差と家族
第14回：振り返りと期末レポート
※履修者数などにより、授業内容の一部を変更することがあります。

3．履修上の注意
特になし。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
事前に指定資料または文献を予習しておきます。

5．教科書
特に指定なし。毎回の授業で講義資料を配布します。

6．参考書
必要に応じて適宜紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業でリアクションペーパーを書き、提出する。その内容と質問については次回の授業でフィードバックします。

8．成績評価の方法
平常点（リアクションペーパー）：40%
期末レポート（授業内で実施）：60%

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)ENV131J

環境と社会

2単位	1年次	本田　裕子

1．授業の概要・到達目標
この授業では、「環境問題は社会で発生する」を前提に、環境問題の現状と課題を、社会との関係に着目して理解していきます。
前半（1～7回）では、環境問題が発生する社会はどのような社会であるのかを理解し、説明できるようになることを目標とします。後半（8～14回）では、生物多様性や自然環境の保全をテーマに、どのよう保全していくのかを学生自らが考えられるようになることを目標とします。

2．授業内容
第1回：イントロダクション～環境と社会を考える～
第2回：戦後日本の社会の変化を考える
第3回：水俣病について改めて考える
第4回：気候変動・自然災害と私たちの生活
第5回：熱帯林減少をどう考えるか？①私たちの生活
第6回：熱帯林減少をどう考えるか？②焼畑
第7回：日本の森林・林業を考える
第8回：自然環境保全の事例①森林
第9回：生物多様性とは何か？何を守るのか？
第10回：野生生物をめぐる問題を考える
第11回：外来種をめぐる問題を考える
第12回：どのような自然環境保全が望ましいのか考える
第13回：自然環境保全の事例②絶滅危惧種
第14回（aモジュールのみ）：私たちには何ができるのか？
＊授業内容は受講生の関心や環境問題の動向等により、一部変更する可能性があります。
＊期末試験は定期試験期間内に実施します。

3．履修上の注意
＊環境問題は私たちの生活とおおいに関係していることの理解を促すため、視覚教材や新聞記事教材も活用します。必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらうことにより、双方向での授業を目指します。
＊授業の進行する上で妨げとなる行為（私語、授業と関係ない内容でのPCやスマホ操作、内職、睡眠、食事等）については厳しく対応します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習
（1）事前に掲示されている資料がある際には確認すること。
（2）授業回のテーマに関して、メディア等でどのように取り上げられているのかを調べて、ノート等に整理しておくこと。
復習
（1）授業回のテーマに関して、自分が住んでいる自治体でどのような取り組みがあるのかを調べてノート等に整理しておくこと。
（2）授業内で取り上げた内容についての関連書籍があれば（参考書含む）、実際に読んで、概要をまとめるとともに、授業内容をふまえた自分自身の考えをノート等に整理しておくこと。

5．教科書
指定なし。参考資料等は必要に応じて授業前にOh-o!Meijiを通じて配信します（授業内でもその案内をします）。

6．参考書
『環境年表 2025-2026』国立天文台編（丸善出版）2025年
『改訂10版　環境社会検定試験eco検定公式テキスト』東京商工会議所編（日本能率協会マネジメントセンター）2025年
＊今後改訂の可能性もあるので最新版を確認してください（授業期間内に最新版が出た際には授業内でも紹介します）。

7．課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーの解説・講評は次回の授業内で行います。
小レポートの解説･講評は第14回の授業（aモジュール）内で行います。

8．成績評価の方法
期末試験（60%）
小レポート・リアクションペーパー・授業への参加度（40%）
＊期末試験は定期試験期間内に実施します。
＊小レポートは複数テーマの中から選択して取り組んでもらうことを予定しています。詳細は第1回イントロダクションで説明します。

9．その他
＊環境問題は教室で学ぶだけではなく、現場での学びも重要となります。小レポートを含めて、授業前後での質問・確認、授業で取り上げたテーマ・内容に関する場所・施設の訪問等を含めて、学びの積極性を評価します。
＊授業に関して質問・確認等のある学生は毎回の授業の開始前後に教室内で対応します。緊急時等の連絡手段は初回授業で案内します。

科目ナンバー：(IC)MAN111J

経営学

２単位	１年次	山下　智佳

１．授業の概要・到達目標

＜概要＞

経営学は、儲けるための学問、と勘違いされがちですが、そうではありません。組織を継続的に運営するために必要な要素や工夫について考える学問で、「儲け」はその一部分でしかありません。組織を動かすのは人間ですから、人間とは何だろうということも考える面白い学問です。また、経営学は社会の中でとても影響力をもつ企業を観察することで発展してきました。そのため、企業とは何かを考えるのも経営学の重要なトピックです。人と人の集まりに関心にある人、身の回りの企業に関心のある人は、ぜひ一緒に学んでいきましょう。

この授業では、まず、現代の日本社会で大きな役割を果たしている企業が、社会の中でどのような役割を果たしているのか、その仕組みはどうなっているのかを学びます。次いで、企業という組織を構成する要素として、人や組織の構造、組織の行動について学習します。企業や組織についての基礎を学んでいきましょう。

＜到達目標＞

①企業と組織に関する基礎知識を習得する。
②経営学の観点からの物の見方を身に着ける。
③日常接する経営に関する情報を解釈する力を身につける。

２．授業内容

第１回　イントロダクション、概要（企業、組織とは）
第２回　社会の中の企業、企業の役割：企業とは何か、どのように活躍しているか
第３回　企業の種類と形態：社会にはどんな種類の企業があるのか
第４回　株式会社の仕組み：株式会社の仕組みと特徴
第５回　コーポレート・ガバナンス：会社を健全に運営する仕組み
第６回　経営管理①　古典的管理論　　人間はどんな存在か、どう管理するべきか
第７回　経営管理②　新古典的管理論　人間はどんな存在か、どう管理するべきか
第８回　経営管理③　近代的管理論　　人間はどんな存在か、どう管理するべきか
第９回　モチベーション：組織の中で人をやる気にさせるには
第10回　経営組織①　組織を動かす基本の原則
第11回　経営組織②　組織の構造とそこから生じる特徴
第12回　経営戦略①　戦略とは何か
第13回　経営戦略②　組織はどうやって生き残ろうとしてきたのか
第14回　まとめ

３．履修上の注意

Oh-Meijiのクラスウェブ活用を前提としています。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

日ごろから、企業に関するメディアの情報を気にかけるようにしてください。復習は配布資料を活用してください。

５．教科書

特に指定しません。

６．参考書

井原久光『テキスト経営学　第3版』ミネルヴァ書房、2008年
その他は必要に応じて授業内で紹介していきます。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中、もしくはクラスウェブを活用して行います。履修者数などを考慮してどちらにするか決めていきます。

８．成績評価の方法

期末試験50%、小テスト25%、小レポート25%

９．その他

・担当講師との個別の連絡はOh-o！Meijiのクラスウェブを活用します。
・学習状況によっては進み方が異なることがあります。

科目ナンバー：(IC)LAW121J

憲法Ａ（憲法）

２単位	１年次	田村　　理

１．授業の概要・到達目標

この授業のテーマは「小・中・高校の社会科で、憲法と憲法が定める基本的人権について何を学び、学ばなかったか」です。また、憲法と基本的人権について「なぜ、何を学んでおくべきかを理解すること」を到達目標とします。

私たちは、小学6年生の社会科で日本国憲法を学び、中学入試から日本国憲法前文の穴埋め問題などを出題され、そのための勉強をしています。でも、「基本的人権は、誰がもっていて（人権の共有主体）、誰に対して主張できる権利（人権規定の名宛人）で、どうやって保障されるのか（人権「保障」とは）」を従来の憲法学で論じてきたように理解している人は極めて少数です。まずはその事実を確認したうえで、それはなぜなのか、そのことが人と社会にどのような影響をもたらすのか、もたらす悪影響にどのようにどう対処する必要があるのかについて学びます。

また、そのために、学校で使われている教科書や映像教材を、この授業で学んだ憲法学にしたがって作り直してみる作業を試みます。

２．授業内容

第１回：この授業の目的と目標＆ガイダンス
第２回：序　憲法の存在意義・全体の理論構造
第３回：憲法が保障する基本的人権とは何か？①　　どのように教わってきたか？
第４回：憲法が保障する基本的人権とは何か？②　　自律的個人がつくる社会
第５回：憲法が保障する基本的人権とは何か？③　　個人と社会の公権力からの自由
第６回：基本的人権を小学生にどう教えるか？
第７回：「個人の尊重」と幸福追求権（憲法13条）とは？
第８回：「個人の尊重」と幸福追求権（憲法13条）は必要か？
第９回：「個人の尊重」と幸福追求権（憲法13条）を小学生にどう教えるか？
第10回：表現の自由・報道の自由（憲法21条）とは？
第11回：表現の自由・報道の自由（憲法21条）は必要か？
第12回：表現の自由･報道の自由（憲法21条）を小学生にどう教えるか？
第13回：「私人間適用」を教えられない憲法学――その帰結は？
第14回：まとめ
　　授業内択一試験

３．履修上の注意

この授業では、みなさんがこれまで学んできた知識や価値観とは違うものを学ぶことを重視します。その違いを楽しみながら、自分の知識や価値観を相対化して社会を見ることを学びます。

したがって、みなさんが培ってきた既存の知識や価値観だけでは単位をとれません。

授業時間外でも一定の時間を割いて学ぶ必要があるので、そのつもりで履修してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

この授業では、復習を重視します。毎回しっかり授業内容を確認し、それを使って思考できるようにして、第６・９・12回の授業でみなさんに参加してもらう「小学生にどう教えるか」の課題にいかしてください。

５．教科書

○芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第８版）』（岩波書店・2023年）

６．参考書

○憲法の基礎的理解のために：内山奈月･南野森『憲法主義』（PHP文庫・2015年）
※みなさんが中学校・高校で利用した社会科の教科書・資料集をとってあるひとはぜひ持ち寄ってください。

７．課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、できるかぎり授業中にとりあげて、受講者全員で共有します。

授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各受講生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法

○成績評価
１，学期末提出の課題：25%
　＜既存の小学校6年生の社会科教科書内の憲法と人権のか所をこの授業の内容に合うように書きかえます。＞
２，3回の課題「小学生にどう教えるか」とそれへの取り組み、討論75%
　＜授業時間中にフィードバックを兼ねて報告と討論を参加者全員で行い、質疑応答も加点の対象とします。＞
※詳細は第1回目の授業で指示します。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW121J

憲法Ｂ

２単位	１年次	田村　　理

１．授業の概要・到達目標

この授業のテーマは「小・中・高校の社会科で、憲法の定める民主主義と権力分立について何を学び、学ばなかったか」です。また、憲法の民主主義と権力分立について「なぜ、何を学んでおくべきかを理解すること」を到達目標とします。

私たちは、中学入試から日本国憲法前文の穴埋め問題などを出題され、そのための勉強をしています。でも、「なぜ憲法は直接民主制ではなく間接民主制を原則としているのいるのか」「なぜ、国民の多数意思で定めた法律を裁判所が違憲審査で否決できるのか」「憲法の定める民主主義はどのような国民をもとめているのか」等は、高校の政治・経済でも必ずしも十分には教わっていません。まずはその事実を確認したうえで、それはなぜなのか、それがもたらす私達の社会と国家への影響はどのようなものかを学び、何をどこまで学ぶべきなのかを考えていきます。

また、そのために学校で学ぶ教科書や映像教材を、ここで学んだ憲法学にしたがって作り直してみるという課題に取り組みます。

２．授業内容

第１回：この授業の目的と目標＆ガイダンス
第２回：序　憲法の存在意義・全体の理論構造
第３回～第５回：近代憲法（国民主権と権力分立）はなぜ生まれたか――フランス革命を題材に
第６回：近代憲法の意義を小学生にどう教えるか？
第７回：憲法が定める国民主権とは何か？①　　どのように教わってきたか？
第８回：憲法が定める国民主権とは何か？②　　国民主権とはどういうことか？
第９回：憲法が定める国民主権を小学生にどう教えるか？
第10回：憲法が定める権力分立と司法権とは何か①　どのように教わってきたか？
第11回：憲法が定める権力分立と司法権とは何か②　司法権とは何を担うべきなのか？
第12回：憲法が定める権力分立と司法権を小学生にどう教えるか？
第13回：憲法の世界と実社会の乖離をどうするか？――憲法は必要か？
第14回：まとめ
　　授業内試験

３．履修上の注意

この授業では、みなさんがこれまで学んできた知識や価値観とは違うものを学ぶことを重視します。その違いを楽しみながら、自分の知識や価値観を相対化して社会を見ることを学びます。

したがって、みなさんが培ってきた既存の知識や価値観だけでは単位をとれません。

授業時間外でも一定の時間を割いて学ぶ必要があるので、そのつもりで履修してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

この授業では、復習を重視します。毎回しっかり授業内容を確認し、それを使って思考できるようにして、第６・９・12回の「小学生にどう教えるか」、および期末に提出してもらう課題にしっかり反映させてください。

５．教科書

○芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第七版）』（岩波書店・2019年）

６．参考書

○憲法の基礎的理解のために：内山奈月・南野森『憲法主義』（PHP文庫・2015年）

７．課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、できるかぎり授業中にとりあげて、受講者全員で共有します。

授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各受講生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法

○成績評価
１，学期末提出の課題：25％
　＜既存の小学校6年生の社会科教科書内の国民主権・選挙のか所をこの授業の内容に合うように書きかえます。＞
２，3回の課題「小学生にどう教えるか」とそれへの取り組み、討論75％
　＜授業時間中にフィードバックを兼ねて報告と討論を参加者全員で行い、質疑応答も加点の対象とします。＞
※詳細は第1回目の授業で指示します。

９．その他

科目ナンバー：(IC)SOC111J

コミュニティ論

２単位	１年次	小笠原　尚宏

１．授業の概要・到達目標

個人化、私事化の進行が指摘される現代社会にあって、社会の基礎的単位としてのコミュニティの役割が再度、見直されている。この授業では、地域社会の営みや地域で暮らす人々の地域生活をみることによって、個人と地域社会との関係―とくに現代社会におけるコミュニティの役割―を確認することにしたい。具体的には次の各点から現代日本の地域社会／コミュニティを概観する。(1) 日本的コミュニティの成立・発達過程―とくに村落共同体とコミュニティの異同から、現代日本の地域社会を考える―。(2) 現代日本における社会集団としてのコミュニティの機能。(3) 現代日本社会におけるコミュニティの多様性と重要性。(4) 現代日本社会におけるコミュニティの解体と再編。(5) コミュニティの新たな役割。とりわけソーシャル・キャピタルの観点から。このほか、コミュニティ／地域社会に関する時事的な問題についても扱う。

これらを通して、(1) コミュニティについての基礎的な知識を獲得した上で、(2) 現代日本におけるコミュニティの概況を理解するとともに、(3) 現実のコミュニティの課題を発見し、分析し、かつ課題の解決策を探求するための基礎力の涵養を目的とする。

２．授業内容

第１回ａのみ：イントロダクション：コミュニティ研究の現在
第２回：コミュニティの理論（1）日本のイエとムラ
第３回：コミュニティの理論（2）マッキーバーのコミュニティ論
第４回：コミュニティの理論（3）シカゴ社会学とコミュニティ
第５回：コミュニティの理論（4）コミュニティ問題
第６回：コミュニティ論の新機軸（1）コミュニティ解放論とパーソナルネットワーク
第７回：コミュニティ論の新機軸(2)ソーシャル･キャピタルとコミュニティ　ａアメリカ社会学の動向
第８回：コミュニティ論の新機軸(3)ソーシャル･キャピタルとコミュニティ　ｂ新たな互助の構築に向けて
第９回：現代日本のコミュニティ（1）コミュニティ・モデルから考える地域社会変動
第10回：日本のコミュニティ（2）町内会･自治会とローカル･コミュニティ
第11回：日本のコミュニティ（3）「コミュニティ」概念の導入とその後
第12回：日本のコミュニティ（4）防災・防犯・福祉コミュニティの形成と課題
第13回：コミュニティ施策とその課題
第14回：現代日本におけるコミュニティの課題と可能性

３．履修上の注意

コミュニティあるいは地域社会に関する報道に目を通し、問題意識を鍛えておいてもらいたい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業終了後に小課題を提示するので、次回授業時までに準備をしておくこと。

５．教科書

指定しない。

６．参考書

古典的著作として、R.M.マッキーヴァー『コミュニティ』ミネルヴァ書房、1975. 授業を概観できるものとして、蓮見音彦編『講座社会学３村落と地域』東京大学出版会、2008. 似田貝香門監修『地域社会学講座１地域社会学の視座と方法』東信堂、2006. 野村慎司編、2006、『リーディングス ネットワーク論―家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房. 岩崎信彦ほか編『町内会の研究』御茶の水書房、1989. ほか適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業時に前回課題の総評を行う。また、適宜、Oh-o! Meiji 上にコメント・補足説明を行う。

８．成績評価の方法

期末課題80％、小課題20％

９．その他

科目ナンバー：(IC)GDR111J

ジェンダー論

2単位	1年次	**田中　洋美**

1．授業の概要・到達目標
　この授業は、ジェンダー研究入門です。性別やセクシュアリティを軸に社会の成り立ちや変化について考察していきます。
ジェンダー研究とは、あらゆる存在とその特性の差異化、それにまつわる非対称的な関係性をめぐる問題を解き明かそうとする学際的・超域的な研究領域です。本授業では、ジェンダー分析の基礎的な概念・学説について、またそれらの導入と深く関わるフェミニズムの実践的・理論的展開について学び、社会のさまざまな領域についてジェンダーの視点から考察していきます。
　授業を通じて、性に関する現象がそれ以外の様々な社会的要素と密接に関係していることが明らかになるでしょう。例えば、性別とその他の差異の関係について論じる際には、交差性（インターセクショナリティ）という概念が用いられています。多様で幅広いジェンダー研究の全てを扱うことはできませんが、この分野の研究の大まかな流れを理解すること、ジェンダーの視点を身につけ、さまざまな社会現象の背後にあるジェンダー構造を自ら見抜けるようになることが、本授業の目的です。ジェンダーについて学ぶことで、当たり前で一見何ともないように見える現象を多角的な視点から捉え直し、新たな発見に繋げる力をぜひ養ってください。

2．授業内容
第1回b イントロダクション
第2回　ジェンダーとは何か
第3回　ジェンダー・ステレオタイプ
第4回　性役割・社会化・行為性
第5回　性別分業と労働
第6回　小テスト（1）、事例・研究の検討（1）
第7回　多様な「性」
第8回　性別二元論
第9回　親密性とジェンダー
第10回　暴力とジェンダー
第11回　小テスト（2）、事例・研究の検討（2）
第12回　フェミニズム（1）
第13回　フェミニズム（2）
第14回　小テスト（3）、まとめの議論
(注）履修者数や授業の進行状況等により講義内容・日程等は変更となる場合があります。授業中、あるいはオーメイジでのアナウンスに注意してください。

3．履修上の注意
・初回は「b」(後半）のみとなります。
・本授業は講義です。授業中の私語は慎んでください。
・積極的にノートを取ってください。小テストの準備に役立てましょう。
・提出物がある場合、期限後提出は認めません。
・出席は取りませんが、出席し授業内容を理解することが、単位修得に繋がることは言うまでもありません。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
・予習：事前に指定された文献や講義スライド等に目を通し，次回の授業内容に関する専門用語等を確認するとよいでしょう。
・復習：講義中に自分で取ったメモを見直し，内容を整理しておくとよいでしょう。授業で紹介する参考書・資料にも目を通しておくとさらなる理解につながることでしょう。関心のあるトピックについては、自分で文献を見つけて読んでみてください。

5．教科書
授業で適宜指示します。必読文献があれば配布しますので、必ず読んで授業・試験に臨んでください。

6．参考書
板場良久・池田理知子編著（2011）『よくわかるコミュニケーション学』ミネルヴァ書房（ジェンダーに関するパート）
明治大学情報コミュニケーション学部（2023）『情報コミュニケーション学への招待』ミネルヴァ書房（第18章）
加藤秀一, 2017,『はじめてのジェンダー論』有斐閣
R・コンネル, 2008,『ジェンダー学の最前線』世界思想社
J・ピルチャー, I・ウィラハン, 2009,『ジェンダー・スタディーズ　キーコンセプト』新曜社
M・デメッロ（2017）『ボディ・スタディーズ』晃洋書房
その他，授業で随時紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
提出時に希望を伝えてください。質問は随時受け付けます。

8．成績評価の方法
平常点（授業態度、リアクションペーパーなど課題への取り組み内容）20%
小テスト　80%

9．その他
・授業のお知らせはOh-o! Meijiで配信します。定期的に確認してください（お知らせをメールで受け取る転送サービスも活用しましょう）。

科目ナンバー：(IC)LAW161J

市民社会と法Ⅰ

2単位	1年次	**齋藤　　航**

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
この授業では、社会で生きていくために必要となる、法学の総合的な授業を行う。
具体的には、以下の内容について扱う。
①世の中にある法律はどのように分類され、その役割分担はどうなっているか
②日本における代表的な法律について、それぞれどのような内容が定められているか
③法律を用いることによって、現在の日本で話題となっている問題はどのように解決することができるのか
これらについて、実際に社会で問題となっている具体的な事例を挙げて説明する。
市民社会と法Ⅰ・Ⅱの両方を受講することで、日本に数ある法律について、その全体像を把握し、特に代表的な個々の法律については最も基本的な部分を理解することができる。
【到達目標】
①法律についての全体像と、基本的な知識を習得する
②具体的な事案について、習得した知識を用いて法的な解決策を考えることができるようになる

2．授業内容
第1回
　a：ガイダンス
　b：法律の役割－不倫スキャンダル－
第2回　法律の種類と分類－交通事故を起こしてしまったら－
第3回　民法①　私的自治－闇バイト契約－
第4回　民法②　成年・未成年－18歳になると何が変わるか－
第5回　民法③　契約－フリマアプリのトラブル－
第6回　民法④　不法行為①－学校でのいじめ－
第7回　民法⑤　不法行為②－名誉毀損－
第8回　憲法　表現の自由－SNSの書き込み－
第9回　刑法①　罪刑法定主義－あおり運転－
第10回　刑法②　正当防衛－勘違い騎士道事件－
第11回　刑法③　刑法各論－大学生が注意すべき犯罪－
第12回　刑事訴訟法① 逮捕－私人逮捕系youtuber－
第13回　刑事訴訟法② 取調べ－痴漢冤罪対策－
第14回
　a：期末試験
　b：解説
※各回で題材とする問題は、時事的な話題を踏まえ変更する可能性がある。

3．履修上の注意
1、wi-fi接続設定済みノートPCの持参
　第1回からwi-fiの接続設定を済ませたノートPCを持参すること。この授業では、教室にいる学生も含めて全員がzoomを用いながら受講し、授業中に課題を解いて、それを授業後に出席課題として提出してもらう。また授業中はzoomのマイクとカメラ、そしてPCの音声を切っておくこと。
2、レジュメの配布
　授業日の前日までにレジュメを配布するので、ダウンロードしておくこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習は基本的に不要。復習は配布するレジュメの内容を理解しておくこと。

5．教科書
指定しない。

6．参考書
指定しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題の解説は授業中に行う。期末試験後に解説を行う。

8．成績評価の方法
期末試験（60%程度）、授業中の課題（40%程度）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAW161J

市民社会と法Ⅱ

2単位	1年次	齋藤　航

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
この授業では、社会で生きていくために必要となる、法学の総合的な授業を行う。
具体的には、以下の内容について扱う。
①世の中にある法律はどのように分類され、その役割分担はどうなっているか
②日本における代表的な法律について、それぞれどのような内容が定められているか
③法律を用いることによって、具体的にどのような問題を解決することができるのか
これらについて、実際に社会で問題となっている具体的な事例を通じて説明する。
市民社会と法I・IIの両方を受講することで、日本に数ある法律について、その全体像を把握し、特に代表的な個々の法律については最も基本的な部分を理解することができる。
【到達目標】
①法律についての全体像と、基本的な知識を習得する
②具体的な事案について、習得した知識を用いて法的な解決策を考えることができるようになる

2．授業内容

第1回
　a：ガイダンス
　b：市民社会と法Iの復習
第2回　民法①　婚姻－事実婚・同性婚・夫婦別姓－
第3回　民法②　親子－子どものDNA鑑定－
第4回　民法③　相続－生前贈与・介護－
第5回　消費者法　－霊感商法・悪質ホスト－
第6回　民事訴訟法①　民事訴訟ー訴えるにはどうすればいい？ー
第7回　民事訴訟法②　強制執行－逃げ得は許されない－
第8回　労働法①　労働契約－アルバイトのトラブルー
第9回　労働法②　解雇－内定取消しー
第10回　知的財産法　著作権－原作者の権利－
第11回　倒産法　－借金からの再スタート－
第12回　行政法　－国と戦って勝つには－
第13回　租税法　－フェラーリを社用車にできるか－
第14回
　a：期末試験
　b：解説
※各回で題材とする問題は、時事的な話題を踏まえ変更する可能性がある。

3．履修上の注意

1、wi-fi接続設定済みノートPCの持参
第1回からwi-fiの接続設定を済ませたノートPCを持参すること。この授業では、教室にいる学生も含めて全員がzoomを用いながら受講し、授業中に課題を解いて、それを授業後に出席課題として提出してもらう。また授業中はzoomのマイクとカメラ、そしてPCの音声を切っておくこと。
2、レジュメの配布
授業日の前日までにレジュメを配布するので、ダウンロードしておくこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習は基本的に不要。復習は配布するレジュメの内容を理解しておくこと。

5．教科書

指定しない。

6．参考書

指定しない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は授業中に行う。期末試験後に解説を行う。

8．成績評価の方法

期末試験（60％程度）、授業中の課題（40％程度）

9．その他

科目ナンバー：(IC)SOC111J

社会学A

2単位	1年次	宮本　真也

1．授業の概要・到達目標

情報コミュニケーション学という学問は、社会と個人との関係性への視野が不可欠である。その点で社会学は、学生の個々の関心やテーマに対して、適切な方法や概念、考え方を与えてくれるという意味で重要である。本講義ではこのことを踏まえ、社会学の基礎を最新のテーマをもとに進めていきたい。

社会学の歴史を負うことよりも、この授業では「私たちの社会とはどのような社会なのか」という問いに対してさまざまな角度から切り込みながら、副次的に社会学的な視点や考え方を深めることを目標とする。

2．授業内容

第1回：イントロダクション　―社会学Aについて―
第2回：社会学の方法1
第3回：社会学の方法2
第4回：社会学の基礎概念1
第5回：社会学の基礎概念2
第6回：学歴社会の「学歴」は問題なのか？1
第7回：学歴社会の「学歴」は問題なのか？2
第8回：家族の社会学1
第9回：家族の社会学2
第10回：犯罪と逸脱の社会学1
第11回：犯罪と逸脱の社会学2
第12回：風俗・文化現象の解読1
第13回：風俗・文化現象の解読2
第14回：ミーイズム社会
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

講義中に言及される研究成果と、現代社会において日常的に経験したり、マスメディアを通じて知っている事実との関係をそれぞれに思い描きながら受講、そして理解しようとつとめること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

以下に示す教科書の該当する章を用いて予習、復習することがのぞましい。

5．教科書

長谷川公一、浜日出男など著　社会学 新版（New Liberal Arts Selection）　有斐閣　2019年。

6．参考書

西山哲郎ら編　科学化する日常の社会学　世界思想社　2013年。

7．課題に対するフィードバックの方法

メールや事後的に授業内でコメントを返すこととする。
使用するメールアドレスについては、最初の授業で告知する。

8．成績評価の方法

1　授業における平常点：20％
2　定期試験：合計80％

9．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)SOC111J

社会学Ｂ

２単位	１年次	**宮本　真也**

１．授業の概要・到達目標

「社会学Ｂ」の目標は「Ａ」とそれほど異ならないが、本来社会学が持っている社会批判の理論、社会診断としての言説としての側面をより強く示してみたい。「社会学Ａ」とは異なり、「Ｂ」では社会学理論の主だったものものも紹介する。レベル的には基礎であることには変わりないが、「Ｂ」のほうは部分的に抽象度が高い。

社会学の理論の歴史と「Ａ」の延長にある社会学の現代の潮流についての知見を深めることを目標とする。

２．授業内容

第１回：イントロダクション　―社会学Ｂについて―
第２回：近代社会とアノミー１
第３回：近代社会とアノミー２
第４回：身体の社会学１
第５回：身体の社会学２
第６回：情報メディアと社会１
第７回：情報メディアと社会２
第８回：差別・排除・いじめ１
第９回：差別・排除・いじめ２
第10回：格差社会を考える１
第11回：格差社会を考える２
第12回：社会の病理１
第13回：社会の病理２
第14回：まとめ
＊ 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

講義中に言及される研究成果と、現代社会において日常的に経験したり、マスメディアを通じて知っている事実との関係をそれぞれに思い描きながら受講、そして理解しようとつとめること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

以下に示す教科書の該当する章を用いて予習、復習することがのぞましい。

５．教科書

長谷川公一、浜日出男など著　社会学 新版（New Liberal Arts Selection）　有斐閣　2019年。

６．参考書

西山哲郎ら編　科学化する日常の社会学　世界思想社　2013年。

７．課題に対するフィードバックの方法

メールや事後的に授業内でコメントを返すこととする。
使用するメールアドレスについては、最初の授業で告知する。

８．成績評価の方法

１　授業での平常点：20%
２　定期試験：合計80%

９．その他

科目ナンバー：(IC)PSY116J

社会心理学Ａ〔Ｍ〕

２単位	１年次	**脇本　竜太郎**

１．授業の概要・到達目標

人間は、他者と密接に関わりあいながら生きている。社会心理学Aでは、人間の社会的行動を個人内過程、対人関係、集団の各レベルから理解する。前半は社会的認知、感情、態度、自己という主に個人内過程に関するトピックに焦点を当てる。後半は、対人行動、対人関係、集団と個人、集団間関係といったメゾレベルからマクロレベルの話題について扱う。

到達目標は以下の4点である。
(1) 人間の社会的情報の処理の特徴とその帰結について理解できる。
(2) 自己の形成と維持の心的メカニズムについて理解できる。
(3) 対人行動および対人関係の問題をミクロ、メゾ、マクロそれぞれの視点で理解できる。
(4) 集団間葛藤とその解決方法を研究知見にもとづいて分析的に考えることができる。

２．授業内容

各回の講義題目は以下の通りである。
第１回　社会的認知
第２回　感情
第３回　態度と説得（1）：態度の形成と維持
第４回　態度と説得（2）：説得的コミュニケーション
第５回　自己の成り立ち（1）：自己概念と自己認識に関わる動機
第６回　自己の成り立ち（2）：比べる自己
第７回　援助行動
第８回　攻撃行動
第９回　対人関係（1）対人関係の親密化
第10回　対人関係（2）対人関係の維持と崩壊
第11回　受容と排斥
第12回　社会的アイデンティティ
第13回　集団間葛藤
第14回　集団間葛藤の解決に向けて
※すべての授業回を、メディア授業（オンデマンド型）により実施する。

３．履修上の注意

本講義は、オンデマンド型のメディア授業である。
講義動画は原則毎週金曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信する。
毎回講義動画を視聴し、課題を提出することが求められる。
講義内容に対する質問は毎回の課題提出フォームで受け付ける。
講義内で心理学の研究を実施したり、オンラインで実施する研究への参加者を募ったりすることがある。
研究への参加は任意だが、報酬として成績への加点が伴うことがある。研究に参加してその手続きを体験することは社会心理学研究の知見を批判的に検討するための重要な学びの機会となるので、積極的に参加してほしい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

各回の講義の前に教科書を読んでいることを前提に講義を進める。

５．教科書

脇本竜太郎（編著）熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介（共著）(2023). 基礎からまなぶ社会心理学 第2版（ライブラリ 基礎からまなぶ心理学 4）サイエンス社

６．参考書

講義中に適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

各回の課題提出用アンケートに質問やコメントの記入欄を設け、次の回の授業配信に併せてフィードバック動画もしくはフィードバックコメントを公開する。

８．成績評価の方法

平常点（受講したうえで課題を提出）30%　定期試験 70%

９．その他

科目ナンバー：(IC)PSY116J

社会心理学Ｂ〔M〕

２単位	１年次	**脇本　竜太郎**

１．授業の概要・到達目標
社会心理学Bでは、社会心理学の理論や概念を手がかりとして、現代社会における具体的な社会現象や社会問題を検討する。
とくに、個人レベルでは適応的に見える心理が、社会的文脈の中でどのように不合理な結果を生むのかを考察する。
(1) 社会心理学の理論や概念を用いて、現代社会における具体的な社会現象や社会問題を分析できる
(2) ミクロレベルの動機が、マクロレベルではそれに反する結果を生じさせる過程を説明できる
(3) 研究結果とそれに基づく議論を批判的に検討できる

２．授業内容
各回の講義題目は以下の通りである。
第１回　ガイダンス＋なぜ人は自尊感情を求めるのか？
第２回　自尊感情希求の望ましくない帰結
第３回　ステレオタイプ・偏見・差別はなぜ生じるか
第４回　なぜ一人になるのを恐れるのか？
第５回　不公正な事態に人はどう対処するか
第６回　公正さを求めることの皮肉な影響
第７回　母性愛神話という幻想
第８回　なぜ昔はよかったと思ってしまうのか？
第９回　ノスタルジアの機能
第10回　文化差をどう考えるか？
第11回　オンラインコミュニケーション
第12回　ファンとはどのような人々なのか？
第13回　ファン心理とファン行動
第14回　総括
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。
※すべての授業回を、メディア授業（オンデマンド型）により実施する。

３．履修上の注意
本講義は、オンデマンド型のメディア授業である。
講義動画は原則毎週金曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信する。
毎回講義動画を視聴し、課題を提出することが求められる。
講義内容に対する質問は毎回の課題提出フォームで受け付ける。
講義内で心理学の研究を実施したり、オンラインで実施する研究への参加者を募ったりすることがある。
研究への参加は任意だが、報酬として成績への加点が伴うことがある。研究に参加してその手続きを体験することは社会心理学研究の知見を批判的に検討するための重要な学びの機会となるので、積極的に参加してほしい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各トピックで扱う内容は身近な社会事象に関わるものである。学んだ内容に基づいて身近な物事を分析することで、理解が一層進むことが期待される。

５．教科書
指定しない。

６．参考書
講義中に適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
各回の課題提出用アンケートに質問やコメントの記入欄を設け、次の回の授業配信に併せてフィードバック動画もしくはフィードバックコメントを公開する。

８．成績評価の方法
平常点（受講したうえで課題を提出）30%　定期試験 70%

９．その他

科目ナンバー：(IC)ECN111J

情報社会と経済

２単位	１年次	**山内　　勇**

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
情報社会とは何か、情報化は社会にどのようなインパクトを与えているのか、そして、今後情報社会はどう変化していくべきか、こうした問いに対する答えを考えていくことがこの授業の目的である。
授業では、ビジネスにおける情報技術の活用状況、情報化がもたらす雇用や所得格差への影響、情報化を通じた社会的課題の解決の可能性等について、特に経済学的な観点から解説していく。その際、情報技術そのものの基本的な仕組みを理解しておくことも重要である。

【到達目標】
この授業における到達目標は、学術的な考え方・分析手法を理解した上で、情報化社会と経済の関係について、そのメカニズムやそれが抱える課題について、自分なりの考えをまとめられるようになることである。

２．授業内容
第１回　イントロダクション：情報化社会の定義と見方
第２回　デジタル化
第３回　AI・機械学習
第４回　経済学による情報化社会の見方（効率性）
第５回　経済学による情報化社会の見方（余剰）
第６回　情報化社会における付加価値
第７回　情報化投資と無形資産
第８回　生産関数
第９回　AI創作物
第10回　外部性の内部化
第11回　情報産業におけるオープン戦略1
第12回　情報産業におけるオープン戦略2
第13回　情報化と雇用
第14回　情報化社会とビジネスモデルの将来

３．履修上の注意
授業時間中に簡単な課題を課すことがある。
なお、履修者の理解度や希望等に応じて内容を変更する可能性がある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：授業で扱う内容について、参考書等から事前に予備知識を得ておくこと。
復習：授業中に解説した内容・課題を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

５．教科書
指定しない（毎回資料を配布する）。

６．参考書
篠崎彰彦『インフォメーション・エコノミー』ＮＴＴ出版, 2014年
総務省『令和7年版 情報通信白書』2025年
アンドリュー・マカフィー、エリック・ブリニョルフソン (著), 村井章子 (訳)『プラットフォームの経済学 機械は人と企業の未来をどう変える?』日経BP, 2018年

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中に解説を行う。
授業後やメールでの質問も受け付ける。

８．成績評価の方法
定期試験 70%、授業中の課題 30%
※別途、授業への貢献（発言等）に対して加点することがある。

９．その他

科目ナンバー：(IC)PHL121J

情報倫理〔M〕

２単位	１年次	今村　哲也

１．授業の概要・到達目標
授業の概要：
情報ネットワーク社会は、高度な利便性をもたらす一方で、匿名性の高い環境の下、個人・企業・社会の間に新たな倫理的・法的課題を生じさせている。本授業では、情報社会における人間関係や組織活動の在り方を踏まえつつ、相互の信頼をいかに形成し、健全で持続可能な情報社会をいかに構築すべきかについて学ぶ。
具体的には、情報技術の社会的インパクトや情報倫理の基本的枠組みを出発点として、個人および組織に求められる情報倫理、ITガバナンス、情報技術と法制度の関係を体系的に理解する。さらに、肖像権・プライバシー・著作権、通信・放送、プラットフォーム規制、媒介者責任、個人情報保護、情報セキュリティ、違法有害情報、電子商取引と消費者保護といった具体的テーマを通じて、情報社会におけるルール・モラル・法的規律の意義と限界を検討する。
仮想的な巨大都市ともいえるインターネット空間における「都市生活者」としての知恵を身につけることを目標に、創造的知的活動の成果への尊重、コミュニティにおけるルールやネットワーク利用ポリシーの遵守の重要性について、倫理と法の双方の観点から理解を深める。
到達目標：本授業の到達目標は、以下のとおりである。
（１）情報社会における情報倫理、法制度、ガバナンスに関する基本的な知識と考え方を修得すること。
（２）個人・企業・プラットフォーム等が直面する情報倫理上および法的課題について、具体的事例を踏まえて理解できるようになること。
（３）情報倫理に関わる基本的な問題について、修得した知識を用いながら、妥当な解決策またはその方向性を論理的に示すことができるようになること。

２．授業内容
第１回　イントロダクション、授業全体の概要説明〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回　【情報社会と倫理】情報技術の社会的インパクト、情報社会における個人・企業・社会の倫理〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回　【個人と組織の情報倫理】情報倫理のフレームワーク、技術倫理〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回　【個人と組織の情報倫理】企業情報化の進展と倫理〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回　【よりよい情報社会の設計】ITガバナンスと情報倫理、情報倫理の実践〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回　技術による情報倫理の実現、情報技術の進展と法の整備〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回　通信と放送〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回　プラットフォーム規制〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回　媒介者の責任〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回　個人情報の保護と情報セキュリティ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回　違法有害情報（１）　わいせつ表現、児童ポルノ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回　違法有害情報（２）　青少年保護〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回　違法有害情報（３）　肖像権、パブリシティ権、著作権等〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回　電子商取引と消費者の保護〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意
この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習として指定した資料を事前に目を通すこと、復習として小テスト等の課題を解くことを求める。予習・復習には90分程度かかると想定される。

５．教科書
必要な資料は電子データで配布する。

６．参考書
各回において、参考書がある。【第1回から第6回まで】について、村田潔編『情報倫理：インターネット時代の人と組織』（有斐閣、2004年）、【第7回から第12回および第14回】について、曽我部真裕『情報法概説』（第３版、弘文堂、2025年）、今村哲也『いちばんやさしい知的財産法入門』（有斐閣、2025年12月）は、「第13回　違法有害情報（３）肖像権、パブリシティ権、著作権等」に関する参考書であるが、講師が開講している「知的財産法A」・「知的財産法B」でも同じ教科書を使用するので、同科目を履修する予定があれば、入手しておくことを推奨する。その他、レジュメを用意する。。

７．課題に対するフィードバックの方法
小テストは、その出題意図と採点実感を、小テストの期限後においてOh-o! Meiji システムを通じてを配信する。個別の正答と採点結果（点数）については、開示しない。

８．成績評価の方法
毎回の授業後に回答する小テスト（毎回100点）を14回分（合計1400点）の平均点を素点として算出し、その素点を最終的な評点の100％として評価することを原則とする。60点未満は単位不認定とする。なお、正当な理由のない限り（正当な理由がある場合、要連絡）、14回の授業のうち4回以上の課題未提出がある場合、原則として単位を認定しない。課題未提出かどうかは、授業動画の視聴記録の視聴完了、および、小テストの提出の2つを完了して、1回分の課題提出とする。
例外的に、上記で求められる素点が90点以上および80点以上90点未満の者の割合が、合格者（60点以上の者）の50パーセントよりも大きくなる場合、または、素点が90点以上である割合が、合格者の概ね20パーセントより大きくなる場合には、相対評価を採用する。相対評価を行う場合、素点を基礎に合格者に順位を付与し、90点以上および80点以上90点未満の割合は、最大でも合格者の概ね50パーセント以内とし、かつ、90点以上の割合は、最大でも合格者の概ね20パーセント以内とするよう最終的な評点を決定する。
※対面形式での試験は行わない。

９．その他

科目ナンバー：(IC)POL111J

政治学

２単位	１年次	川島　高峰

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
日本も世界も大きな転換点に立たされています。若者にとって誰が自分たちの老後を養うのか？、という次世代の将来性について深刻な事態に陥っています。殆どの先進国が人口減少社会という自国民の持続可能性の危機に直面しています。ウクライナ戦争の長期化や中国の超大国化により、世界の安全保障環境は激変し、世界大戦勃発の危機とさえ言われています。
日本は古い昭和モデル（冷戦型・高度成長型・人口増大型・民活重視型）の価値観によって支配され、それが重厚な既得権を構成してきました。ここに「平成の失われた30年」の由縁があります。メディアや知識階層にも昭和モデルが支配的で右とか左といった35年も前に崩壊した冷戦型の二分法による価値判断や評価手法が、未だに蔓延し、若い世代の新しい知の発展の足を引っ張っり、無駄な議論を拡散しています。
昭和モデルの全てが駄目というわけではありません。何を継承し、何を変えたらいいのでしょうか？　この問題の理解を深めるため次の三つの部門から講義を構成します。
第一部　政治学原論／政治哲学編　ここではまず政治学とは何かについて理解をしてもらいます。そして、普遍的なこと、つまり、国や民族といった文化の相違や歴史を超えて共通する政治学の基本概念と理念について話をします。基本概念とは政治・国家（共同体）・権力（支配）・正当性の四つで、基本理念とは自由・平等・権利（人権）・民主主義・平和です。古代から前近代までの様々な思想家、哲学者の議論から現代をとらえる眼を養ってみましょう。
第二部　イデオロギーの相違や政治文化の相違について、これを右と左、保守と革新、伝統と近代、欧米と非欧米といった観点から話をします。
第三部では、日本政治に焦点を据えて、日本的な特徴とは何かについて考察を深め、今、日本が第三期日本人、あるいは第三期日本国の時代になりつつあることを確認します。
【到達目標】
昨今、課題先進国、あるいは衰退途上国などと呼ばれている現代の日本について、その政治課題を考えることができるようになることです。

２．授業内容
第一部　政治学の基本概念と基本理念
第１回　政治／政治学とは何か　神為、自然、人為
第２回　権力と正当性・統合と運営の理念、デモクラシーの限界効用について
第３回　自由　自然からの、神からの、権力からの自由、その余りにも欧米的な
第４回　平等　公正と公平、能力主義とルッキズム
第二部　イデオロギーと欧米／非欧米、伝統／近代
第５回　国家とジェンダー
第６回　国家とアイデンティティー　東京合衆国、都市化という無国籍化
第７回　地方消滅後の日本と地方創生
第８回　国家とデジタル　web 3以後
第９回　国家と戦争　愛国心
第三部　日本政治とは
第10回　天皇制国家の思想と心理、島国と海国、武家社会以降
第11回　戦後日本の政治体制　天皇・憲法・安保・高度成長
第12回　終焉の時代と平成の失われた30年　昭和終焉・バブル崩壊・冷戦崩壊／冷戦鎖国と成長神話
第13回　令和以降　ルールなき世界の中の日本
第14回　第３期日本の形成と混迷する保守再生と迷走する旧左派勢力
※　情勢の変化により内容に変更が生じる場合があります。

３．履修上の注意
レジュメを配布しますが、レジュメというのは講義理解の補足なので、きちんと出席し、一生懸命に話を聴いてノートをとってください。暗記モノの授業ではありません。記憶モノです。心に響くから考えるのです。「考え方」ではなく、「考え方の考え方」を教える講義です。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
講義で示した資料はインターネット上で公開されているものもあるので、予復習に活用してみてください。また、関連しそうな様々なインターネット上の言説も参考になるでしょう。youtube等では、その人の願望を歴史にしているような説明をしているものが沢山あるので、講義と比較すると、とても良い参考になると思います。なお、wikipediaはかなり精度が高いです。誤りがあっても、すぐに次々と様々な読み手により訂正されていきます。

５．教科書
単独の教科書などにより解決できるような問題ではありません。資料は配布（アップロード）することがあります。必要な文献は適宜示します。

６．参考書
授業時に提示することが多いです（オンラインも含めて）。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜、学生のコメントへのフィードバックを行い、期末試験については講評をOh-o! Meiji等を通じて伝える。

８．成績評価の方法
各回講義でのリアクション・コメントが70％、期末試験が30％。成績は各講義でのリアアクション・コメナントの比重が高いので、結果として出席重視となっている。

９．その他

科目ナンバー：(IC)SOC111J

組織論

２単位	１年次	竹中　克久

１．授業の概要・到達目標

現代社会を読み解くにあたって、企業・病院・大学などの多くの組織やそれに関わる人間について総合的に理解することは非常に重要なことである。本講義では、組織を人々の間で行われるコミュニケーションの総体としてとらえ、現代社会における組織の諸問題について学ぶ。主として、社会学の立場から組織を考えるが、経営学や心理学の知見も取り入れて講義を進めていく。また、現代の組織にまつわるトピックについても解説してゆく。本講義によって、「組織をいかにマネジメントするか」という観点ではなく、そもそも「組織とは何か」という根源的な理解を得ることを目標とする。

２．授業内容

第１回　aのみ　イントロダクション：組織論とは何か
第２回　組織論の学説史１：なぜ組織は生まれたのか？
第３回　組織論の学説史２：公式組織（官僚制）と非公式組織（インフォーマル・グループ）
第４回　組織論の学説史３：組織と個人について
第５回　組織とコミュニケーション：組織が先か、コミュニケーションが先か？
第６回　組織目的論：なぜ目的が共有されるのか
第７回　組織戦略論：企業はどのように商品開発を行うか
第８回　組織構造論：組織の中でコミュニケーションはどのように連結されているか
第９回　組織文化論：組織の中の見えない力
第10回　組織シンボリズム：組織の中のシンボルはいかなる役割を果たしているか
第11回　現代組織の諸問題１：派遣労働について
第12回　現代組織の諸問題２：日本における格差について
第13回　現代組織の諸問題３：現代組織とセーフティネット
第14回　まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意

現代の組織について何らかの興味を持っている学生が好ましい。また、社会問題などに敏感になっている学生も歓迎する。本科目は、３、４年次配当の「組織と情報」とも関連する内容になっているため、１、２年次にこの「組織論」を受講しておくことが望ましい。
また、本科目は学際性を重視している。社会学・経営学・社会心理学を代表とした多様な組織のモノの見方について学ぶため、情コミらしい科目といえる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

講義の冒頭で、前回の復習を簡単に行うが、それ以外に、教科書で指定された部分や、事前に配布された資料を精読して講義に望むこと。

５．教科書

以下の教科書を使用する。
『組織研究の学際性ーー正解のない問いの「力」、竹中克久（文眞堂）(2026年3月発行予定).
それとは別に講義用の資料を事前にOh!Meijiにupする。

６．参考書

『制度と文化』、佐藤郁哉・山田真茂留（日本経済新聞社）
『経営組織』、金井壽宏（日経文庫）
『組織の理論社会学』、竹中克久（文眞堂）
『Hatch　組織論』、マリー・ジョー・ハッチ（同文館出版）
『組織の経営学』、リチャード・L・ダフト（ダイヤモンド社）

７．課題に対するフィードバックの方法

各回のディスカッションペーパーの代表的なものについて、次回授業の冒頭でフィードバックと評価を行う。

８．成績評価の方法

定期試験70%、講義中に行うディスカッションペーパー 30%

９．その他

質問等は基本的に講義中に受け付けるが、急な場合は
takenakakatsuhisa[@]hotmail.com（[ ]を外してください）に氏名を件名に入れて連絡すること。

科目ナンバー：(IC)LAW151J

犯罪と法Ⅰ

２単位	１年次	阿部　力也

１．授業の概要・到達目標

この授業では、①犯罪はなぜ発生するのか、②犯罪とはどのような「現象」を意味しているのか、③犯罪から社会・個人を守るためにはどのような方策があるのか、④犯罪を規制するための「法律」の役割について考える、⑤「刑罰」の機能・役割について考えるといった５つのテーマに沿って、「犯罪と法」について考えることを目的としています。
「社会」と「個人」、あるいは「個人」と「個人」とのむすびつき（コミュニケーション）は様々な形で現れると思われますが、マイナスの方向で現れる現象の1つが「犯罪」ということになるでしょう。窃盗（どろぼう）は被害者と加害者が存在しなければ成立しないわけです。みなさんは、報道等をつうじて、いろいろな形で犯罪について知ることができるでしょうし、実際に被害に遭うかもしれないし、自身が行ってしまうかもしれません。「社会がある以上、犯罪もそこに存在する」といえるのです。だからこそ、犯罪発生のメカニズム（犯罪原因論といいます）を探り、どのような現象（事件といってもよいでしょう）を犯罪として指摘することになるのか。この問題を考えることは実は社会そのものを考える、という意味をもつことになるのです。授業ではまず、実際に発生し、裁判で取り上げられた事件をいくつか紹介したいと思います（ぼくは好ましいフレーズと思っていませんが「無敵の人」による事件などを取り上げる予定です）。
もっとも、犯罪は「現象」それ自体として取り上げても法的には意味をもちません。「犯した罪」として犯罪を考えるわけですが、罪に値する行為は、ここでは法律が決めることになります。ですから、発生した事件が「どの罪に当たるのか」を見極める必要があります。ここで間違うと「えん罪」が発生する可能性が高くなるのです。では、事件がどの罪にも当たらないようにみえた場合はどうしたらよいのでしょうか（ギリギリ法律に当てはまりそう、でも微妙に違うという限界事例もあります）。法律に載っていない行為は犯罪にはなりません。つまり法律に載っている行為が実際の事件と同じものであると判断された場合だけが犯罪になります（殺人罪、窃盗罪、放火罪など）。
法律に触れた以上、その行為は「違法な行為」として評価されたことになります。そこで、その違法行為を否定する役割をもつのが「刑罰」ということになります。刑罰を科されるに値する行為が「違法行為」であり、その行為は法律で決まっているという仕組みです。たとえば刑法第199条は「人を殺した者は、死刑、無期、または5年以上の拘禁刑に処する」と規定しています。この規定があるからこそ、殺人罪は犯罪とされ処罰されるわけです。逆にこの規定がなかったらどうなると思いますか？殺人罪というこの「条文」がなかった場合、人を殺した人（犯人）はどうなるのでしょうか。悪いことは悪いのだから処罰できるという回答が多い気もします。しかし、その場合の「悪いこと」の判断基準は何ですか。条文がない以上、法律には載っていませんよね？法律にない行為を処罰できますか？
この質問に対する回答を考えるということは、犯罪から社会・個人を守るための法律の意義、あるいはその役割について考えることに結びつくのではないでしょうか。みなさんと一緒に考えていきたいテーマといえます。
この授業では、犯罪を取り扱う法律として「刑法」を取り上げ、刑法という法律を手がかりに、刑法が考える違法な行為としての犯罪の要件・基準、それをもとに、裁判で争われた事件からみえてくる現代社会における犯罪の特徴、その発生原因、予防政策などを包括的に考えることをつうじて、問題分析へのアプローチの1つとして「法律による解決」が存在することを学び、法的思考を身に着けることの重要性に対して多少の関心をもっていただければ、この授業の到達目標は達成されたといえるでしょう。

２．授業内容

第１回　授業の目的とスケジュールの確認：テーマを挙げるとしたら「犯罪」という言葉の定義を考えたいと思います。
第２回　犯罪の意義について考える（１）：どのような行為が犯罪とされるのか、具体的な事件を例として挙げながら考えます。
第３回　犯罪の意義について考える（２）：刑罰を科すことが許される行為、つまり違法な行為の性質に迫ります。ここでも具体例をふまえながら、犯罪に関する理論構成を展開することになります。犯罪学、刑事政策、犯罪社会学、犯罪心理学からのアプローチなどにも言及していきたいと考えます。都市型犯罪といういい方はありえますが、田舎型犯罪というタームはあまり見受けられません。なぜでしょうか。考えてみてください。
第４回　刑法の目的について考える（１）：犯罪に対応する法律の役割を考えます。具体例を挙げながら、反社会的な行為が「犯罪」として把握される意味を検討していきます。
第５回　刑法の目的について考える（２）：犯罪に対応する「刑法」の目的について考えます。もし「人を殺すのはなぜいけないのか」と問われた場合、どのように回答すべきなのでしょうか。法律でその行為は禁止されているから、という回答も可能ですが、その回答で十分といえるのでしょうか。一緒に考える回です。
第６回　刑法の目的について考える（３）：前回扱った質問について、さらに深掘りしたいと思います。人の行動を規制するルールは、法律以外にも存在するはずです。たとえば殺人は、「人を殺してはいけない」という社会規範が別に存在しているから、『やってはいけないのだ』という回答もありえます。法と他の社会規範（ルール）の併存と相違について考える回です。
第７回　刑罰の役割について考える（１）：死刑という刑罰について考えます。古くから存在する刑罰であり、究極の刑罰といえます。もっとも、世界的には「死刑廃止」が潮流です。そのような流れにあっても死刑に存在意義があるとしたら、どのような点でしょうか。刑罰の機能ないし役割から考えていきます。さらに実際の裁判では、どのような事例において死刑判決が下されているのか、具体的にみていくことにしましょう。
第８回　刑罰の役割について考える（２）：死刑を廃止した場合、凶悪犯罪は増える傾向にあるのか否か、このことを廃止した諸外国を例に考えます。また廃止の場合、代替刑として「終身刑」を科すべきであるという主張は有力です。わが国では「無期拘禁刑」という刑罰があります。終身刑と無期拘禁刑の違いを押さえながら、終身刑を導入することに問題はないのか、一緒に考えましょう。
第９回　刑罰の役割について考える（３）：大きな事件があると、捕まった容疑者（あるいは被告人）に精神鑑定が実施されたとか、殺人事件の被告人なのですが「責任能力」がないので「無罪」という判決が下ったというニュースを聞いたことがありませんか。今回は、刑罰を考える際に、責任能力を考えることの意味を深掘りします。今回も、実際の裁判例をふまえながら、刑罰にかんする理論構成を考えます。
第10回　現代刑法を支える重要な考え方（１）：憲法に規定されている「罪刑法定主義」という原則を押さえましょう。憲法と刑法との関係、近代的な民主主義国家、あるいは法治国家という重要な概念を押さえていきます。「法律なければ、犯罪なく刑罰なし」というフレーズがキモになるのです！
第11回　現代刑法を支える重要な考え方（２）：罪刑法定主義以外にも重要な刑法を考える原理があります。それをふまえながら、とくに「でしゃばらない刑法」という発想をしたいと思います。実際、反社会的行為がすべて処罰されているわけではありません。処罰される行為は必要最小限度のものだけである、という捉え方が一般的です。犯罪のない社会、安全・安心な社会を作るためには、できるだけ多くの反社会的行為を犯罪として処罰すべきだ、という考え方もあります。この考え方の是非について、一緒に考える回です。
第12回　犯罪論について（１）：「犯罪論」とよばれる「犯罪の成立要件」を考えます。ここからは、法律からみた犯罪ということをテーマに検討をすすめていきます。処罰することが可能なのは、犯罪の成立要件を充たしたからにほかなりません。逆に成立要件を充たしていない行為は、たとえグレーだとしても、犯罪とはいえないのです。成立要件をまず押さえておくこととの重要性について、議論したいと考えます。
第13回　犯罪論について（２）：AさんがBさんを殴ってケガをさせ、死亡したという事例をベースに、犯罪論の組み立て方を考えます。一般的には、Aさんには「傷害致死罪」が成立するわけですが、なぜ殺人罪ではなく傷害致死罪に当たるのか、具体的な「条文」（刑法205条）を手がかりに、犯罪の成立要件とはどのような内容なのかについて考えます。
第14回　犯罪論について（３）そして春学期のまとめ：AさんはBさんの顔面を1発だけ殴ったのですが、Bさんは実は持病をかかえていたので、その持病との相乗効果でBさんは死亡してしまいました。Aさんはその事実を知らなかったのです。この場合、AさんにBさん死亡の刑事責任を問うことは可能だと思いますか。さらにAさんは警察官で逃走中の犯人を捕まえるためにその顔面を殴ったとしたらどうでしょうか。このような事例をベースに犯罪成立要件で議論すべきさまざまなテーマについて考えつつ、秋学期への見取り図を示したいと考えます。
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

この授業は、犯罪と法Ⅱ、現代型犯罪と刑法Ⅰ・Ⅱとの関連でいえば、各科目の序論（プレリュード）として位置づけられます。それゆえ、基本的な事項・概念をできるだけ分かり易く説明したいと考えています。みなさんに、少しでも「刑法」という法律に興味・関心を持ってもらうことができれば幸いです。
なお、犯罪と法Ⅱの前提科目のため、Ⅱを履修する予定である場合には、この犯罪と法Ⅰをかならず履修してください。
みなさんには、教科書およびレジュメを繰り返し読んで欲しいと思います。専門的な法律家になる勉強だけが法律の勉強ではありません。現代社会において「教養ある市民」として生活するために、「ものの見方」の１つとしての「法的思考」を学んでもらいたいと思っています。とくにその重要性はみなさんも「裁判員」になる可能性があることからも明瞭だと思いません。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

【準備学習の内容】
各回ごとに教科書の該当項目・ページについて、授業前に目を通しておいてください。
【復習すべき内容】
授業で取り扱われた基本・重要事項をふり返って、その意義・内容を正確に理解できるようにしておいてください。

５．教科書

阿部力也『刑法総論講義案』（成文堂）を使用します。

６．参考書

とくに指定はしませんが、より深く勉強したい方はには、『判例百選』（有斐閣）などの判例の解説書がおすすめです。レジュメについては、事前にOh-o!Meijiのクラスウェブ上でパワポ資料として公開します。

７．課題に対するフィードバックの方法

定期試験（期間内試験）終了後に、出題の趣旨、採点実感についてOh-o!Meijiのクラスウェブ上で公開します。小テストあるいはレポート課題を科した場合でも同様にクラスウェブにて公開する予定です。

８．成績評価の方法

定期試験（期間内試験）において100％評価することを原則とします。受講生の修得・学習状況を勘案し、場合により「小テスト（択一式）」あるいは「中間レポート」を提出させる場合もあります（例外）。なお、その場合の評価割合は、定期試験70%、小テスト・レポート30%とします。なお後者の場合には事前に告知し、十分に時間的余裕を設定したうえで実施する予定です。なお定期試験においては、基本的知識が整理されているか、法的思考を前提に論理的な展開がなされているか、などを評価のポイントとします。もっとも、春学期設置科目なので、法的思考の入り口に立ってもらえれば十分ですし、すこしでも法律科目に興味を持ってもらえればこの授業の目的は達成されたことになります。そのことをふまえた採点基準となります。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW151J

犯罪と法Ⅱ

2単位	1年次	阿部　力也

1．授業の概要・到達目標

犯罪と法Ⅰでの履修をふまえて、さらに「犯罪論」の分析・検討をおこなうことが授業の目的です。具体的な内容としては、犯罪論「体系」を概括的に説明したうえで、体系上の順序、すなわち（1）構成要件、(2）違法性、(3）責任の順序に従い、検討をすすめることになります。簡単にいうと、(1）では、たとえばAがBを射殺した事件をベースに、犯罪の枠組みにしたがって、どのような行為が犯罪と認定され、Aは何罪にまず当てはまるのか。(2）では、その行為に正当防衛・緊急避難など違法性を排除するような理由はないか（たとえばAが警察官だとしたらどうでしょうか)。(3）ではAに責任能力が存在するか（Aに精神鑑定が実施された場合を考えてみましょう)、そのほか責任を排除する理由はないか（Aに殺意はあったのでしょうかなど)。このようなテスト（当てはめ）を重ねていくことが犯罪論の体系といわれるものです。直感的に1回の判断で犯罪を認定するなんてことは、危険です。何回かのテストを行い、誤った判断を回避することが重要となるのです。

さて、組織的な詐欺事案や衝動的・突発的な暴力行為など、現代的な特徴を示すと考えられる「犯罪事象」に対応するために「法」はどのような役割を果たすべきでしょうか。このことに一定の回答を与えるため、犯罪論の機能を的確に理解することが重要となります。この犯罪と法Ⅱでは、犯罪と法Ⅰで得られた知識を前提としながら、犯罪論にかかわる諸問題（トピック）を取り上げ、現代社会と犯罪、犯罪と法、犯罪とその規制といったテーマを深掘りしていきたいと考えます。

犯罪それ自体は、日頃からニュースなどをつうじて身近な話題として理解しやすいと思いますが、これを学問的（とくに法律学的）に理解しようとすると、なかなか取っ付きにくい印象を持つことになるでしょう。たしかに、窃盗、強盗、傷害などなど、毎日のようにニュースで取り上げられています。市民社会に対する脅威となる大きな事件も発生します。しかし、しばらくすると、「あれ、そんなことあったっけ」となることが多いと思います。これでよいのでしょうか。情報の洪水の中で、次々と前の事件が書き換えられてしまいます。本当は、重大な事件であればあるほど、じっくりと分析していく必要があります。そのことが次に起こるかもしれない同様の事件を防止することに役立つはずなのですが、その点がおざなりになってはいないでしょうか。この授業では、たんに刑法という法律の学習にとどまらず、もちろん犯罪は刑法という法律のなかで評価されてはじめて処罰が可能となるわけですが、法律学の学習というだけでなく、「犯罪のいま」を考えることをつうじて、現代社会を見つめるポイント（視座)、いわば定点観測のポジションをひとつ獲得することができれば、この授業の到達目標ということになります。

2．授業内容

第1回　授業の目的とスケジュールの確認：春学期のテーマを振り返りながら、犯罪の意義、犯罪と刑罰の対応関係、犯罪論体系の意義を再確認しましょう。

第2回　犯罪論の体系（1）：構成要件の機能。殺人罪と傷害致死罪は犯罪の枠組みが違っています。AがBを殴って死亡させたとしましょう。この行為をいずれかの条文に当てはめる必要があります。これを考える場面が構成要件の役割となります。ちなみに傷害致死罪には死刑は想定されていません。それゆえ犯罪の枠組みを最初に提示し、どの枠に事件を当てはめられるかがポイントとなるのです。

第3回　犯罪論の体系（2）：構成要件の中身（要素）について考えるのがテーマです。死亡させた行為をどのように評価すべきか。評価するためにはいくつかのポイントがあるということです。

第4回　犯罪は行為でなければいけない：犯罪の枠（構成要件）を考える場合、殺人行為、傷害致死行為とは何かと提示する必要があります。さらに行為として提示できない「思想」、「思考」それ自体は、かりに「悪だくみ」であっても処罰の対象にならないことを押さえる回です。

第4回　因果関係（1）：多くの犯罪は、行為によって結果が発生することを想定しています。殴ったから、殴られたからケガをする、死亡してしまうという結果が必要です。この行為と結果とのつながりを因果関係とよびます。

第5回　因果関係（2）：実際の裁判で因果関係が問題となった事例を検討します。殴られたBさんに持病があったため、殴打行為と持病が重なり合って重大な結果が発生しても、その結果をAさんに負担させることが可能でしょうか。このような点がテーマとなります。

第6回　故意と過失（1）：犯罪は、故意犯と過失犯に分けられます。殺人罪は故意犯の典型例といます。では傷害致死罪はどのような犯罪として位置づけられるのでしょうか。あるいは過失致死罪と殺人罪はどうでしょうか。この回ではそれぞれの罪の相違をベースに検討を進めます。

第7回　故意と過失（2）:事例のAに「殺意」を認めるためには、どのような要件を充たすことが必要でしょうか。Aに殺意がなければ、過失犯が成立するのでしょうか。この回では、故意と過失の限界を探っていきます。

第8回　作為と不作為：ニュースでも取り上げられることの多い「育児放棄」などの虐待事例は、不作為という犯罪に当たります（保護責任者遺棄・不保護罪)。殴打行為は「作為」ですが、子供の面倒をみる義務があるのにこれを怠ることを不作為の犯罪といいます。この回は不作為をめぐるいくつかの事件を取り上げ、論点を探っていきます。

第9回　違法性論の課題（1）：Aは傷害致死罪の構成要件に当てはまっても、実はBからの攻撃に対抗して、同人を殴って死なせた場合、「正当防衛」が認められるかもしれません。誰かに襲われたとき、どのように、どこまで対抗できるのか。市民的権利として正当防衛を考える必要も大事といえるでしょう。

第10回　違法性論の課題（2）：正当防衛・緊急避難は、行為の違法性をめぐる議論です。犯罪行為の違法性とその違法性を排除する理由を考えましょう。実際に行為は行われているにもかかわらず（殴って死亡させたなど)、処罰されない規定が正当防衛・緊急避難です。もっとも要件は厳格です。過剰防衛・過剰避難とよばれる事例を手がかりに、違法性を排除する要件を検討しましょう。

第11回　違法性論の課題（3）：被害者のBさんがもしAさんに自分を殴って欲しいと依頼していたとしたら、Aさんに傷害罪が成立するのでしょうか。客観的には傷害罪に該当しそうですが、この事例では法により保護される対象が存在しないのではないか。この疑問を解き明かすことをテーマとします。

第12回　責任論の諸問題（1）：Aの行為が傷害致死罪の構成要件に当てはまり、正当防衛にもならなかった場合、そのAに刑罰を科すためには、Aにその行為に対する責任が存在したことを最後に確認する必要があります。責任がないと人を刑罰で非難することができないのです。責任がないと処罰できない理由はなぜか。そもそも精神鑑定制度などがあるのはおかしいのではないか、と思う方も多いと思います。ここでは、責任とは何か、について正面から考えることとします。

第13回　責任論の諸問題（2）：行為者（犯人）の主観的側面をたどることは、犯罪か否かを評価していくうえで重要です。犯罪行為は、客観的な要素と主観的要素から成り立っています。責任は主観的要素の問題です。具体的な事例をベースに、犯罪の主観的要素にはどのようなものがあるのかを考える回です。

第14回　秋学期のまとめ・ふりかえり：これまで学習してきたことをベースに、授業で取り上げた事例に対して、具体的な回答を与えてみましょう。Aさんには殺人罪が成立するのか、傷害致死罪が成立するにとどまるのか。実践的なあてはめを行ってみましょう。

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

基本的な事項・概念をできるだけ分かり易く説明したいと考えています。みなさんに、少しでも「刑法」という法律に興味・関心を持ってもらうことができれば幸いです。　犯罪と法Ⅱを履修する場合には、犯罪と法Ⅰをかならず履修してください。

みなさんには、教科書およびレジュメを繰り返し読んで欲しいと思います。専門的な法律家になる勉強だけが法律の勉強ではありません。現代社会において「教養ある市民」として生活するために、「ものの見方」の1つとしての「法的思考」を学んでもらいたいと思っています。とくにその重要性はみなさんも「裁判員」になる可能性があることからも明瞭だと思いませんか。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

【準備学習の内容】

各回ごとに教科書の該当項目・ページについて、授業前に目を通しておいてください。

【復習すべき内容】

授業で取り扱われた基本・重要事項をふり返って、その意義・内容を正確に理解できるようにしておいてください。

5．教科書

阿部力也『刑法総論講義案』(成文堂）を使用します。

6．参考書

とくに指定はしませんが、より深く勉強したい方はには、『判例百選』（有斐閣）などの判例の解説書がおすすめです。レジュメについては、事前にOh-o!Meijiのクラスウェブ上でパワポ資料として公開します。

7．課題に対するフィードバックの方法

定期試験（期間内試験）終了後に、出題の趣旨、採点実感についてOh-o!Meijiのクラスウェブ上で公開します。小テストあるいはレポート課題を科した場合でも同様にクラスウェブにて公開する予定です。

8．成績評価の方法

定期試験（期間内試験）において100％評価することを原則とします。受講生の修得・学習状況を勘案し、場合により「小テスト（択一式)」あるいは「中間レポート」を提出させる場合もあります（例外)。なお、その場合の評価割合は、定期試験70%、小テスト・レポート30%とします。なお後者の場合には事前に告知し、十分に時間的余裕を設定したうえで実施する予定です。なお定期試験においては、基本的知識が整理されているか、法的思考を前提に論理的な展開がなされているか、などを評価のポイントとします。

もっとも、情報コミュニケーション学部における「学び」においては、広くさまざまな視点から問題分析を行う能力を身に付けることが重要ですから、法的思考とは何か、そのの入り口に立ってもらえれば十分ですし、すこしでも法律科目に興味を持ってもらえればこの授業の目的は達成されたことになります。そのことをふまえた採点基準となります。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAW121J

法学

2単位	1年次	清水　晶紀

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

法学は、現代社会の諸課題を学際的に分析する情報コミュニケーション学部においても、法律という課題解決ツールのあり方を考える上で、その物差しとして有用です。

そこで、本講義では、いくつかの映画を用いて法学の基礎的な知見を紐解いた上で、現代社会の重要課題であるエネルギー問題に焦点を当て、とりわけ原子力発電をめぐる課題の解決に向けての法律・法学の役割を概観することにします。原子力発電をめぐる課題を素材に、現代社会の諸課題を法学的に分析するスキルを身につけていきましょう。

【到達目標】

法学の全体像を概ね把握し、日常の新聞報道等を法学的視点で説明できるようになること。

2．授業内容

1．（aのみ）イントロダクション－現代社会における法律・法学の役割
2．法学入門①－基礎法学：「インクレディブル・ファミリー」から考える
3．法学入門①－基礎法学:「インクレディブル・ファミリー」を観て、改めて考える
4．法学入門②－刑事法学：「それでもボクはやってない」から考える
5．法学入門②－刑事法学：「それでもボクはやってない」を観て、改めて考える
6．法学入門③－民事法学：「エリン・ブロコビッチ」から考える
7．法学入門③－民事法学：「エリン・ブロコビッチ」を観て、改めて考える
8．法学入門④－公法学：「シン・ゴジラ」から考える
9．法学入門④－公法学：「シン・ゴジラ」を観て、改めて考える
10．ゲストスピーカー講義
11．原子力発電と法学①：原発再稼働と法学
12．原子力発電と法学②：原子力災害と法学
13．まとめ：情報コミュニケーション学部と法学
14．フィードバック

＊講義内容はシラバス執筆時点の予定であり、必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

映画やゲストに対して失礼になるということもあるので、遅刻や早退はやめてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：下記参考書、ないし、その他の法学入門書の該当部分を読む。

復習：レジュメを熟読し、レポートで理解度を確認する。

5．教科書

特に指定しません。

6．参考書

池田真朗編『プレステップ法学（第6版)』(弘文堂・2025)
森田果『法学を学ぶのはなぜ』(有斐閣・2020)
木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(星海社新書・2012)
清水晶紀『環境リスクと行政の不作為』(信山社・2024)
鶴田順他編『環境問題と法』(法律文化社・2022)
その他、適宜指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法

レポート課題については、最終回までに時間を設けて全体的な講評を行います。

また、課題中に設ける自由記述欄（意見・感想・質問等）についても、最終回までに時間を設けてフィードバックします。

8．成績評価の方法

小レポート15点×4回＝60点（第３・５・７・９回時出題予定）
ゲストスピーカーレポート15点（第１０回時出題予定）
最終レポート25点（第１３回時出題予定）

＊点数配分はシラバス執筆時点の予定であり、必要に応じて変更することがあります。

9．その他

科目ナンバー：(IC)ECN111J

マクロ経済学

２単位	１年次	**島田　　剛**

１．授業の概要・到達目標

この講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学の基礎を学習するものです。講義では、次のような疑問について考えていきます。

－ 豊かさとは何か、どうすれば測れるか？
－ 失業やインフレといった景気変動による問題を解決するにはどうしらたいいのか（短期的な課題）？
－ 経済成長を実現するにはどのようなことが必要なのか（長期的な課題）？

これらの疑問を、一国経済を対象としたマクロ経済学により考察していきます。前期のミクロ経済学では､経済の「ミクロの部分」､つまり「小さな部分」を分析しました。例えば、個人や企業などがその対象です。一方、この後期のマクロ経済学では、こうしたミクロの分析を基に「国単位」のマクロ（大きな）経済がどのように動くのかを考えます。マクロ経済学を学習する方には、前期のミクロ経済学もあわせて学習すると、より全体を理解しやすくなります（なお、ミクロ経済学を履修していなくても本講義を受講することは可能です）。

また、マクロ経済学の基礎を学ぶことを通じて、社会におけるさまざまな経済現象を理解します。この学びは、経済学だけでなく社会学、政治学など学問の枠組みを超えた学際的な視点を持つ上で重要な知識や手法を提供します。

(到達目標)
・マクロ経済学の基礎を習得し、中級レベルの学びへの橋渡しをする
・経済への理解を深め、経済成長、失業やインフレなど社会の課題に対して問題解決の方策を提案できるようになる

２．授業内容

第１部　豊かさとは何か、どうすれば測れるか？
　第１回：イントロダクション － 日本は貧しくなったのか？
　第２回：国の豊かさをどうやって測るか
　第３回：GDPで測れない豊かさ － GDPの課題
　第４回：景気がよい時、経済はどう動くか？
第２部　失業やインフレといった景気変動による問題を解決するにはどうしらたいいのか（短期的な課題）？
　第５回：失業はなぜ起こる？ － そのメカニズムと対策
　第６回：財政政策の効果とは？
　第７回：金融市場はどう動くか？
　第８回：金融政策の効果とは？
　第９回：インフレと失業 － 物価の高騰が経済に与える影響
　第10回：物価と実質GDPの関係－ 総需要・総供給分析
第３部　経済成長を実現するにはどのようなことが必要なのか（長期的な課題）？
　第11回：経済成長の仕組み
　第12回：どうして成長する国と、しない国があるのか？
　第13回：気候変動、経済の金融化、格差
　第14回：a.まとめ

３．履修上の注意

ミクロ経済学を春学期に学習していることが望ましいですが、履修していない場合は島田剛（2023）「ミクロ経済学への招待」（新世社）を参照しながら学習してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

以下の教科書に確認用のテストがあります。内容理解ができているか確認してみてください。

５．教科書

島田剛（2025）「いまを読み解くマクロ経済学 ー 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」（日本評論社）
なお、教科書の試験への持ち込みを認める予定ですが、本書のKindle版は持ち込みできません。

６．参考書

経済学の基礎については以下の本を参考にしてください。
島田剛（2023）「ミクロ経済学への招待」（新世社）
(参考)
・神戸新聞編集委員インタビュー「島田剛 緒方貞子さんが遺したものは」（https://researchmap.jp/goshimada/misc/36523132/attachment_file.pdf）
・スティグリッツ（ノーベル経済学賞を）に明治大学に来ていただきセミナーで島田ゼミの学生とも意見交換をしました。大学のYouTube（https://youtu.be/VjmxTheLvv8）に動画が掲載されています。

７．課題に対するフィードバックの方法

講義の中でクラスウェブのクリッカー機能を使いながらフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

試験100％

９．その他

科目ナンバー：(IC)ECN111J

ミクロ経済学

２単位	１年次	**島田　　剛**

１．授業の概要・到達目標

この講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、ミクロ経済学の基礎を学習するものです。どうして新型コロナ禍の際にマスクやトイレットペーパーが買えなくなったのでしょうか？どうして貧困などの格差が生じるのでしょうか？また、どうして気候変動や環境問題が起こるのでしょうか？本講義では､これらの疑問について「市場」に注目しながら解き明かしていきます。特に、人々が市場でどのように考え、感じ、行動するのかを見ていきます。

ミクロ経済学では、経済の「ミクロの部分」、つまり「小さな部分」を分析します。例えば､個人や企業などがその対象になります。一方､後期に学習するマクロ経済学は、こうしたミクロの分析をもとに「国単位」のマクロ（大きな）経済がどのように動くかを考えます。ミクロ経済学を学ぶことで経済全体の理解が深まるため、ぜひ後期のマクロ経済学も履修してください。

(到達目標)
・ミクロ経済学の基礎を習得し、中級レベルへの橋渡しをする
・経済に対する理解を深め、問題解決の方法を考えられるようになる

２．授業内容

第１回：イントロダクション － どうしてマスクとトイレットペーパーが買えなくなったのか？
第２回：ヒト、モノ、カネの３つから市場から見る経済の世界
第３回：マスクの買い占めをやめさせるには？ - 経済を見るための５つの重要な視点（１）
第４回：お金で買えるもの、買えないもの - 経済を見るための５つの重要な視点（２）
第５回：人はどんな風に動くだろうか - 人の心と行動から見る経済の世界
第６回：経済を使ってトクをするには - 基本的競争モデル
第７回：体力がある子は学力が高い？ - 相関関係と因果関係
第８回：人生のチャンスと幸せとは - 機会集合、無差別曲線
第９回：ワクチンは国内で生産すべきか、それとも海外から買うべきか？ - 機会費用と比較優位
第10回：どうしてマスクの値段が高騰したのか - 需要と供給と価格の役割と
第11回：水とダイヤモンド、どちらが大切ですか？ - 使用価値、交換価値
第12回：コーヒーカップから考える世界経済 - なぜ格差が生まれるのか
第13回：タバコに税金をかけるのは税収のため、それとも健康的な社会を作るため？ - 弾力性
第14回：a 市場が失敗するとき - どうして貧しい国は豊かにならないのか

３．履修上の注意

・現実の経済に強い関心を持っていること。
・必ず復習をすること。経済学は積み上げなので、途中で分からない部分があると、その後も分からなくなります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

本講義は下の教科書をベースにしています。各章の終わりに確認用の問題がありますので、それを考えてみてください。

５．教科書

島田剛（2023）「ミクロ経済学への招待」（新世社）

６．参考書

・島田剛（2025）「いまを読み解くマクロ経済学 ― 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」（日本評論社）
(以下は参考)
・神戸新聞編集委員インタビュー「島田剛 緒方貞子さんが遺したものは」（https://researchmap.jp/goshimada/misc/36523132/attachment_file.pdf）
・スティグリッツ（ノーベル経済学賞）に明治大学に来ていただき、島田ゼミの学生とも意見交換をしました。大学のYouTube（https://youtu.be/VjmxTheLvv8）に動画が掲載されています。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業内でクラスウェブのクリッカー機能を使いながらフィードバックを行います。

８．成績評価の方法

試験100％

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM161J

メディア・リテラシー

2単位	1年次	**山口　達男**

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
「メディア・リテラシー」とは「メディア」に対する「リテラシー」（読み書き能力）と直訳できるが、それは単に「メディア技術を適切に利活用する能力」だけを意味するものではない。そうした能力を身につけるためには、「メディア」についての多角的・批判的な理解が必須である。
　また現代の情報社会においては、多様なメディアが絡み合いながら、われわれの日常を取り囲んでいる。そうした状況の中でメディア・リテラシーを涵養していくためには、各メディアがどのような歴史的・技術的な経緯を経て登場してきたかを把握することも欠かせない。
　そこで本科目では、「マスメディア」と「インターネット」の成立・普及の過程を辿りつつ、それらの特徴と社会的影響を捉えていくことで、メディアに対する適切な構え方（≒リテラシー）へとつなげていく。
【到達目標】
　各メディアの特徴を踏まえて、日常的なメディア利用の場面を多角的・批判的に考察できる。

2．授業内容
第1回：イントロダクション
第2回a：「写真」の発明
　　b：確認テスト
第3回a：写真の「マスメディア化」
　　b：確認テスト
第4回a：「映画」の登場
　　b：確認テスト
第5回a：映画の「政治化／ビジネス化」
　　b：確認テスト
第6回a：「ラジオ」の成立
　　b：確認テスト
第7回a：複合メディアとしての「新聞」
　　b：確認テスト
第8回a：「マスメディア」から「ネットワークメディア」へ
　　b：確認テスト
第9回a：「SNS」の出現
　　b：確認テスト
第10回a：ネットワークメディアによる変化①（エンタテインメント）
　　b：確認テスト
第11回a：ネットワークメディアによる変化②（仮想通貨）
　　b：確認テスト
第12回a：ネットワークメディアによる変化③（監視社会）
　　b：確認テスト
第13回a：「エビデンス」が求められる世の中
　　b：確認テスト
第14回a：期末試験
　　b：全体のまとめ

3．履修上の注意
第2回授業から第13回授業では、講義内容の理解度を確認するための小テストを実施する。
第14回授業の前半（aモジュール）では、期末試験を実施する。
なお、第2～13回授業の小テスト（確認テスト）は出席票を兼ねる。
第1回・第14回授業では出席状況の確認を別途実施する。
全授業回数の3分の2以上の出席が確認されなかった場合、テスト・試験の成績に関わらず、単位は認定しない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
事前学習（予習）は、各授業回で扱うテーマに関連する話題をリサーチすること。
事後学習（復讐）は、講義ノートや確認テストを振り返り、授業内容の理解を深めること。

5．教科書
とくに指定しない。

6．参考書
授業内で適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内での解説・コメントとして行なう。

8．成績評価の方法
確認テスト：50%、期末試験：50%

9．その他

人文科学

科目ナンバー：(IC)COM131J

異文化理解

２単位	１年次	根橋　玲子

１．授業の概要・到達目標

情報通信、交通手段の急速な進歩、また経済や政治の流れにともなう人々の移動などにより、異文化との出会いがかつでないほど増えている。またこれにより、文化背景の異なる人々とコミュニケーションを図る機会が飛躍的に増え、また異文化で生活する人々も急増している。自分と似通ったバックグラウンドを持つ人々との間ですら、コミュニケーション上、様々な誤解が生じるときがあるが、文化背景の異なる人々との間ではなおさらである。文化背景が異なる人々が出会うときに起こる、理解と誤解のプロセスおよび文化変容を含む異文化理解・適応の基礎的な内容についてアクティブラーニングの手法を通して体験的に学び、異文化へのawarenessを高めることを到達目標とする。

体験的な学びを通し、異文化コミュニケーションの基礎的な概念について学んでゆく。具体的には、文化・異文化コミュニケーションとは何かという問いからスタートし、言語･非言語コミュニケーション、価値観、ステレオタイプ、カルチャーショックといった内容を網羅する。「異文化理解」の授業では、「文化特定」もしくは「文化普遍」のアプローチがとられることが多いが、本コースでは、トータルでは文化普遍を目指しながらも、教職（英語）科目であることを意識し、英語圏を意識した内容構成とするとともに、授業内でも英語を多用する。例えば、言語コミュニケーションの回では、英語話者と日本語話者のコミュニケーションスタイルの特徴、といった内容を扱う。体験的な学びとしては、毎回異なるメンバーでグループを作り、その中でトピックにまつわるアクティビティやディスカッションを行う。また、学期後半ではグループプロジェクト、グループによるプレゼンテーションを実施する。履修者には留学生も多いため、日本人学生・留学生双方にとって、グループプロジェクトは異文化コミュニケーションの実践の機会にもなるだろう。

２．授業内容

第１回：イントロダクション（文化とは、異文化コミュニケーション・異文化理解とは）
第２回：文化とコミュニケーション、文化と自己・アイデンティティ
第３回：非言語コミュニケーション１：音調学・対物学・動作学・接触学
第４回：非言語コミュニケーション２：近接学・時間学・コンテクスト・文化による違い
第５回：言語コミュニケーションとコミュニケーションスタイル
第６回：価値観
第７回：ステレオタイプ
第８回：ステレオタイプとメディア：CM分析
第９回：ステレオタイプと偏見
第10回：異文化適応：シミュレーション
第11回：異文化適応：カルチャーショック
第12回：グループプレゼンテーション１
第13回：グループプレゼンテーション２
第14回：授業のふりかえりとまとめ:なぜ異文化理解が必要なのか(再考)

３．履修上の注意

積極的な授業への参加が望まれる。自分の意見を積極的に発言すること。授業では英語により概念を説明することもあるため、英語を多用する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱った内容の振り返りをすること。特に、日常生活において、学習トピックがどのように関連しているかを日ごろから観察する目を養いたい。気づいたことを次回以降の授業に反映させ、ディスカッションやリアクションペーパーに活かすこと。

５．教科書

なし。授業時にプリントを配布する。

６．参考書

異文化コミュニケーション・ワークブック、八代京子・樋口容視子・コミサロフ喜美・荒木晶子・山本志都（2001）三修社

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは採点後、Oh-meijiを通して返却する。
また、授業内で一部のコメントを取り上げ、ディスカッションに役立てる。

８．成績評価の方法

グループアクティビティとリアクションペーパー　40%
プレゼンテーション　30%
期末試験　30%

９．その他

教職課程（英語）の必修科目であるため、英語や英語圏を意識した授業である。
本科目は２年生以上の履修が望ましいが1年生も可能である。

科目ナンバー：(IC)LIT121J

英語文学Ａ（英米文学）

２単位	１年次	渡邉　　俊

１．授業の概要・到達目標

[授業概要]
本科目では英語文学、すなわち英語で書かれた文学作品、とりわけ小説を主な題材として扱います。シェイクスピア、ナサニエル・ホーソーン、マーク・トウェイン、スコット・フィッツジェラルド、トニ・モリスン、カズオ・イシグロ、ジョージ・オーウェル、レイ・ブラッドベリ、オルダス・ハクスリーなど、古典的なロマンスや冒険物語からSFやディストピア小説まで幅広く取り上げます。個々の作品の背景となる社会問題（人種・性・階級差別）や社会現象（流行文化・メディア表象）など多角的な視座から各作品についてのアプローチや分析の一部を提示し、現代のメディアやコミュニケーションの在り方について履修者が考えるきっかけ作りとなるよう講義を行います。
履修者の人数によりますが、本科目ではグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの機会を可能な限り設けます。協力しながらテキストの抜粋を読み解き、積極的かつ自主的な課題への取り組みや意見表明が求められます。
[到達目標]
本科目の到達目標は以下の通り
- 名作と呼ばれる英語文学作品の内容を知識として獲得すること
- 作品の周辺情報である歴史・文化・社会について主体的に調査し、グローバル化・多様化する社会について理解・関心を深めること
- 英語圏の社会・文化・歴史を学ぶことを通じ、日本社会への相対的な理解を深めること
- 現代のメディア・コミュニケーションのあり方について自分なりの視座を持つこと

２．授業内容

1．イントロダクション：本科目の目的と概要についての説明
2．ロマンスとは一体？ (1)：William Shakespeare's Romeo and Julietから見る近代ロマンスの元型
3．ロマンスとは一体？ (2)：Nathaniel Hawthorne's The Scarlet Letterから見る情事の悲劇
4．ロマンスとは一体？ (3)：Scott Fitzgerald's The Great Gatsbyから見るラブ・トライアングル
5．アメリカ植民地時代の黒歴史 (1)：ColumbusとPochahotans、そしてAvatar
6．アメリカ植民地時代の黒歴史 (2)：映画Sleepy Hollowから見るアメリカ独立革命
7．アメリカ植民地時代の黒歴史 (3)：映画Sleepy Hollowから見る魔女狩り史
8．奴隷制度と人種差別 (1)：Mark Twain's Adventures of Huckleberry Finnから見る南北戦争周辺史
9．奴隷制度と人種差別 (2)：Mark Twain's Pudd'nhead Wilsonから見る民族主義の拡大
10. 奴隷制度と人種差別 (3)：Toni Morrison's The Bluest Eyeと差別意識の内在化
11. 監視社会と管理社会 (1)：George Orwell's 1984から見る監視社会とパラノイア
12. 監視社会と管理社会 (2)：Aldous Huxley's Brave New Worldで描かれるディストピア
13. 監視社会と管理社会 (3)：Kazuo Ishiguro's Never Let Me Goから見る生-政治と生-権力
14. 監視社会と管理社会 (4)：Space Oddessey: 2001におけるAI監視の危険性
＊なお、以上の内容は現状での計画であり、履修者の人数や理解度によって大幅に変更される場合もあります。

３．履修上の注意

PowerPointを用いた講義を行いますが、授業時に表示される言語は小テスト含めて「ほぼ英語」となります。ですが、講義の言語は日本語ですからご安心ください。課題の回答も日本語で全く構いません。
講義内容を映したスライドは基本的に授業では配布しません。PCやタブレットを持参すると良いかもしれません。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習に関しては、各回で扱う小説について出来れば原文で読んでおくことが望ましいです。しかし、時間の都合上難しいとも思いますので、翻訳を読んだり、事前に作品の内容を調べたり、映画版を見たりするなど各自で工夫をしてみてください。
復習に関しても同様で、興味を持った作品ならば原文・翻訳問わず通しで読むようにしてください。この科目の単位取得に限らず、教養として価値があるものだとお考えください。もちろん、配布資料やディスカッション履歴を再確認することも重要です。

５．教科書

教科書は必要ありません。基本的に配布資料で授業を進めます。

６．参考書

鈴木 透『実験国家アメリカの履歴書―社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』
・巽孝之『アメリカ文学史のキ-ワ-ド』（講談社）
・巽孝之『アメリカ文学史 駆動する物語の時空間』（慶應義塾出版会）
・巽孝之編『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房）
・石塚久郎編『イギリス文学入門』（三修社）
・杉野健太郎編『アメリカ文学と映画』（三修社）
・柴田元幸『アメリカ文学のレッスン 』（講談社現代新書）
・北澤裕『視覚とヴァーチャルな世界――コロンブスからポストヒューマンへ』（世界思想社）
・北澤裕『眼差しの世界: 視覚社会学の展開』（三和書籍）
・高野泰志『下半身から読むアメリカ小説』（松籟社）
・カレン・M・ゴックシク他 『映画で実践！　アカデミック・ライティング』小鳥遊書房、2019年。
・ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』 晃洋書房、2007年。ISBN: 978-4-7710-1858-7
・塚田幸光『シネマとジェンダー　アメリカ映画の性と戦争』臨川書店、2010年。ISBN:978-4-653-04060-6
・波戸岡景太『映画原作派のためのアダプテーション入門　フィッツジェラルドからピンチョンまで』彩流社、2017年
・Russel Sharman.『Moving Pictures: An Introduction to Cinema』(無料ダウンロード可能)
・Sara Uptone. Literary Theory–A Complete Introduction, Teach Yourself, 2017.

７．課題に対するフィードバックの方法

- グループワーク・ディスカッションについては、授業時にフィードバックする
- 提出を要するグループ課題については、次回の授業開始時に講評およびフィードバックを行う

８．成績評価の方法

・期末レポート：50%
・毎時の確認テスト：25%
・ディスカッションや授業内課題の達成度：25%
詳細については、初回時に説明する予定です。
＊欠席回数が5回に達した場合、いかなる理由においても単位取得を認めない。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LIT121J

英語文学Ｂ（英米文学）

２単位	１年次	宮本　正治

１．授業の概要・到達目標
20世紀初頭から半ばにかけて活躍した英米の作家の短篇小説を読みます。
短篇小説はその短さゆえにテーマが絞られ、やはり短さゆえにテーマがわかりにくい場合があります。その反面､凝縮された鋭さがあり、作家の意図やメッセージを読み取って解釈できたときには、考えさせられること、学ぶことの多いものです。
この授業ではごく短い小説をなるべく多く原文で読み、その記述を根拠にして作品を読み解く練習をします。もちろん昔の、それも外国の作家作品ですから、歴史的な背景知識が必要ですし、自分よも年齢が上の登場人物を理解するには想像力が要ります。教室で自分の持っている知識や意見を出しあい、感想を話しあいながら、すこしずつ、過去の作品が現代に生きる私たちにとっても大切なことを書いているのが見えてくると良いと思います。
作家はすでに多くのことを考えています。すぐれた作家の作品に触れて、私たちの背丈を伸ばしてもらうのが目標といえば目標です。人生のさまざまな局面を描いた作品を年齢の順に読んでいきます。まずは子供の誕生からはじめます。

２．授業内容
原文の精読を行います。英語として難解な箇所について丁寧に辞書をひき、綿密に考えて正確な意味をとっていきます。そのうえで、受講者が作品をどう読んだのか、お互いの考えを話しあいます。長めの作品は部分的に日本語訳を配布する予定です。作品は受講生の興味や時間の都合などによって変更することがあります。
第１週：イントロダクション
第２週：Adam(1)
第３週：Adam(2)
第４週：I Spy
第５週：The Garden Party(1)
第６週：The Garden Party(2)
第７週：The End of Something
第８週：Everything Stuck to Him(1)
第９週：Everything Stuck to Him(2)
第10週：Two Gentle People
第11週：The Happy Man
第12週：The Fly
第13週：An Ideal Family
第14週：まとめ

３．履修上の注意
難易度の高い英文を読みます。文学作品を読もうという意欲がある学生のみ履修してください。
今まで自発的に小説を読んだことのない方はかなり苦労することになるので注意してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は予習段階で丁寧に辞書をひき、不明点をはっきりさせて授業に参加してください。自分なりの訳・解釈を用意しておくことが求められます。教室で初めて読んで考えることは、他の参加者の時間も無駄にします。
その週に読む部分の要点と疑問点を授業前に提示することで出席とみなします。常習的に予習していない者は出席を認めない場合があります。

５．教科書
プリントを配布します。

６．参考書

７．課題に対するフィードバックの方法
適宜対応します。

８．成績評価の方法
・ディスカッション、リアクションペーパー、発表など、授業への積極的な参加（80%）
・レポート、試験（20%）

９．その他

科目ナンバー：(IC)LIT131J

外国文学

２単位	１年次	関口　裕昭

１．授業の概要・到達目標
「魅惑のドイツ文学―書物・戦争・ユダヤのテーマを中心に」
　みなさんはドイツ文学と聞いて、何か難しそうなものだと想像していませんか。それは大間違いです。実はそこには、深く現在の諸問題にもつながる世界が皆さんを待ち受けています。この講義では、３つのキーワードをもとに、18世紀から現代に至るドイツ文学の歴史を、現代の世界情勢とリンクさせながらわかりやすく読み解きします。
　「書物」については、「紙の書物は生き残れるか」という問いを絶えず考えながら、グーテンベルクの活版印刷術から現在のメディアについて考察します。「戦争」については、2026年1月現在なお継続中であるウクライナとロシアの戦争を念頭に置きつつ、ヨーロッパを地政学的にも考えながら、様々な作品を読み解きます。さらに原爆やホロコーストについても考えます。この「書物」と「戦争」は深いところで―例えば戦争を始める為政者は、しばしば自分とは異なる意見を弾圧するために「焚書」を行ってきました―、つながっていることが、講義を聞いていくと理解できるでしょう。また講義全体を通して、ハイネ、カフカ、ベンヤミン、ツェラン等のユダヤ系作家を重点的に取り上げ、ユダヤ人問題についても考察します。
　これらのキーワードをもとに、現在の諸問題を読み解くヒントをドイツ文学に求め、皆さんが個々に持っている問題とも関連させながら、歴史的に深く考察することが本講義の目標です。

２．授業内容
第１回　イントロダクション―紙の書物の歴史(古代から現代まで)
第２回　ゲーテの世界①―『若きヴェルテルの悩み』を解読する
第３回　ゲーテの世界②―その生涯と作品(『西東詩集』『ファウスト』他)
第４回　ドイツ・ロマン派とドッペルゲンガー―ホフマン、シャミッソー、ジャン・パウルほか
第５回　グリム兄弟の生涯と仕事―『グリム童話集』を中心に
第６回　ハインリヒ・ハイネ―ユダヤ人・コスモポリタン・ジャーナリスト
第７回　ドロステ・ヒュルスホフ―ドイツ最大の女流詩人
第８回　ウィーン世紀末の文学と芸術－カフェから生まれた文学(シュニッツラー、アルテンベルク、ホフマンスタール)
第９回　フランツ・カフカと不条理の世界－「変身」の分析を中心に
第10回　ヴァルター・ベンヤミン『ベルリンの幼年時代』を読む
第11回　レマルク『西部戦線異状なし』を読み直す―「戦争」とは何をもたらすのか？
第12回　南洋諸島のドイツ文学―オリエンタリズムの視点から
第13回　シュリンクの『朗読者』を読む―映画「愛を読むひと」との比較を通して
第14回　世界文学の中のドイツ文学―多和田葉子とパウル・ツェラン
（扱う作品やテーマ、講義の順序は変更することがあります）

３．履修上の注意
　講義中は私語・飲食は厳禁、またスマホなどの使用を一切認めません。折にふれて提出する小レポートや学期末レポートでのコピペや生成AIの利用を禁じます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
　以下の書物を扱いますので、前もって読んでおくと理解が一層深まります。
　ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
　シャミッソー『影をなくした男』
　グリム兄弟『グリム童話集』
　フランツ・カフカ『変身』
　ヴァルター・ベンヤミン『ベルリンの幼年時代』
　レマルク『西部戦線異状なし』
　パウル・ツェラン詩集
　多和田葉子の諸作品

５．教科書
　授業はパワーポイントを用いて行い、補助的に随時プリントを配布します。しかし当然のことですが、ただ漫然と話を聞くのではなく、自分からノートを取る姿勢が重要です。

６．参考書
　そのつど授業で指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業で適宜指示します。毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。その次の授業で、匿名で質問や問題点を紹介しながら、回答することも取り入れています。可能な限り、個々のニーズに合った丁寧な指導を心がけています。

８．成績評価の方法
　授業への参加度40%（４回以上の欠席は失格。ただし就職活動や病欠など、理由のある欠席に対しては理解を示します)、学期末レポート60%

９．その他

科目ナンバー：(IC)LIT136J

外国文学〔M〕

２単位	１年次	八木　　淳

１．授業の概要・到達目標
《授業の概要》
本講義では、ヨーロッパ文学の中で恋愛がどのように捉えられてきたか、また恋愛がどのように表現されたかを、古代から現代までの主要作品を読みながら探り、西洋人たちにとって愛とは何かを考えます。恋愛は時代も洋の東西も問わず、文学の重要なテーマの一つです。ヨーロッパでは、宗教、哲学、思想、倫理観、精神科学などの影響を受けて、恋愛に関する考え方が古代から現代までの間に著しく変化しました。また、恋愛の表現方法も各時代の社会や宗教、道徳の制約を受けて変り続けました。作家たちは自分の恋愛観、恋愛感情や心理を読者に伝えるため、各時代に即した表現方法を生み出したのです。この講義では古代ギリシア、ローマという異教世界の文学から始め、中世のキリスト教世界の文学、ルネサンスの諸教混淆世界の文学を経て、精神科学の影響を受けた現代の文学までを扱い、各時代の恋愛観と表現方法を分析します。授業では時代ごとに有名な作家の作品を取り上げ、時代背景や文学思潮を説明しながらこれらを検討します。
《到達目標》
本講義では以下の能力・知識を身につけることを目指します。
1．ヨーロッパの文学にはどのようなジャンルがあるか、どのような作家がいて、どのような作品があるか理解し、説明できる。
2．ヨーロッパ文学の古代から現代までの流れを理解し、説明できる。
3．神話、アレゴリーなど、ヨーロッパ文学の表現方法を理解し、どのようなものかを説明できる。
4．文学が言語の発達や社会の発展に与えた影響を理解し、説明できる。
5．愛についての様々な作家の考えを理解し、私たちにとって愛（恋愛に限らず）とは何かを考えられるようになる。

２．授業内容
授業は全てメディア授業（オンデマンド型）となります。毎週木曜日に、Oh-o!Meijiを通じて授業動画を配信するとともにテキスト（翻訳）と関係資料を提示し、以下の内容で講義を進めます。
第１回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：イントロダクション―文学とは何かを説明します。文学の定義を紹介した後、文学のジャンルを示します。合わせて、用いられた言語、文学の伝達方法の変遷を解説します。また、ヨーロッパ文学の概要つまり地域的枠組みと文学史上の時代区分を説明します。
第２回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ギリシア・ローマ神話について―ギリシア神話およびローマ神話の構造と物語に登場する主な神々を説明します。また、パリスとヘレネーの関係に関わる物語を示し、トロイア戦争の原因と経過に触れます。さらに恋愛に関係する神々を紹介し、サッフォーとモスコスの詩を読みながら、愛神（エロース）像と女神（アプロディーテー）像の時代による変遷を辿ります。
第３回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ギリシア文学に表された愛―古代ギリシア文学を概観し、英雄叙事詩について解説します。それからホメーロスの『イーリアス』と『オデュッセイア』を読み、作品中に表された愛を分析しながら、ギリシア人の愛について考察します。
第４回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ラテン文学に表された愛―ラテン文学を概観し、ラテン語で書かれた叙事詩について解説します。それからウェルギリウスの『アエネーイス』の中から、有名なディードーとアエネーアース恋愛の場面を読み、ディードーの悲恋の原因を探ります。また、オウィディウスの『恋愛指南』を読み、ローマ人にとって愛とは何かを考察します。
第５回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：聖書に表された男女の愛―『創世記』と『雅歌』を読みながら、聖書に表された男女の愛について考察します。また、作品の中から読み取れる恋愛観および恋愛表現を説明します。合わせて、作品の様々な解釈について解説します。
第６回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：吟遊詩人と宮廷風恋愛について―ヨーロッパの中世文学について概観し、吟遊詩人とは何か、宮廷風恋愛とは何かを明示します。また、恋愛法廷に触れて、宮廷風恋愛の具体例を示します。さらに、南仏、北仏、ドイツの吟遊詩人たちの詩を読み、彼らの表現法を確認します。また、彼らの作った音楽の特徴に触れた後、実際に曲を聞きます。
第７回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：愛とアレゴリーについて―愛のアレゴリー（寓意）について考察します。まずアレゴリーとは何かをリーパの『イコノロジーア』という作品を援用して説明します。そして、『霊魂をめぐる戦い』と『薔薇物語』を読んで実際にアレゴリーがどのように用いられたかを確認します。
第８回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：愛と死、情熱恋愛とは何か―中世に現れたと言われる情熱恋愛はどのようなものかを考察します。まず、中世に流行したロマンという文学ジャンルについて説明し、文学の主要な登場人物である騎士について触れます。そして、情熱恋愛を表した最も重要な作品『トリスタンとイズー物語』を読みます。特に媚薬の効果とその意味について詳説します。
第９回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ルネサンス時代の恋愛観―ルネサンス時代の文学を概観し、当時流行した詩形の一つであるソネとは何かを説明します。それから、中世最後の詩人ダンテの『新生』とルネサンス最初の大詩人ペトラルカの恋愛詩集『カンツォニエーレ』を読み、それぞれの特徴を挙げて両者を比較します。そして、ペトラルカの詩作品の後世への影響つまりペトラルキスムに触れ、ルネサンスに特有な恋愛表現を説明します。
第10回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：バロック小説と「友愛の地図」―バロックとは何かを説明し、バロック文学の特徴や主要作品を概観します。バロック小説の代表作として『ドン・キホーテ』を読み、〈思い姫〉について言及します。また、サロンと恋愛について考察した後、スキュデリー嬢の『クレリー』中に挿入された《恋愛地図》について説明します。
第11回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：啓蒙主義時代の恋愛観―古典主義から啓蒙主義への文学史の流れを概観した後、ラシーヌの悲劇『フェードル』を読みます。また啓蒙主義思想について説明した後、愛と友情の物語であるルソーの『新エロイーズ』を読み、その恋愛観について触れます。また、『新エロイーズ』に影響を与えた、アベラールとエロイーズの往復書簡について触れます。
第12回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ロマン主義とスタンダールの『恋愛論』―シュトルム・ウント・ドランングとゲーテの『若きヴェルターの悩み』に触れた後、ロマン主義とは何かを説明します。また、スタンダールの『恋愛論』と彼の小説『赤と黒』を読み、ロマン主義時代の恋愛観を検討します。
第13回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：プルーストの『失われた時を求めて』を読む―まず、ロマン主義以降のヨーロッパ文学史を概観します。そして20世紀の代表的小説であるプルーストの『失われた時を求めて』を読みます。作品の構造や特徴を説明した後、第五巻『囚われの女』などに表された作者の恋愛観を確認します。
第14回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ネオプラトニスム思想における恋愛観―講義の最後として、プラトニックラブという言葉でおなじみのネオプラトニスム思想の恋愛観について考察します。プラトンの恋愛論『饗宴』とプロティノスのネオプラトニスム思想を紹介した後、ルネサンス時代の思想家フィチーノの『饗宴注解』を読みます。

３．履修上の注意
この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。講義動画は原則毎週金曜日９時に Oh-o! Meiji システムを通じて配信します。第一回授業は４月10日（金曜日）９時から４月16日（木曜日）18時50分までの一週間で、以降、金曜日から木曜日までのサイクルとしますので、この間の都合のよい時間に視聴してください。なお、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。見逃した場合は、適宜視聴してください。
なお、毎回の講義動画に対して、小レポート課題の提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
《準備学習（予習）》
次回の授業で読む作品の解説とテキスト（本文）をクラスウェブの「授業内容・資料」欄に提示しますので、動画を見る前に必ず目を通しておいてください（予習時間は一時間程度）。
《復習》
授業を見終わりましたら、授業で解説した作品を読み直し、作品の背景、特徴や恋愛観をもう一度吟味してください。毎回、動画視聴中にメモを取り、後でノートに整理しておくことが肝要です（復習時間は一時間程度）。

５．教科書
教科書は使用せず、毎時間テキストと資料をクラスウェブの「授業内容・資料」欄に提示します。

６．参考書
『ギリシア文学を学ぶ人のために』（松本仁助他編，世界思想社）、『ラテン文学を学ぶ人のために』（松本仁助他編、世界思想社）、『イタリア文学史』（岩倉具忠他著、東大出版会）、『ドイツ文学史』（藤本淳夫他著、東大出版会）、『フランス文学史』（田村毅他編、東大出版会）。
『フランス中世文学を学ぶ人のために』（原野昇編、世界思想社）、『愛について上・下』（ドニ・ド・ルージュモン、鈴木健郎、川村克己訳、平凡社ライブラリー）
その他、各回授業の使用テキストや参考文献は各回の資料に掲載します。

７．課題に対するフィードバックの方法
毎授業時に出す小レポート課題の詳しい解説を、レポート締め切り日以降の授業内で行います。また、期末レポート課題の解説（文書）をレポート提出締め切り日後に提示します。

８．成績評価の方法
小レポート課題10回（40％）、期末レポート課題1回（40％）、授業への参加度（20％）により、総合的に評価します。
※対面形式での試験は行いません。

９．その他
毎回の授業で読むテキストは、原則として原典の日本語訳を用います。従って、外国語の知識は必要ありません。

科目ナンバー：(IC)LIN111J

言語学

２単位	１年次	坂本　祐太

１．授業の概要・到達目標
「ことばの仕組み」「ことばとヒト」「ことばと社会」という３つのキーワードを軸に、言語学とはどのような学問なのかを、特に日本語と英語に言及しながら概観します。また、言語学だけでなく、言語学と他の学問（例えば脳科学や英語教育）の学際的な繋がりに言及し、学問への多角的なアプローチの意義を感じ取ってもらいます。
＜到達目標＞
・言語学の基本的な用語及び概念を身につけ、英語をはじめとした「ことば」を体系的に考えられるようになる
・言語学と他の分野（例えば脳科学や英語教育）の関わりを理解し、学問への多角的な視野を持てるようになる
・他の人に日本語や英語を教える場面などで、言語学の知識を活かすことができる。

２．授業内容
第１回：aのみ：イントロダクション（言語学とは）
第２回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした音の仕組み：音声学・音韻論＜1＞）
第３回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした音の仕組み：音声学・音韻論＜2＞）
第４回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした音の仕組み：音声学・音韻論＜3＞）
第５回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした語・文法の仕組み：形態論・統語論＜1＞）
第６回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした語・文法の仕組み：形態論・統語論＜2＞）
第７回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした語・文法の仕組み：形態論・統語論＜3＞）
第８回：ことばの仕組み（日本語・英語を題材とした語・文法の仕組み：形態論・統語論＜4＞）
第９回：ことばの仕組み（ことばと意味・コミュニケーション：意味論・語用論＜１＞）
第10回：ことばの仕組み（ことばと意味・コミュニケーション：意味論・語用論＜２＞）
第11回：ことばとヒト（ことばの獲得・産出・理解：心理言語学＜１＞）
第12回：ことばとヒト（ことばの獲得・産出・理解：心理言語学＜２＞）
第13回：ことばと社会（日本語・英語の地域・社会階層・性との繋がり：社会言語学）
第14回：ことばと社会（ことばと教育：言語教育学）

３．履修上の注意
教員免許（英語）の要件科目であるため、英語に言及することが多くなりますが、履修する上で英語の得意不得意は関係ありません。また、毎回授業後にリアクションペーパーを提出していただきます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業でとったノートや配られるプリントをもとに、授業外で復習を行ってください。

５．教科書
教科書は使用せず、教員が作成した資料を使います。

６．参考書
『はじめて学ぶ言語学―ことばの世界をさぐる１７章―』大津由紀雄編著（ミネルヴァ書房）

７．課題に対するフィードバックの方法
講義内でリアクションペーパー及び課題に対するフィードバックの時間を設ける。

８．成績評価の方法
定期試験（50％）、課題（10％）、授業への取り組み（40％）

９．その他
冬休み前に、文法分野（統語論）に関する課題を提出していただきます。
事情による欠席は、事前相談のものだけ考慮します。
「ことば」に興味のある方は、文学部開講の「英語学概論」「統語論」「音声学」の授業などを併せて履修すると，理解が深まるかと思います。

科目ナンバー：(IC)PHL141J

宗教学

２単位	１年次	**浅川　泰宏**

１．授業の概要・到達目標

宗教は、あらゆる社会に存在する普遍的文化現象であり、人間の根源的思考様式のひとつです。本講義では、現代社会を、「宗教」という観点からとらえ、考える力を養うことをねらいとします。講義では、宗教学の基礎理論、日本の宗教文化、海外の宗教文化と順に紹介し、最後に聖地と巡礼や祝祭を切り口として現代の宗教性を検討します。

宗教を文化的・社会的現象として理解すること、宗教学の基礎的な知識と理論を学ぶこと、現代社会における宗教のあり方を広い視野で理解することが本科目の到達目標です。

２．授業内容

第１部　宗教学の射程
　第１回：イントロダクション・宗教学の話
　第２回：「宗教」概念を再考する
　第３回：宗教学の理論
第２部　日本の宗教文化
　第４回：仏教の系譜学
　第５回：他界のコスモロジー：熊野観心十界図を読む
　第６回：死者供養の民俗
　第７回：都市祭礼の機能
第３部　海外の宗教文化
　第８回：重層聖地エルサレム
　第09回：聖地と巡礼［メディア授業（オンデマンド型）］
　第10回：ユダヤ教・キリスト教・イスラーム［メディア授業（オンデマンド型）］
　第11回：メッカ大巡礼
第４部　宗教文化の創造と変容
　第12回：四国遍路：聖なるもののフロンティア
　第13回：現代の巡礼文化
　第14回：aのみ　まとめ：宗教文化のダイナミズム
＊講義の順番や内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

講義資料はOh-o! Meiji Systemで公開します。受講前に一読し、講義に持参してください。
毎回教室内でのディスカッションやワークがあります。可能な限りスマートフォン等、Oh-o! Meijiが利用できる機材を用意して参加してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

事前に講義資料に目を通し、専門用語は宗教学事典等で調べておいてください。
復習では、講義中に紹介した事例や調査地を確認してください。

５．教科書

特に定めません。

６．参考書

櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』第6刷（ミネルヴァ書房）2025年
星野英紀・浅川泰宏『四国遍路』（吉川弘文館）2011年
星野英紀・池上良正・氣多雅子・島薗進・鶴岡賀雄（編）『宗教学事典』（丸善）2010年

７．課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションやワークについては、Oh-o! Meijiで出題し、授業時間内に共有します。

８．成績評価の方法

ディスカッション，ワーク等（20%）、期末試験（80%）

９．その他

講義の進め方等については、初回授業時に説明します。必ず出席してください。
講義についての質問は、授業中または授業後に随時受けつけます。

科目ナンバー：(IC)COM111J

小集団コミュニケーション

２単位	１年次	**鈴木　有香**

１．授業の概要・到達目標

人間は社会的動物であり、生きていくためには集団を形成する。人間は他者との関わり合いのなかで社会生活を送り、様々な対人関係を形成し、複数の集団に属している。集団の特質を明らかにし、それに関わるコミュニケーションについて考察を深める。自分自身が社会の中でどのような集団に所属し、影響を受け、影響を与えるかについて自覚的になることが重要である。１対１の対人レベルのコミュニケーションと異なる集団の問題や力学についての問題を取り上げていく。また、実際にグループワークを通じて、集団コミュニケーションを体験的に学んでいく。最終的にはグループの総力を結集した創造的なワークをプロジェクト・ベースで行う。

〈到達目標〉
・集団コミュニケーションについての基礎的概念を自分の言葉と例を踏まえて説明できるようになる。
・リーダーシップの類型、個々人のかかわり方を観察して分析できるようになる。
・集団のメンバーをまとめ、よりよい結果を出すためのかかわり方、話し合いの方法を身に着ける。
・同調ではなく、ポジティブな協力を実践する勇気と相互協力を体験しながら身に着ける。
・ファシリテーターとしてのマインドやプロセスへのかかわり方についての内省を深める。

２．授業内容

＊講義内容は必要に応じて変更することがある。（対面授業かオンラインかによって、進度、教育方法が変更されます。）
第１回　イントロダクション・「集団」とは　（オンラインの場合、Zoomの基本操作）
第２回　リーダーシップの類型、リーダーシップ
第３回　自分自身を知る「ディルツ・モデル」／映画分析（グループプロジェクト）
第４回　成功の循環モデル、チェックイン、アイスブレイク
第５回　意形成（コンセンサスゲーム）
第６回　集団と規範　（目的とグラウンドルール）
第７回　フィンガーダンス、振り返り／（オンラインの場合、「道徳」教材の批判的読み方）
第８回　観察とフィードバック
第８回　ブレーン・ストーミング
第９回　意思決定とコミュニケーション
第10回　対話（ダイアログ）
第11回　グループ課題達成ワーク
第12回　リフレクション方法
第13回　集団思考　映画分析
第14回　グループプロジェクト発表と講評　（オンラインの場合、総まとめクイズとその講評）

３．履修上の注意

この授業は学生の主体的な活動を中心に展開していくため、積極的な参加が望まれる。
主体性、コミットメント、真なる協力の確立に全力をつくしてほしい。
授業の前後に指定した映画鑑賞、課題、読み物は必ずやってくること。グループ作業も多く、各メンバーがプロジェクト遂行のために協力して活動すること。
なお、授業は学習活動の流れに応じて柔軟に対応していく。
課題の締め切りは厳守すること。
また、グループ活動が多いので**遅刻は厳禁！遅刻する者にはマイナス点をつけていきます。**
＊コロナ禍の状況によってはZoomを使用した授業になる可能性もあります。その場合は通信環境の安定したところでアクセスしてください。（シラバスなどの変更は随時、連絡いたします。）

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業の後に毎回個人レポートを提出。
教室で行った活動について、各自で理論面の部分を調べてくる形式になるので復習に力を入れてほしい。
また、活動を通じて、自分自身の行動や思考、気持ちの流れ、変化を深く内省し、記述していくことが大切である。

５．教科書

適宜、プリントはOh-o! Meijiを通じて、配布する。
毎回の授業前に必要な資料は各自で印刷し、持参すること。
授業開始時に詳しく説明する。

６．参考書

『人と組織を強くする交渉力』　鈴木有香著　自由国民社

７．課題に対するフィードバックの方法

・各学習活動については授業内での振り返り活動、全体ダイアログなどで実施する。
・最終授業日には「総まとめクイズ」あるいは「、グループプロジェクトの発表」を実施し、全学期の講義の復習と振り返りを行う予定。

８．成績評価の方法

授業での取り組み（参加・グループ活動点・個人課題）70%、グループ・プロジェクト　30%、これらを含めて総合的に評価する。
グループ得点分と個人得点（小レポート、テスト）の合算から評価する。
なお、期末はグループ・プロジェクトになる。（オンラインの場合は、「総まとめ」クイズと解説になる。）

９．その他

グループでの協同学習が多いので、遅刻厳禁！この誓いを立てて参加してください。

科目ナンバー：(IC)COM111J

小集団コミュニケーション

２単位	１年次	**叶　　尤奇**

１．授業の概要・到達目標

私たちは様々な小集団と関わって生活している。授業で一緒に課題を行うグループやアルバイト先の仲間、そして、就職後に仕事を共に遂行するチームなどはその例である。これらの小集団には、特定の目標を達成するために、異なる背景、価値観、特性、能力などを持っている人々が集まっている。とりわけ、グローバル化を背景とし、多様な国籍（文化背景）が交錯する集団も増えている。そのなかで、どのようにコミュニケーションをすれば、各自メンバーの特性（Uniqueness）を尊重しつつ、小集団の効果を活性化し、小集団の目標を達成することができるのだろうか。本講義では、小集団コミュニケーションに関わる理論学習と実践活動を通じて、上記の問いについて考え、その解決策を探っていくことを目標とする。

本講義は、次のような内容から構成されている。(1) 小集団コミュニケーションに関する基礎理論を紹介する。(2) 多様な文化的背景をもつメンバーが集まっている多文化チームの理論と実証研究に焦点を当てる。(3) 多（異）文化チーム・ワークの実践を行う。

２．授業内容

第１回　イントロダクション＆アイスブレイキング
第２回　小集団とは
第３回　小集団におけるコミュニケーションの活性化
第４回　小集団と意思決定
第５回　リーダーシップとフォロワーシップ
第６回　集団と文化
第７回　多文化チーム
第８回　多文化チームの事例研究①：日本人リーダー
第９回　多文化チームの事例研究②：外国人フォロワー
第10回　ダイバーシティ＆インクルージョン
第11回　グループワーク
第12回　グループワークの結果報告（前半）
第13回　グループワークの結果報告（後半）
第14回　授業の振り返り

３．履修上の注意

学生の主体的な実践活動を重視するため、積極的な授業参加が望まれる。グループワーク（協同作業）が多く、各メンバーがプロジェクト遂行のために協力しあい活動することが期待される。なお、参加者の人数と構成に応じて授業の進め方を変更する場合がある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業内容について事前に調べて予習すること。復習に関して、各授業の配布資料を用いて行うこと。

５．教科書

指定しない（資料配布）。

６．参考書

石黒武人 (2012) 多文化組織の日本人リーダー像―ライフストーリー・インタビューからのアプローチ 春風社。
石黒武人（2020）多文化チームと日本人リーダーの動的思考プロセス――グラウンデッド・セオリーからのアプローチ　春風社。
Barak, M. E. M. (2016). Managing diversity: Toward a globally inclusive workplace. Sage Publications.

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーのフィードバックは毎回の授業にて公開する

８．成績評価の方法

授業（毎回のグループ･ワーク）への貢献度:22%　リアクションペーパー：28%
期末ワーク：30% 期末レポート：20%

９．その他

多（異）文化チームのグループワークを実践するために、外国人留学生の一定人数を確保する必要がある。文化背景の違う人々との協働作業に関心を持っている方（とくに外国人留学生）の履修を歓迎する。

科目ナンバー：(IC)ARS161J

新興国事情

２単位	１年次	**和田　　悟**

１．授業の概要・到達目標

この授業では、主に世界銀行、国際通信連合（ITU）などの国際機関などから公表されている統計データや報告書などを使い、各国の社会状況や東南アジアの情報化状況について考えてみます。

特に、今後、日本との関係が一層強まってゆく東南アジアの国々に焦点をあてて、彼らがおかれている状況について考えてみましょう。また、他国との比較を行うことで、日本の文化や社会について見直しましょう。

授業の主たる考察対象は本学部の「国際交流（タイ）」などで、現地の様子を自分自身で見聞きしうる東南アジアの国々です。これらの国々について国際機関や各国政府から公表されている統計や報告書から得たデータをExcelなどで扱い、各国の事情について考えてみます。また、しばしばニュースなどで取り上げられる指標についても取り上げます。また、過去の国際交流の映像や、注目すべき各国のニュースなどの映像資料用いながら、知識を具体的なイメージに結びつけてもらいたいと思います。

到達目標は、実習を通してPCの基本的スキルの応用力を高めること、各種指標や統計データを読む際の留意点を学び、それらを適切に読み取る能力の習得です。また、こうした作業を通じて、アジアの国々についてや、日本との関わりについて基本的な理解を得ることです。

すでに「国際交流」を履修しようとする学生はもちろん、この授業を通じて東南アジアの国々に関心をもった学生は「国際交流」プログラムにも目を向けてほしい。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　各国の基本情報、経済情報などを調べる（1）いくつかの情報源とデータ
第３回　各国の基本情報、経済情報などを調べる（2）日本とアジア諸国の基本情報
第４回　調べた情報をふりかえる － 人口構成とアジアの高齢化
第５回　各国の基本情報、経済情報などを調べる（3）日本とアジア諸国のICT普及状況
第６回　ITU統計で情報化の現状をみる（1）世界的な動向
第７回　ITU統計で情報化の現状をみる（2）情報化の進み具合を測定する方法を学ぶ
第８回　ITU統計で情報化の現状をみる（3）東南アジア諸国の状況を調べる
第９回　経済成長の追求、低価格の功罪～国際統計や映像資料で考える
第10回　格差を知る方法を学ぶ？ローレンツ曲線とジニ係数
第11回　格差を知る方法を学ぶ？日本の政府統計でみる
第12回　東南アジア諸国の社会状況を調べる・・各国の比較/経年変化
第13回　東南アジア諸国の各種統計の利用
第14回　まとめ

３．履修上の注意

この授業はメディア教室で行い、PC上でExcelなどを使いながら学ぶ授業である。Excelなどの技能について特に高度な技能は前提としてないが、「式の入力」や「式の複写」SUMなどの「基本的な関数」などがわからないと苦労することになるので、スキルが不十分と思われる学生は別途、メディア支援事務室が行っている講習会を利用するなど、第４回授業までに各自で補ってほしい。

この授業の後半は実習が中心である。複数回かかって実習を進めたり授業中に提出を求める課題がある。そのため出席を重視するが、期限には猶予を設けてあるので、配付資料等により期限内に提出することを心がけてほしい。

【授業の進め方について】
作業方法：作業は基本的に個人作業で、グループワークはありません。

実習室にはPCの作業を補助するアシスタントはいません。不明な点は学生同士による教え合いに期待します。

座席は、座席表で指示する。数回に１回はランダムに席を変更する。気軽に相談し合えるようアイスブレークの時間を設けることがあります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業開始当初は、PCの電源を入れ、自ら基本的な関数を用い分析を行うため、操作技能に自信がない学生は、是非メディア支援事務室の実施する講習等（オンデマンド教材が用意されている）を各自で自習して補ってください。

５．教科書

実習に必要な事柄は配付資料により伝えます。

６．参考書

後藤健太『アジア経済とは何か 躍進のダイナミズムと日本の活路』中公新書
伊藤亜聖『デジタル化する新興国』中公新書
岩崎育夫『入門 東南アジア近現代史』講談社新書
森崎初男著,松原望監修『経済データの統計学』オーム社（10 ～ 13回に取り上げている内容に対応）

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に課すOh-o! Meijiや「アンケート」や「小テスト」については、原則として提出期限後にまとめてOh-o!Meijiシステムの機能を利用してコメントするほか、次週の授業冒頭など適切な機会で総評・講評をを行う。

８．成績評価の方法

平常点 50%　期末試験 50%
平常点には、授業内課題提出を含む。
期末試験は､授業最終日にPCを使い教室内でOh-o!Meijiの機能を使い実施する予定。

９．その他

担当者は、日本経済とつながりの深い東南アジアのタイとの国際交流プログラムを担当している。卒業後、東南アジアの国々と仕事をする機会のある学生も多いだろう。この授業で扱う事柄を実感をもって「わかる」ためにも、国際交流に参加して現地で学ぶ機会もぜひ活かして欲しい。

科目ナンバー：(IC)PSY146J

心理学Ａ〔M〕

２単位	１年次	清水　武

１．授業の概要・到達目標
≪授業の到達目標及びテーマ≫
心理学は「こころ」を扱う学問だが、ともすれば曖昧とされるこのような主観的現象をどのように分析し、理解するのか。講義ではパーソナリティに関する理論や分析心理学を中心に進め、それらの視点から我々の日常生活において分析可能となる領域を理解することを目的とする。これらの内容を通して、自分自身の自己受容について多角的に考えられるようにする。
≪授業の概要≫
心理学におけるパーソナリティ理解について、精神分析や分析心理学、及び現象学的アプローチの観点から、その射程と限界を踏まえつつ、心理学のあり方を考える。

２．授業内容
第１回　ユングの分析心理学と心理学的タイプ論
第２回　コンプレックス
第３回　元型論・夢の分析及び解釈
第４回　昔話の分析及び解釈
第５回　依存症
第６回　性格検査法　血液型性格関連説
第７回　気質・主要五因子検査法
第８回　エゴグラム
第９回　精神分析：神経症と治療技法
第10回　精神分析：防衛機制
第11回　精神分析：小児性欲説
第12回　アドラーの個人心理学
第13回　ロジャースの来談者中心療法
第14回　まとめと総復習
※すべての授業回を、メディア授業（オンデマンド型）により実施する。

３．履修上の注意
原則毎週金曜日の９時に動画（課題）を配信する。
日常の何気ない現象も、すぐれた理論によって視点を与えられることで、まったく異なる様相をあらわすことになる。こころを理解する上での理論の重要性について、パーソナリティを中心に学ぶ。心理学Ｂと共に履修することが望ましい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
合計３回、講義内容に沿ったレポートを提出してもらいます。
参考となる設題を含めた配布資料を添付します。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
ユング心理学入門

７．課題に対するフィードバックの方法
質問を随時受け付けます。
課題の提出後に修正が必要な場合には個別に連絡を入れます。

８．成績評価の方法
レポートは毎月提出とします。
講義内容からテーマを１つ選び、テキストファイル（.txt）にまとめてもらいます。
【評価基準】
・内容の理解（50%）
・関連する情報の収集（20%）
・自分なりの解釈および視点（30%）
【評価対象外】
・配布資料に含む設題への回答は、レポートとして認めません。
・講義内で扱った内容と関連性がないテーマを扱ったものも同様です。

９．その他

科目ナンバー：(IC)PSY146J

心理学Ｂ〔M〕

２単位	１年次	清水　武

１．授業の概要・到達目標
≪授業の到達目標及びテーマ≫
心理学は「客観性」を志向するひとつの科学を自認している。そこにはどのような方法論が存在するのだろうか。授業では伝統的に心理学が取り組んできた諸問題を学び、心理学がいかに科学性を追及してきたのか、歴史的観点から理解することを目的とする。
≪授業の概要≫
心理学の主要なテーマを通して、心理学の研究法及び方法論を知り、その発展についての歴史的経緯、及び原理的な問題を知る。

２．授業内容
第１回　感覚：身体の生理学的基礎
第２回　幾何学的錯視、ゲシュタルト心理学
第３回　奥行きの知覚：ギブソンの理論
第４回　学習：条件づけと強化学習
第５回　記憶のメカニズムと貯蔵モデル
第６回　記憶のメカニズム：忘却と干渉
第７回　動機づけ：帰属理論と欲求段階説
第８回　乳幼児期の発達
第９回　認知発達：ピアジェの発達段階説
第10回　行動遺伝学の方法論
第11回　個人と集団の心理
第12回　社会的手抜き
第13回　対人魅力
第14回　心理学研究法：観察・調査及び実験法
※すべての授業回を、メディア授業（オンデマンド型）により実施する。

３．履修上の注意
原則毎週金曜日の９時に動画（課題）を配信する。
心理学を客観的な実証科学として位置付け、方法論の発展と共に追っていくことで理解を深め、各テーマについて総合的に検討する。心理学Ａと共に履修することが望ましい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
準備は特に必要としない。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
ヒルガードの心理学、グラフィック心理学

７．課題に対するフィードバックの方法
質問を随時受け付けます。
課題の提出後に修正が必要な場合には個別に連絡を入れます。

８．成績評価の方法
レポートは合計４回提出を予定します。
講義内容からテーマを１つ選び、テキストファイル（.txt）にまとめてもらいます。
【評価基準】
・内容の理解（50%）
・関連する情報の収集（20%）
・自分なりの解釈および視点（30%）
【評価対象外】
・配布資料に含む設題への回答は、レポートとして認めません。
・講義内で扱った内容と関連性がないテーマを扱ったものも同様です。

９．その他

科目ナンバー：(IC)PHL116J

生命論Ａ〔M〕

２単位	１年次	岩渕　輝

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】 高校の生物学では、生物に関する物質的側面や生物学者の科学的業績に関するトピックスは豊富であるが、「生命とは何か」という考え方と、その歴史的変遷に関しては十分には扱われていない。「生命とは何か」という思想を系統的に学ぶことは、生命に関する科学や哲学の考え方を知る上でも、また、現代社会の諸問題を考察する上でも有力な武器になる。
【到達目標】 『生命論A』では、生命観の歴史的な移り変わりを哲学史や科学史を手がかりに、概観する。生命観が時代に影響されるものであることを理解し、現代の生命観の特殊性を把握していただくことが本講義の目的である。

２．授業内容
各回のテーマは次の通りである。
第１回：イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：古代エジプト神話の霊魂観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回：ソクラテスとプラトンの生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：アリストテレスの＜プシュケー＞概念〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回：古代ローマの医学と生物学〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：錬金術の生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：キリスト教の出来事が生命観に与えた影響〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：ルネッサンスの生命思想〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：近代科学の創始者たちの生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回：哲学者デカルトの生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：ダーウィンの進化論〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：優生思想について、および、生命関連技術が暴走する危険性〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：脳死・臓器移植問題〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回：ａのみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
この科目は**メディア授業科目**である。授業は全て授業動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行なう。
各回の授業動画は、毎週土曜日の午前9時までに配信する。いったん配信された全ての授業動画は原則として、当該学期中は視聴可能な状態にしておくので繰り返し復習できる。ただし、学期末テスト期間には視聴できない状態にする。
各回の授業動画に対する出席状況と理解度に関する確認は、Oh-o! Meijiシステム上にて実施する学期末テスト、中間テスト（本シラバス「成績評価の方法」の項も参照）、動画の視聴記録、またはリアクション・ペーパーにより行なう。また、Oh-o! Meijiのディスカッション機能を利用して学生同士の意見交換の場を設ける。履修者には教員への質問窓口として次の専用メールアドレスを通知する。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。
本科目は、哲学・科学・世界史等、幅広い分野にわたって興味のある人に向いている。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎時間、きちんと予習・復習して授業に臨むこと。

５．教科書
とくに定めない。

６．参考書
とくに定めない。

７．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日または最終授業終了直後に課題の解説と講評を行なう。

８．成績評価の方法
学期末テスト全1回分を70%、授業期間中の中間テスト（全1回前後）の合計点を30%の比率で評価する。
学期末テストも中間テストも、Oh-o! Meijiシステム「小テスト機能」にて実施する。なお、中間テストは、いわゆるテスト形式ではなくレポート形式にてOh-o! Meiji上から提出してもらう可能性もある。
※対面形式での試験は行なわない。

９．その他
春学期『生命論A』と秋学期『生命論B』は、独立した科目なので、いずれか一方のみを履修することが可能である（両方履修することも、もちろん可能である）。

科目ナンバー：(IC)PHL116J

生命論Ｂ〔M〕

２単位	１年次	岩渕　輝

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】 現代社会には、遺伝子操作ベビーの問題、遺伝子組換えやゲノム編集技術と関係した食の安全の問題、コロナパンデミックの問題、薬やワクチンの安全性の問題など＜いのち＞や健康に関わる様々な問題が山積している。それらの問題について、テレビやインターネットで信頼できる情報を集めようとしても、研究者によって主張がバラバラで戸惑う人が多いはずである。研究者間で主張がバラバラな一因として、研究者の中に、特定の利権関係者と癒着して利権関係者に不都合な＜事実＞を市民に知られないようにするために情報発信している者がいる、ということが挙げられる。そうした時代にあっては、＜事実＞を見分けながら自分で物事を判断する力、言い換えれば、「自分で自分の身を守る力」を身につけることが重要であろう。本授業では、そうした力を身につけるために必要な学問的基礎について解説する。本授業の科目名は『生命論B』だが、内容的には「生命自己防衛論」とでも呼ぶべき内容について解説する。
【到達目標】 本授業の目的は、＜いのち＞や健康に関わる諸問題について学びながら、それらの問題について自分の考えを深めていただくこと、および、メディア・リテラシーの基礎を身につけていただくことにある。

２．授業内容
各回のテーマは次の通りである。
第１回：自己決定権、メディアリテラシー〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：がんになるしくみ、予防原則、事実と意見〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回：有害物質のリスク、利権問題と利益相反〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：文系学生のための遺伝子の基礎知識〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回：農薬問題と食の安全の基礎知識〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：遺伝子組換えとゲノム編集、遺伝子操作ベビー誕生事件〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：疫学の基礎知識、根拠に基づく医療（EBM）の考え方〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：ウイルスの基礎知識、遺伝子治療〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：文系学生のための免疫と抗体の基礎知識〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回：薬害の歴史〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：従来型ワクチンの基礎知識、健康被害救済制度〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：新型コロナワクチンのしくみ、重篤な副反応が生じる原因〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：新型コロナワクチンに関するメディア報道の問題〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回：ａのみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
この科目は**メディア授業科目**である。授業は全て授業動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行なう。
各回の授業動画は、毎週土曜日の午前9時までに配信する。いったん配信された全ての授業動画は原則として、当該学期中は視聴可能な状態にしておくので繰り返し復習できる。ただし、学期末テスト期間には視聴できない状態にする。
各回の授業動画に対する出席状況と理解度に関する確認は、Oh-o! Meijiシステム上にて実施する学期末テスト、中間テスト（本シラバス「成績評価の方法」の項も参照）、動画の視聴記録、またはリアクション・ペーパーにより行なう。また、Oh-o! Meijiのディスカッション機能を利用して学生同士の意見交換の場を設ける。履修者には教員への質問窓口として次の専用メールアドレスを通知する。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。
『生命論B』の姉妹科目『生命論A』では、「生命とは何か」という考え方と、その歴史的変遷に関して扱っているが、本科目『生命論B』では、それとは相当に異なる内容を扱う。『生命論B』は、＜いのち＞や健康に関係した社会問題に関心のある人、＜いのち＞の諸問題を倫理学的に考察したい人に向いている。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎時間、きちんと予習・復習して授業に臨むこと。

５．教科書
とくに定めない。

６．参考書
厚生労働省の薬害教育テキスト『薬害を学ぼう』（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_yakugaiwomanabou.html）。
『今だから分かる、コロナワクチンの真実 ―世界の実態と日本の現実―』村上康文・山路徹。花伝社、2024年。
『新型コロナワクチン　影の輪郭 ―誰も報じなかった3年の記録―』大石邦彦。方丈社、2024年。

７．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日または最終授業終了直後に課題の解説と講評を行なう。

８．成績評価の方法
学期末テスト全1回分を70%、授業期間中の中間テスト（全5回前後）の合計点を30%の比率で評価する。
学期末テストも中間テストも、Oh-o! Meijiシステム「小テスト機能」にて実施する。なお、中間テストは、いわゆるテスト形式ではなくレポート形式にてOh-o! Meiji上から提出してもらう可能性もある。
※対面形式での試験は行なわない。

９．その他
春学期『生命論A』と秋学期『生命論B』は、独立した科目なので、いずれか一方のみを履修することが可能である（両方履修することも、もちろん可能である）。

科目ナンバー：(IC)HIS136J

西洋史概論〔M〕

2単位	1年次	八木　淳

1．授業の概要・到達目標
《授業の概要》
ヨーロッパの源泉を探って、その誕生・発展・統一の歴史を古代から現代まで辿りながら概観し、ヨーロッパとは何かを考察します。古代ギリシアをヨーロッパ精神の源流と捉えてその時代から講義を始め、現代のEU成立と発展まで話を進めます。ローマ帝国が東西に分裂し西ローマ帝国が消滅した後、ヨーロッパ世界は徐々に形成され、《分裂》と《統合》を繰り返しながら現在の姿になりました。授業では《分裂》と《統合》という二つの言葉を常に意識しながら、戦争、宗教など様々な問題を検討してヨーロッパという一つの形成体が誕生し発展した経緯を探っていきます。また、この講義では特に国家と民族の意味を考えます。ヨーロッパにおける国家と民族意識、国家と宗教という二つの問題に焦点を当て、国民国家とは何か、民族とは何かを掘り下げて検討します。最後にＥＵ成立・発展の歴史に触れ、ヨーロッパ統合の意味と問題点を考えます。
《到達目標》
本講義では以下の能力・知識を身につけることを目指します。
1．古代から現代まで、西洋の歴史の流れを理解し、説明できる。
2．歴史上の事件を理解し、その原因、経過、結果を説明できる。また歴史上の人名についてもどのような人か、何をした人かを理解し、説明できる。
3．ヨーロッパという言葉が現在の意味で使われるようになった経緯を説明できる。
4．ヨーロッパがどのようにして誕生し、現在の姿になったか、文化面、政治面、宗教面から理解し、説明できる。
5．過去の事実を知り、現代に起こる様々な問題や事件に際して、現代の社会はどうしてこのようになったのか問い直す習慣をもてるようになる。

2．授業内容
授業は全てメディア授業（オンデマンド型）となります。毎週月曜日に、Oh-o!Meijiを通じて授業動画を配信するとともに講義内容に関係する時代のテキスト（年表など）と資料（地図など）を提示し、以下の内容で講義を進めます。
第１回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ヨーロッパとは何か―イントロダクションとしてヨーロッパとは何かを概説します。ヨーロッパという言葉の語源や現在のような意味で使われるようになった経緯と、ヨーロッパの範囲を説明します。
第２回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ギリシア時代、ヨーロッパの源流―まず、古代ギリシア時代の先行文明として四大文明の概要を説明します。それから古代ギリシア時代を概観した後、ポリスとは何かを説明し、当時の地中海世界と植民市について触れます。その後、アテネの民主政とペルシアとの戦争およびポリス間同盟とポリス間戦争について説明します。最後に、古代ギリシア世界がヨーロッパ精神の源流と言われる理由を考察します。
第３回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ヘレニズム時代、マケドニアの覇権とアレクサンドロス３世の東方遠征―ヘレニズム時代が後のヨーロッパ世界にもたらした影響を考察します。まず、マケドニアの成立からギリシアでの覇権を得るまでの歴史を辿ります。それからペルシア帝国の歴史を概観します。そして、アレクサンドロス３世の東方遠征の目的、経緯を解説します。さらにアレクサンドロス３世死後の後継者抗争を説明してから、最後にヘレニズムとは何かを考察します。
第４回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：共和政ローマについて―ローマの歴史を誕生からローマ帝国の成立まで辿り、共和政ローマとはどういうものだったかを考察します。共和政ローマの半島支配、地中海制覇、ポエニ戦争、内乱の一世紀、さらにローマ帝国の成立を詳しく説明します。
第５回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ケルト人の歴史とカエサルのガリア遠征―まず、ヨーロッパという形成体の一部をなすケルト人の歴史と文化を説明します。それからカエサルのガリア遠征がヨーロッパ世界に与えた影響について考察します。遠征の経緯を説明し、意義を解明します。あわせてローマのガリア支配が生み出したガロ＝ローマ世界に触れます。
第６回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ユダヤ人の歴史とキリスト教の成立・発展―ユダヤの歴史をその発生から民族の離散まで辿り、ユダヤ教徒がキリスト教徒と袂を分かった原因を探ります。また、キリスト教が誕生し、ローマ帝国の国教となるまでの過程を概観します。また、キリスト教の異端と異教について、例を挙げながら説明します。
第７回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：ローマ帝国の繁栄・分裂と西ローマ帝国の消滅―ローマ帝国の発展と東西分裂および西ローマ帝国消滅の歴史を概観します。あわせてゲルマン民族の歴史と文化を説明した後、彼らが帝国内に侵入し定着した様子を探ります。
第８回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：フランク王国の成立と発展、ヨーロッパの出現―フランク王国の成立と発展の過程を辿り、この時代にヨーロッパが出現したと言われる理由を探ります。フランク王国のメロヴィング朝とカロリング朝に触れた後、カール大帝の戴冠の意義を考察します。あわせてイスラーム帝国の成立と発展について概観します。
第９回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：神聖ローマ帝国の成立―フランク王国の分裂に触れた後、神聖ローマ帝国の成立と発展を説明します。神聖ローマ帝国の歴史を辿ることにより、ヨーロッパにおける帝国の《位置》や《意義》を考察します。あわせて中世ヨーロッパ世界およびイタリアの事情を概観します。
第10回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：十字軍について―十字軍の遠征がヨーロッパ世界にもたらした影響を考察します。第一回十字軍が教皇によって勧請されるに至った原因および聖戦の思想が成立した過程を説明した後、遠征の様子と十字軍国家を概観します。また、第二回以降の十字軍遠征についても説明します。
第11回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：宗教改革と宗教戦争―ヨーロッパの近代について、宗教改革と宗教戦争およびそれに端を発した民族分裂に触れ、その時代に「ヨーロッパ」という言葉が盛んに使われ出した理由を探ります。あわせてイギリスの歴史について触れるとともに、近代におけるフランスとドイツの事情を比較します。
第12回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：知の統合―ヨーロッパの知の統合として、「文芸共和国」と啓蒙主義について考察します。特に啓蒙主義の広まりに重要な役割を果たしたサロンに触れ、それがどのようなものだったか解説します。また、絶対主義とは何かを説明し、あわせてその時代の戦争及び軍制について概観します。
第13回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：フランス革命と民族主義の形成および国民統合―フランス革命の経緯を説明した後、民族主義の形成や国民統合について考察します。あわせて、18世紀後半から19世紀末までのヨーロッパの歴史を概観しながら、イタリアとドイツの統一について説明します。
第14回　〔メディア授業（オンデマンド型）〕：第一次・第二次世界大戦およびヨーロッパ統合―第一次・第二次世界大戦の経緯を説明した後、ＥＵ成立の歴史を概観し、ヨーロッパ統合の夢および問題点を考察します。

3．履修上の注意
この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。講義動画は原則毎週月曜日９時に Oh-o! Meiji システムを通じて配信します。第一回授業は９月21日（月曜日）９時から９月26日（土曜日）18時50分までの一週間で、以降、月曜日から土曜日までのサイクルとしますので、この間の都合のよい時間に視聴してください。なお、授業動画は当該学期中の視聴を可能とします。見逃した場合は、適宜視聴してください。
なお、毎回の講義動画に対して、小レポート課題の提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
《準備学習（予習）》
次回の授業内容に基づいたテキスト（年表など）と資料（地図など）をクラスウェブの「授業内容・資料」欄に提示しますので、動画を見る前にそれらに目を通し、大まかな歴史の流れを頭に入れておいてください（予習時間一時間程度）。
《復習》
動画の終わりに、まとめとして授業の重要事項を繰り返し述べます。それに基づいて、動画視聴中にメモした事柄をノートに書き写し整理しておいてください（復習時間一時間程度）。

5．教科書
教科書は使用せず、毎時間テキストと資料をクラスウェブの「授業内容・資料」欄に提示します。

6．参考書
全体的な授業の流れを把握するため、『[増補] ヨーロッパとは何か－分裂と統合の1500年』（クシシトフ・ポミアン著、松村剛訳）、平凡社文庫、『ヨーロッパ世界の誕生』（アンリ・ピレンヌ著、佐々木克巳他訳）講談社文庫、『ヨーロッパとは何か』（リュシアン・フェーブル著、長谷川輝夫訳）刀水書房、『ヨーロッパは中世に誕生したのか？』（ジャック・ルゴフ著、菅沼潤訳）藤原書店を参照してください。また、ローマ末期については『ヨーロッパとゲルマン部族国家』（マガリ・クメール他著，大月康弘他訳）白水社，カール大帝時代の歴史については、『王国・教会・帝国，カール大帝期の王権と国家』（五十嵐修著）知泉書館，が非常に参考になります。

7．課題に対するフィードバックの方法
毎授業時に出す小レポート課題の詳しい解説を、レポート締め切り日後の授業内で行います。また、期末レポート課題の解説（文書）をレポート提出締め切り日後に提示します。

8．成績評価の方法
小レポート課題10回（40%）、期末レポート課題1回（40%）、授業への参加度（20%）により、総合的に評価します。
※対面形式での試験は行いません。

9．その他
世界史の予備知識は必要ありません。全員がゼロからの出発と見なし講義します。皆さんの積極的な参加を望みます。

科目ナンバー：(IC)ARS161J

地域文化論（基礎）

2単位	1年次	関口　裕昭

1．授業の概要・到達目標
今日の情報社会において、グローバル化、デジタルメディア化が進む中、文化の均質化と混成がかかつてないほどのスピードで進んでいる。その一方で、個々の文化の独自性を重要視し、それを後世に残していこうとする動きも一層強まっている。
本講義では、多様な地域の文化の実相を、ドイツ、フランス、スペイン、韓国、中国、タイ、イスラムという非英語圏の地域文化とその地域の視点から学ぶ。オムニバス形式の講義を通し、各地域文化の独自性、多様性を学ぶことで、自分なりの文化や文化に対する洞察を深め、さらには日本文化との相違についても比較考察する力を養う。多様な地域文化を理解し、現代日本の情報社会を批判的かつ多角的に考察する、深い洞察力をつけることが本講義の目標である。

2．授業内容
第一回目　はじめに（全体の主旨説明）ドイツ語圏の地域文化①オーストリア：ウィーンのカフェ文化（関口裕昭）
第二回目　ドイツ（イタリア）語圏の地域文化②：南チロルの歴史と食文化（コーディネーター 関口裕昭 講師 三輪学）
第三回目　ドイツ語圏の地域文化③スイス：『ハイジ』の舞台と日本での受容（関口裕昭）
第四回目　フランスの地域文化①：イメージとしてのフランス（高馬京子）
第五回目　フランスの地域文化②：フランスとファッション（オンデマンド授業）（高馬京子）
第六回目　韓国の地域文化①：韓国とKカルチャー①韓流の前史（オンデマンド授業）（キム・ヒョンス）
第七回目　韓国の地域文化②:韓国とKカルチャー②拡張する韓流（オンデマンド授業）（キム・ヒョンス）
第八回目　中国の地域文化①：政治、言語、日本における受容の角度から『駱駝祥子』(ロオトシャンヅ)を読み解く（1）(大山潔)
第九回目　中国の地域文化②：政治、言語、日本における受容の角度から『駱駝祥子』(ロオトシャンヅ)を読み解く（2）(大山潔)
第十回目　スペイン語圏の地域文化①：中南米の社会と文化（山本昭代）
第十一回目　スペイン語圏の地域文化②：メキシコ――暴力とのたたかい（山本昭代）
第十二回目　タイ地域文化①：タイにおける多様な民族と文化（香ノ木ウォララック）
第十三回目　タイ地域文化②：仏教とタイの人々の暮らし（香ノ木ウォララック）
第十四回目　中東地域の文化：その多様性と一体性（横田貴之）
授業の内容は状況によって変更することもある。

3．履修上の注意
授業には出席すること。
各地域文化について積極的に自分でも調べること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習として、前もって各国の文化について調べておくこと。
復習として、授業に基づいて先生の課題に対して、講義内容、また自分でも調べ考える意見をまとめること。

5．教科書
授業中に指定する。

6．参考書
授業中に指定する。

7．課題に対するフィードバックの方法
各回、課題に対する講評のコメントもしくは動画を提示する。

8．成績評価の方法
各地域文化に対し、一回のレポートを提出し総合点で成績評価をする。

9．その他

科目ナンバー：(IC)GEO131J

地誌学

２単位	１年次	三浦　尚子

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
地誌学は、人文・社会・自然科学の学問的知を横断しながら、地域固有の論理を描きだす学問です。ただし、地誌学は地域の固有性のみを探求する学問ではありません。地域はつねに動態的であり、人や資本が移動しながら、自然の脅威に晒されながら、ほかの地域との関係に影響されながら変化しています。
本授業では、具体的な地域を事例に、フィールドワークで得られた知見、文献資料や視聴覚資料を積極的に活用しながら、地域を構成する要素の関連性（地域構造）を理解し、現代社会が抱える諸課題へ対策が講じられるよう、考察していきます。

【到達目標】
地誌学の方法論を説明できる。
特定の地域の特性や地域構造を説明できる。

２．授業内容
第１回　ガイダンス　地誌学とは
第２回　地域間の社会的・文化的差異
第３回　地域文化の再考
第４回　地域コミュニティの分析：宗教観・ジェンダー観の違いから
第５回　地域とディアスポラ（離散）：庇護申請者の移動性
第６回　コロニアリズム（植民地主義）：特定の地域における支配と抵抗
第７回　自然と文化の対比：英領インドを事例に
第８回　ポストコロニアリズム:コロニアリズムの遺制
第９回　カーストと学歴社会：インドを事例に
第10回　比較地誌：フランスのワイン文化
第11回　資本とグローバリゼーション
第12回　ジェントリフィケーション
第13回　地域の活性化と課題：島嶼地域を事例に
第14回　総括

３．履修上の注意
授業の内容は進捗状況や社会情勢によって前後したり変更が生じたりします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
【事前学習】事前に授業資料をOh-o! Meijiから入手して目を通し、気になる用語を確認します（１時間）。
【事後学習】授業の最後に小課題に取り組みます。小課題は、ミニクイズ形式のものもあれば記述形式のものもあります。授業終了後、授業で紹介した文献を読んだり、新聞・雑誌記事などを検索したりして自分の意見を整理しましょう（２時間）。

５．教科書
教科書は特に指定せず、Oh-o! Meijiに授業の資料を配布します。

６．参考書
北川眞也2024.『アンチ・ジオポリティックス―資本と国家に抗う移動の地理学』青土社.
サッセン，S. 2018.『グローバル・シティーニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』ちくま書房.
スミス, N. 2014.『ジェントリフィケーションと報復都市』ミネルヴァ書房.
竹中克行・大城直樹・梶田 真・山村亜希2009.『人文地理学』ミネルヴァ書房.
ビット，J. R. 2007.『ボルドーとブルゴーニューせめぎ合う情熱』日本評論社.
平岡昭利ほか編『地図で読む百年』古今書院.
矢ヶ崎典隆ほか編2007.『地誌学概論』朝倉書店.
ほか、授業で紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内でフィードバックします。

８．成績評価の方法
期末レポート（40%）、中間レポート（30%）、授業への貢献として毎授業の小課題（30%）

９．その他
クラスウェブで履修者に公開する担当者メールアドレスにて連絡可能です。

科目ナンバー：(IC)GEO111J

地理学

２単位	１年次	三浦　尚子

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
地理学geographyは、地球表面上で起こる自然・人文現象を対象とする総合的な科学で、自然、風土、文化、社会、政治、経済などに注目しながら、特定の地域の成り立ちや人間集団との関係を探求します。土地の記述geo＋graphyを礎とする地理学の鍵概念と方法論の学びを通して、さまざまな社会現象に潜む不平等性について、異なる空間スケールを行き来しながら検討し、現代社会を多角的にとらえる力を涵養します。
特に、ソーシャルマイノリティに関する内容は、講師の実務経験を活かして構成されます。

【到達目標】
１）地理学の鍵概念を説明できる。
２）地理学の鍵概念を援用して社会現象を考察できる。

２．授業内容
第１回　ガイダンス　授業の内容と成績評価の説明
第２回　景観　景観概念について学習します。
第３回　環境　同じ自然環境で土地利用が異なる要因を検討します。
第４回　地域　地理学における地域概念への理解を深めます。
第５回　距離　伝統的な立地論を学びます。
第６回　時間　歴史地理学と時間地理学の方法論を整理します。
第７回　都市　都市の空間構造を、アメリカの都市を事例に確認します。
第８回　村落　村落における「地域文化」を考察します。
第９回　地図　『女性の世界地図』を通して女性が置かれた状況を理解します。
第10回　場所　地理学における場所概念と空間概念との違いを整理します。
第11回　文化　「多文化共生」の理想と現実のギャップを読み解きます。
第12回　ジェンダー　地理学でジェンダー・セクシュアリティにどのようにアプローチできるか、検討します。
第13回　障がい　病院・地域の施設・制度の地理学を再考します。
第14回　総括

３．履修上の注意
授業の内容は進捗状況や社会情勢によって前後したり変更が生じたりします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
【事前学習】事前に授業資料をOh-o! Meijiから入手して目を通し、気になる用語を確認します（１時間）。
【事後学習】授業の最後に小課題に取り組みます。小課題は、ミニクイズ形式のものもあれば記述形式のものもあります。授業終了後、授業で紹介した文献を読んだり、新聞・雑誌記事などを検索したりして自分の意見を整理しましょう（２時間）。

５．教科書
教科書は特に指定せず、Oh-o! Meijiに授業の資料を配布します。

６．参考書
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著2020.『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房.
シーガー, J.著，中澤高志・大城直樹・荒又美陽・中川秀一・三浦尚子訳2020.『女性の世界地図ー女たちの経験・現在地・これから』明石書店.
加藤政洋・大城直樹編著2006.『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房.
竹中克行・大城直樹・梶田 真・山村亜希編著2009.『人文地理学』ミネルヴァ書房.
野間晴雄・山近博義・矢野司郎編 2020.『地図でみる城下町』海青社.
山﨑孝史2022.『「政治」を地理学する―政治地理学の方法論』ナカニシヤ出版.
吉田英嗣2019.『はじめての自然地理学第二版』古今書院.
ほか、授業で紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内でフィードバックします。

８．成績評価の方法
期末レポート（40%）、中間レポート（30%）、授業への貢献として毎授業の小課題（30%）

９．その他
クラスウェブで履修者に公開する担当者メールアドレスにて連絡可能です。

科目ナンバー：(IC)PHL111J

哲学

2単位	1年次	大黒　岳彦

1．授業の概要・到達目標

哲学の定義には様々なものが存在するが、その一つに「常識の批判」というものがある。われわれは日常生活において常識に従って生き、それを疑うことはない。だが、一旦その常識の自明性に疑いを差し挟むや否や、世界は疑問と謎の塊としてわれわれに迫ってくる。「心はどこにあるのか？」「人間がいなくなっても世界は存在するのか？」「他人は果たして私と同じ人間といえるのか？」「動物に意識はあるのか？」etc…。

本講義では、われわれの身近な世界を題材にしながら、哲学が謎の塊としての世界とどのように格闘してきたかを概観する。

本講義の到達目標は、目の前の現実の成り立ちを論理的に説明できるようになることである。

2．授業内容

哲学はけっして哲学者の列伝や哲学理論の歴史ではない。今現在のアクチュアルで本質的な問題を原理に基づいて徹底的に考え抜くことである。その際に、過去の先哲が（冗談ではなく）まさに身命を賭して考え抜いた結果は参考になる。

授業ではプラトン・アリストテレス、デカルト・ライプニッツ、ロック・バークレー・ヒューム、カント、フッサール・ハイデガー・サルトル・メルロ＝ポンティ、ソシュール・ウィトゲンシュタイン・チョムスキーなど様々な固有名詞が出てくるが幻惑されないでほしい。大切なことは彼ら偉大な先輩の胸を借りながら自らの頭で問題を考えることなのである。

講義内容は以下の予定。

1　イントロダクション
2　「なぜ人を殺してはいけないのか？」だと？
3　同情と義務
4　「他人をわかる」ことは可能か？
5　独我論＝毒牙論
6　「我惟う、故に我あり」の帰結
7　自然は機械か？それとも生命か？
8　「生きている」ことの基準
9　「こころ」とは何か？
10　「からだ」と「こころ」
11　現象学では「コップ」を哲学できるらしい
12　「もの」の成り立ち
13　「ことば」の本質
14　「ことば」以前のことば

3．履修上の注意

既成の思考枠組みを疑い、自分の頭で考えるトレーニングのための講義だと思ってください。とにかく自分の頭で考えること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

その時々の指示に従ってください。

5．教科書

特に無し

6．参考書

『謎としての“現代”―情報社会時代の哲学入門―』（春秋社）

7．課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業及びクラスウェブ等を活用して実施する。

8．成績評価の方法

平常点（30％）と期末の試験（70％）。基礎知識の習得および論理的思考能力を重視する。

9．その他

科目ナンバー：(IC)HIS121J

東洋史概論

2単位	1年次	鈴木　直美

1．授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本授業では7世紀から20世紀末までの中国史の流れを概観し、中国の政治・経済・社会の動向を世界史的背景から理解できるよう説明する。中国史を講義の軸とするのは、農耕と遊牧という異質の社会システムや環境、生活・文化が接しながら新しい時代を育むという、日本にはない特色あるからである。

また、伝統的な華夷意識にもとづく「帝国」が、19世紀以降いかにして近代国家へと変革を遂げたかを学ぶことは、地域によって異なる「近代化」のプロセスを比較する材料となる。そして、現在の多民族国家としての中国が形成されてきた過程を長期的視野からとらえることで、中国社会やアジアが抱える諸問題を深く理解できるだろう。本授業を通じて、アジアという広い地域の特質を歴史的な視点で考えるその手法を学んでほしい。

《到達目標》

1．歴史学の思考方法を身につけ、様々な歴史的事象について多角的な視点から考察できる。
2．現代中国やアジアをはじめとした国際関係を、歴史的な文脈から捉えることができるようになる。

2．授業内容

各回の授業内容は以下の通り。

1．「中国」とは何か
2．農耕社会と遊牧社会
3．隋唐王朝と国際関係
4．唐宋変革とは何か
5．モンゴル帝国とユーラシア
6．明朝と大航海時代
7．清朝の平和 ／ 小テスト
8．清朝と近代世界
9．中国ナショナリズムと辛亥革命
10．第一次世界大戦と中国社会
11．抗日戦争から中華人民共和国へ
12．社会主義体制の構築
13．現代中国の諸問題
14．a：まとめ／b：試験

授業の進行状況によって内容を変更する場合がある。

3．履修上の注意

1．授業で使用する資料は事前にクラスウェブからPDFで配付する。感染防止のため授業時に紙媒体での配布をしないので**授業前に自分でダウンロードや印刷**をしておくこと。
2．クラスウェブの出欠確認機能と小テスト機能を使用するので**スマートフォン・パソコンなどを持参**のこと。
3．授業内容への質問は授業中、およびクラスウェブアンケート機能から受け付ける。質問内容と回答は次週授業時に全員に共有する。
4．教員への連絡方法は「シラバスの補足」記載のメールアドレス参照のこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1．高校時代の「歴史総合」や「世界史探究」などの教科書や下記書籍を読み返しておく。
『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014年）
2．事前に配付された資料に目を通し、授業内容と〔テーマ〕（講義のポイント）を理解する。
3．講義内容をもとに、参考書の該当部分を読み知識の幅を広げる。

5．教科書

なし。クラスウェブから資料（PDF）を配布する。

6．参考書

1．岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年）
2．岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019年）
3．津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）
4．『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）

7．課題に対するフィードバックの方法

授業時に全体の講評をするほか、必要に応じてクラスウェブのコメント機能を使用する。

8．成績評価の方法

1．小テスト（30％）・期末試験（70％）による。
（1）第7講終了後に小テストを行う。
（2）期末試験は記述式で行う。単語の羅列や意味の不明な文章は解答とみなさず、単位を認定しない。
2．出席回数が7割未満の場合は単位を認定しない。

9．その他

本授業を補完する書籍は以下の通り。
(1) 世界史全体にかかわる書籍
妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修訂（中央大学出版部、2021年）
川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）
世界史リブレットシリーズ（山川出版社）※歴史学の様々なテーマについてわかりやすく解説している。
(2) 中国史についての概説書
中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。
『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。
『中国の歴史』全12巻（講談社学術文庫）。

科目ナンバー：(IC)HIS111J

日本史概論（日本史概論Ａ）

２単位	１年次	**中臺　希実**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
中学高校における「世界史」「日本史」などの歴史科目では、政治、経済を中心とした歴史的事実を暗記することが求められる傾向があったかと思います。「日本史概論」では歴史的事実を基に、歴史資料（歌舞伎、浄瑠璃、文書、絵画など）を正確に読み解きながら、自分なりの歴史的な思考方法を体得する授業を行います。
　この授業では、日本近世史（江戸時代）を中心に講義を行います。歌舞伎や浄瑠璃、戯作本、浮世絵などの資料を利用し、人々の日々の営みを中心に、家族、婚姻、離縁、ジェンダー観の変遷などを示して民衆側からの江戸時代像を提示します。
【到達目標】
日本近世の歴史的特質について理解を深めるとともに、現代社会において歴史学を学ぶ意義について、自分なりの見解を構築すること、資料を厳密かつ批判的に検討する力を獲得することを到達目標とします。

２．授業内容
第１回：イントロダクション―授業の進め方について
第２回：歴史史料としてのメディア
第３回：18世紀前半における、民衆の「家」とジェンダー
第４回：民衆のジェンダー認識（１）中世と江戸時代の婚姻と離縁
第５回：民衆のジェンダー認識（２）18世紀前半における入婿養子―見えないゴールと不安定な立場―
第６回：民衆のジェンダー認識（３）18世紀前半の「女性」と理想像―求められる「貞」と「情」―
第７回：江戸の出版文化と民衆社会
第８回：江戸時代における「性買売」をめぐる認識－モノ化とされる性、消費・搾取する性－18世紀後半における「家」と「所帯」－膨張する都市中下層社会－
第９回：－18世紀後半における「家」と「所帯」－膨張する都市中下層社会
第10回：民衆のジェンダー認識（４）18世紀後半、近松半二作品「往古曽根崎村噂」からみる変化するジェンダー観
第11回：19世紀における民衆と「所帯」-「生きやすさ」とジェンダー
第12回：民衆のジェンダー認識（６）-19世紀、鶴屋南北怪談作品から考える「生存」におけるジェンダー格差―
第13回：民衆のジェンダー認識（７）-19世紀における鶴屋南北作品における暴力とジェンダー
第14回：講義のまとめ
＊場合により授業内容は変更になる場合があります。

３．履修上の注意
授業の最後に、授業内容の関するリアクションペーパーを提出してもらう。
授業中にも、発言を求めることもあるため、積極的な姿勢で授業にのぞむこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回配布するレジュメの読み返し、レジュメに記した参考文献に目を通すなどの復習。予習は特に求めない。

５．教科書
特に定めない。教材として、授業中に毎回、レジュメを配布する。

６．参考書
『現代を生きる日本史』須田努・清水克行（岩波書店）
『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』編 総合女性史学会（岩波書店）
『論点・日本史学』編岩城卓二他（ミネルヴァ書店）
『深化する歴史学―史資料からよみとく新たな歴史像編歴史科学協議会（大月書店）

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内にて解説を行う。

８．成績評価の方法
毎回のリアクションペーパー　50%
期末試験　50%

９．その他
歴史学を通じ、現代社会における諸問題を考えることを望む学生を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)LIT111J

日本文学

２単位	１年次	**日置　貴之**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
　日頃〈日本文学〉という語について、あまり深く考えることなく、世界にさまざまな〈文学〉が存在する中の一ジャンルであると考えている人も多いのではないだろうか。しかし、改めて考えた時、その輪郭は非常に曖昧であることに気づく。
　例えば、「日本語で書かれた文学」「日本人が書いた文学」「日本において書かれた文学」は重なり合いつつも、微妙にずれている。さらに言えば、古代から現代に至る長い時間のなかで、〈日本〉や〈日本人〉といった言葉が指し示す範囲・内容は常に一定ではない。
　また、〈文学〉という語が指し示す内容も、必ずしも自明であるとはいえない。ミュージシャンのボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞した際には、ディラン自身がまず自分の書く歌詞は〈文学〉なのかと自問したと受賞記念講演の中で語ったが、〈日本文学〉という枠組みの中で見ても、あいみょんや米津玄師の詞、あるいは『ONE PIECE』のような漫画は〈文学〉なのだろうか。あるいは、ある作品が〈文学〉である・ないという判断を下すのは誰なのだろうか。
　この講義では、そもそも〈日本文学〉とは何かということを考えつつ、さまざまなトピックに即して〈日本文学〉の作品について見ていく。
　第1回～第3回では、上記のような問題に触れつつ、一般的な日本文学の歴史とその問題点を確認する。第4回以降では、小説の「語り」や文学と読者を結びつけるメディアといった要素、あるいは文学と民族、ジェンダー、都市といったトピックとの関係について具体的に考える。
【到達目標】
　〈日本文学〉という概念について自分なりの考えを持ち、それを説明することができるようになる。

２．授業内容
第１回　イントロダクション～〈日本／文学〉とはなにか、〈日本文学〉をいかに読むか
第２回　日本文学史概略(1) ～〈日本文学〉の誕生から中世まで
第３回　日本文学史概略(2) ～江戸時代からAIの時代まで／〈文学史〉を作るのは誰か
第４回　文学と「作者」(1) ～物語を語っているのは誰か
第５回　文学と「作者」(2) ～近代小説の誕生
第６回　文学とメディア(1) ～新聞・雑誌／文壇／読者
第７回　文学とメディア(2) ～文学から映画へ、映画から文学へ
第８回　文学と身体(1) ～文学と演劇・芸能
第９回　文学と身体(2) ～文学とファッション
第10回　文学と都市～描かれた東京
第11回　日本文学の〈周縁〉
第12回　翻案と翻訳～移すべきか、移さないべきか、それが問題だ
第13回　文学とジェンダー～文章に現れるもの、現れないもの
第14回　試験と解説

３．履修上の注意
・講義科目であるが、教員の説明を鵜呑みにして単純にその内容を記憶するのではなく、必ず各回の授業で取り上げるテーマについて自分なりに考えてみること。
・授業中は基本的に随時、質問等を受け付けるが、授業と無関係な私語は慎むこと。授業の妨げとなるような行為をおこなう者には即座に退室を命じ、以後の授業への出席は認めない。
・授業資料は事前にクラスウェブに掲載するので、各自のPC・タブレット等にダウンロードあるいは印刷して授業中に参照できるようにすること。授業の内容上、資料の分量が多くなるので、スマホ画面での閲覧はあまり勧めない。
・各回の授業時に課題（授業中に指示する）、質問・コメント等を提出すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回の授業資料は事前にクラスウェブに掲載するので、各自で予習をおこなうこと。また授業の不明点については授業中に、またはクラスウェブを通じて質問をするなどして明確にし、復習をおこなうこと。

５．教科書
使用しない。各回の資料は事前にクラスウェブに掲載する。

６．参考書
一般的な日本文学史についての疑問は、高校国語教科書・副読本などを参照すること。
各回の内容に関する参考文献の詳細な一覧は開講後に配布する。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時・授業後にリアクションペーパーやクラスウェブを通して提出された質問・コメント等については、次回以降の授業内で適宜紹介し、フィードバックをおこなうほか、必要に応じてクラスウェブ上で回答する。最終回は前半に試験をおこない、後半は試験内容の解説に充てる。

８．成績評価の方法
各回の課題等の提出50%、試験50%
なお、単に授業に出席するだけでは評価の対象とはならないので、当然ながらすべての回の授業に出席しても、授業の受講態度や理解度が不十分である場合は単位を修得できない場合がある。

９．その他
心身の条件等により受講に際して特別の配慮を希望する場合には、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへご連絡いただければ、授業準備の段階から各自の事情に応じた対応を検討することが可能です。
なお、授業資料には原則としてUDフォントを使用し（既刊書籍からのコピー等は除く）、PDFファイルの形式で事前にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(IC)COM351E

パブリック・スピーキング

2単位	1年次	**鈴木　健**

1．授業の概要・到達目標

［Course Overview］ This course deals with fundamentals of speech communication in English. This course will emphasize the theoretical understanding about cross-cultural communication and practice in interpersonal communication. Students enrolled in class do not need to have highly-advanced English skills, but they should be interested in speech communication.

［Course Objective］ To learn about theory and practice of public speaking, including self-introduction, informative speech, and persuasive speech.

2．授業内容

Students enrolled are supposed to participate in three presentations: Self-introduction（4 min.), Informative Speech（5 min.), Persuasive Speech（6 min.).

Week 1　Introduction
Week 2　What is Communication?（Read: Lingua Frankly, Ch 1 & 13）
Week 3　Public Speaking I & Critical Thinking（Read: Ch 2 & 10）
Week 4　1st Presentation: Self-introductory Speech
Week 5　Communicating Effectively:（Read: Ch 4 & 6）
Week 6　Rhetorical History:（Read: Ch 16）& Barack Obama DVD
Week 7　Pop Culture Criticism（Read: Ch 11 & 12）
Week 8　Public Speaking II & Communicative Reading（Read: Ch 5 & 3）
Week 9　2nd Presentation: Informative Speech
Week 10　Humor and Dialogue of Civilizations:（Read: Ch 9 & 14）
Week 11　Rhetorical Presidency:（Read: Ch 17 & 18）
Week 12　Public Speaking III（Read: Ch 8 & 7）
Week 13　3rd Presentation: Persuasive Speech
Week 14　Anti-terrorism Rhetoric（Read: Ch 19 & 20）

3．履修上の注意

Class attendance is important and expected.

Students absent more than three class meetings will find their final grade lowered by 15 points for each additional absence.

Because all assignments are due on a date announced in advance, students are expected to be present and prepared on those days.

Students are responsible for initiating arrangements to make up missed work.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are supposed to read assigned chapters of the textbook each week.

5．教科書

Takeshi Suzuki & Deborah Foreman-Takano, Lingua Frankly: Tips for Successful Communication. Ikubundo, 2004.

6．参考書

Photocopies are to be provided if necessary.

7．課題に対するフィードバックの方法

8．成績評価の方法

Grades will be weighted 20% on the participation in class discussion, 20% on the first speech assignment, another 30% on the second speech assignment, and 30% on the final presentation..

9．その他

科目ナンバー：(IC)CUL121J

比較文化（基礎）A

2単位	1年次	**三松　幸雄**

1．授業の概要・到達目標

【概要】
文化事象を探究するための基本的な概念や問題群をとりあげ、具体的な事例とともに検討する。「文化」という観念が関与しうる領域は、ときに「文明」や「社会」と部分的に重なり合い、広義には地球生態系のほぼ全域にも及びうる（「自然文化」）。そこには、日常の生存様式、芸術の創造行為、表象の政治性、法の諸理念、経済秩序、教育と変容、宗教的な生、等々が含まれる。それは通常科学の各分野で研究されている事象群を多面的かつ統合的に把握しうる開かれた概念でもある。この授業では、人文社会科学の理論動向と実践的関心を踏まえながら、文化事象を内在的かつ領域横断的に考察する「比較」のアプローチを取ることになる。
【到達目標】
文化事象を学問的に探究するための基本的な技能を習得すること。

2．授業内容

第１回　導入：基本概念Ⅰ
　文化／文明、自然文化、比較存在論、環境人文学、ポスト人文学
第２回　基本概念Ⅱ
　多孔性、分人、混合体、集合体、内部作用、ポストプルーラル
第３回　構造主義／ポスト構造主義
　構造、記号学／記号論、言説、表象、同一性／差異、特異性／出来事
第４回　文化と国家
　主権、国民、領土、正統性；ナショナリズム、伝統性、地域主義、国際秩序論
第５回　文化と植民地主義
　文化的人種主義、オリエンタリズム／オクシデンタリズム、批判的人種理論、交差性
第６回　資本主義論
　貨幣論、疎外論、物象化論；市場経済、自生的秩序；世界システム、交換様式論
第７回　文化・自然・資本主義
　文化産業、文化資本；倫理的消費、共有財、気候正義、脱成長
第８回　文化・権力・政治性
　規律権力、生権力、生政治、統治性、管理社会；市民的抵抗、生存の美学
第９回　思弁的転回とその周辺
　相関主義の問題、多心論、新実在論、新唯物論、情動論的転回
第10回　存在論的転回Ⅰ：自然文化
　四つの存在論、多自然主義、観点主義、多種、共生成
第11回　存在論的転回Ⅱ：非近代論
　アクターネットワーク、対称性原理、物神事実、ガイア仮説
第12回　言語文化の複数性、教育の公共圏
　言語エコロジー、言語帝国主義；監査社会、中断の教育学
第13回　宗教文化論
　脱魔術化、再魔術化、ポスト世俗化
第14回　総括：要約、展望、課題

3．履修上の注意

上記「授業内容」は見通しを得るべく暫定的に設定されている。各種のトピックは互いに関連しあっており、実質的な内容は議論の展開や参加者の関心などに応じて適宜調整する。比較文化（基礎）Aのみの履修も可。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業でとりあげたトピックや論点について、授業外でも各種媒体を活用し、自らの仕方で理解を深めていくこと。

5．教科書

指定教科書はなし。資料類を必要に応じて配布。

6．参考書

見田宗介 他編『社会学文献事典〔縮刷版〕』弘文堂、2014年
前川啓治 箭内匡 他『21世紀の文化人類学：世界の新しい捉え方』新曜社、2018年
今橋映子 井上健 監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024年
その他の参考文献は教場にて指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

教場にて応答し、議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

8．成績評価の方法

平常点・参加度（50%）、期末試験または期末レポート（50%）。

9．その他

科目ナンバー：(IC)CUL121J

比較文化（基礎） B

２単位	１年次	**三松　幸雄**

１．授業の概要・到達目標
【概要：比較芸術】
芸術の実践と理論を手引きとしながら、今日における創造行為の潜勢力を探究する。この授業では、おもに美術と音楽という二つの領域を基本的な参照軸に据え、双方の歴史を概観したうえで、範例的な作品群、関連する芸術哲学、詩学、美学、芸術批評を取りあげる。また、必要に応じて、文学や映像芸術、舞踊、建築などの隣接領域における関連動向を参照するとともに、芸術実践と交差する諸科学のトポスをもあわせて検討することになる。
【到達目標】
芸術の経験と学的な探究を往還する過程を通じて創造行為の潜勢力を培うこと。未知の領域を実験的に探索すること。

２．授業内容
第１回　導入：基本概念 I
　芸術、創造、作品、価値、美的質 他
第２回　基礎概念 II
　詩学、美学、芸術史、芸術批評 他
第３回　美術 I：世界美術史の地平
第４回　美術 II：モダニズム以後
第５回　美術 III：現代美術
第６回　美術 IV：「芸術終焉論」以後
第７回　音楽 I：世界音楽の理念
第８回　音楽 II：律動、歌、音色、調性、楽器 他
第９回　音楽 III：現代の音楽文化
第10回　音楽 IV：「現代音楽」以後
第11回　作品論 I：経験、分析、批評
第12回　作品論 II：経験、分析、批評
第13回　作品論 III：経験、分析、批評
第14回　総括：要約、展望、課題

３．履修上の注意
上記「授業内容」は見通しを得るべく暫定的に設定されている。各種のトピックは互いに関連しあっており、実質的な内容は議論の展開や参加者の関心などに応じて適宜調整する。比較文化（基礎）Bのみの履修も可。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業でとりあげたトピックや論点について、授業外でも各種の情報媒体を活用し、自らの仕方で理解を深めていくこと。

５．教科書
指定教科書はなし。資料類は必要に応じて配布。

６．参考書
佐々木健一『美学への招待　増補版』中公新書、2019年
美術検定実行委員会 編『西洋・日本美術史の基本 改訂版』美術出版社、2014年
徳丸吉彦 高橋悠治 北中正和 渡辺裕 編『事典 世界音楽の本』岩波書店、2007年
沼野雄司『現代音楽史：闘争しつづける芸術のゆくえ』中公新書、2021年
今橋映子 井上健 監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024年
その他の参考文献は教場にて指示する。

７．課題に対するフィードバックの方法
教場にて応答し、議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

８．成績評価の方法
平常点・参加度（50%）、期末試験または期末レポート（50%）。

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL351J

メディア批評

２単位	１年次	**鈴木　　健**

１．授業の概要・到達目標
[授業概要] メディア批評の基礎と方法論を学ぶ．具体的には、メディア・テクストを読み解くためのレトリカル批評、記号論、価値論、物語論、精神分析批評、イデオロギー批評などについて学ぶ。同時に、なぜ批判的な分析（critical analysis）をするのか、メッセージの持つ意味とは何か、テキストの裏にある主義（-ism）であるイデオロギーに関する問題も考察する。
[到達目標] 単なる印象批評ではなく、批判的方法論に基づいた社会批評としてのエッセーを書けるようになることを目指す。

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　発表１：映画批評の方法論（配付資料コピーを使用）
第３回　発表２：レトリック批評（『説得コミュ論を学ぶ人のために』第２章コピーを使用）
第４回　発表３：ポピュラーカルチャーとは何か（教科書第１章）
第５回　発表４：「教養」と「文明」の伝統（教科書第２章）
第６回　発表５：マルクス主義批評（教科書第４章）
第７回　７段階の叙述的分析：「夏が来る」（『説得コミュ論』コピーを使用）
第８回　ミニレポート提出と討論
第９回　発表６：精神分析批評（教科書第５章）
第10回　発表７：構造主義批評と脱構造主義（教科書第６章）
第11回　発表８：ジェンダー批評（教科書第８章）
第12回　発表９：ポストモダニズム批評（教科書第10章）
第13回　発表10：ポピュラー・カルチャーの政治学（教科書12章）
第14回　最終レポート・プレゼンテーション（各2分）

３．履修上の注意
学期中、各個人のミニレポートテーマ発表、グループ別の教科書担当部分の発表、最終レポートのテーマ発表に参加してもらうので、教科書の該当部分の予習と積極的な参加が要求される。グループメンバーは必ずメーリングリストを作製すること。また担当部分は全員がすべてを読み、プレゼンの前に全体のバランスを討議すること。
プレゼンテーションに関して
（１）教科書の担当部分全部を早口で説明するのではなく、重要だったり面白いポイントを選んで発表すること。
（２）教科書の例はむずかしかったり今では古くなっているものも多いので、自分たちに分かりやすい例に差し替えること。
（３）教科書は皆も予習してきているので、さらにリサーチしてプラスアルファの内容をこころがけること。
ミニレポートと最終レポートに関して
（１）オリジナリティーの重視：単なる印象批評ではなく、リサーチと分析に基づき「自分の意見」を提示すること。AIに関して、(「未使用、部分的使用、大部分使用」の区別を表記すること)
（２）公的な重要性を踏まえる：社会・政治・文化的に重要なテーマを選ぶこと。「参考文献リスト」は必須。これまでの分析や理論を踏まえて、新しい見解や視点を提示すること。
（３）取捨選択する：扱うべき議論を選択する。説得力がなかったり、おもしろくなかったりするのに手に入れた全ての議論を入れてしまうと退屈な内容になる。「捨てる勇気」を持つ。
（４）ミニレポートは１～２ページ、最終レポートは８ページ以上。フォントは12ptでダブルスペース（日本語の1.5行空け）で、表紙と参考文献は除く。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の授業には、割り当てられた教科書の章を読んで、質問を用意して臨むこと。

５．教科書
ジョン・ストーリー『ポップ・カルチャー批評の理論：現代思想とカルチュラル・スタディーズ』（訳）鈴木健、越智博美（小鳥遊書房、2023年）その他、コピーを配布する。

６．参考書
特に定めない。

７．課題に対するフィードバックの方法
・履修生を10のグループに分けて、担当内容に関してプレゼンテーションを行う。インストラクターは適宜、補足説明を行う。プレゼンテーションに関する全体ディスカッションも行う。
・学期途中に行うミニレポートは最終レポートの準備になっており、コメントと評価を付けて２週間後に返却予定である。

８．成績評価の方法
ミニレポート(25%)。プレゼンテーションと討論への参加度(35%)。最終レポート（40%）。
メディア批評プレゼンテーション分担予定
　発表１：映画批評の方法論５つ（配付資料コピーを使用）
　発表２：レトリック批評の方法論５つ（『説得コミュ論』第2章コピーを使用）
　発表３：ポピュラーカルチャーとは何か？（教科書第1章を使用）
　発表４：教養と文明（教科書第2章）
　発表５：マルクス主義批評（教科書第4章）
　発表６：精神分析批評（教科書第５章）
　発表７：構造主義脱構造主義（教科書第6章）
　発表８：ジェンダー批評（教科書第８章）
　発表９：ポストモダン批評（教科書第10章）
　発表10：ポピュラー・カルチャーの政治学（教科書第12章）

９．その他

科目ナンバー：(IC)HIS311J

歴史学（日本史概論Ｂ）

２単位	１年次	**中臺　希実**

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
中学校や高校、入試などでは「歴史的事実」を暗記することに重きが置かれていたと思います。
この講義ではこれまでのような事象の暗記ではなく、社会の在り方と教科書などの歴史叙述、歴史解釈がどのように影響しあっていた、いるのかを学びます。
【到達目標】
歴史的事実と可能性の区別をつけることができるようになり、歴史叙述が立場によって変化する可能性と歴史学のこれまでの歩みを理解する。

２．授業内容
第１回　プロローグ：歴史学って何？
第２回　歴史学と皇国史観
第３回　歴史学とマルクス主義史観
第４回　歴史学と客観性（１）　実証主義歴史観
第５回　歴史学と客観性（２）　歴史　物語論
第６回　教科書と歴史認識 歴史学のもつ暴力性
第７回　歴史学と歴史修正主義①　アーウィング裁判と歴史学
第８回　歴史学と歴史修正主義②　アーウィング裁判と歴史学
第９回　「現代歴史学」と歴史研究者の立場性と権力性：語られない／語らないモノの歴史叙述
第10回　「現代歴史学」とジェンダー（１）
第11回　「現代歴史学」とジェンダー（２）
第12回　「現代歴史学」と民衆史・社会文化史（１）
第13回　「現代歴史学」と民衆史・社会文化史（２）
第14回　エピローグ：歴史学のこれから
＊場合により授業内容は変更になる場合があります。

３．履修上の注意
歴史の暗記が得意な人よりは、「なぜそのような解釈が成立したのか？」「なぜ、教科書の記述がたびたび変わることがあるのか？」「なぜ、歴史認識の齟齬が生じ、軋轢さえ生むのか？」といいう疑問に真摯に向き合い、歴史学を日本史を中心に学ぼうという意欲のある方を歓迎します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
講義中に参考文献をあげます。
予習は必要ありませんが、レジュメや参考文献を用いた復習を行ってください。
適宜、授業中に指示をだします。

５．教科書
とくに定めない。

６．参考書
須田努・清水克之『現代を生きる日本史』岩波現代文庫、２０２２
歴史科学協議会編集『深化する歴史学：史資料からよみとく新たな歴史像』大月書店、２０２４
姫岡とし子『ジェンダー史１０講』岩波書店、２０２４

７．課題に対するフィードバックの方法
講義毎に提出していただくリアクションペーパーへのリプライ。
講義毎にその講義に関するテーマでリアクションペーパー（小レポート）を書いて提出してもらいます。

８．成績評価の方法
定期試験：５０％
リアクションペーパー：５０％

９．その他
自分の考えを言語化するためには、知識をつけることが重要です。
学んだことを言語化し、自分の力にするための方法をぜひたくさん学んでください。

自然科学

科目ナンバー：(IC)STS141J

科学技術史

２単位	１年次	**小山　俊士**

１．授業の概要・到達目標
科学技術の歴史の全体を視野に入れるが、その中でも現代もっとも影響力の大きな科学技術といってよいコンピュータに注目して、その基礎となる情報と通信に関する科学・技術の歴史を中心に講義をしていく。狭義のコンピュータだけではなく、そこに使われるアルゴリズムや計算に関する科学、機械や電子回路の技術について、それらが生まれた背景にある思想や哲学、社会との関係も考慮しながら扱う予定である。
現代社会のあらゆる場面で使われている科学技術について、歴史を通じた理解を深めることを意図している。特に、数と計算、論理とアルゴリズム、情報コミュニケーション、エレクトロニクスについて、その起源や発展の過程、社会における役割を知ることを到達目標とする。

２．授業内容
第１回ａ：イントロダクション－科学技術史を学ぶ理由[対面授業]
　　ｂ：科学技術の特徴[対面授業]
第２回：数の発生と位取り記数法[対面授業]
第３回：古代ギリシアの論証的学問[対面授業]
第４回：アラビアの科学と中世ヨーロッパ[対面授業]
第５回：天文学と科学革命[対面授業]
第６回：地図と測量[対面授業]
第７回：機械を用いた計算[対面授業]
第８回：帝国主義と電信[対面授業]
第９回：電磁気学と無線通信[対面授業]
第10回：電力と原子力[対面授業]
第11回：コンピュータの誕生[対面授業]
第12回：数理科学と人工知能[対面授業]
第13回：半導体と集積回路[対面授業]
第14回：インターネット[対面授業]

３．履修上の注意
科学や技術に関する知識は前提としない。必要な基礎知識は講義で説明するので、未知の内容でもその場で考え、理解すること。
毎週の講義後に、Oh-o! Meijiシステムを通じて小テストを実施する。
学生からの連絡手段としては、Oh-o! Meijiのアンケート機能を利用します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
前の回の講義で配付するプリントを読み直しておくこと。分からない用語については、参考書や事典、インターネット等で調べること。

５．教科書
特に定めない。

６．参考書
第１回はなし。第２回から14回は次の本を参考にする。
第２回：『古代の精密科学』ノイゲバウアー著､矢野道雄･斎藤潔訳（恒星社厚生閣）
第３回：『ユークリッド原論』中村幸四郎・寺阪英孝・伊東俊太郎・池田美恵訳（共立出版）
第４回：『一六世紀文化革命1』山本義隆（みすず書房）
第５回：『コペルニクス革命』トーマス・クーン（講談社学術文庫）
第６回：『数量化革命』クロスビー著（紀伊國屋書店）
第７回：『科学の花嫁』ベンジャミン・ウリー著（法政大学出版局）
第８回：『ヴィクトリア朝時代のインターネット』トム・スタンデージ著（NTT出版）
第９回：『電子の巨人たち 上』ディーン・マツシゲ著（SOFTBANK）
第10回：『原子爆弾の誕生』上下、ローズ著（紀伊國屋書店）
第11回：『コンピューティング史』キャンベル・ケリー、アスプレイ著（共立出版）
第12回：『コンピュータ理論の起源 第1巻 チューリング』(近代科学社)
第13回：『モダン・コンピューティングの歴史』ポール・E. セルージ著（未来社）
第14回：『インターネットをつくる』J. アバテ著（北海道大学出版会）

７．課題に対するフィードバックの方法
小テストについては、次の回の講義の中で解説する。
レポートについては、最終回の講義の際に全体の講評を述べる。

８．成績評価の方法
講義内容の理解度を確認するため、小テストを実施する。
講義で紹介した事項の一つについて、より詳しく調べてレポートを作成することを課す。
小テストの合計を60%、レポートを40%で評価する。
※対面形式での試験は行わない。

９．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)BBI186J

環境生物学〔M〕

２単位	１年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
【本授業はメディア授業（オンデマンド配信）である】
(概要)
地球に生まれた生物や人間はどのような環境で進化してきたか。45億年の地球の歴史、38億年の生物の歴史を振り返り、人間と自然環境との相互作用を考えます。
また、人間と動物を比較し、人間性の根源にせまる考察を重ねます。人間の心理的行動の具体例をふまえて解説します。
(到達目標)
次のような事柄が身に付きます。
・環境に適応してきた生物のあり方
・人間や動物の環境論的な視点からの理解
・生態学的なシステム思考の技能
・生物多様性の保全に向き合う心構え
・人間が背負った数々の悩みの解決法

２．授業内容
「環境生物学」～環境によってつくられた生物としての人間～
○生物学の基本事項〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（１）人間はサルの仲間から進化した
（２）遺伝子情報処理１～進化の歴史をひもとく
（３）遺伝子情報処理２～タンパク質の機能発見
○進化とは環境への適応〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（４）生物進化は環境適応１～利己性が利他性を生む
（５）生物進化は環境適応２～過去の環境の反映
（６）有性生殖がつくる環境１～動物的な側面
（７）有性生殖がつくる環境２～人間的な側面
○社会環境が人間性の根源〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（８）協力がつくる環境１～動物的な側面
（９）協力がつくる環境２～人間的な側面
（10）文明環境のデザイン１～既存機能の活用
（11）文明環境のデザイン２～新規機能の模索
○生態系に生きる人間〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（12）生態系の持続可能性１～植物の役割
（13）生態系の持続可能性２～世代交代の役割
（14）まとめ：３つの心のバランスをとる
※すべての授業回を、メディア授業（オンデマンド型）により実施する。

３．履修上の注意
本授業はオンデマンド配信になります。
履修ペースを確保するために火曜日を履修の締切り目安として、その１週間前に授業内容をオーメイジにUPします。
つまり、前週の水曜日までにUPされる授業を、履修の締切り目安日までに毎週必ず受講すること。
期末試験を対面で火曜６限で実施します。単位取得には試験受験が必須です。
加えて、火曜６限に補習授業を対面で４回開催します。火曜６限に大学に来校できるようにしておいてください。
生物学といっても、むしろ人間の科学であり、文科系・理科系の共通の教養的内容です。理科系が苦手な方こそ歓迎です。
なお、本授業には生殖に関するセクシャルな表現が一部に含まれます。不快に感じるという方は十分注意のうえ履修申請してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オーメイジで指定する授業資料にもとづいて十分な予習・復習をしたうえで、オンデマンド授業を着実にこなしてください。
予習・復習で生じた疑問に関しては、オーメイジのディスカッション機能で質疑応答を行います。

５．教科書
オーメイジで指定された情報にもとづいてネット上の授業資料を閲覧します。
一部の授業資料はオンデマンドで追加配信します。

６．参考書
針山・津田『環境生物学』共立出版
石川『進歩した文明と進化しない心』カンゼン

７．課題に対するフィードバックの方法
オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。
小課題の選択問題については想定解答を掲示して解説する。

８．成績評価の方法
３回提出する小課題によって４割、期末試験（持込不可）によって６割の割合で評価する。
小課題や試験では、授業内容の本質的な理解の程度を評定する。

９．その他
オーメイジのディスカッション機能で学生どうしの議論を行います。
また、補習授業も４回、火曜６限に開催し、質問に回答します。
補習授業の開催案内を、オーメイジの授業お知らせにて通知します。

科目ナンバー：(IC)INF111J

情報科学

２単位	１年次	**山崎　浩二**

１．授業の概要・到達目標

コンピュータをより有効に活用するためには、情報とコンピュータに関する理解を深めることが重要である。本授業では、コンピュータで扱う情報とは何か、コンピュータとはどのような機械か、情報を処理する仕組みはどのようなものか、ということについて学習することを通して、情報の科学的な知識を獲得することを目的とする。

２．授業内容

第１回　情報とは何か
第２回　コンピュータの歴史
第３回　コンピュータの動作原理
第４回　コンピュータの設計
第５回　コンピュータの動作
第６回　情報と符号
第７回　ソフトウェアとは
第８回　OSとは
第９回　インターネットの仕組み
第10回　インターネット上の危険
第11回　機械学習とは（１）
第12回　機械学習とは（２）
第13回　クラウド
第14回　まとめ

３．履修上の注意

特になし

４．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

５．教科書

使用なし。

６．参考書

使用なし。

７．課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答と解説をOh-o!Meijiで公開する。

８．成績評価の方法

平常点 40%、小テスト 60% （定期試験は行わない）
基礎的知識、理解力

９．その他

質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF141J

情報検索論

２単位	１年次	**橋本　　渉**

１．授業の概要・到達目標

本講義では、情報検索について、情報工学的な理解のみならず、社会情報学や図書館情報学、さらにはより原理的な情報への理解をふまえて、多角的な視座から講義を行う。

情報環境が高度化した現代社会において、多くの生活領域において情報検索という活動が欠かせないものとなった。しかし、たとえばGoogleなどのサーチエンジンで何気なく情報検索活動を行いつつも、その背後にある原理にまで意識が及ぶことは少ないであろう。一言に情報検索と言っても、そこには様々な理論と実践が関わっている。情報検索を可能にしている仕組みとは何か。そして、情報検索のシステムは、今日の情報社会をどのように支えているのか。実践的な検索のスキルを高めるとともに、以上のような考察を通じて、「情報検索を支える」仕組みと「情報検索が支える」仕組みという複合的な視点から情報検索への理解を深めることで、情報検索をめぐる技術と社会の在り方を展望することとする。

到達目標として、サーチエンジンやデータベースをめぐる最新の応用事例を違和感なく理解できるだけの基本的理解を深めていく。また、情報検索論への理解を深めることで検索技術の背後にある思想的背景にまで接近することを目標とする。

２．授業内容

第１回：イントロダクション
第２回：サーチエンジン（1）基礎概念
第３回：サーチエンジン（2）応用技術
第４回：サーチエンジン（3）社会的含意
第５回：サーチエンジン（4）まとめ（小テスト）
第６回：データベース（1）基礎
第７回：データベース（2）論理設計
第８回：データベース（3）概念設計
第９回：データベース（4）まとめ（小テスト）
第10回：情報検索の理論（1）検索の基礎理論
第11回：情報検索の理論（2）検索の社会的制度
第12回：情報検索の理論（3）AIと情報検索
第13回：情報検索の理論（4）まとめ（小テスト）
第14回：a：最終試験　b：まとめ

３．履修上の注意

講義科目であるから、私語を謹んで授業参加すること。ただし、講義でのディスカッションでは積極的に参加してもらいたい。また、授業内での課題提出（リアクションペーパー）が毎回あるため、出席が強く求められる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

復習としては、講義･演習の内容をよく確認しておくことが望ましい。

５．教科書

特に定めない。

６．参考書

河島茂生編『図書館情報技術論』（ミネルヴァ書房，2013）
市古みどり、上岡真紀子、保坂睦著『資料検索入門　レポート・論文を書くために』（慶応義塾大学出版会、2014）

７．課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクションペーパーについて、次回の冒頭において全体講評を行う。

８．成績評価の方法

授業内課題75%（毎回の演習が45%、小テストが30%）、最終テスト25%。

９．その他

連絡手段は、Oh-o!Meiji!のアンケート機能を活用するものとする。

科目ナンバー：(IC)ANT111J

人類学Ａ

２単位	１年次	蛭川　　立

１．授業の概要・到達目標

人間は、解剖学的構造や生理学的機能において他の動物と変わるところはない。しかし人間は、文化を持つ動物である。

人間は、群れを作り生殖を行うという動物的な行為を、親族や婚姻といった象徴的な観念によって改めて意味づけする。そして、ときにその観念のほうに束縛される。とりわけ、芸術や宗教などの精神文化は他の動物にはみられない、特異なものである。人間だけが歌い、踊り、描き、そして祈る。それは動物的生活からの解放であると同時に、動物的生存を否定する力にもなりうる。

四十億年におよぶ生命史の中で、なぜ人間だけが他の動物とは異なる存在になったのか。その違いはどこから始まったのか。人類学の授業では、人類の進化的な起源をたどる一方で（これは、どちらかというと、人類学Bで扱う）、人間の行動や社会を、脳の構造や機能という観点からも考察する（これは、どちらかというと、人類学Aで扱う）。

人類学Aでは、他の動物と比べて特異に進化した人間の脳の構造と機能を概観しつつ、古今東西の芸術や宗教などの精神文化を比較していく。また、呪術やシャーマニズム、その中で使われてきた精神展開薬（サイケデリックス）や大麻といった薬草・薬物の文化的伝統を論じると同時に、そうした伝統文化が社会の近代化にともない、処罰されるべき犯罪、治療されるべき病気として周縁化されてきたプロセスについても考察する。

人類学は「人間」を研究する学問であるが、対象としている「人間」の範囲が他分野より広い。世界各地の少数民族や、遺跡や化石にしか痕跡をとどめていない過去の人々、あるいは近縁の霊長類までも視野に入れる。人類学は自然科学に属する自然人類学と、人文科学・社会科学に属する文化人類学・社会人類学に分けられる。情報コミュニケーション学部は学際的な学部であるが、この授業では、自然人類学に基礎を置きながら、文化人類学・社会人類学の視点も取り入れ、総合的に人間とその文化について議論する。

なお、現代のグローバル化する社会では、開発と貧困、民族問題と宗教紛争などを扱う応用人類学の重要性が増しつつあるが、それらは、より社会科学的な内容を扱う、別の講義で併せて学ぶことをお薦めする。

対象としている人間集団の範囲が広いため、あまり馴染みのない地域や時代も取り上げるが、おもに蛭川が実際に訪れたことがある社会や遺跡で、自ら撮影した写真や動画も併せ、視覚的、聴覚的イメージも交えながら講義を進めていく。

到達目標

1．人間やその社会を、自然科学と、人文・社会科学の両面から総合的に理解できるようになる。
2．他の動物にはない人間の特徴である精神文化を、脳の働きから理解できるようになる。

２．授業内容

第１回：人類学とは何か（全体の展望）
第２回：神経系の個体発生と系統発生
第３回：脳の構造と機能
第４回：原始美術から現代美術へ（1）（化石人類、オーストラリア先住民）
第５回：原始美術から現代美術へ（2）（縄文文化）
第６回：聖なる狂気の社会史（1）（古代日本、琉球・沖縄）
第７回：聖なる狂気の社会史（2）（モンゴル）
第８回：精神活性物質の文化（南米先住民）
第９回：シャーマニズムの神経生理学（中米先住民）
第10回：呪術からシンクレティズムへ（ブラジル）
第11回：瞑想の文化と脳神経科学（1）（インド）
第12回：瞑想の文化と脳神経科学（2）（タイ、日本）
第13回：死生観と他界観（チベット、雲南）
第14回：情報化社会における未開の思考（全体のまとめ）

３．履修上の注意

高校理科ていどの生物学を知っておくと自然人類学の理解は容易になるが、それ以上に特別な予備知識は必要ない。
文化人類学・社会人類学を学ぶためには、むしろ、身近な社会常識をいったん保留して相対化し、客観的な視点を持つことのほうが重要である。
春学期の人類学Aと秋学期の人類学Bは、内容に重複もあるが、独立の科目である。人類学Aと人類学Bは単独でも受講できる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

実際の授業内容は、このシラバスに書かれた計画とは多少変更になるかもしれないが、最新の進行状況はリアルタイムで「蛭川研究室」のサイトにアップし、更新していくので、随時チェックすることをお勧めする。
授業サイト上の講義予定表からは授業内容と資料にリンクが張ってあるので、随時、予習・復習をすることができる。それぞれのページには質問やコメントを書き込むこともできる。資料のURLについては、授業の中でも指示するが、「蛭川」「人類学」「2026」などと入力して検索すれば容易に見つかる。

５．教科書

特に定めない。

６．参考書

『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』蛭川立（春秋社）2002年（新装版は2009年）

７．課題に対するフィードバックの方法

講義に関連する画像などの資料は、授業に連動したWEBサイトにアップする。授業に対する質問やコメントにおうじて、サイトの内容を随時、加筆修正していく。

８．成績評価の方法

期末試験または期末レポート（100％）

９．その他

科目ナンバー：(IC)ANT111J

人類学Ｂ

２単位	１年次	蛭川　　立

１．授業の概要・到達目標

人間は、解剖学的構造や生理学的機能において他の動物と変わるところはない。しかし人間は、文化を持つ動物である。

群れを作り生殖を行うという動物的な行為を、親族や婚姻といった象徴的な観念によって改めて意味づけし、そして、ときにその観念のほうに束縛される。とりわけ、芸術や宗教などの精神文化は人間に特異なものである。人間だけが歌い、踊り、描き、そして祈る。それは動物的本能からの解放であると同時に、生物としての生存を否定する力にもなりうる。

40億年におよぶ生命史の中で、なぜ人間だけが他の動物とは異なる存在になったのか。その違いはどこから始まったのか。人類学の授業では、人類の進化的な起源をたどる一方で（おもに人類学Bで扱う）、人類の文化を脳の構造や機能という観点からも考察する（おもに人類学Aで扱う）。

人類学Bでは、まず生物と人類の進化史を振り返る。遺伝子の進化、有性生殖の仕組みから、現代の遺伝子解析や生殖技術についても議論する。

また、人間が文化を持つようになり、象徴的コスモロジーによって社会をいかに秩序づけようとしてきたのか、親族と婚姻、儀礼と神話、政治と経済の起源と発展の歴史も考察する。

人類学は「人間」を研究する学問であるが、対象としている「人間」の範囲が他分野より広い。世界各地の少数民族や、遺跡や化石にしか痕跡をとどめていない過去の人々、あるいは近縁の霊長類までも視野に入れる。人類学は自然科学に属する自然人類学と、人文科学・社会科学に属する文化人類学・社会人類学に分けられるが、この授業は、学際的な学部の講義である。自然人類学を基盤にしつつ、文化人類学・社会人類学の視点も取り入れながら、「人間」総合的にとらえていきたい。

なお、現代のグローバル化する社会では、開発と貧困、民族問題と宗教紛争などを扱う応用人類学の重要性が増しつつあるが、それらは、より社会科学的な内容を扱う、別の講義で併せて学ぶことをお薦めする。

対象としている人間集団の範囲が広いため、あまり馴染みのない地域や時代も取り上げるが、講義で扱うのは、おもに蛭川が実際に訪れたことがある社会や遺跡である。自ら撮影した写真や動画も使い、視覚的、聴覚的イメージも交えながら講義を進めていく。

到達目標

1．人間やその社会を、自然科学と、人文・社会科学の両面から総合的に理解できるようになる。
2．人間やその社会を、他の動物とも比較しながら、進化論的に理解できるようになる。

２．授業内容

第１回：人類学とは何か？（全体の展望）
第２回：宇宙の進化と生物の進化
第３回：有性生殖と動物の配偶システム
第４回：人類の起源と社会構造の進化
第５回：現生人類の拡散と日本列島人の起源
第６回：親族と婚姻（チベット系社会、古代日本）
第７回：交換の経済人類学（ミクロネシア）
第８回：遺伝子解析と生殖技術
第９回：遺伝子と文化の共進化
第10回：養生と統治の象徴論（古代漢民族）
第11回：儀礼とコスモロジー（1）（インドネシア・バリ島）
第12回：儀礼とコスモロジー（2）（インドネシア・バリ島）
第13回：神話と科学（古代ギリシア、西欧近代）
第14回：人間社会の未来（全体のまとめ）

３．履修上の注意

高校理科ていどの生物学を知っておくと自然人類学の理解は容易になるが、それ以上に特別な予備知識は必要ない。

逆に、文化人類学・社会人類学を学ぶためには、身近な社会常識を離れて相対化し、客観的な視点を持つことのほうが重要である。

春学期の人類学Aと秋学期の人類学Bは、内容に重複もあるが、独立の科目である。人類学Aと人類学Bは単独でも受講できる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

実際の授業内容は、このシラバスに書かれた計画とは多少変更になるかもしれないが、最新の進行状況は別途「蛭川研究室」のブログにアップし、更新していくので、随時チェックすることをお勧めする。

講義の予定表からは授業内容の概要にリンクが張ってあるので、大まかな予習・復習をすることができる。それぞれのページには質問やコメントを書き込むこともできる。ページのURLは科目ごとに異なるが「蛭川」「人類学」「2026」などと入力して検索すれば容易に見つかる。

５．教科書

特に定めない。

６．参考書

『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』蛭川立（春秋社）2002年（新装版は2009年）

７．課題に対するフィードバックの方法

講義に関連する画像などの資料は、授業に連動したWEBサイトにアップする。授業に対する質問やコメントにおうじて、サイトの内容を随時、加筆修正していく。

８．成績評価の方法

期末試験（100％）

９．その他

科目ナンバー：(IC)EPS111J

地球環境科学

２単位	１年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
(概要)
地球に生まれた人間はどのような環境で進化してきたか。45億年の地球の歴史、38億年の生物の歴史を振り返り、人間と地球環境との相互作用を科学的に考えます。
とくに、地球の構造と地表での生物圏の成立とに重きを置いて学びます。具体的な物理現象を、物理や化学の実験にもとづき、平易に解説します。
(到達目標)
次のような事柄が身に付きます。
・地球環境と、その環境に適応してきた生物のあり方
・人類の歴史と将来について見通す視点
・地球規模のリスクに向き合う心構え
・ＳＤＧｓなどの全地球的取り組みの現状と課題
・環境問題の背景を理解するのに必要な科学的知識
なお、気象予報士の試験に挑戦する場合、勉強のヒントにもなります。

２．授業内容
「地球環境科学」～人間が生きる地球環境の変化を知る～
○地震や噴火などの災害研究の進展に注目
（１）地球の誕生と生物種の盛衰
（２）地球の大きさと内部構造を知る
（３）プレートテクトニクスの発見
（４）日本列島の特徴
（５）水や風による地形変化
○台風や竜巻などの災害への対処法に注目
（６）気候変動による地形変化
（７）地球の電磁気現象
（８）大気～光と熱の作用
（９）気象現象１～熱の循環
（10）気象現象２～圧力と風
○人間の活動と地球環境との相関に注目
（11）資源とエネルギー
（12）環境問題と国際協調
（13）環境問題と科学の関わり～環境科学
（14）地球科学と人間科学の比較

３．履修上の注意
講義テーマは「地球」であって自然科学に位置付けられるが、人間や社会の科学との関連や比較についても講じる。
したがって、高校の理科の延長ではないので、学際的な学問の履修と考えてほしい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オーメイジで指定する授業資料にもとづいて十分な予習・復習をしたうえで、授業を着実にこなしてください。
予習・復習で生じた疑問に関しては、オーメイジのディスカッション機能で質疑応答を行います。

５．教科書
オーメイジに指定された情報にもとづいてネット上の授業資料を閲覧します。
一部の授業資料はオンデマンド配信します。

６．参考書
二宮『気象と地球の環境科学［改訂版］』オーム社
谷合『地球・生命～138億年の進化』サイエンス・アイ新書

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業に加え、オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法
３回提出する小課題によって４割、期末試験（持込不可）によって６割の割合で評価する。
小課題や試験では、授業内容の本質的な理解の程度を評定する。
授業中に提出されたコメントシートの内容によって、＋αの加点をすることがある。

９．その他
オーメイジのディスカッション機能で学生どうしの議論をおこなう場を設ける。

科目ナンバー：(IC)CBI126J

脳科学〔M〕

２単位	１年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
【本授業はメディア授業（オンデマンド配信）である】
(概要)
脳科学は、あなた自身の人間としての本質に迫ります。生物学や神経生理学の知見をもとに人間心理の探究を進めながらも、脳をめぐる科学世界観によって、人間らしさや自由意志、自覚的な意識などがないがしろにされていないかを省察します。人間の社会的行動の具体例をふまえて解説します。
(到達目標)
次のような事柄が身に付きます。
・自然環境や社会環境に適応してきた心の構造のあり方
・脳の機能と、脳研究の現状と限界
・人間の心理過程の情報論的な理解
・人間社会を形成するうえでの意識の役割
将来、人間の研究を目指す方には必須の授業です。

２．授業内容
「脳科学」～意識や心の座としての器官の解明～
○脳の構造と心の由来〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（１）脳科学の２つの前提
（２）脳の神経細胞（ニューロン）
（３）脳科学の研究方法～部位研究
○脳で心が説明できるか〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（４）脳内の分業～私の中の他者？
（５）視覚優位の脳
（６）諸感覚と複合作用
○個性も脳で決まるのか〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（７）脳による身体調節
（８）感情の機能と由来
（９）知能の由来
○社会を作る人間～社会脳〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（10）二重過程理論
（11）意識を支える脳機能
（12）社会性を支える脳機能
○まとめ〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（13）睡眠と脳～意識の自覚をめぐって
（14）脳科学からみた情報コミュニケーション
※すべての授業回を、メディア授業（オンデマンド型）により実施する。

３．履修上の注意
本授業はオンデマンド配信になります。
履修ペースを確保するために火曜日を履修の締切り目安として、その１週間前に授業内容をオーメイジにUPします。
つまり、前週の水曜日までにUPされる授業を、履修の締切り目安日までに毎週必ず受講すること。
期末試験を対面で火曜６限で実施します。単位取得には試験受験が必須です。
加えて、火曜６限に補習授業を４回開催します。火曜６限に大学に来校できるようにしておいてください。
脳科学といっても理科や数学の知識は必要ありません。文科系・理科系の共通の教養的内容です。理科系が苦手な方こそ歓迎です。
なお、本授業には生殖に関するセクシャルな表現が一部に含まれます。不快に感じるという方は十分注意のうえ履修申請してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オーメイジで指定する授業資料にもとづいて十分な予習・復習をしたうえで、オンデマンド授業を着実にこなしてください。
予習・復習で生じた疑問に関しては、オーメイジのディスカッション機能で質疑応答を行います。

５．教科書
オーメイジで指定された情報にもとづいてネット上の授業資料を閲覧します。
一部の授業資料はオンデマンドで追加配信します。

６．参考書
ガザニガ、『<わたし>はどこにあるのか～ガザニガ脳科学講義』、紀伊国屋書店

７．課題に対するフィードバックの方法
オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。
小課題の選択問題については想定解答を掲示して解説する。

８．成績評価の方法
３回提出する小課題によって４割、期末試験（持込不可）によって６割の割合で評価する。
小課題や試験では、授業内容の本質的な理解の程度を評定する。

９．その他
オーメイジのディスカッション機能で学生どうしの議論を行います。
また、補習授業も４回、火曜６限に開催し、質問に回答します。
補習授業の開催案内を、オーメイジの授業お知らせにて通知します。

社会システム

科目ナンバー：(IC)ECN341J

イノベーションの経済学（法と社会科学Ⅰ）

２単位	３年次	**山内　　勇**

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
イノベーションとは、新たな知識を創出し普及させることで社会的な価値を生み出すことである。イノベーションのプロセスやそのマネジメントは、個別の具体的な事例（ケーススタディ）に基づいて分析されることが多いが、この講義では「経済学」的な観点からイノベーションの性質について学習する。かなり抽象的な話が多くなるが、その分、より一般的な形でイノベーションのパターンやメカニズムについて理解を深めることができる。
【到達目標】
基本的な経済学的な考え方を習得したうえで、それを応用する形で、イノベーションの性質を直観的に理解することを目標とする。特に、イノベーションのメカニズムに関する抽象的な分析の本質を、自分の言葉で説明できるようになることが本講義の到達目標である。

２．授業内容
第１回　イントロダクション：イノベーションとは何か
第２回　イノベーションの形態
第３回　インセンティブ
第４回　イノベーションと競争戦略
第５回　知的財産制度
第６回　生産性
第７回　ナショナル・イノベーション・システム
第８回　オープン・イノベーション
第９回　製品戦略（１）
第10回　製品戦略（２）
第11回　イノベーションの実証分析（１）
第12回　イノベーションの実証分析（２）
第13回　サイエンスとイノベーション
第14回　イノベーション政策

３．履修上の注意
履修者の理解度や希望等に応じて内容を変更する可能性がある（その場合、授業内及びクラスウェブで通知する）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：授業で扱う内容について、参考書等から予備知識を得ておくこと。
復習：授業中に解説した内容を自分の言葉で説明できるようになるまで理解しておくこと。

５．教科書
特に指定しない。
毎回資料をクラスウェブにアップする。

６．参考書
清水洋「イノベーション」有斐閣、2022年
牧兼充「イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学」東洋経済新報社、2022年
西村淳一・山内勇『産業組織論への招待:』新生社、2025年
加藤雅俊「スタートアップの経済学」有斐閣、2022年
金間大介・山内勇・吉岡（小林）徹「イノベーション&マーケティングの経済学」中央経済社、2019年

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中に解説を行う。
授業後やメールでの質問も受け付ける。

８．成績評価の方法
定期試験（70%）、授業中の課題（30%）
※その他、授業への貢献に対して加点することがある。また、授業の進捗や問題の難易度等により、配分を変更することがある。履修者数によってはグループワークを行うこともある。

９．その他

科目ナンバー：(IC)SOC341J

ＮＰＯ論

２単位	３年次	**塚本　一郎**

１．授業の概要・到達目標
授業の目的は、公益活動の民間の担い手としての非営利組織（nonprofit organizations: NPO）の組織的特徴や役割について理解を深めることにある。特定の学問分野のみに依拠するのではなく、経済学や社会学、政治学など、学際的アプローチから、NPOが世界的に台頭してきた背景、営利企業や政府とは区別される組織的特徴、その期待される役割や社会的インパクトについて考えたい。NPOの特徴を活かして、具体的にどのような社会課題に取り組むことができ、また、どのような政府や企業等の連携が必要かについて議論が可能なほどの知識を習得することが到達目標である。

２．授業内容
1.　NPO概説：キーワードを中心に
2.　NPO（民間非営利組織）とは何か
3.NPOの台頭の理論的説明：経済理論
4.　NPOの台頭の理論的説明：政治理論
5.　NPOと政府との協働
6.　NPOと政府との協働の課題
7.　企業の社会的責任（CSR）
8.　企業の社会的責任とCSV（Creating Shared Value)
9.　NPOと企業との協働の意義と課題
10.　NPOとソーシャル・エンタープライズ
11.　社会的インパクト投資―ESG投資など
12.　ソーシャル・インパクト・ボンドの意義と課題
13.　サステナビリティ情報開示とインパクト評価
14.　インパクト評価と価値創造経営（7/17)

３．履修上の注意
履修学生には、課題レポートの提出（1回)、グループディスカッション（４回）を課す。加えて、不定期にリアクションペーパー（４回）を授業中に配布し（授業終了時回収)、加点要素にする。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
シラバスをよく確認し、次回授業で扱う内容について事前に知識を獲得しておく。初回授業でNPO関連の鍵概念あるいはキーワードを紹介するが、それらのキーワードについて、資料やインターネットを通じて検索し調べておく。AIを活用しても構わないが、AIはあくまでも道具としての位置づけであり、それが事実であるか、正確であるかは精査することが必要である。

５．教科書
事前にクラスウェッブに講義資料を掲示

６．参考書
雨森孝悦（2020)『テキストブックNPO（第三版)』東洋経済新報社
稲葉陽二（2011)『ソーシャル・キャピタル入門』中公新書
塚本一郎･関正雄･馬場英朗（2023)『インパクト評価と価値創造経営』第一法規（課題レポートの対象文献）

７．課題に対するフィードバックの方法
Oh-o! Meijiシステムを利用してフィードバック

８．成績評価の方法
レポート（20%)、グループ・ディスカッション（60%)、リアクションペーパー（20点）合計で成績評価。定期試験は実施しない。
正当な理由でグループ・ディスカッションに出席できない学生については、理由が認められた場合に限り、代替レポートの提出により、成績を評価する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW361J

家族と法Ⅰ

2単位	3年次	**大杉　麻美**

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

近年、家族法の多様化にともない、多くの家族法条文が改正されています。わたくしたちの最も身近な家族について、法的視点からさまざまな課題について考えます。家族に関す法律のルールを知り、それが社会でどのように用いられているのか、講義を通して考えます。もっとも最近の改正である、養育費の支払いや、親子交流、親権のあり方についても考えます。

【到達目標】

家族に関する法律を知り、その内容を学ぶことにより、社会において存在する家族の課題について、理解を深め、その解決策を模索し、それ対する私見を述べることができる。

2．授業内容

第１回　家族に関する法のしくみ
第２回　婚姻の法律・婚姻届けの意味
第３回　夫婦の役割分担・財産関係
第４回　離婚届と離婚の法律
第５回　離婚の効果(財産分与・親子交流）
第６回　婚約・内縁・事実婚
第７回　子どもの出生と親子関係
第８回　実親子関係と認知
第９回　実親子と養親子関係
第10回　親子の権利義務
第11回　親権の内容
第12回　扶養と後見・老親扶養
第13回　家族法の最新トピック
第14回　全体振り返り

3．履修上の注意

家族の法律を知って、社会問題に関心を持ち、みずから主体的に学び、考え、意見を述べることができることができるようになることが必要である。日頃より関心をもって世の中の動きを知るように努めることが要求される。法律制度や法律用語の理解は難しいところもあるが、分かりやすく日常生活に身近な法律の解説をおこなう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習は各回の講義内容を事前に調べ、講義内容に関する知見を深めておくことが望ましい。復習は講義中のノートを読み返して、理解を確実なものにしておくことである。

5．教科書

本澤巳代子・大杉麻美編『みんなの家族法入門』(信山社、2024年)
大杉麻美『基本講義　家族法』(成文堂、2025年)

6．参考書

使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法

本講義は、定期試験期間中に試験を実施するため、課題のフードバックはオンライン上にて実施する。なお個別に質問がある場合には、メールにて受け付ける。メールアドレスは、初回時に配信する講義資料にて公開する。

8．成績評価の方法

小論文形式の定期試験によって評価する(比率100％)

9．その他

法律をはじめて勉強する場合であっても興味をもって取り組むことができるよう、なるべく身近な例をもとに講義を致します。法律用語についても分かりやすく解説致します。

科目ナンバー：(IC)LAW361J

家族と法Ⅱ

2単位	3年次	**大杉　麻美**

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

近年、家族の多様化にともない、多くの家族法条文が改正されています。わたくしたちの最も身近な家族について、法的視点からさまざまな課題について考えます。家族に関す法律のルールを知り、それが社会でどのように用いられているのか講義を通して考えます。

【到達目標】

家族に関する法律を知り、その内容を学ぶことにより、社会において存在する家族の課題について、理解を深め、その解決策を模索し、それ対する私見を述べることができる。

2．授業内容

第１回　家族と法Ⅰ講義　振り返り
第２回　相続の歴史・根拠
第３回　相続人はだれか
第４回　相続欠格と相続人の廃除
第５回　相続財産の種類と内容
第６回　相続財産の共有
第７回　特別受益・寄与分(特別の寄与)
第８回　相続の承認と放棄
第９回　中間振り返り・まとめ
第10回　相続人の不存在
第11回　遺産分割の種類・方法
第12回　遺言制度の概要・遺言の方式
第13回　遺贈・遺言の執行
第14回　遺留分

3．履修上の注意

家族の法律を知って、社会問題に関心を持ち、みずから主体的に学び、考え、意見を述べることができることができるようになることが必要である。日頃より関心をもって世の中の動きを知るように努めることが要求される。法律制度や法律用語には難しいところもあるが、分かりやすく日常生活に身近な法律の解説をおこなう。なお本講義を履修する場合には、家族と法Ⅰを習得済みであることが必要である。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習は各回の講義内容を事前に調べ、講義内容に関する知見を深めておくことが望ましい。復習は講義中のノートを読み返して、理解を確実なものにしておくことである。

5．教科書

本澤巳代子・大杉麻美『みんなの家族法入門』(信山社、2024年)
大杉麻美『基本講義　家族法』(成文堂、2025年)

6．参考書

使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法

本講義は、定期試験期間中に試験を実施するため、課題のフードバックはオンライン上にて実施する。なお個別に質問がある場合には、メールにて受け付ける。メールアドレスは、初回時に配信する講義資料にて公開する。

8．成績評価の方法

小論文形式の定期試験によって評価する(比率100％)

9．その他

法律をはじめて勉強する場合であっても興味をもって取り組むことができるよう、なるべく身近な例をもとに講義を致します。法律用語についても分かりやすく解説致します。

科目ナンバー：(IC)ECN321J

経済思想史

２単位	３年次	髙橋　信勝

１．授業の概要・到達目標

この授業は、経済学あるいは経済学的思考に慣れ親しんでいない受講者を対象とする。経済活動は私たちの生活の一部である。私たちが同一の経済活動を議論する場合でも､視点が異なれば､その光（プラス）と影（マイナス）についての判断は異なる。この授業では、経済思想の歴史を概観することにより、経済活動についての多様な見方に触れるとともに、今日の市場経済社会の特徴を理解することを到達目標とする。

２．授業内容

第１回：　授業の進め方と成績評価の仕方（aのみ）
第２回：　経済思想史研究の意義と課題
第３回：　重商主義―貿易差額論、介入主義、ポピュレーショニズム
第４回：　重農学派―純生産物、農業本源論、経済表
第５回：　スミス―分業論、生産的労働論、安価な政府
第６回：　マルサス―人口論、道徳的抑制
第７回：　リカードウ―利潤率低下論、穀物法論争、比較優位論
第８回：　中間試験
第９回：　ミル―生産と分配の峻別論、停止状態論
第10回：　リスト―生産力の理論、通商政策
第11回：　限界革命―限界効用逓減の法則、限界効用均等の法則
第12回：　マーシャル―余剰分析、価格論
第13回：　ケインズ―古典派雇用理論批判、有効需要の原理
第14回：　総括

３．履修上の注意

数学はいっさい使用しない。関連科目として社会史、思想史などの歴史科目を履修することが望ましい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の指定した部分を授業前に読んでおくこと。授業では、キーワードを板書し、教科書を参照しながら説明をすすめる。詳細な授業内容の板書は行わないので、授業終了後、授業の本筋についてノートを整理し直すこと。

５．教科書

高橋信勝『経済学原論I』八千代出版

６．参考書

猪木武徳『経済思想』（岩波書店）1987年
竹内靖雄『市場の経済思想』（創文社）1991年
間宮陽介『市場社会の思想史―「自由」をどう解釈するか』（中央公論新社）1993年

７．課題に対するフィードバックの方法

配布プリントの確認問題の解説は、当該の授業日の後半あるいは次回の授業日の前半に行う。

８．成績評価の方法

成績評価は中間試験（50％）と期末試験（80％）にもとづいて行う予定である。詳細は第1回授業時に説明する。

９．その他

なし。

科目ナンバー：(IC)POL316J

現代アメリカ政治論〔M〕(政策過程論)

２単位	３年次	清原　聖子

１．授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕
2026年はアメリカ合衆国の建国250周年にあたる。本授業は、アメリカの建国の歴史を紐解き、現代アメリカ政治の特徴までを俯瞰することを目的とする。具体的には、日本政治との比較論的な視座からアメリカの政治制度の概説やアメリカ政治におけるメディアの役割について解説し、現代アメリカ政治の抱える諸課題について、内政外交両面について、検討していきたい。初めに大統領選挙の仕組みや大統領と議会・裁判所との関係、連邦と州の関係といった政治制度について基本的な知識を学ぶ。その上でホットな争点であるBLMをはじめとする人種問題、同性婚、銃規制、宗教、経済、移民などの問題を説明する。授業の後半では､超大国アメリカと国際社会との関わりについても理解を深められるよう、アメリカ外交の歴史的な流れから日米関係についても扱う予定でいる。
〔到達目標〕
この授業を通じて、社会人となっても役立つように、現代アメリカ政治を見るための自分なりの尺度を身につけることが目標である。

２．授業内容

第１回　イントロダクション　（メディア授業【オンデマンド型】）
第２回　アメリカ合衆国の成立、大統領制と議院内閣制の違い　（メディア授業【オンデマンド型】）
第３回　選挙制度と大統領選挙　（メディア授業【オンデマンド型】）
第４回　大統領と連邦議会の関係　（メディア授業【オンデマンド型】）
第５回　アメリカ政治におけるメディアの役割　（メディア授業【オンデマンド型】）
第６回　政策形成過程における利益集団の役割　（メディア授業【オンデマンド型】）
第７回　シンクタンクの役割／中間まとめ　（メディア授業【オンデマンド型】）
第８回　司法（最高裁判所）の政治的役割　（メディア授業【オンデマンド型】）
第９回　政治文化・宗教・イデオロギー　（メディア授業【オンデマンド型】）
第10回　人種問題の過去と現在　（メディア授業【オンデマンド型】）
第11回　地方自治と連邦制　（メディア授業【オンデマンド型】）
第12回　パブリック・ディプロマシー　（メディア授業【オンデマンド型】）
第13回　日米関係　（メディア授業【オンデマンド型】）
第14回　最終まとめ　（メディア授業【オンデマンド型】）
＊授業内容や順番には変更の可能性があります。

３．履修上の注意

この授業はすべてオンデマンド型のメディア授業である。毎週土曜日10:00にオンデマンド形式でクラスウェブの「授業内容・資料」より、講義の動画を配信する。各回の講義の動画を閲覧した後に、授業の理解度を測るための課題（小テスト）に取り組むこと。成績評価は期末レポートのみで行うが、期末レポートの採点対象は第2回～第13回までの講義で課された小テストのうち、計9回以上合格点（7点以上）を取った者に限る。小テストを受験し合格点を取った回数が9回に満たない場合は原則として、期末レポートの採点対象とならないため単位は付与されない。第14回の講義は最終まとめの回であり、その内容を踏まえて第14回講義の動画配信日から2週間以内に期末レポートを提出することになる。正当の理由と学部事務室で認められた欠席でない場合は、小テストを受けなかった理由として認めない。各回の講義動画配信日から翌週の金曜日23:59までに動画を閲覧した上で、小テスト機能から解答すること。公平性を期すため、締め切り後に小テストを受験することはできない。期末レポートはアンケート機能を使って提出する。なお、期末レポート作成の際は剽窃にならないように注意すること。
本授業担当教員に連絡を取りたい場合には、クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を用いて問い合わせをすること。ただし、欠席届や単位の嘆願といった問い合わせには返答しない。講義の内容に関する質問をした場合には、内容によっては後日他の履修生にも共有できるように、授業内でフィードバックをすることで回答とする場合もある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

本授業では、2冊の教科書を毎回の授業で参照しながら進めるため、教科書を読んで予習・復習をすることが求められる。小テストの解答時間（20分程度）を含んで100分授業となるように、講義動画時間を予定している。また、講義の動画の閲覧期間は2週間あるので、復習として動画を活用できるほか、各回に参考資料を紹介するので、復習用にそちらも読むことをお勧めする。講義内容によって履修者の反応を反映させる目的から、事前・事後アンケートを行うことがある。

５．教科書

久保文明・砂田一郎・松岡泰・森脇俊雅（編著）『アメリカ政治第３版』（有斐閣アルマ、2017年）
久保文明、中山俊宏、山岸敬和、梅川健（編著）『アメリカ政治の地殻変動―分極化の行方』（東京大学出版会、2021年）

６．参考書

西山隆行、前嶋和弘、渡辺将人『混迷のアメリカを読みとく１０の論点』（慶応義塾大学出版会、2024年）
岡山裕、前嶋和弘『アメリカ政治』（有斐閣、2023年）
久保文明、21世紀政策研究所（編著）『50州が動かすアメリカ政治』（勁草書房、2021年）
清原聖子（編著）『教養としてのアメリカ研究』（大学教育出版、2021年）
岡山裕『アメリカの政党政治―建国から250年の軌跡』（中公新書、2020年）
久保文明『アメリカ政治史』（有斐閣、2019年）
岡山裕、西山隆行（編著）『アメリカの政治』（弘文堂、2019年）
前嶋和弘、山脇岳志、津山恵子（編著）『現代アメリカ政治とメディア』（東洋経済新報社、2019年）
佐々木卓也（編著）『戦後アメリカ外交史第３版』（有斐閣アルマ、2017年）
公益財団法人日本国際問題研究所（監修）、久保文明（編著）『アメリカにとって同盟とはなにか』（中央公論新社、2013年）
久保文明、東京財団「現代アメリカ」プロジェクト（編著）『ティーパーティ運動の研究ーアメリカ保守主義の変容』（NTT出版、2012年）
その他、授業中に紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

適宜講義の動画の中で全体講評を行う。

８．成績評価の方法

期末レポート（100％）、ただし、期末レポートの採点対象は第2回～第13回までの小テストで計9回以上合格点を取ることが条件 。対面式の定期試験は実施しない。

９．その他

先取り履修科目として２年生が履修することも歓迎する。

科目ナンバー：(IC)LAW321J

現代行政と法Ａ（行政法と行政過程Ⅰ）

２単位	３年次	**清水　晶紀**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
税金の徴収から自然公園の管理に至るまで、現代社会において行政は、色々なレベルで我々の市民生活、社会活動に密接に関連しています。その結果、行政を統制する法である行政法も、「犬も歩けば行政法にあたる」と言われるほど、我々の身の回りにあふれています。
この科目では、行政法のうち、行政組織、行政作用のあり方を規定する法令を検討しますが、憲法、民法、刑法などとは異なり、「行政法」という法律が存在するわけではないので、個別法令に共通する法原則を、行政活動の実施過程に着目しつつ学ぶことになります。
【到達目標】
行政が従わなくてはならない約束事は何なのかを理解し、日常の新聞報道等を「行政法的視点」で説明できるようになること。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
１．イントロダクション/行政法とは何か（対面授業１）
２．行政作用の担い手①－行政組織をめぐる基礎概念・国家行政組織と地方行政組織（メディア授業〔オンデマンド型〕１）
３．行政作用の担い手②－主要論点の解説（対面授業２）
４．行政法の基本原則①－法律による行政の原理・行政裁量（メディア授業〔オンデマンド型〕２）
５．行政法の基本原則②－主要論点の解説（対面授業３）
６．「法律による行政の原理」の手続的補完①－適正手続･情報アクセス（メディア授業〔オンデマンド型〕３）
７．「法律による行政の原理」の手続的補完②－主要論点の解説(対面授業４)
８．行政作用の諸形式①－行政行為（メディア授業〔オンデマンド型〕４）
９．行政作用の諸形式②－主要論点の解説（対面授業５）
10．行政作用の諸形式③－行政立法・行政指導（メディア授業〔オンデマンド型〕５）
11．行政作用の諸形式④－主要論点の解説（対面授業６）
12．行政作用の諸形式⑤－行政調査・即時強制・義務履行確保（メディア授業〔オンデマンド型〕６）
13．行政作用の諸形式⑥－主要論点の解説（対面授業７）
14．（aのみ）まとめ（メディア授業〔オンデマンド型〕７）
＊講義内容はシラバス執筆時点の予定であり、必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意
・担当教員としては、「現代行政と法B」を履修することを強く望みます。
・この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面授業１コマとオンデマンド型メディア授業１コマにて実施します。
・メディア授業では、「前回の小テストの解説動画＋ワンポイント動画＋レジュメ」を配信します。毎週木曜日にOh-o!Meijiを通じて配信しますので、次回の対面授業の日までに必ず受講してください。
・対面授業（毎週火曜日１限）では、前回のメディア授業で扱った内容に関わる主要論点を解説します。授業終了時に小テストを出題しますので、Oh-o!Meijiにて翌日中に回答するようにしてください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：下記教科書・参考書の該当部分を読む。
復習：レジュメを熟読し、小テストで理解度を確認する。

５．教科書
齋藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ〔第8版〕』（有斐閣・2022）。
予習復習の便宜のため、レジュメには、板垣・後掲書の該当ページを示すことにします。

６．参考書
詳細については初回の授業で説明しますが、独力で読み進められる参考書として、正木宏長他『入門行政法』（有斐閣・2023）、板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書〔第２版〕』(法律文化社･2023)、原田大樹『グラフィック行政法入門』（新世社・2017）を紹介しておきます。

７．課題に対するフィードバックの方法
小テストについては、次回メディア授業で解説動画を配信します。
また、小テスト内に設ける自由記述欄（質問・意見・感想）ついては、次回対面講義でフィードバックします。

８．成績評価の方法
小テスト15点×6回＝90点（対面授業２・３・４・５・６・７回時）。
平常点（授業全体の感想提出）10点。

９．その他
行政法は、司法試験や行政書士試験といった資格試験や、多くの公務員試験において、必修の試験科目となっています。「現代行政と法A・B」では、これら試験の受験希望者にも役立つように、行政法学の通説的な体系に沿って講義を行う予定です。「現代行政と法A」の内容は、通説的体系における「行政法総論」に該当します。

科目ナンバー：(IC)LAW321J

現代行政と法Ｂ（行政法と行政過程Ⅱ）

２単位	３年次	**清水　晶紀**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
税金の徴収から自然公園の管理に至るまで、現代社会において行政は、色々なレベルで我々の市民生活、社会活動に密接に関連しています。その結果、行政を統制する法である行政法も、「犬も歩けば行政法にあたる」と言われるほど、我々の身の回りにあふれています。
この科目では､行政法のうち､行政作用によって損害を被った市民の救済ルールを検討します。法的救済の内容としては、行為の是正と金銭補填が考えられるため、前者に関するルールである行政争訟法と後者に関するルールである国家補償法を、行政活動の実施過程に着目しつつ学ぶことになります。
【到達目標】
私たち市民が各々の救済を求めるためにクリアすべきルールを理解し、日常の新聞報道等を「行政法的視点」で説明できるようになること。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
１．イントロダクション/行政救済法の全体像（対面授業１）
２．取消訴訟①－行政訴訟制度における取消訴訟の位置づけ･処分性(メディア授業〔オンデマンド型〕１）
３．取消訴訟②－主要論点の解説（対面授業２）
４．取消訴訟③－原告適格･訴えの利益･客観的訴訟要件（メディア授業〔オンデマンド型〕２）
５．取消訴訟④－主要論点の解説（対面授業３）
６．取消訴訟⑤－審理手続・判決・仮の救済（メディア授業〔オンデマンド型〕３）
７．取消訴訟⑥－主要論点の解説（対面授業４）
８．その他行政訴訟①－取消訴訟以外の抗告訴訟・当事者訴訟・民衆訴訟・機関訴訟（メディア授業〔オンデマンド型〕４）
９．その他行政訴訟②－主要論点の解説（対面授業５）
10．行政上の不服申立て①・国家補償①－審査請求の概要／要件／手続・国家賠償法1条（メディア授業〔オンデマンド型〕５）
11．行政上の不服申立て②・国家補償②－主要論点の解説（対面授業６）
12．国家補償③－国家賠償法2条・損失補償・国家補償の谷間（メディア授業〔オンデマンド型〕６）
13．国家補償④－主要論点の解説（対面授業７）
14．（aのみ）まとめ（メディア授業〔オンデマンド型〕７）
＊講義内容はシラバス執筆時点の予定であり、必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意
・担当教員としては、「現代行政と法A」を履修することを強く望みます。
・この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面授業１コマとオンデマンド型メディア授業１コマにて実施します。
・メディア授業では、「前回の小テストの解説動画＋ワンポイント動画＋レジュメ」を配信します。毎週木曜日にOh-o!Meijiを通じて配信しますので、次回の対面授業の日までに必ず受講してください。
・対面授業（毎週火曜日１限）では、前回のメディア授業で扱った内容に関わる主要論点を解説します。授業終了時に小テストを出題しますので、Oh-o!Meijiにて翌日中に回答するようにしてください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：下記教科書・参考書の該当部分を読む。
復習：レジュメを熟読し、小テストで理解度を確認する。

５．教科書
齋藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣・2022）。
予習復習の便宜のため、レジュメには、板垣・後掲書の該当ページを示すことにします。

６．参考書
詳細については初回の授業で説明しますが、独力で読み進められる参考書として、正木宏長他『入門行政法』（有斐閣・2023）、板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書〔第2版〕』（法律文化社・2023）、藤田宙靖『行政法入門〔第7版〕』（有斐閣・2016）を紹介しておきます。

７．課題に対するフィードバックの方法
小テストについては、次回メディア授業で解説動画を配信します。
また、小テスト内に設ける自由記述欄（質問・意見・感想）ついては、次回対面講義でフィードバックします。

８．成績評価の方法
小テスト15点×6回＝90点（対面授業２・３・４・５・６・７回時）。
平常点（授業全体の感想提出）10点。

９．その他
行政法は、司法試験や行政書士試験といった資格試験や、多くの公務員試験において、必修の試験科目となっています。「現代行政と法A・B」では、これら試験の受験希望者にも役立つように、行政法学の通説的な体系に沿って講義を行う予定です。「現代行政と法B」の内容は、通説的体系における「行政救済法」に該当します。

科目ナンバー：(IC)LAW351J

現代型犯罪と刑法Ⅰ

２単位	３年次	**阿部　力也**

１．授業の概要・到達目標

現代社会では、さまざまな新しい形態の犯罪が発生しています。従来の法律の枠組みでは対応しきれない事態が出現しているといっても過言ではないでしょう。たとえば、大規模な個人情報の漏洩、より巧妙化し組織化する詐欺グループ、経済犯罪としてのインサイダー取引、粉飾決算、産廃の不法投棄などといった単語は、わたしたちが日常的に目にするものとなりました。もはや殺人、傷害、窃盗だけが犯罪ではないのです。かえって、殺人のような従来型の犯罪はより凶悪化し、頻発する通り魔的犯罪として現れたり、窃盗・強盗も集団的・組織的な暴力行為・財産犯罪として発生したりして、市民社会への新たな脅威と化しているといってもよいでしょう。

このように発生する犯罪を「現代型犯罪」として把握した場合、これに対応するためには、どのように法律を解釈すべきなのでしょうか（ちなみに法律を使用すること＝法律を解釈すること）。場合によってはあたらしい法律が必要になったりします（刑事立法）。

この授業では、犯罪を規制するための法律である「刑法」をベースに、殺人罪をはじめとする基本的・代表的な犯罪の成立要件（その特徴）を理解することからはじめます。そのうえで、最近、発生した特徴的な事件を取り上げ、その問題点を探り、現行刑法がそのような事象に対応できるのか否かを深掘りしていきたいと考えています。

そのため、１つの試みとして、（ある意味法学部的な）現行刑法の条文序列に従う講義方法ではなく、「現代型犯罪」という視点から犯罪を分類・再構成し、そのような犯罪を規制するために、法をどのように機能的に運用すべきか（大きすぎるテーマではありますが、情コミ的に！）、そのための刑罰の運用をも議論の射程に加え、多角的に犯罪現象を考えてみたいと思います。犯罪と法および刑罰を考えるという目標は、なにも法学（部）的勉強をすることにとどまるのではなく、犯罪も社会事象の１つとして理解されるかぎり、社会に内在するさまざまな問題性（政治・経済的な問題を含む）を指摘することに役立つ、とぼくは考えています。そして、その問題解決の一端を担う役割が情報コミュニケーション学部で学ぶわたくしたちにあるのではないか（これも大きな構え方ですが）、とも考えているのです。

授業では、できるだけ分かり易い事例を取り上げながら（実際の刑事事件、有名な事件、いわゆる判例・裁判例）、現代的な犯罪の特徴を指摘することで、受講生のみなさんにすこしでも刑法という「法律」に興味・関心を持ってもらい、法的思考の一端に触れることをつうじて、みなさんに社会分析の視座（ものの見方・構え方）を増やしてもらうことが、この授業の到達目標ということになります。

２．授業内容

第１回　授業の目的とスケジュールの確認
第２回　犯罪成立要件とは何か（「犯罪と法」の復習をかねて）
第３回　ネット心中事件―殺人罪と自殺関与罪とは？
第４回　熊本水俣病刑事事件―胎児は人として扱われるのか？
第５回　人を殴るとどんな罪になるのか？―傷害罪と暴行罪の区別
第６回　陰惨ないじめ（強制的に人を自殺に追いやると？）―脅迫・強要罪、そして自殺関与罪と殺人罪の成否など
第７回　親が交際に反対している恋人を家に招き入れると？―住居侵入罪の成否？
第８回　プライバシー保護の重要性―名誉・信用毀損罪など
第９回　幼児虐待の問題性―保護責任者遺棄罪と傷害罪・殺人罪など
第10回　愉快犯の典型、通り魔的犯行の手段として大勢の人を巻き込む犯罪―放火罪など
第11回　現代的国家においても公務の保護は重要である―公務執行妨害罪など
第12回　しかし保護に値しない公務員もいる？―公務員犯罪（賄賂犯罪）
第13回　通貨・文書はみんなが信用するから大切だ！―各種の偽造罪（文書偽造罪を中心に）
第14回　名画「天国と地獄」を見ましたか？―略取・誘拐の罪、そして春学期のまとめ
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

冒頭に復習をするので「犯罪と法」を履修しておく必要性はありません。教科書およびレジュメを繰り返し読んで欲しいと思います。専門的な法律家になる勉強だけが法律の勉強ではありません。現代社会において教養ある市民として生活するために、「ものの見方」の１つとしての法的思考を学んでもらいたいと思っています。とくにその重要性はみなさんも「裁判員」になる可能性があることからも明瞭ではありませんか。

なお現代型犯罪と刑法Ⅱを履修する予定の方は、このⅠを履修するようにしてください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

【準備学習の内容】

授業前に、各回の予め指定されテーマについて講義案の該当部分を1回は（最低でも）目を通しておいてください。

【復習すべき内容】

講義案に記載されている基本・重要事項について、授業後にさらに読み込むことで正確に理解できるようにしておいて欲しいと思います。

５．教科書

阿部力也『現代型犯罪と刑法（講義案）』（成文堂）を使用します。

６．参考書

とくに指定はしませんが、より深く勉強したい方には、『判例百選』（有斐閣）などの判例の解説書がおすすめです。レジュメについては、事前にOh-o!Meijiのクラスウェブ上でパワポ資料として公開します。

７．課題に対するフィードバックの方法

定期試験（期間内試験）終了後に、出題の趣旨、採点実感についてOh-o!Meijiのクラスウェブ上で公開します。小テストあるいはレポート課題を科した場合でも同様にクラスウェブにて公開する予定です。

８．成績評価の方法

定期試験（期間内試験）において100％評価することを原則とします。受講生の修得・学習状況を勘案し、場合により「小テスト（択一式）」あるいは「中間レポート」を提出させる場合もあります（例外）。なお、その場合の評価割合は、定期試験70%、小テスト・レポート30%とします。なお後者の場合には事前に告知し、十分に時間的余裕を設定したうえで実施する予定です。なお定期試験においては、基本的知識が整理されているか、法的思考を前提に論理的な展開がなされているか、などを評価のポイントとします。もっとも、春学期設置科目なので、法的思考の入り口に立ってもらえれば十分ですし、すこしでも、現代型犯罪に対応する法の役割というテーマに興味を持ってもらえればこの授業の目的は達成されたことになります。そのことをふまえた採点基準となります。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW351J

現代型犯罪と刑法Ⅱ

２単位	３年次	**阿部　力也**

１．授業の概要・到達目標

現代型犯罪と刑法Ⅰに引き続き、この授業でも犯罪を規制するための法律である「刑法」の解釈をベースに（法律の使用＝法律の解釈）、秋学期の授業では、個人の財産に対する侵害、いわゆる「財産犯」を中心に議論を展開したいと思います。窃盗罪、強盗罪といった代表的な財産犯の成立要件を説明し、そのうえで、最近、発生した特徴的な事件を取り上げ、その問題点を探り、現行刑法がそのような事象に対応できるのか否かを深掘りしていきたいと考えています。

そのため、１つの試みとして、（ある意味法学部的な）現行刑法の条文序列に従う講義方法ではなく、「現代型犯罪」という視点から犯罪を分類・再構成し、そのような犯罪を規制するために、法をどのように機能的に運用すべきか（大きすぎるテーマではありますが、情コミ的に、よりダイナミックに！）、そのための刑罰の運用をも議論の射程に加え、多角的に犯罪現象を考えてみたいと思います。

犯罪と法および刑罰を考えるという目標は、なにも法学（部）的勉強をすることにとどまるのではなく、犯罪も社会事象の１つとして考えられるかぎり、社会に内在するさまざまな問題性を指摘することに役立つ、とぼくは考えています。そして、その問題解決の一端を担う役割が情報コミュニケーション学部で学ぶわたくしたちにあるのではないか（これも大きな構え方ですが）、とも考えているのです。

次のようないい方も可能だと思うのです。すなわち、変化する経済情勢が「犯罪の質」を変えていくのではないか。それは、「新しいパターンの財産犯」の出現をもたらす可能性がある以上、個々の犯罪の成立要件にかんする「法の解釈」を変化させていかざるをえないのではないかと。「変化する犯罪」とそれへの対応、その対応の妥当性を見極めつつ、現代型犯罪の特徴と問題性を追求することをつうじて、現代社会において果たされるべき「法律の役割」とは何か。このことを受講生のみなさんと一緒に考え、一定の回答をみなさんと見つけ出すことができれば、この授業の目標は達成できたといってもよいでしょう。

２．授業内容

第１回　授業の目的とスケジュールの確認をします。この回では、春学期の総括（どんなことを学んだのか確認する）ことと、犯罪の成立要件・枠組みとは何か（たとえば殺人罪などをベースとしつつ）をもう一度確認することとします。
第２回　犯罪概念を法的に捉える～犯罪学、刑事政策、犯罪社会学、犯罪心理学などから、あるいは刑法学からみた犯罪現象の理解に違いはあるのか、を考えてみよう！
第３回　財産犯総論１～財産犯とはどのような犯罪をいうのか～窃盗はじめ、強盗、詐欺、恐喝などをといった財産犯罪を概観してみよう！
第４回　財産犯総論２（より具体的に考える）～財布を盗む、情報を盗む、電気を窃盗する、このなかで窃盗罪にならないものはどれか？
第５回　財産犯総論３（ここから法解釈ははじまります）～財産犯において保護される利益は何か？～物を所有すること・占有することの意味～みなさんが友人から借りた物を誰かに盗まれた場合を考えよう！このとき、誰が被害者になると思いますか？
第６回　空き巣や他人の自転車を勝手に乗り回す行為、はたまたコンビニで万引きをすると何罪になるか？住居侵入窃盗だけが窃盗ではない！～窃盗罪について、その成立要件と事例を詳しくみておこう！
第７回　ひったくりは何罪？―経済的に不安定な状況が続くと多発し易い犯罪。しかし当てはめると窃盗罪なのか、強盗罪なのか、難しい場合も。行為時に被害者が転倒してケガを負った場合はさらにどうなるのか？考えるポイントはけっこうあります。
第８回　死者から物を奪うと何罪？―逆恨みから人を殺害した後に、死体から財布を奪った場合に何罪が成立するのか？最初から財布を奪うつもりで人を殺害して奪った場合と違うか考えてみよう！～窃盗罪と強盗罪の成立要件とさまざまな事例を詳しくみておこう！
第９回　振り込め詐欺（特殊詐欺）―人をだます方が悪いに決まっているが、だまされる方も悪いのか？巧妙化する詐欺の事例について考える～詐欺罪１
第10回　無銭飲食やホテルに宿泊し翌朝料金を払わないでフロントを通過すると何罪が成立するか？―詐欺罪２～第9回と合わせて、詐欺罪の成立要件を押さえながら、さまざまな事例をみておくことにしよう！
第11回　あなたは目の前にある他人の財産からの誘惑に抗えるか―横領罪と背任罪～人の信頼を裏切って、自分が託された他人の財産を自分で使ってしまった場合に成立する罪について考える。会社の財産の使い込みなどが問題になったり、自分が契約した営業で会社に損害を与えてしまったりした場合に成立する犯罪です！
第12回　物を壊すにもいろんなパターンがあります！―器物損壊罪～他人のマンションの壁に「アート的（自己満足的）な」落書きをした場合、それを消すのにもお金がかかります！
第13回　応用編～すこし公務員試験・司法試験みたいな「事例問題」を考えてみよう！
第14回　秋学期のまとめ～現行の（いまの）刑法は、現代型犯罪に十分に対応できているか、できている部分とできていない部分があるのか、細かく事例（判例・裁判例）をあげながら包括的に考えてみよう！もしできていないとすると、さらにどうすべきなのか、を一緒に考えてみよう。
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

冒頭に復習をするので「犯罪と法」を履修しておく必要性はありませんが、現代型犯罪と刑法Ⅰの履修は必要です。

教科書およびレジュメを繰り返し読んで欲しいと思います。専門的な法律家になる勉強だけが法律の勉強ではありません。現代社会において教養ある市民として生活するために、「ものの見方」の１つとしての法的思考を学んでもらいたいと思っています。とくにその重要性はみなさんも「裁判員」になる可能性があることからも明瞭ではありませんか。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

【準備学習の内容】

授業前に、各回の予め指定されテーマについて講義案の該当部分を1回は（最低でも）目を通しておいてください。

【復習すべき内容】

講義案に記載されている基本・重要事項について、授業後にさらに読み込むことで正確に理解できるようにしておいて欲しいと思います。何でも結構です、すこしでも興味・関心をもてる部分があれば、そこを手がかりに学習の枠組みは広がっていくと思うのです。その意味で質問・疑問は大歓迎です！

５．教科書

阿部力也『現代型犯罪と刑法（講義案）』（成文堂）を使用します。

６．参考書

とくに指定はしませんが、より深く勉強したい方には、『判例百選』（有斐閣）などの判例の解説書がおすすめです。レジュメについては、事前にOh-o!Meijiのクラスウェブ上でパワポ資料として公開します。

７．課題に対するフィードバックの方法

定期試験（期間内試験）終了後に、出題の趣旨、採点実感についてOh-o!Meijiのクラスウェブ上で公開します。小テストあるいはレポート課題を科した場合でも同様にクラスウェブにて公開する予定です。

８．成績評価の方法

定期試験（期間内試験）において100％評価することを原則とします。受講生の修得・学習状況を勘案し、場合により「小テスト（択一式）」あるいは「中間レポート」を提出させる場合もあります（例外）。なお、その場合の評価割合は、定期試験70%、小テスト・レポート30%とします。なお後者の場合には事前に告知し、十分に時間的余裕を設定したうえで実施する予定です。なお定期試験においては、基本的知識が整理されているか、法的思考を前提に論理的な展開がなされているか、などを評価のポイントとします。

もっとも、情報コミュニケーション学部における「学び」においては、広くさまざまな視点から問題分析を行う能力を身に付けることが重要ですから、法的思考とは何か、そのの入り口に立ってもらえれば十分ですし、すこしでも法律科目に興味を持ってもらえればこの授業の目的は達成されたことになります。そのことをふまえた採点基準となります。

９．その他

科目ナンバー：(IC)POL311J

現代政治学Ⅰ

２単位	３年次	川島　高峰

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
「現代政治学Ⅰ」は、学生にとって現代の日本政治が解る！、ようにすることを目的としています。日本政治に無知、苦手なのでついてこれなくなるのでは？と心配する学生もいるようですが、そういう学生のためにも開講しています。講義は物語のように展開するのでついて来れます。
おり、**「平成の政治史を理解し、令和の日本政治を考える」**ことが主題です。しかし、平成の日本政治は、戦後の日本政治、殊に高度経済成長という人類史的な大成功の強い影響下にありました。ですから平成日本の矛盾と遺産を理解するためには「戦後日本」について最低限の理解が必要です。よって講座は**「戦後の昭和日本」、「冷戦後の平成日本」のニ部構成**となります。平成は激変の連続で「昭和日本の崩壊と激変の連続」でした。これに対し、令和以降は、大激変の連続で「ルールがなくなった」力の支配の時代です。**令和以降は、現代政治学２の方で対象とします。**
現代政治学１では、「昭和日本と戦後日本」、「終焉の時代と失われた30年」、「平成終焉と令和の日本政治」の三部構成とします。細かい事実関係よりは、どんな価値観や時代背景、どんな言葉が人や時代を動かしたのかに力点をおきます。
【授業の到達目標】
「日本政治の要点を理解し、その人間ドラマの面白みに触れてもらう」ことです。政治の面白みは人間ドラマの面白みにあります。政治学こそ世間知の学です。現代日本政治にビジョンを持てるようになることです。

２．授業内容
第１回　ガイダンス、講師紹介、大局と政局、資源小国・島国日本の政治文化的、地政学的、地経学的な特徴について
第一部　「現代日本政治（平成以降）の理解に必要な昭和日本／戦後日本」
第２回　終戦のイデオロギーと敗戦のイデオロギー　「原爆と国体」／「聖戦と侵略」、占領改革と昭和日本
第３回　戦後日本の形成　象徴天皇制・日本国憲法・五大改革
第４回　講和後日本　吉田政治　日米安保、軽軍備重経済、所謂「混合体制」（日本型資本主義）、
第５回　五五体制と高度経済成長　国際共産主義と保守合同・高度成長と吉田学校・「会社主義」社会
第６回　田中派支配と派閥政治全盛時代　中選挙区制と三角大福中／５政党制　保革伯仲時代
第７回　中曽根時代　総主流派体制と新自由主義の始まり
第二部　「昭和終焉と平成の政治・政局史」
第８回　三つの終焉（天皇崩御・冷戦崩壊・バブル崩壊）から「失われた10年」へ
第９回　終焉現象の連続と田中支配の継続　田中角栄・嫡流たちの紛擾と細川・非「自民」連立政権
第10回　自社さ連立から自公連立へ　田中派支配の延命と自民党政治の終焉
第11回　第２の「失われた10年」、小泉・清話会支配の始まりとネオリベラルの実験
第12回　第３の「失われた10年」、民主党・遅すぎた革新政権と第二保守の形成
第13回　安部政治　一極集中と一強多弱　届かなかった第三の矢
第14回　講義総括　本当に「失われた」だけの３０年だったのか？　何が失われたのか？
※　情勢の変化により内容に変更が生じる場合があります。

３．履修上の注意
日本現代史に余りにも無知だとついてこれなくなるのでは？と心配する学生もいるようですが、そういう学生のために開講しています。講義は物語のように展開するのでついて来れます。「政治とメディア」の履修を推奨します。また、続編となる日本政治・令和編はの現代政治学Ⅱ」の履修を推奨します。Ⅰ・Ⅱは段階履修科目なので、Ⅰの履修がないとⅡの履修ができないことに注意してください。平成末から令和以降の国家単位の世界政局、メガトレンドの展開、日本国の総合政策間の展開を主軸としています。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
ネットで講義主題に近そうな情報（誤情報も含む）を確認しておくと手助けにはなるだろう。youtube等では、その人の願望を説明をしているものが沢山あるのでこの講義と比較すると興味深いだろう。なお、wikipediaはかなり精度が高い。誤りがあってもすぐに次々と様々な読み手により改定されていきます。

５．教科書
小西徳應・竹内桂・松岡信之『戦後日本政治の変遷』北樹出版（2020）

６．参考書
升味準之輔『日本政治史1～4』、『戦後政治　上下』、『現代政治　上下』以上、東大出版会
証言ドキュメント『永田町　権力の興亡』NHK出版
後藤謙次『ドキュメント　平成政治史１～４』岩波書店

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜、学生のコメントへのフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
各回講義でのリアクション・コメントが70%、期末試験が30%。成績は各講義でのリアアクション・コメナントの比重が高いので、結果として出席重視となっているが、特段、欠席回数について単位認定の制限を設けているものではない。就活生に配慮して対面講義の動画もしくは音声記録をなるべくアップロードします。

９．その他

科目ナンバー：(IC)POL311J

現代政治学Ⅱ

２単位	３年次	川島　高峰

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
令和以降、世界政治は大激変の連続からルールなき力の支配が蔓延する時代となり、ＡＩとＤｘは、国際社会のみならず国家間において、そして、国内社会においても、変化の加速と利害の分断の深化をたらしています。このような中で、少子高齢化・人口減少地方消滅・資源小国の日本はどう生き抜いていけばよいのでしょうか？　「生き抜いていけばよいのか」という現実を前に、これまでの多文化共生、多様性の重視、ジェンダー・イクォリティ、SDGs、脱炭素化社会といった理念の数々も嘗ての耀きを失ってきています。
実は平成の３０年は「平和ボケ」とか、「島国」、「ガラパゴス」とただ手をこまねいていたばかりではありません。脱昭和モデルのための数々の「基本法」が制定されており、平成の３０年間間は、戦後８０年の間で最も多くの基本法が制定された時代でした。
現代の日本国が今後、どうなっていくのか？　どんな国家になっていくのかについて考える授業です。大きな主題は、資本主義は民主主義と共存・共栄し得るのか？、です。2010年代から経済成長のために必要なことは、必ずしも民主主義ではない、自由主義でもない、という「民主主義の後退」現象が世界でおきています。冷戦崩壊後の激変の連続（ルールが変わった）から、ポストコロナ後の大激変（ルールがなくなった）の中、日本の今後、世界の今後を、次の三つの観点から読み解こうとする授業です。
1　資本主義の発達の経緯と諸段階
2　日本の地政学（地理政治学）的、地経学（地理経済学）的な位置と世界的な地政学的激変
3　日本の新しい資本主義と新しい保守主義
【授業の到達目標】
学生が自分なりの未来の日本政治・日本国に対する識見を持つようになることです。就職活動を目前に控えた３年生、その渦中もしくは既に終了し社会人になるのを待っている４年生には、この講座を通じて世間知・世界知を養っておくのが良いでしょう。

２．授業内容
導入編
第１回　「世界史の世界史」を考える　平成の基本法制定という国家再編
第２回　アベノミクス　バブル崩壊と遅すぎた新自由主義、届かなかった第三の矢
共産主義 VS 資本主義編
第３回　カール・マルクス『資本論』は間違ってはいなかったが、共産主義は最悪だった
第４回　資本主義・社会主義双方が持つ限界効用　マックス・ウェーバーとシュンペター
第５回　資本主義の政策的な延命策と精神的な理想主義 ケインズ的解決とハイエクの新自由主義
第６回　資源／人口の拡大以外の成長はあるのか　『脱工業社会の到来』（1972）とローマクラブ『成長の限界』（1972）／石油ショック
第７回　脱工業化社会とソフトパワー　ダニエル・ベル『イデオロギーの終焉』（1960）と『資本主義の文化的矛盾』
国際秩序の変動編
第８回　人間の安全保障とMDGs　自由民主主義のつかの間の勝利と非イデオロギー対立『文明の衝突』（1993）・低強度紛争
第９回　９１１後とリーマン・ショック後　対テロ戦争と新中世圏、借金と民主主義、開発と権威主義
第10回　SDGsと最底辺の10億人　世界の警官に疲れた米国とSDGsの夢に疲れた世界　ピケティ『21世紀の資本』（2014）
新しい日本の安全保障と保守主義
第11回　日本の経地学的、地政学的、安全保障問題政策　ポストコロナのメガトレンドとウクライナ戦争
第12回　民主主義の後退と超帝国主義の形成　中国超大国化、ロシアの帝国主義回帰、米国のMAGA、日本の第二保守勢力
第13回　戦略軍事技術とビジネスの融合　スターリンク、モビリティ産業
第14回　認知戦と外国人政策
※　世界、日本の情勢の変化により内容に変更が生じる場合があります。

３．履修上の注意
Ⅰ・Ⅱは段階履修科目なので、**現代政治学Ⅰの履修がないとⅡの履修ができない**ことに注意してください。 就活生に配慮して対面講義の動画もしくは講義録をなるべくアップロードします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
世界情勢に興味を持つように。ネットで講義主題に近そうな情報（誤情報も含む）を確認しておくと手助けにはなるだろう。youtube等では、その人の願望を説明をしているものが沢山あるのでこの講義と比較すると興味深いだろう。なお、wikipediaはかなり精度が高い。誤りがあってもすぐに次々と様々な読み手により改定されていきます。

５．教科書
レジュメを配布します。その中で重要な文献などは紹介します。

６．参考書
講義時に指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜、学生のコメントへのフィードバックを行い、最終課題については第14回目の講義で講評を行う。

８．成績評価の方法
各回講義でのリアクション・コメントが70%、期末試験が30%。成績は各講義でのリアアクション・コメナントの比重が高いので、結果として出席重視となっているが、特段、欠席回数について単位認定の制限を設けているものではない。就活生に配慮して対面講義の動画もしくは音声記録をなるべくアップロードします。

９．その他

科目ナンバー：(IC)ECN351J

公共政策 A

２単位	３年次	**塚原　康博**

１．授業の概要・到達目標

本学部は、現代社会に多角的な視点でアプローチでき、現代社会における問題の発見、その分析と解決を行える人材の輩出を目標としている。現代社会は、民間の家計や企業からなる私的部門、中央政府や地方政府からなる公共部門などから構成されている。本講義では、現代社会において発生する諸問題の解決のために、主に中央政府の果たす役割を考察する。分析のアプローチは主として経済学を用い、効率と公正の観点から問題の解決策を探る。現代社会は自由社会であり、社会にとって必要な財やサービスは民間の市場を通じて供給される。それゆえ、現代社会では、民間の市場が大きな役割を果たすが、民間の市場がうまく機能しない場合があり、市場の失敗と呼ばれる。市場の失敗の是正のためには、政府による介入が認められており、本講義では、公共財、外部効果、独占などの問題を解決するための中央政府による租税政策、支出政策、規制政策などについて論じる。他方で、政府の介入が事態のさらなる悪化を招く政府の失敗も発生しているが、このことにも言及する。

本講義は、基本的には以下の授業内容に従って進められるが、新聞などの記事を利用して、そのときどきの重要な社会問題も適宜取り上げ、記事の解説や学生との質疑応答も行う。そして、必要に応じて課題も出す予定である。

本講義では、現代社会においてどのような問題が発生しているのかを学生に理解してもらうこと、問題を発生させる原因、それを解決すための政策を論理的かつ有機的に考える能力を学生に身につけてもらうことを目指している。

２．授業内容

第１回：市場の有効性
第２回：市場の失敗（効率的な資源配分）
第３回：市場の失敗（公平な所得分配、経済の安定化）
第４回：公共財と公共選択
第５回：公共財供給の問題点
第６回：外部経済と補助金政策
第７回：外部不経済と租税政策
第８回：自然独占と価格規制政策
第９回：租税と租税原則
第10回：消費財と所得税（生涯を通じた税負担）
第11回：消費財と所得税（２つの税の長所と短所）
第12回：個別消費税の経済分析
第13回：個別消費税と税の帰着
第14回：財政赤字と景気安定政策

３．履修上の注意

現代社会における諸問題とその解決に関心のある学生に適しており、社会人として身につけておくべき知識の習得に役立つ。授業中の質疑応答では、積極的に発言すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業を受ける当たって、参考書の該当箇所に目を通しておくこと。社会問題を取り上げた新聞記事にも目を通しておくこと。また、授業終了後は、理解できない点がある場合は、参考書を読み直したり、教員へ質問をすること。質問は歓迎する。なお、授業のレジュメも公開するので、復習に役立てること。

５．教科書

使用しない。

６．参考書

『エレメンタル現代経済学』金子邦彦編（晃洋書房）。
『入門現代経済学要論』青木孝子・鑓田亨・安藤潤・塚原康博（白桃書房）。

７．課題に対するフィードバックの方法

課題の解答や解説は授業内で行う。

８．成績評価の方法

定期試験の点数で評価する。

９．その他

担当教員の連絡先は、tukahara@meiji.ac.jpである。

科目ナンバー：(IC)ECN351J

公共政策 B

２単位	３年次	**塚原　康博**

１．授業の概要・到達目標

本学部は、現代社会に多角的な視点でアプローチでき、現代社会における問題の発見、その分析と解決を行える人材の輩出を目標としている。本講義では、現代社会を特徴づける少子高齢化に焦点を当て、このような現象下での社会保障の問題と地方創生・地方分権の問題を取り上げる。分析のアプローチは主として経済学を用いる。少子高齢化社会では、年金、医療、介護などの社会保障政策が重要になるが、これらの政策が必要になる背景、政策の効果や課題について論じる。人口減少と高齢化の下では、都会よりの地方がその影響を強く受け、地方が疲弊する。したがって、地方創生の視点も重要である。他方で、住民による自治を強化するための地方分権の視点も重要である。このような問題意識の下、地方が置かれた現状や国と地方の役割分担のあり方を論じ、現行の諸制度すなわち地方税、国庫支出金、地方交付税、地方債についての意義や効果、課題についても論じる。

本講義は、基本的には以下の授業内容に従って進められるが、新聞記事などを利用して、そのときどきの重要な社会問題も適宜取り上げ、記事の解説や学生との質疑応答も行う。そして、必要に応じて課題も出す予定である。

本講義を通じて、学生が少子高齢化社会における社会保障や地方再生・地方分権の問題を理解し、その解決策を論理的かつ有機的にに考える能力を身につけてもらうことを目指している。

２．授業内容

第１回：市場の有効性
第２回：介護政策
第３回：年金政策（年金の財政方式と年金の損得）
第４回：年金政策（賦課方式下の人口変動と世代間の不公平）
第５回：医療政策
第６回：国と地方の役割分担（効率的な資源配分）
第７回：国と地方の役割分担（経済の安定化、公平な所得分配）
第８回：地方分権の意義
第９回：地方政府と租税政策（地方税の概要と問題点）
第10回：地方政府と租税政策（今後の地方税のあり方）
第11回：地方政府と国の補助金
第12回：国庫支出金政策
第13回：地方交付税政策
第14回：地方債政策

３．履修上の注意

現代社会における諸問題とその解決に関心のある学生に適しており、社会人として身につけておくべき知識の習得に役立つ。授業中の質疑応答では積極的に発言すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業を受ける当たって、参考書の該当箇所に目を通しておくこと。社会問題を取り上げた新聞記事にも目を通しておくこと。また、授業終了後は、理解できない点がある場合は、参考書を読み直したり、教員へ質問をすること。質問は歓迎する。なお、授業のレジュメも公開するので、復習に役立てること。

５．教科書

使用しない。

６．参考書

『公共経済学（第２版)』ジョセフ･スティグリッツ著･藪下史郎訳（東洋経済新報社)。
『エレメンタル現代経済学』金子邦彦編（晃洋書房)。
『入門現代経済学要論』青木孝子・鑓田亨・安藤潤・塚原康博（白桃書房)。

７．課題に対するフィードバックの方法

課題の解答や解説は授業内で行う。

８．成績評価の方法

定期試験の点数で評価する。

９．その他

担当教員の連絡先は、tukahara@meiji.ac.jpである。

科目ナンバー：(IC)MAN321J

コーポレート・ガバナンスⅠ

2単位	3年次	**水村　典弘**

1．授業の概要・到達目標
コーポレート･ガバナンスⅠは、(1) 現代企業の経営、(2) コーポレートファイナンス（資金調達）の仕組み、(3) 株式会社制度の基本、(4) 会社機関とガバナンス、(5) コーポレートガバナンスをめぐる動向について具体例を交えながら説明します。本講義を履修することによって、「企業・株式会社とは何か」「エクイティファイナンスとデットファイナンス」「会社機関の設計思想」「コーポレートガバナンスをめぐって何が議論されてきているのか」についての理解を深めることができます。なお、本科目の性格上、授業中に法律用語を使用することがあります。予め御承知置き下さい。

2．授業内容
第１回：コーポレート・ガバナンスの論点
第２回：企業責任と経営者の役割
第３回：ＩＰＯ（新規株式公開）の実務とＭ＆Ａの動向
第４回：資金調達－エクイティファイナンス－
第５回：資金調達－デットファイナンス－
第６回：コーポレート・ガバナンスの論点
第７回：会社機関の設計とガバナンスの構造
第８回：取締役会改革の過去と現在
第９回：ESG要因－機関投資家の圧力とガバナンス改革－
第10回：日本版スチュワードシップコード
第11回：コーポレートガバナンス・コード（１）
第12回：コーポレートガバナンス・コード（２）
第13回：現代企業の経営とガバナンス
第14回ａ：試験
　　ｂ：講義全体のふりかえりと試験の正答解説
＊社会情勢の変化などに応じて、授業内容の一部を変更することもあります。

3．履修上の注意
＊コーポレート・ガバナンスⅡの履修にはコーポレート・ガバナンスⅠを修得済みであることが必要です。
＊経済報道や企業報道（新聞・雑誌、テレビ）に接して、株式会社制度や証券市場の変化に関心を持つように心掛けて下さい。また、本講義で使用する資料の一部には英語資料を含みます。加えて、本講義では、いわゆるグループワークなど、「アクティブラーニング（能動的学修）」や「ケースメソッド」等の手法を取り入れます。予め御承知置きのうえ、履修登録するようにして下さい。
※授業の内容と形態については、社会情勢の変化及び新型コロナウイルス感染症の発生動向などの要因に応じて、その一部を変更することがあります。シラバス記載事項に大幅な変更等が生じる際には、本サイト（Oh-o! Meiji）及びお知らせ（Notifications）に明示します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
＊講義の予習や復習で使用する教材のURLは、Oh-o Meiji!に掲載して配信します。
＊下記については、当該資料を使用する授業回に必ず持参してください（講義時間内に告知アリ）
　－「責任ある機関投資家」の諸原則≪日本版スチュワード シップ・コード≫～投資と対話を通じて企業の持続的成長を促すために～
　　http://www.fsa.go.jp/news/25/singi/20140227-2/04.pdf
　－コーポレートガバナンス・コード～会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のために～
　　http://www.jpx.co.jp/equities/listing/cg/tvdivq0000008jdy-att/code.pdf

5．教科書
特に指定しません。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題提示型の授業に際しては、当該授業回又は当該授業回の次の授業回等でフィードバックするとともに、当該課題の得点は本科目の成績評価（リアクションペーパー）の得点に加算します。

8．成績評価の方法
リアクションペーパー（毎回）50%、定期試験50%

9．その他
講義内容で理解できない点については講義終了後に必ず申し出て質問するようにして下さい。

科目ナンバー：(IC)MAN321J

コーポレート・ガバナンスⅡ

2単位	3年次	**水村　典弘**

1．授業の概要・到達目標
コーポレート・ガバナンスⅡでは、コンプライアンス（倫理・法令等遵守）の制度設計と運用の実際にスポットライトを当てます。具体的には、企業における不正・不適切事案の発生要因や背景事情について、ケースワークとグループワークを交えて学びます。次いで、投資判断に「環境（Environment）」「社会（人権）(Social)」「ガバナンス（統治：Governance)」を考慮する「ESG投資」.や、「統合報告」(Integrated Reporting）にスポットライトを当て、グローバル化した企業のバリューチェーンやサプライチェーン上の人権問題について、ケースワークとグループワーク（ワークショップ形式）で学びます。この講義を受講することによって、「現代の企業人に何が求められているのか」「企業の経営企画部・人事部・コンプライアンス部門の業務内容」についての理解を深めるとともに、「経営の見える化（可視化）の手法」を修得することができるはずです。

2．授業内容
第１回：ガバナンスとコンプライアンス（倫理・法令等遵守）の体制
第２回：商人と屏風は直ぐには立たぬ…
第３回：意思決定の階層性と「意思決定における正しさ」
第４回：トリプルレンズフレームワーク（TLFs）の考え方
第５回：組織人の意思決定モデルとジレンマ問題
第６回：コンプライアンス（倫理・法令等遵守）の実際
第７回：コンプライアンスのレンズ－功利主義－
第８回：コンプライアンスのレンズ－義務論－
第９回：コンプライアンスのレンズ－正義論－
第10回：社内や職場における法令違反の実態分析
第11回：社内や職場における不正・不適切事案の分析
第12回：グローバリゼーションとバリューチェーン分析①
第13回：グローバリゼーションとバリューチェーン分析②
第14回ａ：試験
　　ｂ：講義全体のふりかえりと試験の正答解説
＊社会情勢の変化などに応じて、授業内容の一部を変更することもあります。

3．履修上の注意
＊コーポレート・ガバナンスⅡの履修にはコーポレート・ガバナンスⅠを修得済みであることが必要です。
＊経済報道や企業報道（新聞・雑誌、テレビ）に接して、株式会社制度や証券市場の変化に関心を持つように心掛けて下さい。また、本講義で使用する資料の一部には英語資料を含みます。加えて、本講義では、いわゆるグループワークなど、「アクティブラーニング（能動的学修）」や「ケースメソッド」等の手法を取り入れます。予め御承知置きのうえ、履修登録するようにして下さい。
※授業の内容と形態については、社会情勢の変化及び新型コロナウイルス感染症の発生動向などの要因に応じて、その一部を変更することがあります。シラバス記載事項に大幅な変更等が生じる際には、本サイト（Oh-o! Meiji）及びお知らせ（Notifications）に明示します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習や復習については、Oh-o! Meijiで配信します。

5．教科書
特に指定しません。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題提示型の授業に際しては、当該授業回又は当該授業回の次の授業回等でフィードバックするとともに、当該課題の得点は本科目の成績評価（リアクションペーパー）の得点に加算します。

8．成績評価の方法
リアクションペーパー 50%、定期試験50%

9．その他
Ⅱの履修にはⅠの履修申請が必要です。

科目ナンバー：(IC)SOC391J

国際開発論

２単位	３年次	高橋　華生子

１．授業の概要・到達目標

近年、グローバル化の急速な拡大とともに、数多くの問題が国境を超えたレベルで論じられるようになっている。貧困や飢餓といった従来からのイシューに加えて、内戦・紛争、人権、環境、感染症、格差などの新たなイシューが開発のアジェンダに盛り込まれるようになるなか、それらの課題に取り組むアクターも多元化している。かつて主導的な役割を担っていた国連といった国際機関や各国政府に加えて、民間企業や住民組織などの活動域が拡がってきており、とりわけNGO（非政府組織）を始めとする市民セクターのプレゼンスは高まり続けている。とくに政府や企業が十分に機能していない途上国地域では、NGOを抜きにして開発を考えることはいまや不可能に近い。つまり、途上国の現状に即した開発協力を追求していくには、NGOの活動とその意義を理解することが不可欠なのである。

ここで検討すべき点とは、地球規模で顕在化する問題の是正に向けて、異なる関心や利害をもつアクターが協働体制を作り上げていく可能性である。たとえば、政府がNGOと共同で取り組む草の根のプロジェクトや、あるいは企業とNGOが手を結んでおこなうBOPビジネスなどは、アクター間の連携が基になって成立している。こうした動きを鑑みると、現代における国際開発の鍵は、単独ではもたらしえない効果を認識・想定し、アクター同士が合意形成を図っていくことにあるといえる。

本講義ではNGOに象徴される市民セクターが台頭している社会・政治的な背景を分析しながら、政府機関や企業、国際機関などとの結びつきを考察していく。受講生は（1）市民セクターが台頭している社会・政治的な背景とその意義を理解すること、(2) 世界の諸問題に臨むアクター間の関係性を把捉すること、以上の２点の習得を踏まえて、国際開発における協調のあり方とその展望を見つめていってもらいたい。

２．授業内容

第１回　講義イントロダクション
第２回　市民セクターの成長①：NGOの定義と存在意義
第３回　市民セクターの成長②：国際的なNGO活動の誕生と軌跡
第４回　市民セクターの成長③：地球規模課題に対する実践の考察
第５回　パートナーシップの発展①：政府によるNGO支援の変遷
第６回　パートナーシップの発展②：企業による国際貢献の検討
第７回　パートナーシップの発展③：国際機関（国連、世界銀行）とNGOとの協働
第８回　援助・支援体系の変容①：国際協力における南北関係の構造転換
第９回　援助・支援体系の変容②：先進国が担うべき役割の再考
第10回　援助・支援体系の変容③：途上国における市民団体の成長
第11回　日本の開発NGOの歴史と現状
第12回　グローバル化時代における国際開発の課題と展望
第13回　外部講師による特別講義
第14回　理解度の確認

３．履修上の注意

自身の考察・分析力を高めるためにも、国際的な事案に関するニュースなどへのアンテナを張り、知識や情報の収集と更新に常に努めること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

本授業は講義形式ではあるが、受講生の能動的な参加と主体的な学習を促すため、各回のトピックに関連するディスカッションなどを盛り込んで進めていく。また、各回の内容に関する理解を促すため、関連する論点を授業の最後に提示する。受講生は所定のレスポンス・カードに解答を記入して提出すること。

５．教科書

特に指定しない。必要に応じて授業内でプリント、資料を用意･配布する。

６．参考書

講義内で適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に提出してもらうレスポンス・カードについては毎回確認し、次回授業の冒頭に補足説明ともに紹介・解説する。

８．成績評価の方法

40%　試験　授業の総括をかねた学期末試験を実施する
60%　平常点　出席とレスポンス・カードの内容などから総合的に評価する

９．その他

当該年度の授業に関する最終版のシラバスは、初回の授業で配布する。そのシラバスにさらなる詳細を記すので、受講を検討している学生は初回に来て確かめることを勧める。
学期の終盤で、現場で活躍している実務家の方による特別講義を開催予定である。本授業の受講生以外でも関心のある学生は参加してもらいたい。
講義内容と順番については、状況に応じて変更することがある点を付記しておく。

科目ナンバー：(IC)POL331J

国際関係論Ⅰ

２単位	３年次	鈴木　健人

１．授業の概要・到達目標

国際関係論の基礎的な知識を習得する。国際社会の成り立ちや歴史を概観したうえで、基本的な理論とその問題点を学ぶ。歴史と理論の両面から国際関係を把握するよう試みる。主権国家を主要な分析の対象に据えるが、それは他の主体を軽視するからではない。国家単位の分析だけでなく、世界全体や地域の問題も重視し、日本の将来についても考える。基礎的な知識に基づいて、可能な限り総体的に国際関係を理解するように努める。

（到達目標）

国際関係に関する基本的な歴史と理論を理解し、その認識枠組みを使って国際社会の変化の方向性を把握できるような能力を身につける。

２．授業内容

第１講　（前半のみ）授業の進め方などイントロダクション。
第２講　主権国家とウエストファリア体制
第３講　帝国主義の時代
第４講　第一次世界大戦―総力戦体制の形成
第５講　第二次世界大戦―ファシズムと民主主義
第６講　冷戦―核・イデオロギー・地域紛争
第７講　冷戦後の国際社会―非対称紛争（テロなど）
第８講　冷戦後の国際社会―国家間戦争の再来
第９講　現実主義の理論
第10講　自由主義の理論
第11講　世界システム論
第12講　対外政策決定論
第13講　脱国家的主体
第14講　まとめ・日本と国際社会
＊状況に応じて授業内容を変更することがある。

３．履修上の注意

授業では毎回出欠確認を兼ねて小さいリアクションペーパーを配布して質問や意見を受け付けるので、必ず出席すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

自分の関心がある問題について、新聞雑誌などを読むとともに自分でも読書すること。

５．教科書

村田・君塚他『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2009年）
鈴木健人『封じ込めの地政学』（中公選書、2023年）

６．参考書

特になし。適宜指示する。また資料を配布することがある。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行ったり、授業終了後にOh-oMeiji!で講評を連絡する。

８．成績評価の方法

授業中の意見発表、質問など授業への参加度　１５％
期末試験　７０％
リアクションペーパーの内容評価　２０％

９．その他

授業計画は今後一部変更する場合がある。変更した場合には速やかに周知する。

科目ナンバー：(IC)POL331J

国際関係論Ⅱ

２単位	３年次	**鈴木　健人**

１．授業の概要・到達目標

国際関係論のなかでも取り分け国際安全保障の面から理論的諸問題や現状分析を試みる。現在世界で生起している諸問題について、その背景となる事象についても分析して行く。

全般的な背景として、リベラルな国際秩序が様々な面から動揺しているという視点から講義していく。国際関係論の基本理論を説明しながら授業を進める。現在の国際変動を視野に入れて、日本の進むべき方向についても考察していく。

(到達目標)

現在の国際関係の変容を論理的に理解し、その変容に対する政策を自分の知識で考えられるような能力を身につける。

２．授業内容

第１講　(前半のみ) 授業の進め方などイントロダクション。
第２講　国際安全保障の考え方
第３講　核兵器の諸問題と抑止理論
第４講　核拡散の諸問題
第５講　大規模テロの諸問題
第６講　リベラルな国際秩序の揺らぎ
第７講　アメリカの覇権と中国の台頭
第８講　地域主義の諸問題：英国のEU離脱問題
第９講　地域主義の諸問題：アジア太平洋の国際関係
第10講　軍縮・軍備管理と信頼醸成
第11講　海洋秩序と国際政治
第12講　サイバー空間と国際政治
第13講　日本の防衛政策
第14講　まとめ・日本の国家戦略
＊状況に応じて授業内容を変更することがある。

３．履修上の注意

春学期の「国際関係論Ⅰ」を履修し、単位を取得していること。授業では毎回出欠確認を兼ねて小さいリアクションペーパーを配布して質問や意見を受け付けるので、必ず出席すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

自分の関心がある問題について、新聞雑誌などを読むとともに自分でも読書すること。

５．教科書

鈴木健人『封じ込めの地政学』(中公選書、2023年)
鈴木・伊藤編著『米中争覇とアジア太平洋』(有信堂、2021年)
その他適宜指示する。

６．参考書

特になし。適宜指示する。また資料を配布することがある。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行ったり、授業終了後にOh-oMeiji!で講評を連絡する。

８．成績評価の方法

授業中の意見発表、質問など授業への参加度　１５％
期末試験　７０％
リアクションペーパーの内容評価　２０％

９．その他

授業計画は今後一部変更する場合がある。変更した場合には速やかに周知する。

科目ナンバー：(IC)ECN341J

国際経済論Ａ（国際経済論Ⅰ）

２単位	３年次	**島田　　剛**

１．授業の概要・到達目標

本講義の目的はコーヒーという一つの商品を取り上げて国際経済や市場の動き、歴史、途上国の現状などを学ぶことである。コーヒーは我々の身近にあり、コーヒーそのものを飲まない人でもフラペチーノなどアレンジされたドリンクを飲んでいる。コーヒーの特徴の一つは、生産国が途上国で、消費国が先進国という点である。そして、先進国で私たちがコーヒーを飲んでも現地の生産者が得るお金はごく僅かである。しかし、一方で石油についで取引高の多い商品であり、そしてニューヨークやロンドンの先物市場で取引がされて国際的に取り引きされる代表的な商品でもある。また、アメリカや日本の国内でも熾烈なコーヒー市場の競争が繰り広げられている。またフェアトレードという取り組みもされているが、同時に批判も大きい。フェアトレードの可能性と限界についても取り上げて考えます。

このコースでは、コーヒーという商品からこうした国際経済の知識を得て、そして見る目を養うことを目的としている。なお、講義だけではなくグループワークも行う。

(到達目標)

グローバル経済に関する問題や政策についての論理的に理解し、政策を見る眼を養い、自分の言葉で説明できるようにする。

２．授業内容

第１回：ａイントロダクション － コーヒーでまなぶ国際経済学
第２回：コーヒーの価格はどうやって決まるか － ① 先物市場とは何か？
第３回：コーヒーの価格はどうやって決まるか － ② 穀物､石油､コーヒーの市場とフェアトレード
第４回：貿易はなぜ必要なのか、何が問題なのか①
第５回：貿易はなぜ必要なのか、何が問題なのか②
第５回：ヴェニスの商人のコーヒー － もうけはどこから来るのか？
第６回：世界史を動かしたコーヒー貿易
第７回：コロンビアのコーヒー、麻薬、マフィア
第８回：ブラジルのコーヒーと世界市場
第９回：新自由主義とコーヒー
第10回：新型コロナと世界経済
第12回：途上国の経済発展と、先進国からの援助、何が問題なのか？
第13回：フェアトレードの可能性と限界
第14回：学生プレゼンテーション

３．履修上の注意

・この科目は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を実施する。
・ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していることが望ましい。履修していない場合には以下の本を参照すること。
　－ 島田剛（2025)「いまを読み解くマクロ経済学 － 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社)
　－ 島田剛（2023)「ミクロ経済学への招待」(新世社)
・現実の経済に強い関心を持っていること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

本講義は下の参考書をベースにしているので、必要に応じて参考書を参照すること。

５．教科書

特に定めない

６．参考書

島田剛（2025)「いまを読み解くマクロ経済学 ー 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社)
島田剛（2023)「ミクロ経済学への招待」(新世社)

７．課題に対するフィードバックの方法

授業の中でのグループワークおよびプレゼンに対しコメントをすることによりフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

プレゼンおよびレポート 60%、平常点40%（クラスでの議論への積極的な参加)
欠席４回で以後のクラスへの参加を認めない（1日に２コマの授業があるため、2日分の欠席で4回に到達する)。なお、遅刻は0.5回の欠席と換算する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)ECN341J

国際経済論Ｂ（国際経済論Ⅱ）

２単位	３年次	**島田　　剛**

１．授業の概要・到達目標

本講義の目的は国際経済のモノの流れ（貿易）とカネの流れ（金融）について理論的、政策的観点から講義を行う。それにより、近年のグローバリゼーションに伴う世界的な格差の拡大や、保護主義の高まりなどについて理論面から分析するとともに、実際の経済データーから分析する手法を身につける。これらにより、経済発展を促進し格差を解消するためにはどのようにすれば良いかを考える視点を養う。

(到達目標)

グローバル経済に関する問題や政策についての論理的に理解し、政策を見る眼を養い、自分の言葉で説明できるようにする。

２．授業内容

第１回：ａイントロダクション － コロナと世界経済
第２回：ニュートンからヒント得た重力モデルで見えてくる貿易の世界
第３回：マスクは日本で生産した方がいい？それとも海外から輸入した方がいい（比較優位）？
第４回：何がその国の産業と貿易を決めるか？ － ヘクシャー･オリーン・モデルから考える
第５回：「空間」から考える経済学 － 空間経済学
第６回：相関関係と因果関係からRCT（ランダム化比較試験）へ
第７回：国の家計簿を見てみよう（国際収支）
第８回：外国為替が変動したら？
第９回：ユーロはなぜ失敗したのか？ － 国際金融のトリレンマから考える
第10回：為替レートとビックマック
第11回：為替制度と経済 － 固定相場制と途上国
第12回：新しい開発思想 － 人間開発と人間の安全保障
第13回：教育と経済発展 － 人的資本
第14回：学生プレゼンテーション

３．履修上の注意

・この科目は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を実施する。
・ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していることが望ましい。履修していない場合には以下の本を参照すること。
　－ 島田剛（2025)「いまを読み解くマクロ経済学 － 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社)
　－ 島田剛（2023)「ミクロ経済学への招待」(新世社)
・現実の経済に強い関心を持っていること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

本講義は下の参考書をベースにしているので、必要に応じて参考書を参照すること。

５．教科書

特に定めない

６．参考書

島田剛（2025)「いまを読み解くマクロ経済学 ― 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社)
島田剛（2023)「ミクロ経済学への招待」(新世社)

７．課題に対するフィードバックの方法

授業内のグループワークおよびプレゼンに対してコメントをすることによりフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

プレゼンおよびレポート 60％、平常点40％（クラスでの議論への積極的な参加）
欠席４回で以後のクラスへの参加を認めない（1日に２コマの授業があるため、2日分の欠席で4回に到達する)。なお、遅刻は0.5回の欠席と換算する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW321J

個人と国家（人権と憲法Ⅰ）

２単位	３年次	**田村　　理**

１．授業の概要・到達目標

この授業では、「個人と国家のあるべき関係を米仏との比較を通じて考える」ことをテーマとします。具体的にはアメリカの銃で武装する自由、フランスの風刺する自由について学び、私たち日本（人）の特徴と限界を明確に理解することを目標とします。

アメリカでは、銃で武装する自由が合衆国憲法で明文で定められており、そのことが銃規制を妨げ、銃による悲惨な事件に結びついているという批判もあります。フランスでは、イスラム教への風刺がイスラム過激派のテロをしばしば引き起こすにもかかわらず、政府は頑として表現の自由を規制しようとしません。

これほどの銃で武装する自由、風刺する自由を国家が規制しようとしないことは、なんでも国家の規制で護ってもらうことを望む私たちには簡単には理解できません。これらの国ではなぜここまで「自由」を重んじるのでしょうか。また、それらに共感はもちろん理解もできない私たち日本（人）は、何がちがうのでしょうか。これらの問題の考察により、私たち、私たちの社会と国の特徴と問題点を浮かび上がらせ、これからのあるべきすがたを考えます。

２．授業内容

第１回：授業の意図・意図：「個人、社会、国家」
第２回：21世紀における個人の自律の必要性と社会・国家　＊メディア授業（オンデマンド型）
第３回：映画『ボーリング・フォー・コロンバイン』を観る
第４回：アメリカの銃で武装する自由①　銃の現状＆合衆国憲法修正第2条　＊メディア授業（オンデマンド型）
第５回：映画『ボーリング・フォー・コロンバイン』を観て議論する
第６回：アメリカの銃で武装する自由②　銃規制できないのは憲法のせいか？　＊メディア授業（オンデマンド型）
第７回：第1回目課題報告と討論
第８回：フランスの風刺する自由①　風刺の自由と共和主義・政教分離　＊メディア授業（オンデマンド型）
第９回：映画『バベルの学校』を観る
第10回：フランスの風刺する自由②　フランスの表現の自由と風刺雑誌『シャルリ・エブド』をみてみよう　＊メディア授業（オンデマンド型）
第11回：第２回目課題報告と討論
第12回：フランスの風刺する自由③　規制しない理由――日本との比較　＊メディア授業（オンデマンド型）
第13回：授業内択一試験
第14回：レポートの書き方　＊メディア授業（オンデマンド型）
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意

＊この授業は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。
＊オンデマンド形式により実施する回については、第２回授業以降毎週月曜日19時までにOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の日までに必ず受講してください。
○この授業では、みなさんがこれまで学んできた知識や価値観とは違うものを学ぶことを重視します。その違いを楽しみながら、自分の知識や価値観を相対化して社会を見ることを学びます。したがって、みなさんが培ってきた既存の知識や価値観だけでは単位をとれません。
授業時間外でも一定の時間を割いて学ぶ必要があるので、そのつもりで履修してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で学んだことをいかして考える課題を2回提示し、それに関する小レポートを作成したうえで、授業時間に参加者で議論します。その準備を通じて予復習をしてもらいます。具体的に必要な情報の入手やまとめ方に関する方法は授業中に指示します。

５．教科書

特に指定しない。

６．参考書

小熊英二『市民と武装　アメリカ合衆国における戦争と銃規制』(慶應義塾大学出版会・2004年)
富井幸雄『共和主義・民兵・銃規制　合衆国憲法憲法修正第二上の読み方』(昭和堂・2002年)
エマニュエル・トッド『シャルリとは誰か？　人種差別と没落する西欧』(文春新書・2016年)
鹿島茂他篇著『シャルリ・エブド事件を考える（ふらんす特別編集)』(白水社・2015年)
芦部信喜（高橋和之補訂)『憲法（第七版)』(岩波書店・2019年)

７．課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、できるかぎり授業中にとりあげて、受講者全員で共有します。
授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各受講生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法

○成績評価
　１　授業内で行う4者択一試験50％
　２　対面授業のための課題とそれに基づく討論50％
　　＜授業時間中にフィードバックを兼ねて報告と討論を参加者全員で行い、質疑応答も加点の対象とします。＞
※詳細は第1回目の授業で指示します。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW361J

財産と法Ⅰ

2単位	3年次	齋藤　航

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
この授業では、財産関係の法律トラブル、特に卒業後の人生において直面する可能性が高い、不動産の購入・賃貸に関する法律問題を扱う。
具体的には、以下の内容について扱う。
①不動産の購入・賃貸を規律する法律の種類とその概要はどのようなものか
②不動産について法律でどのような内容が定められているか
③法律を用いることによって、具体的にどのような問題を解決することができるのか
これらについて、実際に社会で問題となっている具体的な事例を通じて説明する。
財産と法I・IIの両方を受講することで、社会経済活動における基本的な法律について理解することができる。
【到達目標】
①不動産取引に関する法律についての全体像と、基本的な知識を習得する
②具体的な事案について、習得した知識を用いて法的な解決策を考えることができるようになる

2．授業内容
第１回
a：ガイダンス
b：財産関係の法律の種類と内容
第２回　財産法の概要　債権と物権
第３回　家を買おう①売買契約・登記－地面師事件－
第４回　家を買おう②債務不履行－引渡し遅延・焼失－
第５回　家を買おう③契約不適合－水漏れ・傾き－
第６回　家を買おう④住宅ローンと担保－ローンを返せないとどうなる？－
第７回　家を買おう⑤共有・区分所有－管理組合・修繕－
第８回　家を貸そう・借りよう①賃貸借契約
第９回　家を貸そう・借りよう②敷金－敷金は本当に返ってくるのか－
第10回　家を貸そう・借りよう③家賃滞納－家賃を払えないとどうなる？－
第11回　家を貸そう・借りよう④借地借家法①－定期賃貸借－
第12回　家を貸そう・借りよう⑤借地借家法②－家賃値上げ－
第13回　家を貸そう・借りよう⑥家賃保証－家賃保証会社はなぜいるのか－
第14回
a：期末試験
b：解説
※各回で題材とする問題は、時事的な話題を踏まえ変更する可能性がある。

3．履修上の注意
1、wi-fi接続設定済みノートPCの持参
　第1回からwi-fiの接続設定を済ませたノートPCを持参すること。この授業では、教室にいる学生も含めて全員がzoomを用いながら受講し、授業中に課題を解いて、それを授業後に出席課題として提出してもらう。また授業中はzoomのマイクとカメラ、そしてPCの音声を切っておくこと。
2、レジュメの配布
　授業日の前日までにレジュメを配布するので、ダウンロードしておくこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習は基本的に不要。復習は配布するレジュメの内容を理解しておくこと。

5．教科書
指定しない。

6．参考書
指定しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
期末試験後に解説を行う。課題の解説は授業中に行う。

8．成績評価の方法
期末試験（60％程度）、授業中の課題（40％程度）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAW361J

財産と法Ⅱ

2単位	3年次	齋藤　航

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
この授業では、社会で生きていくために求められる財産の知識、特に投資に関する法律トラブルと相続および税金について学ぶ。
具体的には、以下の内容について扱う。
①「投資」と呼ばれるものにはどのようなものがあるか
②投資においてどのようなトラブルが発生するか
③それらのトラブルは、法律によってどのように解決されるか
これらについて、実際に社会で問題となっている具体的な事例を通じて説明する。
財産と法IIでは、株式や債券といった有価証券に関する投資を中心に、代表的な投資手法とそれに関する法的トラブルを扱う。
【到達目標】
①財産に関する法律についての全体像と、基本的な知識を習得する
②具体的な事案について、習得した知識を用いて法的な解決策を考えることができるようになる

2．授業内容
第1回
a：ガイダンス
b：授業の概要
第２回　株式投資①売却益と配当益－NISAとはなにか－
第３回　株式投資②株主の権利－株主になるとなにができる？－
第４回　株式投資③経営陣の不祥事
第５回　株式投資④M＆A－株主vs経営陣－
第６回　株式投資⑤インサイダー取引・説明義務
第７回　債券投資　国債・社債
第８回　現物投資①不動産－ワンルームマンション投資の罠－
第９回　現物投資②動産－ワイン・時計は投資になるのか－
第10回　相続－紀州のドンファン事件－
第11回　税金①確定申告・年末調整
第12回　税金②節税と脱税
第13回　破産－投資で大損、再スタートできるか－
第14回
a：期末試験
b：解説
※各回で題材とする問題は、時事的な話題を踏まえ変更する可能性がある。

3．履修上の注意
1、wi-fi接続設定済みノートPCの持参とzoomの使用
　第1回からwi-fiの接続設定を済ませたノートPCを持参すること。この授業では、教室にいる学生も含めて全員がzoomを用いながら受講し、授業中に課題を解いて、それを授業後に出席課題として提出してもらう。また授業中はzoomのマイクとカメラ、そしてPCの音声を切っておくこと。
2、レジュメの配布
　授業日の前日までにレジュメを配布するので、ダウンロードしておくこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習は基本的に不要。復習は配布するレジュメの内容を理解しておくこと。

5．教科書
指定しない。

6．参考書
指定しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
期末試験後に解説を行う。課題の解説は授業中に行う。

8．成績評価の方法
期末試験（60％程度）、授業中の課題（40％程度）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAW371J

ジェンダーと法A（ジェンダーと法Ⅰ）

2単位	3年次	堀口　悦子

1．授業の概要・到達目標

伝統的な法律学をジェンダーの視点から見直すのが「ジェンダーと法」である。ジェンダーに中立な法律とは、現実にありうるのだろうか。「ジェンダーに中立」とは何かを考えながら、各法律分野を見直してみると、今まで気づかなかった問題が見えて来るであろう。それは、日本の問題に限らず、世界の問題でもある。法として、「法律」を超えた幅広い「法」を見て行く。

「平等」を、考えてみよう。形式的平等と事実上の平等があることを、知ってほしい。

「差別」にも、関心を持ってほしい。差別には、直接差別と間接差別がある。インターセクショナリティ（交差差別）も視野に入れて、ダイバーシティ（多様性）も考えて行こう。ジェンダーとともに、セクシュアリティ・障害・人種・民族・年齢などのダイバーシティに留意して、法を複眼的に見て行く。

本講義を通じて、ジェンダーの視点から、日本と世界の法律問題を具体的に把握できるようにする。Aでは、とくに国際人権法を国連の組織を理解するとともに学んで行こう。法律を批判的に研究することを通して、「リーガル・リテラシー」の実践を行い、このことがアクティブ・ラーニングにつながるはずである。

「ジェンダーと法」は、日々、新しい情報があり、刷新している。シラバスと異なる場合もあるが、それは最新情報を伝えたいからである。

2．授業内容

各回のテーマは次のとおりである。

第１回　a:イントロダクション，b:国連とジェンダー～国連女性機関（UNウィメン）・ILO・ユネスコなどについて～
第２回　国際人権法（1）　女性差別撤廃条約
第３回　国際人権法（2）　女性差別撤廃条約一般勧告
第４回　国際人権法（3）　選択議定書　個人通報制度・調査制度
第５回　国際人権法（4）　選択議定書　事例紹介
第６回　国際人権法（5）　日本への「最終見解」
第７回　男女共同参加う社会基本法
第８回　「男女平等条例」　東京都と埼玉県の比較
第９回　ジェンダーギャップ指数ー日本は何位か？～女性議員をどう増やすか～候補者男女均等法
第10回　労働とジェンダー(1)　男女雇用機会均等法
第11回　労働とジェンダー(2)　ILO条約と国内法
第12回　家族法(1)　夫婦別姓と婚姻
第13回　家族法(2)　戸籍と家族
第14回　家族法(3)　離婚・子どもー失われた所得補償・扶養定期金・養育費
＊講義内容は、必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

「リアクション・ペーパー」は、授業終了時に、毎回、提出すること。「各自の授業への参加度」の基準となる。授業に対する質問・疑問・意見・批判などを自由に書いてほしい。批判などを書いても、不利に評価をしないので、真摯に、自由に書いて大丈夫である。「リアクション・ペーパー」は、本授業をより良くするためのものである。教員と学生の「双方向の授業」のための、ツールである。

毎回の授業のテーマに沿った「レポート」を400字程度で書いてもらう。これは、毎回のテーマをどれくらい理解しているかだけではなく、そのテーマについて自分の考えをまとめるための機会でもある。また、「書く力」を毎回の授業を通して、身に付けてほしい。

常に、テレビ等のニュース、新聞、雑誌記事、オンラインのニュースなどに、フェイクに留意しながら関心を持つこと。例えば、「フェアトレード」という言葉を知っていると思うが、その実践例や具体的な問題について知ろう。具体例を挙げれば、チョコレートの原料であるカカオ豆である。

内閣府男女共同参画局、法務省、厚生労働省および国連（UN）などのサイトに随時アクセスすることが望ましい。

ゲスト講師を招聘する授業を、予定している。リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて産婦人科医渥美治世氏。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習としては、上記の「履修上の注意」にも記載したが、メディアのニュースに関心を持って接してほしい。毎回、授業の最初に、メディアのジェンダー関連のニュース等を扱う。

復習として、授業時に配付した資料等を、学期中に、きちんと読んでおくこと。

授業時に紹介した、小説や映画などに、積極的に触れること。一例を挙げると、アメリカ映画『ボーダータウン　報道されない殺人者』がある。この作品は、女性差別撤廃条約・選択議定書の調査制度の第1号の公表ケースである、メキシコ・ケースを、映画化したものである。時間のあるときに観ておくことを、お勧めする。その他、アメリカ映画『ボーダーライン１・２』なども見てほしい。

5．教科書

特に、教科書は定めないが、随時必要な資料は、配付あるいは収集等のための指示をする。
『ルポ　貧困女子』　飯島裕子　岩波新書（期末レポートの課題図書）

6．参考書

授業内で、随時、配付予定。
『射精責任』　ガブリエル・ブレア著　村井理子訳　太田出版

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の「レポート」については、随時、Oh-o!Meijiの「授業のお知らせ管理」などで述べる。第14回のまとめで、全体的に、課題に対するフィードバックを行う。

8．成績評価の方法

授業への参加度20％、毎回のレポート20％、中間レポートと期末レポート40％、期末試験２0％

9．その他

ジェンダーと法Aのみの履修を可とする。

科目ナンバー：(IC)LAW371J

ジェンダーと法B（ジェンダーと法Ⅱ）

2単位	3年次	堀口　悦子

1．授業の概要・到達目標

伝統的な法律学をジェンダーの視点から見直すのが「ジェンダーと法」である。ジェンダーに中立な法律とは、現実にありうるのだろうか。「ジェンダーに中立」とは何かを考えながら、各法律分野を見直してみると、今まで気づかなかった問題が見えて来るであろう。それは、日本の問題に限らず、世界の問題でもある。「法律」よりも、より幅広い「法」を考える。

本講義を通じて、ジェンダーの視点から、日本と世界の法律問題を具体的に把握できるようにする。Bでは、とくに、ジェンダーに基づく女性に対する暴力を中心に学ぶ。女性に対して有害な慣習について勉強しよう。「名誉殺人」、「名誉犯罪」という言葉を聞いたことがあるだろうか。いまだに、女性であるがゆえに信じられないような状態に置かれている人々がいることを知ろう。2018年のノーベル平和賞の受賞者2名は、戦時下の女性に対する暴力への尽力が認められての受賞である。コンゴのムクウェゲ医師のドキュメンタリー『女を修理する男』を授業内での視聴覚資料とする。

一方、日本の刑法が改正されて、男性の性被害も認められるようになったが、そこには、男性特有の問題があることも考えよう。旧ユーゴの内戦での、民族浄化における「男性の被害」にも触れる。ダイバーシティ（多様性）とジェンダーの問題も知って、より幅広い価値観を身につけてほしい。

2．授業内容

各回のテーマは次のとおりである。

第１回　イントロダクション：　SDGsとジェンダー
第２回　ビジネスと人権原則１
第３回　ビジネスと人権原則２
第４回　国連決議1325ー女性と平和
第５回　映画「女を修理売る男」を観る
第６回　性暴力（1）　刑法改正～「性的同意」～
第７回　性暴力（2）　DV・デートDV
第８回　性暴力（3）　セクハラ等のハラスメント～ILO190号条約～
第９回　性暴力（4）　有害な慣習～名誉殺人・名誉犯罪・アシッドアタック・FGM等～
第10回　セクシュアル・アンド・リプロダクティブ・ライツ（1）刑法堕胎罪と母体保護法
第11回　セクシュアル・アンド・リプロダクティブ・ライツ（2）慣習、病気と差別ーハンセン病・HIV/エイズ
第12回　国内人権機構/機関
第13回　女性死刑囚　冤罪　徳島ラジオ商殺人事件
第14回　女性天皇
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

常に、テレビ等のニュース、新聞、雑誌記事、ネットのニュースなどに関心を持つこと。ジェンダーの問題だけではなく、日本、世界で、何が起きているかを知ろう。そして、自分の頭で考えてみよう。

内閣府男女共同参画局、法務省、外務省、厚生労働省および国連（UN）のサイトに、随時アクセスすることが望ましい。

ゲスト講師を、招聘する予定である。性暴力被害当事者であり、刑法改正などに尽力している、法務省刑法改正検討会委員である山本潤氏など。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

復習として、授業時に配付した資料等は、学期内に読んでおくこと。

ネットのハフィントンポストなどの、ジェンダーに敏感な視点を持つメディアの情報や、既存のメディアのジェンダー関連のニュースなどに、日常的に関心を持ってほしい。

授業時に紹介した、ドラマ、映画、小説、漫画などに、触れること。例を挙げると、映画『チョコレート・ドーナツ』が、お勧めである。この作品は、ゲイやダウン症などの、マイノリティ（セクシュアリティ及び障害）の問題を、交差的（インターセクショナリティ）に取り上げている。

また、韓国ドラマ「ロースクール」は、デートDVだけではなく、メーガン法等ペドファイルの問題など、多様なテーマを取り扱っているので、「ジェンダーと法」に関心を持っている学生には、特にお勧めである。

テレビ番組では、NHK総合テレビ月曜日22時「映像の世紀」、フジテレビ日曜日14時ドキュメント、日本テレビ日曜日深夜NNNドキュメントなども、観てほしい。

5．教科書

必要な資料等は、授業時に配布するか、自分で調べてもらう場合がある。
『裸足で逃げる』　上間陽子　ちくま文庫　（秋学期のレポート課題図書）

6．参考書

授業内で、随時、配付予定。
『射精責任』　ガブリエル・ブレア著　村井理子訳　太田出版

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の「レポート」に関しては、Oh-o!Meijiの「授業のお知らせ管理」等で述べる。第14回のまとめで、全体の課題に対するフィードバックについても扱う。

8．成績評価の方法

授業への参加度20％、毎回の授業レポート20％、中間レポートと期末レポート４0％、期末試験２0％

9．その他

科目ナンバー：(IC)MAN321J

ジェンダー・マネジメントⅠ

2単位	3年次	梅田　恵

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
1990年代から企業の経営戦略として注目されてきた「Diversity & Inclusion（D&I）」は、一人ひとりの能力を引き出し、チーム力を高める重要な概念です。本授業では、ジェンダー・マネジメントを中心に、D&Iの基本的な考え方や歴史的背景を学びます。また、近年の批判的な視点や課題についても取り上げ、なぜ今D&Iが必要なのかを理解します。性別、セクシャリティ、国籍、肌の色、障害の有無などに関わらず、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向けて、基礎知識を身につけることを目的とします。
【到達目標】
• ジェンダー・マネジメントおよびD&Iの定義と歴史的背景を説明できる。
• ジェンダー・マネジメントやD&Iが企業や社会に与える影響を理解し、批判的視点も含めて整理できる。
• インクルーシブな社会の必要性を自分の言葉で説明できる。
Course Overview
"Diversity & Inclusion (D&I)," which has attracted attention as a corporate management strategy since the 1990s, is an important concept for unlocking individual potential and strengthening team performance. In this course, we will focus on gender management while learning the fundamental ideas and historical background of D&I. We will also address recent critical perspectives and challenges to understand why D&I is essential today. The goal is to acquire foundational knowledge for creating a society where everyone—regardless of gender, sexuality, nationality, skin color, or disability—can live authentically.
Learning Objectives
• Explain the definitions and historical background of gender management and D&I.
• Understand and critically analyze the impact of gender management and D&I on businesses and society.
• Articulate, in your own words, the necessity of an inclusive society.

2．授業内容
前期（D&Iの基礎・人的資本経営・ジェンダー・マネジメント）
授業方法のベース：ショートレクチャー＋小グループ・ディスカッション／ケーススタディ／リフレクション・ジャーナル（毎週）
第１回：イントロダクション＆DE&I概説（基礎）
• ねらい：Diversity ／ Equity ／ Inclusionの定義・違い・目的を理解し、授業規範（尊重・守秘）を共有。
第２回：人的資本経営とD&I（企業がD&Iに取り組む背景）
• ねらい：人的資本の考え方（ヒトを"資源"でなく"資本"と捉える）とD&Iの接点を学ぶ。
第３回：D&Iをめぐる論争—分断の懸念と対話の設計
• ねらい：D&Iへの批判的視点を理解し、合意形成フレーム（ルール設定／チャータリング）を体験。
第４回：アンコンシャス・バイアス（UB）入門
• ねらい：UBのメカニズムと、日常での"気づき→切り替え"の手順を学ぶ。
第５回：ジェンダー・マネジメント①—指標と現状（日本・世界）
• ねらい：ジェンダー・ギャップ指標と"パイプライン"課題を理解。
第６回：ジェンダー・マネジメント②—採用・評価・昇進の設計
• ねらい：構造化面接／評価ルーブリックでバイアスを減らす方法を学ぶ。
第７回：ジェンダー・マネジメント③—リーダーシップ＆意思決定
• ねらい：スポンサーシップ／メンタリングの違いと設計ポイント。
第８回：ゲスト①：企業で働く女性管理職
• ねらい：現場の意思決定・キャリア形成・制度運用のリアルを学ぶ。
第９回：セクシャリティと職場インクルージョン（LGBTQ＋）
• ねらい：アライシップの基本と、制度（福利厚生等）のポイントを理解。
第10回：ゲスト②：LGBTQ＋当事者×企業
• ねらい：社内制度の実効性とコミュニケーション課題を知る。
第11回：障害インクルージョン＆アクセシビリティ（UD基礎）
• ねらい：合理的配慮とユニバーサルデザインの原則を理解。
第12回：ゲスト③：障害のある社員×企業
• ねらい：職務設計／支援技術／評価・定着支援の実際を学ぶ。
第13回：日本の制度・ガイドライン（概説）と企業事例分析
• ねらい：国内法制度の要点と"成功／失敗"要因の見取り図。
• 活動：グループ事例プレゼン準備（役割分担・構成）。
• 課題：スライド草案（2–3枚）。
第14回：前期まとめ／事例発表＆ディブリーフィング
• ねらい：学びの統合と後期への接続（自分の行動宣言）。
• 活動：グループ発表→ピアレビュー→全体ふりかえり。
• 課題：前期総括レポート（1000–1200字）。

3．履修上の注意
• リスペクト＆インクルージョン：多様なバックグラウンドを尊重し、相手の発言を遮らない・揶揄しない。**守秘（コンフィデンシャリティ）**を徹底します。
• 心理的安全性：不安なく意見を出せる場づくりに協力してください（否定的な反応や「決めつけ」表現の抑制、言い換えを推奨）。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業中に配付するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な 部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容に ついてレジュメや参考書に目を通しておくこと。

5．教科書
特に定めない

6．参考書
特に定めない

7．課題に対するフィードバックの方法
第14回の講義で講評を行います

8．成績評価の方法
• レポート（40%）：D&Iの背景や課題についての考察。
• 小テスト（30%）：基本概念・用語の理解度確認。
• 授業参加（30%）：ディスカッションへの積極的な参加。

9．その他
感情的負荷が高いテーマでは休憩可・匿名メモ提出可。教員へ個別相談の時間も設けます。

科目ナンバー：(IC)MAN321J

ジェンダー・マネジメントⅡ

2単位	3年次	梅田　恵

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
後期では、インクルーシブな社会を実現するために、私たちが主体的にできることを探ります。D&Iを実践するための心構えや具体的なアプローチを学び、グループワークや事例分析を通じて、自分自身の行動に落とし込む力を養います。未来をより良くすることは、今を生きる私たちの権利であり責任です。本授業を通じて、D&Iの理念を自分の生活や仕事にどう活かすかを考え、実践の第一歩を踏み出します。
【到達目標】
• D&Iを実践するための具体的な方法を説明できる。
• 自分の生活や職場で取り組めるD&Iアクションプランを作成できる。
• グループワークを通じて多様な視点を尊重し、協働できる。
Course Overview
In the second semester, we will explore what we can proactively do to help create an inclusive society. Students will learn the mindset and practical approaches for implementing D&I, and through group work and case analysis, develop the ability to translate these concepts into personal actions. Making the future better is both our right and our responsibility as people living in the present. Through this course, you will consider how to apply the principles of D&I to your own life and work, and take the first step toward putting them into practice.
Learning Objectives
• Explain specific methods for implementing D&I.
• Develop an action plan for promoting D&I in your personal life and workplace.
• Respect diverse perspectives and collaborate effectively through group work.

2．授業内容
後期（基礎強化＋企業事例の応用／ Well Being ／マジョリティ特権・マイクロアグレッション）
授業方法のベース：動画視聴＋解説／ワークシート型の演習／グループで"身近な改善アイデア"づくり／ジャーナル（毎週）
第１回：イントロダクション＆前期の復習
• ねらい：前期のキーワードと学びを再確認／後期のゴール共有。
第２回：企業のD&I実践事例（動画＋解説）
• ねらい：現場の取り組みを"良い点／課題"の視点で見る。
第３回：採用・評価・働き方の基本制度を知る
• ねらい：ジョブ型／評価会議／柔軟勤務（在宅・フレックス）などの基礎理解。
第４回：アンコンシャス・バイアス再確認（行動レベル）
• ねらい：日常場面で"気づく→言い換える→建設的に伝える"を練習。
第５回：ゲスト①：女性管理職（実践編）
• ねらい：制度導入の"つまずき"と乗り越え方を知る。
• 活動：トーク＋施策設計対話（小グループで質疑）。
第６回：LGBTQ＋と企業の取り組み（基礎）
• ねらい：アライシップ／周知・相談窓口／プライバシー配慮の基礎。
第７回：ゲスト②：LGBTQ＋当事者×企業（実践編）
• ねらい：制度の"運用上の課題"とコミュニケーション設計。
第８回：障害者インクルージョン（基礎）
• ねらい：合理的配慮・UDの"現場適用"の基本。
第９回：ゲスト③：障害のある社員×企業（評価・定着支援）
• ねらい：職務再設計／支援技術／評価・定着KPIの考え方。
第10回：Well Being（ウェルビーイング）と働き方
• ねらい：Well Beingの概念（身体・精神・社会）と企業での実践を理解し、自分の生活に落とし込む。
第11回：マジョリティの特権とマイクロアグレッション
• ねらい：多数派の特権構造を理解し、微細な差別的言動（マイクロアグレッション）を見分け・予防する。
第12回：企業事例分析（グループ）
• ねらい：複数企業の公開事例から"改善アイデア"をまとめる。
• 活動：比較分析→改善アイデアの絞り込み／役割分担。
• 課題：スライド草案（2枚：現状→改善案）。
第13回：最終発表準備（ピアレビュー＆磨き込み）
• ねらい：論理の整合性／実現可能性／伝え方を強化。
• 活動：模擬発表→ピアフィードバック→修正。
• 課題：最終スライド完成。
第14回：最終発表＆ふりかえり
• ねらい：学びを可視化し、次の行動に接続。
• 活動：グループ発表（5–7分）→質疑→ふりかえり。
課題：後期総括レポート（800–1000字）。

3．履修上の注意
ジェンダー・マネジメントⅠの履修が前提

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業中に配付するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な 部分があれば授業で質問すること。また、次の回の内容に ついてレジュメや参考書に目を通しておくこと。

5．教科書
特に定めない

6．参考書
特に定めない

7．課題に対するフィードバックの方法
第14回の講義で講評を行います

8．成績評価の方法
グループ発表30%／個人レポート・ジャーナル30%／授業参加（ワーク提出含む）40%

9．その他
感情的負荷が高いテーマでは休憩可・匿名メモ提出可。教員へ個別相談の時間も設けます。

科目ナンバー：(IC)SOC321J

社会思想史

2単位	3年次	時安　邦治

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

西洋近代の著名な哲学者・思想家が社会をどう捉えたかを時代順に見ていき、重要な概念や考えについて講義する。話題の中心は、理性と自由と道徳（倫理）をめぐる議論である。これら3つの概念は、近代社会の基礎的な枠組みを語るうえでの必須の概念であろう。理性的存在者としての人間にとって自由とはどういう意義をもつのか。そして、道徳は理性や自由とどのような関係にあるのか。現代のわれわれ今考えるべき課題は何なのか。こうしたテーマを念頭に置きつつ、授業を進める。

【到達目標】

（1）西洋近代の社会思想史上重要な概念の意味や背景などについて理解し、説明できるようになる。

（2）それぞれの思想家について、その人物が生きた時代や社会と、その著作の内容とを関連づけて理解し、説明できるようになる。

2．授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　近代的思考の特徴――ベーコンとデカルト
第3回　自然法思想と社会契約説――ホッブズ
第4回　所有権と国家――ロック
第5回　理性と進歩――フランスの啓蒙思想家たち
第6回　政治的自由――ルソー
第7回　道徳感情と市場――スミス
第8回　理性の限界――カント（1）
第9回　道徳と啓蒙――カント（2）
第10回　人倫としての国家――ヘーゲル
第11回　資本主義の超克――マルクス
第12回　功利主義――ベンサムとミル
第13回　合理化の行方――ニーチェとヴェーバー
第14回　授業のまとめ

3．履修上の注意

講義の内容は概説的あるいは入門的なものとなる。哲学・思想に興味があれば初学者でも十分に理解できる内容である。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業前にクラスウェブから講義資料を配付するので、それをしっかり読んでおくこと（1時間）。また､授業後には自習用文献を読み（2時間）、よく復習をしたうえで、小テストに取り組むこと（復習とテストを合わせて1時間）。

5．教科書

教科書は使用せず、授業資料をクラスウェブで配布する。

6．参考書

『入門・倫理学の歴史――24人の思想家』柘植尚則編著（ナカニシヤ出版）。
『哲学史入門II――デカルトからカント、ヘーゲルまで』斎藤哲也編（NHK出版）。
『ヨーロッパ社会思想史　新版』山脇直司（東京大学出版会）。
『よくわかる哲学・思想』納富信留／檜垣立哉／柏端達也編（ミネルヴァ書房）。
『自由を考える――西洋政治思想史』杉本竜也（日本経済評論社）。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストはテスト後に正解と得点を表示する。学期末レポートについては成績評価の項目と基準（ルーブリック）を示す。それにより、自分の課題・レポートの到達水準（または達成できなかった項目）が確認できる。

8．成績評価の方法

成績は小テスト約50点、学期末レポート約50点で評価する。順位が変わらない方法で成績分布を調整することがある。

9．その他

質問等はメールで受け付ける。メールアドレスは新年度開始以降、クラスウェブの「シラバスの補足」欄に掲載する。

科目ナンバー：(IC)SOC341J

社会福祉学A

2単位	3年次	近藤　佐保子

1．授業の概要・到達目標

「ひとはひとりひとり違って皆すばらしい。一人として同じ人はいない。できることとできないことは皆違う。それが個性である。そして､『障害』と考えられてきたものも、それは『個性』である。」それが、今日における「ノーマライゼーション」やＷＨＯのＩＣＦ（国際生活機能分類）における「障害」のとらえ方となっています。本科目では、社会福祉の考え方の紹介を通じて、こうした「自分とは違った個性をもった他者」に対する考え方の理解を目指します。

講義前半では、少子高齢化などの現代社会の抱える問題を紹介し、社会福祉の概観を解説していきます。後半では、いろいろな社会福祉の領域の中から、高齢者福祉と障害者福祉の二つについて、その考え方と制度の概要を解説します。

本講義の到達目標は以下の通りです。

①「ノーマライゼーション」や「ＩＣＦ」の考え方を理解する
②我が国の「高齢者福祉」および「障害者福祉」に関する制度の概要を理解する
③「社会的弱者」に対する関わり方や、現代の福祉社会のあるべき姿、そこに参加していく自分のあるべき姿を理解する

2．授業内容

［第1回］イントロダクション　―社会福祉とは何か？その基本的な考え方―
［第2回］現代社会と福祉　―社会福祉をとりまく状況・現代社会での問題―
［第3回］社会福祉の成立と展開　―日本と主要各国における展開―
［第4回］法律からみた考え方　―市民法と社会法―
［第5回］社会福祉の仕組みと運営　―社会福祉をめぐる法律と行政のしくみ―
［第6回］社会福祉の機関と施設　―社会福祉はどのような機関により運営されるか―
［第7回］高齢者福祉（1）少子高齢社会と社会問題
［第8回］高齢者福祉（2）高齢者支援の関連法規
［第9回］高齢者福祉（3）介護保険制度の基本的枠組み
［第10回］高齢者福祉（4）高齢者を支援する組織と役割
［第11回］障害者福祉（1）障害者をめぐる社会情勢と障害に対する考え方
［第12回］障害者福祉（2）障害者に関わる法体系
［第13回］障害者福祉（3）障害者自立支援制度の基本的な仕組み
［第14回］まとめ　―これからの社会福祉の課題―

3．履修上の注意

テレビの福祉関係の番組にも目を向けてみましょう。また、新聞などのメディアには、高齢者問題や障害者福祉に関わる論説などが頻繁に掲載されています。社会福祉に関する知識は、特に履修に関する要件ではありませんが、日頃から、これらの問題に関心を持ち、メディアなどにも目を向けておくと理解の助けになるでしょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

○予習について
教科書の次回のところを指示した場合は該当箇所を読んできてください。また､次回分のプリントを配布することがありますので､その場合は、該当資料を読んできてください。
○復習について
前回の内容は、再度目を通し、確認・理解をしたうえで、毎回の授業に臨んでください。

5．教科書

山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉　第11版』ミネルヴァ書房
その他、プリント・ファイルとして適宜配布する。

6．参考書

社会福祉士養成講座編集員会編『現代社会と福祉　第４版』中央法規
社会福祉士養成講座編集員会編『高齢者に対する支援と介護保険制度　第６版』中央法規
社会福祉士養成講座編集員会編『障害者に対する支援と障害者自立支援制度　第６版』中央法規
宮田和明他編『現代の社会福祉入門』（株）みらい
宮武剛監修『現代の社会福祉　100の論点Vol.2』全国社会福祉協議会
岩田正美著『現代の貧困―ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書
その他、授業中に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

各課題については、授業内またはOh-o ！ Meiji上で解説を行う。

8．成績評価の方法

授業への参加を20%程度、複数回の授業時の課題を80％として総合的に評価する。
期末テストは実施しない予定。

9．その他

科目ナンバー：(IC)SOC341J

社会福祉学Ｂ

２単位	３年次	近藤　佐保子

１．授業の概要・到達目標
「刑務所出所者」というとどのようなイメージを描くでしょうか？極悪非道の悪者でしょうか？もちろんいろいろな人がいるでしょう。しかし彼らの中にかなりの割合で、障害者や貧困者といった社会的弱者が含まれる事を知っているでしょうか？彼らの多くは社会の中に包摂されることなくまた犯罪を繰り返してしまいます。近年、司法と福祉が連携して彼らに福祉の手を差し伸べることが再犯防止には不可欠であることが提唱されてきました。
社会福祉の目指す姿は、すべてのひとを社会の中へと包摂すること（＝インクルージョン）です。本科目では、上記、罪を犯した人のほか、低所得者、精神障害者などをトピックとしてとりあげ、彼らの現状を理解した上で、社会的包摂の在り方の理解を目指します。
社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉専門員等として福祉に関わり、また保護司として保護観察に携わっている私自身の体験などにも触れながら、福祉の実践と共生社会の在り方を考えていきます。
本講義の到達目標は以下の通りです。
① 精神障害者の支援について歴史的背景から我が国の特徴を理解する
② 更生保護と医療観察制度について理解する
③ 障害者の就労支援・居住支援を理解する
④ ソーシャル・インクルージョンを理解する

２．授業内容
［第１回］イントロダクション　―社会福祉の基本的な考え方―
［第２回］社会福祉の概要
［第３回］法的支援　―権利擁護と成年後見制度―
［第４回］精神保健福祉の歴史と動向（1）　―日本の精神保健福祉の変遷―
［第５回］精神保健福祉の歴史と動向（2）　―諸外国の精神保健福祉の変遷―
［第６回］罪を犯した人の社会復帰支援（1）　―刑罰の目的と司法福祉を考える―
［第７回］罪を犯した人の社会復帰支援（2）　―更生保護制度と医療観察制度―
［第８回］精神障害者に対する支援と社会復帰（1）　―障害者総合支援法と精神障害―
［第９回］障害者の生活支援システム（1）　―障害者の就労支援―
［第10回］障害者の生活支援システム（2）　―障害者の居住支援―
［第11回］障害者のリハビリテーション　―全人的復権とリカバリー―
［第12回］障害者の家族支援　―家族システムズ論・家族教育プログラム―
［第13回］ＤＶ被害者に対する支援と社会復帰　―現代社会におけるＤＶの背景と特徴・その影響―
［第14回］まとめ　―今後のインクルージョン（社会包摂）に向けて―

３．履修上の注意
社会福祉論Ａの履修は本科目の履修要件ではありませんが、合わせて履修しておくと、理解が進むでしょう。
テレビの福祉関係の番組などにも目を向けてみましょう。また、新聞などのメディアには、社会福祉に関わる論説が頻繁に掲載されています。社会福祉に関する知識は、特に履修に関する要件ではありませんが、日頃から、これらの問題に関心を持ち、メディアなどにも目を向けておくと理解の助けになるでしょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
○予習について
　教科書や配布プリントで次回やるところを指定することがありますので、その場合は、該当資料を読んできてください。
○復習について
　前回の内容は、再度目を通し、確認・理解をしたうえで、毎回の授業に臨んでください。

５．教科書
精神保健福祉士シリーズ７『精神保健福祉に関する制度とサービス　第３版』弘文堂
その他、プリント・ファイルとして適宜配布する。

６．参考書
精神保健福祉士シリーズ２『精神保健の課題と支援　第２版』弘文堂
精神保健福祉士シリーズ５『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　第２版』弘文堂
精神保健福祉士シリーズ８『精神障害者の生活支援システム　第３版』弘文堂
山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉　第11版』ミネルヴァ書房
社会福祉士養成講座編集員会編『現代社会と福祉　第４版』中央法規
松本勝編著『更生保護入門　第４版』成文堂
その他、授業中に適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
各課題については、授業内またはOh-o ！ Meiji上で解説を行う。

８．成績評価の方法
授業への参加を20%程度、授業時の複数回の課題を80％として、総合的に評価する。
期末試験は実施しない予定。

９．その他

科目ナンバー：(IC)INF341J

情報産業論

２単位	３年次	山内　　勇

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
「情報化社会」、「データ・エコノミー」と呼ばれる現在の社会や経済を理解するうえで、情報産業の実態を把握することは欠かせない。この授業では、情報技術の発達を背景にした情報産業の成立とその構造について、主に経済学的な観点から解説していく。特に、情報技術とビジネスモデルの変化や、それが産業構造や社会構造に与える影響に着目した講義を行う。
【到達目標】
講義を通じて、情報技術と情報産業の関係や、それらと社会・経済との関係について、自分なりの考えをまとめられるようになることが到達目標である。

２．授業内容
第１回　イントロダクション：情報産業論の概要
第２回　AIの予測モデル
第３回　第4次産業革命、付加価値
第４回　産業連関表
第５回　デジタル化の経済学１（利潤最大化、効率性）
第６回　デジタル化の経済学２（独占的競争）
第７回　デジタル化の経済学３（取引費用）
第８回　AIの活用と価値基準
第９回　相関と因果の識別
第10回　情報の民主化
第11回　非価格競争
第12回　プラットフォーマーの成立過程
第13回　デジタル化に関する実証分析
第14回　データ保護に関する実証分析

３．履修上の注意
授業時間中に簡単な課題を課すことがある。
なお、履修者の理解度や希望等に応じて内容を変更する可能性がある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：授業で扱う内容について、参考書等から事前に予備知識を得ておくこと。また、問題意識や疑問点を明確にしておくこと。
復習：授業中に解説した内容・課題を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。授業中に解決しなかった疑問点については質問すること。

５．教科書
特に指定しない（毎回資料を配布する）。

６．参考書
総務省『令和7年版 情報通信白書』2025年
『産業組織論への招待』西村淳一・山内勇著（新世社）2025年
『イノベーション&マーケティングの経済学』金間大介・山内勇・吉岡（小林）徹著（中央経済社）2019年

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中に解説を行う。
授業後やメールでの質問も受け付ける。

８．成績評価の方法
定期試験 70%、授業中の課題 30%
※別途、授業への貢献（発言等）に対して加点することがある。

９．その他

科目ナンバー：(IC)INF341J

情報システム論

２単位	３年次	野口　喜洋

１．授業の概要・到達目標

情報システムとは、情報の伝達・蓄積・処理・サービスを行なうシステムの総称です。個別分野で働くシステムから社会全体の情報インフラまで、さまざまな種類・規模のシステムが開発・利用されています。また近年では、計算機システム単体ではなく、人的システムまで含めてビジネスモデルが設計されたり、**人工知能（AI）やロボット、量子コンピュータ、モノのインターネット（IoT）**を構成要素として含むシステムも増えてきました。

この授業では、実社会で利用されているさまざまな情報システムについて概観し、履修者のみなさんがケーススタディとして具体的な情報システムを1つ選んで調査を行いプレゼンテーションすることで、最新の情報システムについて総合的に理解することを到達目標としています。さらに３・４年生対象の授業として、これから社会に出るにあたり大切なプレゼンテーション能力の向上にも役立ちます。

２．授業内容

［第１回］ａのみ：イントロダクション、情報システムとは
［第２回］情報システムの3大要素1：コンピュータ
［第３回］情報システムの3大要素2：インターネット
［第４回］情報システムの3大要素3：データベース
［第５回］教育・スポーツ分野の情報システム
［第６回］パーソナル分野の情報システム
［第７回］交通分野の情報システム
［第８回］仮想現実（VR）・エンターテインメント分野の情報システム
［第９回］エネルギー分野の情報システム
［第10回］人工知能(AI)・ロボット分野の情報システム
［第11回］農業分野の情報システム
［第12回］工業・物流分野の情報システム
［第13回］経済・流通・金融分野の情報システム
［第14回］社会インフラとしての情報システム
第６回～第14回のスケジュールは、発表者（履修者）の人数や予定により変更します。

３．履修上の注意

この授業は教室で行う対面授業です。オンデマンド型ビデオ教材（予習・復習用）、Web講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-o! Meijiの科目トップページにリンクがある「授業ポータル」（http://www.isc.meiji.ac.jp/~ri03037/meiji2.html）と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「何回目の授業」かを意識してください（各科目の表の最下行とは限らない）。

「課題レポート（この科目では各自の発表資料）」の提出は、Oh-o! Meijiのレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。

授業時間外の質問は、講師宛のメール（mailto:yamanoguchi.yo@nifty.com）に送ってください。回答までに2～3日かかる場合があります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習としてWeb講義資料の該当部分を読んでください。Web講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていなくても、全回分を読めます。オンデマンド型ビデオ教材（各分野の「フィールドサマリー」を収録）を視聴する必要はありません。

また、授業中の理解が不十分なところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用して復習し、理解してください。

課題レポート（提出物を伴う課題）は、基本的には授業時間以外の作業を必要としませんが、テーマ決定・選択・素材探しなどは各自判断して行ってください。また、作業に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

５．教科書

指定しません。

６．参考書

「授業ポータル」からリンクされているWeb講義資料は、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自のPC画面を最大限活用するために、Web講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

７．課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、メール等の手段でフィードバックを返すことがあります。

８．成績評価の方法

平常点（授業への参加度および貢献度）50%、課題レポート 50%。

出席の登録は、Oh-o! Meijiの「クラスウェブ／出席送信」機能を用いて行います。30分以上の遅延は「遅刻」扱いにします。「早退」の扱いはありません。

部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時は、事後に申し出てくだされば、出席扱いにします。

課題レポートの提出はOh-o! Meijiの「クラスウェブ／レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。

この授業では、定期試験は行いません。

９．その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、その分のWeb講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴して、キャッチアップ（他の履修者のレベルに追いつく）してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習（予習・復習等）の内容」欄に示した方法で予習・復習するのと、内容的には同じです。

科目ナンバー：(IC)SOC331J

情報社会論Ａ

２単位	３年次	江下　雅之

１．授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
産業および社会の情報化の進展を社会科学の総合的な視点から講義する。産業革命との関連性を出発点に、情報化にともなう産業構造・就業構造の転換、社会生活の変容および個人のライフスタイル等と技術革新との相互作用的な影響を解説する。また、情報化にともなう消費社会、監視社会、管理社会の実相を具体的に解説する。
〈到達目標〉
この講義を通じ、社会と情報、社会とICTとの相互作用的な関係を、歴史的な文脈のなかで理解することを到達目標とする。とりわけ、技術の進歩が一方的に社会を変容するのではなく、社会の変化が技術を選択するメカニズムが存在することを理解する。近年はAIの社会的影響が幅広く議論されているが、AIに限らず、ICTが産業構造や就業構造に及ぼす影響を多角的に理解する。これらの理解を通じ、現代社会における情報化の方向性を受講生は批判的に考察できよう。

２．授業内容

【この科目はクォーター（７週）完結型授業】
授業は「1　情報化による社会の変化」「2　産業の情報化」「3　私的な生活の情報化」「4　情報社会のジレンマ」の4パートで構成される。各回のテーマは次の通りである。
第１回：授業の全体像の説明〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：1.1　情報化とライフスタイル
第３回：1.2　社会論としての情報社会論〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：1.3　企業経営と働き方
第５回：2.1　流通業の情報化〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：2.2　金融とサービス産業の情報化
第７回：2.3　モノとモノづくりの情報化〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：3.1　生活場面の情報化〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：3.2　消費における情報化
第10回：3.3　non placeコミュニティの人間関係
第11回：4.1　監視社会としての情報社会〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：4.2　管理社会としての情報社会
第13回：4.3　極端な社会の功罪
第14回：総括（情報社会の「いま、ここ」）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊以上の内容は2025年度に実施した講義の構成です。授業期間前に変更が確定した場合はイントロダクション動画で説明します。
＊授業期間開始後であっても、講義内容および回の順序は必要に応じて変更することがあります。変更の際は Oh-o Meiji の「お知らせ」であらかじめ連絡します。

３．履修上の注意

この科目は、クォーター（7週）完結型授業である。週に2コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。
オンデマンド形式により実施する回については、原則として毎週木曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。その次の回の対面授業の日までに必ず受講すること。
動画の配信スケジュールはイントロダクション動画でかならず確認すること。
講義資料（講義ノート、スライドのダイジェスト版）をOh-o Meijiで配布する。
講義ノートは原則として各パートの終了後に公開する。かりに講義内容と細かな点で違いがあるときは、講義ノートの内容に準拠するものとする。講義ノートに訂正箇所が発生した場合は Oh-o Meiji で知らせる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配付されるスライドのダイジェスト版を授業前に一読し、必要に応じて講義に持参すること。講義中は適宜ノートを取り、講義ノートの公開後は内容を照らし合わせて講義内容を再整理すること。

５．教科書

使用しない。ただし、講義ノートが復習用ではあるが実質的に教科書とおなじ内容のものとなる。

６．参考書

講義ノートでセクションごとに詳しく紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに対し Oh-o Meiji で評価をコメントする。また、個別のフィードバックは希望があれば Oh-o Meiji のポートフォリオを通じて随時対応する。

８．成績評価の方法

中間レポートと期末レポートで評価する（評価の構成比は各50%）。
各パートごとにレポート課題を設定する。授業は4パートで構成されているので、全体で4課題（各課題3テーマ）が提示される。
中間レポートとしてPart.1またはPart.2のいずれか一方を、期末レポートとしてPart.3またはPart.4のいずれか一方を各自が選択すること。中間レポートを提出しなかった者は、その時点でF評価が確定する。また、中間レポートを提出しても期末レポートの提出がなければ、やはりF評価となる。
提出期限はパートごとに設定する。Part.1とPart.2の両方のレポートを提出した場合は、評価の高い方を中間レポートとして採用する。Part.3とPart.4の両方のレポートを提出した場合も、評価の高い方を期末レポートとして採用する。したがって、Part.1の評価が低かった場合はPart.2で、Part.3の評価が低かった場合はPart.4で挽回が可能である。
以上のことから、どうしてもこの科目の単位取得が必要な者は、中間レポートとしてPart.1を、期末レポートとしてPart.3を提出し、必要に応じてPart.2、Part.4で挽回を目指すこと。これ以上の「救済措置」は一切取ることができない。

９．その他

質問がある者は、Oh Meijiのポートフォリオあるいは教員へのメッセージ機能を利用すること。
レポートの作成に際して生成AIの使用はとくに禁止しないが、使用した場合は、かならず使用したことをレポート内で明記すること。なお、2023～2025年度の授業においても生成AIを使用したと判断できるレポートの例があったが、合格レベルに達しているといえないものが多かった。生成AIはレポートの自動作成システムではないので、課題文を単純に質問しても正確な答えは返ってこない。生成AIは質問者が学習データを適切に提供する必要があるため、次のプロセスが不可欠である。
1）事前にレポートの基本的な構成を練る。
2）個々の構成の中心となるトピックスを立てる。
3）順序だって対話的に生成AIに質問する。
4）返ってきた内容を自分でファクトチェックする。
生成AIを利用したいときは、Oh Meijiのレポート用トピックスに示された注意事項を参考にすること。
なお、パラグラフ・ライティングがなされていない、「です・ます」調で書かれている、特徴を列記しただけ等のレポートは、大幅に減点される。

科目ナンバー：(IC)SOC331J

情報社会論Ｂ

２単位	３年次	江下　雅之

１．授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
情報化という現象を「武器としての情報」という視点から再構築し、現代に至るまでの情報化がもたらした大変革を講義する。とりわけインテリジェンス活動とハイブリッド戦争という国際紛争における新たな形態の具体的な展開、国レベルでのプロパガンダからパブリック・ディプロマシーに至るまでの国家的な広報戦略、情報の公共的な価値の重要性とアーカイブの実態、市民社会における情報公開の必要性、市民活動における動員力と影響の伝搬力、サイバー空間における市民的な自由などについて、近年における具体的な事件の紹介も含めて詳細に解説する。
〈到達目標〉
この講義を通じ、情報とコミュニケーションが現代社会および現代の国際関係のなかで果たしている意味を理解することを到達目標とする。とりわけ、現在の国際社会においてソフトパワーが注目されていることの背景と必然性、ハードパワーの衝突の典型である戦争においても情報戦への取り組みが重要な国家戦略となっていることが必然的であることを理解する。また、国家が情報を管理すべき必要性と秘匿の問題点、それを監視すべき市民の役割の重要性を理解する。これらの理解を通じ、現在進行形の情報化における個人の役割が巨視的な構造のなかでどう位置づけられるかを受講生は考察できよう。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業】
授業は「1　国家の情報戦略」「2　情報の自由と秩序」「3　情報の生態系」「4　つながりの突破力」の４パートで構成される。各回のテーマは次の通りである。
第１回：授業の全体像の説明〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：1.1　インテリジェンスと情報機関
第３回：1.2　情報とメディアによる戦争〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：1.3　国による広報戦略
第５回：2.1　情報管理と情報公開
第６回：2.2　情報活動の統制と越境〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：2.3　サイバー空間の盾と矛
第８回：3.1　商業ジャーナリズムとオルターナティブ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：3.2　マスメディアとメディア産業
第10回：3.3　なにが「正しい」情報なのか〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：4.1　社会ネットワークと社会関係資本
第12回：4.2　動員力が発揮された活動〔メディア授業（オンデマンド型）
第13回：4.3　影響の伝搬
第14回：総括（情報化の〈これから・どこ〉）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊以上の内容は2025年度に実施した講義の構成です。授業期間前に変更が確定した場合はイントロダクション動画で説明します。
＊授業期間開始後であっても、講義内容および回の順序は必要に応じて変更することがあります。変更の際は Oh-o Meiji の「お知らせ」であらかじめ連絡します。

３．履修上の注意
この科目は、クォーター（7週）完結型授業である。週に2コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。
オンデマンド形式により実施する回については、原則として毎週木曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。その次の回の対面授業の日までに必ず受講すること。
動画の配信スケジュールはイントロダクション動画でかならず確認すること。
講義資料（講義ノート、スライドのダイジェスト版等）をOh-o Meijiで配布する。
講義ノートは原則として各パートの終了後に公開する。かりに講義内容と細かな点で違いがあるときは、講義ノートの内容に準拠するものとする。講義ノートに訂正箇所が発生した場合は Oh-o Meiji で知らせる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
事前に配付されるスライドのダイジェスト版を授業前に一読し、必要に応じて講義に持参すること。講義中は適宜ノートを取り、講義ノートの公開後は内容を照らし合わせて講義内容を再整理すること。

５．教科書
使用しない。ただし、講義ノートが復習用ではあるが実質的に教科書とおなじ内容のものとなる。

６．参考書
講義ノートでセクションごとに詳しく紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートに対し Oh-o Meiji で評価をコメントする。また、個別のフィードバックは希望があれば Oh-o Meiji のポートフォリオを通じて随時対応する。

８．成績評価の方法
中間レポートと期末レポートで評価する（評価の構成比は各50%）。
各パートごとにレポート課題を設定する。授業は4パートで構成されているので、全体で4課題（各課題3テーマ）が提示される。
中間レポートとしてPart.1またはPart.2のいずれか一方を、期末レポートとしてPart.3またはPart.4のいずれか一方を各自が選択すること。中間レポートを提出しなかった者は、その時点でF評価が確定する。また、中間レポートを提出しても期末レポートの提出がなければ、やはりF評価となる。
提出期限はパートごとに設定する。Part.1とPart.2の両方のレポートを提出した場合は、評価の高い方を中間レポートとして採用する。Part.3とPart.4の両方のレポートを提出した場合も、評価の高い方を期末レポートとして採用する。したがって、Part.1の評価が低かった場合はPart.2で、Part.3の評価が低かった場合はPart.4で挽回が可能である。
以上のことから、どうしてもこの科目の単位取得が必要な者は、中間レポートとしてPart.1を、期末レポートとしてPart.3を提出し、必要に応じてPart.2、Part.4で挽回を目指すこと。これ以上の「救済措置」は一切取ることができない。

９．その他
質問がある者は、Oh Meijiのポートフォリオあるいは教員へのメッセージ機能を利用すること。
レポートの作成に際して生成AIの使用はとくに禁止しないが、使用した場合は、かならず使用したことをレポート内で明記すること。なお、2023 ～ 2025年度の授業においても生成AIを使用したと判断できるレポートの例があったが、合格レベルに達しているといえないものが多かった。生成AIはレポートの自動作成システムではないので、課題文を単純に質問しても正確な答えは返ってこない。生成AIは質問者が学習データを適切に提供する必要があるため、次のプロセスが不可欠である。
1）事前にレポートの基本的な構成を練る。
2）個々の構成の中心となるトピックスを立てる。
3）順序だって対話的に生成AIに質問する。
4）返ってきた内容を自分でファクトチェックする。
生成AIを利用したいときは、Oh Meijiのレポート用トピックスに示された注意事項を参考にすること。
なお、パラグラフ・ライティングがなされていない、「です・ます」調で書かれている、特徴を列記しただけ等のレポートは、大幅に減点される。

科目ナンバー：(IC)POL326J

情報政策論Ａ〔Ｍ〕（情報政策論Ⅰ）

２単位	３年次	清原　聖子

１．授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
　情報政策論の授業の狙いは、第一に、ブロードバンドやスマートフォンが急速に普及している今日、私たちが享受している情報通信技術（ICT）による恩恵がどのような政策・政治によってもたらされてきたのか、誰がどのようにしてその政策を決定しているのか、という点を理解すること、第二に、今日のICTに関する政策課題は何かを把握し、その解決策を検討することにある。日本のICT政策の展開は、アメリカの影響を大きく受けてきた。情報政策論Aでは、日本との比較考察的視点から、アメリカの通信・放送政策の歴史を振り返り、重要な争点を概説する中で、当該分野の政策過程における大統領、行政機関（連邦通信委員会）や利益団体の役割について、理解を深める。また、政権交代による政策過程への影響についても説明する。
〈到達目標〉
　日本と比較したアメリカのICT政策の歴史やその特徴を抑え、ブロードバンドやソーシャルメディアが普及した日米共通の現代的課題まで網羅的に理解できるようになり、日米比較政策研究の視点を養える。

２．授業内容
第１回　イントロダクション・情報政策論とは？　（メディア授業【オンデマンド型】）
第２回　日米比較による政治制度･ICT政策形成過程　（メディア授業【オンデマンド型】）
第３回　通信の歴史①（日米比較：通信の独占から競争へ）（メディア授業【オンデマンド型】）
第４回　通信の歴史②（アメリカにおける1996年電気通信法の成立と競争政策）（メディア授業【オンデマンド型】）
第５回　通信の歴史③（ユニバーサル・サービス基金・デジタル・デバイドの日米比較）（メディア授業【オンデマンド型】）
第６回　通信の歴史④(ネットワーク中立性をめぐる議論の日米比較）（メディア授業【オンデマンド型】）
第７回　通信の歴史⑤（電波政策の日米比較）／中間まとめ（メディア授業【オンデマンド型】）
第８回　放送の歴史①（日米比較：ラジオからテレビへ、メディアの多様化）（メディア授業【オンデマンド型】）
第９回　放送の歴史②（アメリカにおける1996年電気通信法成立・通信と放送の融合へ）（メディア授業【オンデマンド型】）
第10回　放送の歴史③（メディア所有規制緩和の日米比較）（メディア授業【オンデマンド型】）
第11回　放送の歴史④（公共放送の役割の日米比較）（メディア授業【オンデマンド型】）
第12回　放送の歴史⑤（国際放送の展開の日米比較）（メディア授業【オンデマンド型】）
第13回　放送の歴史⑥（地デジ移行の日米比較・地上デジタル放送の海外展開）（メディア授業【オンデマンド型】）
第14回　最終まとめ　（メディア授業【オンデマンド型】）
＊授業内容や順番には変更の可能性があります。

３．履修上の注意
この授業はすべてオンデマンド型のメディア授業である。毎週土曜日10:00にオンデマンド形式でクラスウェブの「授業内容・資料」より、講義の動画を配信する。各回の講義の動画を閲覧した後に、授業の理解度を測るための課題（小テスト）に取り組むこと。成績評価は期末レポートのみで行うが、期末レポートの採点対象は第2回～第13回までの講義で課された小テストのうち、計9回以上合格点（7点以上）を取った者に限る。小テストを受験し合格点を取った回数が9回に満たない場合は原則として、期末レポートの採点対象とならないため単位は付与されない。第14回の講義は最終まとめの回であり、その内容を踏まえて第14回講義の動画配信日から2週間以内に期末レポートを提出することになる。
正当の理由と学部事務室で認められた欠席でない場合は、小テストを受けなかった理由として認めない。各回の講義動画配信日から翌週の金曜日23:59までに動画を閲覧した上で、小テスト機能から解答すること。公平性を期すため、締め切り後に小テストを受験することはできない。期末レポートはアンケート機能を使って提出する。なお、期末レポート作成の際は剽窃にならないように注意すること。
本授業担当教員に連絡を取りたい場合には、クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を用いて問い合わせをすること。ただし、欠席届や単位の嘆願といった問い合わせには返答しない。講義の内容に関する質問をした場合には、内容によっては後日他の履修生にも共有できるように、授業内でフィードバックをすることで回答とする場合もある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
本授業では、各回の講義動画のレジュメを「授業内容・資料」にアップロードしておくので、それをダウンロードして、講義の動画を閲覧する際に、ノートをとるために役立てること。小テストの解答時間（20分程度）を含んで100分授業となるように、講義動画時間を予定している。また、講義の動画の閲覧期間は2週間あるので、復習として動画を活用できるほか、各回に参考資料を紹介するので、復習用にそちらも読むことをお勧めする。講義内容によって履修者の反応を反映させる目的から、事前・事後アンケートを行うことがある。

５．教科書
使用しない。

６．参考書
清原聖子（編著）『教養としてのアメリカ研究』（大学教育出版、2021年）
前嶋和弘、山脇岳志、津山恵子（編著）『現代アメリカ政治とメディア』（東洋経済新報社、2019年）
川端和治『放送の自由―その公共性を問う』（岩波新書、2019年）
実積寿也、春日教測、宍倉学、中村彰宏、高口鉄平『OTT産業をめぐる政策分析―ネット中立性、個人情報、メディア』（勁草書房、2018年）
福家秀紀『IoT時代の情報通信政策』（白桃書房、2017年）
林香里『メディア不信―何が問われているのか』（岩波新書、2017年）
大石裕、山腰修三、中村美子、田中孝宜（編著）『メディアの公共性：転換期における公共放送』（慶応義塾大学出版会、2016年）
松田浩『NHK新版―危機に立つ公共放送』（岩波新書、2014年）
実積寿也『ネットワーク中立性の経済学―通信品質をめぐる分析』（勁草書房、2013年）
藤野克『インターネットに自由はあるか―米国ICT政策からの警鐘』（中央経済社、2012年）
高橋洋『イノベーションと政治学　情報通信革命＜日本の遅れ＞の政治過程』（勁草書房、2009年）
鈴木秀美、山田健太、砂川浩慶（編著）『放送法を読みとく』（商事法務、2009年）
清原聖子『現代アメリカのテレコミュニケーション政策過程－ユニバーサル・サービス基金の改革』（慶應義塾大学出版会、2008年）
その他、授業中に紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
適宜講義の動画の中で全体講評を行う。

８．成績評価の方法
期末レポート（100%）、ただし、期末レポートの採点対象は第2回～第13回までの小テストで計9回以上合格点を取ることが条件 。対面式の定期試験は実施しない。

９．その他

科目ナンバー：(IC)POL321J

情報政策論Ｂ（情報政策論Ⅱ）

２単位	３年次	清原　聖子

１．授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
情報政策論の授業の狙いは、第一に、ブロードバンドやスマートフォンが急速に普及している今日、私たちが享受している情報通信技術（ICT）による恩恵がどのような政策・政治によってもたらされてきたのか、誰がどのようにしてその政策を決定しているのか、という点を理解すること、第二に、今日のICTに関する政策課題は何かを把握し、その解決策を検討することにある。 情報政策論Bでは、日米比較政策研究の視点からICTの利活用を中心に、SNS選挙やフェイクニュース、災害時の通信確保やAIの活用など現代的問題について検討する。
〈到達目標〉
本授業では、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて情報環境をとりまく様々な現代的な政策課題について自ら考える力を身につけることを目標とする。

２．授業内容
第１回　イントロダクション・情報政策論とは？【メディア授業（オンデマンド型）】
第２回　『情報通信白書』を読む・ディスカッション１
第３回　SNSを使った選挙運動の日米比較【メディア授業（オンデマンド型）】
第４回　『情報通信白書』読む・ディスカッション２
第５回　選挙とIT・ネット投票は実現するか？【メディア授業（オンデマンド型）】
第６回　『情報通信白書』を読む・ディスカッション３
第７回　フェイクニュース・プラットフォーム事業者の問われる責任【メディア授業（オンデマンド型）】
第８回　『情報通信白書』を読む・ディスカッション４
第９回　情報災害時の通信確保とソーシャルメディアの活用【メディア授業（オンデマンド型）】
第10回　ゲストスピーカー
第11回　オープンガバメント・オープンデータとは？【メディア授業（オンデマンド型）】
第12回　履修者によるショートプレゼンテーション
第13回　AIの規制をめぐる日米動向【メディア授業（オンデマンド型）】
第14回　まとめ
＊授業内容や順番には変更の可能性があります。

３．履修上の注意
この授業は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。奇数回の授業はオンデマンド形式でクラスウェブの「授業内容・資料」より、毎週金曜日、10:00に配信する。偶数回の授業は毎週金曜日３限に対面形式で行われる。オンデマンド形式の第１回の講義の動画は対面形式の第2回の授業日（11/20）に配信を開始する。オンデマンド形式の授業については、講義の動画を閲覧後に、リアクションペーパーを翌週木曜日の23:59までにアンケート機能を用いて提出すること。奇数回は、講義の動画の配信にあわせて、レジュメをクラスウェブの「授業内容･資料」からダウンロードできるようにするので、ノートを取る際に役立ててほしい。各回のリアクションペーパーの作成には20分程度を想定している。偶数回の授業は対面形式の授業（偶数回）で、リアクションペーパーに対する全体向けのフィードバックおよび履修者によるディスカッションを中心とする。そのため、履修生の積極的な発言や討論への参加が求められる。また、対面形式の授業ではゲストスピーカーを招聘する予定がある。対面形式の授業にはノートPCまたはタブレット端末を必ず持参すること。第12回の履修者によるショートプレゼンテーションは、期末レポートの内容に関する簡潔な報告と質疑応答を予定している。
担当教員に連絡を取りたい場合には、クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を用いて問い合わせをすること。ただし、欠席届や単位の嘆願といった問い合わせには返答しない。
なお、情報政策論Bのみの履修で構わないが、情報環境を取り巻く現代的な諸課題について考える力を養うためには、情報政策論Aの履修を勧める。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
対面形式の授業では履修者同士のディスカッションを重視するため、事前に指定された『情報通信白書』の該当箇所を読んでおいてほしい。

５．教科書
特に指定しないが、対面形式の授業ではディスカッションのために事前に総務省の『情報通信白書』の資料をクラスウェブの「授業内容・資料」に提示する。

６．参考書
ジェイミー・バートレット（著）、秋山勝（訳）『操られる民主主義―デジタル・テクノロジーはいかにして社会を破壊するか』（草思社文庫、2020年）
クリス・ベイル（著）、松井信彦（訳）『ソーシャルメディア・プリズム―SNSはなぜヒトを過激にするのか？』（みすず書房、2022年）
藤代裕之（編著）『フェイクニュースの生態系』（青弓社、2021年）
清原聖子（編著）『フェイクニュースに震撼する民主主義－日米韓の国際比較研究』（大学教育出版、2019年）
三友仁志（編著）『大災害と情報・メディア』（勁草書房、2019年）
田中辰雄、浜屋敏『ネットは社会を分断しない』（角川新書、2019年）
脇浜紀子、菅谷実（編著）『メディア・ローカリズム』（中央経済社、2019年）
清原聖子、前嶋和弘（編著）『ネット選挙が変える政治と社会― 日米韓に見る新たな「公共圏」の姿』（慶應義塾大学出版会、2013年）
清原聖子、前嶋和弘（編著）『インターネットが変える選挙―米韓比較と日本の展望』（慶応義塾大学出版会、2011年）
その他、授業中に紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
対面形式の授業時間内に適宜全体講評を行う。

８．成績評価の方法
リアクションペーパー（30%）、対面形式の授業におけるディスカッションやショートプレゼンテーションへの貢献度（40%）、期末レポート（30%）。

９．その他
本授業では例年、総務省やシンクタンクなどから実務家をゲストスピーカーにお招きし履修生との質疑応答の時間が好評である。

科目ナンバー：(IC)LAW371J

情報法Ａ

２単位	３年次	湯淺　墾道

１．授業の概要・到達目標
概要
この科目は、〔メディア授業（オンデマンド型）〕で実施する。
この科目は、情報管理・提供サービスの電子化・ネットワーク化が急速に進むなか、電子化された情報（電子情報）をインターネット経由で提供・利用することに伴う様々な法的問題を理解することを目的とする講義である。とくに、通信と放送の融合、プロバイダの責任、個人情報の保護、違法情報や有害情報の規制、サイバーセキュリティなどをめぐる法的問題について、具体的に考察する。
到達目標
・情報に関係して、どのような法律があるのかを理解すること。
・主要な法律の内容を理解すること。
・インターネット上で発生する事件が、法律とどのようにかかわるのか、判断できるようにすること。
・インターネット上の情報を利活用するのに必要な法的な知識、リテラシーを身につけること。

２．授業内容
1　情報化社会、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
2　情報と法との関係、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
3　サイバー空間と法、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
4　表現の自由、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
5　通信の秘密と検閲の禁止、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
6　プライバシーの保護1、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
7　プライバシーの保護2、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
8　個人情報の保護1、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
9　個人情報の保護2、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
10　情報と消費、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
11　情報と知的財産1、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
12　情報と知的財産2、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
13　仮想空間と法、〔メディア授業（オンデマンド型）〕
14　将来の展望、〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意
この科目は、〔メディア授業（オンデマンド型）〕であり、毎週火曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。毎週必ず受講すること。担当者は、ガバナンス研究科教授（https://www.meiji.ac.jp/mugs2/faculty/yuasa-harumichi.html）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
日頃から新聞やニュースサイト等で、情報に関する事件などの情報を収集しておくこと。
各回に関連する法令の条文に目を通し、内容を理解しておくこと。
講義中に紹介する法令の条文、判例等について関連条文や関連判例等も読んで理解すること。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
小向太郎『情報法入門』
福田雅樹・林　秀弥・成原　慧編著『AIがつなげる社会』
内閣サイバーセキュリティセンター「サイバーセキュリティ関係法令Q&Aハンドブック（Webページ）」
https://security-portal.cyber.go.jp/guidance/law-handbook/v2-index.html

７．課題に対するフィードバックの方法
課題を出した場合には、Oh-o! Meiji上で講評やフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
各回の課題提出により評価する（100%）。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAW371J

情報法Ｂ

２単位	３年次	湯淺　墾道

１．授業の概要・到達目標

概要

この科目は、〔メディア授業（オンデマンド型）〕で実施する。

この科目は、情報管理・提供サービスの電子化・ネットワーク化が急速に進むなか、電子化された情報（電子情報）をインターネット経由で提供・利用することに伴う様々な法的問題を理解することを目的とする講義である。とくに、通信と放送の融合、プロバイダの責任、個人情報の保護、違法情報や有害情報の規制、サイバーセキュリティなどをめぐる法的問題について、具体的に考察する。

到達目標

・情報に関係して、どのような法律があるのかを理解すること。
・主要な法律の内容を理解すること。
・インターネット上で発生する事件が、法律とどのようにかかわるのか、判断できるようにすること。
・インターネット上の情報を利活用するのに必要な法的な知識、リテラシーを身につけること。

２．授業内容

1　新たな情報通信技術の発展と法〔メディア授業（オンデマンド型）〕
2　通信と放送〔メディア授業（オンデマンド型）〕
3　情報媒介者の責任〔メディア授業（オンデマンド型）〕
4　電子商取引と電子署名1〔メディア授業（オンデマンド型）〕
5　電子商取引と電子署名2〔メディア授業（オンデマンド型）〕
6　違法・有害情報の規制〔メディア授業（オンデマンド型）〕
7　サイバー犯罪1〔メディア授業（オンデマンド型）〕
8　サイバー犯罪2〔メディア授業（オンデマンド型）〕
9　IoT、ロボットと法〔メディア授業（オンデマンド型）〕
10　サイバーセキュリティ１〔メディア授業（オンデマンド型）〕
11　サイバーセキュリティ２〔メディア授業（オンデマンド型）〕
12　情報と政治〔メディア授業（オンデマンド型）〕
13　情報と社会〔メディア授業（オンデマンド型）〕
14　将来の展望〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意

この科目は、〔メディア授業（オンデマンド型）〕であり、毎週火曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。毎週必ず受講すること。

担当者は、ガバナンス研究科教授（https://www.meiji.ac.jp/mugs2/faculty/yuasa-harumichi.html）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

日頃から新聞やニュースサイト等で、情報に関する事件などの情報を収集しておくこと。

各回に関連する法令の条文に目を通し、内容を理解しておくこと。

講義中に紹介する判例等について、理解すること。

５．教科書

特に指定しない。

６．参考書

小向太郎『情報法入門』

福田雅樹・林 秀弥・成原 慧編著『AIがつなげる社会』

内閣サイバーセキュリティセンター「サイバーセキュリティ関係法令Q&Aハンドブック（Webページ）」

https://security-portal.cyber.go.jp/guidance/law-handbook/v2-index.html

７．課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、Oh-o! Meiji上で講評やフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

各回の課題提出により評価する（100％）。

９．その他

科目ナンバー：(IC)POL341J

人権と政策（人権政策）

２単位	３年次	田村　　理

１．授業の概要・到達目標

国家の不干渉を求める憲法学上の人権と国家が積極的に実現すべき政策の概念は本来対立する性質をもちます。しかし、それらの概念は区別することなく混用されています。この授業では、この区別がなされないことの社会的な問題点を理解することを目的とします。

そのために、「結婚」を題材にして，人権と政策の関係を学び，社会において人権と政策がどういう役割を実際に担い，また担うべきなのかを考えます。

恋愛・子ども、家族という私達の最もプライベートでデリケートな事柄は，本来は国家によって保護という名目であっても干渉してはならない人権の領域に属する問題です。しかし，人類史上結婚は国家政策の大きな関心事でした。また、少子化の解消は日本の最重要かつ喫緊の政策課題です。

また、おそらく人権と政策を混同してきたことのしわ寄せを大きく受けているのは，同性婚，複合家族，ポリアモリーをはじめ，その国家政策に合わせることを望まない人たちです。また，非婚化・少子化の問題もこれと無関係ではないでしょう。

これらの問題をめぐる現状を把握しつつ，結婚は政策による保護の問題なのか，国家（の政策）からの自由を意味する人権の問題なのかも考えることで，社会を論じる方法を考えましょう。

２．授業内容

第１回：イントロダクション：国家政策と「私（たち）」の関係を自覚するために
第２回：一夫一婦制ロマンと政策①：婚姻制度の国際比較＆日本の婚姻制度　＊メディア授業（オンデマンド型）
第３回：映画『クレイマー，クレイマー』を観る
第４回：一夫一婦制ロマンと政策②：一夫一婦制の歴史＆日本の家族法制　＊メディア授業（オンデマンド型）
第５回：映画『クレイマー・クレイマー』を観て一夫一婦制法律婚主義を議論する
第６回：一夫一婦制ロマンと政策③：日本の結婚・家族の現状　＊メディア授業（オンデマンド型）
第７回：クレイマー夫妻の時代と現在の結婚・家族を比較する
第８回：複合家族①：フランスの家族制度史＆フランスの家族法制　＊メディア授業（オンデマンド型）
第９回：法律婚以外の結婚の形を考える
第10回：複合家族②：フランスの結婚・家族の現状と今後　＊メディア授業（オンデマンド型）
第11回：未来の結婚のあり方を議論する
第12回：結婚と家族を縛るもの、まもるもの　＊メディア授業（オンデマンド型）
第13回：授業内択一試験
第14回：レポートの書き方　＊メディア授業（オンデマンド型）
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意

＊この授業は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。
＊第2回授業以降、毎週月曜日19時までにOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の日までに
必ず受講してください。
○この授業では、みなさんがこれまで学んできた知識や価値観とは違うものを学ぶことを重視します。その違いを楽しみながら、自分の知識や価値観を相対化して社会を見ることを学びます。
したがって、みなさんが培ってきた既存の知識や価値観だけでは単位をとれません。
授業時間外でも一定の時間を割いて学ぶ必要があるので、そのつもりで履修してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：特に求めません。
復習：対面授業用にオンデマンド授業をふまえて取り組む小課題をだし，それに基づいて授業内で討論します。その際，授業の内容を復習し，学んだことが使えるようになることを心がけてください。

５．教科書

特になし。

６．参考書

筒井淳也『結婚と家族のこれから　共働き社会の限界』（光文社新書・2016年）
　同　『未婚と少子化』（PHP新書・2023年）
阪井裕一郎『結婚の社会学』（ちくま書房・2024年）
浅野素女『フランス家族事情　男と女と子どもの風景』（岩波新書・1995年）
山田昌弘『結婚不要社会』（朝日新書・2019年）

７．課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、できるかぎり授業中にとりあげて、受講者全員で共有します。
授業時間中にフィードバックの時間が十分にとれない場合や、各受講生からの個別の質問等はその都度口頭またはメール等で丁寧にフィードバックしていきます。

８．成績評価の方法

○成績評価
1，授業内で行う4者択一試験50％
2，対面授業用の小課題とれに基づく討論50％
＜授業時間中にフィードバックを兼ねて報告と討論を参加者全員で行い、質疑応答も加点の対象とします。＞
※詳細は第1回目の授業で指示します。

９．その他

科目ナンバー：(IC)POL311J

政治とメディア

２単位	３年次	川島　高峰

１．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

日本政治は、2021年の総選挙以降をもって本格的な「政治とSNSメディアの時代」に入った。公選法上、選挙時のネット利用が解禁となったのは2013年からで、日本でスマートフォンの普及率が50％を超えたのが2015年以降のことであった。米国では2017年に第一次トランプ政権が誕生し、この政権下で本格的に「政治とSNSメディアの時代」に移行した。日本では2019年12月末からのパンデミックで社会全体が非対面の活動を余儀なくされ、この間、地方選挙で「地盤・看板・鞄」といった従来型の支持基盤ではなく、ネットを通じた支持基盤の形成で当選を果たす地方政治家が増えるようになった。そして、2021年、初めてSNSを主たる支持基盤とした政党（れいわ新選組）が国政の場に代議士を擁するようになった。また米国のトランプ大統領は2025年１月20日よりSNSメディアを通じて世界政治に巨大な影響力を行使するようになっている。

SNSは変化を激変へ加速させ、今までにはない主体を政治の舞台に登場させたが、ほぼ時を同じくして「民主主義の後退」ということが言われるようにもなっている。

しかし、このような近年の政治とメディアに関する大きな変化の底流にある鉄則は、古典古代から殆ど不変である。政治とメディアはその古典古代からの身体性を、電子化したことで、全くべのものになったように見えるだけとも言える。この本質を把握していた「古典」に重点をおき、それがどのような点で現代と関連するのか、ほとんど同じと言えるのかを説明し、令和以降の日本政治とメディアの理解につとめるようにする。

【授業の到達目標】

有権者として政治について主体的に分析し、自身の見解を持つことができるために必要な政治に関するメディア・リテラシーを身につけることにある。

２．授業内容

古典編　変わらざる鉄則・古傾向について

第１回　政治とメディア＝支配を支配するものとは何か？、書記学的支配と修辞学的支配について／民主主義をめぐる幻想（誤解）／「声の民主主義」とルッキズム、もしくは、そのアーキテクチャ
第２回　ル・ボン『群集心理』（1895）とデジタル・デマゴーグ
第３回　リップマンの世論と幻の公衆／ルソーの一般意思もしくは市民宗教、世論の可視化・ネット世論
第４回　ミヘルス『政党社会学』（1911）巨大組織における少数支配の不可避性と現代の巨大社会もしくはグローバリズム
第５回　テレビと権力　エドワード・バーネーズとスピン・ドクター　いかにエコチェンバーを作るか

イデオロギー／戦争編　今も同じことが繰り返されています

第６回　国際共産主義運動と分断工作
第７回　国際共産主義運動　平和攻勢　これが**認知戦の原型**
第８回　戦争とメディア　流言投書の太平洋戦争「開戦」のメディア「開戦の詔」と所謂「大本営発表」
第９回　戦争とメディア　流言投書の太平洋戦争　「決戦」のメディアと「特攻」ジャーナリズム
第10回　戦争とメディア　流言投書の太平洋戦争　「終戦」のメディア「玉音放送」と原子爆弾

日本政治とメディア、冷戦後から令和以降

第11回　冷戦崩壊と情報リテラシーの激変、湾岸戦争とアフガン戦争、イラク戦争、冷戦と日本メディア
第12回　公選法と選挙規制　インターネットと日本政治
第13回　自民・野党転落と地上波との決別、安部政治とネトウヨ・パヨク
第14回　DAOとアルゴリズムの民主主義は衆愚になるのか、英知結集となるのか
※　また情勢の変化により内容に変更が生じる場合があります。

３．履修上の注意

４．準備学習（予習・復習等）の内容

オンラインで講義主題について調べて、何らかの保存をしておくことが、良い予習にも復習にもなにるだろう。

５．教科書

レジュメを配布します。その中で重要な文献を紹介します。

６．参考書

Yuval Noah Harari, *Nexus: A Brief History of Information Networks from the Stone Age to AI*, Random House (Sept, 2024)
ギュスターヴ・ル・ボン著／櫻井成夫訳『群衆心理』講談社学術文庫
逢坂巌『日本政治とメディア』中公新書
エドワード・バーネイズ著／中田康彦訳『プロパガンダ教本』
W.リップマン著／掛川トミ子訳『世論 上・下』岩波文庫、同著『幻の公衆』柏書房
ロベルト・ミヘルス著／森博・樋口晟子訳『現代民主主義における政党の社会学』
マイク・ロスチャイルド著『陰謀論はなぜ生まれるのか：Qアノンとソーシャルメディア』慶應義塾大学出版会

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパーについては、授業時に、適宜、学生コメントの全体的傾向の紹介や質疑などへのフィードバックを行う。

８．成績評価の方法

各回講義でのリアクション・コメントが70％、期末試験が30％。成績は各講義でのリアアクション・コメナントの比重が高いので、結果として出席重視となっているが、特段、欠席回数について単位認定の制限を設けているものではない。就活生に配慮して対面講義の動画もしくは音声記録をなるべくアップロードします。

９．その他

科目ナンバー：(IC)MAN391J

ソーシャルビジネス論

２単位	３年次	金子　勝一

１．授業の概要・到達目標

今日、地球規模での環境問題、少子高齢化問題、貧困問題など、さまざまな社会的問題が顕在化してきています。これまで、こうした社会的な問題に対して、国や地方行政が主体となって、その問題解決に取り組んできました。しかしながら、複雑化する社会的問題に対して、国や地方行政が主体となって解決できる領域は限られ、多くの問題が未解決のままのように思われます。

こうした問題は、日本のみならず世界的な問題となっており、国連はSDGs（Sustainable Development Goals）を提唱し、持続可能な開発目標を示しています。

一方、営利を目的とする多くの企業は、利益を確実に上げるための事業を優先し、社会的問題の解決は消極的であるように思われます。こうしたなかで、営利目的の組織においても、「ソーシャルビジネス」が注目されています。そこで本授業では、「ソーシャルビジネス」とは何か、これまでのビジネスとはどのような点で相違点があるのかかを確認し、そのうえで、ソーシャルがビジネスがどのように社会的問題の解決に有効であるかを検討します。

さらに、グローバル化の進展とともに、日本企業の海外での生産・販売のウェイトの増大、そして少子高齢化や長引く低成長経済、国内市場の縮小など、環境の急速な変化が企業のあらゆる側面に大きな影響を与えています。これらの影響による企業環境の変化に対すべく、日本企業は積極的かつ創意工夫をこらし、さらにICT活用を推進し、迅速かつ柔軟に対応しています。このようにICTの発展とともに、e-ビジネスが注目されています。そこで、e-ビジネスのノウハウを日本の中心的な産業である製造業がSCM（サプライチェーン・マネジメント：Supply Chain Management）に活かそうとしています。これは、B to B（企業対企業の取引：Business to Business）中心の従来型SCMから、B to B&C（Business to Business & Consumer）を対象とした「e-SCM」への流れとして捉えることができます。そこで本授業では、e-ビジネスとSCMを概観し、「e-SCM」の概念について、検討することにします。

また、グローバル化の進展によるSC（Supply Chain）の複雑化・高度化は、サプライチェーンの問題を生じさせています。今後は、こうした問題を克服するためのSCMも求められます。

本授業では、日本企業や社会が抱えている問題を整理し、上記の課題や対応について検討していくことにより、ソーシャルビジネス・e-ビジネスおよびSCMの基本的な概念や経営手法を理解することを目的とします。その上で、これらの概念や経営手法が日本・世界の社会経済システムにおいて、どのような可能性があるかを検討し、自ら考え新たなビジネス・モデルを提案できるようになることを到達目標とします。

２．授業内容

第１回aのみ：イントロダクション
第２回：社会的な課題と問題解決の方法
第３回：ビジネスとは何か
第４回：ソーシャルビジネスとは何か
第５回：ソーシャルビジネスとコミュニティ・ビジネス
第６回：ソーシャルビジネスとCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）
第７回：ソーシャルビジネスの代表的な事例
第８回：行政とソーシャルビジネス
第９回：ソーシャルビジネスと地域社会
第10回：ソーシャル金融とその可能性
第11回：ICTとソーシャルビジネス
第12回：e-ビジネスとビジネス・モデル
第13回：e-ビジネスにおける予期せぬ成功
第14回：イノベーションとe-ビジネス／まとめ

３．履修上の注意

ソーシャルビジネスは、経営学や商学のみならず、情報、情報科学、工学などの研究分野との関係性も深く、学際的・文理融合的な領域を含んでいます。また、社会においても大きく注目されている領域です。そこで、幅広い領域への関心を持っていただけると授業も理解しやすいと思います。できるだけ新聞やニュースなどで授業に関連する項目を確認しましょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配付する資料内（次回の授業内容）で提示するキーワードや課題について、事前に文献等で調査・予習してから授業に取り組みましょう。なお、予習には、100分程度必要となります。
また、授業の最後に、簡単な問題・質問に回答していただく予定です。
さらに、授業中に確認した課題やキーワードについて、新聞等で事例を調べる、自分自身で課題や解決方法を考えることにより復習し、理解を深めて頂ければと思います。なお、復習には、100分程度必要となります。

５．教科書

特に定めません。
必要に応じて、授業資料（プリント）を配付する予定です。

６．参考書

『ソーシャル・ビジネス革命：世界の課題を解決する新たな経済システム』ムハマド・ユヌス 著、岡田昌治 監修、千葉敏生訳（早川書房）2010年
『NPO,そしてソーシャルビジネス －進化する企業の社会貢献－坂本恒夫、丹野安子、菅井徹郎編著（文眞堂）2017年
『スマート・シンクロナイゼーション』山下洋史・村田潔編著（同文舘出版）2006年
『経営情報のネットワーキング戦略と情報管理』山下洋史・金子勝一・村山賢哉編著（同文舘出版）2014年

７．課題に対するフィードバックの方法

各授業の課題については、次回に、前回の課題について、確認します。
レポート課題、試験につきましては、Oh ！ Meijiにコメントします。

８．成績評価の方法

定期試験（30％）、レポート課題（20％）および平常点（50％）による総合評価とします。
なお、定期試験は持込不可を予定しています。
試験の準備として、各回の授業中に重要なキーワード・用語を必ず確認してください。

９．その他

科目ナンバー：(IC)SOC311J

組織と情報

２単位	３年次	**竹中　克久**

１．授業の概要・到達目標

組織は人々のあいだで行われるコミュニケーションから成立している。本講義では、現代社会における組織の諸問題を、情報、コミュニケーション、メディアといったキーワードから読み解いてゆく。

具体的には、組織における情報の偏在性、組織の中で生まれる情報弱者、組織における情報管理＝監視、組織のアカウンタビリティ（説明責任）などのトピックを中心に情報と組織について学ぶ。

社会学や経営学などの枠組みにとらわれずに、「情報」「コミュニケーション」という概念から組織のはらむ諸問題を分析する能力を獲得することが到達目標となる。

２．授業内容

第１回　aのみ　イントロダクション：「組織と情報」とは何か
第２回　組織論と情報論の学説史１：組織の中の情報
第３回　組織論と情報論の学説史２：組織＝情報処理システム
第４回　組織論と情報論の学説史３：情報社会における組織
第５回　組織と情報：シンボルを介した組織情報
第６回　情報の偏在性と権力：なぜ人は権力に従うのか
第７回　組織における情報管理・監視
第８回　情報倫理とアカウンタビリティ
第９回　現代組織の諸問題１：偽装問題について
第10回　現代組織の諸問題２：組織と信頼
第11回　現代組織の諸問題３：危機と組織
第12回　組織が生み出す社会１：監視社会と身体社会
第13回　組織が生み出す社会２：学歴社会と消費社会
第14回　反組織論の展開・まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意

現代の組織について何らかの興味を持っている学生が好ましい。また、社会問題などに敏感になっている学生も歓迎する。１、２年次開講の「組織論」を履修していると理解がしやすい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

講義の冒頭で前回の講義の復習を行うが、事前にOh!Meijiにupした資料を精読して講義に臨むこと。

５．教科書

竹中克久、2026、『組織研究の学際性ーー正解のない問いの力』文真堂（近刊）

上記の本は１，２年次向けの「組織論」の教科書であるが、この内容を踏まえたうえで「組織と情報」の授業は展開されるため、購入することを推奨する。

毎回資料をOh!Meijiにupするが教科書があると理解がしやすい。

６．参考書

『組織の理論社会学』、竹中克久（文眞堂）
『Hatch　組織論』、マリー・ジョー・ハッチ（同文館出版）

７．課題に対するフィードバックの方法

毎回のディスカッションペーパーのいくつかについて、次回授業の冒頭でフィードバックと評価を行う。

８．成績評価の方法

定期試験70%、ディスカッションペーパー 30%

９．その他

質問等は基本的に講義中に受け付けるが、急な場合は
takenakakatsuhisa[@]hotmail.com（[ ]を外してください）に氏名を件名に入れて連絡すること。

科目ナンバー：(IC)LAW376J

知的財産法Ａ〔Ｍ〕（知的財産法Ⅰ）

２単位	３年次	**今村　哲也**

１．授業の概要・到達目標

授業概要：知的財産とは、人間の知能的活動によって生み出された成果物たる情報であり、これを保護するのが知的財産法である。この講義では、知的財産法のうち、創作的表現をめぐる関係人の利害を調整する法制度である「著作権法」および判例法で保護されている肖像権やパブリシティ権について解説する。著作権法の基礎的知識を理解した上で、それが具体的な事案においてどのように適用されるのかについて学ぶことを目的とする。

到達目標：著作権法の基礎的知識を理解したうえで、それが具体的な事案においてどのように適用されるかについて理解する。また、今後、知的財産権に関する諸問題に直面した際に、自ら調べ、考えられるだけの力を身につける。

２．授業内容

この講義はすべてオンデマンド型（収録動画配信型）で行う。
第１回：イントロダクション、講義全体の概要〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：法学の世界へようこそ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回：著作権法入門――創作と利用のバランスを考える〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：著作物性の判断基準――思想・感情の創作的表現とは？〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回：著作物の種類と特徴――言語・音楽・美術から映画まで〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：著作者――誰に著作権が与えられるのか〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：著者者人格権――作品への想いを守る〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：著作権の基本構造――権利の発生から行使まで〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：権利制限と保護期間――いつまで守られる？いつでも守られる？〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回：著作隣接権――価値ある情報を伝達する者の保護〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：権利の活用――使わなければ利益も生まない（オンデマンド型）〕
第12回：著作権の侵害――無断で使われたらどうする？〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：肖像権とパブリシティ権による保護――肖像等のもつ精神的価値と商業的価値〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回：全体の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する（ただし、授業の内容に関する質問は、ディスカッション機能で行うこと）。

メディア授業の特徴として、一定の受講期間を設けているため、特別な事情がある場合を除いて、未受講による特別の課題は一切用意していない。特別の課題を用意するなどの要望について問い合わせをしないこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、指定した資料を事前に目を通すこと、復習として小テスト等の課題を解くことを求める。予習・復習には90分程度かかると想定される。

５．教科書

今村哲也『いちばんやさしい知的財産法入門』（有斐閣、2025年12月）。秋学期に開講されている「知的財産法B」でも同じ教科書を使用する。その他、レジュメを用意する。

６．参考書

島並良・上野達弘・横山久芳『著作権法入門』（有斐閣、第4版、2024年）、高林龍『標準著作権法』（有斐閣、第6版、2025年）、文化庁ウェブサイト「著作権に関する教材、資料等」にある各種のWeb教材（映像）、『著作権テキスト』がある。知的財産法の分野は、頻繁に法改正がなされるので、最新の法令に準拠しているテキストを選んで読むことが望ましい。

７．課題に対するフィードバックの方法

小テストは、その出題意図と採点実感を、小テストの期限後においてOh-o! Meijiシステムを通じてを配信する。個別の正答と採点結果（点数）については、開示しない。

８．成績評価の方法

毎回の授業後に回答する小テスト（毎回100点）を14回分（合計1400点）の平均点を素点として算出し、その素点を最終的な評点の100%として評価することを原則とする。60点未満は単位不認定とする。なお、正当な理由のない限り（正当な理由がある場合、要連絡）、14回の授業のうち4回以上の課題未提出がある場合、原則として単位を認定しない。課題未提出かどうかは、授業動画の視聴記録の視聴完了、および、小テストの提出の2つを完了して、1回分の課題提出とする。

例外的に、上記で求められる素点が90点以上および80点以上90点未満の者の割合が、合格者（60点以上の者）の50パーセントよりも大きくなる場合、または、素点が90点以上である割合が、合格者の概ね20パーセントより大きくなる場合には、相対評価を採用する。相対評価を行う場合、素点を基礎に合格者に順位を付与し、90点以上および80点以上90点未満の割合は、最大でも合格者の概ね50パーセント以内とし、かつ、90点以上の割合は、最大でも合格者の概ね20パーセント以内とするよう最終的な評点を決定する。

※対面形式での試験は行わない。

９．その他

クラスウェブのディスカッションを機能を活用し、講師および学生同士の意見交換の場を設ける。

科目ナンバー：(IC)LAW376J

知的財産法Ｂ〔Ｍ〕（知的財産法Ⅱ）

２単位	３年次	今村　哲也

１．授業の概要・到達目標
授業の概要：知的財産とは、人間の知能的活動によって生み出された成果物たる情報であり、これを保護するのが知的財産法である。この講義では、知的財産法のうち、技術的創作に関する情報を生み出した者に独占を許す法制度である「特許法」、ならびに業務上の信用の保護に関する「商標法」、「不正競争防止法」による商品等表示の使用規制について解説する。
授業の到達目標：特許法・商標法等の産業財産権法の基礎的知識を理解したうえで、それが具体的な事案においてどのように適用されるかについて理解する。今後、知的財産権に関する諸問題に直面した際に、自ら調べ、考えられるだけの力を身につける。

２．授業内容
この講義はすべてオンデマンド型（収録動画配信型）で行う。
第１回：イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：特許法：特許制度の仕組み――発明のアイデアを守る〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回：特許法：発明とは何か？――単なる発見との違い〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：特許法：特許要件――特許を与えるべきか，与えざるべきか〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回：特許法：発明者の権利――特許権の主体と手続〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：特許法:特許権の効力･存続期間･制限――発明の保護と利用のバランス〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：特許法：特許侵害への対応〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：商標法（１）――ブランドを守る法のしくみ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：商標法（２）――商標の種類と効力，登録の手続〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回：商標法（３）――登録要件と類似判断，侵害への対応〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：不正競争防止法（１）――周知・著名な商品等表示の保護，商品形態の模倣〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：不正競争防止法（２）――営業の秘密ほか〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：その他の知財法――意匠法・種苗法・地理的表示法〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回：全体の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕

３．履修上の注意
この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。
なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。
また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する（ただし、授業の内容に関する質問は、ディスカッション機能で行うこと）。
メディア授業の特徴として、一定の受講期間を設けているため、特別な事情がある場合を除いて、未受講による特別の課題は一切用意していない。特別の課題を用意するなどの要望について問い合わせをしないこと。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
予習として、指定した資料を事前に目を通すこと、復習として小テスト等の課題を解くことを求める。予習・復習には90分程度かかると想定される。

５．教科書
今村哲也『いちばんやさしい知的財産法入門』（有斐閣、2025年12月）。春学期に開講する「知的財産法A」でも同じ教科書を利用する。

６．参考書
特許法について､駒田泰土･潮海 久雄･山根 崇邦『知的財産法1 特許法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2014年）、高林龍『標準特許法』（有斐閣、第8版、2023年）、茶園成樹編『商標法』（有斐閣、第2版、2018年）、特許庁『動画チャンネル』、特許庁・知的財産権制度入門テキスト（特許庁HP（https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/index.html）で最新版が無料配布）、経済産業省知的財産政策室編『不正競争防止法逐条解説』（経産省HP（https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/index.html）で最新版が無料配布）、経済産業省知的財産政策室編『不正競争防止法テキスト』（経産省HP（https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/index.html）で最新版が無料配布）

７．課題に対するフィードバックの方法
小テストの解説は、小テストの期限後の授業においてOh-o! Meiji システムを通じて配信する。

８．成績評価の方法
毎回の授業後に回答する小テスト（毎回100点）を14回分（合計1400点）の平均点を素点として算出し、その素点を最終的な評点の100％として評価することを原則とする。60点未満は単位不認定とする。なお、正当な理由のない限り（正当な理由がある場合、要連絡）、14回の授業のうち4回以上の課題未提出がある場合、原則として単位を認定しない。課題未提出かどうかは、授業動画の視聴記録の視聴完了、および、小テストの提出の2つを完了して、1回分の課題提出とする。
例外的に、上記で求められる素点が90点以上および80点以上90点未満の者の割合が、合格者（60点以上の者）の50パーセントよりも大きくなる場合、または、素点が90点以上である割合が、合格者の概ね20パーセントより大きくなる場合には、相対評価を採用する。相対評価を行う場合、素点を基礎に合格者に順位を付与し、90点以上および80点以上90点未満の割合は、最大でも合格者の概ね50パーセント以内とし、かつ、90点以上の割合は、最大でも合格者の概ね20パーセント以内とするよう最終的な評点を決定する。
※対面形式での試験は行わない。

９．その他
クラスウェブのディスカッションを機能を活用し、講師および学生同士の意見交換の場を設ける。

科目ナンバー：(IC)LAW351J

犯罪社会学

２単位	３年次	西尾　憲子

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
犯罪学とは、犯罪が発生している現象をとらえて犯罪の原因を究明するため、犯罪の主体である犯罪者及び犯罪から直接被害を被った被害者の視点から、さらに社会状況などから犯罪原因の究明することを目的にしています。犯罪社会学の講義では、犯罪学という学域の歴史的発展を学びながら、社会学理論とともに展開されている犯罪学理論について学びます。社会の中で犯罪が発生しないようにするためにできること、犯罪の発生を予防するため及び発生した犯罪を制圧するためにできること、それぞれについて、これまで研究されてきた犯罪原因論及び犯罪学理論を学びます。そして、現代社会に発生している犯罪現象にどのように対応すればよいのかについて、犯罪学理論を用いて検討し、議論します。
【到達目標】
・社会で起きている事象に関心を寄せて自らの意見を述べることができる。
・社会で起きている事象から社会を分析することができる。
・事象の原因を検討して解決策を考察することができる。

２．授業内容
第１回
ａ：イントロダクション（犯罪社会学とは）
ｂ：刑事政策と犯罪学、犯罪学の意義・体系など
第２回：暗数と犯罪学・刑事政策
第３回：犯罪原因としての素質と環境（鬼神論的犯罪学理論から素質説・環境説、多元的原因論）
第４回：精神医学的・生物学的原因論（犯罪人類学から犯罪生物学及びその継承）
第５回：心理学的原因論（犯罪心理学の起源から精神分析学的犯罪学理論）
第６回：社会学的原因論①（文化地域を中心とする理論）
第７回：社会学的原因論②（文化葛藤を中心とする理論）
第８回：社会学的原因論③（社会構造に中心をおく理論）
第９回：社会学的原因論④（社会統制に中心をおく理論）
第10回：社会学的原因論⑤（社会的相互作用を中心とする理論）
第11回：社会学的原因論⑥（社会的実体を中心とする理論）
第12回：社会学的原因論⑦（社会的絆中心とする理論）
第13回：修復的司法（犯罪対策としての一視点として検討）及び被害者を中心におく理論（犯罪被害者の視点から分析する犯罪への対応）
第14回
ａ：試験
ｂ：講義全体のふりかえりと試験の解説

３．履修上の注意
私たちが現実に生活してる現代社会の情勢などに興味関心を持って欲しいと思います。そして、社会の動きを精確にとらえ、発生している社会的課題・問題に対する解決策について、受講生の皆さんが互いの意見を示しながらディスカッションへ進められるような講義として進めていきたいと考えています。論理的思考を生かしながら、自分事として考えることができるように、積極的な講義への参加をお願いしたいと思っております。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
新聞やニュースなどをとおして、最近の社会問題などに対して、まずは関心を持つことから始めてほしい。いま日本や世界で何が起きているのかに目を向けてほしい。わからないことについてインターネット検索やAIに回答してもらうだけでなく、自分で調べることに取り組んでほしい。現代社会の抱える問題は複雑に関連していることも多いと考えますが、なぜその問題が起きてしまうのか、その原因は何かを一緒に考えるための事前学習であり、自分が関心を持った社会問題について、講義をとおして学んだ知識を生かし、解決策の検討とさらなる課題についてより深く考察していただくのが事後学習と考えています。積極的に取り組んでいただきたい。

５．教科書
特に指定はいたしません。

６．参考書
・書籍名　犯罪･非行の社会学〔補訂版〕: 常識をとらえなおす視座（有斐閣ブックス）
著者　　岡邊健編
出版社　有斐閣
・書籍名　犯罪学リテラシー
著者　　岡本英生・松原英世・岡邊健著
出版社　法律文化社
・書籍名　犯罪・非行からの離脱(デジスタンス)
著者　　岡邊健編
出版社　ちとせプレス
・その他、政府公刊物としての白書などの統計資料など
（詳しくは講義において適宜紹介いたします）

７．課題に対するフィードバックの方法
試験の解説については、第14回bモジュールで行います。また、各講義テーマについて検討した内容や話し合った結論などへの講評は講義時間内で行いたいと思います。

８．成績評価の方法
毎回の講義への参加度30％、期末試験70％で評価します。なお、講義への参加度とは、各講義のなかで実施する話し合いにおいて、相互の意見交換を進められているか、傾聴力を生かせているか、自発的な提案とその根拠などを論理的に説明できているかなどを評価対象とします。

９．その他
いま社会で何が起きているのか、身近で起きていることだけでなく、いろいろなことに目を向けてみましょう。耳を傾けてみましょう。そこには何が問題なのか、何が必要なのか、ぜひ一緒に自分事として考えてみましょう。皆さんと一緒に知的好奇心を刺激し合える講義になりますこと、楽しみにしております。

科目ナンバー：(IC)LAW346J

ビジネスと法A〔M〕

2単位	3年次	今村　哲也

1．授業の概要・到達目標
授業概要:ビジネスと法Aでは、コンサートや演劇などのライブイベント、映画・ゲームビジネス、音楽ビジネスにおける法や契約の役割について、著作権の問題を中心として、講義を行う。学生でもイメージしやすい例を挙げながら、そのような事例に妥当な解決又はその方向性を導き出せる程度の応用力も身につけられるように解説する。
到達目標：上記のビジネス領域に関して、基本的な知識を修得し、かつ、基本的な法律問題において、その知識を用いながら妥当な解決又はその方向性を導き出すことができるようになることが目標である。

2．授業内容
この講義はすべてオンデマンド型（収録動画配信型）で行う。
第１回　イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第２回　ライブ・イベントビジネスのしくみと動向〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第３回　ライブ・イベントビジネスの各プレーヤー〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第４回　ライブ・イベントビジネスの著作権（1)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第５回　ライブイベント・ビジネスの著作権（2)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第６回　映画･ゲームビジネスのしくみと動向〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第７回　映画･ゲームビジネスの各プレーヤー〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第８回　映画・ゲームビジネスの著作権（1)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第９回　映画・ゲームビジネスの著作権（2)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第10回　音楽ビジネスのしくみと動向〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第11回　音楽ビジネスの各プレーヤー〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第12回　音楽ビジネスの著作権（1)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
事13回　音楽ビジネスの著作権（2)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第14回　音楽ビジネスの著作権（3)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
各回の予習として、指定した教科書等の該当箇所を事前に読了すること

3．履修上の注意
この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週木曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する（ただし､授業の内容に関する質問は､ディスカッション機能で行うこと)。
メディア授業の特徴として、一定の受講期間を設けているため、特別な事情がある場合を除いて、未受講による特別の課題は一切用意していない。特別の課題を用意するなどの要望について問い合わせをしないこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習として、指定した資料を事前に目を通すこと、復習として小テスト等の課題を解くことを求める。予習・復習には90分程度かかると想定される。

5．教科書
安藤和宏『エンターテインメント・ビジネス』(リットーミュージック、2024年3月発売)。その他、授業の進行に合わせて資料を用意し、Oh-o! Meiji Systemにアップする。

6．参考書
『ライブイベント・ビジネスの著作権（第2版)』、福井健策編著、CRIC（第2版、2023年)、『映画・ゲームビジネスの著作権』、福井健策編著、CRIC（第2版、2015年)、『音楽ビジネスの著作権』、福井健策編著、CRIC（第2版、2016年）がある。
本講義では､著作権法について扱うことが多いが､これについては､今村哲也『いちばんやさしい知的財産法入門』（有斐閣、2025年12月）が参考になる。

7．課題に対するフィードバックの方法
小テストは、その出題意図と採点実感を、小テストの期限後においてOh-o! Meiji システムを通じてを配信する。個別の正答と採点結果（点数）については、開示しない。

8．成績評価の方法
毎回の授業後に回答する小テスト（毎回100点）を14回分（合計1400点）の平均点を素点として算出し、その素点を最終的な評点の100％として評価することを原則とする。60点未満は単位不認定とする。なお、正当な理由のない限り（正当な理由がある場合、要連絡)、14回の授業のうち4回以上の課題未提出がある場合、原則として単位を認定しない。課題未提出かどうかは、授業動画の視聴記録の視聴完了、および、小テストの提出の2つを完了して、1回分の課題提出とする。
例外的に、上記で求められる素点が90点以上および80点以上90点未満の者の割合が、合格者（60点以上の者）の50パーセントよりも大きくなる場合、または、素点が90点以上である割合が、合格者の概ね20パーセントより大きくなる場合には、相対評価を採用する。相対評価を行う場合、素点を基礎に合格者に順位を付与し、90点以上および80点以上90点未満の割合は、最大でも合格者の概ね50パーセント以内とし、かつ、90点以上の割合は、最大でも合格者の概ね20パーセント以内とするよう最終的な評点を決定する。
※対面形式での試験は行わない。

9．その他
クラスウェブのディスカッションを機能を活用し、講師および学生同士の意見交換の場を設ける。

科目ナンバー：(IC)LAW346J

ビジネスと法B〔M〕

2単位	3年次	今村　哲也

1．授業の概要・到達目標
授業概要：ビジネスと法Bでは、出版・漫画ビジネス、インターネットビジネスにおける法や契約の役割について、著作権の問題を中心として、講義を行う。学生でもイメージしやすい例を挙げながら、そのような事例に妥当な解決又はその方向性を導き出せる程度の応用力も身につけられるように解説する。
到達目標：上記のビジネス領域に関して、基本的な知識を修得し、かつ、基本的な法律問題において、その知識を用いながら妥当な解決又はその方向性を導き出すことができるようになることが目標である。

2．授業内容
この講義はすべてオンデマンド型（収録動画配信型）で行う。
第１回　イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第２回　出版･漫画ビジネスのしくみと動向〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第３回　出版・漫画ビジネスの各プレーヤ〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第４回　出版･漫画ビジネスにおける「契約」をめぐる諸問題〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第５回　出版・漫画ビジネスをめぐる法的問題（1)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第６回　出版・漫画ビジネスをめぐる法的問題（2)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第７回　出版･漫画ビジネスの二次的展開:映画化･ドラマ化、商品化契約等〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第８回　出版・漫画ビジネスの将来像〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第９回　インターネットビジネスのしくみと動向〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第10回　配信ビジネスめぐる法的問題（1)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第11回　配信ビジネスめぐる法的問題（2)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第12回　SNS･マイクロブログ、投稿サービスめぐる法的問題、誹謗中傷と法（1)〔メディア授業（オンデマンド型)〕
事13回　誹謗中傷と法（2）／その他のサービスをめぐる法的問題　ほか〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第14回　インターネットビジネスをめぐるその他の問題〔メディア授業（オンデマンド型)〕
各回の予習として、指定した教科書等の該当箇所を事前に読了すること

3．履修上の注意
この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週木曜日にOh-o! Meijiシステムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meijiクラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する（ただし､授業の内容に関する質問は､ディスカッション機能で行うこと)。
メディア授業の特徴として、一定の受講期間を設けているため、特別な事情がある場合を除いて、未受講による特別の課題は一切用意していない。特別の課題を用意するなどの要望について問い合わせをしないこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習として指定した教科書や映像資料などの該当箇所を事前に読了・視聴することを求める。講義では、次回までに読むべき資料をその都度指示するので、それらを準備学習として読んでくること。予習には90分程度かかると想定される。

5．教科書
安藤和宏『エンターテインメント･ビジネス』(リットーミュージック､2024年3月)。その他、授業の進行に合わせて資料を用意し、Oh-o! Meiji Systemにアップする。

6．参考書
『出版・漫画ビジネスの著作権』、福井健策編著、CRIC（2018年、第２版)、『インターネットビジネスの著作権とルール』､福井健策編著､CRIC（第2版､2020年)、『出版をめぐる法的課題　その理論と実務』、上野達弘・西口元編著、日本評論社（2015）がある。
本講義では､著作権法について扱うことが多いが､これについては､今村哲也『いちばんやさしい知的財産法入門』（有斐閣、2025年12月）が参考になる。

7．課題に対するフィードバックの方法
小テストは、その出題意図と採点実感を、小テストの期限後においてOh-o! Meiji システムを通じてを配信する。個別の正答と採点結果（点数）については、開示しない。

8．成績評価の方法
毎回の授業後に回答する小テスト（毎回100点）を14回分（合計1400点）の平均点を素点として算出し、その素点を最終的な評点の100％として評価することを原則とする。60点未満は単位不認定とする。なお、正当な理由のない限り（正当な理由がある場合、要連絡)、14回の授業のうち4回以上の課題未提出がある場合、原則として単位を認定しない。課題未提出かどうかは、授業動画の視聴記録の視聴完了、および、小テストの提出の2つを完了して、1回分の課題提出とする。
例外的に、上記で求められる素点が90点以上および80点以上90点未満の者の割合が、合格者（60点以上の者）の50パーセントよりも大きくなる場合、または、素点が90点以上である割合が、合格者の概ね20パーセントより大きくなる場合には、相対評価を採用する。相対評価を行う場合、素点を基礎に合格者に順位を付与し、90点以上および80点以上90点未満の割合は、最大でも合格者の概ね50パーセント以内とし、かつ、90点以上の割合は、最大でも合格者の概ね20パーセント以内とするよう最終的な評点を決定する。
※対面形式での試験は行わない。

9．その他
クラスウェブのディスカッションを機能を活用し、講師および学生同士の意見交換の場を設ける。

科目ナンバー：(IC)ECN361J

ファイナンス論Ａ（金融システム論Ⅰ）

２単位	３年次	**原　　昌平**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】家計の貯蓄と資産運用、企業の投資と資産調達、金融の基本的仕組み、金融機関と金融市場の役割、金融システムにつき、国際協力機構（JICA）での実務経験を織り交ぜて解説します。
【到達目標】金融（ファイナンス）の基礎的な内容を解説するとともに、金融機関や金融市場の役割、最近の金融システム・制度を取り巻く新たな動きについて講義します。社会の仕組みにおける金融の役割を理解し、金融をはじめとする日々の経済社会の動きを適切に議論できるようになることを目標とします。

２．授業内容
１．イントロダクション
２．貨幣とは？（お金の役割）
３．「リスク」について
４．金融の仕組み（１）情報の役割
５．金融の仕組み（２）
６．金融の仕組み（３）
７．金融機関（１）預金取扱金融機関
８．金融機関（２）預金取扱金融機関（続）
９．金融機関（３）証券会社・保険会社等
10．金融システム・金融市場について
11．中央銀行の役割（１）概説
12．中央銀行の役割（２）金融政策
13．コーポレートファイナンスの概要
14．まとめ・人生と金融

３．履修上の注意
上記の授業計画は、半期間に取り扱う内容をおおまかに配分したものです。実際には、各回の進捗度合いなどに応じて改訂されます。なお、講義の内容はできるだけ数式を使わず平易な内容とし、ミクロ・マクロ経済学が未修得でも理解できるようにします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回の講義で使うレジュメをみながら予習・復習してください。講義では、日本経済新聞等の記事を参照することがありますので、新聞には目を通すようにしてください。期末試験に際しては、これらの参考文献をしっかりと読んでおいてください。一方通行の講義ではなく、できるだけインタラクティブな時間にしたいと思っています。

５．教科書
特に定めません。

６．参考書
参考文献は、各回の授業において紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
課題等へのフィードバックについては、総合的な評価をクラスウェブを通じて全体に対して行うほか、必要に応じて個別のレポートに対するコメントを１対1で行います。

８．成績評価の方法
期末課題レポート（60％）、授業貢献度（40％）、授業中の課題（新聞記事などに基づく簡単なプレゼン・ディスカッションを含む）への貢献度等を含む）を総合的に勘案し、評価します。

９．その他
特にありません。

科目ナンバー：(IC)ECN361J

ファイナンス論Ｂ（金融システム論Ⅱ）

２単位	３年次	**原　　昌平**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】ファイナンスAに引き続き、金融（ファイナンス）の具体的な役割（ユースケース）、新たな役割などについて解説します。国際協力機構（JICA）での実務経験に基づく実例を紹介します。
【到達目標】金融（ファイナンス）の基礎に関する理解を前提に、特に、世界の開発課題に取り組む観点で金融が果たす役割について講義します。世界の中の日本の役割、そこに金融が果たす役割について、視野を広げ、適切に議論できるようになることを目標とします。

２．授業内容
１．世界の開発課題と開発金融の役割（概論）
２．IMF・世界銀行の役割
３．開発途上国への資金の流れ
４．政府間の金融（円借款を例に）（１）
５．政府間の金融（円借款を例に）（２）
６．政府間の金融（円借款を例に）（３）
７．民間金融機関を通じた金融（海外投融資）概要
８．プロジェクトファイナンス（１）
９．プロジェクトファイナンス（２）
10．プロジェクトファイナンス（３）
11．スタートアップファイナンス
12．インパクト金融（１）
13．インパクト金融（２）
14．まとめ・金融関連の資格制度の紹介

３．履修上の注意
上記の授業計画は、半期間に取り扱う内容をおおまかに配分したものです。実際には、各回の進捗度合いに応じてなど改訂されます。なお、講義の内容はできるだけ平易な内容としますが、ミクロ・マクロ経済学の基礎的な知識をもっていることが望ましいです。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回の講義で使うレジュメをみながら予習・復習してください。講義では、日本経済新聞等の記事を参照することがありますので、新聞には目を通すようにしてください。一部英語文献を紹介する可能性もあります。期末試験に際しては、これらの参考文献をしっかりと読んでおいてください。一方通行の講義ではなく、できるだけインタラクティブな時間にしたいと思っています。

５．教科書
特に定めません。

６．参考書
参考文献は、各回の授業において紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
課題等へのフィードバックについては、総合的な評価をクラスウェブを通じて全体に対して行うほか、必要に応じて個別のレポートに対するコメントを１対1で行います。

８．成績評価の方法
期末課題レポート（60％）、授業貢献度（40％）、授業中の課題へ（新聞記事などに基づく簡単なプレゼン・ディスカッションを含む）の貢献度等を含む）を総合的に勘案し、評価します。

９．その他
特にありません。

科目ナンバー：(IC)LAW361J

紛争解決システム論Ⅰ

2単位	3年次	宮田　泰

1．授業の概要・到達目標
現代社会においては、裁判の本質を紛争解決制度との関連の中で捉えることが、喫緊の課題となっています。私的紛争は、我々の人間の共同生活に偏在する現象であり、一度、紛争に巻き込まれると、そこから脱却することは、非常に困難であり、また、国家が設営する公権的紛争解決制度の助力を得るということが必要となります。本講座では、現代の紛争解決制度の中で、裁判所の「法による裁判」(民事訴訟法）を裁判の本質という角度から考察し、同時に紛争解決制度に対する様々な要求、とりわけ紛争当事者の主体性の確立という視点を加味して検討を加えてゆくこととします。
右の概要に基づき、基本書の精読と紛争解決システムの基本概念に対する理解をできるようになることを目標に授業を行います。

2．授業内容
本講座は、民事訴訟法の手続きを、訴訟の開始、訴訟の審理、訴訟の終了という三つの段階に分けて解説を加えております。Ⅰでは、そのなかでも、訴訟の開始に重点をおいて解説を加えます。
（1）序論
第1回　<1>はじめに
第2回　<2>民事訴訟法の意義
第3回　<3>新民事訴訟法の成立
第4回　<4>民事訴訟法の解釈
第5回　<5>民事訴訟と憲法的保障
（2）訴訟の開始
第6回　<1>総説：訴えの構造的把握
第7回　<2>当事者論
第8回　<3>裁判所の構成及び管轄
第9回　<4>訴えの種類
第10回　<5>訴訟対象論：訴訟物論争
第11回　<6>訴訟対象論：訴訟物の特定方法
第12回　<7>訴えの方法
第13回　<8>訴え提起後の措置
第14回　<9>訴え提起の効果

3．履修上の注意
授業の態度（提出物の提出状況）も成績評価に加味いたします。
課題・資料提示型の授業に理解の助けを得るため、WIFI通信などを利用してやり取りを行うなどの補助的手段を講ずる場合があります。また、通信状況が授業中に変化する場合には、多少講義の資料提示日の変更や、公開期日の前後などする場合があります。
余裕をもって粘り強く学習に取り組む必要がありますので、そのところはご了解ください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習復習の仕方等.
この授業は教科書をベースに各章ごとに分けて解説を加える形式で授業を展開しております。各回の授業では教材提示装置の使用やパワーポイント資料の提示などで要約を示しながら解説を加えます。そのため、講義で教科書の説明を受けた後、必要な限度で授業とも自習して頂きたいと思います。また、各回の授業がペースメイカーとなりますので、これをもとにその復習に取り組んでいただきたいと思います。

5．教科書
納谷廣美編著『新版・民事訴訟法』（八千代出版、1999年）

6．参考書
一、教科書ではあるが、授業の際に参考とする資料として挙げておくことにする（他の教科書で重要な箇所は授業の中で資料を示し説明することにしているので、以下の5冊は例として挙げておく。）
①納谷廣美『講義　民事訴訟法』（創成社、2004年）。
②中野貞一郎･松浦薫･鈴木正裕編『新民事訴訟法講義〔第三版〕』（有斐閣、2018年）
③河野正憲･勅使河原和彦･芳賀雅顯著『プリメール民事訴訟法』（法律文化社、2010年）
④上原敏夫・池田辰夫・山本和彦『民事訴訟法』（有斐閣、2017年）
⑤長谷部由起子『民事訴訟法　新版』（岩波書店、2017年）
二、自習用補助教材
池田辰夫・長谷部由起子・安西明子・勅使河原和彦『民事訴訟法Visual Materials』（有斐閣、2010年）

7．課題に対するフィードバックの方法
習熟度調査を行う場合は、OH-meijilのアンケート機能を用いて実施する（今のところ、未定である）。

8．成績評価の方法
平常点（20%）及びテスト（80%）により評価いたします。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAW361J

紛争解決システム論Ⅱ

2単位	3年次	宮田　泰

1．授業の概要・到達目標
現代の紛争解決システムは、適正な事案の解明に基づく裁判を実現するために種々の手続的な手当てを用意しています。本講座のⅡにおいては、訴え提起から判決確定に至るまでの手続全般にわたって検討を加え、さらに多数の当事者が紛争に関与する場合の応用例を概観することにします。本講座では、Ⅰと同様に裁判の本質の理解と紛争当事者の主体性を確立するための手続保障の問題にも配慮しつつ、検討を行います。
右の概要に基づき、基本書の精読、紛争解決システムの基本概念に対する理解、さらにはその応用問題に対する多角的な検討をできるようになることを目標に授業を行います。

2．授業内容
本講座は、民事訴訟法の手続きを、訴訟の開始、訴訟の審理、訴訟の終了という三つの段階に分けて解説を加えております。Ⅱでは、そのなかでも、訴訟の審理及び終了に重点をおいて解説を加えます。
（1）訴訟の審理
第1回　<1>総説：審理進行のモデルの提示
第2回　<2>手続の進行
第3回　<3>事案の解明：弁論主義
第4回　<4>審理に関する諸原則
第5回　<5>口頭弁論
第6回　<6>証明：証明の規律
第7回　<7>証明：証明困難緩和のための方策
（2）訴訟の終了
第8回　<1>総説
第9回　<2>判決による訴訟の終了
第10回　<3>当事者の行為による訴訟終了
第11回　<4>確定判決の効力：即判力論
第12回　<5>確定判決の効力：争点効論
第13回　<6>複合訴訟：複数請求訴訟
第14回　<7>複合訴訟：複数当事者訴訟

3．履修上の注意
紛争解決システム論Ⅱは、応用問題が多く、少しⅠの箇所よりも難易度が高い問題が多くなりますが、ある程度民事訴訟法のスキームワークが分かる程度の内容を中心として講義しております。そのため、この授業の到達目標もできるだけⅠのテーマを受け、とりわけ判決手続の中身がわかるように議論を組み立てたい。
秋学期は他の科目も応用問題が多くなり、春学期よりも課題が多くなることが予測されます。応用により視野を広げ、そして問題を絞り込んで纏める方向で検討することも必要になります。Ⅱの授業では、課題に粘り強く取り組むことも必要となる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
この授業は教科書をベースに各章ごとに分けて解説を加える形式で授業を展開しております。各回の授業では教材提示装置の使用やパワーポイント資料の提示などで要約を示しながら解説を加えます。また、授業がペースメイカーとなりますので、これをもとに各回の復習に取り組んでいただきたいと思います。

5．教科書
納谷廣美編著『新版・民事訴訟法』（八千代出版、1999年）

6．参考書
一、教科書ではあるが、授業の際に参考とする資料としては次の教科書を挙げておくことにする（他の教科書で重要な箇所は授業の中で資料を示し説明することにしているので、以下の5冊を示して置くことにする）
①納谷廣美『講義　民事訴訟法』（創成社、2004年）。
②中野貞一郎･松浦薫･鈴木正裕編『新民事訴訟法講義〔第三版〕』（有斐閣、2018年）
③河野正憲･勅使河原和彦･芳賀雅顯著『プリメール民事訴訟法』（法律文化社、2010年）
④上原敏夫・池田辰夫・山本和彦『民事訴訟法』（有斐閣、2017年）
⑤長谷部由起子『民事訴訟法　新版』（岩波書店、2017年）
二、自習用補助教材
池田辰夫・長谷部由起子・安西明子・勅使河原和彦『民事訴訟法Visual Materials』（有斐閣、2010年）

7．課題に対するフィードバックの方法
習熟度調査を行う場合は、OH-meijilのアンケート機能を用いて実施する（今のところ、未定である）。

8．成績評価の方法
授業への参加（出席）回数等を加味した平常点（20%）及びテスト（80%）により評価いたします。

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM351J

マスコミュニケーション論A

2単位	3年次	永井　健太郎

1．授業の概要・到達目標

大量の情報がメディアを通じて流通する。高度に情報化された現代社会で生じる様々な出来事を理解するためには、マスコミュニケーションの歴史と成立プロセス、そして、その社会的機能と役割を理解することが必要である。本講義を通して、メディア社会で起こっている様々な現象への理解がより深まるはずである。

マスコミュニケーション論Aでは、多くの研究成果をもとに、マスコミュニケーション研究の理論と、その歴史的な展開を講義する。前半は、初期のマスコミュニケーション研究の形成と展開について、当時の様々な事件や出来事などに言及しながら、解説する。後半は、テレビの普及とともに登場した新効果論研究（中効果論）の発展と展開へと話を進める。最後に、現在のメディア環境に対する理論を紹介し、現在のマスコミュニケーション論の見取り図を整理する。

【到達目標】

1. マスコミュニケーション研究の形成と展開を説明できる
2. 新効果論研究の発展といくつかの理論を説明できる
3. 多様な理論から､現代の情報社会で行われている情報コミュニケーションに対して自身の考えを表現できる

2．授業内容

第1回　イントロダクション：マスコミュニケーション論ことはじめ
第2回　マスコミュニケーション前史①：メディアの始まりから「グーテンベルクの銀河系」まで
第3回　マスコミュニケーション前史②：メディアと民主主義、電子の時代へ
第4回　a：強力効果論　b：大衆社会論
第5回　a：コミュニケーションの流れ研究　b：利用と満足研究
第6回　a：説得的コミュニケーション研究　b：認知バイアス
第7回　議題設定機能
第8回　沈黙の螺旋
第9回　培養効果
第10回　a：フレーム b：エンコーディング、ディコーディング
第11回　メディアシステム依存論
第12回　マスコミュケーションの衰退とインターネット時代
第13回　ソーシャルメディアは「マスコミュニケーション」か
第14回　a：期末試験、b：試験正答解説

3．履修上の注意

講義内容としては、マスコミュニケーション論Bをあわせて履修する必要はない。しかし、マスコミュニケーション論への理解を深めたい場合は、マスコミュニケーション論Bも合わせて履修することを薦める。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

講義する内容に該当する参考書の箇所を前もって読んでくること。復習は、授業資料およびテキストを読み直し、理論を理解しておくこと。
日常生活の中でのメディア利用や報道、ネット情報に意識を向けておくこと。

5．教科書

指定しない。

6．参考書

「マスメディアとは何か―「影響力」の招待」稲増一憲、中公新書
「マスコミュニケーション効果研究の展開」田崎・児島（編）、北樹出版

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内またはOh-meijiで返答を行う。

8．成績評価の方法

試験70%、リアクション・ペーパー 30%

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM351J

マスコミュニケーション論B

2単位	3年次	永井　健太郎

1．授業の概要・到達目標

戦後の政治過程において、マスコミュニケーションの影響を無視することはできない。そこで、マスコミュニケーション論Bでは、マスコミュニケーション（主にマスメディア）の社会的機能と政治との関係を紐解きながら、我々がメディアと政治の関係にどう向き合っていくのかを議論する。前半は、メディアと政治に関わる理論からはじめ、マスメディアを取り巻く政治経済、マスメディアが持つ影響力について講義を行う。後半は、報道の現場へと焦点を移し、新聞、雑誌、テレビの政治への影響を押さえる。最後に、インターネット時代におけるメディアと政治の関係を理解することを目指す。

【到達目標】

1. マスメディアの社会的機能を説明できる
2. メディアと政治の関係を双方の影響力から説明できる
3. ネット社会と政治の関係について考える知識を習得し、自らの考えを表現できる

2．授業内容

第1回　イントロダクション：重層的なメディア社会に生きる
第2回　メディアと政治：メディアの社会的機能
第3回　メディア多元主義モデル：日本政治におけるメディアの位置づけ
第4回　メディアの自由に対する制約
第5回　メディアの政治的影響：即効効果、限定効果、中効果
第6回　メディアと世論：世論形成過程と世論とは何か
第7回　a: 中間試験・試験正答解説 b:マスメディアの取材：政治記者と政治
第8回　マスメディアの取材：政治報道
第9回　テレビと雑誌の報道
第10回　政治ニュースの娯楽化とイメージ形成
第11回　マスメディアと投票行動
第12回　日本におけるインターネットと政治：ネット利用の黎明期
第13回　日本におけるインターネットと政治：SNSと選挙
第14回　a:期末試験・試験正答解説 b: ネット政治の今後

3．履修上の注意

講義内容としては、マスコミュニケーション論Aを履修していなくても支障はない。しかし、マスコミュニケーション論Aを履修しておけばさらに理解が深まることは言うまでもない。マスコミュニケーション論Aを履修しておくことを薦める。
ゲスト講師を招く場合がある。その際は、授業内容を一部変更が生じる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

講義する内容に該当するテキストの箇所を前もって読んでくること。復習は、もう一度テキストを読み直し理論や事例を理解し、自分の言葉で表現できるよう練習する。
日常生活の中でのメディア利用や報道、ネット情報に意識を向けておくこと。

5．教科書

「メディアと政治（改訂版）」蒲島郁夫ほか、有斐閣アルマ

6．参考書

「日本政治とメディア：テレビの登場からネット時代まで」逢坂巌、中公新書、2014

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内またはOh-meijiで返答を行う。

8．成績評価の方法

試験70%、リアクションペーパー 30%

9．その他

科目ナンバー：(IC)CUL351J

メディアの歴史

2単位	3年次	江下　雅之

1．授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
古代から現代にいたるまで、コミュニケーションを媒介するための仕組みとしてのメディアが多様な社会的な要請および個人的なニーズのもとで構築され、利用されてきたかを総合的に講義する。特定のメディアに限定するのではなく、輸送（郵便）、有線電気通信、無線通信、放送、印刷・出版、写真、音声記録、映画など、ほぼすべてのメディアに関する発生から普及までのプロセス、関連する技術革新、社会的背景を具体的に解説する。あわせて、ジャーナリズム、大衆消費社会、ユースサブカルチャー、ファッションなどの社会的な動向や様相とメディアとの関連も解説する。
〈到達目標〉
この講義を通じ、メディアの成立において、技術革新と社会変化とが相互作用的に推移すること、また、現代のメディア環境が古代・中世からの系譜を持ち、そして「19世紀」に土台が成立していること、その上で、20世紀終盤におけるメディアのデジタル化による変革の本質を理解する。とりわけメディアが成立するための社会的要件・制度的要件の成立過程を理解することを重要な到達目標とする。メディアを決定づける要素が技術だけでなく、むしろ用途面がメディアの枠組みを形成することを理解することを通じ、技術論に偏ることなく、メディアの環境の〈いま・ここ〉と、〈これから・どこ〉への方向性を考察できよう。

2．授業内容
【この科目はクォーター（7週）完結型授業】
授業は「1　モノと情報の分離と長距離通信」「2　情報の複製：プリント・メディアの誕生と電子化」「3　身体の拡張：〈音〉のメディア技術」「4　デジタル革命：ITとグローバリゼーション」の4パートで構成される。各回のテーマは次の通りである。
第1回：授業の全体像の説明〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第2回：1.1　郵便制度：輸送による通信
第3回：1.2　電気通信への助走〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第4回：1.3　有線電信と無線電信
第5回：2.1　印刷出版の革命と停滞
第6回：2.2　ジャーナリズムと定期刊行物〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第7回：2.3　写真：記録からコミュニケーションへ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第8回：3.1　ラジオ放送の誕生と浸透
第9回：3.2　電話のユニバーサル・サービス化
第10回：3.3　人・モノと音の分離と複製・生成〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：4.1　日米のテレビ文化
第12回：4.2　複合化する映像産業〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：4.3　メディアとしてのコンピュータ
第14回：全体の総括：メディア環境の「いま、ここ」〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊以上の内容は2025年度に実施した講義の構成です。授業期間前に変更が確定した場合はイントロダクション動画で説明します。
＊授業期間開始後であっても、講義内容および回の順序は必要に応じて変更することがあります。変更の際は Oh-o Meiji の「お知らせ」であらかじめ連絡します。

3．履修上の注意
この科目は、クォーター（7週）完結型授業である。週に2コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。
オンデマンド形式により実施する回については、原則として毎週木曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。その次の回の対面授業の日までに必ず受講すること。
動画の配信スケジュールはイントロダクション動画でかならず確認すること。
講義資料（講義ノート、スライドのダイジェスト版）をOh-o Meijiで配布する。
講義ノートは原則として各パートの終了後に公開する。かりに講義内容と細かな点で違いがあるときは、講義ノートの内容に準拠するものとする。講義ノートに訂正箇所が発生した場合はOh-o Meiji で知らせる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
事前に配付されるスライドのダイジェスト版を授業前に一読し、必要に応じて講義に持参すること。講義中は適宜ノートを取り、講義ノートの公開後は内容を照らし合わせて講義内容を再整理すること。

5．教科書
使用しない。ただし、講義ノートが復習用ではあるが実質的に教科書とおなじ内容のものとなる。

6．参考書
講義ノートでセクションごとに詳しく紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートに対し Oh-o Meiji で評価をコメントする。また、個別のフィードバックは希望があれば Oh-o Meiji のポートフォリオを通じて随時対応する。

8．成績評価の方法
中間レポートと期末レポートで評価する（評価の構成比は各50%）。
各パートごとにレポート課題を設定する。授業は4パートで構成されているので、全体で4課題（各課題3テーマ）が提示される。
中間レポートとしてPart.1またはPart.2のいずれか一方を、期末レポートとしてPart.3またはPart.4のいずれか一方を各自が選択すること。中間レポートを提出しなかった者は、その時点でF評価が確定する。また、中間レポートを提出しても期末レポートの提出がなければ、やはりF評価となる。
提出期限はパートごとに設定する。Part.1とPart.2の両方のレポートを提出した場合は、評価の高い方を中間レポートとして採用する。Part.3とPart.4の両方のレポートを提出した場合も、評価の高い方を期末レポートとして採用する。したがって、Part.1の評価が低かった場合はPart.2で、Part.3の評価が低かった場合はPart.4で挽回が可能である。
以上のことから、どうしてもこの科目の単位取得が必要な者は、中間レポートとしてPart.1を、期末レポートとしてPart.3を提出し、必要に応じてPart.2、Part.4で挽回を目指すこと。これ以上の「救済措置」は一切取ることができない。

9．その他
質問がある者は、Oh Meijiのポートフォリオあるいは教員へのメッセージ機能を利用すること。
レポートの作成に際して生成AIの使用はとくに禁止しないが、使用した場合は、かならず使用したことをレポート内で明記すること。なお、2023 ～ 2025年度の授業においても生成AIを使用したと判断できるレポートの例があったが、合格レベルに達しているといえないものが多かった。生成AIはレポートの自動作成システムではないので、課題文を単純に質問しても正確な答えは返ってこない。生成AIは質問者が学習データを適切に提供する必要があるため、次のプロセスが不可欠である。
1）事前にレポートの基本的な構成を練る。
2）個々の構成の中心となるトピックスを立てる。
3）順序だって対話的に生成AIに質問する。
4）返ってきた内容を自分でファクトチェックする。
生成AIを利用したいときは、Oh Meijiのレポート用トピックスに示された注意事項を参考にすること。
なお、パラグラフ・ライティングがなされていない、「です・ます」調で書かれている、特徴を列記しただけ等のレポートは、大幅に減点される。

科目ナンバー：(IC)SOC331J

メディア論

2単位	3年次	大黒　岳彦

1．授業の概要・到達目標
メディアというとすぐに新聞やテレビといったマスメディアや、コンピュータや携帯といったメディア装置のことを考えるのが常である。しかし文字や話し言葉も歴としたメディアであり、また表情や身振り手振りといった身体もメディアに数え入れることができる。
この講義では常識的な「メディア」観から自由になり、「メディアはコミュニケーションを秩序付け、編成する原理である」という認識に基づいてメディアの機能と役割を考える。
また代表的な思想家のメディア理論の検討や吟味も行いながらメディア論の最前線へと導きたい。
最新のメディア技術の現代情報社会における意義を把握できるようになることも目標とする。

2．授業内容
前半では主にメディア論思想の学説史的な系譜を辿る。マクルーハン・ハウロック・オングらの英米系メディア史観、ベンヤミンのメディア思想、キットラーの電子メディア論、ドブレのメディオロジー、社会学のメディア論の系譜を紹介する。
後半では、マスメディア、電子メディア、身体メディアを含めた理論的な考察を行う。「ヴァーチャル・リアリティー」「サイバースペース」「ユビキタス・コンピューティング」といった最新技術をメディア論的に考察し、メディア社会における意味と機能を考えたい。
講義内容は以下の予定。
1　「メディア」とは何か?
2　「メディア史観」（マクルーハン・ハヴロック・オング）
3　複製技術とベンヤミンの思想
4　キットラーのメディア論
5　ドブレのメディオロジー
6　カルチュラルスタディーズのメディア論
7　社会学のメディア論（パーソンズとルーマン）
8　「マスメディア」はいかなるメディアか?
9　マスメディアとネットワークメディア
10　インターネットというメディア
11　Google・Twitter・Facebook
12　VRの歴史
13　VRとエンタテインメント
14　VRと情報社会

3．履修上の注意
特にない

4．準備学習（予習・復習等）の内容
常にアンテナを張り自分の身の回りのメディア環境に敏感であること。

5．教科書
『情報社会とは何か？―〈メディア〉論への前哨』（NTT出版）

6．参考書
授業の中でその都度紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
必要に応じて授業及びクラスウェブ等を活用して実施する。

8．成績評価の方法
平常点（30%）と期末の試験（70%）。（出席を取らないのに何故平常点があるのかという疑問が当方に寄せられますが、試験答案の内容で出席の有無は当然分かります。）

9．その他

文化と表象

科目ナンバー：(IC)ART311J

アート・マネジメント

2単位	3年次	李　　知映

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
アート・マネジメントは、アーティストと社会とを多様々な方法で結びつけ、アートの持つ多様な価値を人々と分かち合い、その豊かさによってアーティストと社会の双方を触発するための、諸活動の総称であります。それは大きくは、具体的な事業の企画・立案と、当該の企画・立案を十全に具現化・現実化していく制作から成ります。また事業経営上、事業の成否を決する活動として広報の営みはとりわけ重要なものであります。こうしたアート・マネジメントの知識と方法論を習得します。
【到達目標】
この授業では、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。そして日本のアート・マネジメントについて考える思考力を身に着けます。

2．授業内容
第1回：ガイダンス（授業の目的と進め方について説明）及び自己紹介
第2回：アート・マネジメントとは何か
第3回：アートと国家
第4回：アートと地方自治体
第5回：アートと社会1：美術館・博物館　その歴史と役割の変遷
第6回：アートと社会2：文化ホール　その歴史と役割の変遷
第7回：アートと法・制度
第8回：小テスト①／アートと企業
第9回：アートとNPO
第10回：アートと地域創造
第11回：グループ発表及びディスカッション
第12回：グループ発表及びディスカッション
第13回：グループ発表及びディスカッション
第14回：小テスト②／まとめと解説

3．履修上の注意
1.授業の進め方によってはテーマが前後する場合がある。
2.授業の中で紹介する参考文献を読むように心かける。
3.授業中の私語はかたく断る。3回目の注意を受けた場合は、その場で退席を要し当日は欠席と処理する。
4.出席登録の際に、まだ出席してない学生にワンタイムパスワードを共有することは固く断る。発覚された場合は、頼んだ人ももちろん本人も欠席と処理する。
5.履修者にはつねに積極的な参加を求める。講義中に教員から履修者へ質問を行なう場合もあるため、つねに集中力をもって受講すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストは特に定めません。
授業で使うパワーポイント・スライドをPDFにして、授業後Oh-o! Meijiシステムで配布します。授業中で紹介された参考文献等を含め、復習することに心かけてください。

5．教科書
特に定めません。

6．参考書
『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）
『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）
『はじまりのアートマネジメント』松本茂章編、文化とまちづくり叢書　新改訂（2025）
※このほか、授業中に適宜提示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業中に適宜反映します。

8．成績評価の方法
授業への参加度（40%）と2回の小テスト（30%）、発表（30%）により、成績判定します。

9．その他
現状ではグループワークを想定していますが、受講生人数により個別学習にする可能性もあります。

科目ナンバー：(IC)COM131J

異文化コミュニケーション史

2単位	3年次	須田　　努

1．授業の概要・到達目標
クオーター（7週間）完結型〈ハイブリッド型〉の授業です。
異文化コミュニケーション（異文化間コミュニケーション）の様相を歴史的文脈から見てゆきます。日本人と韓国人、日本人と中国人、友達同士のコミュニケーションは良好であるにもかかわらず、国家や政治がからむと、なぜギャップや「反」というバイアスがかかるのでしょうか。
歴史学は過去に拘泥するものではありません。現代社会を相対化し、よりよい未来を指向するものです。古くさいことを調べるのではなく、現代社会で起こる様々な問題を歴史の文脈から理解し、以下の能力を養成します。
＊多様な歴史解釈の存在を意識しつつ、異文化コミュニケーションの問題を考察します。
＊立場性ということから異文化コミュニケーションの様相を理解します。
具体的には、鎖国下であった江戸時代に訪れた「異人」＝朝鮮通信使を巡る問題や、19世紀の欧米列強の接近を素材とします。

2．授業内容
授業内容は以下ですが、研究状況により変動することはあります。
1．対面授業　　イントロダクション
2．メディア授業　豊臣秀吉の朝鮮侵略はどう理解されてきたか
3．対面授業　　鎖国と朝鮮外交の始まり
4．メディア授業　日朝「善隣外交」の内実
5．対面授業　　為政者・知識人の朝鮮認識　日本型華夷意識
6．メディア授業　庶民の朝鮮認識　浄瑠璃・歌舞伎に描かれた朝鮮
7．対面授業　　小括　小テスト
8．メディア授業　庶民の朝鮮認識　各地の祭りに残された朝鮮
9．対面授業　　欧米列強の接近　大津浜事件という異文化コンミュニーション
10．メディア授業　為政者・知識人の欧米列強認識　会沢正志斎『新論』
11．対面授業　　日本外交の問い直し
12．メディア授業　ペリー来航の衝撃
13．対面授業　　総括　学期末レポート

3．履修上の注意
この科目は、クオーター（7週）完結型授業です。週に2コマの授業を、対面式とオンデマンド形式にて実施します。
オンデマンド形式により実施する授業回については、毎週金曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の日までに必ず受講すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
講義に関連した文献をレジュメで明示します。これを利用して復習をしっかりと。

5．教科書
とくに定めない。

6．参考書
平川新『戦国日本と大航海時代』中公新書、2018年
趙景達編『近代日朝関係史』有志舎、2012年

7．課題に対するフィードバックの方法
学生が毎回作成したレポート（リアクションペーパー）は、翌週までに採点し応答を可能とします。さらに、優秀なレポートは、講義の冒頭で必ず紹介します。

8．成績評価の方法
以下を総合して評価します。
①定期試験　50点
②1回の小テスト　20点
③毎回レポート（リアクションペーパー）　30点（6点×5回）

9．その他
駿河台での講義です。最新の研究成果を取り入れます。頭を使い続ける時間です。日本史の知識はなくても大丈夫ですが、主体的に勉強し、知を獲得する講義です。新書程度の読書が必要です。

科目ナンバー：(IC)LIN341E

英語の文化と歴史

2単位	3年次	ドウ, ティモシー　J.

1．授業の概要・到達目標

This course provides an overview of the history of the English language and examines its major changes and developments. Students will understand how historical and social developments led to the emergence of English as a global language. Students will study the history of the English language from the year 450 to the present day. The similarities between Old, Middle, and Modern English will be examined in addition to the influence of other European languages such as Latin, German, and French. Students will also learn about how political, religious, social, and scientific developments influenced the development of the English language.

Students will demonstrate their understanding of the course materials by engaging in a variety of activities in order to improve their academic English skills in addition to developing their knowledge of the course content. They will take notes on short lectures and complete class activities in small discussion groups. They will also develop their academic listening and writing skills through note taking and writing short reports.

2．授業内容

第１回：How Do Languages Change?
第２回：The Romans in Britain, Germanic Migration
第３回：The Arrival of Christianity, Old English
第４回：Viking Invasions, the Influence of Old Norse
第５回：The Normans, Middle English
第６回：The Tudors, Standard English
第７回：Religious and Scientific English
第８回：The Emergence of Modern English
第９回：Dictionaries and Grammar, Modern English
第10回：Colonialism and the Spread of English
第11回：English as a Lingua Franca, World Englishes
第12回：Language Policy, ESL
第13回：Internet English
第14回：The Future of English

3．履修上の注意

This class will be conducted in English. Students will complete class activities and discussions in small groups.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete class readings and homework assignments before classes.

5．教科書

No textbook is required. The teacher will provide reading materials.

6．参考書

※このほか、授業中に適宜提示します。

7．課題に対するフィードバックの方法

Tests conducted during the semester will be graded and returned to students in class. A week before the final exam, a practice test will be conducted in class, and feedback will be given to students.

8．成績評価の方法

The exam will count for 50% of the final grade. A mid-term test will count for 20%, and participation in class discussions and quiz scores will count for 30% of the final grade.

9．その他

科目ナンバー：(IC)CUL341J

映像表現論

2単位	3年次	コーディネーター 山内　勇

1．授業の概要・到達目標

テレビは社会を覗きこむ窓ではなく、番組の制作者が、混沌とした社会からネタを探し出し、わかりやすいよう再構成し、視聴者に提示しているものである。テレビ局の実務家を講師として招き、ニュース番組の制作を通して、視聴者でなく制作者の視点から、こうしたメディアリテラシーの基本を学ぶ。少人数のチームに分かれて、それぞれのチームで共通テーマのもと分程度のVTRを制作。さらにこのVTRをもとにフジテレビ湾岸スタジオの専用スタジオで番組制作（疑似生放送）する。

2．授業内容

（１）授業概要説明、ニュースVTR企画案の検討
（２）企画案提案とチーム編成、ニュースVTRの制作（リサーチ、構成案を考える）
（３）ニュースVTRの制作（取材プラン・演出プラン検討）
（４）ニュースVTRの制作（カメラの基本操作を学ぶ、小道具の準備・制作をする、ロケ台本提出）
（５）ロケ取材（第1取材先）
（６）ロケ取材（第2取材先）
（７）ロケ取材（追加取材）
（８）取材したVTR素材のプレビュー、構成原稿＆オフラインシート作成（構成原稿第1稿提出）
（９）取材したVTR素材のプレビュー、構成原稿＆オフラインシート作成（構成原稿第2稿提出）
(10) 取材したVTR素材のプレビュー、構成原稿＆オフラインシート作成（構成原稿最終稿＆オフラインシート提出）
(11) ナレーション収録、静止画作成
(12) スタジオ制作準備（役割決め、番組台本作成）
(13) 専用スタジオ（フジテレビ湾岸スタジオ内）でニュース番組を制作する
(14) 番組プレビュー（フジテレビ湾岸スタジオ内）、討論
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

一方的な講義でなく実習的な番組制作のため、積極的かつ主体的な授業への参加が求められる。毎週の授業時間中の出席はもちろんのこと、授業時間外もVTR作成等に励む必要がある。また、8月上旬にフジテレビ湾岸スタジオの専用スタジオにて番組制作を行うので、この実習に必ず参加できる者のみ事前申込方法に沿って手続きをすること。実施日程は別途履修者募集時の案内で確認すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

ニュース番組、情報番組などを意識的に見ることを推薦する。

5．教科書

とくになし。

6．参考書

とくになし。

7．課題に対するフィードバックの方法

提出される課題に対して授業内やメールにて行う。

8．成績評価の方法

授業への積極的かつ主体的な参加度を評価
※なお、最終課題を提出し合格しなければ、単位を取得できない。

9．その他

科目ナンバー：(IC)CUL341J

映像表現論

２単位	３年次	コーディネーター **山内　勇**

１．授業の概要・到達目標
コロナ禍以降のICTの大衆化進展に伴い社会とメディアのあり様は大きく変化した。メディアはマスコミが独占するものではなく、個人個人がメディアとなって発信していく時代となった。なかでも動画は発信力の最もすぐれた手段である。この講座ではテレビのVTR編集者を講師として招き、テーマ設定から編集までの一連の動画制作について、特に編集スキルを中心にテレビ番組制作のプロが基礎から教える。編集にあたっては、履修生は各自のノートPCに無料編集ソフト「ダビンチ・リゾルブ」をダウンロードし、各自のPCで編集する。撮影はスマホ、ビデオカメラなど手持ちのものを利用し、授業時間外に各自行う。

２．授業内容
（１）動画編集の基礎を学ぶ①（授業概要説明、編集ソフトのインストールと動作チェック、映像の基礎知識）
（２）動画編集の基礎を学ぶ②（素材の取り込み、カット編集とインサート編集、動画の書き出し）
（３）動画編集のテクニックを学ぶ①（音声補正、音声MIX、BGM、ナレーション）
（４）動画編集のテクニックを学ぶ②（テロップ、タイトル）
（５）動画編集のテクニックを学ぶ③（ワイプ効果､エフェクト､加工、静止画、色補正）
（６）動画編集総括、動画の構成を考える①（テーマ設定）
（７）動画の構成を考える②（ロケ台本を作成する）
（８）動画の構成を考える③（ロケ台本を完成させる）
（９）オリジナル動画編集①
（10）オリジナル動画編集②、作品提出①
（11）オリジナル動画修正編集
（12）オリジナル動画編集仕上げ、作品提出②
（13）完成VTRプレビュー＆討論①
（14）完成VTRプレビュー＆討論②
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
一方的な講義でなく実習的な番組制作のため、積極的かつ主体的な授業への参加が求められる。毎週の授業時間中の出席はもちろんのこと、授業時間外も素材収録やVTR編集等に励む必要がある。
編集ソフトとしてDaVinci Resolve（無料版）使用するため、このソフトウェアが使用できるノートPCの持参が必要となる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
ニュース番組、情報番組などを意識的に見ることを推薦する。

５．教科書
とくになし。

６．参考書
とくになし。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内やメールにて適宜行う。

８．成績評価の方法
授業への積極的かつ主体的な参加度を評価
※なお、最終課題を提出し合格しなければ、単位を取得できない。

９．その他
無料編集ソフト「ダビンチ・リゾルブ」を利用可能なラップトップPCを各自持参する

科目ナンバー：(IC)CUL341J

音楽表現論

２単位	３年次	**増野　亜子**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
この授業では音と人の関りを、狭義の「音楽」だけでなく、舞踊や芸能、儀礼などを含むさまざまな「音の文化」について、(a)音としての声と言葉、(b)ビートとリズム、(c)環境と音の視点から考察する。
具体的には「歌」に限らず泣いたり、叫んだり、朗誦したりする、様々な声の「音としての側面」は「言語としての側面」とどのように結びついているのか(a)、リズムやビートはどのように身体と音を結びつけ、どのような表現を可能にするのか(b)音はその「場所」の自然環境及び建築等の人工的環境とどのような関係にあり、そのことが私たちの生活や社会にどう作用しているか(c)といった問いを考える。いずれも「正解」を出すことは目標ではなく、問いとともに音の特徴を注意深く聴き、その音を生み出す人々の体やその場の状況について考える過程で、音/音楽と社会的背景や自然環境、歴史的文脈との関係を多角的に理解することを重視する。
授業は(1)視聴覚資料を用いた講義、(2)履修生が声と身体を使って行う体験・実践、(3)履修生が実施するミニ・リサーチとその成果の共有、の３つの方法で進める。授業の最終段階では、履修生はミニ調査発表・創作発表のいずれかを選びお互いに共有することを目指す。また授業では履修生が日常的に接する機会の少ない異文化の音楽を扱い、インドネシア・バリ島の伝統音楽の合奏を実践的に体験学習するほか、さまざまな地域や時代の幅広い事例をとりあげる。多様な音文化に触れることで自身の音楽観を広げ、更新してほしい。
【到達目標】
(1)世界の多様な音楽文化に対する幅広い知識と開かれた感性を身につけること
(2)音を受動的に聴いて楽しむだけでなく、音の特徴を分析的に聴き、学問的に音楽を学ぶ視点や方法を習得する。
(3)音や身体を使った表現や創作を通した実践的な理解及び簡単なリサーチ課題に挑戦する。但し技術の上下や作品の完成度よりも、「やってみる」姿勢とそこから得られる経験・知識を重視する。
(4)音による表現や文化に関する経験・考察・知識を言語化できる

２．授業内容
（１）イントロダクション 声と言葉の多様な関係（講義）
（２）声と言葉の多様な関係②（講義＋ミニ課題）
（３）声と言葉の多様な関係③子守歌を考える 講義＋ミニ課題
（４）ビートとリズム（講義）
（５）バリ島のリズム① リズムとビート（講義＋実践）
（６）バリ島のリズム② インターロッキング①（講義＋実践）
（７）バリ島のリズム③ インターロッキング②（講義＋実践）
（８）バリ島のリズム④ インターロッキング③（講義＋実践）
（９）環境と音楽 サウンドスケープ（講義）
（10）環境と音楽 サウンドスケープ（講義＋ミニ調査）
（11）環境と音楽 サウンドスケープ（ミニ調査結果に基づく議論）
（12）作品または研究発表①
（13）作品または研究発②
（14）作品または研究発表③、講評

３．履修上の注意
授業の中で他の履修生と一緒にバリの楽器の合奏に挑戦したり､歌ったり、声を出したりする実践を行う回があります。履修にあたって、これまでの楽器の演奏経験の有無や演奏技術、五線譜の読譜能力等は問いませんが、実践的な活動にも主体的に挑戦することを求めます。なお実技にあたっては上手下手や完成度よりも、上手にできなくても積極的に挑戦したか、その経験から何を得たかを重視します。また全面的な実技授業ではなく、講義やミニ課題(リサーチ等)、ディスカッションなどを行います。履修生の人数や関心に応じて構成や時間配分を変えることがあります。

４．準備学習(予習・復習等)の内容
授業内容により、授業前に動画を視聴しておく、資料を読んでおく、ミニ・リサーチ等の課題(評価対象)がある回があります。課題の有無や授業内容によって予習・復習の時間はその回によってまちまちですが、平均しておよそ1時間程度の準備時間が必要です。

５．教科書
指定なし

６．参考書
指定なし

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回のリアクションに対する総合的なフィードバックを授業中に口頭で行います。また内容に応じて個人的に課題内容にコメントすることもあります。

８．成績評価の方法
平常点60％(授業内課題の提出、授業への積極的参加、リアクション） 期末試験40％

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL311J

記号論

2単位	3年次	大黒　岳彦

1．授業の概要・到達目標
記号論は、20世紀初頭に成立をみた比較的新しいディシプリンである。その特徴は、人間の生活のさまざまな現象を「記号」として捉え分析することで、その「意味」を読み解こうとする点にある。その影響は言語学はもちろんのこと、人類学、文学理論、映画批評、精神分析、宗教学、美学、メディア論、社会理論など広大な範囲に及んでいる。学際的な学部である情報コミュニケーション学部で、多様な研究課題に取り組んでいる学生諸君には「記号論」は様々なヒントと格好の武器を提供することになるはずである。
講義では、まず前半で、「記号」とは何か?という問題を「言語」との比較において哲学的に考えてみたい。後半では、様々な分野を代表する思想家たちが「記号」をどのように捉え、またその「記号」観を以って自らが研究する対象にどのようにアプローチしていたのか、できるだけ具体的にみる。
言語にとどまらない広範な記号現象のメカニズムを理解すると同時にマスメディアからインターネットメディアへの推移に伴う記号の変容をフォローアップすることを到達目標とする。

2．授業内容
1　イントロダクション
2　言語とはなにか（1）
3　言語とはなにか（2）
4　言語とはなにか（3）
5　言語とはなにか（まとめ）
6　記号とはなにか（1）
7　記号とはなにか（2）
8　言語と記号（クリステヴァ，ソシュール）
9　構造と記号（レヴィ・ストロース）
10　哲学と記号（エーコ，デリダ）
11　コミュニケーションと記号（シャノン，エーコ）
12　マスメディアと記号（ホール，ボードリヤール）
13　映像と記号（パノフスキー，バルト）
14　身体と記号

3．履修上の注意
特になし。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
拙著『ヴァーチャル社会の〈哲学〉―ビットコイン・VR・ポストトゥルース』（青工社）第二章を事前に読んでおくと、理解が深まります。

5．教科書
なし。

6．参考書
その都度指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

8．成績評価の方法
試験100％

9．その他

科目ナンバー：(IC)HIS311J

近・現代史Ⅰ

2単位	3年次	高江洲　昌哉

1．授業の概要・到達目標
概要
近・現代史Ⅰ、Ⅱを通して、日本の近現代の流れを政治外交史、民衆史、文化史、地域史の視座から総体的に把握する。「近・現代史Ⅰ」で日本近現代史の史学史的説明と各論テーマ（①日本型国民国家の形成と展開、②地域から見た日本の近代、③自由と秩序の展開」を通して、「近・現代史Ⅱ」は、各論テーマ（①戦争の記憶をめぐる問題、②植民地の歴史、③性の歴史）を通して、日本の近現代史を複合的な視座から理解していくことを目指す。
幕末・維新期から第2次世界大戦の敗戦までを日本型（天皇制）国民国家の成立と展開として扱い、政治主体として動く「国民化」と天皇への忠誠を尽くす「臣民化」のせめぎあいの過程としてみていく。こうした見取り図のもと、日本における近代国家の成立と特徴を、天皇の位置付け、国民の位置付けなどを学ぶ。あわせて、日清両属であった琉球が「琉球処分」を経て日本に包摂されていくように近世的秩序が再編されていく背景や、日清・日露戦争を経て植民地帝国の特徴などについて学んでいく。総力戦となったアジア・太平洋戦争の特徴を理解する。戦後においては、帝国の終焉・脱植民地・冷戦の成立を特徴とする現代社会において、「平和と民主主義」の実現を目指す、戦後日本社会の成果と課題について確認していく。
受講生各自が講義内容から興味あるテーマを見つけるような内容を試みる。授業は、研究の原動力となる問題関心を確認するため往還的な構成をとりつつ、本テーマに関する日本近現代史の通史的な流れとテーマ的な素材を組み込むことで、日本史理解の深化を目指していく。
到達目標
本件に関する歴史的理解を深め、研究史の確認、分析視角の習得、歴史像を豊富にする思考技術の修得などを目指す。

2．授業内容
第１回：はじめに―歴史を学ぶことについて
第２回：現代と連動する歴史像
テーマ１（日本型国民国家の形成と展開）
第３回：日本型国民国家の成立
第４回：国民統合の装置
第５回：大日本帝国憲法から近代日本の政治秩序を考える
テーマ２（地域から見た日本の近現代）
第６回：国境の画定
第７回：琉球処分から沖縄県へ
第８回：「共同体」をめぐる近代・現代
第９回：高度経済成長と地域の変貌
テーマ３（自由と秩序の展開）
第10回：近代日本の自由について
第11回：兵士として秩序を習得する
第12回：大衆社会の成立と自由について
第13回：戦後社会の自由について
第14回：まとめ

3．履修上の注意
歴史（日本史）の知識が十分なくても、本テーマに関心があれば積極的に履修してほしい。
授業の進展と学生の関心によって授業内容の変更もありうる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
シラバスで提示した参考文献またはレジュメに記載した文献リストなどを利用して、本講義を理解するのに必要な文献を読んで授業に臨むように。また、授業を受けて感じた疑問点なども図書館などを利用して自己学習して理解するようにすること。授業で使用する資料は授業前にoh-meijiで公開し、期間中は公開しているので、復習などで適宜使用するように。

5．教科書
特になし

6．参考書
成田龍一『近現代日本史と歴史学』（中央公論新社、2012年）
三谷太一郎『日本の近代とは何であったのか』（岩波書店、2017年）
松沢裕作『日本近代社会史』（有斐閣、2022年）
山内昌之・細谷雄一編著『日本近現代史講義』（中央公論新社、2019年）
山本昭宏『戦後民主主義』（中央公論社、2021年）

7．課題に対するフィードバックの方法
課題終了後に授業において講評をおこなう。フィードバック用の資料は他の授業資料と同じくoh-meijiでも公開する。

8．成績評価の方法
授業内課題（50％）(期間前試験）試験（50％）

9．その他
連絡先は授業時に伝える。

科目ナンバー：(IC)HIS311J

近・現代史Ⅱ

２単位	３年次	高江洲　昌哉

１．授業の概要・到達目標
・授業の概要
近現代史Ⅱでは①戦争の記憶をめぐる問題、②植民地の歴史、③性の歴史という3つのテーマの授業をおこなう。
テーマ1の戦争の記憶をめぐる問題では、 近代日本は日清・日露戦争など繰り返し戦争を経験し、「戦争を肯定する」時代であったとすれば、総力戦であったアジア・太平洋戦争（第2次世界大戦）の敗北により、戦後の日本は「平和国家」として社会を再建するため、「戦争を反省する」時代であったといえる。多くの犠牲者を出した戦争が敗北したため、聖戦と侵略戦争、英霊と犬死など戦争の振り返り方も揺れ動きがあった。こうした80年にわたる戦争の振り返り方を確認し、今後の指針について考えていく。
テーマ２の植民地の歴史では、 近代日本は、国民国家形成の歴史であると同時に、植民地帝国として展開していく歴史でもあった。はじめに、搾取論、暴力論、植民地近代化論など植民地支配をめぐる史学史を振り返る。こうした史学史的検討を踏まえて、統治構造について確認をする。次に総力戦があたえた影響を確認し、日本の敗戦による脱植民地の過程が、冷戦の影響を受けて、どのように東アジア現代世界を形成していったのかを確認していく。
テーマ３の性の歴史では、 性に関する考察は社会的にも重要な課題であり、性規範の現在形を学ぶだけでなく、歴史的に考察する能力を身に着けることも必要と考えて、このようなテーマで講義をおこなうことにした。特に性の問題は、タブー視されることで考える機会を失った領域といえる。性をめぐる言説を多角的、歴史的に検討することで、思考の可能性を広げることの必要性を確認する。性の問題は、男女という自明な区分を前提にした考察ではなく、「性的マイノリティ」の歴史的存在にも“配慮”しながら授業を進めていきたい。
・到達目標
本件に関する歴史的理解を深め、研究史の確認、分析視角の習得し、市民としての批判精神と教養を豊かにすることを目指す。

２．授業内容
第１回：はじめに－問題の確認
（テーマ１、戦争の記憶をめぐる問題）
第２回：日本近代と兵士について
第３回：戦争記念碑と戦争の記憶
第４回：戦後50年から80年を経て
第５回：更新される「戦後世代」
（テーマ２，植民地の歴史）
第６回：植民地をめぐる史学史的検討
第７回：植民地の形成と展開
第８回：総力戦と植民地
第９回：脱植民地と東アジア現代社会の形成
（テーマ３，性の歴史）
第10回：近代性規範について
第11回：近代性規範の再編
第12回：出産をめぐる問題
第13回：可視化された「性的マイノリティ」
第14回：まとめと試験

３．履修上の注意
歴史（日本史）の知識が十分なくても、本テーマに関心があれば積極的に履修してほしい。
授業の進展と学生の関心によって授業内容の変更もありうる。
テーマ3は授業の内容上、資料には配慮を加えますが、性描写が含まれます。この点、ご承知おきの上、受講をしてください。苦手な人は自己裁量で受講してください（ただし、提出物・理解度はこちらが要求する内容に達してください）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
シラバスで提示した参考文献またはレジュメに記載しる文献リストなどを利用して、本講義を理解するのに必要な文献を読んで授業に臨むように。また、授業を受けて感じた疑問点なども図書館などを利用して自己学習して理解するように。

５．教科書
特になし

６．参考書
吉田裕『日本人の戦争観』（岩波書店、岩波現代文庫、2005年）
福間良明『「戦争体験」の戦後史』（中央公論新社、中公新書、2009年）
成田龍一『増補「戦争経験」の戦後史』（岩波書店、岩波現代文庫、2020年）
福間良明『戦後日本、記憶の力学』（作品社、2020年）
日本植民地研究会編『日本植民地研究の現状と課題』（アテネ社、2008年）
日本植民地研究会編『日本植民地研究の論点』（岩波書店、2018年）
尹海東『植民地がつくった近代』（三元社、2017年）
中野敏男『継続する植民地主義の思想史』（青土社、2024年）
上野千鶴子『発情装置　新版』（岩波書店、岩波現代文庫、2015年）
川村邦光『性家族の誕生　セクシュアリティの近代』（筑摩書房、ちくま学芸文庫、2004年）
小山静子・赤枝香奈子・今田絵里香編『セクシュアリティの戦後史』（京都大学学術出版会、2014年）
千葉雅也・二村ヒトシ・柴田英里『欲望会議』（KADOKAWA、角川文庫、2021年）

７．課題に対するフィードバックの方法
課題終了後に授業時に講評をおこなう。

８．成績評価の方法
授業内の課題（50%）、（期間前試験）試験（50%）

９．その他

科目ナンバー：(IC)LIN311J

言語態研究

２単位	３年次	内藤　まりこ

１．授業の概要・到達目標
私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは通常、趣味や娯楽の対象として享受されています。そして、そうした言語表現はしばしば「虚構」と称され、「事実」や「現実」とは異なり、信憑性に欠けると評されたりもします。
そのため、そのような日常の鑑賞の場においては、言語表現が実は私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っていることや、虚構と事実や現実とが簡単に切り分けられるわけではないことはあまり意識されません。
これに対して、本授業の科目名に掲げている「言語態」とは、言語および言語活動一般の様態および法則性のことを意味します。つまり、「言語態」という範疇の中で、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現は、「事実」や「現実」を書き表すとされる歴史書や科学書、新聞や雑誌、広告等の政治的・経済的・社会的・文化的言説と同等の言語表現と捉えられるのです。
本授業では、こうした「言語態」の概念に基づき、過去や現在の主に日本社会において生み出されてきた言語表現の数々を、「文学理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための理論を用いて分析します。
受講生は、言語態分析を通じて、「虚構」と「事実」という安易な二項対立の枠組みでは捉えきれない、複雑で奥深い言語の働きを理解することになるでしょう。また、文学理論という学問分野を学んだ上で文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析すること（言語態分析）で、日常感覚の敷衍では決して導きだすことのできない作品の解釈や、作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。最終的に、受講生は、授業を通して学習した文学理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら言語態分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　文学理論の概観・課題作品１の読解・視聴
第３回　作者論・作品論の限界：ロラン・バルト「作者の死」
第４回　構造主義批評（１）：ウラジーミル・プロップ「物語の３１の機能」
第５回　構造主義批評（２）：ジェラール・ジュネット「語りの構造」
第６回　構造主義批評（３）：ジュリア・クリステヴァ「インターテクスチュアリティー」
第７回　脱構築批評：ジャック・デリダ「脱構築」
第８回　読者反応批評：ヴォルフガング・イーザー「読者行為論」
第９回　ジェンダー・クイア批評：ジュディス・バトラー「ジェンダー・トラブル」
第10回　ポスト・コロニアル批評（１）：エドワード・サイード「オリエンタリズム」
第11回　ポスト・コロニアル批評（２）：ガヤトリ・スピヴァク「サバルタンは語れるのか」
第12回　マルクス主義批評・カルチュラル・スタディーズ：カール・マルクス「階級闘争」
第13回　新歴史主義批評：ミシェル・フーコー「知の考古学」
第14回　言語態分析の方法と意義

３．履修上の注意
・毎週の授業で、課題文の読解やリアクションペーパーへの回答等の宿題が課される。
・多くの課題が設定されるので、授業外で相当の時間と労力をかける必要がある”タイパ”の悪い授業である。物事に対する新たな見方を獲得するべく毎週の課題に積極的に取り組む意欲のある者にのみ受講を勧める。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
・毎週、課題文の読了が課される。

５．教科書
・指定しない。
・毎週、授業プリントを配布する。

６．参考書
・テリー・イーグルトン『文学とは何か―現代批評理論への招待』（岩波書店、1997年）
・大橋洋一『新文学入門―T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』（岩波セミナーブックス、1995年）
・筒井康隆『文学部唯野教授』（岩波書店、2000年）
・橋本陽介『ナラトロジー入門―プロップからジュネットまでの物語論』（水声社、2014年）
・石原千秋・小森陽一他『読むための理論』(世織書房、1998年)
・前田愛『文学テクスト入門』（ちくま学芸文庫、1993年）

７．課題に対するフィードバックの方法
リアクション・ペーパー、メール、個別面談

８．成績評価の方法
・毎回の授業の最後に課されるリアクション・ペーパー（13回×3）　39%
・学期末レポート　　61%
学期末レポート未提出の場合、単位の取得は認められない。

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL341J

言語表現論

2単位	3年次	伊藤　豊

1．授業の概要・到達目標
言語が関わる表現は、小説・詩などの文学作品に限らず歌詞を伴う音楽や歌、脚本（台本）を伴う映画や演劇、旅行記やエッセイにコラム、広告産業におけるコピーライティングなど多岐にわたります。加えて、音楽家や劇作家が小説を書いたりもしくは並行して両分野での作品を発表すること、音楽や写真などの非言語表現から触発された言語表現など、分野の垣根を超えた作品も現在までに多数発表されています。
本授業では実際に各表現分野で活動する方達をゲストに迎えて実際の創作における現場の声を受講生たちに届けてもらうとともに、学生たち自身にも様々なアプローチで言語表現の創作に取り組んでいただきます。表現者を目指す目指さないに関わらず、創作に挑戦することで、表現者の立場やその過程を体験的に学習してもらいます。
また、各表現にはその表現に直接従事するものと、その表現をなんらかの形で補助する立場の者が少なからず存在します。そういった立場の者たちが実際にどういった作業をして関係しているのかを分析していきます。
上記にあわせて、表現において作り手とは誰なのか？受け手とは誰なのか？というのを全授業を通して分析、考察していきます。
最終到達点として、講義のなかで学んだ内容をもとにこちらの指定する言語表現作品を提出してもらいます。

2．授業内容
1. テーマ　2. 内容　3. 取り扱う作品（ある場合のみ表記）
※3については変更および追加する可能性があります。
※授業の進行次第で毎回の内容や順番が変更になる可能性があります。
第１回　1. イントロダクション
　　2. 課題説明
第２回　1. 広告
　　2. 課題発表および読解
第３回　1. 旅行記①
　　2. 読解および最終課題に向けてのガイダンス
　　3. 雑誌記事　拙著「歌はどこだ」
第４回　1. 写真①
　　2. 読解および課題講評
　　3. 写真集　浅田政志「浅田家」
第５回　1. 写真②
　　2. 課題講評　写真から着想を得た物語創作　写真家朝岡英輔氏を迎えて
第６回　1. 音楽①
　　2. 読解
　　3. 楽曲　小島ケイタニーラブ「ガラスの水時計」
第７回　1. 音楽②
　　2. 課題講評およびグループワーク
第８回　1. 音楽③
　　2. 読解および課題講評　ゲスト未定
　　3. 楽曲 未定
第９回　1. 旅行記②
　　2. 最終課題の経過発表
　　3. 雑誌記事　拙著「歌はどこだ」
第10回　1. 演劇①
　　2. 講義および視聴
　　3. ままごと「あゆみ」
第11回　1. 演劇②
　　2. 視聴および解説
　　3. ままごと「あゆみ」
第12回　1. 小説①
　　2. 読解
　　3. 小説　温又柔「さよならは内緒でね」 エッセイ「国語から旅立って」
第13回　1. 小説②
　　2. 課題講評　小説家温又柔氏を迎えて
第14回　1. 振り返り
　　2. 講義 分野の垣根を越えた言語表現のあり方,表現における「作り手」とは誰なのか？

3．履修上の注意
・創作の経験の有無は問いません。未経験者でも意欲があれば問題ありません。
・創作の課題を数多く出すので、将来なんらかの創作活動を生業としたい者
　または創作に関連する職種を目指す者、あるいは課題に取り組む意欲のある者の受講を求めます。
・受講生が書いた創作物は受講生や授業ゲスト間で共有したりすることもあることを予め承知ください。
・各講義の順番については変更となる可能性があります。
・課題は授業時間外での作業を伴うもの、授業に出席しないと取りかかれないものばかりですので熟慮のうえで受講を決めてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
・ほぼ毎週の課題の提出をもとめます。

5．教科書
指定しません。
授業ごとに適宜プリントを配布します。

6．参考書
特にありませんが
ゲストとして授業に登壇くださる予定の
朝岡英輔氏
温又柔氏
の作品（写真、小説など　ネットで見れるものだけでも）
に事前に触れておいてください。

7．課題に対するフィードバックの方法
・毎回の課題において採点基準を設けています。その基準は原則として提出後に発表しますが課題内容に示唆的に含まれている場合や、事前に発表する場合もあります。
・提出課題の多くは講評を加筆した上でOh-meijiにて受講生全員で共有します。

8．成績評価の方法
学期中の課題の提出および課題の講評 50%
学期末の提出物およびそれに伴う中間発表 50%
ただし、学期末の提出物のない者は不可とします。
中間発表をしなかった者も同様です。

9．その他
このシラバスは対面授業を前提としたものですがオンライン授業になった場合は授業内容や最終課題が変更になる可能性があります。

科目ナンバー：(IC)CMM331J

広告論

2単位	3年次	松本　健太郎

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
広告とはマーケティング活動の一環であり、人にある行動を惹起させるため（多くの場合は､購入させるため）の手段であるといえる。本講義では広告を「行動のコントロール」という観点から広義に把捉したうえで、その機能や歴史について（おもに記号論およびメディア論的な視座に依拠して）学習していくことになる。
とくに現代のデジタル環境下において、広告のあり方は大きく変化しつつある（いわゆる「ステマ」「ゲリラ・マーケティング」「プロダクト･プレイスメント」「応援広告」「行動ターゲティング広告」「インフルエンサー」などは、その変化を示唆する格好の事例であり、それぞれ現代の文化的状況や技術的状況と密接に関連している）。本講義ではそのような認識に立脚しつつ、様々な映像資料をもちいながら、アテンションエコノミー時代における広告と、それをとりまくメディア文化について考えていく。
【到達目標】
広告をめぐる様々な視点を理解したうえで、それらを各自の身近な事例と関連づけて応用的に考察し、急速に変化しつつある現代文化／現代社会の構造を分析的に論述することができる。

2．授業内容
＊講義内容については、必要に応じて変更することがある。
第１回　イントロダクション：広告とメディア文化
第２回　メディア考古学から考える「ゾンビとしての消費者」
第３回　広告は現実の何を隠蔽するか：「死体」としての広告
第４回　産業的資源としての「意識」
第５回　セカンドオフライン的状況における「意識」の制御
第６回　広告をとりまく技術的環境の変容
第７回　監視社会におけるビジネスモデル
第８回　「炎上」から考える広告をめぐるディスコミュニケーション
第９回　映画『トゥルーマンショー』から考える広告と都市
第10回　都市における広告の「隠れモード」
第11回　記号論から考える広告の意味作用
第12回　ゲームのなかの広告：「ドラクエウォーク」を題材に
第13回　キャラクター／テーマパーク／ショッピングモールから考える広告の現在
第14回　ａ：まとめ、ｂ：試験

3．履修上の注意
成績評価においては、出席状況、および課題の提出状況を重視する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習としては、テキスト指定範囲を事前に熟読し、登場人物や事項について下調べしておくこと。また、復習としては、ノートをしっかり整理しておくこと。

5．教科書
『メディアリミックス』谷島貫太・松本健太郎編、ミネルヴァ書房

6．参考書
授業内で指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業で課される提出物に対して、その翌週の授業において教員からコメントする予定である。

8．成績評価の方法
期末試験（50%）、小テスト（数回実施、30%）、コメントシート（毎回実施、20%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)GDR311J

ジェンダーと社会Ⅰ

2単位	3年次	田中　洋美

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

社会におけるジェンダーのありようは地域・文化ごとに形作られ、ジェンダーの社会関係に関する一定の認識ないし「知」というものが生み出されてきました。それは時とともに変化してきた部分もありますが、様々な要因により変わりにくいものもあります。本講義では、そのような「知」の成立に影響を与えてきたジェンダーやセクシュアリティに関する役割期待、規範、アイデンティティ等が様々な歴史的・文化的文脈においてどのように形成されてきたのかについて世界史的・異文化比較的な視点で考察します。考察にあたっては、各テーマ内で地域性や時間軸に配慮して、検討します。

【到達目標】

（1）社会がジェンダー化されていること、その特徴が文化的・歴史的に特定の文脈で生まれてきたことを理解する。

（2）日本を含め、様々な国・地域の社会・文化のジェンダー分析ができるようになる。

2．授業内容

第1回b イントロダクション
第2回　労働とジェンダー（1）
第3回　労働とジェンダー（2）
第4回　家族とジェンダー（1）
第5回　家族とジェンダー（2）
第6回　宗教とジェンダー
第7回　中間のまとめ
第8回　身体とジェンダー（1）
第9回　身体とジェンダー（2）
第10回　セクシュアリティ（1）
第11回　セクシュアリティ（2）
第12回　芸術とジェンダー（1）
第13回　芸術とジェンダー（2）
第14回　まとめ､最終課題の実施もしくは提出（考査もしくは期末レポート）
＊講義内容は履修者の数や関心等に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

・初回は、b（後半）のみです。
・この授業は講義です。配布する資料をよく読み、積極的にメモを取ることをおすすめします。
・授業内容は、履修者の問題関心に沿って多少変更する可能性があります。
・提出物の期限ご提出は原則認めていません。
・授業中の私語は慎んでください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・事前に講義スライドに目を通し、次回の授業内容に関する専門用語について確認してください。
・授業後は、講義ノートを見直し、内容を整理し、理解を深めておくと良いでしょう。また授業で紹介する参考書等に目を通し、また自ら調べてみましょう。
・普段から授業に関わる事柄に気づいたり、関心・疑問を抱いた場合には、メモしておくことをお勧めします。

5．教科書

特に定めません。講義中にノートをしっかり取ってください。そして自分の関心に応じて、資料を集め、調べておいてください。

6．参考書

ジェンダー関連の授業を初めて受講する場合は、入門書を手に取っておくと良いでしょう。
例）加藤秀一『はじめてのジェンダー論』(2017，有斐閣)
J.ピルチャー・I.ウィラハン（片山亜紀訳）『キーコンセプト ジェンダースタディーズ』(2009，新曜社)。
歴史研究については、
井上洋子他『ジェンダーの西洋史』(法律文化社，2012年)
G・モッセ『男のイメージ―男性性の創造と近代社会』(作品社，2005年)
浜本隆志他『ヨーロッパ・ジェンダー文化論』(明石書店，2011年）等
その他、授業で使う様々な文献については授業資料を参照のこと。

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックは､授業時に口頭で､あるいはメール等で文章で行います。

8．成績評価の方法

平常点（出席状況・授業態度、リアクションペーパーなど各種課題への取り組み内容、50％）
最終課題（考査もしくは期末レポートの内容、50%）
※最終課題同様、リアクションペーパーなどの他の課題についても内容で評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)GDR311J

ジェンダーと社会Ⅱ

2単位	3年次	田中　洋美

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

春学期の授業では、ジェンダーに関する「知」の形成について比較的長いタイムスパンで歴史的に検討しました。秋学期は、20世紀後半から現在にかけての比較的新しい現象に焦点を当てます。経済、政治、メディア、デジタル技術、学術の5つの領域を取り上げ、ジェンダーの社会分析を続けていきます。

【到達目標】

（1）社会がジェンダー化されていること、その特徴が特定の文脈で生まれることを理解し、議論できるようになる。

（2）現代社会のジェンダー分析を行うことができるようになる。

2．授業内容

第1回b　イントロダクション：授業概要
第2回　経済(1)：ジェンダー分離・格差
第3回　経済(2)：近年の新たな格差
第4回　経済(3)：近年の新たな格差
第5回　政治(1)：制度政治
第6回　政治(2)：権力論
第7回　中間のまとめ
第8回　メディア(1)：マスメディア
第9回　メディア(2)：ソーシャルメディア
第10回　デジタル技術(1)：新興技術
第11回　デジタル技術(2)：人工知能
第12回　デジタル技術(3)：ロボット
第13回　学術研究：知の生産を問う
第14回　まとめの議論
※授業計画は変わることがあります。

3．履修上の注意

・初回は、b（後半）のみです。
・この授業は講義です。配布する資料をよく読み、積極的にノートを取ることをおすすめします。
・授業中は私語を慎んでください。
・課題の期限後提出は認めていません。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・予習：各回のトピックについて、自分が既に知っていることを確認しておくと良いでしょう。
・復習：授業を受けた後は、授業内容を振り返り、関心を持った事柄についてはさらに調べ、考えてください。リアペ、レポート課題がありますので、考えたこと、調べてわかったことなどは、課題に取り組む際に盛り込むと良いでしょう。
・その他：日ごろからジェンダー関連のニュース等にアンテナを張っておくと良いでしょう。

5．教科書

特に定めませんが、各回ごとに文献を指定することがあります。授業やオーメイジでの指示に注意してください。

6．参考書

各回ごとに文献を指定することがあります。授業やオーメイジでの指示に注意してください。

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、授業中に口頭で、あるいはメールにてフィードバックします。

8．成績評価の方法

平常点（出席状況・授業態度、リアクションペーパーなど各種課題への取り組み内容、50％）
最終課題（考査もしくは期末レポートの内容、50%）
※最終課題同様、リアクションペーパーなどの他の課題についても内容で評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM351J

ジャーナリズム論Ⅰ

２単位	３年次	**塩田　　純**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
　この授業は実際に放送されたテレビドキュメンタリーを視聴し、プロデューサー、ディレクターとともにその取材・制作手法、課題などを考えていきます。
　前期では、外国人政策、SNS上の誹謗中傷、沖縄の米軍基地、メディアと戦争など現実に起こっている事象をメディアはどのように取材、記録しているのか。調査報道、密着取材、アンケート調査など様々な方法を具体的に見ていきます。
　SNSの拡大で、新聞・テレビなどの“オールドメディア”は大きな転換期に来ています。メディアの試行錯誤が続いますが、ジャーナリズムに何ができるのか一緒に考えていきましょう。
　メインの講師はNHKの元エグゼクティブ・プロデューサー塩田純ですが、現役のディレクターやフリージャーナリストもお招きして、メディアの最前線での体験もお話していただきます。
【到達目標】
テレビメディアが様々な方法論の模索を続けてきたことを理解し、メディアリテラシーを涵養することを目標とします。SNSの台頭など ジャーナリズムがいま直面する課題についても考えていきます。

２．授業内容
第１回　イントロダクション（４月１５日）
第２回　日本の難民はいま（４月２２日）
第３回　川口クルド人とSNS（５月１３日）
第４回　在日コリアンとSNSの誹謗中傷（５月２０日）
第５回　関東大震災と朝鮮人（５月２７日）
第６回　選挙報道とSNS（６月３日）
第７回　ベトナム枯葉剤の傷痕①（６月１０日）
第８回　ベトナム枯葉剤の傷痕②（６月１７日）
第９回　沖縄返還、密約を追う（６月２４日）
第10回　戦争トラウマ全国調査（７月１日）
第11回　１９３７年南京事件とメディア（７月８日）
第12回　長崎原爆とアメリカ従軍画家（７月１５日）
第13回　原爆裁判（７月２７日）
※内容や順序は変更の可能性があります。

３．履修上の注意
この授業では、ドキュメンタリーの視聴後、コメント・質問の提出を求め、出席と理解度の確認を行います。また番組についての質問に答える形でディスカッションも行いたいと思います。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
難民、SNSと選挙、沖縄の基地問題などに日常的に関心を持ち、実際のテレビ報道やドキュメンタリーを視聴してもらいたい。随時、講義の中で触れていきます。

５．教科書
なし

６．参考書
『日本国憲法誕生』塩田純　（NHK出版）
『9条誕生　平和国家はこうして生まれた』塩田純（岩波書店）
『戦後50年　その時日本は　第4巻　沖縄返還　日米の密約』（NHK出版）

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時などで講評を行います。

８．成績評価の方法
平常点30%、コメント40%、期末レポート３0%

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM351J

ジャーナリズム論Ⅱ

２単位	３年次	**塩田　　純**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
　この授業は実際に放送されたテレビドキュメンタリーを視聴し、プロデューサーとともにその取材・制作手法を考えていきます。
　後期は、まずドキュメンタリーの手法を概説します。視野を世界に広げ、日中関係、ミャンマー情勢、国際法と9条などをメディアが世界とどのように向き合っているのか、見ていきましょう。OSINT、AIなど新しい取材方法も紹介します。2026年の話題作も取り上げていきたいと考えています。
メインの講師はNHKの元エグゼクティブ・プロデューサーの塩田純ですが、現役のディレクターもお招きして、メディアの最前線での体験をお話していただく予定です。
【到達目標】
テレビメディアの様々な方法論の模索を続けてきたことを理解し、メディアリテラシーを涵養することを目標とします。
後期は視野を世界に広げ、戦禍がやまない世界でジャーナリズムに何ができるのか、考えていきます。また、メディアの重要な役割、調査報道について理解を深めていきます。

２．授業内容
第１回　イントロダクション（９月30日）
第２回　テレビドキュメンタリーの手法①企画・取材（10月７日）
第３回　テレビドキュメンタリーの手法②編集･ポスプロ（10月14日）
第４回　ガザからの報告（10月22日）
第５回　ミャンマー情勢をOSINTで探る（10月28日）
第６回　平和国家と憲法9条（11月４日）
第７回　日中関係を歴史から考える（11月11日）
第８回　調査報道 大河原化工機 冤罪事件（11月18日）
第９回　調査報道 福島原発事故・住民調査（11月25日）
第10回　2026年の話題作（12月2日）
第11回　2026年の話題作（12月９日）
第12回　2026年の話題作（12月16日）
第13回　2026年の話題作（１月13日）
第14回　テレビの可能性 まとめ（１月21日）
※授業のテーマは変更する可能性があります。

３．履修上の注意
この授業ではドキュメンタリーの視聴後、コメント・質問の提出を求め、出席と理解度の確認を行います。みなさんからの質問に答える形でディスカッションも行いたいと思います。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
国際報道、冤罪事件、原発事故などに日常的に関心を持ち、ニュースやドキュメンタリーを視聴してもらいたい。随時、講義の中で触れていきます。

５．教科書
なし

６．参考書
「9条誕生 平和国家はこうして誕生した」塩田純　岩波書店
「尖閣諸島と日中外交」塩田純　講談社
「ガザからの報告」土井敏邦 岩波書店
「NHKスペシャル取材班「デジタルハンター」になる」NHKミャンマープロジェクト 講談社
「ベリングキャット デジタルハンター､国家の嘘を暴く」エリオット･ヒギンズほか 安原和見訳 筑摩書房
「冤罪の深層　追跡・大川原化工機事件」石原大史　幻冬舎

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時などに講評を行います。

８．成績評価の方法
平常点30%、コメント40%、期末レポート30%

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL331J

社会文化史（社会文化史Ａ）

２単位	３年次	**須田　　努**

１．授業の概要・到達目標
クオーター（7週間）完結型〈ハイブリッド型〉の授業です。
歴史学は過去に拘泥するものではありません。現代社会を相対化し、よりよい未来を指向するものです。古くさいことを調べるのではなく、現代社会で起こる様々な問題を歴史の文脈から理解し、以下の能力を養成します。
＊多様な歴史解釈の存在を意識します。歴史家は断片的な事実を組み立て、１つの歴史像を組み立てます。その様相をトレースしつつ、歴史認識というセンスを身につける。
＊現代社会を理解するために必要な歴史認識を身につけ、現代を相対化する。
具体的には、現代社会でも発生する排外主義や貧困の問題を歴史的に考え、沖縄の存在から平和の意味を再考するというものです。

２．授業内容
授業内容は以下であるが、研究状況により変動することはあります。
１．対面授業　　イントロダクション
２．メディア授業　政治理念という問題　仁政と武威
３．対面授業　　幕藩体制の政治理念のゆらぎ　仁政の崩壊
４．メディア授業　幕藩体制の政治理念のゆらぎ　武威の失墜　排他主義の形成
５．対面授業　　近代国民国家の建設
６．メディア授業　近代の矛盾　貧困
７．対面授業　　社会文化史としてみた文明開化　啓蒙としての大衆娯楽
８．メディア授業　小括　小テスト
９．対面授業　　創られた　日本人勤勉論
10．メディア授業　沖縄　創られた沖縄　異化から同化へ
11．対面授業　　沖縄　植民地沖縄　方言論争
12．メディア授業　沖縄　アジア太平洋戦争　捨て石となる沖縄
13．対面授業　　総括　学期末レポート一

３．履修上の注意
この科目は､クオーター（7週）完結型授業です。週に2コマの授業を､対面式とオンデマンド形式にて実施します。
オンデマンド形式により実施する授業回については、毎週金曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の日までに必ず受講すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
レジュメを配布し、そこに参考文献一覧を入れてあります。それを復習に利用しましょう。

５．教科書
とくに定めない

６．参考書
須田努・清水克行『現代を生きる日本史』岩波現代文庫、2022年
東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために』岩波書店、2017年

７．課題に対するフィードバックの方法
学生が毎回作成したレポート（リアクションペーパー）は、翌週までに採点し応答を可能とします。さらに、優秀なレポートは、講義の冒頭で必ず紹介します。

８．成績評価の方法
以下を総合して評価します。
①定期試験　50%
②２回のミニテスト　20%
③毎回レポート（リアクションペーパー）　30%

９．その他
駿河台での講義です。最新の研究成果を取り入れます。頭を使い続ける時間です。日本史の知識はなくても大丈夫ですが、主体的に勉強し、知を獲得する講義です。新書程度の読書が必要です。

科目ナンバー：(IC)EDU321J

情報社会と教育Ａ

２単位	３年次	**鈴木　雅博**

１．授業の概要・到達目標
【概要】
学校は子どもが情報社会へと歩み出す準備をする場として期待されています。しかし、歴史的に見ると、むしろ学校は子どもを社会から隔離し、統制された情報を与える装置として機能してきたと言えます。とりわけ公教育の制度化以降、国家が情報統制の担い手として多大な影響力を持つようになりました。「専門職」としての教師がこれへの対抗者と目されますが、教師自身が積極的に情報統制の担い手となることも少なくありません（例えば，校内でのスマホ使用禁止といった校則等）。この授業は、学校教育が有する情報統制装置としての機能に照射し、その歴史･担い手･問題について検討することを目的とします。
【到達目標】
1.〈子ども〉概念の成立について、社会・教育・思想との関連において理解することができる。
2. 近代公教育制度の成立と日本への導入について、教育の目的と関連づけながら理解することができる。
3. 国家による教育への関与とその問題について、近年の政策動向を踏まえて理解することができる。
4. 教師による管理教育の実態を捉え、その問題について考えることができる。

２．授業内容
第１回　イントロダクション／近代以前の子ども・家族・学校：〈子ども〉の誕生
第２回　啓蒙主義時代の教育思想：ルソーの教育論
第３回　近代市民社会における公教育の成立：市民革命・産業革命と教育
第４回　近代日本における公教育：教育勅語体制の成立
第５回　戦後日本における公教育：憲法と教育基本法
第６回　戦後教育政策の転換：「逆コース」と内外事項区分論
第７回　国民の教育権論：堀尾輝久・兼子仁の所論を中心に
第８回　教育裁判の展開：学テ・伝習館・家永裁判を事例として
第９回　教育権論への批判：憲法学と教育法社会学の立場から
第10回　学校における管理統制（１）：生徒指導と校則裁判
第11回　学校における管理統制（２）：子どもの権利と校則の見直し
第12回　近年の教育改革（１）：教育基本法「改正」
第13回　近年の教育改革（２）：道徳の教科化
第14回　まとめ

３．履修上の注意
特にありません。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
前時の内容を復習して授業に臨んでください。

５．教科書
教科書は特に指定せず、必要な資料を配布します。

６．参考書
授業中に適宜紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中に行います。

８．成績評価の方法
リアクションペーパー（30%）、定期試験（70%）。欠席５回（忌引き等を除く）で不可。

９．その他
特にありません。

科目ナンバー：(IC)EDU321J

情報社会と教育Ｂ

２単位	３年次	**鈴木　雅博**

１．授業の概要・到達目標

【概要】

「教育とは何か」「どのような教育を行うべきか」という問いにおいて、教育と社会の関係は常に重要な位置を占めてきました。教育は社会が求める人材を育成するためのものか、むしろ教育によって社会を変革することが目指されるべきではないか、あるいは社会はその人が「何を学んだか」よりも「どこで学んだのか」(学歴･偏差値)に関心があるのではないかといった様々な問いは、子どもの発達段階や心理を考えることとは別様に、教育を社会との関連において捉える必要があることを示しています。

他方で、学校そのものが一つの社会を形作っている点に目を向ける必要もあるでしょう。学校において、人びとは制度や文化に関する情報を資源として多様なコミュニケーションを織りなしています。そうしたやりとりの一つひとつを丁寧に読み解いていくことで、学校という社会の有り様に気づくことができるはずです。

以上の問題関心をもとに、この授業では、情報としての教育履歴（学歴・成績）が社会のなかでどのように作用しているのか／いないのか、そして、学校という社会のなかでどのような／どのようにコミュニケーションが織りなされているのかという点について検討を加えます。

【到達目標】

1. 学校から職場へのトランジションについてメリトクラシーの観点から理解することができる。
2. 学校における制度・文化の作用について理解することができる。
3. 学校における相互行為の有り様と作用について理解することができる。

２．授業内容

第１回　イントロダクション／教育への社会学的アプローチ
第２回　情報としての「学歴」と社会（１）
第３回　情報としての「学歴」と社会（２）
第４回　情報としての「成績」と社会（１）
第５回　情報としての「成績」と社会（２）
第６回　学校から社会へのトランジションの「失敗」（１）
第７回　学校から社会へのトランジションの「失敗」（２）
第８回　反学校文化と階級の再生産
第９回　社会化と「隠れたカリキュラム」
第10回　教師・生徒のストラテジー
第11回　「荒れた学校」の社会的構築
第12回　学校における相互行為
第13回　組織としての学校と教師の自律性
第14回　まとめ

３．履修上の注意

特にありません。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

前時の内容を復習して授業に臨んでください。

５．教科書

教科書は特に指定せず、必要な資料を配布します。

６．参考書

授業中に適宜紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行います。

８．成績評価の方法

リアクションペーパー（20％）、定期試験（80％）。欠席５回（忌引き等を除く）で不可。

９．その他

特にありません。

科目ナンバー：(IC)ART311J

情報社会と芸術

２単位	３年次	**古屋　俊彦**

１．授業の概要・到達目標

20世紀初頭の技術革新と芸術の産業化によって表現は解放され機械化されました。20世紀初頭には芸術は社会と政治と戦争に直結した役割をもっていました。その時代には社会の変革と新しい価値の創造に関して芸術家が先頭に立っていました。技術革新と芸術による新しい価値の創造の方向性が結実した最も前衛的な形がファシズムでした。ある芸術家たちは技術革新を全面的に肯定し国家を表現の結集する場とし戦争を賛美しました。そのような芸術家の考え方は決して不自然なものではなくきわめて整合性のあるものでした。通信手段や移動手段や居住設備などの革新と共に機械による世界戦争が作り出されました。20世紀前半に表現の拡張の帰結はほぼすべて出そろい芸術の役割は限定されていきました。20世紀後半から現在までは技術革新も表現の革新も停滞しており復活する兆しはありません。この授業では芸術の社会的な役割の負の側面を具体的な例を挙げながら考えていきます。表現や美意識は非常に危険なものではあるけれども避ければよいものでもありません。そのことを考えるためにイタリアの20世紀初頭の表現者の活動を参照します。そしてヴァルター・ベンヤミンの芸術作品の可能性についての考察を参照し、平和を目指す極めて困難な道への展望を模索します。表現の本質に関して常識や常套句に頼ることなく過去の事実を確認しながら現在の状況を見極め、それを文章の中で自分の考察として表現できるようにすることを目標とします。

２．授業内容

1　授業の説明、表現と芸術
2　表現と技術革新
3　芸術の産業化　映画
4　芸術の産業化　録音
5　芸術の産業化と作品
6　未来派　その１
7　未来派　その２
8　未来派　その３
9　ダヌンツィオ
10　ムッソリーニ
11　ファシズムと芸術
12　ベンヤミン　複製技術時代の芸術作品
13　ベンヤミン　複製技術時代の芸術作品　つづき
14　作者とは何か

３．履修上の注意

授業を聞いて考えることが重要な授業です。
常識的な理解や決まり文句ですませるような理解は通用しません。
自分がその時に考えたことはその場で必ずノートに書いていくことが必要です。
講義で使う教材はOh-o! Meijiの授業内容から参照できるようにします。
受講報告を毎回書いてOh-o! Meijiのアンケートで提出してもらいます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

準備としてはベンヤミンの『複製技術時代の芸術作品』を読んでおく必要があります。
授業で提示された問題提起に対して自分で考えてノートに書き後からも確認する必要があります。

５．教科書

オンライン教材を利用できるようにします。
必ず読んでおく必要のある本
ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』(岩波文庫「ボードレール」所収)

６．参考書

特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法

対面とオンラインで対応します。
オンラインでの対応に関しては初回の授業で説明します。

８．成績評価の方法

期末試験を行います。
定期試験80％、受講報告による平常点20％

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM361J

情報社会と出版

２単位	３年次	江下　雅之

１．授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
出版という事業そして産業を構成する構造を、作者・編集者・書店の視点から解説し、出版というメディアの具体的な成り立ち、情報の流通プロセス、モノ・商品として出来上がるまでのエコシステムを解説する。また、出版の活動および出版物の流通が果たしている社会的役割に注目し、言論活動で果たしている役割、娯楽の供給源としての位置づけを解説するとともに、近年のIT化によって出版というメディアの存在意義がどこにあるのかを提示する。
〈到達目標〉
個人・組織が思想や感情を表現し、ときには娯楽を媒介し、あるいは言論表現を行うメディアとして、最も古いコミュニケーション手段かつメディア産業である出版のメディアとしての仕組みと事業の構造の具体的な内容について理解できる。また、社会的・文化的に重要な役割を果たしてきた出版の役割をメディア全体の中に位置づけたうえで理解し、近年急速に進展するデジタル化の流れのなかでの出版が蓄積してきたノウハウの存在価値を理解できる。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業】
授業は「1　出版ビジネスの構造」「2　出版の公共性」「3　消費社会と出版」「4　情報化と出版」の4パートで構成される。各回のテーマは次の通りである。
第１回：授業の全体像の説明〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：1.1　出版業界の産業構造
第３回：1.2　出版の主要プレイヤー〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：1.3　出版のイノベーション
第５回：2.1　言論活動としての出版〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：2.2　出版の自由と規制
第７回：2.3　知識の伝搬とストック〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：3.1　娯楽の供給源〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：3.2　定期刊行物
第10回：3.3　情報サービス的な機能
第11回：4.1　データベースとしての価値〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：4.2　個人の表現活動と出版
第13回：4.3　先端技術と出版
第14回：総括（メディア産業としての出版）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊今年度より授業担当者が交代したため、以上の内容は今年度あらたに構成しています。
　授業期間前に講義内容の変更が確定した場合はイントロダクション動画で説明します。
＊授業期間開始後であっても、講義内容および回の順序は必要に応じて変更することがあります。変更の際は Oh-o Meiji の「お知らせ」であらかじめ連絡します。

３．履修上の注意
この科目は、クォーター（7週）完結型授業である。週に2コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。
オンデマンド形式により実施する回については、原則として毎週木曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。その次の回の対面授業の日までに必ず受講すること。
動画の配信スケジュールはイントロダクション動画でかならず確認すること。
講義資料（講義ノート、スライドのダイジェスト版等）をOh-o Meijiで配布する。
講義ノートは原則として各パートの終了後に公開する。かりに講義内容と細かな点で違いがあるときは、講義ノートの内容に準拠するものとする。講義ノートに訂正箇所が発生した場合は Oh-o Meiji で知らせる。
なお、出版史・印刷技術史に関連する内容は、主として「メディアの歴史」（おなじ曜日・時限にF1タームで開講）において講義する予定であるため、この科目を併せて履修することを推奨する（強制ではない）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
事前に配付されるスライドのダイジェスト版を授業前に一読し、必要に応じて講義に持参すること。講義中は適宜ノートを取り、講義ノートの公開後は内容を照らし合わせて講義内容を再整理すること。

５．教科書
使用しない。ただし、講義ノートが復習用ではあるが実質的に教科書に相当する内容のものとなる。

６．参考書
講義ノートでセクションごとに詳しく紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートに対し Oh-o Meiji で評価をコメントする。また、個別のフィードバックは希望があれば Oh-o Meiji のポートフォリオを通じて随時対応する。

８．成績評価の方法
中間レポートと期末レポートで評価する（評価の構成比は各50%）。
各パートごとにレポート課題を設定する。授業は4パートで構成されているので、全体で4課題（各課題3テーマ）が提示される。
中間レポートとしてPart.1またはPart.2のいずれか一方を、期末レポートとしてPart.3またはPart.4のいずれか一方を各自が選択すること。中間レポートを提出しなかった者は、その時点でF評価が確定する。また、中間レポートを提出しても期末レポートの提出がなければ、やはりF評価となる。
提出期限はパートごとに設定する。Part.1とPart.2の両方のレポートを提出した場合は、評価の高い方を中間レポートとして採用する。Part.3とPart.4の両方のレポートを提出した場合も、評価の高い方を期末レポートとして採用する。したがって、Part.1の評価が低かった場合はPart.2で、Part.3の評価が低かった場合はPart.4で挽回が可能である。
以上のことから、どうしてもこの科目の単位取得が必要な者は、中間レポートとしてPart.1を、期末レポートとしてPart.3を提出し、必要に応じてPart.2、Part.4で挽回を目指すこと。これ以上の「救済措置」は一切取ることができない。

９．その他
質問がある者は、Oh Meijiのポートフォリオあるいは教員へのメッセージ機能を利用すること。
レポートの作成に際して生成AIの使用はとくに禁止しないが、使用した場合は、かならず使用したことをレポート内で明記すること。なお、2023 ～ 2025年度の授業においても生成AIを使用したと判断できるレポートの例があったが、合格レベルに達しているといえないものが多かった。生成AIはレポートの自動作成システムではないので、課題文を単純に質問しても正確な答えは返ってこない。生成AIは質問者が学習データを適切に提供する必要があるため、次のプロセスが不可欠である。
1）事前にレポートの基本的な構成を練る。
2）個々の構成の中心となるトピックスを立てる。
3）順序だって対話的に生成AIに質問する。
4）返ってきた内容を自分でファクトチェックする。
生成AIを利用したいときは、Oh Meijiのレポート用トピックスに示された注意事項を参考にすること。
なお、パラグラフ・ライティングがなされていない、「です・ます」調で書かれている、特徴を列記しただけ等のレポートは、大幅に減点される。

科目ナンバー：(IC)DES311J

情報デザイン論

２単位	３年次	栗山　　健

１．授業の概要・到達目標
情報デザインとは、情報を人に分かりやすく伝えるための手法です。情報の伝え方が悪いと、理解するまで時間がかかったり、誤った認識が生じたりします。分かりやすく情報を伝える知識やスキルは重要です。
本授業は、様々なメディアの情報デザインについての講義と、テーマを与え、そのテーマにあった作品を作成する演習で構成します。また、受講者の作品への考察やディスカッションを通し、良いデザインについて考えます。
今後の学生生活および社会人生活において必要となる情報デザインに関する知識やスキルを身に付けることを到達目標とします。

２．授業内容
［第１回］イントロダクション 情報デザインとは何か議論します。授業内容の紹介、アンケートと共有
［第２回］文章のデザイン（１）読みやすい文字のフォント。フォントの印象
［第３回］文章のデザイン（２）文章の要約。可読性、視認性、判読性
［第４回］スライドのデザイン（１）文章や図の配置。認識のしやすさ
［第５回］スライドのデザインする（２）内容にあったスライドデザインの作成
［第６回］画像のデザイン（１）写真の撮影・加工
［第７回］画像のデザイン（２）配色や配置
［第８回］動きのデザイン（１）様々な動きを知る
［第９回］動きのデザイン（２）動きを操作する
［第10回］アイコンのデザイン（１）行動を表現するアイコンの作成
［第11回］アイコンのデザイン（２）ユニバーサルデザイン
［第12回］AIの活用とデザイン（１）事例の確認と実践への導入
［第13回］AIの活用とデザイン（２）実践に向けて
［第14回］まとめ
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。
　実践家を招くことがあります。

３．履修上の注意
前提となる科目はありませんが、情報の基礎を履修済みであることが望ましい。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
グループ活動時には、授業外での作業が発生します。

５．教科書
必要に応じて資料を配布、提示します。

６．参考書
特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法
小テストや作品などへのフィードバックは次の授業以降に授業内で共有するようにします。

８．成績評価の方法
平常点（授業への参加度や貢献度、授業中の態度など）50%、小テストや課題（作品等）の成果 50%

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL351J

情報文化論

２単位	３年次	**古屋　俊彦**

１．授業の概要・到達目標

人類の情報と文化の土台である言語と文字の実質について概説し考察していきます。まずは人類の文化の特異性と多様性を再検討し、基本的な視座として文化の根本的に異なる二つの側面である循環と蓄積について確認します。人間の循環的な活動の本体である言語の究極の単位について考察し、人間の活動がたどり着く蓄積物の本体である文字の独自の存立構造に関する考察へとつなげていきます。この授業では特に文字の問題に重点を置いて文化のあり方の根底に迫ります。日々消えていく活動の側面だけではなく長い時間に存続する文化について考えていきます。

２．授業内容

1　文化の定義　諸文化の独自性と多様性
2　文化の二面性　循環の側面と蓄積の側面
3　文化の保護と抑制　循環と蓄積の性質の違い
4　循環としての言語　蓄積としての文字
5　言語の違いとは何か
6　言語の本質　言語体系と記号の差異的性質
7　言語の単位　音素と弁別素性
8　線的構造と言語　言語と文字の無関係性
9　文字の使用と分布の現状
10　文字の先史時代　線刻と彩色
11　文字の前身　クレイ・トークン
12　文字の歴史　その１　シュメール文字、楔形文字
13　文字の歴史　その２　エジプト文字、漢字、その他
14　文字とは何か

３．履修上の注意

授業を聞いて考えることが重要な授業です。
常識的な理解や決まり文句ですませるような理解は通用しません。
自分がその時に考えたことはその場で必ずノートに書いていくことが必要です。
講義で使う教材はOh-o! Meijiの授業内容から参照できるようにします。
受講報告を毎回書いてOh-o! Meijiのアンケートで提出してもらいます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で提示された問題提起に対して自分で考えてノートに書き後からも確認する必要があります。

５．教科書

オンライン教材を利用できるようにします。

６．参考書

特になし

７．課題に対するフィードバックの方法

対面とオンラインで対応します。
オンラインでの対応に関しては初回の授業で説明します。

８．成績評価の方法

期末試験を行います。
定期試験80%、受講報告による平常点20%

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM351J

スポーツ・ジャーナリズム論

２単位	３年次	**小田　光康**

１．授業の概要・到達目標

この授業はクォータ科目（学期前半集中開講）のオンデマンド授業と対面授業のハイブリッド型である。授業のテーマは「五輪・パラリンピック」と「大学スポーツ」に関するスポーツ・ジャーナリズムである。これらの諸問題に焦点を当て、民主主義・自由主義体制下でのスポーツの健全な発展に資するためのスポーツ・ジャーナリズムについて探究していく。到達目標として、ジャーナリズムの一分野としてのスポーツ・ジャーナリズムを理解する。

オンデマンド授業では五輪・パラリンピックと大学スポーツに焦点を当てたスポーツ・ジャーナリズム論の基礎的な知識を学ぶことにする。一方、対面授業では五輪・パラリンピック、大学スポーツの諸問題についての講義と、各グループで設定した課題のグループワークと成果発表会を実施する。

２．授業内容

第１回　（対面）：イントロダクション（目的と概要）
第２回　（オンデマンド）：明治大学の精神とスポーツ、そしてジャーナリズム
第３回　（対面）
ａ：五輪ジャーナリズム（アトランタ、長野、北京、平昌、東京を主に）
ｂ：グループ課題設定
第４回　（オンデマンド）：ジャーナリズムとは、ジャーナリストとは
第５回　（対面）
ａ：事例研究「五輪組織委と新聞社のスポンサーシップ」
ｂ：グループワーク１
第６回　（オンデマンド）：スポーツとは、スポーツ・ジャーナリズムとは
第７回　（対面）
ａ：事例研究「五輪組織委とメディア委員会」
ｂ：グループワーク２
第８回　（オンデマンド）：スポーツ・ジャーナリストの仕事
第９回　（対面）
ａ：スポーツ界の因習、大学体育会の絆と掟、そしてジャーナリズムの葛藤
ｂ：グループワーク３
第10回　（オンデマンド）：レポーターとジャーナリスト、スポーツ界の記者クラブ問題
第11回　（対面）：課題発表1
第12回　（オンデマンド）：ジャーナリズム倫理　ジャーナリズムの独立
第13回　（対面）課題発表2・まとめ
第14回　（オンデマンド）：期末試験

３．履修上の注意

この授業はオンデマンド授業と対面授業のハイブリッド型メディア授業科目として開講される。オンデマンド授業は講義動画を原則毎週木曜日午前6時にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、当該学期中の視聴を可能とする。また、教員への質疑や学生同士の意見交換は並行して開講される対面授業の際に実施する。日々の政治や経済に関わるスポーツ関連記事には必ず目を通しておくこと。内容について試験で出題します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業直近の政治や経済に関わるスポーツ関連の新聞記事には必ず目を通すこと。

５．教科書

松瀬学・小田光康著『東京五輪とジャーナリズム』2023年、創文企画

６．参考書

ＪＯＡオリンピック小辞典（日本オリンピック・アカデミー編）

７．課題に対するフィードバックの方法

課題発表会の学生からの質疑応答と教員からのコメントで対応します。

８．成績評価の方法

対面授業の参加度（リアクションペーパー）（30%）とグループの課題発表（30%）、オンデマンドの期末試験（40%）で評点します。

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL341J

造形表現論

2単位	3年次	**木村　博之**

1．授業の概要・到達目標

インフォグラフィックスを中心に造形表現を考える。インフォグラフィックスとは、言葉で伝わりにくいモノ・経験・データ・概念など「見えにくい情報」を、絵や図解、グラフ、地図、アイコンなどを使い、「わかりやすい形」に変化させるグラフィックデザインで、すべてのデザイン領域に大きく関係する。絵や図で説明すると簡単に理解できることが多く、コミュニケーションの重要な手段である。カタチには表現した人の何らかのメッセージがある。それを理解するには、伝える側だけでなく受け取る側にもスキルが必要である。

この授業では、伝えたい対象・目的を明確にする「コンセプト」、その表現のアイデアである「軸」の設定、つかみなどの「スパイス」、プレゼンテーションなどを通して、伝えたいことをどのように工夫すると相手に適切に伝えることができるか、「伝える･伝わる･つなぐ」コミュニケーションのためのコツを身につける。スケッチが苦手でも問題ない。

2．授業内容

（1 a）イントロダクション
（2 ab）インフォグラフィックスを創るときの５つの要素
（3 ab）視点を変える
（4 ab）想像してスケッチする
（5 ab）コンセプトについて考える
（6 ab）観察する・調べる・インタビューする
（7 ab）ストーリー・共感
（8 ab）コンセプトに焦点を当てたプレゼンテーション
（9 ab）軸について考える
(10 ab）データを選び、情報に変える
(11 ab）スパイスについて考える（しかけの作り方・見せ方）
(12 ab）グループプレゼンテーション
(13 ab）ユニバーサルデザインを考える
(14 ab）総括、リフレクション
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

ワークショップ型の授業なので、個々の積極的な取り組み、発言、下調べが求められる。
木村メールアドレス：tubekimura@gmail.com

4．準備学習（予習・復習等）の内容

各自コミュニケーションの技を身に付けるためにアンテナを立てる。身の回りにあるコミュニケーションの優れたもモノやコトを探してくる。また授業で身に付けたことを、その日のうちに実際の学生生活や日常で必ず使ってみる。

5．教科書

必要に応じて資料を配布する。

6．参考書

『インフォグラフィックス』木村博之著（誠文堂新光社）

7．課題に対するフィードバックの方法

次週の授業内、またはOh-o! Meijiシステムを使用して講評する。

8．成績評価の方法

平常点30%、個人とグループの制作物・レポートによる評価70%

9．その他

授業中の評価により成績評価をするので期間前試験や期末試験は実施しない

科目ナンバー：(IC)COM331J

多文化と相互理解Ⅰ

2単位	3年次	**横田　貴之**

1．授業の概要・到達目標

昨今、異文化理解の重要性が指摘されています。では、異文化理解は難しいものでしょうか？まずは実際に異文化理解について考えるところから始めてみませんか？

この授業はアクティブラーニングを通じて実践的に異文化理解について受講生が考えることを目的とします。授業の基本的な流れは、受講生各自がオンデマンド講義を受講し、その内容を踏まえたグループワークによって「多文化と相互理解」について実践的に学びます。

この授業で異文化理解の題材とするのは、イスラームです。イスラームと聞いて、皆さんは何を連想しますか？昨今、イスラームへの関心が世界的に高まっていますが、それはテロや紛争など負のイメージを伴う場合が多くあります。その負のイメージがイスラームという異文化を理解する際の支障になりつつあります。16億人ともいわれるムスリム（イスラーム教徒）を理解するためには、もう一歩踏み込むことが必要です。

本講義では、ステレオタイプのイスラーム像を再考することを念頭に、まずはイスラームの実態を理解することで、異文化理解の第一歩を学びます。日本に暮らす我々にとって無縁とされるイスラームを事例として、多文化共生および相互理解の可能性を検討します。

本講義の到達目標は次の2点です。①イスラームの持つ固有性を把握すること。②イスラームという練習問題を通じ、文化間の相互理解や共生について受講生が主体的に考えるための素地を涵養すること。

2．授業内容

【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
（1） aのみ　イントロダクション（異文化にふれること）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（2） なぜ異文化理解が必要なのか？
（3） イスラームの基礎知識 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（4）「イスラム原理主義」の再考
（5） イスラームの政教一元論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（6） イスラーム政治―イスラーム主義と民主主義
（7）「アラブの春」とイスラーム主義 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（8） イスラームにおけるジハード論
（9） イスラームとテロリズム―アル・カーイダ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
(10)「イスラーム」を問い直す①―「イスラーム国」とは？
(11)「イスラーム」を問い直す②―「イスラーム国」現象 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
(12) イスラームと服装―ヴェールを中心に
(13) イスラーム金融入門 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
(14) a：授業のまとめ、b：試験・解説
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

・この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。
・オンデマンド形式により実施する回については、毎週火曜日までにOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の前日までに必ず受講（視聴＋課題提出）すること。
・＜対面＞毎回の授業において、受講生の発言、およびリアクションペーパーの提出を課します。発言・リアクションペーパーは成績に反映します。対面授業はメディア授業の受講が前提になっています。また、授業内で指示する課題は必ず行ってください。グループワークを適宜課します。
・＜メディア授業＞授業計画に従って動画を配信しますので、必ず視聴の上、動画内で提示される課題を提出してください。出欠は、課題提出をもってカウントします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメの該当箇所を必ず復習し、不明な点はリアクションペーパーにて質問してください。次回の内容についても、事前に配布するレジュメに目を通して、概要を理解してください。

また、新聞やテレビなどで、日常的にイスラーム関連のニュースに触れてください。

5．教科書

特に定めない。授業ではＰＰＴを使用し、レジュメを配布する。

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

対面授業・メディア授業の双方で毎回課題を課します。そのフィードバックは、その次の回において講評・解説で示します。

8．成績評価の方法

リアクションペーパー／授業内課題30%、期末試験（論述式）70%

9．その他

第１回のイントロダクションにおいて、授業詳細について説明するので、履修希望者は必ず受講すること。

科目ナンバー：(IC)COM331J

多文化と相互理解Ⅱ

2単位	3年次	横田　貴之

1．授業の概要・到達目標

昨今、異文化理解の重要性が指摘されています。皆さんはすでに聞き飽きたかもしれません。でも、実際に異文化理解について考えたことはありますか？この授業は、その最初の機会を皆さんに提供します。

この授業はアクティブラーニングを通じて異文化理解について受講生が主体的に考えることを目的とします。授業の基本的な流れは、受講生各自がオンデマンド講義を受講し、対面授業でそれを踏まえたグループワークによって「多文化と相互理解」について実践的に学びます。

この授業で異文化理解の題材とするのは、イスラームです。イスラームと聞いて、皆さんは何を連想しますか？昨今、イスラームへの関心が世界的に高まっていますが、それはテロや紛争など負のイメージを伴う場合が多くあります。その負のイメージがイスラームという異文化を理解する際の支障になりつつあります。

この授業では、日本とヨーロッパにおけるムスリム（イスラーム教徒）移民を事例として、多文化共生と相互理解について考えます。近年、ヨーロッパでは、ムスリム移民の増加がとても重要な社会問題になっています。また、「他者」の宗教であるイスラームへの理解・共存について、しばしば激しい議論が交わされています。本講義では、イスラームという宗教をめぐる様々な論争について整理し、最近のヨーロッパにおける移民問題を具体的に論じます。

そして、日本における移民問題をイスラームを事例に考えます。日本にとって移民・難民をどのように対応するのかは、すでに重要な社会問題になっています。ヨーロッパの事例との比較検討や日本独自の状況などを皆さんとともに考えます。

本講義を通じて、受講生が移民問題を通じて異文化の「他者」を理解し、多文化共生の可能性を主体的に考えるための知識の習得を目指します。

2．授業内容

【この科目はクォーター（7週）完結型授業です】

（1） aのみ　イントロダクション（多文化共生とは）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（2） 「文明の衝突」論の再考①―ハンチントンの議論
（3） 「文明の衝突」論の再考②―批判的検討 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（4） フランスの事例①―ムスリム移民社会の成立
（5） フランスの事例②―ライシテとイスラーム 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（6） フランスの事例③―ヴェール論争
（7） スウェーデンの事例 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（8） ヨーロッパとイスラームの共生
（9） 日本とイスラーム①―第二次世界大戦以前 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（10） 日本とイスラーム②―第二次世界大戦以降
（11） 日本に暮らすムスリム①―ムスリムの生活 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（12） 日本に暮らすムスリム②―日本におけるイスラーム理解
（13） 多文化間の正義論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕
（14） a：授業総括、b：試験・解説

＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

・この科目は、クォーター（7週）完結型授業です。週に2コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。
・オンデマンド形式により実施する回については、毎週火曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の前日までに必ず受講（視聴＋課題提出）すること。
・＜対面＞毎回の授業において、受講生の発言、およびリアクションペーパーの提出を課します。発言・リアクションペーパーは成績に反映します。対面授業はメディア授業の受講が前提になっています。また、授業内で指示する課題は必ず行ってください。グループワークを適宜課します。
・＜メディア授業＞授業計画に従って動画を配信しますので、必ず視聴の上、動画内で提示される課題を提出してください。出欠は、課題提出をもってカウントします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するレジュメの該当箇所を必ず復習し、不明な点はリアクションペーパーにて質問してください。次回の内容についても、事前に配布するレジュメに目を通して、概要を理解してください。

また、新聞やテレビなどで、日常的にイスラーム関連のニュースに触れてください。

5．教科書

特に定めない。授業ではＰＰＴを使用し、レジュメを配布する。

6．参考書

サミュエル・ハンチントン（鈴木主税訳）『文明の衝突』上・下巻（集英社、2017年）
内藤正典『ヨーロッパとイスラーム―共生は可能か』（岩波書店、2004年）
伊達聖伸『ライシテから読む現代フランス―政治と宗教の今』（岩波書店、2018年）
宮島喬・佐藤成基編『包摂・共生の政治か、排除の政治か―移民・難民と向き合うヨーロッパ』（明石書店、2019年）

7．課題に対するフィードバックの方法

対面授業・メディア授業の双方で毎回課題を課します。そのフィードバックは、その次の回において講評・解説で示します。

8．成績評価の方法

リアクションペーパー／授業内課題30%、期末試験（論述式）70%

9．その他

第1回のイントロダクションにおいて、授業詳細について説明するので、履修希望者は必ず受講すること。

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（英語圏）A

2単位	3年次	鈴木　　健

1．授業の概要・到達目標

授業概要：

歴代米国大統領の「公の説得の技法」としてのレトリックを研究する。2004年党大会基調講演、2008年及び2012年大統領選キャンペーン、TVディベート、就任演説、オバマ大統領の「核なき世界」演説、東京演説などを扱う予定。さらに、レトリック批評の主要な方法論を取り扱う。具体的には、新古典主義、イデオロギー批評、物語論、ファンタジー・テーマ分析などを取り扱う。

到達目標：

米国大統領の政治演説やディベート等の分析を通じて、公的説得の技法としてのレトリックについて学ぶ。同時に、アメリカ社会の説得構造に関しても学ぶ。

2．授業内容

授業計画：

第1回　イントロダクション
第2回　政治コミュニケーション（Read：第1章）
第3回　説得コミュニケーションの歴史：ビデオ2004TV Debate（Read：第2章）
第4回　レトリカル・プレジデンシー：ビデオ2008TV Debate1（Read：第3章）
第5回　メディアと政治：ビデオ2008Vice-Pre Debate（Read：第4章）
第6回　大統領選とＴＶディベート：ビデオ2008TV Debate2（Read：第5章）
第7回　ビデオ：「ケネディ対ニクソン」
第8回　レトリック批評の方法論1：ビデオ就任演説（Read：第6章）
第9回　レトリック批評の方法論2：ビデオ演説の力（Read：第7章）
第10回　レトリック批評の方法論3（Read：第8章）
第11回　レトリック批評の方法論4（Read：第9章）
第12回　レトリック批評の方法論5（Read：第10章）
第13回　レトリック批評の方法論6
第14回　まとめ

3．履修上の注意

第1回の授業に必ず出席すること。英語に必ずしも堪能である必要はないが、英語の資料も適宜使用する予定である。また、社会的言説や論争に興味があり批判的分析能力を高めたい希望を持っている学生の履修が望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当部分の予習とクラス・ディスカッションへの積極的な参加が求められます。

5．教科書

鈴木健『政治レトリックとアメリカ文化：オバマに学ぶ説得コミュニケーション』（朝日出版社、2010年）

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業内、あるいは、授業の前後にフィードバックやコメントをお返しします。

8．成績評価の方法

毎回のクラス・ディスカッションへの貢献度（40%）と試験(60%)によって、成績評価をします。毎回の出席と予習を重視します。

9．その他

特になし。

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（英語圏） B

2単位	3年次	鈴木　健

1．授業の概要・到達目標
授業概要：
2016年のトランプ大統領の誕生以来、アメリカ社会の＜分断＞は加速度的に増してきた。2020年にバイデンに敗れた後、2024年に大統領職に返り咲いたトランプは、今後どのような変化をアメリカと世界にもたらすであろうか。この授業では、政治コミュニケーション論を中心に、説得術、討論、メディア、歴史、経済など、さまざまな切り口からアメリカの＜分断＞の原因と影響を考察する。
到達目標：
格差社会の進行とニューメディアの隆盛によって、社会的二極化（social polarization）が進むアメリカの原因と影響を学際的に考察する。具体的には、移民受け入れ、中絶論争、陰謀論など、アメリカの抱える問題の分析方法を身に付け、自分なりの意見を持てるようになることを目標とする。

2．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　メディアの分極化と〈分断〉１（教科書第１章）
第３回　偽誤情報時代と〈分断〉２（教科書第２章）
第４回　政治コミュニケーション論から見る〈分断〉１（教科書第３章）
第５回　政治コミュニケーション論から見る〈分断〉２（教科書第４章）
第６回　社会史から見る〈分断〉１（教科書第５章）
第７回　中絶論争から見る〈分断〉（コピーを配布）
第８回　社会史から見る〈分断〉２（教科書第６章）
第９回　経済史から見る〈分断〉（教科書第７章）
第10回　メディア研究から見る〈分断〉（教科書コラム１＆２）
第11回　陰謀論から見る〈分断〉（教科書コラム３）
第12回　警察と司法権力から見る〈分断〉（教科書コラム４＆５）
第13回　移民政策と対中政策から見る〈分断〉（教科書コラム６＆７）
第14回　まとめ

3．履修上の注意
第１回の授業に必ず出席してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
教科書の該当部分の予習とクラス・ディスカッションへの積極的な参加が求められます。

5．教科書
鈴木健、他『アメリカの〈分断〉とは何かー学際的視点からその諸相を探る』（大学教育出版、2025年）

6．参考書
授業において紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
必要に応じて授業内、あるいは、授業の前後でフィードバックやコメントをお返しします。

8．成績評価の方法
プレゼンテーションとクラス・ディスカッション(40％)への貢献度を加味して、最終試験(60％)によって成績評価をします。毎回の出席と予習を重視します。

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（ドイツ）（地域文化論Ａ（ドイツ））

2単位	3年次	相原　剣

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
この授業では音楽を中心とする「同時代の文化」をテーマとしています。当該地域の言語や文化を「学習」し、「理解」するということは、容易には言語化され得ない細部を捨象して、翻訳可能かつ伝達可能だと思われる「情報」だけを抽出し、それを単純に学習・理解することではないと思います。まずは当該地域の文化を愚直に体験していくことを目的とします。不断に行われる実践的思考という営為を以て「言語圏文化」、「地域文化」といったタームを再検証していく場としたいと思います。
【到達目標】
履修者の皆様がこの授業を通して手にれるものは、「当該文化の知識」という予め保証された「解答」ではなく、「不断に思考する想像力」であることを望みます。

2．授業内容
第１回　内容説明と具体例の予告提示
第２回　方法論と具体的試みの例示
第３回　LGBTQとポップカルチャー
第４回　ワイマール期のカバレット文化と80年代文化
第５回　多文化主義と音楽
第６回　ジャズとヘヴィーメタル
第７回　ユーロ圏のポップミュージック
第８回　ドイツとトルコ
第９回　ベルリンのアンダーグラウンドシーン
第10回　ウィーンの音響
第11回　アートと音楽
第12回　ドイツのクリスマス
第13回　ドイツ語圏とは？
第14回　a：講義とまとめ、b：試験
まずは様々な音楽・文化に接することからはじめたいと思います。ドイツのヒットチャートを賑わすポップスから、ヒップホップやR&B、レゲエ、スカ、パンク、ミュンヘン・ディスコ、ニューウェイブにポストロック、EDM、チップチューンにジャズやボサノヴァ、ラウンジにエレクトロニカといったもの、アイドルや子供番組の主題歌、ドイツの流行歌と言われるシュラーガーなど、様々なものが対象となります。もちろん所謂ジャーマン・メタルや日本でも知られているクラフトワークやラムシュタインなども取り上げていきます。また、NeubautenやCANなど、現在に至るまで世界の音楽シーンに大きな影響を与え続けているアーティスト達にも触れます。ファッションと音楽のかかわりを探ってみたり、ドイツのヒップホップにおける使用言語が、英語とドイツ語に二分されることに注目してみるのもよいかもしれません。Joy Denalaneに代表されるアフロ・ジャーマン文化の背景や、トルコや東欧のシーンなどに注目する必要もあると思います。クリスマスなど季節のイベントも体験していきたいと思います。アートやファッション、スポーツ、アニメ、ゲーム、演劇、建築、思想など様々な領域に自由に逸脱しながら、当該の言語圏文化・地域文化について考えていきます。
※受講する皆さん一人一人の興味とシーンの動向によって、このシラバスが書かれた時点では想像も出来ない内容になる事を期待しています。
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
ドイツ語に関しては歌詞や関連情報としてお渡ししますが、映像を主体とした授業なので、ドイツ語履修者でなくとも問題はありません。また、ドイツ語履修の方にとっては、ドイツ、オーストリアやドイツ語の新しい面を発見できる場となることでしょう。音楽ジャンル等あらゆる予備知識は全く必要ありません。他者への想像力を持って、自ら思考し発信することを厭わず愉しむ方にとって、居心地の良い場であることをお約束します。まず初回のイントロダクションで、授業の進め方や目的についての説明をいたします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
【準備学習の内容】
様々な分野に日々関心を持ち、分からないことを恐れず、分からない事柄があれば、質問をしたり、「検索」をしてみましょう。
【復習すべき内容】
関連の文化事象について、さらに興味の幅を広げていきましょう。

5．教科書
随時プリント等を配布します。特に教科書は使用しません。

6．参考書
特に定めません。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時間内に、各自の発信の共有を行います。随時、全体講評及び個別講評も行います。Oh-o! Meiji システムを利用しての補足等も行います。

8．成績評価の方法
平常点・授業内の取り組み（個別の事象に対する自らの思考の積み重ねと発信及び他者の思考のフィードバック）70%、期末課題30%　＊何よりも１回１回の授業内での取り組みを重視します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（フランス）（地域文化論Ａ（フランス））

２単位	３年次	高馬　京子

１．授業の概要・到達目標
本講義では、日仏のジェンダー表象を巡る現状と課題を検討する。
明治時代から西洋化を目指し、英語、ドイツ語、フランス語といった外国語を学び、西洋化に向けて日本は西洋、フランスから多くを学んできた。その後戦争などさまざまな歴史を経て、西洋化、そしてアメリカ化を目指して現在フランス化も含む西洋化、アメリカ化（すなわちグローバル化）が当たり前となり、それを他者の文化として意識さえしない「日本」に私たちは今生きている。とはいえ、西洋化、アメリカ化（グローバル化）を推進しきったかに見える日本においても、やはりそもそも西洋化とは大きく異なる日本独自の文化、制度、風習は存在するのは当然である。いま令和のグローバル化の時代にフランスからフランス文化を学ぶことで、日本にとっては、あたりまえ、と感じている独自の文化、制度をもう一度立ち止まって、再認識、再検討する。本講義では、特に、SDGｓでも課題とされているジェンダーの問題を中心に、フランスの課題を探り学ぶことで私たち日本社会がジェンダーをめぐり取り組むべき課題について表象という視点から考える。と同時に日本がフランスが抱える課題にどう学びを与えられるかも考え、一方的にフランスから学ぶという関係から相互に学びあい、より良い社会を目指す糸口を提言することを目的とする。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
授業内容
第一回　イントロダクション
第二回　講義動画　フランスのフェミニズムの変遷との関係からみる女性像の変遷
第三回　対面　フランスのフェミニズムの変遷との関係からみる女性像の変遷について日本との対比で考える（ディスカッション）
第四回　講義動画　教育、仕事事情をめぐるフランスの女性の表象
第五回　対面　教育、仕事事情をめぐるフランスの女性の表象について日本との対比で考える（ディスカッション）
第六回　講義動画　フランスの家族、恋愛事情をめぐる表象
第七回　対面　　フランスの家族、恋愛事情をめぐる表象を日本との対比で考える（ディスカッション）
第八回　講義動画　フランスの移民政策と女性表象
第九回　対面　フランスの移民政策と女性表象を日本との対比で考える（ディスカッション）
第十回　講義動画　フランスにおける多様性、LGBTをめぐる表象
第十一回　対面　日本とのフランスにおける多様性、LGBTをめぐる表象を日本との対比で考える（ディスカッション）
第十二回　講義動画　表象としてのパリジェンヌ
第十三回　対面　表象としてのパリジェンヌについて日本との対比で考える（ディスカッション）
第十四回　まとめ　現代フランスのジェンダー、女性表象の課題を鑑みて考える日本女性、ジェンダー表象の課題とはなにか。
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
学期試験、毎回小レポート、課題レポートの対策には授業内容の理解が不可欠。準備学習としては、日ごろからフランス国内外フランス社会関連情報にアンテナをはること。必須ではないがフランス語の初歩的知識がある、もしくはフランス語学習にも興味があることが望ましい。
講義動画をしっかり学び、対面授業でのディスカッションに備えること。
この科目は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を、対面形式（火曜３限）とオンデマンド形式（金曜日ohomeijiに配信）にて実施する。
履修者の状況等によって若干内容が変更する可能性もある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回、授業で行うテーマについて自分なりに指定参考書、その他資料を調べておき、授業中での討論、リアクションペーパーを通して質問、意見を発表するようにすること。また授業で、学んだことを復習しながら、そのテーマに関する問を自分なりにまとめること。

５．教科書
関連テーマ関連資料（メディア記事、論文など）及びニュース番組、映画など映像教材なども使用。

６．参考書
『現代フランス社会を知るための62章』（三浦　信孝、西山　教行　編著）明石書店　2010年，FRANCOSCOPIES（隔年出版）Larousse　等

７．課題に対するフィードバックの方法
オンラインの講義内容で課題を出し、それを対面授業の際の議論、レポートで受講生は提示し、授業中、またOHOMEIJIを通してコメントを行う。

８．成績評価の方法
最終レポート50%、平常点（ディスカッション、小レポート）50%

９．その他

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（スペイン）（地域文化論Ｄ（スペイン））

２単位	３年次	結城　健太郎

１．授業の概要・到達目標
スペインについて学びます。スペインはその多様性とは裏腹に、日本においては、サッカーやフラメンコなどごく限られた一面だけが紹介されてきました。履修者の参加をまじえつつ、地理・歴史からはじめ、イベリア半島の諸相を扱うことにより、この国についてバランスの取れた知識を身につけます。

２．授業内容
（受講者の興味や進度により、調整する可能性があります。）
第１回：授業の概要、進めた方の説明、日本におけるスペインのイメージ
第２回：地理・気候
第３回：歴史（１）
第４回：歴史（２）
第５回：歴史（３）
第６回：政治（１）
第７回：政治（２）
第８回：行政
第９回：経済
第10回：産業（１）
第11回：産業（２）
第12回：文化
第13回：社会問題（１）
第14回：社会問題（２）

３．履修上の注意
この授業では参加を重視するほか、履修者による調査・発表の機会を設けます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業後にレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば質問すること。また、復習用の課題を出題します。

５．教科書
教科書は特に定めません。授業で資料を配布します。

６．参考書
必要に応じて紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
課題・レポート等の評価後に返却、正誤やコメント等を提示します。

８．成績評価の方法
授業への参加を４０％、課題等を３０％、各種テストを３０％として評価します。プレゼンテーション課題を実施する場合は、プレゼン２５％、参加２５％、課題２５％、各種テスト２５％とします。

９．その他
授業担当教員の連絡先はyuki.ken@gmail.comです。授業外でもスペインに関するニュースや文化に触れようとする積極性を持ってください。

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（中国）（地域文化論Ｃ（中国））

２単位	３年次	呉　　燕

１．授業の概要・到達目標
「中国文化」は、歴史的に東アジアから東南アジアに及ぶ広範な地域に多大な影響を及ぼしてきた。その内実は多様を極める一方で、時代や地域を超えて持続する一貫性と求心力を備えている。本講義では、中国文化の多様性と重層性を踏まえつつ、その核心にある論理が現代中国の地政学的な「動的なパワー」にいかに継承・変容されているかを、歴史的経路依存性の観点から解明する。現代の国家統治、ナショナリズム、および対外戦略（ソフトパワー・言説工作）を単なる新興現象としてではなく、数千年にわたる帝政期の統治実践の中で洗練されてきた儒教・法家等の思想体系の帰結として分析する。
講義では、写真、ドキュメンタリー、映画等のマルチメディア資料を活用し、風土、民俗、芸術、言語といった文化の豊富性をテーマごとに提示する。資料の読解を通じて、表象の背後に潜む持続的なイデオロギーや文化論理を抽出・検証し、普段の視点では捉えにくい中国文化の深層を考察する契機を提供する。さらに、比較文化の視点から他地域との価値観の異同や歴史的連関を解明し、単なる現状分析に留まらない「歴史的秩序観の衝突」としての構造的理解を目指す。
本講義は、中国文化独自の論理を歴史的脈絡に沿って捉えるとともに、東アジアの文化交流を広範な視角から再考するものである。文化事象を多元的な視角で分析する思考力、および国際社会における異文化理解と関係構築のための能力を養う。現代中国という多層的な実体を、帝政期から続く「歴史の連続体」として多角的に検証する知的基盤の構築を目標とする。

２．授業内容
本講義は、おおよそ二週間一つのテーマのペースで進んでいく予定であるが、受講者の要望や関心に応じて調整する場合もある。
第１回：イントロダクション――文化の連続性と政治的動員：中国文化の基本構造を概観する。
第２回：「民は食を以て天とする」の中国（1）――生存の論理と食文化の変遷
第３回：「民は食を以て天とする」の中国（2）――デジタル・プラットフォームと食の変容
第４回：中国の古代建築と空間への美意識（1）――秩序の空間化と権力
第５回：中国の古代建築と空間への美意識（2）――庭園に見る「擬似自然」と統治観
第６回：「天下」から「万国」へ（1）――伝統的「天下」観と階層的秩序
第７回：「天下」から「万国」へ（2）――現代中国の対外戦略と「新天下主義」
第８回：「鬼・仙・妖」の宗教意識（1）――「冥界」の官僚制と中国式法秩序
第９回：「鬼・仙・妖」の宗教意識（2）――実利主義的信仰と「神」の機能
第10回：「鬼・仙・妖」の宗教意識（3）――文化産業と検閲、ファンタジーの政治学
第11回：中国人の「情」と「恋」(1)――家族主義と「情」の拘束力
第12回：中国人の「情」と「恋」(2)――少子高齢化と社会変容の最前線
第13・14回：期末プレゼンテーション及び質疑応答
各テーマに基づき、受講者が現代の具体的ニュースや事象を文化的な論理から分析し、発表を行う。多角的な視点による批判的議論を行う。

３．履修上の注意
中国語の学習歴を持たない学生も履修できる。中国文化の基本を紹介する講義であるため、中国出身の学生は、この授業の履修は遠慮していただきたい。
1. 期末試験は不実施となっているが、講義のテーマを巡ってミニレポートの作成が求められる。なお、授業時間外の学習を前提として講義を行う。各自関心を持った事項については図書館の活用等を通じ自主的な学習を期待する。
2. 授業中の論議や期末発表に対する積極的な取り組みが望ましい。
3. 講義中の私語を慎むこと。
4. 講義開始後２０分以降入室禁止となる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
準備学習・復習を前提として講義を行う。具体的には授業初回に指示するが、各回毎紹介した内容は文献の購読により各自で理解を深めておくこと。

５．教科書
特に指定しない。
授業の進捗状況に応じて、随時資料を配布する。

６．参考書
加藤徹、『貝と羊の中国人』、新潮社2006年
湯浅邦弘編著、『概説　中国思想史』、ミネルバ書房2010年
井ノ口哲也、『入門　中国思想史』、勁草書房2012年
橋爪大三郎・大澤真幸・宮台真司、『おどろきの中国』、講談社2013年
岡本隆司、『近代中国史』、筑摩書房2013年
『中国の論理：歴史から解き明かす』、中央公論新社2016年
葛 兆光 (著)、辻 康吾 (翻訳)、永田 小絵 (翻訳)、『完本 中国再考: 領域・民族・文化』、岩波書店2021年
葛兆光 (著)、橋本昭典 (翻訳)、『中国は「中国」なのか：「宅茲中国」のイメージと現実 』、東方書店2021年
参考資料を適宜配布し、関連文献はその都度紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内容や課題評価に対する質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

８．成績評価の方法
期末レポート（50%）、期末プレゼンテーション（25%）、ミニレポート（15%）及び平常点（10%）より評価する。
３回の無断欠席で（就活期間中の方は４回まで）期末レポートの提出を不可となる。

９．その他

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（朝鮮）（地域文化論Ｃ（朝鮮））

２単位	３年次	韓　　梨恵

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
日本の朝鮮侵略が近現代朝鮮半島の社会形成にいかなる影響を与えたかを考える。朝鮮の植民地化過程から植民地期にかけての時期に、朝鮮社会でどのような動きがみられたのかを学ぶ。
【到達目標】
受講生は授業をとおして、朝鮮史や日朝関係史の基本的な史実を知るにとどまらず、朝鮮史と向き合うための視座を獲得することが求められる。

２．授業内容
第１回：イントロダクション／「朝鮮史を学ぶ」とは
第２回：朝鮮王朝期の社会(1)
第３回：朝鮮王朝期の社会(2)
第４回：朝鮮の植民地化過程と近代への模索(1)
第５回：朝鮮の植民地化過程と近代への模索(2)
第６回：国権回復運動の展開
第７回：武断政治下の朝鮮社会(1)
第８回：武断政治下の朝鮮社会(2)
第９回：３・１独立運動と民族解放運動の展開
第10回：「文化政治」と朝鮮社会
第11回：1920年代の朝鮮／関東大震災と在日朝鮮人
第12回：社会主義と朝鮮
第13回：1930年代の朝鮮／戦時体制下の朝鮮社会
第14回：朝鮮の「解放」と分断

３．履修上の注意
講義資料は、授業前に配布する。
講義資料の無断転載及び講義の無断録音・録画は厳禁とする。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
講義資料を読み込み、内容の理解に努めること。わからない点は、辞書や文献を用いて調べておくこと。
授業内で課題が出された場合、課題に取り組むこと。講義資料を再読し、指定した参考文献に基づき復習すること。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
- 朴慶植『朝鮮人強制連行の記録』未来社、1965年。
- 姜徳相『関東大震災』中公新書、1975年。
- 朝鮮史研究会『朝鮮の歴史』三省堂、1995年。
- 姜徳相『朝鮮人学徒出陣』岩波書店、1996年。
- 伊藤亜人『朝鮮を知る事典』平凡社、1998年。
- 徐仲錫『韓国現代史60年』明石書店、2008年。
- 宋連玉『脱帝国のフェミニズムを求めて―朝鮮女性と植民地主義―』有志舎、2009年。
- 金聖甫ほか『写真と絵で見る 北朝鮮現代史』コモンズ、2010年。
- 山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後―虐殺の国家責任と民衆責任―』創史社、2011年。
- 趙景達『植民地朝鮮』東京堂書店、2011年。
- 鄭栄桓『朝鮮独立への隘路―在日朝鮮人の解放5年史―』法政大学出版局、2012年。
- 六反田豊『朝鮮王朝の国家と財政（世界史リブレット110）』山川出版社、2013年。
- 三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える―ジェンダーから見た世界史』大月書店、2014年。
- 宋連玉『植民地「公娼制」に帝国の性政治をみる』有志舎、2023年。
- 朝鮮大学校朝鮮問題研究センター・在日朝鮮人関係資料室編『関東大震災朝鮮人虐殺問題を考える』八月書館、2023年。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時間内に講評・解説を行う。

８．成績評価の方法
平常点（50%）、期末レポート(50%）

９．その他

科目ナンバー：(IC)ARS391J

地域文化論（イスラーム）（地域文化論Ｄ（イスラーム））

２単位	３年次	横田　貴之

１．授業の概要・到達目標
16億人以上ともいわれるムスリム（イスラーム教徒）にとって、イスラームは日々の生活のみならず、社会の基底をなす重要な宗教です。最近では、イスラームをめぐる諸問題への関心も世界的に高まっています。日本に暮らすムスリムは10万人を超えるともいわれ、我々にとっても身近な隣人です。今後一層、イスラームに関する理解がさらに必要になると予想されます。
本講義では、イスラーム理解の出発点として、イスラームの教義・歴史に関する基礎知識を中心に解説します。単なる机上の知識ではなく、現在進行形の最新情報も取り込んで講義を進めます。本講義を通じて、各受講生がイスラームに関する基礎知識を習得し、イスラームの多面性を理解することを目標とします。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
（１）　ａのみ。イントロダクション(イスラーム理解のために）〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（２）　セム系一神教の系譜：ユダヤ教、キリスト教、イスラームの共通点と相違点を学びます。
（３）　イスラームの誕生：ムハンマドの生涯を中心に、イスラームの成立を解説します。〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（４）　イスラームにおける啓示と教義：イスラームの「原理」ともいえる狭義の根幹を論究します。
（５）　正統カリフ・ハディース：ムスリムにとっての「モデル（模範)」とは何かについて、基本を学びます。〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（６）　六信・五行：ムスリムが信じなければならないこと、やらなければならないことを解説します。
（７）　イスラームの知識の担い手①―ウラマー:イスラーム法（シャリーア）の担い手であるウラマーについて考えます。〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（８）　シーア派：多数派（スンナ派）とシーア派は「なぜ・何が・どのように」違うのかを解説します。
（９）　イスラームの知識の担い手②―スーフィー：イスラーム信仰の「心」の核心に触れます。〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（10）　イスラームの歴史①―黄金期：イスラームの歴史を中世を中心に解説します。
（11）　イスラームの歴史②―近代以降のイスラームの歴史について論じます。〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（12）　イスラームと音楽：伝統音楽からﾋｯﾌﾟﾎｯﾌﾟまでイスラーム圏の音楽を視聴して考えます。
（13）　イスラーム諸国の食事文化―現代のムスリムの食事情について考えます。〔メディア授業（オンデマンド型)〕
（14）　ａ：まとめ―イスラームの教えとは？ｂ：試験・解説
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
・この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。
・オンデマンド形式により実施する回については、毎週火曜日までにOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信します。次回の対面授業の前日までに必ず受講（視聴＋課題提出）すること。
・＜対面＞毎回の授業において、受講生の発言、およびリアクションペーパーの提出を課します。発言・リアクションペーパーは成績に反映します。対面授業はメディア授業の受講が前提になっています。また、授業内で指示する課題は必ず行ってください。グループワークを適宜課します。
・＜メディア授業＞授業計画に従って動画を配信しますので、必ず視聴の上、動画内で提示される課題を提出してください。出欠は、課題提出をもってカウントします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業中に配布するレジュメの該当箇所を必ず復習し、不明な点はリアクションペーパーにて質問してください。次回の内容についても、事前に配布するレジュメに目を通して、概要を理解してください。また、新聞やテレビなどで、日常的にイスラーム関連のニュースに触れてください。

５．教科書
特に定めない。授業では、ＰＰＴを使用し、レジュメを配布します。

６．参考書
小杉泰『イスラームとは何か－その宗教・社会・文化』（講談社、1994年）

７．課題に対するフィードバックの方法
対面授業・メディア授業の双方で毎回課題を課します。そのフィードバックは、その次の回において講評・解説で示します。

８．成績評価の方法
リアクションペーパー／授業内課題30％、期末試験（論述式）70％

９．その他
第１回のイントロダクションにおいて、授業詳細について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。

科目ナンバー：(IC)ARS361J

超域文化論

２単位	３年次	高馬　京子

１．授業の概要・到達目標
本講義では、デジタル社会、グローバル化、価値観の多様性の今日、様々な枠組みを超えて提示されるファッションを事例に、現代情報社会の課題について検討することを目的とする。ファッションとはなにか。この問いは多くの古今東西、多くの分野の研究者が議論してきた問いの一つといえる。
「衣服は（メディアで）書かれてファッション（服飾流行）になる」とロラン・バルトは1967年にフランスで刊行された『モードの体系』の中で書いた。その後、バルト自身によって否定されるこの『モードの体系』の中では、女性の解放を謳った第2派フェミニズムが始まる直前の、「エレガントな貞淑な幸せな主婦像」を理想的女性像として描いていたフランスのマスメディアを中心とするファッション雑誌の中で、いかなる言葉を用いて一枚の衣服が服飾流行になるかを検討したものであった。
それから50年近い時を経て、ファッションメディアもマスメディアからストリートへ、また、デジタルメディアの発展とともに、WEBメディア、ブログ、ＳＮＳ、メタヴァースといったヴァーチャル空間へとファッションメディアが拡張してきている。そのようなファッションメディアの拡張傾向の中で、服飾流行の生成過程も、その生成過程に参加するアクター（行為者）も多様に、そして大きく変容し、それらの複数の行為者が様々な既存の境界・規範を超えながら重層的にファッションを形成するという状況がみられる。この文脈で考えると、ファッションとは、常にどの同時代の社会の諸相を映し出している現象といえるだろう。
本講義では、フランス・日本を主軸に、このような様々なファッションメディアを通して様々な境界を超えて形成されるファッション（表象）とはなにかについて（超域文化論＜言語文化学・言説分析・記号学・ファッション・スタディーズ、カルチュラルスタディーズ・ジェンダー論＞の視点から）多角的に議論する。本授業で目指しているものは、それを通して、伝統的な過去に回帰しつつも、規範を乗り越え、常に新しいなにかにメタモルフォーズしようとする/しなければならない運命を背負うファッションとはなにか、ファッションメディアとの関係において考える。現代情報社会を映し出す鏡でもある超域文化の代表的な文化現象であるファッションの事象、事例を通して現代情報社会の課題について受講生が考え、分析・解決策を考えることを目的とする。

２．授業内容
第一回　はじめに（対面）
第二回　さまざまな境界を超えて形成されるファッション（オンライン講義）
・「学問の諸領域」を超えファッションを研究する。
・「地域」「時間」を超えて形成、伝達されるファッション
・ファッションによって「私」を限定する境界を超える：ジェンダー規範、年齢・世代、身体
第三回　さまざまな境界を超えて形成されるファッション（対面授業　議論形式）
第四回　ファッションメディア:マスメディア、デジタルメディアからAR、VR空間へ（オンライン講義）
・マスメディアとしてのファッション雑誌
・デジタルメディア：インターネット・ブログ/SNSとファッション
・WEB３　ゲーム/AR・VR/メタヴァース・NFTとファッション
第五回　ファッションメディア:マスメディア、デジタルメディアからAR、VR空間へ（対面授業　議論形式）
第六回　「地域」「時間」を超えて形成、伝達されるファッション（オンライン講義）
・アプロプリエーション（さまざまな文化盗用―発信者/着用者）
・コラボレーション（対等な関係―発信者/着用者）
・戦略・影響（グローバリゼーション）/戦術（トランスナショナリゼーション）
第七回　「地域」「時間」を超えて形成、伝達されるファッション（対面授業　議論形式）
第八回　ジェンダー規範を超えるファッション（オンライン講義）
・規範的女性像、女らしさの変遷とファッション
・規範的男性像、男らしさの変遷とファッション
第九回　ジェンダー規範を超えるファッション（対面授業　議論形式）
・ジェンダーの垣根の融解と身体
第十回　年齢・世代を超えるファッション（オンライン講義）
・若さと未熟（かわいい―女性・男性　・日本/西欧・非西欧）
・成熟性と老い（セクシュアリティー、グラマラス、老いとの闘い/共存　日本/西欧・非西欧）
・成熟したかわいい、未熟なかわいい
第十一回　年齢・世代を超えるファッション（対面授業　議論形式）
第十二回　身体規範とファッション（オンライン講義）
・身体―体形（痩身/非痩身）など―
・美の基準―上品/下品－
・現実の身体から写真加工・アバター
第十三回　身体規範とファッション（対面授業　議論形式）
第十四回　移り行くファッション、ファッションとはなにか、そしてファッションは私たちをどこへ連れていくのか。(オンライン講義)
オンライン講義で各テーマの基本的現状と問いを学び、対面授業で議論形式でその課題について発展させて受講生との対話の中で現代情報社会の課題について検討していく形式をとる。

３．履修上の注意
学期試験、毎回小レポート、課題レポートの対策には授業内容の理解が不可欠。準備学習としては、日ごろからフランス国内外フランス社会関連情報やファッション、現代情報社会の課題ににアンテナをはること。
この科目は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を、対面形式（火曜４限）とオンデマンド形式（金曜日ohomeijiに配信）にて実施する。
英語の文献なども読むこともある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オンライン講義で課題、基礎をしっかり学び、対面授業での議論内容について準備をしておくこと。

５．教科書
特に指定しない。

６．参考書
高木陽子・高馬京子編『越境するファッションスタディーズ』ナカニシヤ出版
高馬京子『日本とフランスのカワイイ文化論－なぜわたしたちは「かわいく」なければならかったのか』
蘆田裕史・藤嶋陽子・宮脇千絵編『クリティカル・ワードファッションスタディーズ』フィルムアート社
Susan B. Kaiser and Denise N. Green, *Fashion and Cultural Studies*, Bloomsbury
その他授業中に述べる。

７．課題に対するフィードバックの方法
オンラインの講義内容で課題を出し、それを対面授業の際の議論、レポートで受講生は提示し、授業中、またOHOMEIJIを通してコメントを行う。

８．成績評価の方法
平常点（ミニレポート）４０点、最終レポート（試験）６０点

９．その他

科目ナンバー：(IC)LIN331J

日本文化論Ａ

２単位	３年次	日置　貴之

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
能・狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃文楽、落語、講談といった古典芸能は明治時代頃までに現在の形式を確立し、今日でも演じ続けられている。その一方で、近現代の小説、演劇（戯曲）、映画、漫画といった芸術の中でそうした古典芸能の世界が描かれたり、モチーフとして取り上げられることも多い。
そのような近代芸術の中に登場する古典芸能は、近現代の社会とは隔絶した一種の「異界」のように描かれたり、あるいはナショナリスティックな意味合いを与えられたりと、様々な描かれ方をしている。
あるいは、古代から現代に至るさまざまな時代の芸能が、層をなすようにして今日まで並存している（例えば東京では、一日の間に能楽と歌舞伎と現代演劇と映画のすべてを観ることも不可能ではない）日本では、古典芸能の実演者と現代演劇や映画、テレビドラマなどに出演する俳優とは明確に区別されるが、狂言師・歌舞伎俳優・落語家といった人々は現代劇や映画・ドラマにも出演し、しばしばその特別な存在感を生かした役柄を演じる（例えば、過去を舞台にした映画や大河ドラマにおいては、歌舞伎俳優が頻繁に天皇の役を演じてきた）。
この講義では、近代文学・演劇・映画等の実例を取り上げながら、その作品中で「古典芸能」やその伝承者がどのような意味を担わされているのか、あるいは近現代の創作者が「古典芸能」という基盤からどのように新たな価値を生み出したのかを考えていく。
【到達目標】
文化・芸術について、個々の作品や事象が生まれる背景等を踏まえた上で考察し、自分なりの考えを持つことができるようになる。

２．授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　近代文学と能楽（1）～夏目漱石と能楽
第３回　近代文学と能楽（2）～泉鏡花・谷崎潤一郎と能楽
第４回　近代文学・演劇と歌舞伎
第５回　近代文学と人形浄瑠璃（1）～谷崎潤一郎と人形浄瑠璃
第６回　近代文学と人形浄瑠璃（2）～織田作之助と人形浄瑠璃
第７回　映画と古典芸能（1）～日本映画の誕生と歌舞伎
第８回　映画と古典芸能（2）～映画の中の古典芸能
第９回　宝塚少女歌劇と古典芸能
第10回　近代文学と落語・講談（1）
第11回　近代文学と落語・講談（2）～実演と解説
第12回　戦時下の文化と古典芸能
第13回　現代文学・演劇と古典芸能
第14回　試験と解説

３．履修上の注意
・講義科目であるが、教員の説明を鵜呑みにして単純にその内容を記憶するのではなく、必ず各回の授業で取り上げるテーマについて自分なりに考えてみること。
・授業中は基本的に随時、質問等を受け付けるが、授業と無関係な私語は慎むこと。授業の妨げとなるような行為をおこなう者には即座に退室を命じ、以後の授業への出席を認めない。
・授業資料は事前にクラスウェブに掲載するので、各自のPC・タブレット等にダウンロードあるいは印刷して授業中に参照できるようにすること。授業の内容上、資料の分量が多くなるので、スマホ画面での閲覧はあまり勧めない。
・各回の授業時に課題（授業中に指示する）、質問・コメント等を提出すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回の授業資料は事前にクラスウェブに掲載するので、各自で予習をおこなうこと。また授業の不明点については授業中に、またはクラスウェブを通じて質問をするなどして明確にし、復習をおこなうこと。

５．教科書
使用しない。各回の資料は事前にクラスウェブに掲載する。

６．参考書
松田存『近代文学と能楽』朝文社、1991年
神山彰・児玉竜一編『映画の中の古典芸能』森話社、2010年
大橋崇行『落語と小説の近代　文学で「人情」を描く』青弓社、2023年
ほか適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時および授業後にリアクションペーパー、クラスウェブ等を通して提出された質問･コメント等については､次回以降の授業内で適宜紹介し､フィードバックをおこなうほか、必要に応じてクラスウェブ上で回答する。最終回は前半に試験をおこない、後半は試験内容の解説に充てる。

８．成績評価の方法
各回の課題等の提出50%、試験50%
なお、単に授業に出席するだけでは評価の対象とはならないので、当然ながらすべての回の授業に出席しても、授業の受講態度や理解度が不十分である場合は単位を修得できない場合がある。

９．その他
心身の条件等により受講に際して特別の配慮を希望する場合には、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへご連絡いただければ、授業準備の段階から各自の事情に応じた対応を検討することが可能です。
なお、授業資料には原則としてUDフォントを使用し（既刊書籍からのコピー等は除く）、PDFファイルの形式で事前にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(IC)LIN331J

日本文化論Ｂ

２単位	３年次	日置　貴之

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
日本の都市は近世に本格的に誕生し、近代に大きく発展してきた。都市は、江戸時代から今日に至るまで、文学、演劇、映画、音楽、絵画、漫画といった表象芸術の中に描かれてきた一方、都市自体が新たな文化を生み出す装置としても機能してきた。たとえば、近世（江戸時代）の都市においては交通・流通や貨幣経済の発展の中で、人々の感覚にも変化が生じていった。そうした社会のありさまは、やはり都市において花開いた出版メディアや演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃等）において描かれ、広く流布していった。
また、明治期以降には中央集権化と工業化の中で、地方から多くの人々が東京を初めとする大都市へと移動していった。そのようにして発展した近代都市は、さまざまな芸術の揺籃ともなり、また「上京」は文化的にも重要な意味合いを持つ現象となっていった。
本講義では近世から近代期のさまざまな文化・芸術について実例を取り上げながら、都市と文化・芸術とが相互に影響を与えつつ発展してきたさまを見ていく。
【到達目標】
文化・芸術について、個々の作品や事象が生まれる背景等を踏まえた上で考察し、自分なりの考えを持つことができるようになる。

２．授業内容
第１回　イントロダクション～都市の成立
第２回　近世都市と出版
第３回　近世都市と経済
第４回　近世都市と怪談～累と四谷怪談
第５回　近世都市と芸能～都市と芝居小屋
第６回　「名所」という感覚～歌川広重『名所江戸百景』
第７回　都市と明治維新～駿河台界隈と文明開化
第８回　近代建築と文化
第９回　都市と立身出世～「上京」という現象と都市の暗部
第10回　森鷗外と「散歩」
第11回　阪神間文化と関東大震災
第12回　都市と映画
第13回　都市と博覧会・五輪
第14回　試験と解説

３．履修上の注意
・講義科目であるが、教員の説明を鵜呑みにして単純にその内容を記憶するのではなく、必ず各回の授業で取り上げるテーマについて自分なりに考えてみること。
・授業中は基本的に随時、質問等を受け付けるが、授業と無関係な私語は慎むこと。授業の妨げとなるような行為をおこなう者には即座に退室を命じ、以後の授業への出席を認めない。
・授業資料は事前にクラスウェブに掲載するので、各自のPC・タブレット等にダウンロードあるいは印刷して授業中に参照できるようにすること。授業の内容上、資料の分量が多くなるので、スマホ画面での閲覧はあまり勧めない。
・各回の授業後に課題（授業中に指示する）、質問・コメント等を提出すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回の授業資料は事前にクラスウェブに掲載するので、各自で予習をおこなうこと。また授業の不明点については授業中に、またはクラスウェブを通じて質問をするなどして明確にし、復習をおこなうこと。

５．教科書
使用しない。各回の資料は事前にクラスウェブに掲載する。

６．参考書
岡崎武志『上京する文学　春樹から漱石まで』ちくま文庫、2019年
佐藤忠男『映画の中の東京』平凡社ライブラリー、2002年
高田衛『増補版　江戸の悪霊祓い師』角川ソフィア文庫、2016年
前田愛『幻影の街 文学の都市を歩く』岩波現代文庫、2006年
前田愛『幻影の明治』岩波現代文庫、2006年
松山恵『都市空間の明治維新』ちくま新書、2019年
横山百合子『江戸東京の明治維新』岩波新書、2018年
吉見俊哉『博覧会の政治学 まなざしの近代』中公新書、2010年
ほか適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時、授業後にリアクションペーパー、クラスウェブ等を通して提出された質問・コメント等については、次回以降の授業内で適宜紹介し、フィードバックをおこなうほか、必要に応じてクラスウェブ上で回答する。最終回は前半に試験をおこない、後半は試験内容の解説に充てる。

８．成績評価の方法
各回授業時の課題等の提出50%、試験50%
なお、単に授業に出席するだけでは評価の対象とはならないので、当然ながらすべての回の授業に出席しても、授業の受講態度や理解度が不十分である場合は単位を修得できない場合がある。

９．その他
心身の条件等により受講に際して特別の配慮を希望する場合には、履修を検討している際にでも、また履修登録後にでも、hioki@meiji.ac.jpへご連絡いただければ、授業準備の段階から各自の事情に応じた対応を検討することが可能です。
なお、授業資料には原則としてUDフォントを使用し（既刊書籍からのコピー等は除く）、PDFファイルの形式で事前にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(IC)CUL321E

比較文学・比較文化ＡⅠ

２単位	３年次	佐々木　由美

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
The aim of this course is to introduce basic concepts of communication and intercultural communication. Students will explore what culture is and how it shapes communication styles and interaction patterns. In addition, the course provides an overview of major classical and modern theories for understanding emotions, including the theory of basic emotions. It encourages discussion of how these theories help explain emotions across cultures. Through the discussions, the course examines how people from different cultural backgrounds communicate and how cultural differences influence their emotions.
【到達目標】
1. To understand basic concepts of culture and intercultural communication.
2. To examine classical and modern theories of emotion in order to understand what emotions are.
3. To explore both cultural and universal aspects of emotion.

２．授業内容
Class 1
Course orientation.
Introduction to the course: What is culture? Why study intercultural communication?

Class 2
Introduction to intercultural communication.
Discussion of culture and cultural diversity.

Class 3
Group discussion on students' cultural backgrounds.
Examination of key elements influencing cultural background.

Class 4
Cultural background and identity (continued).
Discussion of beliefs, values, ways of thinking, and behavior.

Class 5
Introduction to the study of emotion.
Emotion, Chapter 3: Culture and Emotion.

Class 6
Emotion, Chapter 3: Culture and Emotion (continued).
Textbook presentations and discussion.

Class 7
Midterm presentations (Part 1).

Class 8
Midterm presentations (Part 2).

Class 9
Emotion and culture: key concepts and issues.
Textbook presentations and group discussion.

Class 10
Emotion, Chapter 1: Classical theories of emotion.

Class 11
Emotion, Chapter 1: Classical theories of emotion (continued).

Class 12
Emotion, Chapter 1: Modern theories of emotion.
Integration of theoretical perspectives.

Class 13
Emotion and culture: theoretical and applied perspectives.
Discussion based on student presentations.

Class 14
Final in-class exam

３．履修上の注意
The course will be conducted in English. Students are expected to actively participate in discussions and express their ideas.

４．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are required to read the textbook packet in advance in order to prepare for class discussions. After each class, they are also expected to review the textbook packet and other required materials.

５．教科書
Please purchase a printed course packet containing selected chapters from the following two textbooks in the first class.
Shiota, N. M., & Kalat, W. J. (2018). Emotion (3rd ed.). Oxford University Press.
Barrett, L. F. (2017). How Emotions Are Made. Macmillan.

６．参考書
Reference materials will be made available on the course platform after the semester begins.

７．課題に対するフィードバックの方法
All assignments and tasks will be evaluated and shared individually with each student via the course platform, Oh-o! Meiji.

８．成績評価の方法
1. Attendance (10%) and active participation (10%): 20%
2. Assignments: 20%
3. Mid-term presentation exam: 20%
4. Textbook presentation: 20%
5. Final in-class exam　20%

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL321E

比較文学・比較文化ＡⅡ

２単位	３年次	佐々木　由美

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
The aim of this course is to examine basic and universal emotions as well as cultural differences in emotion. This course primarily reviews the theory of psychological constructionism and discusses the relationship between culture and emotion from this perspective. The course also focuses on how certain emotions are perceived differently across cultures and how emotions are expressed and regulated in specific cultural contexts.
【到達目標】
1. To deepen understanding of basic concepts of culture and intercultural communication through discussion.
2. To critically examine classical and modern theories of emotion in order to develop a deeper understanding of what emotions are.
3. To understand the theory of psychological constructionism and to discuss the relationship between culture and emotion from this theoretical perspective.

２．授業内容
Class 1
Course orientation.
Introduction to the course: What is culture? Why study intercultural communication?

Class 2
Introduction to intercultural communication.
Discussion of culture and cultural diversity.

Class 3
Group discussion on students' cultural backgrounds.
Examination of key elements influencing cultural background.

Class 4
Cultural background and identity (continued).
Discussion of beliefs, values, ways of thinking, and behavior.

Class 5
Introduction to the study of emotion.
Emotion, Chapter 3: Culture and Emotion.

Class 6
Emotion, Chapter 3: Culture and Emotion (continued).
Textbook presentations and discussion.

Class 7
Mid-term presentation exam (Part 1).

Class 8
Mid-term presentation exam (Part 2).

Class 9
Emotion, Chapter 1: Modern theories of emotion.

Class 10
Emotional expression and communication.
Emotion, Chapter 5: Emotional expression in the face.

Class 11
Mid-term presentation rehearsal.
Discussion of presentation structure and visual aids.

Class 12
Mid-term presentation exam.

Class 13
How Emotions Are Made, Chapter 7: Emotions as social reality.
Emotion and culture from a constructionist perspective.

Class 14
Final in-class exam

３．履修上の注意
The course will be conducted in English. Students are expected to actively participate in discussions and express their ideas.

４．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are required to read the textbook packet in advance in order to prepare for class discussions. After each class, they are also expected to review the textbook packet and other required materials.

５．教科書
Please purchase a printed course packet containing selected chapters from the following two textbooks in the first class.
Shiota, N. M., & Kalat, W. J. (2018). Emotion (3rd ed.). Oxford University Press.
Barrett, L. F. (2017). How Emotions Are Made. Macmillan.

６．参考書
Reference materials will be made available on the course platform after the semester begins.

７．課題に対するフィードバックの方法
All assignments and tasks will be evaluated and shared individually with each student via the course platform, Oh-o! Meiji.

８．成績評価の方法
1. Attendance (10%) and active participation (10%): 20%
2. Assignments: 20%
3. Mid-term presentation exam: 20%
4. Textbook presentation: 20%
5. Final in-class exam　20%

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL321J

比較文学・比較文化ＢⅠ

２単位	３年次	関口　裕昭

１．授業の概要・到達目標

「ウィーン・モデルネの都市空間における文学・芸術」

一般に「ウィーン世紀末」と呼ばれているウィーン・モデルネを中心に、19世紀の半ばから20世紀の半ばにかけてウィーンの都市空間で展開した文学・美術・音楽・建築・科学を多角的に考察します。随所に比較文化的考察を取り入れ、日本文化との比較（たとえばジャポニズムなど）も行います。これまでウィーンに関心がなかったという人も、受講後には一つの都市に対する全体像が浮かび上がり、それをもとに自分が住む日本の都市との比較考察ができるようになるでしょう。

ヨーロッパ近代文化史の基礎的な知識、都市空間から文化を考察する方法、および比較文学・文化研究の基礎を身につけることを目標とします。

２．授業内容

第１回　イントロダクション―都市ウィーンの歴史
第２回　近代ウィーンの都市空間の展開（市壁の除去とリング通り開通、および建築ラッシュを中心に）
第３回　ウィーン世紀末の文学①－ホフマンスタールとアルテンベルク（「公園／庭園」という都市空間に注目して）
第４回　ウィーン世紀末の文学②―シュニッツラーと情愛の文学
第５回　ウィーンのカフェ文化めぐり（えり抜きのウィーンカフェ10選を紹介）
第６回　ジークムント・フロイト―精神分析の開拓者
第７回　グスタフ・マーラー―サウンドスケープと音楽（『交響曲第5番』ほか）
第８回　アルノルト・シェーンベルク―無調の世界へ（「月に憑かれたピエロ」）
第９回　グスタフ・クリムト―黄金の絵画・ジャポニズム・風景画
第10回　クーデンホーフ光子の生涯―世紀末ウィーンにさまよい込んだ日本人
第11回　ウィーン・プラーター 250年①―公園・草原・娯楽場（モーツァルトからシュティフターまで）
第12回　ウィーン・プラーター 250年②―世界崩壊への序曲（ユダヤ人とプラーター）
第13回　建築の世界―アドルフ・ロースとオットー・ヴァーグナー―装飾と犯罪
第14回　まとめ
(内容は変更することがあります)

３．履修上の注意

初回を含め、10回以上出席しないと単位は取得できません。
講義中の私語・飲食は厳禁、またスマホなどの使用を認めません。
大学の勉強において自分でノートを取ることは重要です。その練習をしましょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う作品などをあらかじめ読んでおくと、理解がいっそう深まります。

５．教科書

毎回プリントを配布します。オンライン授業の場合はパワーポイントで講義をします

６．参考書

特に定めませんが、カール・ショスキー『世紀末ウィーン　政治と文化』がこのテーマに関するスタンダードな文献となっています。またトールミンとジャニク共著の『ヴィトゲンシュタインのウィーン』、W・M・ジョンストンの『ウィーン精神』も重要でです。手軽なアンソロジーとしては岩波文庫の『ヴィーン世紀末文学選』(池内紀編訳)を勧めます。他にもたくさんありますので、授業で紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜指示します。

８．成績評価の方法

授業への参加度と平常点40％（４回以上の欠席は失格。随時小レポートを書いてもらいます）、学期末レポート60％

９．その他

科目ナンバー：(IC)CUL321J

比較文学・比較文化ＢⅡ

２単位	３年次	関口　裕昭

１．授業の概要・到達目標

「ドッペルゲンガー（Doppelgänger――文学と映画における「分身」のイメージの変遷」

あなたはもう一人の自分(分身)を見たことがありますか？

この講義では、ドッペルゲンガー（分身）をテーマにした欧米文学と日本文学を比較しながら、その背景にある諸問題を考察します。またこのテーマを双子、影、多重人格、パラレルワールドなど、より広い視点からとらえ直し、心理学的分析を加えます。さらに文学のみならず映画、音楽、漫画、美術などにもその例を探し、紹介します。

比較文学・比較文化における基本的な概念の理解、分析の手法だけでなく、ヨーロッパ文学の歴史と作品分析の方法を学びます。同時に文学と周辺諸ジャンルとの比較研究の基本的な方法を身につけることを目標とします。

受講者には多くの文献を読み、映像作品を鑑賞することが求められます。また講義をただ受け身で聴くだけでなく､自ら問題を発見し､それを解こうとする積極性も求められます。この講義を履修することによって､「分身」のテーマは複製技術時代を生きるわたしたちの周囲に存在し、この問題に対するアプローチの仕方(たとえば「オリジナルとコピー」への問題意識と対処)は、さまざまに応用可能なことが理解されるようになるでしょう。

２．授業内容

第１回　イントロダクション――ドッペルゲンガーとは何か （映画分析①『影を殺した男』（原作ポー））
第２回　ドイツロマン派における分身像――ジャン・パウル、ホフマン、シャミッソー
第３回　欧米文学における分身像の展開――ポー、ゴーゴリ、スティーブンソン、ドストエフスキーほか
第４回　映画分析②『ジキル博士とハイド氏』
第５回　ユダヤ系文学と分身像――ハイネ、ヴェルフェル、エーヴェルス、ツェランほか
第６回　日本文学における分身①――芥川龍之介、梶井基次郎、谷崎潤一郎、三島由紀夫ほか
第７回　日本文学における分身②――遠藤周作、山本文緒、東野圭吾、村上春樹ほか
第８回　多重人格と分身――心理学的考察（ユング心理学の応用）
第９回　ＳＦにおける分身とパラレル・ワールド
第10回　映画分析③（作品未定）
第11回　マンガ・アニメにおける分身像のひろがり
第12回　拡大するドッペルゲンガー現象――音楽、絵画、社会現象における分身像
第13回　まとめと展望　映画分析④(作品未定)
第14回　質疑応答
(内容は変更することがあります)

３．履修上の注意

講義中の私語･飲食は厳禁、またスマホなどの使用を一切認めません。折にふれて提出する小レポートや学期末レポートにおいて、コピペはもちろん、生成AIの利用も禁じます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

講義で扱った文学作品を読んだり、映画をDVDなどで鑑賞することが求められます。

５．教科書

授業ではパワーポイントを用い、随時プリントを配布します。

６．参考書

講義で紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜指示します。

８．成績評価の方法

授業への参加度40％（４回以上の欠席は失格。ただし就職活動や病欠などには一定の理解を示します）、学期末レポート60％

９．その他

科目ナンバー：(IC)DES341J

ユニバーサルデザイン

２単位	３年次	**中和　正彦**

１．授業の概要・到達目標

ユニバーサルデザイン（以下ＵＤ）とは，年齢・性別・障害の有無などに関わりなく，すべての人に使いやすいように製品や環境を設計することです。1980年代半ばに提唱されたその考え方は、今日，サービスや情報などの無形のものにも及び､類似する「バリアフリー」「アクセシビリティ」「インクルーシブデザイン」等とともに､「誰ひとり取り残さない」社会づくりにつながる考え方です。この科目では，UDが視野に収める利用者の多様性，UDの具体的な取り組みと課題，UDの背景にある社会の変化などについて学んでいきます。

到達目標は次のとおりです。

(1) 社会的少数者の多様な特性やニーズについて説明できる。
(2) UDの基本的な考え方、具体的な取り組みの現状と課題について説明できる。
(3) UDについて大きな社会の変化の中に位置づけて説明できる。

２．授業内容

第１回：授業の概要説明，UDと「障害」についての概要理解
第２回：利用者の多様なニーズ（1）障害者・高齢者の概要，視覚障害
第３回：利用者の多様なニーズ（2）聴覚障害，盲ろう，肢体不自由
第４回：演習「障害を負って復学，その時あなたの生活は？」，利用者の多様なニーズ（3）知的障害，精神障害
第５回：利用者の多様なニーズ（4）発達障害, その他の社会的少数者
第６回：演習の結果と実際の状況（1）自宅内
第７回：演習の結果と実際の状況（2）移動・交通，トイレ
第８回：演習の結果と実際の状況（3）授業, 外食, コミュニケーション
第９回：公共の場のUD（1）法整備と実際の動き
第10回：公共の場のUD（2）観光, 文化施設
第11回：情報環境のUD（1）情報コミュニーション機器
第12回：情報環境のUD（2）ウェブ，読書環境など
第13回：UD登場までの歴史とその後、今後の行方
第14回：講義全体の振り返り等

３．履修上の注意

特別な予備知識は必要ありませんが、日頃からUDに関連するニュースに関心を払ってください。授業でも適宜取り上げます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業内容に掲げている内容について、授業前に自分なりに少し調べてみてください。
また、毎回授業後にリアクションペーパー（授業内容に対する意見・質問受け付け、知識確認テストなど）の提出を求め，その一部について次回授業の冒頭で取り上げ、前回授業内容の確認や発展を図ります。これを前回授業の記録（ノート等）に書き加えてまとめ、改めて復習を図ってください。

５．教科書

特にありません。レジュメを配布します。

６．参考書

『改訂版 情報社会のユニバーサルデザイン』広瀬洋子・関根千佳編著（放送大学教育振興会 2019年刊）

７．課題に対するフィードバックの方法

・上記の通り、毎回授業後にリアクションペーパーの提出を求め，その一部について次回授業の冒頭でフィードバックを行います。
・演習に関しては，結果をまとめて履修者全体で共有し，それを踏まえて実際の取り組み事例へと話を進めます。
・他にも時間に応じて小課題も予定しており，これも結果を全体で共有して検討を加えます。

８．成績評価の方法

リアクションペーパーは，次回授業でのフィードバックによって他の履修者の学習への貢献ともなるもので、成績評価の上で重視します。これに演習や小課題を加えて平常点とします。この他に期末レポートの提出を求めます。
平常点（80%）、レポート課題（20%）

９．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)PHL121J

倫理学

２単位	３年次	**横山　　陸**

１．授業の概要・到達目標

【授業概要】
「倫理」と聞くと、古くさい「道徳」や「お説教」をイメージする人も多いかもしれませんが、むしろ倫理学はそうした既成の「お説教」や「道徳常識」を批判的（＝論理的に）に問い直していく学問です。講義では、障がい者差別、伝統文化、動物愛護、尊厳死・安楽死、中絶、女性差別、研究倫理、リサイクル、環境保護などの社会問題を取り上げながら、平等、自由、義務、権利、人格、尊厳、幸福、共感といった倫理学の基本概念について学んでいきます。専門的な用語を使うならば、応用倫理の様々なテーマを取り上げながら、規範倫理の基本について学ぶ、ということになります。

【到達目標】
（１）倫理学の基本的な概念や理論を理解し、自らの言葉で説明できる。
（２）それらの概念や理論を応用して、社会の諸問題を分析できる。

２．授業内容

第01回　なぜ倫理学が必要なのか？－道徳が暴力になるとき（イントロ）
第02回　障がいと差別―平等と多様性について考える
第03回　クジラを食べては、かわいそう？―動物倫理１
第04回　フライドチキンの値段と動物の福祉―動物倫理２
第05回　生命に尊厳はあるのか？―動物倫理３
第06回　安楽死と尊厳死―生命倫理１
第07回　自己決定はどこまで許されるのか？―生命倫理２
第08回　出産は義務か？権利か？―生命倫理３
第09回　中絶と障がい―生命倫理４
第10回　フェミニズムと中絶、幹細胞研究―生命倫理５
第11回　リサイクルが重荷となる日―環境倫理１
第12回　エコロジーを哲学する―環境倫理２
第13回　人間中心主義で何が悪いのか？―環境倫理３
第14回　まとめ（予備日）

３．履修上の注意

倫理学は､道徳を批判的（＝論理的に）に吟味し再検討する学問です。履修者には、自分のもっている道徳観・宗教観・価値観を相対化して講義に臨むことを求めます。たんに自分の道徳観・宗教観・価値観と違うから「受け入れられない」「ダメだ」ではなく、論理的にどこが問題なのかを考える姿勢が必要です。履修にあたって専門知識は前提としません。なお、講義および教員の姿勢は、民主主義の基本である個人の自由と人権の尊重を前提とします。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でリアクション・ペーパーの課題（200 ～ 800字以内）を設定しますので、次回の授業までに提出して下さい。
提出方法については第１回目の授業で説明いたします。

５．教科書

なし

６．参考書

授業内で紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーには、内容次第で、こちらからもリアクションします。
また､氏名を伏したかたちで､全体に向けて紹介することもあります。

８．成績評価の方法

期末試験１００％
ただしリアクション・ペーパーの提出回数が講義回数の３分の２を満たない者は成績対象から除外します。

９．その他

人間と環境

科目ナンバー：(IC)MAN321J

意思決定論Ａ（意思決定論Ⅰ）

２単位	３年次	**熊田　　聖**

１．授業の概要・到達目標
人は、生活していく中で、いろいろな問題に直面します。
そして、意思決定することにより、問題を解決します。この問題を解決する方法には、2通りあります。一つは規範的方法（Normative Approach)、もう一つは叙述的方法（Descriptive Approach）です。
　本講義では、規範的方法を扱いますが、規範的手法の習得を最終目標とはしていません。
まず初めに基本的手法を理解し、それによる事例分析能力を身に付けます。
それにより、規範的手法の限界について思考できるようになります。
更には、自分自身の意思決定における選択肢について、論理的・合理的思考と、人間にとっての知性という両面から、自分自身で再検討できるようになることを目指しています。
　また、毎回グループワークを主体とした学習方法を採用しており、相互依存的意思決定を体験し、交渉力の強化も目指します。
授業形態　＜ハイブリッド型＞

２．授業内容
第１回：イントロダクション、教科書　プロローグ・Part1 1章〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第２回：教科書　Part3　1章情報の質、楽観と悲観、Part2　1章自分の記憶は事実？、ディスカッショングループ決定
第３回：教科書　Part1　3章ディシジョンツリー決定分析・情報の価値〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第４回：教科書　Part3　3章PERT
第５回：教科書　Part3　4章プロダクトライフサイクル､ポートフォリオ〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第６回：教科書　Part3　5章システム分析、教科書　Part4　6章 p.154 人間は失敗する存在
第７回：教科書　Part3　6章財務決定分析・損益分岐点〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第８回：教科書　Part3　7章在庫分析
第９回：教科書　Part3　8章伝えられないこと？〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第10回：特権ゲーム、教科書　プロローグ
第11回：教科書　Part２　4章正しさ〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第12回：教科書　Part１　2章肉体の傷と精神の傷は独立している？
第13回：教科書　Part１　3章全員の人生に普遍的に通用する「人生の意味」を探すことの意義とは？〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第14回ａ：期末試験レポート：考えることが大変だという理由から、自分で考えることを止めた先にあるのは？
　　ｂ：講義全体のまとめ、教科書　Part２　1章

３．履修上の注意
この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。
週に２コマの授業を、対 面形式とオンデマンド形式にて実施します。
オンデマンド形式により実施する回については、学期の初めにOh-olMeijiを通じて授業動画を配信します。
課題の提出締め切りは、次回の対面授業の日のある週の火曜日、昼の12時までです。
例えば、３回目の課題提出の締め切り日は、４回目の授業のある週の火曜日になります。
グループディスカッションがあります。レポートの提出が平常点となります。
また、授業に対するコメントは、「ディスカッション欄」を利用し、意見交換の場を設ける場合もあります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
　授業は第１部、第２部等に分かれていますが、数字の小さい順番に学習を進めましょう。

５．教科書
　使用する教科書は、以下の通りです。
著者　熊田聖
書名　意思決定論理　思考するということー会計ルールの逆転と共感
出版社　泉文堂
「意思決定科学」とは内容が異なりますので、気を付けてください。

６．参考書
授業の中でその都度紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。
課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。

８．成績評価の方法
平常点　４０％、レポート課題４０％、定期試験レポート２０％

９．その他

科目ナンバー：(IC)MAN321J

意思決定論Ｂ（意思決定論Ⅱ）

２単位	３年次	**熊田　　聖**

１．授業の概要・到達目標
　本講義では、基本的交渉理論の理解、それに基づく事例分析能力の獲得を目指します。
相手のある思考におけるwell-beingの追求とも言えます。
また、グループワークを主体とした学習方法を採用しており、相互依存的意思決定を体験し、交渉力の強化も目指します。
授業形態（Class Type）
　＜ハイブリッド型＞

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
第１回：イントロダクション、教科書　Part４　1章　交渉の構造〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第２回：教科書　Part４　1章　交渉とは?、ディスカッショングループ決定
第３回：教科書　Part４　2章　7つの視点　1）－4)〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第４回：教科書　Part４　2章　7つの視点　5)、教科書　Part１　2章　思考は脳の中だけ？
第５回：教科書　Part４　2章6相互関係バランス理論　90-10の原理　7落とし所〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第６回：教科書　Part４　3章　交渉の戦略
第７回：教科書　Part４　3章　交渉の戦略　事例　休暇　4章交渉決裂〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第８回：教科書　Part４　4章交渉決裂：知覚を邪魔するもの
第９回：教科書　Part４　4章交渉決裂への対処〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第10回：教科書　Part４　5章　対立に終結はあるのでしょうか、教科書　Part２記憶は変化する
第11回：教科書　Part２　1章脳が共感する頻度を減らした理由、 Part２　5章共感が行動に現れる？〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第12回：教科書　Part４　6章　利害関係者
第13回：教科書　Part４　6章、期末試験レポート〔メディア授業（オン デマンド型)〕
第14回ａ：期末試験レポート解説
　　ｂ：講義全体のまとめ、教科書　Part２　3章聞く技術の感度を向上させるためには？、Part４　6章　意思決定における想像力と創造する勇気

３．履修上の注意
この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。
週に２コマの授業を、対 面形式とオンデマンド形式にて実施します。
オンデマンド形式により実施する回については、学期の初めにOh-olMeijiを通じて授業動画を配信します。
次回の対面授業の日までに必ず受講しましょう。
グループディスカッションがあります。
レポートの提出が平常点となります。
また、授業に対するコメントは、「ディスカッション欄」を利用し、意見交換の場を設ける場合もあります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
　授業は第１部、第２部等に分かれていますが、数字の小さい順番に学習を進めましょう。

５．教科書
著者　熊田聖
書名　意思決定論理　思考するということー会計ルールの逆転と共感
出版社　泉文堂
「意思決定科学」とは内容が異なりますので、気を付けてください。

６．参考書
日本交渉学会編集「交渉学ハンドブックー理論・実践・教養」東洋経済新報社など、
授業の中でその都度紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法
前回までの学生からのコメントに関し、授業の中で適宜解説していきます。
課題に関しては、締め切り当日あるいは次週の対面授業、あるいは個人あてにコメントします。

８．成績評価の方法
平常点　４０％、レポート課題４０％、定期試験レポート２０％

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM331J

異文化間コミュニケーション

２単位	３年次	**根橋　玲子**

１．授業の概要・到達目標

日本は人口減の局面を迎え、国内における外国人の存在感はますます増している。国際結婚や留学、仕事など、様々な理由により来日した外国人の中には、永住資格や日本国籍を取得する者もおり、定住化が進んでいる。また、日本国籍を持ったり日本人名を名乗りながらも、外国にルーツを持つ人も増えている。

本授業では、日本の多文化共生社会を目指すこれまでの取り組みや流れを他の国々と比較しつつ、外国人受け入れの現状を結婚･雇用･教育といったトピックから理解することを目標とする。また授業では、トピックにまつわるアクティビティやディスカッションなどアクティブラーニングの手法で学ぶ。本授業を履修することで、異なる文化背景を持つ人々とのコミュニケーションや多文化社会におけるシティズンシップについてより学びが深まるだろう。

２．授業内容

第１回　ガイダンス／異文化間コミュニケーションとは・多文化共生とは
第２回　多文化共生と価値観
第３回　文化とステレオタイプ１
第４回　文化とステレオタイプ２
第５回　日本の中の外国につながる人々
第６回　日本で働く外国につながる人々
第７回　外国につながる子どもたちと教育１
第８回　外国につながる子どもたちと教育２
第９回　多文化共生と公正
第10回　多文化共生政策
第11回　私たちの多文化共生
第12回　プレゼンテーション１
第13回　プレゼンテーション２
第14回　全体ディスカッション

３．履修上の注意

2026年度の本授業は、対面型の通常形式での実施です。
履修人数によっては、プレゼンテーションの日程を変更します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

講義では、次回授業までに取り組む課題を指示しますので、準備をして次回授業に参加してください。

５．教科書

なし　必要な資料は授業内に適宜配布します。

６．参考書

加賀美常美代編（2013）『多文化共生論』明石書店
宮島喬・佐藤成基・小ケ谷千穂（編）（2015）『国際社会学』有斐閣

７．課題に対するフィードバックの方法

授業でのリアクションペーパーのフィードバックは採点後、Oh-meijiもしくは教室内で返却します。
いくつかのコメントについては、授業内で取り上げて、ディスカッションや解説などを行います。

８．成績評価の方法

授業参加とリアクションペーパー　50%
グループプロジェクト　50%

９．その他

科目ナンバー：(IC)STS331J

科学技術と人間

２単位	３年次	**愼　　蒼健**

１．授業の概要・到達目標

本授業の大テーマは、「先端科学技術と生命・身体」である。授業では大きく３つの領域を扱う。
(1) 脳死・臓器移植
(2) 再生医療・遺伝医療
(3) サイボーグ技術
どのような科学技術も、光と影の両面を持っている。例えば、(1) では臓器提供を受けたクライアント。(2) では染色体異常の出生前診断を行うカップル。(3) では自由自在に動かすことが可能なバイオニック･アーム（義手）を身につけた障害者。こうした人々にとって、テクノロジーは幸福や利益をもたらす存在であろう。一方、(1) では「脳死」と判定され臓器を摘出されたドナー、(2) には出生前診断の結果により中絶された胎児の存在があり、そこには失われていく命がある。また、(3) には人間の操作可能性や障害に対する否定的人間観を指摘することもできる。
この授業は「先端医療技術の倫理」､「生命倫理」ではないことに注意を促しておきたい。倫理的検討は重要である。しかし、この授業が目指しているのは、それだけでなく、科学的検討、歴史的検討、文明論的検討も試みる。つまり、生命科学技術の何が問題なのか、その点について徹底的に、あらゆる知と技法を動員して、炙り出すのが目的である。

２．授業内容

第１回　イントロダクション
内容：脳死・臓器移植、遺伝医療、サイボーグ技術を通して問おうとしていることを理解する。
第２回　脳死・臓器移植（1）－基本事項の確認
内容：その歴史的経緯、脳死とは、脳死判定基準など、基本事項を理解する。
第３回　脳死・臓器移植（2）－脳死への生物学的・医学的批判
内容：脳死の問題点、蘇生限界点、脳低温療法、長期脳死などについて資料映像を用いて理解する。
第４回　脳死・臓器移植（3）－臓器移植の問題点
内容：臓器移植後の生存率、臓器提供への同意、自己決定、ドナーの家族とレシピエント
第５回　脳死・臓器移植（4）－脳死・臓器移植の人間観・社会観
内容：パーソン論、知性と人格、交換可能な臓器
第６回　再生医療・遺伝医療（1）-遺伝に関する基礎
内容：私たちは遺伝に対してどれほどのリテラシーを持ち、判断を下しているのか。
第７回　再生医療・遺伝医療（2）－遺伝医療の現状と近未来
内容：予知医療の可能性／現実、出生前診断、発症前診断、受精卵診断など
第８回　再生医療・遺伝医療（3）－なぜ遺伝子の研究を行うのか
内容：遺伝子研究の歴史、アイスランドの事例、遺伝子調査の政治経済学
第９回　再生医療・遺伝医療（4）－遺伝子研究・人体実験の変化
内容：遺伝子研究を人体実験という角度から捉え、その変質を考える。
第10回　再生医療・遺伝医療（5）－再生医療の衝撃と人間への影響
内容：幹細胞治療、救世主兄弟
第11回　サイボーグ技術（1）－サイボーグ技術の基礎
内容：資料映像を使いながら、現在のサイボーグ技術について概観し、その現状を理解する。
第12回　サイボーグ技術（2）－サイボーグ技術の現在と問題点
内容：メガネ、電動車椅子、人工内耳、義手・義足、脳コンピュータインターフェース
第13回　サイボーグ技術（3）－正常化とエンハンスメントを考える
内容：治療とエンハンスメント、健常と障害の境界とは
第14回　サイボーグ技術（4）－ 正常化とエンハンスメントを考える
内容：プロメテウス的衝動、偶然と運命

３．履修上の注意

受講に際して医学･医療や科学の知識は必要としない。知識の有無ではなく、現代社会における先端科学技術のあり方について、とくに生命と身体の問題から考えてみたいという学生の受講を望む。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

特に予習は必要ない。ただし、参考文献を紹介するので、各自事前に文献を読んでおくとよい。復習だが、各領域終了時に小論文（600字程度）を課すので、その際に授業内容をまとめ考察を行うこと。また、授業内容の復習を兼ねて、数回の確認テスト（クイズのようなもの）を行う。

５．教科書

とくに定めない。ただし、授業用スライドはOh-o! Meijiから配布する。

６．参考書

授業中に適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

脳死臓器移植と遺伝医療に関する小論文は､授業内において全体講評を行う。

８．成績評価の方法

確認テスト及び小論文の提出状況（20%）と最終試験（80%）によって評価する。

９．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)SOC311J

家族社会学（家族社会学Ⅰ）

2単位	3年次	陳　　予茜

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

本授業では、家族を時間軸（古代から現代）と空間軸（日本から海外へ）に沿いながら、夫婦関係と親子関係といった二つの大きなテーマに分けたうえ、それぞれのテーマに関わる最も重要な内容と課題を取り上げ、紹介する。

また理論に止まらず、私たちの日常生活と密接する恋愛、結婚、子育て、介護などを取り扱い、国際的な比較を行ったり、自分の考えを文字化したりといった実践的なこともする。こうした作業を通して、家族の変容、実態、メカニズムはもちろんのこと、私たちが「当たり前」と考えている家族の諸像を問い直すことも可能である。

【到達目標】

・家族の形成原理およびその歴史的な変化を理解することができる。
・日本と海外の家族の共通点と相違点を見極める力を身につける。
・家族をとりまく制度や課題を説明でき、これまで自分が持っていた家族像を相対化することができる力。

2．授業内容

第1回：家族とは何か
第2回：日本の家族の歴史（1）
第3回：日本の家族の歴史（2）
第4回：海外の家族（1）東アジア
第5回：海外の家族（2）欧米
第6回：夫婦関係（1）恋愛と結婚
第7回：夫婦関係（2）DVと離婚
第8回：中間テスト
第9回：親子関係（1）前期親子関係
第10回：親子関係（2）中期親子関係
第11回：親子関係（3）後期親子関係
第12回：多様な家族のあり方
第13回：グローバリゼーションと家族
第14回：振り返りと期末テスト
※履修者数などにより、授業内容の一部を変更することがあります。

3．履修上の注意

特になし。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定資料または文献を予習しておきます。

5．教科書

特に指定なし。毎回の授業で講義資料を配布します。

6．参考書

必要に応じて適宜紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でリアクションペーパーを書き、提出する。その内容と質問については次回の授業でフィードバックします。

8．成績評価の方法

平常点（リアクションペーパー）：40%
期末レポート（授業内で実施）：60%

9．その他

特になし。

科目ナンバー：(IC)ENV331J

環境政策Ⅰ

2単位	3年次	杉野　綾子

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

環境政策が扱う範囲は幅広いが、前期には、現代の環境問題のなかでも関心の高い気候変動問題を取り上げる。気候変動が政策課題として認識されるに至った経緯や、気候変動対策をめぐる議論につきまとう科学的不確実性の問題、気候変動対策と衝突しがちなエネルギー政策について理解を深める。

【到達目標】

① 日本国内および国際社会における、気候変動対策をめぐる利害対立の構造を理解する。
② 気候変動問題に取り組む上で選択可能な様々な選択肢について理解する。
③ 優先されるべき取組みについて、自分なりの意見をもち、説明することができる。

2．授業内容

第1回
・導入（授業の進め方）
・気候変動問題とは何か
第2回～第7回
・気候変動が、どのようにして政策課題として浮上したのか
・気候変動対策を話し合う「場」について（気候変動枠組み条約、気候変動に関する国際パネル等）
・国際的な気候変動対策の経緯について（京都議定書およびパリ協定の、内容と評価）
・気候変動対策を巡る、国内の利害対立について
・「科学的不確実性」について
第8回～第13回
・エネルギー問題とは何か
・エネルギー資源及びエネルギー需要の特性
・エネルギー産業の活動と、気候変動への取組み状況
・「安定供給」以外の重要な論点（エネルギーアクセス、レジリエンス等）
第14回
・期末試験、授業の振り返り

3．履修上の注意

・気候変動問題を理解する上で必要な技術的な情報については、担当教員自身も技術畑ではないため、文系の学生にも充分に理解可能な説明を加えますが、わかりにくい場合には、随時質問を歓迎します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・各回の授業について、前週にキーワードを示すので、用語を検索して手に入る程度の情報を整理しておくことが望ましい。
・授業中に、「みなさんで考えてほしい論点」を提示する場合があります。履修者数にもよりますが、複数人のグループで議論していただくことを考えています。

5．教科書

・授業中に適宜配布または紹介します。

6．参考書

・授業中に適宜配布または紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

・授業中に示した論点について、グループ討論の結果を、時間的な余裕があれば発表機会を設けたいと思いますが、簡単なメモを提出していただく場合があります。
・メモに対する教員の考え、の形でフィードバックを行います。

8．成績評価の方法

・期末試験60%
・授業への参加40%（主にグループ討論への参加）

9．その他

学期後半に、後期に取り上げるトピックについて履修者の希望を聞く機会を設けたいと思います。

科目ナンバー：(IC)ENV331J

環境政策Ⅱ

2単位	3年次	杉野　綾子

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

後期は、可能な限り、履修者の関心に沿った内容の授業を行いたいと考えています。

環境政策Ⅰでエネルギー源別の特性や、エネルギー消費の段階（住宅、自動車、製造業等）の特性についても紹介予定ですので、例えば「原子力に関する諸問題」「電気自動車に関する諸問題」など。

なお、政策について深く理解するには、自ら調べ、考える事が最も効果的な学習方法ですので、後期は演習の要素を盛り込んでいきたいと考えています。

【到達目標】

① 対象のトピックについて、利害対立の構造を理解すること。
② 環境政策に不可欠な「リスクコミュニケーション」について、理解を深めること。
③ 「政策を分析する」こと、実証的な調べ物の仕方について、理解を深めること。

2．授業内容

第1回
・導入（授業の進め方）
・リスクコミュニケーションの考え方
第2回～第3回
・テクノロジーアセスメントとは何か
・グループワークのための班分け
第4回
・対象とするトピックについての概略説明
第5回～第7回
・グループ毎に、調査方針の決定、情報収集を行う。
・教員は随時アドバイスを行うとともに、適切な外部ヒアリング先等があれば紹介していきたい。
第8回（人数によって～第9回）
・中間報告、クラス全体での議論
第9回（第10回）～第13回
・調査結果の考察とレポートの組み立て
第14回
・授業の振り返り（グループワークの過程についての、気づきや反省点を相互発表）

3．履修上の注意

履修者数にもよりますが、グループワークを取入れていきたいと考えています。主体的に情報収集と議論を行うことが期待されます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

グループワークへの積極的な参加が望まれます。

5．教科書

・授業中に適宜配布または紹介します。

6．参考書

・授業中に適宜配布または紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

・各回の授業時に、作業の進捗に応じた助言を行う。

8．成績評価の方法

・グループワークの成果を、レポートとして提出する。
・その際、単に調べてきた成果と議論の結果だけでなく、グループはうまく運営できたか、各自が、自分なりの貢献をできたか、についても問うていきたい。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LIN311J

言語使用とディスコース（談話コミュニケーションⅡ）

2単位	3年次	坂本　祐太

1．授業の概要・到達目標

我々がことばを用いてコミュニケーションをとる際には、通例複数の文がまとまって使われますが、そこには普段我々が意識することのない規則性が存在しています。本講義では、言語学の下位分野である語用論や社会言語学の諸相を軸に、ことばが実際の場面でどのような意味を持ち、どのような働きをしているのか、具体的な事例（電話・広告・漫画・アニメ・ウェブサイト・雑誌・報道記事など）を取り上げながら考えます。

＜到達目標＞

・語用論と社会言語学の基本的な用語及び概念を理解する。
・談話分析の方法論を理解し、基本的な談話を分析できるようになる。
・自らが他者とコミュニケーションを取る際に、授業で得た知識を活かすことができるようになる。

2．授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション
第2回：発話行為（発話の機能）
第3回：協調の原理（会話のルール）
第4回：関連性理論<1>（発話の解釈）
第5回：関連性理論<2>（発話の解釈）
第6回：ポライトネス理論<1>（話し相手への配慮）
第7回：ポライトネス理論<2>（話し相手への配慮）
第8回：ポライトネス理論<3>（ことばとジェンダー）
第9回：非言語コミュニケーション（接近・視線・頭の動き）
第10回：会話分析・談話分析<1>（概要と方法）
第11回：会話分析・談話分析<2>（電話・世代差・男女差）
第12回：会話分析・談話分析<3>（広告・小説・漫画・アニメ）
第13回：批判的談話分析<1>（談話に隠された思惑：ウェブサイト・雑誌）
第14回：批判的談話分析<2>（談話に隠された思惑：報道記事）
※　授業の進度・内容は必要に応じて適宜調整されます。

3．履修上の注意

毎回授業後にリアクションペーパーを提出していただきます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業でとったノートや配られるプリントをもとに、授業外で復習を行ってください。また、講義内で適宜レポートの主題になりうるトピックを提示するので、興味のあるトピックに関しては，レポート執筆に向けて適宜調べたり考えたりしておくこと。

5．教科書

教科書は使用せず、教員が作成した資料を使います。

6．参考書

『ディスコース―談話の織りなす世界』橋内武著（くろしお出版）
『談話分析の可能性―理論・方法・日本語の表現性』泉子・K・メイナード（くろしお出版）

7．課題に対するフィードバックの方法

講義内で課題に対するフィードバックを行う時間を設ける。

8．成績評価の方法

レポート（50%）、授業への取り組み（50%）

9．その他

1・2年次に「言語学」の授業を履修していることが望ましいですが、履修していない方にも分かるような講義を心がけます。
公欠やその他の事情による欠席は、事前相談のものだけ考慮します。
「ことば」に興味のある方は、文学部開講の「社会言語学」「語用論」「音韻論・形態論」「心理言語学」及び「英語学研究A/B（石井透先生担当：統語論）」を併せて履修すると理解が深まります。

科目ナンバー：(IC)SOC321J

コミュニケーション思想史

2単位	3年次	宮本　真也

1．授業の概要・到達目標

思想史という学問は、文字通り歴史のうちの一つである。しかし、歴史はほとんどの場合、特定の「観点」から描き出される。本講義においては、コミュニケーションについていかなる考え方、理想が現在にいたるまで、どのように展開されてきたのかを追ってみたい。それゆえ、コミュニケーション手段、技術などの実際の発展を記述する歴史（「コミュニケーション史」あるいは「メディア史」）とはいささか異なっている。しかし、他方でそれぞれのテーマがどのような歴史的文脈に位置付くかについて、背景となる歴史的事象の考察・確認も不可欠である。コミュニケーションについての多様な理解を、様々な分野から学び、人間のコミュニケーションの持つ機能と意味を社会学的、心理学的、哲学的に考察することを目指したい。

2．授業内容

第１回　コミュニケーションとは？
第２回　転移のコミュニケーションⅠ　恋愛について
　ジークマント・フロイト
第３回　転移のコミュニケーションⅡ
第４回　自我のコミュニケーションⅠ
　ジョージ・ハーバード・ミード
第５回　自我のコミュニケーションⅡ
第６回　意味と解釈をめぐるコミュニケーションⅠ
　シンボリック相互作用論－ハーバート・G・ブルーマー
第７回　意味と解釈をめぐるコミュニケーションⅡ
第８回　身体加工のコミュニケーションⅠ
　「私」の「身体」への意図的な介入
第９回　理性のコミュニケーションⅠ　コミュニケーション的行為の理論
　ユルゲン・ハーバーマス
第10回　理性のコミュニケーションⅡ
第11回　社会的に認めること／認められることのコミュニケーションⅠ
　アクセル・ホネット
第12回　社会的に認めること／認められることのコミュニケーションⅡ
第13回　公共圏とコミュニケーションⅠ
第14回　公共圏とコミュニケーションⅡ
（進度などに合わせてテーマを変更することがある）

3．履修上の注意

コミュニケーションという一般概念の中にある矛盾と相容れない諸傾向を把握し、それらをどのように専門的に扱うべきかを共に考えてみたい。講義の中でそのつど適切な参考文献をあげることにする。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

以下に示す教科書の該当する章を予習、復習することがのぞましい。

5．教科書

伊藤公雄編『コミュニケーション社会学入門』、世界思想社、2010年。なお、この文献については明治大学図書館の電子ライブラリーで無料でダウンロードや、購読が可能であるので、電子版を使うことが望ましい。

6．参考書

必要に応じて、授業時に紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

メールや事後的に授業内でコメントを返すこととする。
使用するメールアドレスについては、最初の授業で告知する。

8．成績評価の方法

定期試験（あるいはレポート）：70%　（学期中に告知する）
リアクションペーパーなどの課題：30%　（Oh-o! Meijiと紙の用紙を併用）

9．その他

特になし。

科目ナンバー：(IC)LIN311J

自然言語の生成モデル（談話コミュニケーションⅠ）

2単位	3年次	坂本　祐太

1．授業の概要・到達目標

本講義では「文を作るための知識（文法・統語論）」がどのようなものであるか概観します。また,「子どもがどのように（文を作り出すための）母語の知識を獲得するのか」という問いに対して「ヒトには遺伝により生まれつき母語獲得のための仕組み（普遍文法）が与えられえている」と仮定する生成文法理論及びその文法モデルを概観します。

＜到達目標＞
・言語学の文法の仕組みを扱う分野（統語論）の基本的な用語及び概念を理解する。
・文が持つ階層構造の重要性を理解し、階層構造に基づいて基本的な言語データを分析できるようになる。
・生成文法理論及びその文法モデルを理解する。

2．授業内容

第１回：aのみ：イントロダクション
第２回：生成文法理論の概要（言語の知識と母語獲得の仕組み）
第３回：統語範疇（品詞・語と句）
第４回：構成素（意味上のまとまり・置き換え・移動・等位接続）
第５回：句構造規則<1>（句と文を作り出す仕組み）
第６回：句構造規則<2>（句と文を作り出す仕組み）
第７回：Xバー理論<1>（普遍的な句構造の仕組み）
第８回：Xバー理論<2>（普遍的な句構造の仕組み）
第９回：意味役割（述語の選択制限）
第10回：束縛理論（名詞句の分布）
第11回：変形規則<1>（主語・助動詞倒置）
第12回：変形規則<2>（wh移動）
第13回：変形規則<3>（名詞句移動）
第14回：変形規則<4>（繰り上げ構文とコントロール構文）
※　授業の進度・内容は必要に応じて適宜調整されます。

3．履修上の注意

毎回授業後にリアクションペーパーを提出していただきます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業でとったノートや配られるプリントをもとに、授業外で復習を行ってください。

5．教科書

教科書は使用せず、教員が作成した資料を使います。

6．参考書

『生成文法』渡辺明著（東京大学出版会）
『生成文法の基礎ー原理とパラミターのアプローチ』中村捷、菊池朗、金子義明著（研究社）

7．課題に対するフィードバックの方法

講義内でリアクションペーパー及び課題に対するフィードバックを行う時間を設ける。

8．成績評価の方法

課題（15% × 3 = 45%）、授業への取り組み（55%）
※ 内容理解の確認のために、およそ5回の授業に1回の割合で授業内容に基づく練習問題を出します。問題への答案の提出が、成績評価の方法の「課題」に該当します。最終課題を出さない場合、単位は付与しません。

9．その他

1・2年次に「言語学」の授業を履修していることが望ましいですが、履修していない方にも分かるような講義を心がけます。
公欠やその他の事情による欠席は、事前相談のものだけ考慮します。
「ことば」に興味のある方は、文学部開講の「社会言語学」「語用論」「音韻論・形態論」「心理言語学」及び「英語学研究A/B（石井透先生担当：統語論）」を併せて履修すると理解が深まります。

科目ナンバー：(IC)GEO321J

自然地理学

2単位	3年次	**鳴橋　竜太郎**

1．授業の概要・到達目標

本講義では自然地理学一般を広く平易に扱い、他の自然地理学系の講義の導入的位置づけとなります。主として地形発達と環境動態、および自然環境史に焦点を当て、それらの理解を深めることを目指します。

さらに地学や第四紀学、文献歴史学など、近接する他分野を横断・援用しつつ、我々人類の居住空間たる「自然環境」を念頭に置き、解析するための手法および知識について学んでいきます。

2．授業内容

第１回：イントロダクション
第２回：気象・気候　－気圏環境－
第３回：海と陸水　－水圏環境－
第４回：地図の基礎　投影法、位置の基準。
第５回：地形図の利用　判読実習。
第６回：地殻変動
第７回：火山
第８回：地震
第９回：津波
第10回：山地・侵食輪廻
第11回：平野
第12回：海岸地形
第13回：氷河・周氷河
第14回：古環境変動と現在の地球環境

3．履修上の注意

・授業中の私語に関しては、減点等も視野に入れて厳しく対応します。
・パワーポイントや板書等の撮影、および授業の録音は禁止します。
・第１回のイントロダクションでは受講の際の諸注意等を説明しますので、なるべく出席するようにしてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

我々を取り巻く「環境」を扱う以上、授業で説明することを現実生活で自然や生活空間を観察することで復習・実体験してほしい。

5．教科書

特に指定しない。レジュメ配布。

6．参考書

地理学関連の書籍は古今書院、朝倉書店、東京大学出版会などから多数刊行されています。講義中に適宜紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji のアンケート機能を用いて小テストを実施するが、翌週の授業内に解説を行う。

8．成績評価の方法

期末試験（80%）、平常点（授業内課題及び授業内レポート、20%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)PSY311J

消費行動の心理学

2単位	3年次	**脇本　竜太郎**

1．授業の概要・到達目標

【概要】
本講義では、消費行動を社会的情報の処理とコミュニケーションという視点から考える。前半は主に説得や購買行動、中盤は広告に関わる行動について論じる。後半はクチコミやイノベーションの普及といった事柄について扱う。
【到達目標】
(1) 社会的情報の処理が消費行動にいかにかかわるかを説明できる
(2) 社会的相互作用が消費行動に及ぼす影響を説明できる

2．授業内容

第１回：態度
第２回：購買の意思決定と情報処理
第３回：非計画購買とインストア・プロモーション
第４回：説得と態度変化
第５回：広告の効果を説得から考える
第６回：製品ライフサイクルと広告
第７回：物語広告
第８回：自己と広告
第９回：気分と主観的感覚の誤帰属の影響
第10回：情動と購買
第11回：クチコミの影響
第12回：クチコミ・マーケティング，製品の普及
第13回：準拠集団の影響
第14回：広報，講義の総括
＊講義内容及び進行順は受講者の関心や必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

毎回リアクションコメントの提出を求める。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習は特に必要としない。講義内容は日常生活に関わる内容が多い。そのため、学習した事項が身近な事象にどのように関わっているかを考える習慣を持つと、学びはより豊かなものになる。
講義内で心理学の研究を実施したり、オンラインで実施する研究への参加者を募ったりすることがある。
研究への参加は任意だが、報酬として成績への加点が伴うことがある。研究に参加してその手続きを体験することは社会心理学研究の知見を批判的に検討するための重要な学びの機会となるので、積極的に参加してほしい。

5．教科書

特に定めない。

6．参考書

講義中に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題の提出は求めないが、リアクションコメントで寄せられた質問には次の授業時に回答する。

8．成績評価の方法

平常点（出席したうえでリアクションコメントを提出）30%　定期試験　70%

9．その他

科目ナンバー：(IC)SSS321J

情報社会と安全A

2単位	3年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

情報技術の進歩により我々の生活は便利で快適になる一方、これまでにはなかった様々な危険が新たに発生するようになってきている。今後、さらに高度化していくであろう情報社会における危険性を十分に理解することは重要である。安全の対象は幅広いが、本講義では主にコンピュータの技術面に関わる安全性を対象とし、これからの情報社会で必要とされる安全に対する基本的な知識を獲得することを目的とする。

2．授業内容

第１回　安全とは
第２回　安全を守るには
第３回　安全の技術
第４回　リスクコミュニケーション
第５回　事故の原因
第６回　ソフトウェアとバグ
第７回　ソフトウェア開発（１）
第８回　ソフトウェア開発（２）
第９回　マルウェア
第10回　サイバー攻撃（１）
第11回　サイバー攻撃（２）
第12回　暗号
第13回　電子メール
第14回　まとめ

3．履修上の注意

特になし。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

使用なし。

6．参考書

使用なし。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答と解説をOh-o!Meijiで公開する。

8．成績評価の方法

平常点 40%、小テスト 60%（定期試験は行わない）
基礎的知識、理解力

9．その他

質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)SSS321J

情報社会と安全Ｂ

2単位	3年次	和田　　悟

1．授業の概要・到達目標

近年のICT技術分野の著しい進展にともない、私たちの社会は様々な脅威にさらされている。その脅威について知っておくことは、社会で活躍する上で必要不可欠である。インターネットの技術的な知識の確認を行いながら、情報セキュリティとプライバシーの問題についての基本を学ぶ。オンラインの資料などを使いながら、新しい脅威や課題についても学ぶ。
この授業の到達目標は、社会人として身につけておくべき、情報セキュリティやプライバシーに関する知識を修得することである。また、インターネットの仕組みの理解を踏まえて、新たなサービスや技術の便利さの内に潜むリスクについて考察できるようになることである。

2．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　身近な脅威と対策 スマートフォンなどを中心に
第３回　情報社会の脆弱性 インフラへの脅威
第４回　パスワード・認証・暗号
第５回　マルウェア
第６回　システムとネットワークのセキュリティ (1)
第７回　システムとネットワークのセキュリティ (2)
第８回　情報セキュリティとリスクマネジメント(1)
第９回　情報セキュリティとリスクマネジメント(2)
第10回　情報社会と法とジレンマ(1)
第11回　情報社会の方とジレンマ(2)
第12回　個人情報とプライバシー、法制度について
第13回　最新動向とセキュリティ・プライバシー ビッグデータやIoTなど
第14回　まとめ

3．履修上の注意

情報化に関わる事件や課題などは新聞・テレビなどメディアで取り上げられることも多い。授業でも紹介するが、各自常に関心をはらっていて欲しい。授業では映像資料も活用したい。教室でしか視聴できないものが多く、それについてのリアクションペーパーの提出を不定期に求めることがある(評価は20%)。そのためきちんと出席できる学生でないと良い評価は望めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習として、具体的な、サイバー攻撃の被害事例や、個人情報の流出事例を調べてもらうなどの課題を出すことがある。進路や志望分野が決まっている人は、その分野でおきている問題などを調べることは意義あることだろう。
また、知識として知っておくべき事柄については、授業内容についての理解度を測るために、小テストを活用したい。期末試験への対策のためにも活用してほしい。

5．教科書

山田恒夫・辰巳丈夫『情報セキュリティ概論』放送大学, 2022(予定)

6．参考書

山本龍彦ほか『個人データ保護のグローバル・マップ』弘文堂, 2024
福岡真之介『AI・データ倫理の教科書』弘文堂,2022

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー、レポートなどへの個別のフィードバックはOh-o! Meijiシステムを用いて原則として提出期限後にまとめて行う。全体の解説は総評などは授業内で行う。

8．成績評価の方法

平常点 20%、期末試験 80%。

9．その他

担当者は、日本経済とつながりの深い東南アジアのタイの国際交流プログラムを担当している。卒業後、アジアの国々と仕事をする機会のある学生も多いだろう。この講義の取り扱う範囲では、プライバシーや個人情報保護といった問題や、情報セキュリティへの意識といった点で、日本と東南アジアの国々との違いを気づかされることも多い。自分の組織だけでなく、取引相手やサプライチェーンを含めて情報セキュリティなどの課題を考えるのに、アジアの学生とふれあい、彼らの考えを知る事はとても大切である。国際交流の機会もぜひ活かして欲しい。

科目ナンバー：(IC)ECN316J

情報と経済行動〔M〕

2単位	3年次	後藤　晶

1．授業の概要・到達目標

授業の概要：

情報社会の発展に伴い、我々の日常生活は情報と切っても切り離せないものとなってきた。スマホ・タブレット・パソコンは手放すことが困難であり、生活の中心を占めつつある。このような情報社会の進展の中で、我々の経済行動はどのように変化しつつあるのであろうか。本講義では、行動経済学の観点から「AIの行動経済学」と「ナッジ」という2つの主要テーマを取り上げる。

前半では、AI時代における人間の経済行動の特徴について検討する。大規模言語モデル（LLM）をはじめとするAI技術の発展は、我々の意思決定環境を大きく変容させつつある。AI自身の行動特性や、AIと人間との相互作用が経済行動に与える影響について、行動経済学の枠組みから分析する。

後半では、行動経済学・行動科学の知見を公共政策や企業戦略など、社会課題の解決に応用する方法として「ナッジ」を取り上げる。ナッジとは、人々の選択の自由を保ちながら、より望ましい行動へと緩やかに誘導する仕組みのことである。情報提供、デフォルト設定、社会的規範の活用など、具体的なナッジの手法とその効果について、フィールド実験やEBPM（証拠に基づく政策立案）の観点から検討する。また、ナッジの負の側面である「スラッジ」や「ダークパターン」についても取り上げ、行動科学の応用における倫理的課題についても議論する。

本講義は「不確実性下の人間行動」の応用科目として位置づけられ、講義全体を通じて情報社会における経済行動の理解と、行動科学的知見の実践的応用について学ぶことを目的とする。

到達目標：

1. AI時代における人間の経済行動の特質について、行動経済学の観点から理解できる。
2. ナッジの基本的な枠組みと具体的手法について説明できる。
3. 行動経済学・行動科学の考え方を踏まえて、自身の興味のある社会問題について多面的に考察することができる。
4. ナッジを含む行動科学的アプローチの可能性と限界、および倫理的課題について論じることができる。

2．授業内容

［第1講］イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第2講］AIの行動経済学①：AIの基礎と行動経済学への応用可能性〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第3講］AIの行動経済学②：認知バイアスとAIの「非合理性」〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第4講］AIの行動経済学③：経済ゲーム実験から考えるAIの社会的選好〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第5講］ナッジの概要とナッジの分類, BASICモデルとFEASTアプローチ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第6講］フィールド実験とEBPM〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第7講］情報提供ナッジ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第8講］目的明示ナッジ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第9講］社会的規範ナッジ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第10講］デフォルトナッジ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第11講］感情・アイデンティティ・パーソナライズドナッジ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第12講］スラッジとダークパターンの事例〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第13講］スラッジとダークパターンの倫理的課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第14講］リバタリアンパターナリズムとナッジの課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕
※ただし、履修状況により変更することがある。

3．履修上の注意

各自の生活や興味のあるテーマへの応用という観点から考えながら受講することを期待する。

この講義はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日に配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、知識確認テストの実施・リアクションペーパーの提出により理解度確認及び出席確認を行う。教員への質問・相談窓口として、メールアドレスを履修者に通知する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

適宜紹介する資料・文献を元に予習・復習をすること。

5．教科書

配布資料を用意する。

6．参考書

友野典男、2006、『行動経済学 経済は「感情」で動いている』、光文社新書
ダニエル・カーネマン（著）村井章子（訳）友野典男（監修）、2014、『ファスト&スロー』（上下巻）、早川書房
黒川博文、2024、『分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する』、ソシム
後藤晶、2024、『oTreeではじめる社会科学実験入門: Pythonのインストールから実験の実施まで』、コロナ社
那須耕介・橋本努、2020、『ナッジ!?: 自由でおせっかいなリバタリアン・パターナリズム』、勁草書房
川越敏司、2024、『行動経済学の真実』、集英社
その他，適宜紹介する．

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義動画内で、リアクションペーパーへのコメントを行う。

8．成績評価の方法

平常点20%、知識確認テスト30%、小レポート10%、定期試験40%
平常点：講義前アンケート、リアクションペーパー、その他授業中に行う実験の回答状況など、講義参加の積極性を評価する。
知識確認テスト：毎回の講義で知識確認のための簡単な課題を課す。
小レポート：400-600字程度のレポートを課す。
定期試験：学期末試験時に対面形式で実施する。

9．その他

本講義の基礎となる「不確実性下の人間行動」を春学期に履修することが望ましい。

科目ナンバー：(IC)INF341J

情報と職業

2単位	3年次	栗山　健

1．授業の概要・到達目標

高校で「情報」を教える人のための講座（教職課程の一部）です。

職業における情報との関わり及び情報処理産業の紹介を軸に、情報の持つ特性および社会（ビジネス）における情報の位置付けや役割などの理解を目指します。

企業と情報との関わりに興味を持つ人にも役立ちます。

現在は「情報化社会」と呼ばれるように、あらゆる部門に情報が関与し社会（ビジネス環境）にも影響を与えています。さらにAIへの期待が高まる中、情報およびその扱いがビジネスの成否を左右するほどに重要な要素となっています。情報の活用を理解すると供に、情報技術と人間社会とが互いに密接に関与している事を知ることはとても重要です。

2．授業内容

第1回：情報と職業概論　情報の価値、生活とIT化、DX（デジタルトランスフォーメーション）
第2回：アナログとデジタル　情報の記号化/電子化、保存と伝達
第3回：ITとビジネス　AIの利活用
第4回：コンピュータの構成　ハード/ソフト、機械語
第5回：業務のデジタル化/改革　system/定型化、CRM/SCM
第6回：IT人材とDX人材
第7回：職業指導　就職、最低賃金、会社組織、雇用
第8回：問題解決手法　QC活動、ハインリッヒの法則,工数、工程管理
第9回：知的財産権と情報倫理　特許、著作権、セキュリティ
第10回：ITとマーケティング　経営戦略､法則性の誤解（相関/因果）､分析、戦略
第11回：IT産業　soft/contents
第12回：システム開発　開発プロセス、water fall/sp
第13回：プロジェクトマネジメント
第14回：情報処理の歴史
学習環境および受講者の理解状況により、内容の微調整を行います。実務者を招くことがあります。

3．履修上の注意

前提となる科目はありませんが、情報の基礎を履修済みであることが望ましい。

1、2年における「情報社会系科目」を履修しているとより理解が深まります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

座学の講座ですが、PCの持参を勧めます。

5．教科書

授業の教材として必要に応じてプリント資料を配布します。

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

フィードバックは基本的に授業内、または次回以降の授業内で共有するようにします。

8．成績評価の方法

定期試験は行いません。
授業内で課題を出し、授業内または翌週の授業で共有します。
(1) 調査・報告（個人、またはグループで実施）(50%)
(2) 授業後の振り返り (30%)
(3) レポート (20%)
教職課程の対象講座であるため、教育実習は調査・報告と同等に扱います。

9．その他

特になし。

科目ナンバー：(IC)ECN331J

人口論

2単位	3年次	金子　隆一

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

人口統計学は人口の増減を扱うものというより、むしろ人々のライフコース全般を定量的に捉えて分析するための統計分野である。社会経済現象の基底には常に人口変動の働きがあり、とりわけ今日の日本は世界に先駆けて人口減少、少子高齢を基調とした社会への歴史的転換期にある。したがって現代を把握し将来を見通すためには、ライフコース・人口・経済社会の連動を正しく理解する必要がある。本講義では、人口構造・人口動態ならびに結婚、出生、死亡などのライフコース事象に関する基礎概念、モデル、分析法の習得を通して人口問題の特性を学ぶ。

【到達目標】

基礎的な概念・知識ならびに分析方法を習得し、わが国社会が直面している人口問題の特性を理解し、今後の課題とそれへの対処について明瞭な展望を得る。

2．授業内容

（1）序論（1）／人口減少・少子高齢化の動向と見通し
（2）序論（2）／人口減少・少子高齢化のもたらす課題と挑戦
（3）人口学の基礎概念／人口静態と動態、人口学的方程式
（4）人口の成長／人口増加率・モデル、人口減少の統計学
（5）構造（1）／基本構造、経済社会属性構造、構造形成
（6）人口構造（2）／行動要因と構造要因、人口モメンタム
（7）人口分析の方法（1）／標準化動態率、要因分解
（8）人口分析の方法（2）／ライフコースモデル、レキシス図、ピリオドとコーホート
（9）生命表（1）／ライフコースの確率モデル
（10）生命表（2）／生命表関数、生存確率、平均余命、人口再生産モデル
（11）死亡・寿命分析と長寿化／死亡・寿命・健康の要因・理論・動向と社会経済
（12）結婚・出生分析と少子化／結婚・出生・家族の要因・理論・動向と社会経済
（13）人口転換と近代化／人類史の中の人口、人口動態革命と人口転換理論
（14）人口と経済社会／人口潮流と21世紀社会、人類文明と持続可能性

3．履修上の注意

統計や数式など定量的題材を用いるが、人口・経済社会の本質的理解が主眼であり、必要な手法等は講義で解説し、習得する。したがって予めのスキルより、人口問題への関心の強さが重要である。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料、参考図書などにより、講義内容を復習し、ポイントを理解すること。

5．教科書

指定しない。順次配付する資料を教科書とする。

6．参考書

金子隆一ほか『新時代からの挑戦状―未知の少親多死社会をどう生きるか』、厚生労働統計協会、2018年
河野稠果『人口学への招待』、中公新書、2007年
森田朗（監修）『日本の人口動向とこれからの社会』東京大学出版会、2017年

7．課題に対するフィードバックの方法

講義内容に関する疑問点等については、講義中・講義後に直接質問することができるが、これに加えて毎講義後に提出する出席票（用紙は毎回配布）により質問や要望など教官とのコミュニケーションを図ることができる。また、Oh-o! Meiji に公開する教官メールアドレスへのメールにより、随時教官とのコミュニケーションを図ることができる。

8．成績評価の方法

出席状況（30%）、期末試験（70%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)ANT361J

身体と意識

2単位	3年次	蛭川　　立

1．授業の概要・到達目標

意識の状態が変われば、それに対応して、経験される現実も変わる。もっともわかりやすい例は、睡眠と覚醒のサイクルである。睡眠中には、われわれは、夢の世界を現実だと思って行動している。
変性意識状態、つまり日常とは異なる意識状態には、夢のほかに、臨死体験、瞑想体験、精神疾患、あるいは精神活性物質の一種である精神展開薬によって引き起こされるサイケデリック体験など、さまざまな種類のものがある。しかし近代社会では、そうした多様な意識状態は存在しないか、存在しても問題にされないか、あるいは精神の異常として処理されがちである。
近代化される以前の多くの社会では、しばしば夢や幻覚と現実との境界が曖昧であった。さらに古代インド哲学や仏教思想においては、物質的身体を持って「覚醒」して生きている状態のほうが、じつは夢の中で暮らしているような状態であり、その錯覚から「覚醒」しなければならないとする思想が発達した。その錯覚に気づくための身体技法が、瞑想（ヨーガ）である。
近代科学は、脳という物質のはたらきから精神が生み出されると考える。精神に作用する物質が脳内でどのように機能するのかという機序の解明が進み、知覚、記憶、意識などの情報処理が、脳内の生化学的な反応として理解されるようになってきた。
さらに現代では情報技術の発展も著しい。人生の三分の一が睡眠時間だということには変わらないが、われわれは「覚醒」しているときでさえ、テレビやスマートフォンの液晶画面の背後に、さらにはVRのゴーグルの中に、あたかも物質的世界が実在するかのように錯覚し、その仮想世界に没入して過ごす時間が増えている。現実と幻覚との間を行き来する生活は、未開宗教や、古代思想や、あるいは精神病理という特殊な世界だけはでなく、近未来社会の日常となりつつある。
到達目標
1．人間の様々な意識状態を、心理学や脳神経科学の観点から理解できるようになる。
2．身体と精神の関係について、比較思想的な観点から理解できるようになる。

2．授業内容

第1回：胡蝶の夢（全体の展望）
第2回：神経系の構造と機能
第3回：脳の状態と意識の状態
第4回：睡眠と夢
第5回：明晰夢と入眠期の夢
第6回：精神活性物質の神経科学
第7回：精神展開体験（サイケデリック体験）
第8回：臨死体験
第9回：精神疾患と変性意識体験
第10回：西洋思想における精神と身体
第11回：東洋思想における精神と身体
第12回：瞑想・ヨーガ・禅
第13回：リアリティとバーチャルリアリティ（仮想現実）
第14回：水槽の脳（全体のまとめ）

3．履修上の注意

脳神経科学、心理学、認知科学に関連する科目を履修しておくと、講義内容の理解の助けになるだろう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

実際の授業内容は、このシラバスに書かれた計画とは多少、異なるものになるかもしれないが、最新の進行状況は資料サイト「蛭川研究室」にアップし、更新していくので、随時チェックすることをお勧めする。
授業の資料はWEB上にアップしてあり、授業の予定表から資料にリンクが張ってあるので、教室の授業だけでなく、随時、予習も復習もできる。それぞれのページには質問やコメントを書き込むこともできる。資料サイトは「蛭川」「身体と意識」「2026」などと入力して検索すれば容易に見つかる。

5．教科書

特に定めない。

6．参考書

『彼岸の時間ー〈意識〉の人類学ー』蛭川立（春秋社）2002年（新装版は2009年）
『精神の星座ー内宇宙飛行士の迷走録ー』蛭川立（サンガ）2011年

7．課題に対するフィードバックの方法

講義に関連する画像などの資料は、授業に連動したWEBサイトにアップする。授業に対する質問やコメントにおうじて、サイトの内容を随時、加筆修正していく。

8．成績評価の方法

期末試験または期末レポート（100%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)CUL341J

身体表現論

２単位	３年次	波照間　永子

１．授業の概要・到達目標
■授業のテーマ
　身体表現ワークショップ：多様な表現を学び自ら創造しよう
■授業の概要
「芸術」表現には、さまざまなメディアがもちいられる。映像、身体、音、言語・・・といった多様なメディアが、単一に、あるいは複合的に構成され、個々の芸術ジャンルを形成している。
　本授業では，総合芸術の代表的なジャンルといわれる「舞踊・伴奏音楽」に焦点をあて、琉球･沖縄に育まれた多様な身体表現にみる、社会文化的役割と技法上の特性を、ワークショップ授業（講義＆実技）を通して探求する。
到達目標
　１　身体表現の社会文化的特性を理解する。
　２　様々な創作方法を学び、自身の表現力と創造力を高める。

２．授業内容
第１回　イントロダクション（授業の目的・計画・評価の方法）
舞踊史、舞踊上演法
第２回　宮廷の芸能（舞踊・音楽）・実技
第３回　宮廷の芸能（舞踊・音楽）・実技
第４回　近代の芸能（舞踊・音楽）・実技
第５回　近代の芸能（舞踊・音楽）・実技
第６回　現代の芸能（舞踊・音楽）・実技
芸術療法・舞踊創作法
第７回　創作舞踊と民俗芸能・創作実習
第８回　民俗芸能と芸術療法・創作実習
第９回　無形文化遺産の保存とテクノロジー・創作実習
第10回　作品概要執筆
作品の共有と交流
第11回　作品発表
第12回　作品発表
第13回　作品発表
第14回　作品発表
上記の授業計画は、受講生の理解度や関心に応じて多少変更することもある。

３．履修上の注意
毎回の授業時に、小レポート（５行～ 10行程度）を課し、受講生の理解度や問題意識を確認する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
「作品」の創作は、第１回のガイダンス後から継続的にとりくみ、毎回の小レポートの裏面に記入する。
「作品」のテーマ、素材、構成（素材の組み合わせ）、独自性などを文章化しておくことを準備学習とする。

５．教科書
授業時に必要な資料を配布する。

６．参考書
波照間永子(2010)「第４章　琉球舞踊と身体－舞踊技法研究の魅力－」（勝方＝稲福恵子，前嵩西 一馬編『沖縄学入門－空腹の作法－』昭和堂
矢野輝雄（1988)『沖縄舞踊の歴史』築地書館　ほか、授業時に適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時に執筆してもらう課題（小レポート）は、次の時間に講評する。作品発表会において、「作品」および「作品概要」（レポート）もあわせてフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
レポート（作品概要 コンセプト：25％）
作品（作品概要 コンセプト：25％）
毎回の授業時に実施する小レポート（授業の内容の理解度を問う課題：50％）

９．その他

科目ナンバー：(IC)GEO311J

人文地理学

２単位	３年次	中川　雄大

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
人文地理学は、人間と空間の相互作用を解明し、社会現象の空間的な構造やプロセスを明らかにする学問である。私たちの社会は、一見意識しないかもしれないが、空間的次元によって大きく左右されている。家や学校、オフィスにおける相互行為はミクロに展開され、通勤・通学・買い物のような地域内の移動や、旅行や転勤のような地域を超えた移動があり、私たちの生活を成り立たせる資源やエネルギー、労働はグローバルな資本主義のなかで流通している。
たとえば、都心再開発は空間を資本に変換する営みである。これはどのような空間も一元的な資本にしていく意味で、空間を「均質化」していく動きであるが、他方で、私たちはある空間に対して非常に思い入れのある「場所」だと認識したり、その「場所」からの眺めを「景観」とみなして、かけがえのない特別な価値を認めたりすることがある。ただ、そうした特別な「場所」が観光地となることで、本来有していた「場所」のあり方が決定的に変質することもある。このように、私たちの社会は空間と不可分に関わっており、本授業ではそうした空間的次元を批判的に考察する力を育むことを目的としている。
そのためには、空間に集う人のみならず、空間のイメージを構成するメディアや、空間を物理的に構成する自然やインフラなどに着目することが必要になる。すなわち、現代の空間について検討するためには、人文地理学に隣接する社会学やメディア論、工学や生態学など幅広い分野の知見を総合することが不可欠である。本授業の履修を通じて、人文地理学が有する学際的な広がりを理解してほしいと考える。
【到達目標】
人文地理学の基本的な概念と理論を理解し、それらを実際の事例に適用できる。
地理的視点から社会現象を分析する能力を養う。
空間と社会の相互作用を批判的に考察する能力を身につける。

２．授業内容
第１回　人文地理学とは何か：イントロダクション
第２回　空間はいかに表現されたのか：地図の誕生
第３回　帝国主義は世界をどう捉えたのか：博覧会のミクロ政治学
第４回　未来年に何が期待されたのか：博覧会のマクロ政治学
第５回　空間はいかに開発されるのか：空間を覆っていく開発主義
第６回　観光地はいかに演出されるのか：観光のまなざし
第７回　空間はどれほどジェンダー化されているのか：フェミニズムとクィアから考える空間
第８回　風景／景観とは何か：無電柱化とテクノスケープ
第９回　テーマパークとはいかなる空間か：都市の舞台性とシナリオ
第10回　都市における「遺産」とは何か：都市における時間論
第11回　都市を支えるインフラとは何か：都市を成立させる物質的基盤と採掘
第12回　なぜ「緑地」が求められているのか：都市政治生態学と自然の生産
第13回　都市における生物とはどのような存在か：都市とマルチスピーシーズ
第14回　空間をいかに考えるか：総括討論
授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。

３．履修上の注意
資料を紙で配布しないため、タブレットまたはPCを持参して授業を履修することを推奨する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業のレジュメで紹介する参考文献にも目を通すこと。

５．教科書
指定しない。

６．参考書
若林幹夫，2009，『地図の想像力』（河出書房新社）
加藤政洋・大城直樹編，2006，『都市空間の地理学』（ミネルヴァ書房）

７．課題に対するフィードバックの方法
優れたコメントシートについては次回授業冒頭に紹介してコメントし、学生に対してフィードバックを与える。また、授業中適宜学生に対して質問し、応答を求める。

８．成績評価の方法
コメントシート40％、レポート60％
毎回の講義に対してコメントシートの提出を求め、理解度確認を行うとともに成績評価に反映させる。コメントシートは紙で配布し、授業終了後に回収する予定である。
（なお、受講人数次第でレポートに代えて期末試験とする可能性がある）

９．その他

科目ナンバー：(IC)PHL356J

生命思想史Ⅰ〔M〕

２単位	３年次	岩渕　輝

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】「生命とは何か」という考え方が、歴史的にどう移り変わってきたかを科学史・哲学史の立場から概観する。古代ギリシアでは、生命現象を考察する際に生命原理を表す＜プシュケー（魂）＞という概念が用いられていた。古代ギリシアのプラトンやアリストテレスのプシュケー概念は中世やルネッサンス期の神秘思想に受け継がれるが、やがて近代の科学者たちにより否定されて行く。生命の研究は、古代や中世では主として哲学者たちの思索によってなされていたのに対し、近現代では多くの場合、自然科学者たちの実験的研究によってなされるようになり、その結果、生命現象に関する私たちの知識や技術は飛躍的に増大した。しかし、注意しなければならないのは、近現代の知識や技術が古い時代の考え方よりも何から何まで優れているわけではない、ということである。生命と心を別のものと捉えるようになり、また、科学が哲学や世界観とは無関係に推進されるようになった近代以降、私たちが失ったものも多いのである。
【到達目標】『生命思想史Ⅰ』の目的は、古代から近代の入り口に至る生命思想の歴史を学ぶことにより、現代に失われた考え方を知り、生命について深く考えていただくことにある。

２．授業内容
各回のテーマは次の通りである。
第１回：イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：オルフェウス教と聖書の死生観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回：ピュタゴラス学派の思想〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第４回：ソクラテスの死生観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回：プラトンの生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：アリストテレスの＜プシュケー＞概念〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：ガレノスの医学と＜プネウマ＞〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：新プラトン主義とヘルメス思想〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：ユダヤ教神秘思想の生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回：キリスト教異端派の生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：ルネッサンスの生命思想〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：パラケルススと錬金術〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：科学革命とケプラーの生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回：ａのみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
この科目は**メディア授業科目**である。授業は全て授業動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行なう。
各回の授業動画は、毎週土曜日の午前9時までに配信する。いったん配信された全ての授業動画は原則として、当該学期中は視聴可能な状態にしておくので繰り返し復習できる。ただし、学期末テスト期間には視聴できない状態にする。
各回の授業動画に対する出席状況と理解度に関する確認は、Oh-o! Meijiシステム上にて実施する学期末テスト、中間テスト（本シラバス「成績評価の方法」の項も参照）、動画の視聴記録、またはリアクション・ペーパーにより行なう。また、Oh-o! Meijiのディスカッション機能を利用して学生同士の意見交換の場を設ける。履修者には教員への質問窓口として次の専用メールアドレスを通知する。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。
哲学・思想・世界史に興味のあることが望ましい。高校の授業でいえば、世界史や倫理のイメージに近い授業である。
春学期『生命思想史Ⅰ』と秋学期『生命思想史Ⅱ』は、できるだけ両方履修することが望ましい。なお、『生命思想史Ⅱ』を履修するためには、『生命思想史Ⅰ』を履修中または単位取得済みであることが必要である（『Ⅰ』の単位をこれまで取得していない人の場合、春学期開始時に、『Ⅰ』と『Ⅱ』を両方登録することは可能、あるいは『Ⅰ』だけ登録して『Ⅱ』は登録しないことも可能だが、『Ⅰ』は登録せず『Ⅱ』だけを登録することは不可能）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎時間、きちんと予習・復習して授業に臨むこと。

５．教科書
とくに定めない。

６．参考書
とくに定めない。

７．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日および最終授業終了直後に課題の解説と講評を行なう。

８．成績評価の方法
学期末テスト全1回分を70%、授業期間中の中間テスト（全1回前後）の合計点を30%の比率で評価する。
学期末テストも中間テストも、Oh-o! Meijiシステム「小テスト機能」にて実施する。なお、中間テストは、いわゆるテスト形式ではなくレポート形式にてOh-o! Meiji上から提出してもらう可能性もある。
※対面形式での試験は行なわない。

９．その他
本科目は和泉科目『生命論Ａ』の姉妹科目であり、本科目では哲学･思想･世界史および「科学と宗教」のような『生命論A』で扱ったのと似た題材を主に取り上げる。本科目は、和泉科目で生命科学・社会科学に関する題材を中心に扱った『生命論B』とは大きく内容が異なるので、注意されたい。

科目ナンバー：(IC)PHL356J

生命思想史Ⅱ〔M〕

２単位	３年次	岩渕　輝

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】 本授業の前半では、春学期『生命思想史I』に引き続き「生命とは何か」という考え方が、歴史的にどう移り変わってきたかを、主に科学史・哲学史の立場から概観する。生命の研究は、古代や中世では主として哲学者たちの思索によってなされていたのに対し、近現代では多くの場合、自然科学者たちの実験的研究によってなされるようになり、その結果、生命現象に関する私たちの知識や技術は飛躍的に増大した。しかし、注意しなければならないのは、近現代の知識や技術が古い時代の考え方よりも何から何まで優れているわけではない、ということである。生命と心を別のものと捉えるようになり、また、科学が哲学や世界観とは無関係に推進されるようになった近代以降、私たちが失ったものも多いのである。本授業の後半では、科学技術の肥大化に伴い、生命が軽視され私たちが必要以上に管理・監視され時として重大な健康被害を及ぼされるに至った、生命思想の現代史に関する話題をとり上げ、主に生命科学的・社会科学的立場から考察する。
【到達目標】『生命思想史Ⅱ』の目的は、古代から近代の入り口に至る生命思想の歴史を学ぶことにより、現代に失われた考え方を知り、生命について深く考えていただくことにある。

２．授業内容
各回のテーマは次の通りである。
第１回：薔薇十字思想と魔女狩り〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第２回：デカルトの生命観〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第３回：近代のプラトン主義とニュートン〔メディア授業(オンデマンド型)〕
第４回：スピノザ､カント､ヘルムホルツ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第５回：フェヒナーの生命思想〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第６回：ダーウィンの進化論〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第７回：ナチスの優生思想〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第８回：トランスヒューマニズム・不老不死技術の背後の新優生思想と宗教〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第９回：遺伝学の基礎知識〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第10回：遺伝子操作と遺伝子治療〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第11回：免疫学の基礎知識〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第12回：薬とワクチンの健康被害の歴史〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第13回：医療利権の現代史〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第14回：ａのみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

３．履修上の注意
この科目は**メディア授業科目**である。授業は全て授業動画をOh-o! Meijiシステムを通じて配信するオンデマンド型で行なう。
各回の授業動画は、毎週土曜日の午前9時までに配信する。いったん配信された全ての授業動画は原則として、当該学期中は視聴可能な状態にしておくので繰り返し復習できる。ただし、学期末テスト期間には視聴できない状態にする。
各回の授業動画に対する出席状況と理解度に関する確認は、Oh-o! Meijiシステム上にて実施する学期末テスト、中間テスト（本シラバス「成績評価の方法」の項も参照）、動画の視聴記録、またはリアクション・ペーパーにより行なう。また、Oh-o! Meijiのディスカッション機能を利用して学生同士の意見交換の場を設ける。履修者には教員への質問窓口として次の専用メールアドレスを通知する。fe11000tiefe★gmail.com（★は@に置き換えること）。
哲学・思想・世界史・生命科学・社会問題など、幅広い分野に興味のあることが望ましい。
春学期『生命思想史Ⅰ』と秋学期『生命思想史Ⅱ』は、できるだけ両方履修することが望ましい。なお、『生命思想史Ⅱ』を履修するためには、『生命思想史Ⅰ』を履修中または単位取得済みであることが必要である（『Ⅰ』の単位をこれまで取得していない人の場合、春学期開始時に、『Ⅰ』と『Ⅱ』を両方登録することは可能、あるいは『Ⅰ』だけ登録して『Ⅱ』は登録しないことも可能だが、『Ⅰ』は登録せず『Ⅱ』だけを登録することは不可能）。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
毎時間、きちんと予習・復習して授業に臨むこと。

５．教科書
とくに定めない。

６．参考書
『生命（ゼーレ）の哲学 ―知の巨人フェヒナーの数奇なる生涯―』岩渕輝。春秋社、2014年。

７．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日および最終授業終了直後に課題の解説と講評を行なう。

８．成績評価の方法
学期末テスト全1回分を70%、授業期間中の中間テスト（全1回前後）の合計点を30%の比率で評価する。
学期末テストも中間テストも、Oh-o! Meijiシステム「小テスト機能」にて実施する。なお、中間テストは、いわゆるテスト形式ではなくレポート形式にてOh-o! Meiji上から提出してもらう可能性もある。
※対面形式での試験は行なわない。

９．その他
本科目の前半8回前後で、駿河台春学期科目『生命思想史I』と同様、哲学･思想･世界史および「科学と宗教」などの題材を主に取り上げる。後半6回前後で、生命科学・社会科学に関するトピックスを中心とした和泉秋学期科目『生命論B』に近い題材をとり上げる。

科目ナンバー：(IC)COM321J

組織コミュニケーションA

2単位	3年次	山口　生史

1．授業の概要・到達目標
組織が効率よく機能し、生産性を高めるためには、組織メンバー一人ひとりの適切な行動やメンバー間の効果的な相互作用が必要です。組織コミュニケーションAでは、組織メンバーの組織行動と組織目標を達成するためのメンバー間の相互作用に焦点をあて、組織内対人コミュニケーションについて理解することを目指します。組織メンバー間の対人コミュニケーションがメンバーの態度や組織行動にいかに影響を与えるかが主要なテーマであり、それを理解することが到達目標です。具体的には、動機づけやリーダーシップを効果的に発揮するのためのコミュニケーション、リーダーの影響戦術（influence tactics）のコミュニケーション、組織コミットメントとコミュニケーション､ダイバーシティ（多様性）マネジメント（コンフリクト［対立］マネジメントを含む）とコミュニケーション、組織公正とコミュニケーション、メンタルヘルスとコミュニケーション、ソーシャルサポートとしてのコミュニケーションなど、組織行動学のテーマと組織メンバー間のコミュニケーションの関係について講義する予定です｡授業では､印刷教材､事例､データなどを駆使し，上記テーマの理論と実際の状況に関して受講者の理解を促します。何回かは､グループディスカッションを行うことも予定しています。

2．授業内容
以下に、クラススケジュールとテーマを記します。諸般の事情により変更される可能性もあります。クラスの最初の10分で、前週のテーマに関するQUIZ（小テスト）を受けてもらいます。
1　(a) 組織コミュニケーション学とは；(b) 組織コミュニケーション学の発展の経緯
2　リーダーシップ理論特性理論、行動理論、コンティンジェンシー理論、LMX理論、変革型リ ーダーシップ理論）と組織コミュニケーション
3　リーダーの影響戦術（influence tactics）のコミュニケーション
4　動機づけのためのコミュニケーション（1）：内容論、内発的動機づけ理論とコミュニケーション
5　動機づけのためのコミュニケーション(2)：プロセス理論とコミュニケーション
6　組織コミットメントと組織コミュニケーション
7　コンフリクトマネジメントと組織コミュニケーション
8　コンフリクトマネジメントのための交渉戦術とリーダーのファシリテーション
9　ケース & グループディスカッション
10　組織におけるジェンダー問題と組織コミュニケーション
11　組織公正とコミュニケーション：組織マネジメントにおける納得性を高めるコミュニケーション
12　組織コミットメントと組織コミュニケーション
13　メンタルヘルスとコミュニケーション：ソーシャルサポート
14　(a) チームマネジメントのためのコミュニケーション；(b) 試験

3．履修上の注意
出席が十分でなければ評価の対象になりません。原則対面授業となります。学期末の定期試験も対面です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
前週授業の授業内容に関するQUIZを授業の最初に行うので、準備をしてきてください。

5．教科書
特に指定せず、資料（パワーポイント資料含む）を配布・配信します

6．参考書
（1）国際ビジネスコミュニケーション学会編『ビジネスコミュニケーション入門―基本理論と実践への活用―』創成社、2025年出版予定
（2）山口生史・匠英一[監修]・日本ビジネス心理学会[編]　(2013)『ビジネス心理２：マネジメント心理編』(中央経済社)
（3）日本コミュニケーション学会（編)『現代日本のコミュニケーション研究: 日本コミュニケーション学の足跡と展望』(2011, 三修者）の第II部
（4）S.P.ロビンズ（高木晴夫監訳)『新版・組織行動のマネジメント』(邦訳2009、ダイヤモンド社)
（5）山口生史編著『成果主義を活かす自己管理型チーム：人の視点とプロセス重視のマネジメント』(2005、生産性出版)
その他、適宜紹介

7．課題に対するフィードバックの方法
Quizのための準備が課題となりますので、そのQuizの回答によりフィードバックとします。

8．成績評価の方法
出席が十分であれば以下の通りに評価します。出席が十分でなければ評価の対象になりません。
(1) 授業内QUIZ：50%
(2) 学期末試験：50%

9．その他
このクラスで対象となる組織は、企業、行政機関、教育機関、NPO/NGOなどのさまざまな組織を含みます。

科目ナンバー：(IC)COM321J

組織コミュニケーションB

2単位	3年次	山口　生史

1．授業の概要・到達目標
組織コミュニケーションBでは「マクロ的」視点から組織コミュニケーションのテーマに焦点を当て､以下の理解を到達目標とします:フォーマルコミュニケーションとインフォーマルコミュニケーションの相互補完関係; 組織内コミュニケーションの健全性の診断の方法とその有効性（コミュニケーション・オーディット）; 組織メンバーの組織におけるコミュニケーション・ネットワーク分析; 組織ソーシャル・キャピタル；組織文化とコミュニケーション風土;異文化マネジメントのための異文化コミュニケーション。コミュニケーション・オーディットの講義では、組織コミュニケーションの問題とそれが引き起こしうる組織不祥事・事故との関係も検討します。授業では、印刷教材、事例、データなどを利用して、上記テーマの理論と組織における実際の状況に関して、受講者の理解を促します。何回かはグループディスカッションを行うことも予定しています。

2．授業内容
以下に、クラススケジュールとテーマを記します。諸般の事情により変更される可能性もあります。クラスの最初の10分で、前週のテーマに関するQUIZ（小テスト）を受けてもらいます。
第１回：講義のテーマ紹介と概要
第２回：組織構造とフォーマルコミュニケーション
第３回：インフォーマルコミュニケーションの機能
第４回：コミュニケーション・オーディット*（１）：概念の紹介
第５回：コミュニケーション・オーディット（２）量的研究
第６回：コミュニケーション・オーディット（３）質的研究とECCO分析
第７回：ケース & グループディスカッション
第８回：ネットワーク分析
第９回：構造的ソーシャル・キャピタル
第10回：関係的ソーシャル・キャピタル
第11回：組織内ソーシャル・キャピタル創出・発展のための施策
第12回：ケース & グループディスカッション
第13回：組織文化と組織コミュニケーション風土
第14回：a: 異文化経営のための異文化間コミュニケーション
　　b: 試験
*コミュニケーション・オーディット＝組織のコミュニケーション状況を把握するための研究およびその診断とアドバイスをするための手法・分析ツール

3．履修上の注意
出席が十分でなければ評価の対象になりません。原則対面授業となります。学期末の定期試験も対面です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
前週授業の授業内容に関するQUIZを授業の最初に行うので、準備をしてきてください。

5．教科書
特に指定せず、資料（パワーポイント資料含む）を配布・配信します

6．参考書
（１）C.W.ダウン（太田正孝監訳)『コミュニケーション･オーディット』(邦訳1999、CAP出版)
（２）ウェイン・ベーカー（中島豊訳)『ソーシャル・キャピタル』(邦訳、2001、ダイヤモンド社)
（３）安田雪『ネットワーク分析』(1997、新曜社))
（４）R.F.ダフト（高木晴夫監訳)『組織の経営学』(邦訳、2002、ダイヤモンド社)
（５）桑田耕太郎・田尾雅夫 『組織論』、補訂版（2010、有斐閣)
（６）国際ビジネスコミュニケーション学会編『ビジネスコミュニケーション入門―基本理論と実践への活用―』創成社（2025出版予定).
その他、クラスにて適宜紹介します。
*（１）の文献は、絶版になりましたが、図書館に所蔵があります。

7．課題に対するフィードバックの方法
Quizのための準備が課題となりますので、そのQuizの回答によりフィードバックとします

8．成績評価の方法
出席が十分であれば以下の通りに評価します。出席が十分でなければ評価の対象になりません。
(1) 授業内QUIZ：50%
(2) 学期末試験：50%

9．その他
このクラスで対象となる組織は、企業、行政機関、教育機関、NPO/NGOなどのさまざまな組織を含みます。

科目ナンバー：(IC)ARC341J

都市情報論

2単位	3年次	中川　雄大

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
私たちの身の回りに存在して、私たちの生活をたしかに水路付けているにもかかわらず、普段意識しにくいのが都市という環境である。都市は政治・経済・文化活動が営まれる舞台であり、またそれらの活動によって生み出される空間でもある。本授業では、このような複雑な都市の相貌を社会学の立場から検討していくための視点を習得することを目指す。
私たちが生活している都市空間の原型は、19世紀後半から20世紀中頃にかけて徐々に形成されてきたものである。19世紀中頃から急激に人口が増加した都市部ではさまざまな都市問題が生じた。これに対応するために生まれたのが都市計画をはじめとする「都市」に関する工学的技術である。これを機に、都市は調査される対象になり、その過程で都市社会学も誕生した。したがって、19世紀から20世紀にかけて形成された近代都市について批判的に検討することは、現代の都市を知るための不可欠な要件である。このような都市の空間的文脈を理解した上で、近年の都市再開発は以前の都市のあり方を大きく塗り替えるような動きを見せつつあることにも注意を払う必要がある。こうした潮流は、オリンピックや万博という巨大なメディア・イベントによっても拍車がかけられている。そして、都市のリアリティはさまざまな作品やメディアによって表現され、私たちの都市に対するイメージを形作っている。
本授業では、現代都市を変容させるさまざまな論理とそれを可能にする技術や物質に着目しながら、現代都市のリアリティを多角的に描き出していく。
【到達目標】
都市に関する基礎的な社会学的知見を理解する
都市空間が抱える諸問題について社会学的観点から考察し、マクロな社会変容と結びつけながら多角的に解釈できる。

2．授業内容
第1回　都市研究とは何か
第2回　都市はいかに危険な空間だったのか
第3回　都市はいかに計画されたのか
第4回　都市はいかなる社会か
第5回　都市はいかに「復興」したのか
第6回　都市はどのように破壊されたのか
第7回　都市はいかに「成長」したのか
第8回　都市を舞台にした政治とはどのようなものか
第9回　都市計画にはいかなる限界があるのか
第10回　都市における「文化」とは何か
第11回　「都市再開発」はなぜ求められているのか
第12回　郊外は本当に「均質」なのか
第13回　都市に住むとはいかなる経験か
第14回　都市をいかに考えるか
授業内容の配分・順番は、多少変更の可能性があります。

3．履修上の注意
資料を紙で配布しないため、タブレットまたはPCを持参して授業を履修することを推奨する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業のレジュメで紹介する参考文献にも目を通すこと。

5．教科書
指定しない。

6．参考書
町村敬志，2020，『都市に聴け』（有斐閣）
平井太郎･松尾浩一郎･山口恵子編，2021，『地域と都市の社会学』（有斐閣）

7．課題に対するフィードバックの方法
優れたコメントシートについては次回授業冒頭に紹介してコメントし、学生に対してフィードバックを与える。また、授業中適宜学生に対して質問し、応答を求める。

8．成績評価の方法
コメントシート40%、レポート60%
毎回の講義に対してコメントシートの提出を求め、理解度確認を行うとともに成績評価に反映させる。コメントシートは紙で配布し、授業終了後に回収する予定である。
（なお、受講人数次第でレポートに代えて期末試験とする可能性がある）

9．その他

科目ナンバー：(IC)PSY331J

人間性心理学

2単位	3年次	上西　智子

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
人間性心理学は20世紀中葉のアメリカにおいて立ち上げられた心理学の一大潮流です。当時のアメリカ心理学界の潮流はワトソンやスキナーらの行動主義心理学が第一勢力、フロイト派の精神分析が第二勢力で、人間性心理学は第三勢力の心理学にあたります。人間性心理学の特徴は、人間が持つ潜在的可能性に着目し、その実現に至る過程を研究して手助けする点です。本授業では、人間性心理学を体系的に紹介します。そして人間性心理学の理論を用いた現象学的な質的研究やカウンセリング等のワークショップを行いながら理解を深めます。毎回の授業履修を通して心理学的知識に基づいた生き方の問題に主体的に取り組む態度を養ってください。
【到達目標】
①精神分析と行動主義の考え方を踏まえ、人間性心理学が登場した歴史的背景と展望を理解できている。
②人間性心理学の理論的アプローチを理解できている
③人間性心理学を用いた実践領域を理解できている
④質的研究法を理解できている

2．授業内容
第1回　ガイダンス・授業の進め方
第2回　行動主義心理学
第3回　精神分析
第4回　人間性心理学の基本
第5回　人間性心理学の理論的アプローチ（現象学的アプローチ）
第6回　人間性心理学の理論的アプローチ（パーソンセンタード・アプローチ、フォーカシング）
第7回　人間性心理学の理論的アプローチ（欲求段階説・自己実現、ゲシュタルト療法、交流分析他）
第8回　人間性心理学を用いた実践領域（学校教育）、質的研究法について
第9回　人間性心理学を用いた実践領域（医療・福祉・保育）、研究倫理
第10回　質的研究法の種類
第11回　質的研究法をやってみる
第12回　人間性心理学を用いた実践領域（キャリアカウンセリング）
第13回　ミニ研究発表
第14回　まとめ、ミニ研究発表・講評
※講義の内容理解度に応じて、講義内容を変更することがあります

3．履修上の注意
・コミュニケーション（聴く・話す）に対して自発的、積極的に取り組んでください
・毎回の講義では、個人ワークとペアワーク・グループワークを行い学びを深めます
・毎回の講義で課題もしくはリアクションペーパー（成績評価あり）を提出してもらいます
・下記の項目は厳しくチェックし評価点に反映させます。
①他の学生の迷惑行為（私語、飲食、スマホ、携帯、ゲーム機等の使用）
②遅刻、早退、途中退出、③講義の中でワークショップを行います。チームメイトに迷惑をかけないようにしてください。
・5回欠席した場合は評価不能とします
・PCは毎回持参してください

4．準備学習（予習・復習等）の内容
準備学習として、指定する文献等を講読しレポートを作成頂くことがあります。講義内で実施するワーク等がおわらなかった場合は宿題とします。期末課題はミニ研究として、自身の関心事に基づいた質的研究を行っていただきます。調査・分析・レポート作成は授業外時間での個人ワークになります。

5．教科書
特になし。講師が用意したスライドと文献を使用します。適宜、参考書籍を紹介します。

6．参考書
日本人間性心理学会編『人間性心理学ハンドブック』創元社、2012年
中野明『人間性心理学入門』アルテ、2019年

7．課題に対するフィードバックの方法
課題へのフィードバックは授業で全体に公表して行います。必要に応じて授業時間外にもOh-o!Meijiやメールなどを活用して行います。

8．成績評価の方法
授業参加姿勢（課題・リアクションペーパー）42%、ミニ課題30%、期末課題28%（期末課題未提出の場合は評価不能）

9．その他

科目ナンバー：(IC)INF331J

認知科学Ⅰ

２単位	３年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
(概要)
「人間はコンピュータなのか」という疑問をもとに、人間の認知プロセスを情報論的に考察する。そして、近い将来に心をもつ機械が作れるだろうかとか、人間は結局のところ機械なのかという、根本的問題について深く考える。生成ＡＩなどの人工知能開発の具体例をふまえて解説します。
(到達目標)
次の項目を履修の目標とする。
・情報処理機械で人間の行動を模倣するという試みを知る
・人工知能技術の現状、とくに生成ＡＩについて概要を把握する
・きたるべき人工知能との共生社会を展望できるようにする
・人間の思考や知識の本質について考えられる素地を形成する

２．授業内容
（１）導入～人工知能ＡＩのブームを迎えて
（２）認知科学の基盤１：基本理念と研究方法
（３）認知科学の基盤２：研究対象としての心
（４）言語理解の探究～言語を話す機械の開発
（５）知識システムの野望と現実
（６）シンボリズム～論理と言語に向いたＡＩ
（７）シンボリズムの拡張～数的処理の導入
（８）コネクショニズム～学習と画像処理に向いたＡＩ
（９）連想型ネットワーク～記憶の本質を問う
(10) 階層型ネットワーク～識別や認識の実現
(11) コネクショニズムの課題～第３次ＡＩブームの行方
(12) 人間の知性にせまる～身体性の再考
(13) 残された課題と将来展望～量子コンピュータを契機に
(14) まとめ：我々の意識の役割を考える

３．履修上の注意
ふだんの学習があれば、期末定期試験は心配する必要はないでしょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オーメイジで指定する授業資料にもとづいて十分な予習・復習をしたうえで、授業を着実にこなしてください。
予習・復習で生じた疑問に関しては、オーメイジのディスカッション機能で質疑応答を行います。

５．教科書
オーメイジで指定された情報にもとづいてネット上の授業資料を閲覧します。
一部の授業資料はオンデマンド配信します。

６．参考書
石川幹人『心と認知の情報学～ロボットをつくる・人間を知る』勁草書房

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業に加え、オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法
３回提出する小課題によって４割、期末試験（持込不可）によって６割の割合で評価する。
小課題や試験では、授業内容の本質的な理解の程度を評定する。
授業中に提出されたコメントシートの内容によって、＋αの加点をすることがある。

９．その他
オーメイジのディスカッション機能で学生どうしの議論をおこなう場を設ける。

科目ナンバー：(IC)INF331J

認知科学Ⅱ

２単位	３年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
(概要)
「人間はウソつきなのか」という疑問をもとに、人間の認知プロセスを情報論的に考察する。そして、何が真実として実在しているのかという、根本的問題について深く考える。人間社会の裏表の具体例をふまえ、フェイク情報への対処方法について解説する。
(到達目標)
次の項目を履修の目標とする。
・ウソにまつわる認知科学的諸事項を学ぶ
・ウソをテーマに人間科学や社会科学を領域横断的に把握する
・真偽に関する哲学的な議論を展望し、独自の世界観を見出す
・ウソやフェイクに対峙する適切な姿勢を身につける
・ウソを超えた信頼関係形成の考え方を理解する

２．授業内容
（１）ウソをめぐる問題の背景
（２）“ホントの自分”とは何か
（３）動物のだまし行動から学ぶ
（４）司法の現場におけるウソ
（５）子どものウソから学ぶ
（６）自己欺瞞（自分だまし）
（７）ウソの利用～魔術・占い・奇術
（８）ウソの悪用～カルト・洗脳・心理操作
（９）ウソとホントの間１～疑似科学商法
(10) ウソとホントの間２～超心理学
(11) ウソを超える１：信頼に注目
(12) ウソを超える２：信じて信じない
(13) まとめのトピック～フェイクニュース
(14) まとめのトピック２～試験準備等

３．履修上の注意
ふだんの学習があれば、期末定期試験は心配する必要はないでしょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オーメイジで指定する授業資料にもとづいて十分な予習・復習をしたうえで、授業を着実にこなしてください。
予習・復習で生じた疑問に関しては、オーメイジのディスカッション機能で質疑応答を行います。

５．教科書
石川幹人『だからフェイクにだまされる～進化心理学から読み解く』(ちくま新書)
一部の授業資料はオンデマンド配信します。

６．参考書
箱田裕司ほか『嘘とだましの心理学』有斐閣
村井潤一郎『嘘の心理学』ナカニシヤ出版
リヴィングストン・スミス『うそつきの進化論』ＮＨＫ出版

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業に加え、オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法
３回提出する小課題によって４割、期末試験（持込不可）によって６割の割合で評価する。
小課題や試験では、授業内容の本質的な理解の程度を評定する。
授業中に提出されたコメントシートの内容によって、＋αの加点をすることがある。

９．その他
認知科学Ⅰを履修登録した者のみが履修可とする。
オーメイジのディスカッション機能で学生どうしの議論をおこなう場を設ける。

科目ナンバー：(IC)SOC311J

ネットワーク社会論

2単位	3年次	中里　裕美

1．授業の概要・到達目標

本講義では、(1) ネットワーク社会における人と人、人と集団、あるいは集団と集団の間を結ぶ社会的なつながり（社会ネットワーク）を認識し、理解を深めること。また、(2) 社会ネットワークを資本として捉え（＝社会関係資本：ソーシャル・キャピタル)、それがどのように私たちの社会生活に関わっているのか、あるいは私たちの行動や思考にどのような影響を及ぼすのか、といった今後の日常生活ならびに社会への貢献に役立てられる思考力と応用力を養うことを目指しています。

本講義ではまず、社会学における行為の捉え方や、行為がどのように調整されて社会秩序が形成されるのかについて解説することから始めます。そして、とくに行為者を人とする社会ネットワーク、つまり個々の人間が持つつながり＜人付き合い＞に焦点をあて、そのつながりの機能、つながりの構造を科学的に把握するための手法である「社会ネットワーク分析」の基礎的概念と実際の指標（たとえば、中心性、密度、クラスター係数等）の求め方、さらに社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）論についても学びます。これらをふまえ、社会ネットワークが行為者の行動や思考に影響を及ぼすメカニズムについて理解してもらうことを到達目標とします。

2．授業内容

第1回：イントロダクション（社会ネットワークとは）〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第2回：行為とコミュニケーション（1)：ネットワーク社会論の原点―自己・他者・集団
第3回：行為とコミュニケーション（2)：世界は狭い？〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第4回：多様な＜人付き合い＞とその機能（1)：ソーシャル・サポート
第5回：多様な＜人付き合い＞とその機能 (2)：「弱い繋がりの強さ」理論〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第6回：ネットワークの構造とその中での個人の優位性（1)：ソーシャル・キャピタル論の系譜とその効用
第7回：ネットワークの構造とその中での個人の優位性（2)：「構造的隙間」理論〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第8回：集団内のネットワークの構造：視点を「個人」から「集団」に拡げる
第9回：社会ネットワーク分析の基礎：インシデンス行列と3種類のネットワーク情報〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第10回：社会ネットワークがもたらす諸効果（1）会社・組織
第11回：社会ネットワークがもたらす諸効果（2）地域コミュニティ〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第12回：ICTと社会ネットワーク（1)：情報縁
第13回：ICTと社会ネットワーク（2)：オンライン空間での互酬性の規範と信頼の形成〔メディア授業（オンデマンド型)〕
第14回：まとめ
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

この科目は、クォーター（7週）完結型授業です。週に2コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。オンデマンド形式により実施する回については、毎週水曜日にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信するので、次回の対面授業の前日までに必ず受講してください。

なお、毎回の講義内容に対するリアクションペーパーの提出を求め（オンデマンド形式の場合には、Oh-o!Meijiのアンケート機能を活用した)、出席および理解度確認を行います。また、本講義ではネットワーク指標を求めるうえで、受講生にはベーシックな数学の計算をしてもらいます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

復習として、授業中に配布するレジュメおよび参考書の該当箇所に目を通しておくこと。

5．教科書

特に指定しない。レジュメを配布する。

6．参考書

『ネットワーク分析―何が行為を決定するか』安田雪著（新曜社）1997年
『リーディングスネットワーク論―家族・コミュニティ・社会関係資本』野沢慎司編・監訳（勁草書房）2006年
上記のほか、授業内にて随時紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへの講評を対面授業の回に行います。

8．成績評価の方法

平常点（30%)、定期試験（70%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)PSY311J

パーソナリティ心理学

2単位	3年次	萩原　千晶

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
パーソナリティ心理学は，個人差にかかわる様々な現象を理解・探求する学問である。本講義では，実際の研究知見を交えながらパーソナリティ心理学を概説することにより，学問としてのパーソナリティの研究法や，パーソナリティ心理学の理論的枠組みを紹介する。授業は講義形式で行い，「まとめ回」では教場での小レポートを予定している。他にも調査体験などを実施する可能性がある。
【到達目標】
パーソナリティ心理学の基本的な考え方を理解し，基礎的な知見を理解・習得すること。また学問としてパーソナリティを科学的に研究する手法について理解すること。

2．授業内容

第1回　オリエンテーション・心理学の研究方法
第2回　パーソナリティ・個人差
第3回　特性論・類型論
第4回　Big Fiveパーソナリティ
第5回　まとめ回①
第6回　パーソナリティの遺伝
第7回　パーソナリティの社会・進化的要因
第8回　パーソナリティと病理
第9回　まとめ回②
第10回　パーソナリティと対人関係
第11回　パーソナリティと健康・パフォーマンス
第12回　パーソナリティの男女差・地域差
第13回　まとめ回③
第14回　期末試験
※変更がある場合，適宜お知らせします。

3．履修上の注意

授業の感想・質問を毎回受け付けます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】以下の参考書をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
【復習】スライドを読み返し習得することで，これからの授業に役立てること。

5．教科書

毎回の授業で資料を配布します。

6．参考書

『性格とは何か より良く生きるための心理学』小塩真司（中公新書）
その他，授業内で紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業の感想・質問についての回答は，「まとめ回」にて行います。

8．成績評価の方法

期末テスト（70%)，まとめ回（30%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)ECN311J

不確実性下の人間行動

2単位	3年次	後藤　晶

1．授業の概要・到達目標

授業の概要：

人生は不確実なことの連続である。普段の消費や投資といった経済行動から、進学や結婚といった人生に関わる重大な意思決定も、わからないことやあいまいなことがある状況で行わなければならない。このような状況下において我々はどのように意思決定を行っているのだろうか。

本講義では、現実の人間の経済的意思決定に立脚した行動経済学の基礎について学ぶ。はじめに行動経済学が前提とする人間モデルについて紹介した上で、統計データの捉え方を紹介する。さらに、いわゆる「社会科学」の中でも注目を浴びている「実験」の方法と課題について検討する。続いて、行動経済学の知見により明らかになりつつある人間行動の特徴について説明し、不確実性とリスクの違いについて整理した後に経済学における幸福に関する議論と実証研究に焦点を当て、時間に対する人間の認識と経済的意思決定の関係について検討する。そして、複数の主体の意思決定によって結果が相互依存的に変わるゲーム理論およびゲーム実験を紹介し、経済学的予測と現実の人間行動の差異、さらには他者を考慮する選好である社会的選好についても議論する。

これらの講義を通じて、現代社会を生き抜くための基礎となる人間行動に関する知識と考え方を獲得することを目的とする。

到達目標：

1. 行動経済学の基礎的な考え方を理解することができる。
2. 自身の意思決定に存在するバイアスを理解し、日頃から気をつけることができる。
3. 行動経済学の考え方を踏まえて、自身の興味のある社会問題や人間行動の分析・理解ができるようになる。

2．授業内容

［第１講］イントロダクション
［第２講］直感と理性
［第３講］判断・意思決定におけるバイアス①：フレーミング効果
［第４講］判断・意思決定におけるバイアス②：利用可能性ヒューリスティックと代表性ヒューリスティック
［第５講］判断・意思決定におけるバイアス③：アンカリング効果とその応用
［第６講］判断・意思決定におけるバイアス④：プロスペクト理論の基礎
［第７講］判断・意思決定におけるバイアス⑤：プロスペクト理論の応用
［第８講］リスク・不確実性と自由意志
［第９講］幸福と経済学
［第10講］時間選好
［第11講］ゲーム理論の考え方・ゲーム実験と社会的選好①
［第12講］ゲーム実験と社会的選好②
［第13講］ゲーム実験と社会的選好③
［第14講］行動経済学の社会応用に向けて・実験社会科学入門
※ただし、履修状況により変更することがある。

3．履修上の注意

各自の生活や興味のあるテーマへの応用という観点から考えながら受講することを期待する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

適宜紹介する資料・文献を元に予習・復習をすること。

5．教科書

配布資料を用意する。

6．参考書

友野典男、2006、『行動経済学 経済は「感情」で動いている』、光文社新書

ダニエル･カーネマン（著）村井章子（訳）友野典男（監修）、2014、『ファスト&スロー』（上下巻）、早川書房

その他適宜紹介する

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義内で、リアクションペーパーへのコメントを行う.

8．成績評価の方法

平常点20%、知識確認テスト30%、小レポート10%、定期試験40%

平常点：講義前アンケート、リアクションペーパー、その他授業中に行う実験の回答状況など、講義参加の積極性を評価する。

知識確認テスト：毎回の講義で知識確認のための簡単な確認テストを課す。

小レポート：400-600字程度のレポートを課す。

定期試験：学期末試験時に対面形式で実施する。

9．その他

本講義の応用となる「情報と経済行動」を秋学期に履修することが望ましい。

科目ナンバー：(IC)PSY351J

不思議現象の心理学

2単位	3年次	蛭川　立

1．授業の概要・到達目標

呪術・宗教的世界観においては、人間や、その他の動物や、あるいは木や岩などには、霊魂が宿っていると考えられてきた。人間が死ねば、霊魂は肉体から離れ、祖先の世界に行き、あるいは別の子どもの肉体に入って転生する。

やがてインドやヨーロッパで哲学が発達し、科学が発達する中で、肉体と霊魂、物質と精神についての研究が進んだ。しかし、物質や肉体は客観的に研究できるが、精神や霊魂は客観的な科学の対象にはならない。19世紀の西欧では、それでも精神や霊魂を科学的に解明しようとする研究から、心霊研究という分野が発達し、そこから心理学と超心理学が対になって派生した。

心は物質ではないので、原子や分子のように、客観的に観察することができない。しかし、遠い場所で起こった事故を夢に見たり、祈るだけで病気が治ったという報告を、統計的に分析することはできる。このような「超常現象」の研究が進められてきた結果、テレパシーやPK（念力）と仮定される現象が統計的に有意なレベルで作用することが明らかになってきた。しかし、心理現象は物理現象ではないので、示せるのは統計的な傾向だけで、その物質的メカニズムは解明できない。昔の人々は雷が光り鳴るのを見聞きし、それを「超常現象」だと考えた。科学が発達した現代では、電気は超常現象ではなくなったどころか、もはや電子機器なしの生活など考えられない。同じように、テレパシーやPK（念力）のような「超常現象」も、科学がさらに発展すれば「通常現象」として理解できるようになるのかもしれない。じっさい、20世紀以降に発達してきた量子力学などの現代物理学によって、自然法則に反するような「超常現象」も科学的に説明できるという仮説もある。

いっぽう、人間の認識には、自然現象や心理的経験の中に意味のある因果関係を読み取りたいという認知バイアスが存在する。夢をお告げだと解釈したり、聖地の水を飲んで病気が治ったという解釈の多くは、偶然に対する過剰な意味づけでもある。にもかかわらず、そこに科学的な根拠があると主張するものを、疑似科学という。

しかし、夢で見た出来事と現実の出来事が一致した場合、それを全くの偶然だと証明するのも難しい。社会的な事件の背後に隠された陰謀が存在するといった考えを、事実に反する妄想として完全に否定することも難しい。科学と疑似科学の間に、明確な線引きをすることはできるのだろうか。

また、理屈では当たらないと思いながらも占いを気にしてしまうのも自然な感情であり、こうした認知や思考のパターンには、心の安定や社会の維持、あるいは芸術や宗教などの精神文化の発展といった、積極的な機能もある。

そして、客観的な科学がいくら進歩しても、心や意識のような主観的体験を脳という物質のはたらきに還元することはできない。曲がれという意志でスプーンが曲がったと主張すれば「超常現象」だとしてその真偽が議論になるが、曲がれという意志で指が曲がるのは、あまりにも当たり前の「通常現象」だから議論にもならない。しかし、指を曲げようとしている意識それ自体は、脳ををいくら解剖しても見つけることができない「超常現象」なのである。こうした認識論的な議論にも触れたい。

到達目標

1．一見、不思議に見える現象を解明していくことで、人間の心の働きがより広い視点から理解できるようになる。
2．科学的なものの考え方と、その限界が理解できるようになる。

2．授業内容

第１回：脳の中の幽霊（全体の展望）
第２回：心霊研究から心理学へ：科学史的背景
第３回：行動主義・統計学・超心理学
第４回：因果性・共時性・テレパシー
第５回：呪術的治療とプラセボ（偽薬）効果
第６回：占術の象徴論
第７回：錯覚と幻覚
第８回：認知バイアスと妄想・陰謀論と終末論
第９回：知覚と透視
第10回：運動と念力（PK）
第11回：記憶・予知・自由意志
第12回：現代物理学における心物問題
第13回：意識研究における心身問題
第14回：科学・未科学・疑似科学（全体のまとめ）

3．履修上の注意

脳神経科学や心理学、認知科学に関連する科目を履修しておくと、講義は理解しやすくなるだろう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

実際の授業内容は、このシラバスに書かれた計画とは多少、異なるものになるかもしれないが、最新の進行状況は別途「蛭川研究室」のサイトにアップし、更新していくので、随時チェックすることをお勧めする。

授業の資料はWEB上にアップしてあり、授業の予定表から資料にリンクが張ってあるので、教室での授業だけでなく、随時、予習も復習もできる。それぞれのページには質問やコメントを書き込むこともできる。資料がアップしてあるページは「蛭川」「不思議現象」「2026」などと入力して検索すれば容易に見つかる。

5．教科書

特に定めない。

6．参考書

『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』蛭川立（春秋社）2002年（新装版は2009年）

7．課題に対するフィードバックの方法

講義に関連する画像などの資料は、授業に連動したWEBサイトにアップする。授業に対する質問やコメントにおうじて、サイトの内容を随時、加筆修正していく。

8．成績評価の方法

期末試験または期末レポート（100%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAW391J

法コミュニケーション

２単位	３年次	**堀田　秀吾**

１．授業の概要・到達目標

私たちの生活は、法と深い関わりがある。そして、その法はことばを中心としたコミュニケーションによって成り立っている。本科目では、法という文脈におけるコミュニケーションの諸相を、言語学、心理学、社会学、法学の知見を援用しながら考察していく。これにより、法コンテクストにおけるコミュニケーションだけでなく、様々な日常のコミュニケーションの客観的分析方法を受講生が習得することを期待する。

２．授業内容

授業は基本的に講義形式で行う。毎回、プリントを配布し、講義内容に関連した作業（課題）を授業内で行ってもらい、そのプリントを提出してもらう。

第１回：言語と法（概説）
第２回：文書分析
第３回：筆跡鑑定
第４回：裁判と心理言語学
第５回：類似商標の分析
第６回：警告表示
第７回：ことばの犯罪１
第８回：オレオレ詐欺の言語学
第９回：裁判員裁判とことば１
第10回：裁判員裁判とことば２
第11回：判決文とことば
第12回：法方言学
第13回：司法通訳
第14回：法と言語の諸問題
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

講義形式の授業であるが出席を重視する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書・参考図書を読んでくると理解が深まる。

５．教科書

特になし。

６．参考書

橋内武・堀田秀吾（編）『法と言語　法言語学へのいざない』（くろしお出版、2012年）

７．課題に対するフィードバックの方法

８．成績評価の方法

平常点20％、授業への取り組み20％、期末試験60％。期末試験は教室での筆記試験。穴埋め問題一問と筆記問題二問。

９．その他

履修にあたっては、法学に関する知識を有していることを前提としない。コミュニケーションに高い関心があれば良い。

科目ナンバー：(IC)SOC311J

リスク社会論

２単位	３年次	**小林　秀行**

１．授業の概要・到達目標

「リスク社会」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。この言葉は、現代社会の特徴を説明するものの1つとして、社会学者のウルリッヒ＝ベックが提唱した言葉です。現代社会はそれ以前の社会に比べ、自由や権利の拡大、科学技術の進展といった点で、大きな躍進を果たしてきました。リスクを"飼いならす"とも表現されるように、そのなかでは様々なリスクが科学的に解明され、その対策を整えていくことを通じて、我々は社会をより安全なもの・安心なものへと作り変えてきています。しかし、その反面で、そうした躍進と不可分に格差の拡大、自己責任論の台頭、地球温暖化の進展、大規模事故の深刻化など、社会の様々な部分でリスクの拡大を受け容れざるを得ないという課題を抱えてきてもいます。本講義は、「リスク社会」をめぐる議論を切り口に、「リスク」「監視」「自由」といった現代社会のキーワードを取り上げていくことで、現代社会とは如何なるものか学んでいくことを目的としています。講義の中心となるのは社会学などにおける理論を学ぶこととなりますが、リスク社会は皆さんが生きている社会そのものでもあり、理論だけではなかなか実感がわかないところもあるかと思います。そこで、対面講義ではより実践的な話題を取り上げ、ディスカッションの時間を設けるなどして、体感的にリスク社会を理解できる講義として設計しています。

到達目標は以下の3点とします。①「個人化の進展がリスクを拡大させていることを理解する」、②「監視のもつ両義性が監視社会の展開を後押ししていることを理解する」、③「自由を使いこなすことの困難を理解する」。

２．授業内容

第01週　第01回　イントロダクション／リスク社会論①：リスク社会論概論
第01週　第02回　リスク社会論②：ウルリッヒ・ベック〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第02週　第03回　リスク社会を生きる①：リスク社会における友達
第02週　第04回　リスク社会論③：アンソニー・ギデンズとニクラス・ルーマン〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第03週　第05回　リスク社会を生きる②：リスク社会における恋愛
第03週　第06回　監視社会①：パノプティコンが描いたもの〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第04週　第07回　リスク社会を生きる③：リスク社会における結婚
第04週　第08回　監視社会②:管理社会と警察国家〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第05週　第09回　リスク社会を生きる④：リスク社会における孤独
第05週　第10回　監視社会③：監視社会〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第06週　第11回　リスク社会を生きる⑤：リスク社会における若者
第06週　第12回　自由と責任①:自由と責任の時代〔メディア授業（オンデマンド型）〕
第07週　第13回　リスク社会を生きる⑥：リスク社会における災禍
第07週　第14回　自由と責任②：自由の剥奪と強制収容〔メディア授業（オンデマンド型）〕
【担当教員の判断により、講義内容は多少変更することがあります】

３．履修上の注意

○この科目は、クォーター（７週）完結型授業です。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施します。
○一部の例外を除いて、対面講義とオンデマンド講義はそれぞれ並行して進めていきます。オンデマンド講義は毎週の対面講義終了後にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信しますので、各自で受講をお願いします。
○対面講義ではディスカッションの時間を設けています。履修の際には、このことを理解したうえで参加をしてください。
○資料およびリアクションペーパーはすべて、oh-meijiを通して実施します。紙媒体での配布は行いません。
○各週の講義に対してリアクション・ペーパーを課します。リアクション・ペーパーの未提出が4回以上となった場合、単位認定を行わないので注意すること。リアクション・ペーパーについては理由に関わらず遅延等は一切認めません。

忌引・公式試合・病気療養による登校禁止等についても基本的には同様の扱いとしますが、これらが複数回重なる場合はそれぞれの事情を考慮して判断しますので、確認可能な資料を提示してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

＜予習＞
予習として、新聞やTV・webニュースを確認し、時事問題について自分なりの意見を考えること。講義内で各学生の意見を確認することはしないが、時事問題という実際の課題に触れておくことで、リスク社会論という学問と実際の社会問題を結び付けて考えることが可能となり、講義の理解をより深めることができる。
＜復習＞
復習については、各回が終了するごとに講義資料を読み返し、不明な部分があれば講義内での質疑応答の時間もしくは講義前後の休憩時間中に質問を行うこと。

５．教科書

特に定めない。担当教員の作成した資料にそって講義を進める。

６．参考書

橘木俊詔ほか編『新装増補 リスク学入門1 リスク学とは何か』岩波書店、2013年
大屋雄裕『自由か、さもなくば幸福か？二一世紀の＜あり得べき社会＞を問う』、筑摩書房、2014年
ほか適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

フィードバックについては、主としてoh-meijiを通じて全体向けに行う。

８．成績評価の方法

期末試験（100％）
○持込不可
○試験範囲は14回の講義すべてとなります。

９．その他

特になし。

外国語科目群

英語

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A I （基礎）

1単位	1年次	根津　明広

1．授業の概要・到達目標
This course is designed to give students the opportunity to listen to a wide variety of English in the 'real' world. Listening strategies and tips are included. Another side of this course will help students develop fluency and confidence in spoken English. Students will develop and improve their own speaking skills through activities such as: pair and group discussions, presentations and speaking assessments. There will be many activities in class, 'Pair Work and Group Work,' 'Reading Activities,' 'Presentations,' and 'Writing Practice.'

The textbook which is assigned here is to give students many opportunities to think about many important daily situations to broaden students mind to the English world. The textbook focuses on any social situations with the variety of angles on its skills, including the values people have, their communication style and so on. Through these subjects, Students will understand their own culture as well.
Goal：In the end of the semester, all students will be familiar with vocabulary related to the score, 500 on TOEIC.
And they understand the culture of English Language and its countries.

2．授業内容
1．Introduction
2．Unit 1: Sense of Place
3．Unit 1: Sense of Place
4．Unit 1: Sense of Place
5．Unit 2: Something Borrowed
6．Unit 2: Something Borrowed
7．Unit 2: Something Borrowed
8．Unit 3: Language of Symbols
9．Unit 3: Language of Symbols
10. Unit 3: Language of Symbols
11. Unit 4: Science of Science Fiction (11. Presentation Workshop 1)
12. Unit 4: Science of Science Fiction (12. Presentation Workshop 2)
13. Unit 4: Science of Science Fiction (13. Group Presentation 1)
14. Wrapping Up (14. Group Presentation 2)

3．履修上の注意
Attendance and participation to the class work will be very important and strict. Review quizzes will be given to students on every unit which there won't be any make up quizzes. All students must accomplish all assignments.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
1. Reviewing what we do in class is the most important. Students have to review the unit, particularly on listening and vocabulary in order to accomplish well on the quiz done after each unit finished.
2. Each unit offers the opportunities to think an issue critically. Students will be prepared to speak out for the issue before they come to the class followed by the instructions from the teacher

5．教科書
Reflect -Listening and Speaking4-
By Paul Dummett
(National Geographic Learning (Cengage))
ISBN:978-0-357-44914-1

6．参考書
None

7．課題に対するフィードバックの方法
1. Each Quiz is given in Digital Forms, and Answer keys & scores are shown after the test.
2. Comments are given right after the presentations.

8．成績評価の方法
Quiz（1-4）100%（各25%）
または
Quiz（1-3）60%（各20%）
Speech Draft----------20%
Presentation ----------20%
学生のレベルによって変更する場合がある。
S　Excellent（９０－１００%）
A　Good（８０－８９%）
B　Fair（７０－７９%）
C　Pass（６０－６９%）
F　Unsatisfied（５９%以下）& 5 and more absences

9．その他
The content「授業内容」might be changed slightly depending on the number of students & the level.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A I （基礎）

1単位	1年次	近山　和広

1．授業の概要・到達目標
　このクラスでは、テキストを中心に身近な話題を英語で表現出来るよう学習する。授業ではペア・ワークやグループワークによるアクティヴィティを行い、クラスメイトとのコミュニケーションを図ります。またTOEICのリスニングの練習問題も行い、リスニング力を高めます。学期の最後にはプレゼンテーションを行えるようにプレゼンテーションスキルも学んでいきます。
〈到達目標〉
・リスニングとクラスメイトとの会話を通じて、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
・プレゼンテーションの構成、スキルを学び、英語のプレゼンテーションスキルを養う。

2．授業内容
1．Introduction
2．Getting Started / Unit 1 / TOEIC Practice / Presentation introduction
3．Unit 2 / TOEIC Practice / Preparation for Presentation
4．Unit 3 / TOEIC Practice / Preparation for Presentation
5．Quiz 1（Getting Started - Unit 3 + TOEIC Listening）
6．Unit 4 / TOEIC Practice / Preparation for Group Presentation
7．Unit 6 / TOEIC Practice / Preparation for Group Presentation
8．Unit 7 / TOEIC Practice / Preparation for Group Presentation
9．Quiz 2（Unit 4 - Unit 7 + TOEIC Listening）
10. Presentation / class assignment
11. Presentation / class assignment
12. Presentation / class assignment
13. Rreview Quiz (Getting Started - Unit 7 + TOEIC Listening)
14. Make-up / Feedback

3．履修上の注意
会話のクラスなので、授業中は積極的参加、発言をしてください。テキストがないとペアワークが出来なくなるので、テキストは必ず持参すること。（タブレット等のデバイスでのテキスト使用はしないでください。）テキストを購入していない、毎回持参しない等は授業参加態度の評価に影響します。
遅刻３回で１回の欠席となり、欠席回数が学期全体の３分の１を超えると単位取得は出来ません。
クラスで使用する資料のアップロードおよび連絡事項はOh-o ！ Meijiのポートフォリオを通じて行います。
初日のイントロダクションで詳しい説明をします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業で扱うキーフレーズは復習して使えるようにしておくこと。
プレゼンテーションでは資料を参考に調査、リハーサルを十分に行うこと。

5．教科書
FIFTY-FIFTY Book 1　by Warren Wilson / Roger Barnard
(PEASON Longman)

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
Oh-o! Meijiの「教員とのメッセージ」にPresentation のフィードバックを掲載します。学生は各自確認することができます。
QuizはGoogle Formsによって行われるので、正解となる解答とスコアは提出後に表示されます。
多くの学生が間違えた解答に関しては翌週に説明が行われる。

8．成績評価の方法
授業参加態度　15%
Quiz 1　15%
Quiz 2　15%
Review Quiz　30%
Presentation　25%

9．その他
クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがある。詳しい説明は初日に行われる。
教員のメールアドレス：kazuchi711@gmail.com

科目ナンバー：(LA)LAN111J

English Skills A Ⅰ （基礎）

1単位	1年次	**高坂　映子**

1．授業の概要・到達目標
[授業の概要]
高校までの英語を総復習しながら英語の４技能（読む・聞く・書く・話す）をバランスよく学習する。
[到達目標]
(1) 基礎的な語彙・文法を習得できる。
(2) 基礎的な英文の聞き取り・表現・読解ができる。
(3) 今後の英語学習の土台を築くことができる。

2．授業内容
第１回　イントロダクション等
第２回　Unit 1: Welcome to the “Big Apple”/ 現在形（1）Grammar
第３回　Unit 1: Welcome to the “Big Apple”/ 現在形（2）Listening & Reading
第４回　Unit 2: What’s the Boss Like?/ 代名詞（1）Grammar
第５回　Unit 2: What’s the Boss Like?/ 代名詞（2）Listening & Reading
第６回　Unit 3: Masa’s First Day on the Job/ 前置詞（1）Grammar
第７回　Unit 3: Masa’s First Day on the Job/ 前置詞（2）Listening & Reading
第８回　Unit 4: Summer Fun/ 過去形（1）Grammar
第９回　Unit 4: Summer Fun/ 過去形（2）Listening & Reading
第10回　Unit 5: Hotel Guest Satisfaction/ 可算・不可算名詞（1）Grammar
第11回　Unit 5: Hotel Guest Satisfaction/ 可算・不可算名詞（2）Listening & Reading
第12回　Unit 6: Brainstorming/ 進行形（1）Grammar
第13回　Unit 6: Brainstorming/ 進行形（2）Listening & Reading
第14回　a：まとめ等　　b：試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
詳細は初回授業時に説明します。
(1) 授業には必ずテキストを持ってくること。
(2) 授業には集中して取り組み、居眠り・スマートフォンの使用・私語・無断退出等厳禁。
(3) 試合等での欠席は必ず早めに連絡や公欠届等の提出をすること。
公欠届が提出された場合も出席とは認められません。
いかなる事由でも欠席分はレポートを提出していただきます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストの音声をダウンロードし、予習・復習を行ってください。
あらかじめ指示した箇所については必ず準備をした上で授業に臨んで下さい。
テキストやテキストの音声トラック、配布した資料を用いて
次回授業時までに前回の授業範囲の表現を復習し、重要表現を覚えること。
言語の上達にはスポーツ同様日々の鍛錬が欠かせません。
クラス外でも英語に接するように心掛けてください。

5．教科書
『English Missions! Basic』　Robert Hickling・臼倉　美里（金星堂）

6．参考書
特に定めない。
授業には英和辞書を持参すること。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜実施する他、第14回授業aモジュールにてまとめや全体講評を行う。

8．成績評価の方法
平常点（授業への参画度、リアクションペーパーやレポート等の提出物による）40%　　試験60%
遅刻・早退は30分まで、交通機関等の遅延による遅刻は1/2遅刻とする。
遅刻１回で1/3欠席と換算し、実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とする。

9．その他
詳細については初回イントロダクション時に説明します。
Oh-o! Meijiのアンケート欄を随時更新。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	**矢野　磯乃**

1．授業の概要・到達目標
The aim of the course is to develop students’ overall English proficiency centered on communicative competencies to appropriately express themselves in English in front of others. Classes are focused on extensive English-speaking practice in the form of discussion, presentations, interviews, and other activities. Students will also perform tasks that require them to analyze their own and others’ speaking performance.
Students will engage in active learning by researching and discussing their chosen topic, organizing presentations, learning diverse presentation skills such as gesturing, voice inflection, the use of visual aids, pronunciation and enunciation, correct grammar and word choice, and asking and answering questions with the audience.
Upon successful completion of this course, students will master the foundations of conversational structures so that they can verbally express their opinions. They will be able to develop the message they want to convey to the audience, explore a research topic and construct a presentation on it, articulate their speech in narration and presentation, use their voice and non-verbal language to add emphasis and emotion, critically evaluate their own and their peers’ progress, which may include working in pairs and in groups effectively.

2．授業内容
Session 1
・ Introduction and explanation about the Spring course, schedule, assignments, etc.
・ Classmate interviews
Session 2
・ Basic points of presentation
・ Conversation: Curious issues
Session 3
・ Organization of ideas into outline
・ Interactive presentation：Spring Group 1
Session 4
・ Developing presentation techniques: Model 1
・ Interactive presentation：Spring Group 2
Session 5
・ Developing presentation techniques: Model 2
・ Interactive presentation：Spring Group 3
Session 6
・ Developing presentation techniques: Model 3
・ Interactive presentation：Spring Group 4
Session 7
・ Developing presentation techniques: Model 4
・ Interactive presentation：Spring Group 5
Session 8
・ Developing presentation techniques: Model 5
・ Interactive presentation：Spring Group 6
Session 9
・ Developing presentation techniques: Model 6
・ Interactive presentation：Spring Group 7
Session 10
・ Developing presentation techniques: Model 7
・ Interactive presentation：Spring Group 8
Session 11
・ Developing presentation techniques: Model 8
・ Interactive presentation：Spring Group 9
Session 12
・ Developing presentation techniques: Model 9
・ Interactive presentation：Spring Group 10
Session 13
・ Developing presentation techniques: Model 10
・ Interactive presentation：Spring Group 11
Session 14
・ Review & Final Comment

3．履修上の注意
The instructor’s email address will be informed to students as a contact point for questions and consultations.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
<Expected work prior to class>
・Prepare and complete presentations and other assignments explained in every class.
<Expected work after class>
・Complete and submit a self-evaluation sheet.
<Feedback>
・Students will receive feedback for assignments in class or via Oh-o! Meiji class web.

5．教科書
・printed materials

6．参考書
The instructor will provide supplementary materials, as needed.

7．課題に対するフィードバックの方法
<Feedback>
・Students will receive feedback for assignments in class or via Oh-o! Meiji class web.

8．成績評価の方法
Interactive presentations 30%
Presentation & self-evaluation papers 30%
Class participation and In-class assignments 40%

9．その他
・Students must complete presentations and other assignments explained in every class in order to pass the course.
・Participating actively in class activities is an important part of the course.
・A pattern of absence and/or tardiness will harm your grade, if not result in a failing grade.
＊学生向け連絡手段は新年度開始以降、Oh-o! Meiji クラスウェブ“シラバスの補足”に明記します

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	ジョーンズ, ロジャー H.

1．授業の概要・到達目標
This class will give the students many chances to speak English mostly through pair work. The goal of the class is to improve student English fluency and to increase their English vocabulary in a fun learning environment. The class lessons will concentrate on using English for everyday use. Some of the discussions and speaking opportunities are straightforward and uncomplicated, but in most lessons there will be some challenging debates and conversations. The class is topic and content based. The theme of the lesson is travelling abroad.

2．授業内容
Week 1
Introduction to the course, grading system and the teacher.
Week 2
Students introductions and exchanging of contact details. Checking information about the course and the teacher. Vocabulary building exercises, including idiom usage.
Week 3
Travel experiences in Japan - discussion and debate.
Week 4
International travel experiences.
Week 5
Checking in procedures.
Week 6
Politeness and manners when traveling.
Week 7
Class and teacher's experiences of travelling both in Japan and overseas - class discussions and surveys
Week 8
On an airplane - functional and other useful English.
Week 9
Hotel accommodation - comparative look at various options.
Week 10
Cultural comparison of accommodation available in different countries.
Week 11
Student research and discussion on staying in a famous city.
Week 12
Role playing activities for making hotel reservations
Week 13
Potential hazards of international travel.
Week 14
Review of the semester's lectures and round-up discussions.

3．履修上の注意
Students need to bring a personal computer such as a laptop or tablet with a key board, headphones and a smart phone to every lesson. BE SURE ALL DEVICES ARE FULLY CHARGED. It is not hard to get a good grade for this class if you keep perfect attendance, always attend the classes on time and do all the homework. To get the top grade requires your best efforts. But if you really try hard, you can do it. Try not to miss any lessons, if you do, you should check with a friend as to what you missed. Most lessons contain points that go towards your grade, which is why you should not miss any lessons. PLEASE TRY HARD TO COME TO ALL THE LESSONS!

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students need to prepare for the class by reviewing the previous lesson. They also need to be sure to do all the homework and to have downloaded all the relevant handouts to the class. At the end of each lessons, students should check with classmates and the teacher if there is anything they need to discuss.

5．教科書
There is no textbook for this class. Study material will be available to download. Student will need to organise a folder on their personal computers in which to keep all the study material.

6．参考書
Cyber Listening Lab - http://www.esl-lab.com

7．課題に対するフィードバックの方法
Feedback will be given in class and via the Meiji website. Students will be advised on grades and/or points given for every assignment and task given. At any time, a student is welcome to talk about their assignments during the class and they can also e-mail me with any enquires they may have.

8．成績評価の方法
Class work, homework, vocabulary tests = 100 points x 40% = 40 points.
Weekly listening log = 100 x 20% = 20 points
End of term speaking and discussion tests = 100 x 30% = 30 points.
Participation and effort = 100 x 10% = 10 points.
Total points = 100.
DO NOT USE CHATGPT OR ANY AI OR OTHER APPS FOR ANY CLASSWORK.

9．その他
Please remember to bring your computer or laptop to every lesson, your smartphone and ear or headphones. Make sure all devices are fully charged.
The class motto is: Let's speak lots of English together.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	相馬　美明

1．授業の概要・到達目標
日常生活のいろいろな場面において実践的英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。TOEFL・TOEIC などのリスニング・セクションの問題に加え、毎回、映画・音楽など多岐にわたる生の英語に触れながら聴解力を高めていく。そしてプレゼンテイションを通じ、最終的に自らの考えを自らのことばで伝えることを学ぶ。また､他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに、意見を交換する場を多く持ち、コミュニケーション能力の向上に努める。

2．授業内容
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して、より複雑な内容を理解できるようにする。リスニング能力の増強のために、穴埋めや書き取り、要約などの練習を行う。基本的に授業は毎回、三本立てとして進められ、TOEFL・TOEICなどのリスニング/ディクテイション問題、TRUE or FALSE Question、映画などさまざまなトピックを用い、リスニングのコツを身につけていく。
（1）イントロダクション、年間計画、諸注意など
（2）TOEFL Exercise 1 PART A, <True or False questions>, Film 1
（3）Film 1-2, Your Song <Background of the singer>, Questions
（4）TOEFL Exercise 2 PART B, Chimpanzee, <True or False questions>, Film 3
（5）TOEFL Exercise 3 PART C, Film 3-4
（6）Film 4-5, Top of the world <Background of the singer>, Questions
（7）TOEFL Exercise 4 PART A, Halloween <True or False questions>, Film 5-6
（8）TOEFL Exercise 5 PART B, A, certain story <True or False questions>, Film 7
（9）TOEFL Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示
(10) TOEFL Exercise 7 PART A, The sound of silence <Background of the singer>, Film 8-9
(11) TOEFL Exercise 8 PART B, Film 9
(12) TOEFL Exercise 9 PART C, Film 9-10
(13) Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出
(14) a：期末試験　b：正答解説

3．履修上の注意
リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要である。授業中の練習に加えて教室外でも練習を行うことを心がける。指示された課題は必ずこなし、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業で取り扱った英語表現は、反復練習することを通じ、普段の生活に生かすことが望ましい。

5．教科書
プリントを使用。

6．参考書
必要に応じ適宜、指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じOh-o!Meijiに掲載、対応したい。
欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。

8．成績評価の方法
定期試験（40%）、平常点（40%）、プレゼンテイション・レポート（20%）それらを総合的に評価する。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	近山　和広

1．授業の概要・到達目標

このクラスでは、テキストを中心に身近な話題を英語で表現出来るよう学習する。授業ではペア・ワークやグループワークによるアクティヴィティを行い、クラスメイトとのコミュニケーションを図ります。またTOEICのリスニングの練習問題も行い、リスニング力を高めます。学期の最後にはプレゼンテーションを行えるようにプレゼンテーションスキルも学んでいきます。

〈到達目標〉

・リスニングとクラスメイトとの会話を通じて、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
・プレゼンテーションの構成、スキルを学び、英語のプレゼンテーションスキルを養う。

2．授業内容

1．Introduction
2．Getting Started / Unit 1 / TOEIC Practice/ Presentation introduction
3．Unit 2 / TOEIC Practice / Preparation for Presentation
4．Unit 3 / TOEIC Practice / Preparation for Presentation
5．Quiz 1（Getting Started - Unit 3 + TOEIC Listening）
6．Unit 4 / TOEIC Practice / Preparation for Group Presentation
7．Unit 6 / TOEIC Practice / Preparation for Group Presentation
8．Unit 7 / TOEIC Practice / Preparation for Group Presentation
9．Quiz 2（Unit 4 - Unit 7 + TOEIC Listening）
10. Presentation / class assignment
11. Presentation / class assignment
12. Presentation / class assignment
13. Rreview Quiz (Getting Started - Unit 7 + TOEIC Listening)
14. Make-up / Feedback

3．履修上の注意

会話のクラスなので、授業中は積極的参加、発言をしてください。テキストがないとペアワークが出来なくなるので、テキストは必ず持参すること。
（タブレット等のデバイスでのテキスト使用はしないでください。）
テキストを購入していない、毎回持参しない等は授業参加態度の評価に影響します。
遅刻３回で１回の欠席となり、欠席回数が学期全体の３分の１を超えると単位取得は出来ません。
初日のイントロダクションで詳しい説明をします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

クラスで使用する資料は授業資料としてアップロードします。
授業で扱うキーフレーズは復習して使えるようにしておくこと。

5．教科書

FIFTY-FIFTY Book 2　by Warren Wilson / Roger Barnard（PEASON Longman）

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiの「教員とのメッセージ」にPresentation のフィードバックを掲載します。学生は各自確認することができます。
QuizはGoogle Formsによって行われるので、正解となる解答とスコアは提出後に表示されます。
多くの学生が間違えた解答に関しては翌週に説明が行われる。

8．成績評価の方法

授業参加態度　15%
Quiz 1　15%
Quiz 2　15%
Review Quiz　30%
Presentation　25%

9．その他

クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがある。詳しい説明は初日に行われる。
教員のメールアドレス：kazuchi711@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	トービン，アンソニー

1．授業の概要・到達目標

[Class Summary]
The aim of this course is to develop students' speaking skills, specifically the ability to interact in discussions. By the end of the course, students should be able to lead a group discussion using the communicative strategies acquired during the course.

[Target]
For students, one important achievement will be the ability to understand, follow, and participate in a group discussion. A successful group discussion involves spontaneous, authentic communication.

2．授業内容

1．Introduction and course overview
2．Unit 1A Are you? Can you?
3．Unit 1B The perfect date?
4．Unit 1C The Remake Project
5．Unit 2A OMG! Where's my passport
6．Unit 2B That's me in the picture!
7．Unit 2C One dark October evening
8．Practical English Episodes 1 & 2/ Mid-term short test
9．Unit 3A Trip Aside
10. Unit 3B Put it in your calendar!
11. Unit 3C Word games
12. Unit 4A Who does what?
13. Unit 4B In your basket
14. End of term test

3．履修上の注意

Students are expected to attend all classes. More than four absences will result in failure of the course.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are expected to spend at least one hour per week preparing for discussions and revising items covered in each class.

5．教科書

English File Pre-intermediate 4th Edition: C. Latham-Koenig, C. Oxenden. Oxford

6．参考書

Make sure to have a notebook for new vocabulary.

7．課題に対するフィードバックの方法

Students can receive feedback after class.

8．成績評価の方法

Participation and effort 20%
Group discussions 20%
Mid-term test 20%
End of term test 40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	高坂　映子

1．授業の概要・到達目標
[授業の概要]
大学生活、電話での応答、食など日常のさまざまな場面における自己紹介、人物描写、招待、勧誘等の基本的な表現を学習します。
その中でイギリスやアジア・インド・メキシコなどにおける多様なEnglishやcultureにも触れます。
授業ではテキストや音声・映像を用いたタスクなどの他、プレゼンテーションも行う予定です。
※授業方法は状況に応じて変更することがあります。
[到達目標]
(1) 実践的英語コミュニケーション能力を向上させる。
(2) リスニング力や自分の言葉として表現するスピーキング力を養う
(3) 多様な表現の学習からworld Englishesやcultureへの理解と多様性を身につける。

2．授業内容
第1回：イントロダクション等
第2回：College Life: Greetings/Getting to Know Each Other (1) Expressions & Dialogue
第3回：College Life: Greetings/Getting to Know Each Other (2) Listening & Reading Activities
第4回：Mobile Phones: Making Appointments/Phone Conversations (1) Expressions & Dialogue
第5回：Mobile Phones: Making Appointments/Phone Conversations (2) Listening & Reading Activities
第6回：Movies: Inviting/Accepting and Refusing (1) Expressions & Dialogue
第7回：Movies: Inviting/Accepting and Refusing (2) Listening & Reading Activities
第8回：Dating: Describing Someone (1) Expressions & Dialogue
第9回：Dating: Describing Someone (2) Listening & Reading Activities
第10回：International Food: Requesting/Restaurant Conversations (1) Expressions & Dialogue
第11回：International Food: Requesting/Restaurant Conversations (2) Listening & Reading Activities
第12回：Traveling/Studying Overseas: Expressions for Traveling (l) Listening & Reading Activities
第13回：プレゼンテーション等
第14回：a: まとめ等　b: 試験
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
詳細は初回イントロダクション時に説明します。
(1) 座席指定
(2) 授業開始時に出席を確認します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストの音声をダウンロードし、予習・復習を行ってください。
あらかじめ指示した箇所については必ず準備をした上で授業に臨んで下さい。
テキストやテキストの音声トラック、配布した資料を用いて
授業時までに前回の授業範囲の表現を復習し、重要表現を覚えること。
リスニングやスピーキングの上達には日々の練習が欠かせません。
クラス外でも英語に接するように心掛けてください。

5．教科書
『Global Activator ― Your English, My English, World Englishes!』
塩澤　正・Gregory A. King （金星堂）

6．参考書
特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜実施する他、第14回授業aモジュールにてまとめや全体講評を行う。

8．成績評価の方法
平常点（授業参画度、リアクションペーパー等の提出物、プレゼンテーション[実施の場合は全体の20%]による）40%
試験 60%
遅刻・早退は30分まで、交通機関等の遅延による遅刻は1/2遅刻とする。
遅刻1回で1/3欠席とし、実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とする。

9．その他
Oh-o! Meijiのアンケート欄を随時更新。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	狩野　郁子

1．授業の概要・到達目標
Students are to improve their linguistic skills through various types of exercises. They are expected to acquire vocabulary and reinforce listening and reading ability required in business scenes.

2．授業内容
Listening exercises are given in the first half of each class and reading exercises will be followed. Linguistical explanations are presented whenever necessary. Students will have a vocabulary quiz at the beginning of each class.
#1：Introduction to the course with Unit 1
#2：Vocabulary quiz. Unit 1
#3：Vocabulary quiz. Units 1 and 2
#4：Vocabulary quiz. Unit 2
#5：Vocabulary quiz. Units 1 and 3
#6：Vocabulary quiz. Unit 3
#7：Review of the classes. Mid-term examination.
#8：Review of the exam. Unit 4
#9：Vocabulary quiz. Unit 4
#10：Vocabulary quiz. Unit 5
#11：Vocabulary quiz. Units 5 and 6
#12：Vocabulary quiz. Unit 6
#13：Vocabulary quiz. Wrap-up
#14：Review of the classes. Term examination.

3．履修上の注意
Students are expected to take a vocabulary quiz orally in each class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Assignments should be done on time.

5．教科書
Winning Formula for the TOEIC L&R Test

6．参考書
They will be introduced in class.

7．課題に対するフィードバックの方法
Assignments and examinations are reviewed in the following week.
A vocabulary quiz is given orally in each class.

8．成績評価の方法
30%: participation, in-class tasks, homework and quizzes.
70%: mid-term and term examinations.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （中級）

1単位	1年次	根津　明広

1．授業の概要・到達目標
This course is designed to give students the opportunity to listen to a wide variety of English in the 'real' world. Listening strategies and tips are included. Another side of this course will help students develop fluency and confidence in spoken English. Students will develop and improve their own speaking skills through activities such as: pair and group discussions, presentations and speaking assessments. There will be many activities in class, 'Pair Work and Group Work,' 'Reading Activities,' 'Presentations,' and 'Writing Practice.'
The textbook which is assigned here is to give students many opportunities to think about many important daily situations to broaden students mind to the English world. The textbook focuses on any social situations with the variety of angles on its skills, including the values people have, their communication style and so on. Through these subjects, Students will understand their own culture as well.
Goal：In the end of the semester, all students will be familiar with vocabulary related to the score, 500 on TOEIC.
And they understand the culture of English Language and its countries.

2．授業内容
1．Introduction
2．Unit 1: Sense of Place
3．Unit 1: Sense of Place
4．Unit 1: Sense of Place
5．Unit 2: Something Borrowed
6．Unit 2: Something Borrowed
7．Unit 2: Something Borrowed
8．Unit 3: Language of Symbols
9．Unit 3: Language of Symbols
10. Unit 3: Language of Symbols
11. Unit 4: Science of Science Fiction (11. Presentation Workshop 1)
12. Unit 4: Science of Science Fiction (12. Presentation Workshop 2)
13. Unit 4: Science of Science Fiction (13. Group Presentation 1)
14. Wrapping Up (14. Group Presentation 2)

3．履修上の注意
Attendance and participation to the class work will be very important and strict. Review quizzes will be given to students on every unit which there won't be any make up quizzes. All students must accomplish all assignments.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
1. Reviewing what we do in class is the most important. Students have to review the unit, particularly on listening and vocabulary in order to accomplish well on the quiz done after each unit finished.
2. Each unit offers the opportunities to think an issue critically. Students will be prepared to speak out for the issue before they come to the class followed by the instructions from the teacher

5．教科書
Reflect -Listening and Speaking4-
By Paul Dummett
(National Geographic Learning (Cengage))
ISBN:978-0-357-44914-1

6．参考書
None

7．課題に対するフィードバックの方法
1. Each Quiz is given in Digital Forms, and Answer keys & scores are shown after the test.
2. Comments are given right after the presentations.

8．成績評価の方法
Quiz（1-4）100%（各25%）
Quiz（1-3）60%（各20%）
Speech Draft----------20%
Presentation ----------20%
学生のレベルによって変更する場合がある。
S　Excellent（９０－１００%）
A　Good（８０－８９%）
B　Fair（７０－７９%）
C　Pass（６０－６９%）
F　Unsatisfied（５９%以下）& 5 and more absences

9．その他
The content「授業内容」might be changed slightly depending on the number of students & the level.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （上級）

1単位	1年次	ミーハン　ケヴィン　P.

1．授業の概要・到達目標
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.

2．授業内容
1．Introduction
2．Stereotypes
3．Nationalism vs Patriotism
4．SNS
5．Attitudes
6．Life changing experiences
7．Propaganda
8．World Events
9．Me too movement
10. EQ vs IQ
11. Black Lives Matter
12. Media literacy
13. Education
14. Poster presentation

3．履修上の注意
Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

5．教科書
To be announced

6．参考書
Dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法
Students will be given feedback for their presentations by conferencing with the teacher in class and on Oh-o! Meiji for submitted assignments.

8．成績評価の方法
Continuous assessment consisting of: Attendance (25%), Classwork (25%), Homework (25%), Poster presentation (25%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （SPICE）

1単位	1年次	ドウ, ティモシー　J.

1．授業の概要・到達目標

The purpose of this course is for students to learn the necessary skills to integrate various sources of information when discussing issues with a group of their peers. Many of the issues and discussion topics will be decided by groups and/or the class. In class, students will engage with a selection of short texts in order to examine an issue from different angles. Students will also learn and use a variety of new vocabulary and interactive skills to enhance the effectiveness of their communicative abilities. There will also be some focus on grammar and pronunciation. Special attention will be paid to the language and skills necessary for successful interactions in small group discussions in both social and academic settings.

Contact details: timdoe@meiji.ac.jp

2．授業内容

第1回：Introduction: Developing Language Fluency
第2回：Critical Thinking
第3回：Speaking Vs. Writing
第4回：Supporting Ideas
第5回：Communication Strategies: Speaking
第6回：Communication Strategies: Listening
第7回：Discussing Social Issues
第8回：Background Knowledge
第9回：Discussing Habits
第10回：Discourse Markers
第11回：Cooperating with Speakers
第12回：Organizing Information
第13回：Extensive Reading and Speaking
第14回：Discussing News Media

3．履修上の注意

Grading for this course will be based on both preparation for in-class communicative activities, and students' performance in those activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete homework assignments before classes.

5．教科書

No textbook is required. The teacher will provide class materials.

6．参考書

Students may bring a dictionary (paper or electronic).

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports and homework submitted during the semester will be graded and returned to students in class.

8．成績評価の方法

Homework assignments will count for 40% of the final grade, and performance on in class communication tests will count for 60% of the final grade.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills A Ⅰ （駿河台開講）

1単位	1年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to give students extensive listening and speaking communication practice opportunities. Each week, students will work with a different partner and engage in several listening and communication activities. Students will also be reviewing grammar learned in previous years and relevantvocabulary for each of the topics covered during the course. The teacher will choose several of the units from the textbook. These units will be from, Memories, Life changes, Viewpoints, Problems, Thinking ahead, Imagine!, My world, Past events, feelings and opinions, What if … ? Work it out, and Looking back.

Students will be given regular listening, paper and speaking tests throughout the course.

2．授業内容

Week 1. Course introduction & explanation
Week 2. First unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 3. First unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 4. Second unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 5. Second unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 6. Testing for unit 1 & 2
Week 7. Third unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 8. Third unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 9. Fourth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 10. Fourth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 11. Testing for unit 3 & 4
Week 12. Fifth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 13. Fifth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 14. End-of-term Communication Tests

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and how students are graded.
Each student must have a textbook to be able to take the course, and students should carry notebooks or a tablet device for note taking.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must regularly review the work done in class and complete homework assignments on time. Assignments and research will be given when and where it is necessary.

5．教科書

Breakthrough Plus Book 3 (2nd Edition) By Miles Craven
Macmillan Education
ISBN: 978-1-380-00318-8

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on all of the tests and assignments completed during the course. Regular advice will also be given during class time.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%)
Listening, speaking and paper tests (40%),
Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（基礎）

1単位	1年次	近山　和広

1．授業の概要・到達目標

このクラスでは、テキストを中心に身近な話題を英語で表現出来るよう学習する。授業ではペア・ワークやグループワークによるアクティヴィティを行い、クラスメイトとのコミュニケーションを図ります。またTOEICのリスニングの練習問題も行い、リスニング力を高めます。学期の最後にはプレゼンテーションを行えるようにプレゼンテーションスキルも学んでいきます。

〈到達目標〉

・リスニングとクラスメイトとの会話を通じて、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

・プレゼンテーションの構成、スキルを学び、英語のプレゼンテーションスキルを養う。

2．授業内容

1．Introduction
2．Unit 8 / TOEIC Practice / Presentation introduction
3．Unit 9 / TOEIC Practice/ Preparation for Presentation
4．Unit 11 / TOEIC Practice/ Preparation for Presentation
5．Quiz 1（Unit 8 - Unit 11 + TOEIC Listening）
6．Unit 12 / TOEIC Practice/ Preparation for Group Presentation
7．Unit 13 / TOEIC Practice/ Preparation for Group Presentation
8．Unit 14 / TOEIC Practice/ Preparation for Group Presentation
9．Quiz 2（Unit 12 - Unit 14 + TOEIC Listening）
10. Presentation / class assignment
11. Presentation / class assignment
12. Presentation / class assignment
13. Rreview Quiz (Unit 8 - Unit 14 + TOEIC Listening)
14. Make-up / Feedback

3．履修上の注意

会話のクラスなので、授業中は積極的参加、発言をしてください。テキストがないとペアワークが出来なくなるので、テキストは必ず持参すること。
（タブレット等のデバイスでのテキスト使用はしないでください。）
テキストを購入していない、毎回持参しない等は授業参加態度の評価に影響します。
遅刻３回で１回の欠席となり、欠席回数が学期全体の３分の１を超えると単位取得は出来ません。
初日のイントロダクションで詳しい説明をします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

クラスで使用する資料は授業資料としてアップロードします。
授業で扱うキーフレーズは復習して使えるようにしておくこと。

5．教科書

FIFTY-FIFTY Book 1　by Warren Wilson / Roger Barnard
（PEASON Longman）

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiの「教員とのメッセージ」にPresentation のフィードバックを掲載します。学生は各自確認することができます。
QuizはGoogle Formsによって行われるので、正解となる解答とスコアは提出後に表示されます。
多くの学生が間違えた解答に関しては翌週に説明が行われる。

8．成績評価の方法

授業参加態度　15%
Quiz 1　15%
Quiz 2　15%
Review Quiz　30%
Presentation　25%

9．その他

クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがある。詳しい説明は初日に行われる。
教員のメールアドレス：kazuchi711@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（基礎）

1単位	1年次	根津　明広

1．授業の概要・到達目標

Leading on from the previous semester, This course is designed to give students the opportunity to listen to a wide variety of English in the 'real' world. Listening strategies and tips are included. Another side of this course will help students develop fluency and confidence in spoken English. Students will develop and improve their own speaking skills through activities such as: pair and group discussions, presentations and speaking assessments. There will be many activities in class, 'Pair Work and Group Work,' 'Reading Activities,' 'Presentations,' and 'Writing Practice.'
The textbook which is assigned here is to give students many opportunities to think about many important daily situations to broaden students mind to the English world. The textbook focuses on any social situations with the variety of angles on its skills, including the values people have, their communication style and so on. Through these subjects, Students will understand their own culture as well.
Goal：In the end of the semester, all students will be familiar with vocabulary related to the score, 550 on TOEIC.
And they understand the culture of English Language and its countries continuously.

2．授業内容

1．Welcome Back session
2．Unit 5: The Plastic Age
3．Unit 5: The Plastic Age
4．Unit 5: The Plastic Age
5．Unit 6: Business with a Heart
6．Unit 6: Business with a Heart
7．Unit 6: Business with a Heart
8．Unit 7: Emotional Intelligence
9．Unit 7: Emotional Intelligence
10. Unit 7: Emotional Intelligence
11. Unit 8: Learning from Life (11.　Presentation Workshop 1)
12. Unit 8: Learning from Life (12.　Presentation Workshop 2)
13. Unit 8: Learning from Life (13. Group Presentation 1)
14. Wrapping Up (14. Group Presentation 2)

3．履修上の注意

Attendance and participation to the class work will be very important and strict. All students must accomplish all assignments.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1. Reviewing what we do in class is the most important. Students have to review the unit, particularly on listening and vocabulary in order to accomplish well on the quiz done after each unit finished.
2. Each unit offers the opportunities to think an issue critically. Students will be prepared to speak out for the issue before they come to the class followed by the instructions from the teacher.

5．教科書

Reflect -Listening and Speaking4-
By Paul Dummett
（National Geographic Learning (Cengage)）
ISBN:978-0-357-44914-1

6．参考書

None

7．課題に対するフィードバックの方法

1. Each Quiz is given in Digital Forms, and Answer keys & scores are shown after the test.
2. Comments are given right after the presentations.

8．成績評価の方法

Quiz（5-8）100%（各25%）
または
Quiz（5-7）60%（各20%）
Speech Draft----------20%
Presentation ----------20%
学生のレベルによって変更する場合がある。
S　Excellent（９０－１００%）
A　Good（８０－８９%）
B　Fair（７０－７９%）
C　Pass（６０－６９%）
F　Unsatisfied（５９%以下）& 5 and more absences

9．その他

The content「授業内容」might be changed slightly depending on the number of students & the level.

科目ナンバー：(LA)LAN111J

English Skills AⅡ（基礎）

1単位	1年次	高坂　映子

1．授業の概要・到達目標
[授業の概要]
高校までの英語を総復習しながら英語の４技能（読む・聞く・書く・話す）をバランスよく学習する。
[到達目標]
(1) 基礎的な語彙・文法を習得できる。
(2) 基礎的な英文の聞き取り・表現・読解ができる。
(3) 今後の英語学習の土台を築くことができる。

2．授業内容
第１回　Unit 7: Glad to Be of Service/ WH 疑問文（1）Grammar
第２回　Unit 7: Glad to Be of Service/ WH 疑問文（2）Listening & Reading
第３回　Unit 8: Socializing with Co-workers/ 動名詞・不定詞（1）Grammar
第４回　Unit 8: Socializing with Co-workers/ 動名詞・不定詞（2）Listening & Reading
第５回　Unit 9: Vacation Spots/ 未来形（1）Grammar
第６回　Unit 9: Vacation Spots/ 未来形（2）Listening & Reading
第７回　Unit 10: Sports Talk/ 比較級・最上級（1）Grammar
第８回　Unit 10: Sports Talk/ 比較級・最上級（2）Listening & Reading
第９回　Unit 11: Tour Day/ 助動詞（1）Grammar
第10回　Unit 11: Tour Day/ 助動詞（2）Listening & Reading
第11回　Unit 14: A Bit of History/ 受動態 Grammar
第12回　Unit 15: Farewell, Masa and Lucy/ 接続詞 Grammar
第13回　秋学期総復習
第14回　a：まとめ等　　b：試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
詳細は初回授業時に説明します。
(1) 授業には必ずテキストを持ってくること。
(2) 授業には集中して取り組み、居眠り・スマートフォンの使用・私語・無断退出等厳禁。
(3) 試合等での欠席は必ず早めに連絡や公欠届等の提出をすること。公欠届が提出された場合も出席とは認められません。いかなる事由でも欠席分はレポートを提出していただきます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストの音声をダウンロードし、予習・復習を行ってください。あらかじめ指示した箇所については必ず準備をした上で授業に臨んで下さい。
テキストやテキストの音声トラック、配布した資料を用いて次回授業時までに前回の授業範囲の表現を復習し、重要表現を覚えること。言語の上達にはスポーツ同様日々の鍛錬が欠かせません。
クラス外でも英語に接するように心掛けてください。

5．教科書
『English Missions! Basic』　Robert Hickling・臼倉　美里　（金星堂）

6．参考書
特に定めない。
授業には英語辞書を持参すること。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜実施する他、第14回授業aモジュールにてまとめや全体講評を行う。

8．成績評価の方法
平常点（授業への参画度やリアクションペーパーやレポート等の提出物による）40%　　試験60%
遅刻・早退は30分まで、交通機関等の遅延による遅刻は1/2遅刻とする。
遅刻１回で1/3欠席と換算し、実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とする。

9．その他
詳細については初回イントロダクション時に説明します。
Oh-o! Meijiのアンケート欄を随時更新。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	矢野　磯乃

1．授業の概要・到達目標
The aim of the course is to develop students' overall English proficiency with the special focus on communicative competencies to appropriately explain information and express opinions in English in front of others. Interactive presentation skills learned in the spring semester will be further strengthened in the fall semester and, additionally, discussions and debate practice will be held.
Students will engage in active learning by researching and discussing their chosen topic, organizing presentations, learning further diverse presentation skills, based on the spring semester, such as gesturing, voice inflection, the use of visual aids, and asking and answering questions with the audience.
Upon successful completion of this course, students will master the foundations of conversational structures so that they can verbally express their opinions. They will be able to develop the message they want to convey to the audience, explore a research topic and construct a presentation on it, articulate their speech in narration and presentation, use their voice and non-verbal language to add emphasis and emotion, critically evaluate their own and their peers' progress, which may include working in pairs and in groups effectively.

2．授業内容
Session 1
・ Introduction and explanation about the Fall course, schedule, assignments, etc.
・ Classmate interviews
Session 2
・ Basic points of presentation
・ Conversation: Data analysis
Session 3
・ Organization of ideas into outline
・ Interactive presentation：Fall Group 1
Session 4
・ Developing presentation techniques: Model 1
・ Interactive presentation：Fall Group 2
Session 5
・ Developing presentation techniques: Model 2
・ Interactive presentation：Fall Group 3
Session 6
・ Developing presentation techniques: Model 3
・ Interactive presentation：Fall Group 4
Session 7
・ Developing presentation techniques: Model 4
・ Interactive presentation：Fall Group 5
Session 8
・ Developing presentation techniques: Model 5
・ Interactive presentation：Fall Group 6
Session 9
・ Developing presentation techniques: Model 6
・ Interactive presentation：Fall Group 7
Session 10
・ Developing presentation techniques: Model 7
・ Interactive presentation：Fall Group 8
Session 11
・ Developing presentation techniques: Model 8
・ Interactive presentation：Fall Group 9
Session 12
・ Developing presentation techniques: Model 9
・ Interactive presentation：Fall Group 10
Session 13
・ Developing presentation techniques: Model 10
・ Interactive presentation：Fall Group 11
Session 14
Review & Final Comment

3．履修上の注意
The instructor's email address will be informed to students as a contact point for questions and consultations.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
<Expected work prior to class>
・Prepare and complete presentations and other assignments explained in every class.
<Expected work after class>
・Complete and submit a self-evaluation sheet.
<Feedback>
・Students will receive feedback for assignments in class or via Oh-o! Meiji class web.

5．教科書
・printed materials

6．参考書
The instructor will provide supplementary materials, as needed.

7．課題に対するフィードバックの方法
<Feedback>
・Students will receive feedback for assignments in class or via Oh-o! Meiji class web.

8．成績評価の方法
Interactive presentations 30%
Presentation & self-evaluation papers 30%
Class participation and In-class assignments 40%

9．その他
・You must complete presentations and other assignments explained in every class in order to pass the course.
・Participating actively in class activities is an important part of the course.
・A pattern of absence and/or tardiness will harm your grade, if not result in a failing grade.
＊学生向け連絡手段は秋学期開始以降、Oh-o! Meiji クラスウェブ"シラバスの補足"に明記します

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	ジョーンズ, ロジャー H.

1．授業の概要・到達目標
This class will give the students many chances to speak English mostly through pair work. The goal of the class is to improve student English fluency and to increase their English vocabulary in a fun learning environment. The class lessons will concentrate on using English for everyday use. Some of the discussions and speaking opportunities are straightforward and uncomplicated, but in most lessons there will be some challenging debates and conversations. The class is topic and content based. The theme of the lesson is travelling abroad.

2．授業内容
Week 1
Introduction to the course, grading system and the teacher.
Week 2
Students introductions and exchanging of contact details. Checking information about the course and the teacher. Vocabulary building exercises, including idiom usage.
Week 3
Travel experiences in Japan - discussion and debate.
Week 4
International travel experiences.
Week 5
Checking in procedures.
Week 6
Politeness and manners when traveling.
Week 7
Class and teacher's experiences of travelling both in Japan and overseas - class discussions and surveys
Week 8
On an airplane - functional and other useful English.
Week 9
Hotel accommodation - comparative look at various options.
Week 10
Cultural comparison of accommodation available in different countries.
Week 11
Student research and discussion on staying in a famous city.
Week 12
Role playing activities for making hotel reservations
Week 13
Potential hazards of international travel.
Week 14
Review of the semester's lectures and round-up discussions.

3．履修上の注意
A laptop or tablet computer with a keyboard, a smartphone and headphones or earbuds are required for this lesson. It is not hard to get a good grade for this class if you keep perfect attendance and always attend the classes on time. To get the top grade requires your best efforts. But if you really try hard, you can do it. Try not to miss any lessons, if you do, you should check with a friend as to what you missed. Most lessons contain points that go towards your grade, which is why you should not miss any lessons. PLEASE TRY HARD TO COME TO ALL THE LESSONS!

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students need to prepare for the class by reviewing the previous lesson. They also need to be sure to do all the homework and to be sure to have downloaded and kept organised the study material in folders on their computers. At the end of each lessons, students should check with classmates and the teacher if there is anything they need to discuss. In addition, if a student is absent, they must find out before the next lesson what they need to do for that lesson.

5．教科書
There is no textbook for this class. Study material will be made available to download.

6．参考書
Cyber Listening Lab -http://www.esl-lab.com

7．課題に対するフィードバックの方法
Feedback will be given in class and via the Meiji website. Students will be advised on grades and/or points given for every assignment and task given. At any time, a student is welcome to talk about their assignments during the class and they can also e-mail me with any enquires they may have.

8．成績評価の方法
Class work, homework, vocabulary tests = 100 points x 40% = 40 points.
Weekly listening log = 100 x 20% = 20 points
End of term speaking and discussion tests = 100 x 30% = 30 points.
Participation and effort = 100 x 10% = 10 points.
Total points = 100.

9．その他
Please remember to bring your personal computer (or tablet with a keyboard), smartphone and headphones to each lesson. Be sure that are devices are fully charged. Do not forget to download and keep your handouts organised on your computer.
The class motto is: Let's speak lots of English together.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	相馬　美明

1．授業の概要・到達目標
日常生活のいろいろな場面において実践的英語コミュニケーション能力を更に向上させることを目的とする。英語におけるトピックの範囲を広げ、それぞれのトピックにおいて自分の考えを述べることができるようにリスニング・スピーキング力を養成する。また、他の学生の考えを聞き理解する能力を培うとともに、意見を交換する場を多く持ち、コミュニケーション能力の向上に努める。

2．授業内容
いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して、より複雑な内容を理解できるようにする。リスニング能力の増強のために、穴埋めや書き取り、要約などの練習を行う。加えて、プレゼンテイションの練習も行う。
（1）秋学期予定確認、TOEFL Exercise 13 PART A, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
（2）TOEFL Exercise 14 PART B, Excellent power of memory, Film 1
（3）TOEFL Exercise 16 PART C, Coin changer, Film 1
（4）TOEFL Exercise 17 PART A, Diplomacy, Film 1 - 2
（5）TOEFL Exercise 18 PART B, プレゼンテイションについて指示、説明
（6）TOEFL Exercise 19 PART C, Film 2, She's got a way.
（7）TOEFL Exercise 20 PART A, Film 2 - 3
（8）TOEFL Exercise 21 PART B, Film 3, The Story of O-TEI
（9）TOEFL Exercise 22 PART C, Film 3 - 4
(10) TOEFL Exercise PART A - C, まとめ、力だめし
(11) プレゼンテイション　1
(12) プレゼンテイション　2
(13) プレゼンテイション　3
(14) a :期末試験　　b :正答解説

3．履修上の注意
リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要である。授業中の練習に加えて教室外でも練習を行うことを心がける。指示された課題は必ずこなし、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業で取り扱った英語表現は、反復練習することを通じ、普段の生活に生かすことが望ましい。

5．教科書
プリントを使用。

6．参考書
必要に応じ適宜、指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じOh-o!Meijiに掲載、対応したい。
欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。

8．成績評価の方法
定期試験（40％）、平常点（40％）、プレゼンテイション（20％）それらを総合的に評価する。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	近山　和広

1．授業の概要・到達目標

このクラスでは、テキストを中心に身近な話題を英語で表現出来るよう学習する。授業ではペア・ワークやグループワークによるアクティヴィティを行い、クラスメイトとのコミュニケーションを図ります。またTOEICのリスニングの練習問題も行い、リスニング力を高めます。学期の最後にはプレゼンテーションを行えるようにプレゼンテーションスキルも学んでいきます。

〈到達目標〉

・リスニングとクラスメイトとの会話を通じて、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
・プレゼンテーションの構成、スキルを学び、英語のプレゼンテーションスキルを養う。

2．授業内容

1．Introduction
2．Unit 8 / TOEIC Practice/ Presentation introduction
3．Unit 9 / TOEIC Practice/ Preparation for Presentation
4．Unit 11 / TOEIC Practice/ Preparation for Presentation
5．Quiz 1（Unit 8 - Unit 11 + TOEIC Listening）
6．Unit 12 / TOEIC Practice/ Preparation for Group Presentation
7．Unit 13 / TOEIC Practice/ Preparation for Group Presentation
8．Unit 14 / TOEIC Practice/ Preparation for Group Presentation
9．Quiz 2（Unit 12 - Unit 14 + TOEIC Listening）
10. Presentation / class assignment
11. Presentation / class assignment
12. Presentation / class assignment
13. Rreview Quiz (Unit 8 - Unit 14 + TOEIC Listening)
14. Make-up / Feedback

3．履修上の注意

会話のクラスなので、授業中は積極的参加、発言をしてください。テキストがないとペアワークが出来なくなるので、テキストは必ず持参すること。
（タブレット等のデバイスでのテキスト使用はしないでください。）
テキストを購入していない、毎回持参しない等は授業参加態度の評価に影響します。
遅刻3回で1回の欠席となり、欠席回数が学期全体の3分の1を超えると単位取得は出来ません。
初日のイントロダクションで詳しい説明をします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

クラスで使用する資料は授業資料としてアップロードします。
授業で扱うキーフレーズは復習して使えるようにしておくこと。

5．教科書

FIFTY-FIFTY Book 2　by Warren Wilson / Roger Barnard（PEASON Longman）

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meijiの「教員とのメッセージ」にPresentation のフィードバックを掲載します。学生は各自確認することができます。
QuizはGoogle Formsによって行われるので、正解となる解答とスコアは提出後に表示されます。
多くの学生が間違えた解答に関しては翌週に説明が行われる。

8．成績評価の方法

授業参加態度　15%
Quiz 1　15%
Quiz 2　15%
Review Quiz　30%
Presentation　25%

9．その他

クラスの規模、学生のレベルによって授業内容を変更することがある。詳しい説明は初日に行われる。
教員のメールアドレス：kazuchi711@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	トービン，アンソニー

1．授業の概要・到達目標

[Class Summary]
The aim of this course is to develop students' speaking skills, specifically the ability to interact in discussions. By the end of the course, students should be able to lead a group discussion using the communicative strategies acquired during the course.

[Target]
For students, one important achievement will be the ability to understand, follow, and participate in a group discussion. A successful group discussion involves spontaneous, authentic communication.

2．授業内容

1．Course overview and Unit 5A I want it now
2．Unit 5B Twelve lost wallets
3．Unit 5C How much is enough?
4．Unit 6A Think positive - or negative?
5．Unit 6B I'll always love you
6．Unit 6C The meaning of dreaming
7．Unit 7A First day nerves
8．Mid-term short test / Practical English Episode 3
9．Unit 7B Happiness is...
10. Unit 7C Could you pass the test?
11. Unit 8A Should I stay or should I go?
12. Unit 8B Murphy's Law
13. Unit 8C Who is Vivienne?
14. End of term test

3．履修上の注意

Students are expected to attend all classes. More than four absences will result in failure of the course.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are expected to spend at least one hour per week preparing for discussions and revising items covered in each class.

5．教科書

English File Pre-intermediate 4th Edition: C. Latham-Koenig, C. Oxenden. Oxford

6．参考書

Make sure to have a notebook for new vocabulary.

7．課題に対するフィードバックの方法

Students can receive feedback after class.

8．成績評価の方法

Participation and effort 20%
Group discussions 20%
Mid-term test 20%
End of term test 40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	高坂　映子

1．授業の概要・到達目標
[授業の概要]
留学や海外旅行・ショッピング・趣味など日常のさまざまな場面における内容確認や感情の表現などを学習します。
その中でアジア・アメリカ・オーストラリアなど多様なEnglishやcultureにも触れます。
授業ではテキストや音声・映像を用いたタスクなどの他、プレゼンテーションも行う予定です。
＊授業方法は状況に応じて変更することがあります。
[到達目標]
(1) 実践的英語コミュニケーション能力を向上させる。
(2) リスニング力や自分の言葉として表現するスピーキング力を養う
(3) 多様な表現の学習からworld Englishesやcultureへの理解と多様性を身につける。

2．授業内容
第1回：World Englishes Exercise
第2回：World Englishes: Asking for Repetition/Clarification (1) Expressions & Dialogue
第3回：World Englishes: Asking for Repetition/Clarification (2) Listening & Reading Activities
第4回：Weekends/Vacations: Talking about Free Time (1) Expressions & Dialogue
第5回：Weekends/Vacations: Talking about Free Time (2) Listening & Reading Activities
第6回：Music/Songs: Expressing Likes/Dislikes (1) Expressions & Dialogue
第7回：Music/Songs: Expressing Likes/Dislikes (2) Listening & Reading Activities
第8回：Sports: Commenting/Expressing Feelings (1) Expressions & Dialogue
第9回：Sports: Commenting/Expressing Feelings (2) Listening & Reading Activities
第10回：Shopping: Negotiating/Expressions for Shopping (1) Expressions & Dialogue
第11回：Shopping: Negotiating/Expressions for Shopping (2) Listening & Reading Activities
第12回：Traveling/Studying Overseas: Expressions for Traveling (2) Expressions & Dialogue
第13回：プレゼンテーション等
第14回：a: まとめ等　b: 試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
詳細は初回イントロダクション時に説明します。
(1) 座席指定
(2) 授業開始時に出席を確認します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストの音声をダウンロードし、予習・復習を行ってください。
あらかじめ指示した箇所については必ず準備をした上で授業に臨んで下さい。
テキストやテキストの音声トラック、配布した資料を用いて
次回授業時までに前回の授業範囲の表現を復習し、重要表現を覚えること。
リスニングやスピーキングの上達には日々の練習が欠かせません。
クラス外でも英語に接するように心掛けてください。

5．教科書
『Global Activator ― Your English, My English, World Englishes!』
塩澤　正・Gregory A. King （金星堂）

6．参考書
特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時に適宜実施する他、第14回授業aモジュールにてまとめや全体講評を行う。

8．成績評価の方法
平常点（授業参画度、リアクションペーパー等の提出物、プレゼンテーション[実施の場合は全体の20%]による）40%
試験 60%
遅刻・早退は30分まで、交通機関等の遅延による遅刻は1/2遅刻とする。
遅刻1回で1/3欠席と換算し、実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とする。

9．その他
Oh-o! Meijiのアンケート欄を随時更新。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	狩野　郁子

1．授業の概要・到達目標
Students are to improve their linguistic skills through various types of exercises. They are expected to acquire vocabulary and reinforce listening and reading ability required in business scenes.

2．授業内容
Listening exercises are given in the first half of each class and reading exercises will be followed. Linguistical explanations are presented whenever necessary. Students will have a vocabulary quiz at the beginning of each class.
#1：Introduction to the course through listening and reading exercises
#2：Unit 7
#3：Vocabulary quiz. Units 7 and 8
#4：Vocabulary quiz. Unit 8
#5：Vocabulary quiz. Units 8 and 9
#6：Vocabulary quiz. Unit 9
#7：Review of the classes. Mid-term examination.
#8：Review of the exam. Unit 10
#9：Vocabulary quiz. Unit 10
#10：Vocabulary quiz. Unit 11
#11：Vocabulary quiz. Units 11 and 12
#12：Vocabulary quiz. Unit 12
#13：Vocabulary quiz. Wrap-up
#14：Review of the classes. Term examination.

3．履修上の注意
Students are expected to take a vocabulary quiz orally in each class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Assignments should be done on time.

5．教科書
Winning Formula for the TOEIC L&R Test

6．参考書
They will be introduced in class.

7．課題に対するフィードバックの方法
Assignments and examinations are reviewed in the following week.
A vocabulary quiz is given orally in each class.

8．成績評価の方法
30%: participation, in-class tasks, homework and quizzes.
70%: mid-term and term examinations.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（中級）

1単位	1年次	根津　明広

1．授業の概要・到達目標
Leading on from the previous semester, This course is designed to give students the opportunity to listen to a wide variety of English in the 'real' world. Listening strategies and tips are included. Another side of this course will help students develop fluency and confidence in spoken English. Students will develop and improve their own speaking skills through activities such as: pair and group discussions, presentations and speaking assessments. There will be many activities in class, 'Pair Work and Group Work,' 'Reading Activities,' 'Presentations,' and 'Writing Practice.'
The textbook which is assigned here is to give students many opportunities to think about many important daily situations to broaden students mind to the English world. The textbook focuses on any social situations with the variety of angles on its skills, including the values people have, their communication style and so on. Through these subjects, Students will understand their own culture as well.
Goal：In the end of the semester, all students will be familiar with vocabulary related to the score, 550 on TOEIC.
And they understand the culture of English Language and its countries continuously.

2．授業内容
1．Welcome Back session
2．Unit 5: The Plastic Age
3．Unit 5: The Plastic Age
4．Unit 5: The Plastic Age
5．Unit 6: Business with a Heart
6．Unit 6: Business with a Heart
7．Unit 6: Business with a Heart
8．Unit 7: Emotional Intelligence
9．Unit 7: Emotional Intelligence
10. Unit 7: Emotional Intelligence
11. Unit 8: Learning from Life (11. Presentation Workshop 1)
12. Unit 8: Learning from Life (12. Presentation Workshop 2)
13. Unit 8: Learning from Life (13. Presentation 1)
14. Wrapping Up (14. Presentation 2)

3．履修上の注意
Attendance and participation to the class work will be very important and strict. All students must accomplish all assignments.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
1. Reviewing what we do in class is the most important. Students have to review the unit, particularly on listening and vocabulary in order to accomplish well on the quiz done after each unit finished.
2. Each unit offers the opportunities to think an issue critically. Students will be prepared to speak out for the issue before they come to the class followed by the instructions from the teacher.

5．教科書
Reflect -Listening and Speaking4-
By Paul Dummett
(National Geographic Learning (Cengage))
ISBN:978-0-357-44914-1

6．参考書
None

7．課題に対するフィードバックの方法
1. Each Quiz is given in Digital Forms, and Answer keys & scores are shown after the test.
2. Comments are given right after the presentations.

8．成績評価の方法
Quiz（5-8）100%（各25%）
または
Quiz（5-7）60%（各20%）
Speech Draft----------20%
Presentation ----------20%
学生のレベルによって変更する場合がある。
S　Excellent（９０－１００%）
A　Good（８０－８９%）
B　Fair（７０－７９%）
C　Pass（６０－６９%）
F　Unsatisfied（５９%以下）& 5 and more absences

9．その他
The content「授業内容」might be changed slightly depending on the number of students & the level.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ（上級）

1単位	1年次	ミーハン　ケヴィン　P.

1．授業の概要・到達目標
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.

2．授業内容
1．Summer vacation
2．Crime and punishment
3．Japanese society
4．Human rights
5．Religions
6．Film and TV
7．Language
8．Poverty
9．War and Peace
10. Diet and nutrition
11. Green issues
12. Natural Disasters
13. Sexism
14. CM Presentations

3．履修上の注意
Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

5．教科書
To be announced

6．参考書
Dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法
Students will be given feedback for their presentations by conferencing with the teacher in class and on Oh-o! Meiji for submitted assignments.

8．成績評価の方法
Continuous assessment consisting of: Attendance (25%), Classwork (25%), Homework (25%), C M presentation a(25%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ （SPICE）

1単位	1年次	ドウ, ティモシー　J.

1．授業の概要・到達目標

The purpose of this course is for students to learn the necessary skills to integrate various sources of information when discussing issues with a group of their peers. Most issues and discussion topics will be decided by groups and/or the class. In class, students will engage with a variety of short texts in order to examine an issue from a variety of angles. Students will also learn and use a variety of new vocabulary and interactive skills to enhance the effectiveness of their communicative abilities. There will also be some focus on grammar and pronunciation. Special attention will be paid to the language and skills necessary for successful interactions in small group discussions in both social and academic settings.

Contact details: timdoe@meiji.ac.jp

2．授業内容

第1回：Introduction: Autonomy and Language Learning
第2回：Discussions: Language Learning Goals
第3回：Language Skills: Giving Detailed Answers
第4回：Self-Efficacy
第5回：Discussions: Working Conditions
第6回：Language Skills: Asking for More Information
第7回：Motivation
第8回：Discussions: Multiculturalism
第9回：Language Skills: Hedging an Opinion
第10回：Vocabulary
第11回：Discussions: Corporate Social Responsibility
第12回：Language Skills: Challenging a Speaker's Idea
第13回：Multiword Units
第14回：Discussions: Independent Research

3．履修上の注意

Grading for this course will be based on both preparation for in-class communicative activities, and students' performance in those activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete homework assignments before classes.

5．教科書

No textbook is required. The teacher will provide class materials.

6．参考書

Students may bring a dictionary (paper or electronic).

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports and homework submitted during the semester will be graded and returned to students in class.

8．成績評価の方法

Homework assignments will count for 40% of the final grade, and performance on in class communication tests will count for 60% of the final grade.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills AⅡ （駿河台開講）

1単位	1年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to give students extensive listening and speaking communication practice opportunities. Each week, students will work with a different partner and engage in several listening and communication activities. Students will also be reviewing grammar learned in previous years and relevantvocabulary for each of the topics covered during the course. The teacher will choose several of the units from the textbook. These units will be from, Memories, Life changes, Viewpoints, Problems, Thinking ahead, Imagine!, My world, Past events, feelings and opinions, What if … ? Work it out, and Looking back.

Students will be given regular listening, paper and speaking tests throughout the course.

2．授業内容

Week 1. Course introduction & explanation
Week 2. First unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 3. First unit (part 2)　(Extension discussion and listening)
Week 4. Second unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 5. Second unit (part 2)　(Extension discussion and listening)
Week 6. Testing for unit 1 & 2
Week 7. Third unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 8. Third unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 9. Fourth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 10. Fourth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 11. Testing for unit 3 & 4
Week 12. Fifth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 13. Fifth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 14. End-of-term Communication Tests

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times.　Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and how students are graded.
Each student must have a textbook to be able to take the course, and students should carry notebooks or a tablet device for note taking.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must regularly review the work done in class and complete homework assignments on time.　Assignments and research will be given when and where it is necessary.

5．教科書

Breakthrough Plus Book 3 (2nd Edition) By Miles Craven
Macmillan Education
ISBN:　978-1-380-00318-8

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on all of the tests and assignments completed during the course. Regular advice will also be given during class time.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%)
Listening, speaking and paper tests (40%),
Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ （基礎）

1単位	1年次	中野　里美

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】 readingとwritingの運用能力を高める。文章を読む際に書くことを意識しながら読むことで、書くポイントが理解できて、また表現を多く知り、ストックを集めていくことで実用的な表現へとつなげることが出来るようにします。英語を読む、書くことの苦手意識を取り除くことがまず1つ。2つめは自分の考えを持つことを促していきます。
【到達目標】
readingにはTOEIC readingや英文記事なども取り入れて実用に対応がきくよう基礎力を確実につけること。様々な英文をより多く読むことで英文に慣れること。自分の意見を持つこと。テキストから派生した英字新聞の記事なども表現を参考にし、意見をまとめられること。

2．授業内容
毎回ウォーミングアップとして、TOEIC readingを使用し、授業で使うテクストはPDFにてクラスウッブに掲載します。解答を回収したら、こちらですべて解説。要点を自分で確認していきましょう。次にテキストの内容を目の情報だけでなく、耳からの情報よっても把握し、その章の表現を確認して、自分の意見をまとめます。
第1回　a：　イントロダクション
　　b：　簡単なリーディング、ライティング
第2回　TOEIC reading, Confronting backlash, 193 nations commit to speed gender equality
第3回　TOEIC reading, Japanese Novelist Asako Yuzuki 'Butter' in Reaction to Male Media
第4回　TOEIC reading, In South Korea, deepfake porn wrecks women's lives and deepens conflict
第5回　TOEIC reading, Greenlanders unite to fend off the US as Trump seeks control of Arctic Island
第6回　TOEIC reading, Latin Countries Accept Deportees from US
第7回　TOEIC reading, Mexico's Sheinbaum mocks Trump's 'Gulf of America'
第8回　TOEIC reading, White House bars AP reporter
第9回　TOEIC reading, Angry protesters from NY to Alaska assail Trump and Musk in rallies
第11回　TOEIC reading, Macron Says European Force for Ukraine Could 'Respond' If Attacked by Russia
第12回　TOEIC reading, Turkey and Israel face mounting tensions over post-Assad Syria
第13回　TOEIC reading, We tried DeepSeek. It worked well, until we asked about Tiananmen and Taiwan
第14回　a：　まとめ
　　b：　試験

3．履修上の注意
予習が必須です。出席を毎回確認します。
質問などがあれば遠慮なくしてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：内容を把握してくること。分かる点や分からない点を見つけておけば、授業内で解消しやすいでしょう。
復習：ＴＯＥＩＣ readingで知らなかった単語を覚え、文法事項を確認しましょう。

5．教科書
PDFをアップします。

6．参考書
授業内でお知らせします。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題の解説は、なるべく速やかにクラスウェブ上にて掲載します。

8．成績評価の方法
欠席5回以上（5回含む）をもって、評価の対象外とする。遅刻も授業開始15分以降の入室からとし、3回目の遅刻は欠席1回に換算する。なお、病欠、公欠、忌引きなどは、日付が確認でき、かつ本人のものと証明できるものがあれば、例外とする。長文を読み慣れていない人には予習が必須です。遅刻も遅延証明書を認めます。
ＴＯＥＩＣ reading　テクストのReading ライティング　40%　期末試験　60%

9．その他
何かあれば授業内でお知らせします。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ （基礎）

1単位	1年次	鈴木　　幸

1．授業の概要・到達目標
The purpose of this class is to enhance your ability to understand (read and listen to) social issues, and also to express (speak and write) your personal opinions critically in English.
Objectives to be achieved:
1. To be able to understand problems we face in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To build a strong English vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.

2．授業内容
In this class, students will practice reading articles, picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: reading task, Q & A, writing quiz, and group/pair work. You must be willing to try to express your ideas in English.
1．a: Introduction
　b: 1 An Introduction to Sociology (What is Sociology? / The History of Sociology)
2．1 An Introduction to Sociology (Theoretical Perspectives / Why Study Sociology?)
3．2 Sociological Research
4．3 Culture
5．4 Society and Social Interaction
6．5 Socialization
7．6 Groups and Organization
8．7 Devience, Crime, and Social Control
9．8 Media and Technology
10. 9 Social Stratification in the United States
11. 10 Global Inequality
12. 11 Race and Ethnicity
13. Presentation
14. a: Examination
　b: Review

3．履修上の注意
Students are supposed to attend all classes and actively participate in classroom activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

5．教科書
Griffiths, H., et al., 2015, *Introduction to Sociology 2e (English Edition)*, OpenStax.
この教科書は、Kindle電子書籍になります。
初回の授業で購入方法を説明します。
必ずスマートフォン（PC・タブレット端末等）をご持参ください。

6．参考書
None.

7．課題に対するフィードバックの方法
At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

8．成績評価の方法
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Assignment/Presentation: 20%
Exam: 40%
遅刻は減点となり、30分で欠席扱いとします。
遅延証明書は2回まで受け取ります。
実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とします。
公欠の場合も、欠席の取り扱いにはしませんが、欠席回数には含みます。

9．その他
Contact information will be posted on Oh-o! Meiji's "Class Web".

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ（中級）

1単位	1年次	鈴木　雅子

1．授業の概要・到達目標

この授業では様々な社会的話題についての読解を中心に学ぶ。文章の構成の理解、批判的思考による内容の理解と分析、語彙の学習を主に行い、適宜マルチメディア教材を用いたディスカッションやライティングによるアウトプットも行う。ある程度アカデミックな内容をパラグラフ毎の要点を整理しながら読み進め全体像を理解できるようにすることを目標とする。また、内容を鵜呑みにするのではなく批判的に読み解き自分の意見を形成し適切な英語で表現する助けとしたい。

2．授業内容

3週間に1Unitのペースで学習を進める。概ね3週間のうちの最初の週にReading1、翌週にReading2を扱い、最後の週にCritical Thinking StrategyとWriting Skillのセクションを学ぶサイクルとする。

第1回：Course Introduction & Unit1-Reading1
第2回：Unit1-Reading2
第3回：Unit1-Critical Thinking & Writing
第4回：Unit2-Reading1
第5回：Unit2-Reading2
第6回：Unit2-Critical Thinking & Writing
第7回：Test1（Unit1&2）
第8回：Unit3-Reading1
第9回：Unit3-Reading2
第10回：Unit3-Critical Thinking & Writing
第11回：Unit4-Reading1
第12回：Unit4-Reading2
第13回：Unit4-Critical Thinking & Writing
第14回：Test2（Unit3&4）

3．履修上の注意

英英辞書を毎週必ず授業に持ってきてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の指定された箇所を読んでくること。iQ Online Practiceの指定された問題を解いてくること。

5．教科書

Debra Daise and Charl Norloff. Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing Student Book with iQ Online Practice [Third Edition]. Oxford University Press.（ISBN: 978-0-19-490395-0）

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

典型例を授業内で解説する。

8．成績評価の方法

Test（1）: 25%
Test（2）: 25%
Assignment: 10%
In-Class Participation: 40%
欠席が3回を越える場合（3欠席1遅刻含む）は評価の対象外とします。病欠、公欠などやむを得ない事情がある場合はそれを証明できるものを持参してください。15分以上の遅刻2回は1回分の欠席として扱います。
また、毎週課題のダイアグラムを提出して貰い、宿題点として加算します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ（中級）

1単位	1年次	鈴木　　幸

1．授業の概要・到達目標

The purpose of this class is to enhance your ability to understand (read and listen to) social issues, and also to express (speak and write) your personal opinions critically in English.
Objectives to be achieved:
1. To be able to understand problems we face in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To build a strong English vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.

2．授業内容

In this class, students will practice reading articles, picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: reading task, Q & A, writing quiz, and group/pair work. You must be willing to try to express your ideas in English.

1．a: Introduction
　b: Unit 7A A Crowd in Harmony（close reading）
2．Unit 7A A Crowd in Harmony（reading comprehension & discussion）
3．Unit 7B Our Online Behavior（close reading）
4．Unit 7B Our Online Behavior（reading comprehension & discussion）
5．Unit 8A Who Killed the Emperor?（close reading）
6．Unit 8A Who Killed the Emperor?（reading comprehension & discussion）
7．Unit 8B In the Crime Lab（close reading）
8．Unit 8B In the Crime Lab（reading comprehension & discussion）
9．Unit 9A Virtually Immortal（close reading）
10．Unit 9A Virtually Immortal（reading comprehension & discussion）
11．Unit 9B Lure of the Lost City（close reading）
12．Unit 9B Lure of the Lost City（reading comprehension & discussion）
13．Presentation
14．a: Examination
　b: Review

3．履修上の注意

Students are supposed to attend all classes and actively participate in classroom activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

5．教科書

Bohlke, D., et al., 2020, *Reading Explorer 4*, 3rd ed., National Geographic Learning.
9798214085883　Split 4B with Spark Access + e-Book (1 year access)
　￥2,260（￥2,486 tax included）
注）前半部分 (Unit 1 - 6) の 4A ではなく、後半部分 (Unit 7 - 12) の 4B になります。

6．参考書

None.

7．課題に対するフィードバックの方法

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

8．成績評価の方法

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Assignment/Presentation: 20%
Exam: 40%
遅刻は減点となり、30分で欠席扱いとします。
遅延証明書は2回まで受け取ります。
実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とします。
公欠の場合も、欠席の取り扱いにはしませんが、欠席回数には含みます。

9．その他

Contact information will be posted on Oh-o! Meiji's "Class Web".

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ（中級）

1単位	1年次	**奥田　博子**

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

英文読解力に、随時、英語表現力のためにディスカッションやディベートも加えて実践的かつ総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。英語リーディングの基本となる語彙力を高め、さまざまなスタイルの英文を読むことで英文エッセイの基本的な構成を習熟します。

【到達目標】

英文読解力の向上を目指し、英文エッセイのスタイルや構成に関する理解を深め、さらに時事問題についても英語で読み、自分の意見や見解を英語で表現できるようになることを目標とします。。

2．授業内容

第1回　Introduction
第2回　Unit 1: Images of Life
第3回　Unit 1: Images of Life
第4回　Unit 2: Natural Attraction
第5回　Unit 2: Natural Attraction
第6回　Unit 3: Food and Health
第7回　Unit 3: Food and Health
第8回　Unit 4: Design and Engineering
第9回　Unit 4: Design and Engineering
第10回　Unit 5: Human Journey
第11回　Unit 5: Human Journey
第12回　Unit 6: Money and Trade
第13回　Unit 6: Money and Trade
第14回　Final Test, Review & Sum-Up

3．履修上の注意

欠席が4回を越える場合、評価の対象外となります（病欠、公欠などやむを得ない事情がある場合はそれを証明できるものを提出してください）。
15分以内は遅刻、遅刻2回は欠席1回となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業を振り返り，不明な点があれば次の授業で質問してください。また，次の回の内容について教科書に目を通しておいてください。

5．教科書

Reading Explorer 4. Third Edition. National Geographic Learning.

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業の前後で全体に対して行います。

8．成績評価の方法

出席と（ペアワークやグループワークを含む）授業参加度（10%）、Quizzes（50%）、Final Test（40%）によって、総合的に成績評価をします。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ（中級）

1単位	1年次	**宇野　雅章**

1．授業の概要・到達目標

『JAPAN TIMES ALPHA』など、英字新聞に掲載された英語エッセイや記事など、英字新聞を活用して、英文読解を中心に授業を進める。

到達目標は、基本的な英語読解能力（これが身につけば、さまざまな英語能力資格試験においても実践的な力となる）と「世界を知る」ための視点の涵養である。

2．授業内容

第1回　当講義の概要・使用教材の説明
第2回　英字新聞・雑誌の読み方・概説
第3回　英文記事を読む・その1
第4回　英文記事を読む・その2
第5回　英文記事を読む・その3
第6回　英文記事を読む・その4
第7回　英文記事を読む・その5
第8回　英文記事を読む・その6
第9回　英文記事を読む・その7
第10回　英文記事を読む・その8
第11回　英文記事を読む・その9
第12回　英文記事を読む・その10
第13回　英文記事を読む・その11
第14回　a:講義（春学期のまとめ）
　　b:試験

3．履修上の注意

英和（英英）辞典は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。

携帯電話やノートパソコン等インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当者の許可がない限り、いかなる目的であっても禁止します。

その他の注意事項に関しては、1回目の講義で伝えます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容に関しては、復習が中心になります。次週までに配布物を再読し、不明な点はすぐに講義担当者に質問するようにすること。

5．教科書

プリントを配布します。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内課題（レポート）については、翌週の授業で全体的なコメントを行う。個別に意見（注意）が必要な課題については、該当者にコメントを添えて返却する。

8．成績評価の方法

提出課題の成績30%、学期末考査70%。以上を100点満点で換算し、60点未満の者には単位を認定しない（当学部の規定通り）。

9．その他

英文読解（input）は、一見「地味」な作業ですが、英文の構造・理論を理解し、単語力を身につけるためにもっとも有効な学習のひとつです。この学習を礎にすれば、他講座で学習するであろう英会話・英作文などの「発信力」（output）の強化にもつながると思います。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ （中級）

1単位	1年次	宮本　正治

1．授業の概要・到達目標

英文の大意を早く把握する練習をすることを目的とする。

テキストを精読するが、受講生はあらかじめパラグラフごとのトピックとなるセンテンスを発見し、大意を発表できるよう準備しておく。

以上の練習を通じて、英文エッセイの基本的な構成に慣れていき、読解に必要な考え方を身につけることを目標とする。最終的には、テーマに対する自分なりの意見を持ち、発表することも目標とする。そのため会話文に慣れるよう適宜リスニングの練習も行う。

2．授業内容

授業では、現代社会の問題に関するテキストを使います。

教室では、教材の内容を正確に把握できているか確認しつつ、グループワークや講師との対話などを通して、内容に対する理解を深めます。英文構造の確認は必要に応じて行います。

最終的には、それぞれの意見を発表してもらう予定です。どんな意見を述べるのも自由ですが、ただし分析や議論の根拠も必要です。そのためにも日頃から新聞やテレビ、インターネットで情報や資料を収集するようにします。

また、テキストだけでなく、その他の資料を見て、批判的に分析し、考え、意見を持つ訓練もしたいと考えています。

どのunitを読むかはあくまで目安です。受講生の興味関心を考慮しながら決めたいと思います。

第1週：イントロダクション
第2週：テキストunit1-1
第3週：テキストunit1-2
第4週：テキストunit2-1
第5週：テキストunit2-2
第6週：テキストunit3-1
第7週：テキストunit3-2
第8週：テキストunit4-1
第9週：テキストunit4-2
第10週：テキストunit5-1
第11週：テキストunit5-2
第12週：テキストunit6-1
第13週：テキストunit6-2
第14週：学期まとめ

3．履修上の注意

最初はどんな素朴な意見でもかまいません。積極的に発言する努力を評価します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎週、予習をチェックし、単語の小テストを行います。
常習的に予習をしてこない者は出席を認めないことがあります。

5．教科書

『新しい世界の読み方Understanding Our New Challenges』（成美堂）
内容に関連して、適宜プリントを配布する。

6．参考書

開講時に指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

8．成績評価の方法

試験25%、レポート25%、授業の予習および参加態度50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ （中級）

1単位	1年次	ヘイ，ウィリアム　A

1．授業の概要・到達目標

This course focuses mainly on reading and writing, but will also incorporate other skills, such as speaking and short presentations.
The overall course objective is to improve students' reading and writing skills.
It also aims to:
1. Preview and skim a text to get the gist of the content
2. Identify topics and main ideas in a text, and guess the meaning of unknown words
3. Summarize key points using a graphic organizer
4. Give opinions about a text to small groups
5. Generate paragraphs and short essays based on textbook readings

2．授業内容

Week 1 Course Orientation
Week 2 Unit 1 – Endangered Animals
Week 3 Unit 1 – Introduced Animals
Week 4 Unit 2 - Global Warming
Week 5 Unit 2 - Deforestation
Week 6 End of Unit Assessment
Week 7 Midterm Assessment
Week 8 Unit 3 - City of the Future
Week 9 Unit 3 - Traffic Congestion
Week 10 End of Unit Assessment
Week 11 Unit 4 - Customs around the World
Week 12 Unit 4 - Cultural Heritage
Week 13 End of Unit Assessment
Week 14 Final Assessment

3．履修上の注意

Students in this class will be expected to attend all classes and contribute to group and pair work activities. The class will be held in English so students must be willing to try to express their ideas in English.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Preview each lesson before the next class and complete the homework assignment.

5．教科書

Unlock 3 Reading and Writing (3rd Edition) by Carolyn Westbrook and Lida Baker with Chris Sowton, Cambridge University Press
ISBN: 978-1-009-79752-8

6．参考書

A good English to Japanese dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法

For all class assessments, students will receive a written grading rubric which identifies the good points of their performance and highlights where they need to improve

8．成績評価の方法

You will be assessed as follows:
Class participation 25%, Assignments 45%, Midterm and Final Assessments 30%.

9．その他

AI-generated assignments will not be accepted.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B I （上級）

1単位	1年次	鈴木　雅子

1．授業の概要・到達目標

この授業では様々な社会的話題についての読解を中心に学ぶ。文章の構成の理解、批判的思考による内容の理解と分析、語彙の学習を主に行い、適宜マルチメディア教材を用いたディスカッションやライティングによるアウトプットも行う。アカデミックな内容をパラグラフ毎の要点や論理構造を整理しながら読み進め全体像を理解できるようにすることを目標とする。また、内容を鵜呑みにするのではなく批判的に読み解き自分の意見を形成し適切な英語で表現する助けとしたい。

2．授業内容

3週間に1Unitのペースで学習を進める。概ね3週間のうちの最初の週にReading1、翌週にReading2を扱い、最後の週にCritical Thinking StrategyとWriting Skillのセクションを学ぶサイクルとする。
第１回：Course Introduction & Unit1-Reading1
第２回：Unit1-Reading2
第３回：Unit1-Critical Thinking & Writing
第４回：Unit2-Reading1
第５回：Unit2-Reading2
第６回：Unit2-Critical Thinking & Writing
第７回：Test1（Unit1&2）
第８回：Unit3-Reading1
第９回：Unit3-Reading2
第10回：Unit3-Critical Thinkiing & Writing
第11回：Unit4-Reading1
第12回：Unit4-Reading2
第13回：Unit4-Critical Thinking & Writing
第14回：Test2（Unit3&4）

3．履修上の注意

Please bring an English-English dictionary with you every week.
Three absences maximum. Coming late twice will count as an absence.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の指定された箇所を読んでくること。iQ Online Practiceの指定された問題を解いてくること。

5．教科書

Nigel Caplan and Scott Douglas. Q: Skills for Success Level 5 Reading and Writing Student Book with iQ Online Practice [Third Edition]. Oxford University Press.（ISBN: 978-0-19-490396-7）

6．参考書

None.

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内で典型例を解説する。

8．成績評価の方法

Test（1）25%
Test（2）25%
In-Class Participation 50%
Maximum three absences. A student who misses more than three classes cannot be graded. Coming late for more than 15 minutes will count as a half absence.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B I （上級）

1単位	1年次	フーパー，ドナバン　A.

1．授業の概要・到達目標

This course is an English Skills course focusing mainly on the students' reading and writing skills, though other skills such as speaking skills and vocabulary-learning skills will also be covered. The aim of the course will be to improve the students' vocabulary knowledge in order to help them improve their reading and writing skills. Students will be expected to read and discuss various reading passages showing their understanding and opinion and to follow up by producing short written passages based on the topics they have read.

2．授業内容

Week 1 Introductions
Week 2 Animals Reading Skills 1 – Endangered Species
Week 3 Animals Reading Skills 2 - Squirrels
Week 4 Animals Language - Comparisons
Week 5 Animals Writing Skills – Comparison Essays
Week 6 Animals Writing Skills – Partner Edits
Week 7 Animals Writing Skills – Report Submission / Review
Week 8 Transport Reading Skills 1 – Masdar
Week 9 Transport Reading Skills 2 – Traffic Congestion
Week 10 Transport Language – Conditional Sentences
Week 11 Transport Language 2 – Discourse Markers
Week 12 Transport Writing Skills – Problem Solution Essays
Week 13 Transport Writing Skills – Partner Edits
Week 14 Transport Writing Skills – Report Submission / Review

3．履修上の注意

Students in this class will be expected to attend all classes and contribute to group and pair work activities. The class will be held in English so students must be willing to try to express their ideas in English.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Review each lesson before the next class and complete the homework assignment.

5．教科書

Unlock 3 Reading and Writing by Cambridge University Press **Second Edition**

6．参考書

A good English to Japanese dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports will be returned through Oh-Meiji and then there will be a general review in the next class.

8．成績評価の方法

Grades will be based on;
Attendance 20%
class participation 30%
2 course papers. 50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ （上級）

1単位	1年次	鈴木　幸

1．授業の概要・到達目標
The purpose of this class is to enhance your ability to understand (read and listen to) social issues, and also to express (speak and write) your personal opinions critically in English.
Objectives to be achieved:
1. To be able to understand problems we face in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To build a strong English vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.

2．授業内容
In this class, students will practice reading articles, picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: reading task, Q & A, writing quiz, and group/pair work. You must be willing to try to express your ideas in English.
1．a: Introduction
　b: Unit 1 Neighbours
2．Unit 1 Points of View: Neighbours need to find a compromise.
3．Unit 2 Tourism
4．Unit 2 Points of View: New developments are good for the community.
5．Unit 3 Media Violence
6．Unit 3 Points of View: PC games are too violent.
7．Unit 4 Body Image
8．Unit 4 Points of View: Dieting is a waste of time.
9．Unit 5 Cybersafe?
10. Unit 5 Points of View: It's too dangerous to use the Internet.
11. Unit 6 Modern Families
12. Unit 6 Points of View: Divorce is harmful for society.
13. Presentation
14. a: Examination
　b: Review

3．履修上の注意
Students are supposed to attend all classes and actively participate in classroom activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

5．教科書
Liu, J., et at., 2011, *Communication Strategies Level 4*, Cengage Learning.
978-981-4232-67-8　￥3,460

6．参考書
None.

7．課題に対するフィードバックの方法
At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

8．成績評価の方法
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Assignment/Presentation: 20%
Exam: 40%
遅刻は減点となり、30分で欠席扱いとします。
遅延証明書は2回まで受け取ります。
実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とします。
公欠の場合も、欠席の取り扱いにはしませんが、欠席回数には含みます。

9．その他
Contact information will be posted on Oh-o! Meiji's "Class Web".

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills B Ⅰ （SPICE）

1単位	1年次	ヘイ，ウィリアム　A

1．授業の概要・到達目標
This course focuses mainly on reading and writing, but will also incorporate short presentation activities.
The objective of this course is to:
1. Preview and skim a text to get the gist of the content
2. Identify topics and main ideas in a text by guessing the meaning of unknown words
3. Analyze patterns of text organization and create an outline
4. Summarize key points using a graphic organizer
5. Give opinions about a text to small groups
6. Critically evaluate the information in a text
7. Write effective summaries and paragraphs

2．授業内容
Week 1 Course Orientation
Week 2 Unit 1 - A Genius Explains
Week 3 Unit 1 - 10,000 Hours to Mastery
Week 4 Unit 2 - A Life of Twists and Turns
Week 5 Unit 2- Marla Runyan
Week 6 End of Unit Assessment
Week 7 Midterm Assessment
Week 8 Unit 3 - Genetic Testing and Disease
Week 9 Unit 3 - Laughter Therapy
Week 10 End of Unit Assessment
Week 11 Unit 4 - Extreme Perception and Animal Intelligence
Week 12 Unit 4 - How Smart are Animals
Week 13 End of Unit Assessment
Week 14 Final Assessment

3．履修上の注意
Students in this class will be expected to attend all classes and contribute to group and pair work activities.
This course has an English-only policy.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Preview each lesson before the next class and complete the homework assignment.

5．教科書
NorthStar 4 Reading & Writing (5th Edition) by Andrew K. English and Laura Monahan English, Pearson Education

6．参考書
A good English to Japanese dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法
For all class assessments, students will receive a written grading rubric which identifies the good points of their performance and highlights where they need to improve.

8．成績評価の方法
You will be assessed as follows:
Class participation 20%, Assessments 50%, Midterm and Final Assessments 30%

9．その他
AI-generated assignments will not be accepted.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅠ（駿河台開講）

1単位	1年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標
The aim of this course is to give students extensive listening and speaking communication practice opportunities. Each week, students will work with a different partner and engage in several listening and communication activities. Students will also be reviewing grammar learned in previous years and relevantvocabulary for each of the topics covered during the course. The teacher will choose several of the units from the textbook. These units will be from, Memories, Life changes, Viewpoints, Problems, Thinking ahead, Imagine!, My world, Past events, feelings and opinions, What if … ? Work it out, and Looking back.

Students will be given regular listening, paper and speaking tests throughout the course.

2．授業内容
Week 1. Course introduction & explanation
Week 2. First unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 3. First unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 4. Second unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 5. Second unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 6. Testing for unit 1 & 2
Week 7. Third unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 8. Third unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 9. Fourth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 10. Fourth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 11. Testing for unit 3 & 4
Week 12. Fifth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 13. Fifth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 14. End-of-term Communication Tests

3．履修上の注意
Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and how students are graded.
Each student must have a textbook to be able to take the course, and students should carry notebooks or a tablet device for note taking.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students must regularly review the work done in class and complete homework assignments on time. Assignments and research will be given when and where it is necessary.

5．教科書
Breakthrough Plus Book 3 (2nd Edition) By Miles Craven
Macmillan Education
ISBN: 978-1-380-00318-8

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
Students will be given feedback on all of the tests and assignments completed during the course. Regular advice will also be given during class time.

8．成績評価の方法
Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%)
Listening, speaking and paper tests (40%),
Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（基礎）

1単位	1年次	中野　里美

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】 readingとwritingの運用能力を高める。文章を読む際に書くことを意識しながら読むことで、書くポイントが理解できて、また表現を多く知り、ストックを集めていくことで実用的な表現へとつなげることが出来るようにします。英語を読む、書くことの苦手意識を取り除くことがまず1つ。2つめは自分の考えを持つことを促していきます。
【到達目標】
readingにはTOEIC readingや英文記事なども取り入れて実用に対応がきくよう基礎力を確実につけること。様々な英文をより多く読むことで英文に慣れること。自分の意見を持つこと。テキストから派生した英字新聞の記事なども表現を参考にし、意見をまとめられること。

2．授業内容
毎回ウォーミングアップとして、TOEIC readingをプリントにて用意します。解答を回収したら、こちらですべて解説。要点を自分で確認していきましょう。次にテキストの内容を目の情報だけでなく、耳からの情報よっても把握し、その章の表現を確認して、自分の意見をまとめます。
第1回 a： イントロダクション
b： 簡単なリーディング、ライティング
第2回 TOEIC reading, Trump Officials Texted War Plans in Secure App
第3回 TOEIC reading, Sites urge Australian to delay child ban
第4回 TOEIC reading, Thanks to Ohtani, MLB Enjoys Huge Success in Japan and Momentum for 2025
第5回 TOEIC reading, Japan's Nihon Hidankyo Wins Nobel Peace Prize
第6回 TOEIC reading, More countries, including China, grapple with shrinking, aging populations
第7回 TOEIC reading, That's my bike! Vigilantes fight back as theft rises, faith in police plummets
第8回 TOEIC reading, 45.7% in Japan poll think asking store employees to smile is harassment
第9回 TOEIC reading, Cook Islands give detail of China deal that upset close partner New Zealand
第10回 TOEIC reading, Indonesia showcases returned artifacts it sought for decades from Netherlands
第11回 TOEIC reading, Africa must act to stem youth brain drain as economies continue to suffer
第12回 TOEIC reading, Odor-Detecting Drone Uses Silkworm Moth Antennae for Disaster Rescue
第13回 TOEIC reading, How Japan is looking deep underground to solve its carbon problem
第14回 a： まとめ
b： 試験

3．履修上の注意
予習が必須です。出席を毎回確認します。
質問などがあれば遠慮なくしてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：内容を把握してくること。分かる点や分からない点を見つけておけば、授業内で解消しやすいでしょう。
復習：ＴＯＥＩＣ readingやテクストの中で知らなかった単語を覚え、文法事項を確認しましょう。

5．教科書
PDFをアップします。

6．参考書
あれば授業内でお知らせします。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題の解説は、なるべく速やかにクラス･ウェッブ上にて掲載します。

8．成績評価の方法
欠席5回以上（5回含む）をもって、評価の対象外とする。遅刻も授業開始15分以降の入室からとし、3回目の遅刻は欠席1回に換算する。なお、病欠、公欠、忌引きなどは、日付が確認でき、かつ本人のものと証明できるものがあれば、例外とする。長文を読み慣れていない人には予習が必須です。遅刻も遅延証明書を認めます。
ＴＯＥＩＣ reading テクストのReading ライティング＝40％ 期末試験＝60％

9．その他
何かあればクラスウェブでお知らせします。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（基礎）

1単位	1年次	鈴木　幸

1．授業の概要・到達目標

The same as the spring semester, the purpose of this autumn one is to enhance your ability to understand (read and listen to) social issues, and also to express (speak and write) personal opinions critically in English.

Objectives to be achieved:

1. To be able to understand problems we face in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To build a strong English vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.

2．授業内容

In this class, students will practice reading articles, picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: reading task, Q & A, writing quiz, and group/pair work. You must be willing to try to express your ideas in English.

1．a: Introduction
　b: 12 Gender, Sex, and Sexuality (Sex and Gender)
2．12 Gender, Sex, and Sexuality (Gender / Sex and Sexuality)
3．13 Aging and the Elderly (Who Are the Elderly? Aging in Society)
4．13 Aging and the Elderly (The Process of Aging)
5．14 Marriage and Family
6．15 Religions
7．16 Education
8．17 Government and Politics
9．18 Work and the Economy
10. 19 Health and Medicine
11. 20 Population, Urbanization, and the Environment
12. 21 Social Movements and Social Change
13. Presentation
14. a. Examination
　b. Review

3．履修上の注意

Students are supposed to attend all classes and actively participate in classroom activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

5．教科書

Griffiths, H., et al., 2015, *Introduction to Sociology 2e (English Edition)*, OpenStax.
この教科書は、Kindle電子書籍になります。
初回の授業で購入方法を説明します。
必ずスマートフォン（PC・タブレット端末等）をご持参ください。
注）前期に使用する教科書と同じです。後半部分になります。

6．参考書

None.

7．課題に対するフィードバックの方法

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

8．成績評価の方法

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Assignment/Presentation: 20%
Exam: 40%
遅刻は減点となり、30分で欠席扱いとします。
遅延証明書は2回まで受け取ります。
実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とします。
公欠の場合も、欠席の取り扱いにはしませんが、欠席回数には含みます。

9．その他

Contact information will be posted on Oh-o! Meiji's "Class Web".

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（中級）

1単位	1年次	宇野　雅章

1．授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、秋学期も英字新聞・週刊誌などの記事を読む。到達目標も、春学期同様であるが、さらなる発展を目指したい。

2．授業内容

第1回　当講義の概要・使用教材の説明
第2回　英文記事を読む・その1
第3回　英文記事を読む・その2
第4回　英文記事を読む・その3
第5回　英文記事を読む・その4
第6回　英文記事を読む・その5
第7回　英文記事を読む・その6
第8回　英文記事を読む・その7
第9回　英文記事を読む・その8
第10回　英文記事を読む・その9
第11回　英文記事を読む・その10
第12回　英文記事を読む・その11
第13回　英文記事を読む・その12
第14回　a:講義（秋学期のまとめ）
　　b:試験

3．履修上の注意

英和（英英）辞典は、必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。
携帯電話やノートパソコン等インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当者の許可がない限り、いかなる目的であっても禁止します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容に関しては、復習が中心になります。次週までに配布物を再読し、不明な点はすぐに講義担当者に質問するようにすること。

5．教科書

プリントを配布します。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内課題（レポート）については、翌週の授業で全体的なコメントを行う。個別に意見（注意）が必要な課題については、該当者にコメントを添えて返却する。

8．成績評価の方法

提出課題の成績30%、学期末考査70%。以上を100点満点で換算し、60点未満の者には単位を認定しない（当学部の規定通り）。

9．その他

英文読解（input）は、一見「地味」な作業ですが、英文の構造・理論を理解し、単語力を身につけるためにもっとも有効な学習のひとつです。この学習を礎にすれば､他講座で学習するであろう英会話･英作文などの「発信力」（output）の強化にもつながると思います。

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（中級）

1単位	1年次	鈴木　幸

1．授業の概要・到達目標
The same as the spring semester, the purpose of this autumn one is to enhance your ability to understand (read and listen to) social issues, and also to express (speak and write) personal opinions critically in English.
Objectives to be achieved:
1. To be able to understand problems we face in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To build a strong English vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.

2．授業内容
In this class, students will practice reading articles, picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: reading task, Q & A, writing quiz, and group/pair work. You must be willing to try to express your ideas in English.
1．Unit 10A Living Longer（close reading）
2．Unit 10A Living Longer（reading comprehension & discussion）
3．Unit 10B In Search of Longevity（close reading）
4．Unit 10B In Search of Longevity（reading comprehension & discussion）
5．Unit 11A Saving Water（close reading）
6．Unit 11A Saving Water（reading comprehension & discussion）
7．Unit 11B Technology as Trash（close reading）
8．Unit 11B Technology as Trash (reading comprehension & discussion）
9．Unit 12A Planet Hunters（close reading）
10. Unit 12A Planet Hunters（reading comprehension & discussion）
11. Unit 12B The Threat from Space（close reading）
12. Unit 12B The Threat from Space（reading comprehension & discussion）
13. Presentation
14. a: Examination
b: Review

3．履修上の注意
Students are supposed to attend all classes and actively participate in classroom activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

5．教科書
Bohlke, D., et al., 2020, *Reading Explorer 4*, 3rd ed., National Geographic Learning.
9798214085883 Split 4B with Spark Access + e-Book (1 year access) ￥2,260（￥2,486 tax included）
注1）前半部分 (Unit 1 - 6) の 4A ではなく、後半部分 (Unit 7 - 12) の 4B になります。
注2）前期に使用する教科書と同じです。

6．参考書
None.

7．課題に対するフィードバックの方法
At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

8．成績評価の方法
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Assignment/Presentation: 20%
Exam: 40%
遅刻は減点となり、30分で欠席扱いとします。
遅延証明書は2回まで受け取ります。
実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とします。
公欠の場合も、欠席の取り扱いにはしませんが、欠席回数には含みます。

9．その他
Contact information will be posted on Oh-o! Meiji's "Class Web".

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（中級）

1単位	1年次	奥田　博子

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
英文読解力に、英文表現力のために英語ライティングも加えて実践的かつ総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指します。アカデミック・ライティングの基本となる論理的な文章構成力を磨き、さまざまなスタイルの英文を読むことで英文エッセイの基本的な構成を習熟します。
【到達目標】
英文ライティングのスタイルや構成に関する理解を深め、さらに時事問題についても自分の意見や見解を英語で提示できるようになることを目標とします。

2．授業内容
第一回　Introduction
第二回　Unit 7: Group Behavior
第三回　Unit 7: Group Behavior
第四回　Unit 8: Investigation
第五回　Unit 8: Investigation
第六回　Unit 9: Rediscovering the Past
第七回　Unit 9: Rediscovering the Past
第八回　Unit 10: Healthy Living
第九回　Unit 10: Healthy Living
第十回　Unit 11: Green Solutions
第十一回　Unit 11: Green Solutions
第十二回　Unit 12: Earth and Beyond
第十三回　Unit 12: Earth and Beyond
第十四回　Final Test, Review & Wrap-up

3．履修上の注意
欠席が4回を越える場合、評価の対象外となります（病欠、公欠などやむを得ない事情がある場合はそれを証明できるものを提出してください）。
15分以内は遅刻、遅刻2回は欠席1回となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
授業を振り返り，不明な点があれば次の授業で質問してください。また，次の回の内容について教科書に目を通しておいてください。

5．教科書
Reading Explorer 4. Third Edition. National Geographic Learning.

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業の前後で全体に対して行います。

8．成績評価の方法
出席と（ペアワークやグループワークを含む）授業参加度（10%）、Quizzes（50%）、Final Test（40%）によって、総合的に成績評価をします。

9．その他
特になし

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（中級）

1単位	1年次	鈴木　雅子

1．授業の概要・到達目標

この授業では様々な社会的話題についての読解を中心に学ぶ。文章の構成の理解、批判的思考による内容の理解と分析、語彙の学習を主に行い、適宜マルチメディア教材を用いたディスカッションやライティングによるアウトプットも行う。ある程度アカデミックな内容をパラグラフ毎の要点を整理しながら読み進め全体像を理解できるようにすることを目標とする。また、内容を鵜呑みにするのではなく批判的に読み解き自分の意見を形成し適切な英語で表現する助けとしたい。

2．授業内容

3週間に1Unitのペースで学習を進める。概ね3週間のうちの最初の週にReading1、翌週にReading2を扱い、最後の週にCritical Thinking StrategyとWriting Skillのセクションを学ぶサイクルとする。
第１回：Unit5-Reading1
第２回：Unit5-Reading2
第３回：Unit5-Critical Thinking & Writing
第４回：Unit6-Reading1
第５回：Unit6-Reading2
第６回：Unit6-Critical Thinking & Writing
第７回：Test1（Unit5&6）
第８回：Unit7-Reading1
第９回：Unit7-Reading2
第10回：Unit7-Critical Thinking & Writing
第11回：Unit8-Reading1
第12回：Unit8-Reading2
第13回：Unit8-Critical Thinking & Writing
第14回：Test2（Unit7&8）

3．履修上の注意

英英辞書を必ず毎週授業に持ってきてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の指定された箇所を読んでくること。iQ Online Practiceの指定された問題を解いてくること。

5．教科書

Debra Daise and Charl Norloff. Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing Student Book with iQ Online Practice [Third Edition]. Oxford University Press.（ISBN: 978-0-19-490395-0）

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

典型例を授業内で解説する。

8．成績評価の方法

Test（1）25%
Test（2）25%
Homework Assignment 10%
In-Class Participation 40%
欠席が3回を越える場合（3欠席1遅刻含む）は評価の対象外とします。病欠、公欠などやむを得ない事情がある場合はそれを証明できるものを持参してください。15分以上の遅刻2回は１回分の欠席として扱います。また、毎週課題のダイアグラムを提出して貰い、宿題点として加算します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（中級）

1単位	1年次	宮本　正治

1．授業の概要・到達目標

英文の大意を早く把握する練習をすることを目的とする。

テキストを精読するが、受講生はあらかじめパラグラフごとのトピックとなるセンテンスを発見し、大意を発表できるよう準備しておく。

以上の練習を通じて、英文エッセイの基本的な構成に慣れていき、読解に必要な考え方を身につけることを目標とする。最終的には、テーマに対する自分なりの意見を持ち、発表することも目標とする。そのため会話文に慣れるよう適宜リスニングの練習も行う。

2．授業内容

授業では、現代社会の問題に関するテキストを使います。

教室では、教材の内容を正確に把握できているか確認しつつ、グループワークや講師との対話などを通して、内容に対する理解を深めます。英文構造の確認は必要に応じて行います。

最終的には、それぞれの意見を発表してもらう予定です。どんな意見を述べるのも自由ですが、ただし分析や議論の根拠も必要です。そのためにも日頃から新聞やテレビ、インターネットで情報や資料を収集するようにします。

また、テキストだけでなく、その他の資料を見て、批判的に分析し、考え、意見を持つ訓練もしたいと考えています。

どのunitを読むかはあくまで目安です。受講生の興味関心を考慮しながら決めたいと思います。
第１週：イントロダクション
第２週：テキストunit7-1
第３週：テキストunit7-2
第４週：テキストunit8-1
第５週：テキストunit8-2
第６週：テキストunit9-1
第７週：テキストunit9-2
第８週：テキストunit10-1
第９週：テキストunit10-2
第10週：テキストunit11-1
第11週：テキストunit11-2
第12週：テキストunit12-1
第13週：テキストunit12-2
第14週：学期まとめ

3．履修上の注意

最初はどんな素朴な意見でもかまいません。積極的に発言する努力を評価します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎週、予習をチェックし、単語の小テストを行います。
常習的に予習をしてこない者は出席を認めないことがあります。

5．教科書

『新しい世界の読み方Understanding Our New Challenges』（成美堂）
内容に関連して、適宜プリントを配布する。

6．参考書

開講時に指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

8．成績評価の方法

試験25%、レポート25%、授業の予習および参加態度50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（中級）

1単位	1年次	ヘイ，ウィリアム　A

1．授業の概要・到達目標

This course focuses mainly on reading and writing, but will also incorporate other skills, such as speaking and short presentations.
The overall course objective is to improve students' reading and writing skills.
It also aims to:
1. Preview and skim a text to get the gist of the content
2. Identify topics and main ideas in a text, and guess the meaning of unknown words
3. Summarize key points using a graphic organizer
4. Give opinions about a text to small groups
5. Generate paragraphs and short essays based on textbook readings

2．授業内容

Week 1 Course Orientation
Week 2 Unit 5 - Keeping Fit
Week 3 Unit 5 - Fighting Obesity
Week 4 End of Unit Assessment
Week 5 Unit 6 - The Magic of Mimicry
Week 6 Unit 6 - The World of Tomorrow
Week 7 End of Unit Assessment
Week 8 Midterm Assessment
Week 9 Unit 7 - Fast Fashion
Week 10 Unit 7 - Offshore Production
Week 11 End of Unit Assessment
Week 12 Unit 8 - Investing Your Money
Week 13 Unit 8 - Falling Incomes
Week 14 Final Examination

3．履修上の注意

Students in this class will be expected to attend all classes and contribute to group and pair work activities. The class will be held in English so students must be willing to try to express their ideas in English.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Preview each lesson before the next class and complete the homework assignment.

5．教科書

Unlock 3 Reading and Writing (3rd Edition) by Carolyn Westbrook, Jessica Williams, and Lida Baker with Chris Sowton, Cambridge University Press. ISBN: 978-1-009-79752-8

6．参考書

A good English to Japanese dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法

For all class assessments, students will receive a written grading rubric which identifies the good points of their performance and highlights where they need to improve.

8．成績評価の方法

You will be assessed as follows:
Class participation 25%, Unit Assessments 45%, Midterm and Final Assessment 30%

9．その他

AI-generated assignment will not be accepted

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（上級）

1単位	1年次	鈴木　雅子

1．授業の概要・到達目標

この授業では様々な社会的話題についての読解を中心に学ぶ。文章の構成の理解、批判的思考による内容の理解と分析、語彙の学習を主に行い、適宜マルチメディア教材を用いたディスカッションやライティングによるアウトプットも行う。アカデミックな内容をパラグラフ毎の要点や論理構造を整理しながら読み進め全体像を理解できるようにすることを目標とする。また、内容を鵜呑みにするのではなく批判的に読み解き自分の意見を形成し適切な英語で表現する助けとしたい。

2．授業内容

3週間に1Unitのペースで学習を進める。概ね3週間のうちの最初の週にReading1、翌週にReading2を扱い、最後の週にCritical Thinking StrategyとWriting Skillのセクションを学ぶサイクルとする。
第1回：Unit5-Reading1
第2回：Unit5-Reading2
第3回：Unit5-Critical Thinking & Writing
第4回：Unit6-Reading1
第5回：Unit6-Reading2
第6回：Unit6-Critical Thinking & Writing
第7回：Test1（Unit5&6）
第8回：Unit7-Reading1
第9回：Unit7-Reading2
第10回：Unit7-Critical Thinking & Writing
第11回：Unit8-Reading1
第12回：Unit8-Reading2
第13回：Unit8-Critical Thinking & Writing
第14回：Test2（Unit7&8）

3．履修上の注意

Please bring an English-English dictionary with you every week.
Three absences maximum. Coming late twice counts as an absence.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の指定された箇所を読んでくること。iQ Online Practiceの指定された問題を解いてくること。

5．教科書

Nigel Caplan and Scott Douglas. Q: Skills for Success Level 5 Reading and Writing Student Book with iQ Online Practice [Third Edition]. Oxford University Press.（ISBN: 978-0-19-490396-7）

6．参考書

None.

7．課題に対するフィードバックの方法

典型例を授業内で解説する。

8．成績評価の方法

Test（1）25%
Test（2）25%
In-Class Participation 50%
Maximum three absences. A student who misses more than three classes cannot be graded. Coming late for more than 15 minutes will count as a half absence.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（上級）

1単位	1年次	フーパー，ドナバン　A.

1．授業の概要・到達目標
This course is an English Skills course focusing mainly on the students' reading and writing skills, though other skills such as speaking skills and vocabulary-learning skills will also be covered. The aim of the course will be to improve the students' vocabulary knowledge in order to help them improve their reading and writing skills. Students will be expected to read and discuss various reading passages showing their understanding and opinion and to follow up by producing short written passages based on the topics they have read.

2．授業内容
Week 1 Summer Holiday
Week 2 Health & Fitness Reading Skills 1 – Exercise
Week 3 Health & Fitness Reading Skills 2 – Obesity
Week 4 Health & Fitness Language – Purpose
Week 5 Health & Fitness Language 2 – Expressing Opinions
Week 6 Health & Fitness Writing Skills – Balanced Opinion Essay
Week 7 Health & Fitness Writing Skills – Partner Edit / Submit
Week 8 Discovery & Invention Reading 1 – Mimicry
Week 9 Transport Reading 2 – Inventions
Week 10 Transport Language – Future Probability
Week 11 Transport Language 2 – Relative Clauses
Week 12 Transport Writing Skills – Advantages Essays
Week 13 Transport Writing Skills – Partner Edit
Week 14 Transport Writing Skills – Report Submission

3．履修上の注意
Students in this class will be expected to attend all classes and contribute to group and pair work activities. The class will be held in English so students must be willing to try to express their ideas in English.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Review the previous class and prepare all homework assignments. Also, you will be expected to be able to use a PC.

5．教科書
Unlock 3 Reading and Writing by Cambridge University Press
Second Edition

6．参考書
A good English to Japanese dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法
Reports will be returned through Oh-Meiji and then there will be a general review in the next class.

8．成績評価の方法
Grades will be based on;
Attendance 20%
Class participation 30%
2 Course papers. 50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ（上級）

1単位	1年次	鈴木　　幸

1．授業の概要・到達目標
The same as the spring semester, the purpose of this autumn one is to enhance your ability to understand (read and listen to) social issues, and also to express (speak and write) personal opinions critically in English.
Objectives to be achieved:
1. To be able to understand problems we face in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To build a strong English vocabulary.
4. To enhance overall English proficiency.

2．授業内容
In this class, students will practice reading articles, picking out key words/sentences, understanding the flow of paragraphs, and making summaries. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: reading task, Q & A, writing quiz, and group/pair work. You must be willing to try to express your ideas in English.
1．Unit 7 Medicine
2．Unit 7 Points of View: Conventional medicine can be dangerous.
3．Unit 8 Phobias
4．Unit 8 Points of View: You can get over phobias.
5．Unit 9 Life's Luxuries
6．Unit 9 Points of View: It isn't necessary to have a luxurious wedding.
7．Unit 10 Good Service
8．Unit 11 Fans
9．Unit 12 Strange Weather
10. Unit 13 Getting Older
11. Unit 14 Bullying
12. Unit 15 Working 9 to 5
13. Presentation
14. a: Examination
b: Review

3．履修上の注意
Students are supposed to attend all classes and actively participate in classroom activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

5．教科書
Liu, J., et at., 2011, *Communication Strategies Level 4*, Cengage Learning.
978-981-4232-67-8 ￥3,460
注）前期に使用する教科書と同じです。

6．参考書
None.

7．課題に対するフィードバックの方法
At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

8．成績評価の方法
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Assignment/Presentation: 20%
Exam: 40%
遅刻は減点となり、30分で欠席扱いとします。
遅延証明書は2回まで受け取ります。
実施授業数の2/3以上の出席者を評価対象とします。
公欠の場合も、欠席の取り扱いにはしませんが、欠席回数には含みます。

9．その他
Contact information will be posted on Oh-o! Meiji's "Class Web".

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ （SPICE）

1単位	1年次	ヘイ，ウィリアム　A

1．授業の概要・到達目標

This course focuses mainly on reading and writing, but will also incorporate short presentation activities.
The objective of this course is to:
1. Preview and skim a text to get the gist of the content
2. Identify topics and main ideas in a text by guessing the meaning of unknown words
3. Analyze patterns of text organization and create an outline
4. Summarize key points using a graphic organizer
5. Give opinions about a text to small groups
6. Critically evaluate the information in a text
7. Write effective short essays

2．授業内容

Week 1 Unit 5 - Death Do Us Part
Week 2 Unit 5 - Toward Immortality
Week 3 End of Unit Assessment
Week 4 Unit 6 - Justin Lebo
Week 5 Unit 6 - Some Take the Time Gladly
Week 6 End of Unit Assessment
Week 7 Midterm Assessment
Week 8 Unit 7 - Sea Unworthy
Week 9 Unit 7 - Two Proposals to Clean Up our Oceans
Week 10 End of Unit Assessment
Week 11 Unit 8 - Smartphone-Induced Problems
Week 12 Unit 8 - Unplugging Wired Kids
Week 13 Course Review
Week 14 Final Assessment

3．履修上の注意

Students in this class will be expected to attend all classes and contribute to group and pair work activities.
This course has an English-only policy.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Preview the previous class and prepare all homework assignments.

5．教科書

NortStar 4 (5th Edition) by Andrew K. English and Laura Monahon English, Pearson Education

6．参考書

A good English to Japanese dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法

For all class assessments, students will be given a written grading rubric which identifies the good points in their performance and highlights where they need to improve.

8．成績評価の方法

You will be assessed as follows:
Class participation 20%, Assessments 50%, Midterm and Final Assessment 30%

9．その他

AI-generated assignments will not be accepted.

科目ナンバー：(IC)LAN111M

English Skills BⅡ （駿河台開講）

1単位	1年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to give students extensive listening and speaking communication practice opportunities. Each week, students will work with a different partner and engage in several listening and communication activities. Students will also be reviewing grammar learned in previous years and relevantvocabulary for each of the topics covered during the course. The teacher will choose several of the units from the textbook. These units will be from, Memories, Life changes, Viewpoints, Problems, Thinking ahead, Imagine!, My world, Past events, feelings and opinions, What if … ? Work it out, and Looking back.

Students will be given regular listening, paper and speaking tests throughout the course.

2．授業内容

Week 1. Course introduction & explanation
Week 2. First unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 3. First unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 4. Second unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 5. Second unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 6. Testing for unit 1 & 2
Week 7. Third unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 8. Third unit (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 9. Fourth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 10. Fourth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 11. Testing for unit 3 & 4
Week 12. Fifth unit (part 1) (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 13. Fifth until (part 2) (Extension discussion and listening)
Week 14. End-of-term Communication Tests

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and how students are graded.
Each student must have a textbook to be able to take the course, and students should carry notebooks or a tablet device for note taking.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must regularly review the work done in class and complete homework assignments on time. Assignments and research will be given when and where it is necessary.

5．教科書

Breakthrough Plus Book 3 (2nd Edition) By Miles Craven
Macmillan Education
ISBN: 978-1-380-00318-8

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback on all of the tests and assignments completed during the course. Regular advice will also be given during class time.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%)
Listening, speaking and paper tests (40%),
Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Speech & Debate A (Speech & Debate Ⅰ)

1単位	2年次	ジョーンズ, ロジャー H.

1．授業の概要・到達目標
This is a dynamic, learner centred class. The students will be comprehensively the centre of the learning process through highly communicative lessons. There are several goals to this class:
To build the students' vocabulary.
To enhance the students' speaking and debating skills on a variety of world issues.
To enable the students to express their opinions in an effective writing style.
To understand and critically appreciate reading and listening on a wide variety of topics.
To be able to source information to further arguments and debates.
To use the internet for conversational activities.
At the end of the course, the students should be able to more effectively engage in sophisticated debates and discussions on several topics of global interest and they will become more international in their outlook and understanding. Please note that this class will be in English only.

2．授業内容
授業計画
1：Introduction to the class of studies and getting to know each other.
2：Rules both in the context of society and a class structure.
3：Discussions and debates in the context of what it means to improve English ability.
4：Examination of the process of making effective speeches.
5：What do we learn from famous highly skilled people?
6：Comparisons of effective learners and effective teachers.
7：The use of the media for studying a second language.
8：Examination of a case study regarding a sophisticated learner of Japanese.
9：An introduction to the concept of Japanese work ethics.
10：Discussion and debates on future employment plans.
11：Introduction into what it is that Japanese companies look for in an employee.
12：Case study of a worker employed by a large Japanese corporation.
13：Aspects of Japanese company culture: Do as you're told.
14：Final summations and assessments of students work during the semester.
定期試験：Oral examination of the students on the variety of topics discussed over the course of the semester.

3．履修上の注意
You need to bring a personal computer or tablet with a keyboard to every lesson. You also need to bring a smartphone and earphones or headphones. Make sure all devices are fully charge. It is not hard to get a good grade for this class if you keep perfect attendance and always attend the classes on time. To get the top grade requires your best efforts. But if you really try hard, you can do it. Try not to miss any lessons, if you do, you should check with a friend as to what you missed. Most lessons contain points that go towards your grade, which is why you should not miss any lessons. MISSING A CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK OR FOR NOT CATCHING UP ON WHAT YOU MISSED FROM THE CLASSES.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students need to review past week's lectures and make sure that they finish any homework set. Students must be sure to have downloaded the necessary study materials for each lesson.

5．教科書
No textbook will be used in this class. Study materials will be available during the course of studies. These must be downloaded and carefully stored on the students' personal computers in relevant folders.

6．参考書
"Conversation Questions for the ESL/EFL Classroom"
http://iteslj.org/questions/
"6 Tips to help ESL Students Give Killer Presentations."
http://busyteacher.org/15526-how-to-give-killer-oral-presentations-6-tips.html

7．課題に対するフィードバックの方法
Feedback will be given in class and via the Meiji website. Students will be advised on grades and/or points given for every assignment and task given. At any time, a student is welcome to talk about their assignments during the class and they can also e-mail me with any enquires they may have.

8．成績評価の方法
Teacher Points based on effort and participation = 100 x 10% = 10
Class Handouts = 100 x 40% = 40
Written Assignments = 100 x 20% = 20
Final Oral Assessments = 100 x 30% = 30
DO NOT USE AI FOR ANY ASSIGNMENT. DO NOT USE GRAMMAR APPS OR TRANSLATION APPS OR ANY OTHER APPS.

9．その他
Please remember to bring your personal computer or tablet with a keyboard, your smartphone, earphones or headphones to every lesson. Be sure that all devices are fully charged.
Class Motto:
Anything is possible with effort!

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Speech & Debate A (Speech & Debate Ⅰ)

1単位	2年次	鈴木　雅子

1．授業の概要・到達目標
In this course, students are to make a short presentation every week.
Topics and skills to learn each week will be given based on the latest social issues. In the first half of this course, we mainly learn about speech style and basic structure for public speech. In the second half, students will practice more argumentative speeches. By the last phase of the course, students will be ready to enjoy debates on public policies. Careful listening, audience adaptation and clarification of the aim of each speech make it possible to express your ideas appropriately. We will practice verbal activities integrating listening, writing and speaking skills at a time on various topics.
The course aims to let students build confidence in making 5 minute long speeches with clear logic and sufficient eye-contact.

2．授業内容
Week 1: Warm Up（Taking a Side）
Week 2: Reasoning
Week 3: Evidence
Week 4: Split
Week 5: Ethical Cause
Week 6: Pragmatic Analysis
Week 7: Presentation (1)
Week 8: Rebuttal
Week 9: Practice Debate 1（Rebuttal）
Week10: Comparison & Summary
Week11: Practice Debate 2（Summary）
Week12: Presentation (2)（Preparation）
Week13: Presentation (2)（Prepared Debate）
Week14: Presentation (3)（Impromptu Debate）

3．履修上の注意
Please bring an English-English dictionary with you every week.
Maximum three absences are allowed and coming late twice counts as an absence.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Please work on worksheets distributed in class and come prepared to make speeches.

5．教科書
All materials will be distributed in class.

6．参考書
Michael Hood. Dynamic Presentations. Kinseido: Tokyo. 2016.（ISBN 978-4-7647-4029-7）
Hideaki Motegi et al. 2008. Debating the Issues. Tokyo: Macmillan Language House（ISBN 978-4-89585-408-5）

7．課題に対するフィードバックの方法
Feedback will be given directly in class.

8．成績評価の方法
Presentation（1）20%
Presentation（2）20%
Presentation（3）20%
In-Class Performance & Participation 30%
Homework Assignments 10%
Maximum three absences. A student who misses more than three classes cannot be graded. Coming late for more than 15 minutes will count as a half absence.

9．その他
Let's enjoy exchanging ideas with others.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Speech & Debate A
(Speech & Debate Ⅰ)

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標
The aim of this course is to teach students the basic skills to be able to both discuss and debate topics in English, and to be able to plan organize and deliver short presentations about some of those topics. The first semester will focus mostly on the language and skills needed to discuss and debate in English, and the second semester will focus mostly on the language and skills needed to create and present good presentation.

In the first semester, students will focus on critical thinking skills and will work in pairs or groups to research, consider and discuss a range of topics. The language and skills needed to prepare for and take part in discussion and debate will be taught throughout the course. At the end of each topic, students will take part in a short discussion or debate. After completing each unit, students should complete the online exercises and Test for that unit. There will be a mid-term speaking or listening test, depending on the size of the class, and there will be end-of term speaking/discussion tests.

2．授業内容
This schedule and its content are subject to change.
Week 1. Course introduction & explanation
Week 2. Unit 1 - Vacations (part 1)
Week 3. Unit 1 - Vacations (Part 2) with language focus (asking for and giving opinions)
Week 4. Unit 2 - Movies (part 1)
Week 5. Unit 2 - Movies (Part 2) with language focus (understanding criteria)
Week 6. Unit 3 - Dating (part 1)
Week 7. Unit 3 - Dating (part 2) with language focus (agreeing and disagreeing)
Week 8. Mid-term listening or speaking test
Week 9. Unit 4 - Part-time jobs (part 1)
Week 10. Unit 4 - Part-time jobs (part 2) with language focus (giving reasons)
Week 11. Unit 5 - Learning English (part 1)
Week 12. Unit 5 - Learning English (part 2) with language focus (asking questions)
Week 13. Revision and test preparation
Week 14. Final speaking tests

3．履修上の注意
Students must attend class regularly and make an effort to speak in English at all times. Proper participation for all group and pair work activities is essential. The effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and determining grades.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Regular homework assignments and reviews will be given. Homework will be based around online assignments.

5．教科書
The English Course - Discussion Book 1. From The English Company
All students must buy a new copy of the textbook to be able to access the online web site.
Parts of the textbook may also be used in the second semester.

For the second semester, the same textbook will be used. Other materials will be taken from The English Course - Presentation Book 1. These will be provided by the teacher.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
All online assignments are done in Moodle and instantaneous feedback is given. Students will also be able to see the results of their online tests.

8．成績評価の方法
Continuous assessment consisting of: Classroom effort and participation each week (40%), discussions and debate tests, listening tests and presentations (40%), Homework and online quizzes (20%), There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Speech & Debate B
(Speech & Debate Ⅱ)

1単位	2年次	ジョーンズ, ロジャー H.

1．授業の概要・到達目標
This is a dynamic, learner centred class. The students will be comprehensively the centre of the learning process through highly communicative lessons. There are several goals to this class:
To build the students' vocabulary.
To enhance the students' speaking and debating skills on a variety of world issues.
To enable the students to express their opinions in an effective writing style.
To understand and critically appreciate reading and listening on a wide variety of topics.
To be able to source information to further arguments and debates.
To use the internet for conversational activities.
At the end of the course, the students should be able to more effectively engage in sophisticated debates and discussions on several topics of global interest and they will become more international in their outlook and understanding.
NOTE: THIS CLASS WILL BE CONDUCTED IN ENGLISH ONLY!

2．授業内容
授業計画
第1回：Introduction to the class of studies and learner strategy discussion.
第2回：The mass media - introductory discussions and readings.
第3回：Discussion of novels read and the benefits of reading.
第4回：Television in everyday life. Do we watch too much TV?
第5回：The pros and cons of the mass delivery of information through television.
第6回：Comparative analysis of competing forms of mass media.
第7回：Other mass media distractions in life and how they affect people.
第8回：Comparison between British television and television in Japan.
第9回：The development of the vast array of social media.
第10回：Modern forms of mass media and their usage.
第11回：Cell phones development and their pros and cons.
第12回：Streaming TV; the death of television?
第13回：The use of computers and other multi-media platforms.
第14回：Final summations and assessments of students work during the semester.
定期試験：Oral examination of the students on the variety of topics discussed over the course of the semester.

3．履修上の注意
You need to bring a personal computer or tablet with a keyboard, a smartphone and headphones or earphones to every lesson, and be sure all devices are fully charged up. It is not hard to get a good grade for this class if you keep perfect attendance and always attend the classes on time. To get the top grade requires your best efforts. But if you really try hard, you can do it. Try not to miss any lessons, if you do, you should check with a friend as to what you missed. Most lessons contain points that go towards your grade, which is why you should not miss any lessons.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students need to review previous lessons and make sure to complete any homework set. Be sure all the devices you bring to the class are fully charged. Be sure to have all the relevant study materials ready to use on your computer. If you miss a class be sure to find out what you need to do exactly by contacting another student in the class.

5．教科書
No textbook will be used in this class. All study material will be available for download during the course of the lessons.

6．参考書
"How to give the best speech or presentation in English." https://www.engvid.com/how-to-give-the-best-speech-or-presentation-in-english/
"ESL discussions." https://esldiscussions.com

7．課題に対するフィードバックの方法
Feedback will be given in class and via the Meiji website. Students will be advised on grades and/or points given for every assignment and task given. At any time, a student is welcome to talk about their assignments during the class and they can also e-mail me with any enquires they may have.

8．成績評価の方法
Participation and effort in speaking, written and listening assignments = 100 x 10% = 10
Class, homework and vocabulary tests from the study material = 100 x 40% = 40
Discussion writing = 100 x 20% = 20
Final oral assessments = 10 x 30% =30
Final points = 100
DO NOT USE AI FOR ANY ASSIGNMENT. DO NOT USE GRAMMAR APPS OR TRANSLATION APPS OR ANY OTHER APPS.

9．その他
Please remember to bring your PC, smartphone and earphones/headphones to every lesson. BE SURE EVERYTHING IS FULLY CHARGED. Be sure to have all the relevant study material downloaded and saved to your computer.
The class motto is: Discuss in English, English and more English!

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Speech & Debate B (Speech & Debate Ⅱ)

1単位	2年次	鈴木　雅子

1．授業の概要・到達目標

In this course, we mainly learn about interactive and argumentative speech and debate. In the first half of the course, we focus on building a case with grounds and appropriate structure for more complex arguments. In the second half of the course, we will learn how to critically evaluate speeches and cross-check the presented ideas.
At the end of the term, we aim to have quality debates with in-depth analysis. Careful listening, audience adaptation and clarification of aims of each speech make it possible to express your ideas appropriately. We will practice verbal activities integrating listening, writing and speaking skills at a time on various topics.
The course goal is to let students gain confidence in promptly rebutting and defending speeches.

2．授業内容

Week 1: Constructive Speech
Week 2; Visualization
Week 3: Ethics & Virtue
Week 4: Principles
Week 5: Measuring Cost & Benefit
Week 6: Causes & Consequences
Week 7: Presentation (1) (Speech)
Week 8: Rebuttal With Superiority
Week 9: Practice Debate 1 (Superiority)
Week10: Narrowing Down To A Few Clash Points (Summary)
Week11: Practice Debate 2 (Clash Points)
Week12: Presentation (2) (Preparation)
Week13: Presentation (2) (Prepared Debate)
Week14: Presentation (3) (Impromptu Debate)

3．履修上の注意

Please bring an English-English dictionary with you every week.
Maximum three absences are allowed and coming late twice counts as an absence.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Please work on worksheets distributed in class and come prepared to make speeches.

5．教科書

All materials will be provided in class.

6．参考書

Michael Hood. Dynamic Presentation. Kinseido: Tokyo. 2016. (ISBN 978-4-7647-4029-7)
Hideaki Motegi et al. 2008. Debating the Issues. Tokyo: Macmillan Language House (ISBN 978-4-89585-408-5)

7．課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given directly in class.

8．成績評価の方法

Presentation (1) 20%
Presentation (2) 20%
Presentation (3) 20%
In-Class Performance & Participation 30%
Homework Assignments 10%
Maximum three absences. A student who misses more than three classes cannot be graded. Coming late for more than 15 minutes will count as a half absence.

9．その他

Let's enjoy exchanging ideas with others!

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Speech & Debate B (Speech & Debate Ⅱ)

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to teach students the basic skills to be able to both discuss and debate topics in English, and to be able to plan organize and deliver short presentations about some of those topics. The first semester will focus mostly on the language and skills needed to discuss and debate in English, and the second semester will focus mostly on the language and skills needed to create and present good presentation.

In this second semester, the focus will be more on the language and skills needed to understand and give presentations. During the semester, students will continue to do discussion work in class, but will also have the opportunity to give several short presentations. All of these presentations will be graded. Students will will continue to learn critical thinking skills and will have the chance to work in groups to research, consider and discuss a range of topics.Testing will be pasted on discussion and presentation tests.

2．授業内容

This schedule and its content are subject to change.
Week 1. - Revision of work done in the first semester
Week 2. - The three messages in presentations
Week 3. - The three messages in presentations
Week 4. - Discussion topic 1
Week 5. - Discussion topic 1
Week 6. - First presentation preparation
Week 7. - Discussion topic 2
Week 8. - Discussion topic 2
Week 9. - Organising a persuasive presentation
Week 10. - Organising a persuasive presentation
Week 11. - Using Powerpoint
Week 12. - Using Powerpoint
Week 13. - Final discussion and presentation test
Week 14. - Final discussion and presentation test

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make an effort to speak in English at all times. Proper participation for all group and pair work activities is essential. The effort and participation that each student shows is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Regular homework assignments and reviews will be given. Online work on the web site should be done for each topic discussed.

5．教科書

The English Course - Discussion Book 1. From: The English Company. The textbook will continue to be used in this semester.

In addition, materials will also be used from The English Course - Presentation Book 1. These will be provided by the teacher.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. However, feedback on both positive and negative points will be given for all presentations.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of: classroom effort and participation (40%), Discussions and presentation tests (40%), Homework and quizzes (20%), There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	根津　明広

1．授業の概要・到達目標

Lessons will develop the language skills, critical thinking, and learning strategies required for academic success. Using authentic and relevant content from National Geographic, including video, charts, and other infographics, Pathways prepares students to work effectively and confidently in an academic environment.

Students will build essential academic literacy skills while encountering stories about real people and places around the world. Through the class, students will also build global and cultural awareness, and develop learners' understanding of important 21st century issues affecting us.

The class promotes the aspects of academic literacy;

1. Building new and key vocabulary from the text.
2. Explore the theme that promote critical way of other visions.
3. Visual literacy.
4. Critical thinking.
5. Classroom participation and collaboration skills.

2．授業内容

01. Course introduction
02. Information Design (1)
  A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
03. Information Design (2)
  A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
04. Information Design (3)
  A. Exploring Written English B. Writing Task
05. Global Challengies (1)
  A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
06. Global Challengies (2)
  A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
07. Global Challengies (3)
  A. Exploring Written English B. Writing Task
08. Medical Innovations (1)
  A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
09. Medical Innovations (2)
  A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
10. Medical Innovations (3)
  A. Exploring Written English B. Writing Task
11. World Languages (1)
  A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
12. World Languages (2)
  A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
13. World Languages (3)
  A. Exploring Written English B. Writing Task
14. Final Term Exam

3．履修上の注意

1. Each unit offers the opportunities to think an issue critically. Students will be prepared to speak out for the issue before they come to the class followed by the instructions from the teacher.
2. To convey language skills suitable to any situation critically.
3. To learn how to write critically.
4. Participations and collaborations

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1. Reviewing what we do in class is the most important. Students have to review the unit, particularly on listening and vocabulary in order to accomplish well on the quiz done after each unit finished.
2. Reviewing new and key vocabulary from the text.
To convey language skills suitable to any situation critically.
3. To learn how to write critically.

5．教科書

Pathways 3: Reading & Writing Split 3B with Online Workbook Access Code

6．参考書

Other Reading Materials will be provided by the teacher.

7．課題に対するフィードバックの方法

Each Quiz is given in Digital Forms, and Answer keys & scores are shown after the test.

8．成績評価の方法

Quiz (4 Readings) 80% (20%each)
Final Task or Exam 20%
S Excellent（９０－１００%）
A Good（８０－８９%）
B Fair（７０－７９%）
C Pass（６０－６９%）
F Unsatisfied（５９%以下）& 5 and more absences

9．その他

Contact Info: akinezu@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	ジョーンズ, ロジャー H.

1．授業の概要・到達目標

The focus will be on content based English to help the students engage in critical reading, speaking and listening skills.
The goal of the class is to help the students improve their critical thinking and vocabulary skills and to give them a chance at communicating and debating in English

2．授業内容

(Content covered subject to change) The theme for the course is topics of social interest.
Week 1 – Introduction to the course of studies.
Week 2 – What is critical reading and discussion?
Week 3 – The state of the news media.
Week 4 – The phenomena of fake news.
Week 5 – The nature of news reporting.
Week 6 – Ethical reporting.
Week 7 – How to spot fake news and how to protect against it.
Week 8 – What is happiness.
Week 9 – The four keys to happiness.
Week 10 – An introduction to mindfulness.
Week 11 – Memory; what is it how to improve it!
Week 12 – Techniques for improving vocabulary retention.
Week 13 – Memory, sleep and dreams.
Week 14 – Summation of the course and handing in final coursework.

3．履修上の注意

Be sure to do all the assignments by the deadlines. Be sure to go to all the lessons and be sure to be on time. Be sure to bring a personal computer or tablet with a keyboard, a smartphone and headphones/earphones to every lesson, and make sure they are full charged up. If you are absent from a class, it is the student's duty to find out what they missed and to be fully prepared for the next lesson.
This class will be conducted in English only and the students are expected to use English for every lesson.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Before the lessons, review the previous lessons. Be sure to study all new vocabulary after the lesson. If you miss a class, it is your responsibility to find out what you missed and to not fall behind in your studies.

5．教科書

No textbook will be used. Handouts for the lesson will be available to download. Please be sure to download all the relevant handouts to your personal computer.

6．参考書

Internet and recommended sources.

7．課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given in class and via the Meiji website. Students will be advised on grades and/or points given for every assignment and task given. At any time, a student is welcome to talk about their assignments during the class and they can also e-mail me with any enquires they may have.

8．成績評価の方法

Teacher Points based on effort and participation = 100 x 10% = 10
Class Handout points, quizzes and other assessments = 100 x 40% = 40
Weekly Reading Reports = 100 x 20% = 20
Final Speaking Exam = 100 x 30% = 30
To stand a chance of getting the best grade, you must attend all the lessons on time. PLEASE NOTE: FOR ANY WRITTEN ASSIGNMENT YOU MUST NOT USE AI SUCH AS CHATGPT NOR SHOULD YOU OVERUSE ANY TRANSLATION AND GRAMMAR SOFTWARE OR ANY OTHER APP, EITHER.

9．その他

For this class, you will need to bring a laptop computer or a tablet computer, for example, an iPad, a smartphone and headphones or earphones to every lesson. Be sure to have every device fully charged for use in the class.
Good luck with your studies. Stay safe, well and happy. Always do your best and you will be fine. Be sure to attend all the lessons. If you miss a class, it is your responsibility to find out what you missed from the lesson.
The class motto - Reading makes you smarter!

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	野川　浩美

1．授業の概要・到達目標

title, headline, sub headline を手掛かりに、すばやくMain Idea と Supporting Idea を見つけることができるための訓練をします。key word, key phrase, context を利用して論理的な推論をたてながら読むことによりテキストを正確に解釈し、事実・一般的な意見・著者の個人的な意見を識別できる読解力を養います。また、テキストの目的は何か、テキストは目的を果たしているか、書かれている内容が事実に即しているか否か、著者の意見が個人的な見解に偏り過ぎていないか、著者の論に適切な根拠・確固たる証拠があるかという視点で読み、そのテキストに対する何らかの評価･判断を試みます。

単語力を強化し、より多くの英語表現を身につけることはもちろんですが、英文による記事を通して見識を広め、読んだ内容を自らのなかで租借し、をれを第三者に自分の言葉で伝えるとともに、意見を述べることができるようになることを最終目標とします。

また、時間がある時にはテキスト以外の新聞記事や雑誌記事を読む予定です。

2．授業内容

教材として、幅広い分野を扱った記事を読み物に取り組む予定です。
（1）a. Introduction b. Read Current News
（2）Unit 1 A The Visual Village -- Read the Passage with Q & A
（3）Reading Comprehension / Understanding Words with Multiple Meanings / Vocabulary Practice
（4）Unit 1 B My Journey in Photographs-- Read the Passage with Q & A
（5）Reading Comprehension / Scanning for Information / Vocabulary Practice
（6）Unit 2 A Living Light -- Read the Passage with Q & A
（7）Reading Comprehension / Summarizing (1) / Vocabulary Practice
（8）Unit 2 B Feathers of Love-- Read the Passage with Q & A
（9）Reading Comprehension / Identifying Figurative Language / Vocabulary Practice
(10) Unit 3 A How Safe Is Our Food? -- Read the Passage with Q & A
(11) Reading Comprehension / Recognizing Cause and Effect Relationship (1) / Vocabulary Practice
(12) Unit 3 B The Battle for Biotech -- Read the Passage with Q & A
(13) Reading Comprehension / Evaluating Arguments / Practice
(14) a: まとめ　b: 試験 / 正答・解説

3．履修上の注意

クラスメイトのテキスト分析・評価を参考にすることも重要ですので、欠席しないように積極的に参加してください。事前に配布したプリントの問題は自宅で学習したうえで授業に臨んでください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

次回学習する記事の参考プリントは、事前に配布します。辞書で単語を調べ、プリントの問題に取り組むことによって内容を把握しておくようにしてください。また、記事に関する問題点・意見をまとめ、自分の言葉で内容を説明することができるようにしておいてください。

5．教科書

『Reading Explorer 4』 3rd Edition（Cengage Learning） by Nancy Douglas ￥3,000

6．参考書

・辞書
・テキストを理解する手引きとしてプリントを配布します。

7．課題に対するフィードバックの方法

採点後、返却して授業内で解説します。

8．成績評価の方法

平常点（小テスト、レポート）40%　中間試験30%　期末試験30%

9．その他

受講者は、それぞれ毎日の生活のなかで興味のある記事を読むようこころがけてください。

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	相馬　美明

1．授業の概要・到達目標

授業の概要
Critical Reading is designed for students reading at or near college level. Primary purposes of this course are
1. to examine the relationship of critical reading and critical thinking and
2. to enhance the student's ability to think and read critically, applying critical analysis and logical reasoning.

到達目標
Students will be able to read analytically and think critically at a high level and demonstrate the ability to transfer critical thinking skills to the interpretation and analysis of ideas encountered in academic reading. Emphasis will be placed on the development and application of reading skills in the interpretation, analysis, criticism, and advocacy of ideas encountered in academic reading. Students will demonstrate their ability to collect, organize and evaluate relevant evidence necessary to make decisions, solve problems and/or develop convincing, supported and well-founded conclusions on issues of current relevance.

2．授業内容

（1）Introduction, Unit 1, Food and Health
（2）Unit 1, 2 Call of the Wild
（3）Unit 2, 3 History Detectives
（4）Unit 3, Review
（5）Unit 4, Traditions and Rituals
（6）Unit 4, 5 Finding Wonders
（7）Unit 5, 6 Reef Encounters
（8）Unit 6, Review
（9）Unit 7, Dollars and Scents
(10) Unit 7, 8 Great Explorers
(11) Unit 8, 9 Identity
(12) Unit 9, Identity
(13) Film Review
(14) Review and Examination

3．履修上の注意

Comments upon the details about the textbook, attendance rule, evaluation and so on will be made at the first class of this semester. Attendance is mandatory, and students will be expected to attend every class and hopefully enjoy their own activities. Great joy is only earned by great exertion!
Students will demonstrate the ability to apply critical reading and thinking skills in the analysis, evaluation and revision of arguments, opinions and claims（including their own）. Development of advanced critical reading, logical reasoning/thinking, reflective judgment, and problem-solving skills in the successful student will lead to the ability to interpret, analyze, critically evaluate, and advocate ideas.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Attendance is mandatory, but that doesn't mean a passing grade. Your active participation will be needed.

5．教科書

Reading EXPLORER 2 Third Edition（CENGAGE Learning）

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Feedback comments will be basically given in classes as much as possible.

8．成績評価の方法

Attendance & active participation（50%）, examination（20%）, assignments（20%）, presentation（10%）will be totally evaluated.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	宮本　正治

1．授業の概要・到達目標

Critical Readingは大学レベルの読解力を持つ学生のために設置されています。

主な目的は、文章を批判的に読み、それを自分の考えに結びつけることです。そのためには、分析的に読み、論理的に考える必要があります。

授業では、読解のスキルを高め、応用する訓練をします。教材内容を解釈、分析、批判を行ったうえで、自分の考えを述べてもらいます。

2．授業内容

現代社会の問題に関するテキストを使います。いわゆる「グローバル経済」システムによって身近な食べ物になったバナナについて、その歴史的経緯や現状を紹介します。たかがバナナですが、されどバナナです。根の深い問題に行き当たると思います。その後、グローバル化によってもたらされたその他の問題についての文章を読みます。

教室では、教材の内容を正確に把握できているか確認しつつ、グループワークや講師との対話などを通して、テキストに対する批判的な分析と議論を行います。受講者各自が積極的に自分の考えを述べることで、内容に対する理解を深め、自分の態度を確立していきます。

それぞれの意見を発表してもらう予定です。どんな意見を述べるのも自由ですが、ただし分析や議論の根拠も必要です。そのためにも日頃からの読書や新聞、テレビ、インターネットなどで情報や資料を収集するようにします。

また、英語のテキストだけでなく、映像を見て、批判的に分析し、考え、意見を持つ機会も持ちたいと考えています。

第1週：イントロダクション
第2週：テキスト1
第3週：テキスト2
第4週：テキスト3
第5週：テキスト4
第6週：テキスト5
第7週：テキスト6
第8週：テキスト7
第9週：テキスト8
第10週：テキスト9
第11週：テキスト10
第12週：テキスト11
第13週：テキスト12
第14週：学期まとめ

3．履修上の注意

最初はどんな素朴な意見でもかまいません。積極的に発言する努力を評価したいと思います。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎週、予習チェックと単語の小テストを行います。
常習的に予習をしてこない者は出席を認めないことがあります。

5．教科書

プリントを配布する。

6．参考書

特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

8．成績評価の方法

試験25%、レポート25%、授業の予習および参加態度50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	近山　和広

1．授業の概要・到達目標

クリティカル・リーディングとは、テキスト全体から書き手の意向などを理解した上で、自分の考えを基にテキストを評価する主体的な読解活動である。

授業ではさまざまなテーマを扱ったパッセージを読み、著者の意見を見つけ、それに対して自分の考えを入れながら、評価するリーディング力を高めることを目標とします。

授業前半では精読を行い、単語、文法、パラグラフ構成などについて理解を深め、後半では、エクササイズ、グループワークなどを行う。

2．授業内容

授業では様々なテキストを読み、内容理解を確認し、そのテキストに対する評価をリアクションペーパーという形でしてもらいます。またグループになって内容をディスカッションしたり、発表することも行います。

第1回　イントロダクション
第2回　テキスト1
第3回　テキスト2
第4回　テキスト3
第5回　Quiz 1
第6回　テキスト4
第7回　テキスト5
第8回　テキスト6
第9回　Quiz 2
第10回　プレゼンテーション / リーディング課題
第11回　プレゼンテーション / リーディング課題
第12回　プレゼンテーション / リーディング課題
第13回　Review Quiz
第14回　Make-up & Feedback
進度によって内容が変更することがあります。

3．履修上の注意

単語力に不安がある学生は辞書を持参すること。
グループワークやペアワークを行うので、積極的参加をしてください。
欠席が学期全体の3分の1を越えると単位取得は出来なくなります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

分からない単語は調べて、パッセージの内容を理解してください。
著者の意見を見つけ出し、それに対する自分の意見を理由や、エピソードなどを加えて言えるように訓練してください。

5．教科書

教員よりプリントを配布します。

6．参考書

特になし

7．課題に対するフィードバックの方法

QuizはGoogle Formsによって行われる。正解となる解答、および採点は提出後に表示される。
多くの学生が間違えた問題等の説明は翌週に行われる。
Oh-o! Meijiの「教員とのメッセージ」にPresentation のフィードバックを掲載します。学生は各自確認することができます。
毎回の授業の課題となる訳や内容確認問題の解答は翌週に行われる。
リアクションペーパーに対するフィードバックはOh-o! Meijiを通じて行われる。

8．成績評価の方法

授業参加態度（リアクションペーパー内容含む）（50%）
Quiz 1 & 2　（10%）
プレゼンテーション（15%）
Review Quiz　（25%）

9．その他

授業で使用するプリントは全て、ポートフォリオにアップロードします。欠席した際などはダウンロードして活用してください。
教員のメールアドレス：kazuchi711@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（中級）

1単位	2年次	パイプ，ジェイソン

1．授業の概要・到達目標

This Critical Reading course builds on the reading and writing skills taught in the first year by continuing to develop integrated reading, writing, and vocabulary skills with a focus on strategies and academic language use. The goals of this course are:

1）to develop vocabulary comprehension, both through readings from the text and through research.
2）to develop reading skills and strategies such as skimming, scanning, using context to deduce meaning, and identifying main ideas.
3）to examine the relationship of critical reading and critical thinking and establish the writer's point of view.
4）to enhance the student's ability to think and read critically, applying critical analysis and logical reasoning.

This course is designed for advanced students to help improve their English reading and writing ability while raising concerns over societal issues. Classes are organized based on the designated textbook covering ongoing themes that students can relate their interests to. By taking this course, students will have a good grasp of necessary academic skills through a series of practices to develop a well-equipped, critical observation/ analysis: clarifying one's own position toward an issue and demonstrating it with logical reasoning. Since this course addresses the importance of both reading comprehension and communication strategies, students are strongly encouraged to share what to be discussed with others.

2．授業内容

Week 1 Course introduction
Week 2 Sports and Fitness
Week 3 Skin Deep
Week 4 Animals in Danger
Week 5 Violent Earth
Week 6 Island and Beaches
Week 7 Global Addictions
Week 8 Energy Solutions
Week 9 Epic Engineering
Week 10 High-Tech Solutions
Week 11 All in the Mind
Week 12 Visual Pioneers
Week 13 Active Learning Assignments
Week 14 Active Learning Assignments

3．履修上の注意

There will be various pair/group exercises and individual assignments to strengthen communicative skills as well as critical reading skills. Active classroom participation is highly desirable and homework completion essential.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to well prepare for their assignment before each class. They are also responsible for initiating arrangements to make up missed work.

5．教科書

Reading Explorer 3 (Third Edition), National Geographic Learning (Cengage Company) by Nancy Douglas and David Bohlke. ISBN: 978-0-357-12471-0

6．参考書

Students must bring an English dictionary to each class. Photocopies are to be provided if necessary.

7．課題に対するフィードバックの方法

The weekly assignments are designed to prepare students for the topic of the next unit of the textbook which will be covered in the class. The assignments will be evaluated in terms of length, research and quality of the writing. Feedback will be provided by the teacher and other students in the class, and will assist in the evaluation of the final in-class task.

8．成績評価の方法

Participation and class discussion 30%
Homework – Prepare Unit / Research Learning 30%
Active Learning Assignments. 20%
Vocabulary Testing 10%
Reading Comprehension 10%
Absences from class should not exceed one-third of the course（resulting in the grade "Failure" automatically）.

9．その他

Please note that variations in class size, university scheduling, etc., may lead to changes of some or all of what described in this syllabus.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（上級）

1単位	2年次	根津　明広

1．授業の概要・到達目標

Lessons will develop the language skills, critical thinking, and learning strategies required for academic success. Using authentic and relevant content from National Geographic, including video, charts, and other infographics, Pathways prepares students to work effectively and confidently in an academic environment.

Students will build essential academic literacy skills while encountering stories about real people and places around the world. Through the class, students will also build global and cultural awareness, and develop learners' understanding of important 21st century issues affecting us.

The class promotes the aspects of academic literacy;

1. Building new and key vocabulary from the text.
2. Explore the theme that promote critical way of other visions.
3. Visual literacy.
4. Critical thinking.
5. Classroom participation and collaboration skills.

2．授業内容

01. Course introduction
02. Language and Culture (1)
A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
03. Language and Culture (2)
A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
04. Language and Culture (3)
A. Exploring Written English B. Quiz Or Writing Task
05. Resources and Development (1)
A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
06. Resources and Development (2)
A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
07. Resources and Development (3)
A. Exploring Written English B. Quiz Or Writing Task
08. Truth and Deception (1)
A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
09. Truth and Deception (2)
A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
10. Truth and Deception (3)
A. Exploring Written English B. Quiz Or Writing Task
11. Imagining Future (1)
A. Think and Discuss B. Explore the Theme C.Preparing to Read D. Reading
12. Imagining Future (2)
A. Understanding the Reading B. Developing Reading Skills C.Video
13. Imagining Future (3)
A. Exploring Written English B. Quiz Or Writing Task
14. Final Term Exam (Writing task or test)

3．履修上の注意

1. Each unit offers the opportunities to think an issue critically. Students will be prepared to speak out for the issue before they come to the class followed by the instructions from the teacher.
2. To convey language skills suitable to any situation critically.
3. To learn how to write critically.
4. Participations and collaborations

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1. Reviewing what we do in class is the most important. Students have to review the unit, particularly on listening and vocabulary in order to accomplish well on the quiz done after each unit finished.
2. Reviewing new and key vocabulary from the text.
To convey language skills suitable to any situation critically.
3. To learn how to write critically.

5．教科書

Pathways 4: Reading & Writing Split 4B with Online Workbook Access Code

6．参考書

Other Reading Materials will be provided by the teacher.

7．課題に対するフィードバックの方法

Each Quiz is given in Digital Forms, and Answer keys & scores are shown after the test.

8．成績評価の方法

Quiz (4 Readings) 80% (20%each)
Final Task or Exam 20%
S Excellent（９０－１００%）
A Good（８０－８９%）
B Fair（７０－７９%）
C Pass（６０－６９%）
F Unsatisfied（５９%以下）& 5 and more absences

9．その他

Contact Info: akinezu@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（上級）

1単位	2年次	パイプ，ジェイソン

1．授業の概要・到達目標

This Critical Reading course builds on the reading and writing skills taught in the first year by stretching each student's ability to read at or near college level. Primary purposes of this course are:

1) to develop vocabulary comprehension, both through readings from the text and through research.
2) to develop reading skills and strategies such as skimming, scanning, using context to deduce meaning, and identifying main ideas.
3) to examine the relationship of critical reading and critical thinking and establish the writer's point of view.
4) to enhance the student's ability to think and read critically, applying critical analysis and logical reasoning.

This course is designed for advanced students to help improve their English reading and writing ability while raising concerns over societal issues. Classes are organized based on the designated textbook covering ongoing themes that students can relate their interests to. By taking this course, students will have a good grasp of necessary academic skills through a series of practices to develop a well-equipped, critical observation/ analysis: clarifying one's own position toward an issue and demonstrating it with logical reasoning. Since this course addresses the importance of both reading comprehension and communication strategies, students are strongly encouraged to share what to be discussed with others.

2．授業内容

Week 1 Course introduction
Week 2 Images of Life
Week 3 Natural Attraction
Week 4 Food and Health
Week 5 Design and Engineering
Week 6 Human Journey
Week 7 Money and Trade
Week 8 Group Behaviour
Week 9 Investigations
Week 10 Rediscovering the Past
Week 11 Healthy Living
Week 12 Green Solutions
Week 13 Active Learning Assignments
Week 14 Active Learning Assignments

3．履修上の注意

There will be collaborative group work, discussion, practice and application of critical reading skills as well as various pair/group exercises and individual assignments. There is an expectancy to attendance class and participate with great effort to speak and communicate only in English, and homework completion essential.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to well prepare for their assignment before each class. They are also responsible for initiating arrangements to make up missed work

5．教科書

Reading Explorer 4（Third Edition), National Geographic Learning (Cengage Company) by Paul Macintyre and David Bohlke. ISBN: 978-0-357-12473-4

6．参考書

Students must bring an English dictionary to each class. Photocopies are to be provided if necessary.

7．課題に対するフィードバックの方法

The weekly assignments are designed to prepare students for the topic of the next unit of the textbook which will be covered in the class. The assignments will be evaluated in terms of length, research and quality of the writing. Feedback will be provided by the teacher and other students in the class, and will assist in the evaluation of the final in-class task.

8．成績評価の方法

Participation and class discussion 30%
Homework – Prepare Unit / Research Learning 30%
Active Learning Assignments. 20%
Vocabulary Testing 10%
Reading Comprehension 10%
Absences from class should not exceed one-third of the course (resulting in the grade "Failure" automatically).

9．その他

Please note that variations in class size, university scheduling, etc., may lead to changes of some or all of what described in this syllabus.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（上級）

1単位	2年次	ヘイ，ウィリアム　A

1．授業の概要・到達目標

This Critical Reading course builds on the reading skills learned in the first year by continuing to develop integrated reading, vocabulary and critical thinking skills.

The goals of this course are:

1) to develop vocabulary comprehension through readings that cover a variety of topics.
2) to develop reading skills and strategies such as skimming, scanning, and identifying main ideas
3) to enhance the student's ability to think and read critically, applying critical analysis and logical reasoning.

2．授業内容

Week 1: Course introduction
Week 2: Sports and Fitness
Week 3: Skin Deep
Week 4: Animals in Danger
Week 5: Violent Earth
Week 6: Island and Beaches
Week 7: Global Addictions
Week 8: Midterm Assessment
Week 9: Energy Solutions
Week 10: Epic Engineering
Week 11: High-Tech Solutions
Week 12: All in the Mind
Week 13: Visual Pioneers
Week 14: Final Assessment

3．履修上の注意

There will be various pair/group exercises and individual assignments. Active classroom participation is expected, and homework completion is essential.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to well prepare well for their assignment before each class. They are also responsible for initiating arrangements to make up missed work.

5．教科書

Reading Explorer 3 (Third Edition), National Geographic Learning (Cengage Company) by Nancy Douglas and David Bohlke

6．参考書

Students must have access to an English dictionary.

7．課題に対するフィードバックの方法

Assignments will be evaluated in terms of length, research and quality of the writing. Written and verbal feedback will be provided by the teacher and other students in the class.

8．成績評価の方法

Participation 20%, Assignments 40%, Vocabulary Qizzes 10%, Midterm and Final Assessment 30%

9．その他

AI-generated assignments will not be accepted.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（SPICE）

1単位	2年次	パイプ，ジェイソン

1．授業の概要・到達目標

This Critical Reading course builds on the reading and writing skills taught in the first year by stretching each student's ability to read at or near college level. Primary purposes of this course are:

1) to develop vocabulary comprehension, both through readings from the text and through research.
2) to develop reading skills and strategies such as skimming, scanning, using context to deduce meaning, and identifying main ideas.
3) to examine the relationship of critical reading and critical thinking and establish the writer's point of view.
4) to enhance the student's ability to think and read critically, applying critical analysis and logical reasoning.

This course is designed for advanced students to help improve their English reading and writing ability while raising concerns over societal issues. Classes are organized based on the designated textbook covering ongoing themes that students can relate their interests to. By taking this course, students will have a good grasp of necessary academic skills through a series of practices to develop a well-equipped, critical observation/ analysis: clarifying one's own position toward an issue and demonstrating it with logical reasoning. Since this course addresses the importance of both reading comprehension and communication strategies, students are strongly encouraged to share what to be discussed with others.

2．授業内容

Week 1 Course introduction
Week 2 Images of Life
Week 3 Natural Attraction
Week 4 Food and Health
Week 5 Design and Engineering
Week 6 Human Journey
Week 7 Money and Trade
Week 8 Group Behaviour
Week 9 Investigations
Week 10 Rediscovering the Past
Week 11 Healthy Living
Week 12 Green Solutions
Week 13 Active Learning Assignments
Week 14 Active Learning Assignments

3．履修上の注意

There will be collaborative group work, discussion, practice and application of critical reading skills as well as various pair/group exercises and individual assignments. There is an expectancy to attendance class and participate with great effort to speak and communicate only in English, and homework completion essential.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to well prepare for their assignment before each class. They are also responsible for initiating arrangements to make up missed work

5．教科書

Reading Explorer 4（Third Edition), National Geographic Learning (Cengage Company) by Paul Macintyre and David Bohlke. ISBN: 978-0-357-12473-4

6．参考書

Students must bring an English dictionary to each class. Photocopies are to be provided if necessary.

7．課題に対するフィードバックの方法

The weekly assignments are designed to prepare students for the topic of the next unit of the textbook which will be covered in the class. The assignments will be evaluated in terms of length, research and quality of the writing. Feedback will be provided by the teacher and other students in the class, and will assist in the evaluation of the final in-class task.

8．成績評価の方法

Participation and class discussion 30%
Homework – Prepare Unit / Research Learning 30%
Active Learning Assignments. 20%
Vocabulary Testing 10%
Reading Comprehension 10%
Absences from class should not exceed one-third of the course (resulting in the grade "Failure" automatically).

9．その他

Please note that variations in class size, university scheduling, etc., may lead to changes of some or all of what described in this syllabus.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Reading（駿河台開講）

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is two-fold; to teach students good reading and note taking techniques whilst at the same time encouraging students to become good critical thinkers who have the ability to consider and discuss important social and global issues in English. Each topic covered in the course will begin with a reading passage. Students take notes regarding what they don't understand in the reading. In addition, students will be encouraged to take notes about discussion points for each reading. After important vocabulary and grammar is explained for the topic students will discuss their ideas and opinions about the topic For some of the topics students will work on discussions/debates or small projects for presentations that will be evaluated and graded.

2．授業内容

Week 1. Course introduction & explanation（learning reading and note-taking skills）
Week 2. Topic 1 - Part 1（Reading activity, Vocabulary, comprehension and discussion)
Week 3. Topic 2 - Part 1（Reading activity, Vocabulary, comprehension and first discussion）
Week 4. Topic 2 - Part 2（Research and further discussion on the topic)
Week 5. Topic 3 - Part 1（Reading activity, Vocabulary, comprehension and first discussion）
Week 6. Topic 3 - Part 2 （Research and further discussion on the topic）
Week 7. Mid-term Reading and discussion Test
Week 8. Topic 4 - Part 1（Reading activity, Vocabulary, comprehension and discussion）
Week 9. Topic 4 - Part 2（Research and further discussion on the topic）
Week 10. Short presentations
Week 11. Topic 5 - Part 1（Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points）
Week 12. Topic 5 - Part 2（Further discussion & project）
Week 13. Research and preparation
Week 13. End-of-term discussion/debate speaking Tests
Week 14. End-of-term discussion/debate speaking Tests

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and grading.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must be prepared for each class and constantly review work done in each class. Assignments and research will be given when and where it is necessary.

Students should carry a tablet device or notebook for note taking during each class.

5．教科書

There is no textbook assigned to this class. The teacher will prepare and distribute all course materials each week.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based largely on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. However, the teacher will be giving constant feedback during each class discussion. Feedback will be given for all tests and other assignments.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%),
Discussions and classroom tasks and tests (40%),
Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（中級）

1単位	2年次	フーパー, ドナバン A.

1．授業の概要・到達目標

This course will focus more on the elements of discussion. The course will focus on students being able to express their opinion and supporting that opinion with clear, logical reasons. During the course the students will be expected to give small speeches on selected topics, ending with a main presentation and leading a class discussion at the end of term. The main idea of the course will be to increase students' confidence in expression and supporting their opinions in front of others

2．授業内容

1 Course Introduction
2 Expressing an opinion
3 Expressing agreement
4 Discussion Exercises 1
5 Discussion Exercises 2
6 Topic selection and Discussion
7 Social Issues 1 – Personal Issues
8 Social Issues 2 – National Issues
9 Social Issues 3 – Global Issues
10 Issues affecting Japan
11 Presentation Introduction
12 Group Presentation Preparation
13 Presentation
14 Presentation

3．履修上の注意

As this is a discussion class, all students are expected to actively participate in class. If you miss more than three classes without notice, you will not be eligible to receive credits for this course.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Review each class before the next class and prepare your ideas and opinions.

5．教科書

There is no course textbook. However, students will need an A4 pocket file to keep handouts in order.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Presentations will be done in class and feedback will be provided after the presentation.

8．成績評価の方法

Final grades will be based on:
attendance (40%),
in-class participation (30%)
final presentation (30%).

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（中級）

1単位	2年次	山口　高領

1．授業の概要・到達目標

This course will focus more on the elements of discussion. The course will focus on students being able to express their opinion and supporting that opinion with clear, logical reasons. During the course the students will be expected to give small speeches on selected topics, ending with a main presentation and leading a class discussion at the end of term. The main idea of the course will be to increase students' confidence in expression and supporting their opinions in front of others.

2．授業内容

1 Course Introduction
2 Politics 1
3 Politics 2
4 Economy 1
5 Economy 2
6 Medicine
7 Science
8 Environment
9 Social Issues
10 Aging Society
11 Media 1
12 Media 2
13 Writing試験と解説
14 語彙力などの試験と解説

3．履修上の注意

As this is a discussion class, all students are expected to actively participate in class. If you miss more than three classes without notice, you will not be eligible to receive credits for this course.
山口のメールアドレス takane46@gmail.com

4．準備学習（予習・復習等）の内容

These students are expected to read and understand the topics in the textbook in advance.

5．教科書

『英検1級 面接大特訓』
植田 一三 (著), 上田 敏子 (著), Michy里中 (著), 山下 澄子 (著)
出版社：Jリサーチ出版
電子版でも紙版でもよい。

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Commentary and critique of the 13th examination will be given in the 14th session.
第13回実施試験の解説と講評を第14回目に行う。

8．成績評価の方法

Final grades will be based on:
attendance (40%),
in-class participation (30%)
final presentation (30%).

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（中級）

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標
The aim of this course is to encourage students to become good critical thinkers who can use this ability to consider and discuss important social and global issues in English. For each topic covered in the course, students will first ask and answer warm-up questions with a partner about the topic. Then students will listen and read about the topic and discover some of the relevant and important information about the topic. Next, important vocabulary for the topic will be learned. Then students will discuss their ideas and opinions about the topic again using more difficult and more contentious questions. Finally, students will work on discussions/debates or small projects for presentations that will be evaluated and graded.

The students in the class will have chance to choose some of the topics they will study and discuss. Each topic will last two or three class sessions.

The topics available will be as follows: Technology; Travel; Culture; Volunteering; Beliefs; Ads & Commercials; The News; Study Abroad; Ecotourism; Education; The Environment; International Marriage.

2．授業内容
This schedule and its content are subject to change.
Week 1. Course introduction & explanation. Introduction to discussion techniques
Week 2. Further practice and explanation of discussion techniques and course needs. (Unit 1 Prep for H/W)
Week 3. Unit 1 - Technology (Warm up questions, Vocabulary and Listening for main points)
Week 4. Unit 1 - Technology ((Further discussion & Listening practice) (Next unit Prep for H/W)
Week 5. Unit 2 - Travel (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 6. Unit 2 - Travel ((Further discussion & Listening practice)
Week 7. Mid term Listening and paper Test (Next unit Prep for H/W)
Week 8. Unit 11 - The environment ((Further discussion & project)Next unit Prep for H/W
Week 9. Unit 11 - The environment. (Further discussion & Listening practice)
Week 10. Unit 11 - The environment. Showing and evaluating posters
Week 11. Unit 5 - Beliefs (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 12. Unit 5 - Beliefs (Part 2 (Further discussion & project)
Week 13. End-of-term discussion/debate speaking Tests
Week 14. End-of-term discussion/debate speaking Tests

3．履修上の注意
Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and grading.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students must regularly complete the course textbook online homework assignments and tests on the textbook web site. Other assignments and research will be given when and where it is necessary.

5．教科書
The English Course - Discussion Book 2 by Gary Ireland and Max Woollerton.
Published by The English Company (2018)

All students must buy a new copy of the textbook for classroom use and to be able to access the online web site material. Students must complete on line exercises and tests for each unit of the textbook completed.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. However, every unit covered in the course textbook has both online exercises and tests that all students must complete. These are built in Moodle, and therefore students can view their results and the feedback about their mistakes from the web site every time they complete a task.

8．成績評価の方法
Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%), Discussions and classroom tasks and tests (40%), Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（中級）

1単位	2年次	トービン，アンソニー

1．授業の概要・到達目標
The aim of this course is to expand the students' knowledge on a variety of contemporary topics, and to be able to discuss and give speeches on these topics in English.

Students will learn how to lead group discussions and think critically about the information presented to them.

2．授業内容
1. Introduction and Unit 1 Psychology
2. Unit 2 Linguistics
3. Public Health
4. Business - Negotiating for Success
5. Art History
6. Engineering
7. Media Studies
8. Biology
9. Business - Design Thinking
10. History
11. Philosophy
12. Information Technology
13. End of term speeches
14. End of term speeches

3．履修上の注意
Students are expected to attend all classes. More than four absences will result in failure of the course.

4．準備学習（予習・復習等）の内容
Students are expected to spend at least one hour per week preparing for discussions and revising items covered in each class.

5．教科書
Contemporary Topics 1 (4th Edition)
H. Solorzano
L. Frazier

6．参考書
Make sure to have a notebook for new vocabulary.

7．課題に対するフィードバックの方法
Students can receive feedback after class.

8．成績評価の方法
Participation in group/class discussions 50%
End of term speech 50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（中級）

1単位	2年次	高橋　華生子

1．授業の概要・到達目標

This course is designed for intermediate students to learn several topics in this contemporary society while improving their English skills. Classes are mainly based on the materials that deal with various interesting issues shaping our life. Throughout this course, students will strengthen the foundation of their critical thinking skills within academic content areas: identifying key issues to be considered and developing an in-depth analysis with substantial arguments in a logical, coherent manner. Since this course places great emphasis on verbal exchanges, students are highly encouraged to communicate interactively while cultivating their own views and observations toward the issues introduced.

Each class covers one topic from the class materials. The first half of the class focuses on practices of the topic; and the second half of the class is used for having discussion based on the weekly topic. Many works and tasks in class should be done by a pair or group.

2．授業内容

Week 1　Course guidance and introduction
Week 2　Topic (1) College routines
Week 3　Topic (2) Interpreting news
Week 4　Topic (3) Language in a globalized society
Week 5　Topic (4): Environmental problems in cities
Week 6　Orientation of presentation
Week 7　Topic (5): The way of learning
Week 8　Topic (6): World geography
Week 9　Preparation of presentation
Week 10　Group presentation (1)
Week 11　Group presentation (2)
Week 12　Group presentation (3)
Week 13　Topic (7): Technology for our life
Week 14　Topic (8): Rise of tourism

3．履修上の注意

There are going to be various pair/group exercises and individual assignments. Active classroom participation is highly desirable.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to prepare well for their assignments before each class. In addition, they are responsible for initiating arrangements to make up missed work.

5．教科書

Materials used for the class will be given upon the start of the class. Students are required to print the topic of the day from the materials and bring it to class.

6．参考書

Students must bring a dictionary to each class. Additional materials are to be provided if necessary.

7．課題に対するフィードバックの方法

Each submitted homework will be returned to students with comments and grade.

8．成績評価の方法

Attendance & Participation: 50%
Homework: 30%
Presentation: 20%
Absences from class should not exceed one-third of the course. If the student misses more than the required attendance, s/he will get the grade “Failure” automatically.

9．その他

Please note that variations in class size, university scheduling, etc., may lead to changes of some or all of what described in this syllabus.
The finalized syllabus will be provided to students on the first day of the class. Make sure to come to the class on the day.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（中級）

1単位	2年次	シスマン

1．授業の概要・到達目標

【Course Summary】
This course is designed for students who are enthusiastic about developing their English listening and speaking skills. Students should also enjoy group work and expressing their opinions orally, as this course will also involve discussion.
This course is designed for students who are enthusiastic about developing their English listening and speaking skills. Students should also enjoy group work and expressing their opinions orally, as this course will also involve discussion.
The learning materials used will cover a wide variety of topics：psychology, sociology, linguistics, philosophy, the arts and popular culture（including cinema, theatre, literature, poetry, humour and music）. The instructor is a native speaker of standard British English, however the materials used will expose students to a wide variety of British and American “Englishes”. Students will also be exposed to different varieties of “World English”.

【Objectives】
This course is designed to help students acquire the skills necessary to give dynamic academic presentations and participate in lively critical discussions.
The major goals for this course are:
(1) To become more confident about communicating orally in English and more aware of how to do it well.
(2) To gain a wider English vocabulary, including greater confidence in using topic-related words.
(3) To actively and effectively participate in academic presentations and discussions in English.
(4) To demonstrate competency in advanced presentation and discussion skills; including the use of rhetoric, body language, spatial positioning and voice dynamics.
(5) To gain experience and competence in the critical analysis of various academic topics.

2．授業内容

The teacher has prepared a wide variety of learning materials（in audio and digital video format）so that the course can evolve in response to student needs, interests, abilities and concerns. The schedule listed below is therefore provisional.
第1回：Course introduction and explanation
第2回：Preparing to talk about topics #1: The principles of critical discussion
第3回：Talking about topics #1: Rhetoric and other forms of persuasion
第4回：Preparing to present #1: Linguistic structure and paralinguistic skills
第5回：First set of group presentations
第6回：Teacher to student feedback and discussion
第7回：Midterm review and test
第8回：Preparing to talk about topics #2: Critical thinking as a form of creative thinking
第9回：Talking about topics #2: Integrating critical thinking skills and rhetoric
第10回：Preparing to present #2: How to conduct an effective Q & A session
第11回：Second set of group presentations with Q & A sessions
第12回：Student to teacher feedback and discussion
第13回：Class debate
第14回：Wrapping up: Teacher to student feedback, course review and final test, plus recommendations for further study

3．履修上の注意

In general, this course will involve more interaction between students, and between teacher and students, than more conventional language classes. It is therefore essential that students are prepared to actively engage with the learning experience.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

There will be preparation before each class. This will consist mainly of the preparation of presentation and discussion materials in English. Given the focus on presentations and discussions, psychological preparation will also be very important: the success of any presentation or discussion is determined by the quantity and quality of the preparation involved.

5．教科書

There is no set textbook. All the learning materials have been designed by the teacher, and the course will evolve in response to student needs, interests, abilities and concerns.

6．参考書

Students should always bring a good electronic dictionary to every class (one that contains a good English-English learner’s dictionary).
The following reference book is optional:
Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument
Author: Stella Cottrell
Publisher: Palgrave Study Skills

7．課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given face-to-face in class time. Attendance at feedback sessions is essential.

8．成績評価の方法

Students’ final grades will be based on the following criteria:
30% Attitude to learning, participation, collaboration, progress
30% Homework, research, preparation for class, classroom activities
30% Mini-tests (in class) and presentations
10% Short ‘reflection on learning’ paper

9．その他

Matters of assessment, teaching methodology, classroom culture and etiquette will be explained in detail at the first class meeting. Given the interactive and collaborative nature of this course, make-up work for missed classes is almost impossible. To pass this course regular and enthusiastic attendance is essential. If you are prepared to work hard, participate, have fun and experiment with new ways of learning, you will find this course very enjoyable and rewarding. I look forward to seeing you in class!

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（上級）

1単位	2年次	トービン，アンソニー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to expand the students' knowledge on a variety of contemporary topics, and to be able to discuss and give speeches on these topics in English.

Students will learn how to lead group discussions and think critically about the information presented to them.

2．授業内容

1. Introduction and Unit 1 Sociology
2. Unit 2 Linguistics
3. Unit 3 Psychology
4. Unit 4 Business
5. Unit 5 Education
6. Unit 6 History
7. Unit 7 Social Psychology
8. Unit 8 Architecture
9. Unit 9 Public Health
10. Unit 10 Urban Planning
11. Unit 11 Biology
12. Unit 12 Public Administration
13. End of term speeches
14. End of term speeches

3．履修上の注意

Students are expected to attend all classes. More than four absences will result in failure of the course.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students are expected to spend at least one hour per week preparing for discussions and revising items covered in each class.

5．教科書

Contemporary Topics 2 (4th Edition)
E. Kisslinger

6．参考書

Make sure to have a notebook for new vocabulary.

7．課題に対するフィードバックの方法

Students can receive feedback after class.

8．成績評価の方法

Participation in group/class discussions 50%
End of term speech 50%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（上級）

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to encourage students to become good critical thinkers who can use this ability to consider and discuss important issues in English. For each topic covered in the course, students will first ask and answer warm-up questions with a partner about the topic. Then students will listen and read about the topic and discover some of the relevant and important issues about the topic. Next, important vocabulary for the topic will be learned. Then students will talk again about the topic using more difficult and more contentious questions. Finally, students will work on discussions/debates or small projects for presentations will will be judged and graded. The students in the class will have chance to choose some of the topics they will study and discuss. Each topic will last two or three class sessions.
The topics available will be as follows: Technology; Travel; Culture; Volunteering; Beliefs; Ads & Commercials; The News; Study Abroad; Ecotourism; Education; The Environment; International Marriage.

2．授業内容

This schedule and its content are subject to change.
Week 1. Course introduction & explanation; Topic 1, Part 1（Warm up, Listening for main points）
Week 2. Topic 1, Part 2（Vocabulary checking, Reading）
Week 3. Topic 1, Part 3（Presentation or discussion task）
Week 4. Topic 2, Part 1（Warm up, Listening for main points, Vocabulary checking）
Week 5. Topic 2, Part 2（Reading, Pronunciation practice, Discussion）
Week 6. Topic 2, Part 3（Presentation or discussion task）
Week 7. Topic 3, Part 1（Warm up, Listening for main points, Vocabulary checking）
Week 8. Topic 3, Part 2（Reading, Pronunciation practice, Discussion）
Week 9. Topic 3, Part 3（Presentation or discussion task）
Week 10. Topic 4, Part 1（Warm up, Listening for main points, Vocabulary checking）
Week 11. Topic 4, Part 2（Reading, Pronunciation practice, Discussion）
Week 12. Topic 4, Part 3（Presentation or discussion task）
Week 13. Preparation for end-of-term discussion/debate
Week 14. End-of-term discussion/debate

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make an effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must regularly complete the course textbook online homework assignments and tests on the textbook web site. Other assignments and research will be given where and when necessary.

5．教科書

The English Course - Discussion Book 2 by Gary Ireland and Max Woollerton.
Published by The English Company (2018)
All students must buy a new copy of the textbook for classroom use and to be able to access the online web site material.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion, debate and giving presentations, there are almost no written assignments which require feedback. However, every unit covered in the course textbook has both online exercises and tests that all students must complete. These are built in Moodle, and therefore students can view their results and the feedback about their mistakes from the web site every time they complete a task.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%), Discussions and classroom tasks and tests (40%), Homework and quizzes (20%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（上級）

1単位	2年次	ヘイ，ウィリアム　A

1．授業の概要・到達目標

This course aims to encourage students to become critical thinkers who can discuss important issues in English.
Students will work in pairs or groups and be required to give short presentations. Each class will also include activities to develop vocabulary inventories and listening skills.

2．授業内容

Week 1: Course introduction
Week 2: Unit 1, Technology
Week 3. Unit 2, Travel
Week 4: Unit 3, Culture
Week 5: Unit 4, Volunteering
Week 6. Unit 5, Beliefs
Week 7: Unit 6, Ads and Commercials
Week 8: Midterm Assessment
Week 9: Unit 7, The News
Week 10: Unit 8, Study Abroad
Week 11: Unit 9, Ecotourism
Week 12: Unit 10, Education
Week 13: Unit 12, International Marriage
Week 14: Final Assessment

3．履修上の注意

Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students should ensure that they review the material of the previous lesson sufficiently and do any homework that has been set in preparation for the next class.

5．教科書

The English Course – Discussion Book 2 by Gary Ireland and Max Woollerton. Published by The English Company（2015）ISBN 978-4-9902962-6-1

6．参考書

None

7．課題に対するフィードバックの方法

For all class assessments, students will be given a written grading rubric which identifies the good points in their performance and highlights where they need to improve.

8．成績評価の方法

Classwork (30%), Homework (30%), Midterm Assessment (20%) and Final Assessment (20%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

AI-generated assignment will not be accepted.

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion（SPICE）

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is to encourage students to become good critical thinkers who can use this ability to consider and discuss important social and global issues in English. For each topic covered in the course, students will first ask and answer warm-up questions with a partner about the topic. Then students will listen and read about the topic and discover some of the relevant and important information about the topic. Next, important vocabulary for the topic will be learned. Then students will discuss their ideas and opinions about the topic again using more difficult and more contentious questions. Finally, students will work on discussions/debates or small projects for presentations that will be evaluated and graded.

The students in the class will have chance to choose some of the topics they will study and discuss. Each topic will last two or three class sessions.

The topics available will be as follows: Technology; Travel; Culture; Volunteering; Beliefs; Ads & Commercials; The News; Study Abroad; Ecotourism; Education; The Environment; International Marriage.

2．授業内容

This schedule and its content are subject to change.
Week 1. Course introduction & explanation; Topic 1, Part 1（Warm up discussion, Vocabulary and Listening)
Week 2. Topic 1 Part 2（Further discussion & project）
Week 3. Topic 2 Part 1（Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 4. Topic 2 Part 2（Further discussion & project）
Week 5. Topic 3, Part 1（Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points）
Week 6. Topic 3 Part 2（Further discussion & project）
Week 7. Mid-term listening or speaking test
Week 8. Topic 4 Part 1（Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points）
Week 9. Topic 4 Part 2 (Further discussion & project）
Week 10. Topic 5 Part 1（Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points）
Week 11. Topic 5 Part 2（Further discussion & project）
Week 12. Revision and test preparation
Week 13. End-of-term listening Tests
Week 14. End-of-term discussion/debate speaking Tests

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and grading.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must regularly complete the course textbook online homework assignments and tests on the textbook web site. Other assignments and research will be given when and where it is necessary.

5．教科書

The English Course - Discussion Book 2 by Gary Ireland and Max Woollerton.
Published by The English Company (2018)

All students must buy a new copy of the textbook for classroom use and to be able to access the online web site material. Students must complete on line exercises and tests for each unit of the textbook completed.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. However, every unit covered in the course textbook has both online exercises and tests that all students must complete. These are built in Noodle, and therefore students can view their results and the feedback about their mistakes from the web site every time they complete a task.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%), Discussions and classroom tasks and tests (40%), Homework and quizzes (20%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Discussion (駿河台開講)

1単位	2年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

The aim of this course is two-fold; to teach students good reading and note taking techniques whilst at the same time encouraging students to become good critical thinkers who have the ability to consider and discuss important social and global issues in English. Each topic covered in the course will begin with a reading passage. Students take notes regarding what they don't understand in the reading. In addition, students will be encouraged to take notes about discussion points for each reading. After important vocabulary and grammar is explained for the topic students will discuss their ideas and opinions about the topic For some of the topics students will work on discussions/debates or small projects for presentations that will be evaluated and graded.

2．授業内容

Week 1. Course introduction & explanation (learning reading and note-taking skills)
Week 2. Topic 1 - Part 1 (Reading activity, Vocabulary, comprehension and discussion)
Week 3. Topic 2 - Part 1 (Reading activity, Vocabulary, comprehension and first discussion)
Week 4. Topic 2 - Part 2 (Research and further discussion on the topic)
Week 5. Topic 3 - Part 1 (Reading activity, Vocabulary, comprehension and first discussion)
Week 6. Topic 3 - Part 2 (Research and further discussion on the topic)
Week 7. Mid-term Reading and discussion Test
Week 8. Topic 4 - Part 1 (Reading activity, Vocabulary, comprehension and discussion)
Week 9. Topic 4 - Part 2 (Research and further discussion on the topic)
Week 10. Short presentations
Week 11. Topic 5 - Part 1 (Warm up discussion, Vocabulary and Listening for main points)
Week 12. Topic 5 - Part 2 (Further discussion & project)
Week 13. Research and preparation
Week 13. End-of-term discussion/debate speaking Tests
Week 14. End-of-term discussion/debate speaking Tests

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. Active participation in all group and pair work tasks is essential. This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and grading.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students must be prepared for each class and constantly review work done in each class. Assignments and research will be given when and where it is necessary.

Students should carry a tablet device or notebook for note taking during each class.

5．教科書

There is no textbook assigned to this class. The teacher will prepare and distribute all course materials each week.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based largely on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. However, the teacher will be giving constant feedback during each class discussion. Feedback will be given for all tests and other assignments.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%),
Discussions and classroom tasks and tests (40%),
Homework and quizzes (20%).
There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Writing A (Critical Writing Ⅰ)

1単位	2年次	フーパー，ドナバン A.

1．授業の概要・到達目標

This course is designed to use the methods of critical reading and logical thinking and to apply these skills to critical writing.
The objectives of the course are as follows:
1．To understand the value of critically evaluating claims, assumptions, and arguments.
2．To understand and be able to give good reasoning (including deduction and induction) and to be able to distinguish good reasoning from bad reasoning.
3．To learn to apply one's understanding of good reasoning to what one writes.
4．To learn to write effective essays to explain, describe, give information or give your opinion.
5．To learn how to prepare a formal academic paper giving an opinion.

2．授業内容

1．Course Introduction
2．Introduction to Process Writing
3．Choosing and narrowing down topics
4．Resources for researching
5．Brainstorming and organizing
6．Drafting and Editing
7．Logical organization of texts
8．Classification
9．Listing opinion with reasons
10. Chronological Order
11. Comparision
12. Cause and Effect
13. Editing
14. Final Submission

3．履修上の注意

Students will work on reports in class and will be expected to type up their reports for the next class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be expected to type up their reports before each class.

5．教科書

There is no text for this class but students will need an A$ pocket file to store handouts and a USB flash drive to sotre their reports.

6．参考書

A good electronic dictionary with a thesaurus.

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports will be returned through Oh-Meiji and then there will be a general review in the next class.

8．成績評価の方法

Final grades will be based on
1．class participation 20%
2．completed essays including drafts 60%
3．attendance 20%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Writing A (Critical Writing Ⅰ)

1単位	2年次	ミーハン　ケヴィン　P.

1．授業の概要・到達目標

The goal of this course is to refine students' ability to write paragraphs and essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.

2．授業内容

1．Course introduction
2．Brainstorming and topic selection
3．The thesis statement
4．Synthesizing Information
5．Characteristics of a good paragraph
6．Detailed outline
7．Critical Thinking
8．Personal opinion
9．Writing a second draft
10. Peer evaluation and feedback
11. Reading and Discussion
12. Cohesive paragraphs
13. Introductions and Conclusions
14. Final assignment

3．履修上の注意

Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

5．教科書

To be announced.

6．参考書

To be announced.

7．課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback by conferencing with the teacher in class and on submitted assignments.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of: Attendance (25%), Classwork (25%), Homework (25%), Final Assignment (25%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Writing A (SPICE) (Critical Writing Ⅰ)

1単位	2年次	ドウ, ティモシー　J.

1．授業の概要・到達目標

The purpose of this course is for students to learn the necessary skills to integrate various sources of information when writing academic essays. The course will examine themes related to information and communication from a variety of perspectives. In class, students will complete writing and discussion activities to develop their critical thinking skills. Students will also learn and use a variety of new vocabulary and rhetorical devices to enhance the effectiveness of their writing abilities. There will also be some focus on effective writing processes to help students manage their time when composing written work in English. By the end of the course, students will have completed multiple draft essays on three different topics.

Contact details: timdoe@meiji.ac.jp

2．授業内容

第1回：The purpose of academic writing
第2回：Analyzing academic texts
第3回：Making an argument
第4回：Cohesion in academic writing
第5回：Referring to a source
第6回：Note taking
第7回：Cause and effect
第8回：Punctuation
第9回：Using quotations
第10回：Proofreading
第11回：Defining a research question
第12回：Comparing different arguments
第13回：Editing workshop
第14回：Group discussions of independent research

3．履修上の注意

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete homework assignments before classes.

5．教科書

No textbook is required. The teacher will provide reading materials.

6．参考書

Students may bring a dictionary (paper or electronic).

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports and homework submitted during the semester will be graded and returned to students in class.

8．成績評価の方法

Three completed essays will count for 60% of the final grade, and completion of in-class activities and participation in class activities will count for 40% of the final grade.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Writing B (Critical Writing Ⅱ)

1単位	2年次	フーパー, ドナバン A.

1．授業の概要・到達目標

This course is designed to use the methods of critical reading and logical thinking and to apply these skills to critical writing.
The objectives of the course are as follows:

1．To understand the value of critically evaluating claims, assumptions, and arguments.
2．To understand and be able to give good reasoning (including deduction and induction) and to be able to distinguish good reasoning from bad reasoning.
3．To learn to apply one's understanding of good reasoning to what one writes.
4．To learn to write effective essays to explain, describe, give information or give your opinion.
5．To learn how to prepare a formal academic paper giving an opinion.

2．授業内容

1．Course Introduction
2．Critical Analysis of Narratives
3．Drafting Report 1 - Narrative
5．Editing and Submission Report 1
6．Organization of Problem and Solutions
7．Critical Analysis of News Events
8．Researching a News topic
9．Organising and outlining
10. Citation and Bibliographies
11. Drafting Report - News
12. Editing
13. Final Check
14. Submission Final Paper

3．履修上の注意

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will work on outlining and organizing reports in class and will be expected to type up their reports for the next class

5．教科書

There is no text book for this class but students will need a USB flash drive to store reports.

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports will be returned through Oh-Meiji and then there will be a general review in the next class.

8．成績評価の方法

Final grades will be based on
1．class participation 20%
2．completed final paper including drafts 30%
3．attendance 30%
4．completed exercises 20%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Writing B (Critical Writing Ⅱ)

1単位	2年次	ミーハン ケヴィン P.

1．授業の概要・到達目標

The goal of this course is to refine students' ability to write paragraphs and essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.

2．授業内容

1．Problem and solution Essay
2．Brainstorming exercises
3．Good Supporting sentences
4．Word Choice
5．Historical Event Essay
6．Describing a World Heritage Site Essay
7．Japanese Culture Essay
8．Peer evaluation and feedback
9．Explaining the Process of Learning
10. Proofreading Exercises
11. Hot Button Topic
12. Comparison and contrast essay
13. Classification essay
14. Test

3．履修上の注意

Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students should attend class regularly and make an effort to speak in English. The effort that each student makes is the most important factor in this class.

5．教科書

To be announced.

6．参考書

Dictionary

7．課題に対するフィードバックの方法

Students will be given feedback by conferencing with the teacher in class and on submitted assignments.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of: Attendance (25%), Classwork (25%), Homework (25%), Test (25%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN211M

Critical Writing B （SPICE）（Critical Writing Ⅱ）

1単位	2年次	ドウ, ティモシー　J.

1．授業の概要・到達目標

The purpose of this course is for students to learn the necessary skills to integrate various sources of information when writing academic essays. The course will examine themes related to information and communication from a variety of perspectives. In class, students will complete writing and discussion activities to develop their critical thinking skills. Students will also learn and use a variety of new vocabulary and rhetorical devices to enhance the effectiveness of their writing abilities. There will also be some focus on effective writing processes to help students manage their time when composing written work in English. By the end of the course, students will have completed multiple draft essays on three different topics.

Contact details: timdoe@meiji.ac.jp

2．授業内容

第1回：Critical thinking
第2回：Finding key points
第3回：Writing definitions
第4回：Paraphrasing
第5回：Combining sources
第6回：Organizing paragraphs
第7回：Generalizations
第8回：Summarizing
第9回：Describing a graph
第10回：Introductions and conclusions
第11回：Planning an essay
第12回：Problems and solutions
第13回：Peer Review
第14回：Individual discussions of independent research

3．履修上の注意

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete homework assignments before classes.

5．教科書

No textbook is required. The teacher will provide reading materials.

6．参考書

Students may bring a dictionary (paper or electronic).

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports and homework submitted during the semester will be graded and returned to students in class.

8．成績評価の方法

Three completed essays will count for 60% of the final grade, and completion of in-class activities and participation in class activities will count for 40% of the final grade.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN311J

English Seminar Ⅰ

1単位	3年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

To be able to succeed in an increasingly globalized world, Japanese students will need not only good English communication skills, but also a more international way of thinking and astute critical thinking skills to evaluate differing beliefs and opinions on a wide range of important issues. This course aims to improve students' understanding of global issues whilst at the same time teaching the necessary critical thinking skills to be able to discuss and debate those issues in English.

The course is a task based, four-skills course and requires students to work in pairs or groups on a variety of interesting topics and projects. Most classroom time will be spent in discussion and debate and critical thinking skills will be enhanced through problem solving tasks throughout the course. Students will also be required to do additional listening and reading work to aid with their research.

2．授業内容

Week 1 - Course explanation and introductions
Week 2 - What is critical thinking? Why is it important?
Week 3 - Topic 1 - Unit 1 - Communication Skills
Week 4 - Topic 1 - Unit 1 - Communication Skills
Week 5 - Topic 2 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 6 - Topic 2 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 7 - Mid-term test
Week 8 - Topic 3 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 9 - Topic 3 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 10 - Topic 4 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 11 - Topic 4 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 12 - Researching and planning for final debate test
Week 13 - Final discussion/debate test
Week 14.- Final discussion/debate test

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. **Active participation in all group and pair work tasks is essential.** This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and grading. Students should have high level English skills and enjoy discussing in English.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will review and practice all work done after each class. Students will also be required to conduct research and prepare notes and data in preparation before every class.

5．教科書

The English Course - Discussion Book 3 by Gary Ireland and Max Woollerton
Published by the English Company.

All students need to have a copy of the textbook to be able to access the online homework assignments and tests.

6．参考書

All students will need a dictionary and notebook for every class. Having a computer or tablet device would also be very useful.

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. Whenever research assignments are given, the results are discussed with the teacher when seen. All online homework assignments and tests have feedback on the web site.

Feedback is given on any presentations given and both good and bad points are explained.Students will have the opportunity to discuss their ideas with the teacher each week, and will be given feedback regularly on ways to improve their English and critical thinking skills.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%), Discussions and classroom tasks and tests (40%), Homework and quizzes (20%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN311J

English Seminar Ⅱ

1単位	3年次	アイルランド，ガリー

1．授業の概要・到達目標

To be able to succeed in an increasingly globalized world, Japanese students will need not only good English communication skills, but also a more international way of thinking and astute critical thinking skills to evaluate differing beliefs and opinions on a wide range of important issues. This course aims to improve students' understanding of global issues whilst at the same time teaching the necessary critical thinking skills to be able to discuss and debate those issues in English.

The course is task based, four-skills course and requires students to work in groups on a variety of interesting topics and projects. Most classroom time will be spent in discussion and debate and critical thinking skills will be enhanced through problem solving tasks throughout the course. Students will also be required to do additional listening and reading work to aid with their research.

2．授業内容

Week 1 - Revision of course aims and requirements
Week 2 - Critical thinking activity
Week 3 - Topic 1 - Unit 1 - Communication Skills
Week 4 - Topic 1 - Unit 1 - Communication Skills
Week 5 - Topic 2 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 6 - Topic 2 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 7 - Mid-term test
Week 8 - Topic 3 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 9 - Topic 3 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 10 - Topic 4 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 11 - Topic 4 - Textbook Unit to be chosen by students
Week 12 - Researching and planning for final debate test
Week 13 - Final discussion/debate test
Week 14.- Final discussion/debate test

3．履修上の注意

Students must attend class regularly and make their best effort to speak in English at all times. **Active participation in all group and pair work tasks is essential.** This class will be an active learning environment, and therefore the effort and participation that each student shows each week is the most important factor in this class and grading. Students should have high level English skills and enjoy discussing in English.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will review and practice all work done after each class. Students will also need to do research and prepare notes and data in preparation before each class.

5．教科書

The English Course - Discussion Book 3 by Gary Ireland and Max Woollerton
Published by the English Company.

All students need to have a copy of the textbook to be able to access the online homework assignments and tests.

6．参考書

It would be very useful for students to bring a computer or tablet device and an Advanced Learner's Dictionary.

7．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. Whenever research assignments are given, the results are discussed with the teacher when seen. Feedback is given on any presentations given and both good and bad points are explained.

8．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%), Discussions and classroom tasks and tests (40%), Homework and quizzes (20%). There is an absence limit of 30% of classes and a lateness limit of 20 minutes.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN311J

英語コミュニケーションⅠ

2単位	3年次	ドウ, ティモシー　J.

1．授業の概要・到達目標

This is a class which is part of the teacher certification program and is for 3rd and 4th year students. The course focuses on listening, speaking, and pragmatic skills to enhance students' communicative abilities. Students will be able to interact with one another to analyze and discuss the use of English in different contexts. The purpose of this course is to go beyond learning grammar and vocabulary to improve language skills. Rather, students will learn about concepts from the field of pragmatics, that is, how language can be used appropriately in a variety of formal and informal settings. Students will also learn strategies to enhance their listening and speaking skills in addition to completing a variety of activities for skill development.

Contact details: timdoe@meiji.ac.jp

2．授業内容

第1回：Introduction: Pragmatics
第2回：Situational and Co-Textual Context
第3回：Background Knowledge Context
第4回：The Cooperative Principle
第5回：Adjacency Pairs
第6回：Preferred and Dispreferred Responses
第7回：Discussion: Analyzing an Interview
第8回：Introduction: Politeness
第9回：Politeness: Off-Record
第10回：Politeness: On-Record Baldly
第11回：Politeness: On-Record with Negative Politeness
第12回：Politeness: On-Record with Positive Politeness
第13回：Communication Strategies
第14回：Discussion: Analyzing a Conversation

3．履修上の注意

Grading for this course will be based on both preparation for in class communicative activities, and students' performance in those activities.

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete homework assignments before classes.

5．教科書

Pragmatics: A Resource Book for Students, Cutting and Fordyce, Routledge, 2020.

6．参考書

Students may use a dictionary (paper or electronic).

7．課題に対するフィードバックの方法

Reports and homework submitted during the semester will be graded and returned to students in class.

8．成績評価の方法

Homework assignments will count for 50% of the final grade, and completion of class activities will count for 50% of the final grade.

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN311J

英語コミュニケーションⅠ

２単位	３年次	アイルランド，ガリー

１．授業の概要・到達目標

This course is part of the teacher certification program and is open to 3rd and 4th year students.
The course aims are three-fold. Firstly, to give students the opportunity to improve all of their own personal English skills through a variety of tasks that will require extensive listening, reading and communicative practice. Secondly, to learn how to teach a wide variety of academic skills in English. And thirdly, to understand the principles and techniques involved in communicative language teaching and creating an active learning environment.
Students will speak only English at all times in every class.

In the first semester, students will practice and learn to introduce a variety of English language skills. These will include, communication skills, listening and note-taking skills and presentation skills. Students must take a very active role in every class and expect to spend a good deal of classroom discussing ideas in English.

２．授業内容

1 ：Introduction to communicative English teaching and learning
2 ：What are good communication skills?
3 ：Evaluating your own communication skills and problems
4 ：Practicing communication skills - speaking tasks
5 ：Practicing communication skills - speaking tasks
6 ：Role-play communication task（test）（graded）
7 ：Listening 1 - note taking strategies and skills
8 ：Listening for information practice
9 ：Listening for opinions and reasons on a topic
10：Discussion of listening topic（test）（graded）
11：Presentation skills and techniques 1 - talking to groups
12：Presentation skills and techniques 2 - the 3 messages
13：Presentation preparation
14：Presentation（test）（graded）

３．履修上の注意

Students should be comfortable and confident in speaking English and have better than average communication skills. This class is a very active learning environment. Most classroom time each week will be spent in pair work discussion activities and all students must be willing and keen to participate enthusiastically in each class. **Students who do not want to participate in lengthy discussions in English each week are not suitable for this class.**

４．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will review and practice all work done in class. Students will also be asked to prepare research and other data to present before each class.

５．教科書

No Textbook. All materials will be provided by the teacher.

６．参考書

Students are requested to bring a computer or tablet device and an Oxford Advanced Learner's Dictionary

７．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. Whenever research assignments are given, the results are discussed with the teacher when seen. Feedback is given on any presentations given and both good and bad points are explained.Students will have ample opportunity to talk with the teacher each week to gain feedback on their weak and strong points in using English.

８．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%),
Classroom assignments and tests (40%), Homework and quizzes (20%), There is a 30% absence limit and a twenty minute lateness limit for each class.

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAN311J

英語コミュニケーションⅡ

２単位	３年次	ドウ，ティモシー　Ｊ．

１．授業の概要・到達目標

This is a class which is part of the teacher certification program and is for 3rd and 4th year students. The course focuses on listening, speaking, and pragmatic skills to enhance students' communicative abilities. Students will be able to interact with one another to analyze and discuss the use of English in different contexts. The purpose of this course is to go beyond learning grammar and vocabulary to improve language skills. Rather, students will learn about concepts from the field of pragmatics. In the second part of this course, we will focus on concepts from critical discourse analysis to examine the relationship between discourse and ideology in a variety of texts. Students will also learn strategies to enhance their listening and speaking skills in addition to completing a variety of activities for skill development.

Contact details: timdoe@meiji.ac.jp

２．授業内容

第１回：Introduction: Critical Discourse Analysis
第２回：Critical Discourse Analysis: Connotation
第３回：Critical Discourse Analysis: Level of Formality
第４回：Critical Discourse Analysis: Degree of Certainty
第５回：Critical Discourse Analysis: Metaphor, Metonym, and Slogans
第６回：Critical Discourse Analysis: Presentations
第７回：The History of Slang
第８回：Slang and Social Identity
第９回：Independent Research: Slang
第10回：Slang: Presentations
第11回：Introduction to Progressivism
第12回：The History of Progressivism and Social Issues
第13回：Independent Research: Progressivism and Social Issues
第14回：Independent Research: Presentations

３．履修上の注意

Grading for this course will be based on both preparation for in class communicative activities, and students' performance in those activities.

４．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete homework assignments before classes.

５．教科書

Pragmatics: A Resource Book for Students, Cutting and Fordyce, Routledge, 2020.

６．参考書

Students may use a dictionary (paper or electronic).

７．課題に対するフィードバックの方法

Reports and homework submitted during the semester will be graded and returned to students in class.

８．成績評価の方法

Homework assignments will count for 50% of the final grade, and completion of class activities will count for 50% of the final grade.

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAN311J

英語コミュニケーションⅡ

２単位	３年次	アイルランド，ガリー

１．授業の概要・到達目標

This course is part of the teacher certification program and is open to 3rd and 4th year students. The course aims are three-fold. Firstly, to give students the opportunity to improve all of their own personal English skills through a variety of tasks that will require extensive listening, reading and communicative practice. Secondly, to learn how to teach a wide variety of academic skills in English. And thirdly, to understand the principles and techniques
involved in communicative language teaching and creating an active learning environment. Students will speak only English at all times in every class.

In the second semester, students will build upon the work done in the first semester by practicing and learning to introduce additional English language skills. These will include, reading skills, discussion and debating skills and also skills needed to create lesson plans. Students must take a very active role in every class and expect to spend a good deal of classroom discussing ideas in English.

２．授業内容

1 ：Review of first semester work
2 ：Research 1 - reading for comprehension techniques
3 ：Research 2 - what to look for in articles and essays
4 ：Research 3 - how to find and analyze information
5 ：Reading comprehension（test）（graded）
6 ：Discussion/debating skills 1 - opinions and reasons
7 ：Discussion/debating skills 2 - supporting your reasons
8 ：Debate role-play（test）（graded）
9 ：What is active learning?
10：Creating active learning activities
11：Group work - creating a demonstration lesson
12：Group work - creating a demonstration lesson
13：Demonstration lessons week 1（test）（graded）
14：Demonstration lessons week 2（test）（graded）

３．履修上の注意

Students should be comfortable and confident in speaking English and have better than average communication skills. This class is a very active learning environment. Most classroom time each week will be spent in pair work discussion activities and all students must be willing and keen to participate enthusiastically in each class. **Students who do not want to participate in lengthy discussions in English each week are not suitable for this class.**

４．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be asked to review and practice all work done after each class. Students will also conduct research and prepare their findings before each class.

５．教科書

No Textbook. All materials will be provided by the teacher.

６．参考書

Students will need to bring a computer or tablet device and an Oxford Advanced Learner's Dictionary.

７．課題に対するフィードバックの方法

As this class is a very active learning class each week which is based on discussion and debate, there are almost no written assignments which require feedback from the teacher. Whenever research assignments are given, the results are discussed with the teacher when seen. Feedback is given on any presentations given and both good and bad points are explained. students will have time each week to discuss their progress with the teacher.

８．成績評価の方法

Continuous assessment consisting of classroom attitude and participation (40%),
Classroom assignments and tests (40%), Homework and quizzes (20%), There is a 30% absence limit and a twenty minute lateness limit for each class.

９．その他

科目ナンバー：(IC)LAN341E

英語音声学

２単位	３年次	ドウ，ティモシー　Ｊ．

１．授業の概要・到達目標

This is an introductory course to the study of English phonetics for students of language teaching and those interested in developing advanced-level English skills. In this course, students will learn how to produce and recognize the English sound system, how to read and write the international phonetic alphabet for English words and sentences, and how to accurately transcribe spoken English. Furthermore, students will participate in English group discussions based around topics related to different models of the English language, such as the native-speaker model vs. English as a lingua-franca model.
The course aims to give students a comprehensive understanding of the English sound system. To achieve this goal, students will complete in-class tasks in that focus on the comprehension and production of English words and sentences. The course also focuses on the problems that many foreign-language learners face when comprehending and producing spoken English in real time, and students will practice useful strategies that will enable them to overcome the difficulties they face. To practice these strategies, students will complete assignments recording their speech. These assignments include reading aloud tasks in addition to speaking on unplanned topics so that students will be able to apply the knowledge learned in the course to their communicative English skills.

２．授業内容

第１回：Basic Concepts of English Phonetics
第２回：The International Phonetic Alphabet
第３回：Describing and Classifying English Speech Sounds, Plosives
第４回：The Description of English Vowels, Affricates and Fricatives
第５回：English Intonation Patterns, Nasals and Approximants
第６回：Complex Vowels（Diphthongs）, Plural Nouns
第７回：Stress and Word Parts, Content and Function Words
第８回：Reduced Speech
第９回：Vowel Reduction
第10回：Rhythm and Intonation
第11回：Connected Speech
第12回：Pronunciation and Status
第13回：Pronunciation Self-Study Techniques
第14回：Pronunciation Goals and English as a Lingua Franca

３．履修上の注意

This class will be conducted in English. Students will complete class activities and discussions in small groups.

４．準備学習（予習・復習等）の内容

Students will be required to complete review activities and short homework readings before class each week.

５．教科書

No textbook is required. The teacher will provide reading materials.

６．参考書

Students may use a dictionary (paper or electronic). The teacher will provide supplementary materials

７．課題に対するフィードバックの方法

Explanations of the answers to quizzes and homework assignments will be given during class. Before the major tests, practice tests will be conducted and feedback will be given to students.

８．成績評価の方法

The final exam will count for 40% of the course grade. For the final exam, students will transcribe connected English speech in addition to answering questions related to content covered in the course. A short mid-term test will count for 10% of the final grade. Pronunciation assignments and quizzes will count for 40% of the final grade. Assignments require students to analyze audio recordings of their speech for clear pronunciation, stress, and intonation at both the word and sentence level. The degree of active participation in in-class English discussions will count for 10% of the final grade.

９．その他

ドイツ語

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＡＩ

1単位	1年次	**山口　真人**

1．授業の概要・到達目標

週２回のドイツ語の授業のうち、もう一方のクラスではドイツ語の骨組みとも言える初級文法の学習を中心に進めていきます。そのため当授業では、コミュニケーションの手段としての言語学習をより強く意識し、ドイツ語の基本的発音の修得、初級レベルの日常会話表現に慣れ親しむ、単語力の増強を図る、言語の背景をなすドイツ語圏の国々の文化風土を視聴覚教材を通じて学ぶ、などなど、多角的にドイツ語を学習していきます。さらに、文法のテーマ別練習問題を多く解くことで知識の定着に努め、文法クラスを有機的にバックアップします。

授業は一方向的な講義形式にとどまらず、教員が学生を指名し、テキストの音読や問いへの回答を求めます。また、定期的に学習事項の確認としての小テストを実施、あるいは課題提出を求めます。

(到達目標)

初等文法の知識を着実に身につけ、あわせて日常生活でよく用いる簡単な言い回しを勉強しながら、ドイツ語を読む力、聴きとる力、話す力を、総合的につけることを目指します。

2．授業内容

第１回　：　ドイツ語学習への導入
第２回　：　文字（ABC）と発音
第３回　：　基本的な単語の発音、あいさつ表現
第４回　：　動詞の現在人称変化（１)、
第５回　：　動詞の現在人称変化（２）三人称、数詞
第６回　：　名詞と冠詞（１)：名詞の性・1格
第７回　：　名詞と冠詞（２)：4格・3格・2格、名詞の複数形
第８回　：　動詞の現在人称変化（不規則)、命令形
第９回　：　所有冠詞、人称代名詞
第10回　：　前置詞と格支配（１)：2格・3格・4格支配
第11回　：　前置詞と格支配（２)：3・4両格支配
第12回　：　ドイツの文化・歴史・芸術を学ぶ（１）
第13回　：　ドイツの文化・歴史・芸術を学ぶ（２）
第14回　：　学期末課題と補足
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

提出課題としての練習問題をタイミングに応じて与えます。その出来を教員がチェックして平常点として積み重ね、学期末に総合して評価します。

文法クラスでの学習を復習するなかで生じた不理解、疑問、質問などは、この授業で練習問題を解いて理解を深めるなかで、解消していってほしい。そのためにはどのような質問にも対応します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習・復習を十分にして授業に臨むこと。

5．教科書

「パノラマ・エクスプレス　初級ドイツ語ゼミナール」(白水社)を使用します。

なお、文法クラスで使用の教科書も毎回持参のこと。

6．参考書

独和辞典は必ず入手のこと。授業内で辞書については指導解説します。

7．課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回課題として出す練習問題や学期末試験などは、実施後に授業内にて解説を行います。

8．成績評価の方法

平常点(40%)、中間試験(20%)、学期末試験(40%)などを総合的に勘案して評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＡＩ

1単位	1年次	**石原　竹彦**

1．授業の概要・到達目標

この講座ではドイツ語Bの文法の授業で学習した事項を確認しながら、日常での会話表現を習得します。学習範囲はドイツ語技能検定４級の出題範囲に相当します。

語彙を広げ簡単な挨拶、自己紹介ができるようになるのが狙いです。

2．授業内容

第１回　文字と発音
第２回　動詞の現在人称変化
第３回　語順など
第４回　様々な疑問文
第５回　sein 名詞の性と格変化
第６回　定冠詞と不定冠詞の用法
第７回　格の用法 haben
第８回　不規則動詞
第９回　命令形 人称代名詞
第10回　名詞の複数形 定冠詞の仲間
第11回　不定冠詞の仲間 einとkein
第12回　２格支配、３格支配、４格支配の前置詞
第13回　３、４格支配の前置詞 前置詞の様々な用法
第14回　aモジュール：試験　bモジュール：正答解説

3．履修上の注意

授業は連続して休まないようにしましょう。宿題をやってこなかったり、寝ていたり、ただそこに座っているだけでは出席にはなりません。授業には積極的に参加してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

5．教科書

『ドイツ語、私の好きなことば』、南はるつ著、同学社、2026年
会話練習用のプリントを用意する。

6．参考書

独和辞典は必ず必要です。どの辞書が良いのかについては授業中に説明します。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、ohomeijiを用いることもあります。

8．成績評価の方法

授業への貢献度２０％、小テスト２０％、試験６０％
３分の２以上の出席が期末試験を受験する条件です。
出席の条件をクリアしたうえで、小テスト、試験の結果から総合的に評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＡⅠ

1単位	1年次	相原　剣

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

発音や文法・構文等をしっかりと確認しながら、会話体のドイツ語に取り組んでいきます。ドイツ語の総合力を養うために、各種プレゼンテーション機器を利用した立体的な授業を展開します。サッカーや映画や音楽、ファッション等、同時代のドイツ語圏の文化事象やアクチュアルなテーマも適宜取り上げていきたいと思います。

【到達目標】

会話表現の基礎とその前提となる基本的な文法事項の徹底的な習得を目指します。ドイツ語を単なる語学の知識で終わらせず、楽しむ事も目標とします。

2．授業内容

第1回：イントロダクションとアルファベート
第2回：発音の規則、挨拶
第3回：挨拶
第4回：専攻（現在人称変化）
第5回：職業（現在人称変化）
第6回：持ち物について（名詞の性）
第7回：持ち物について（定冠詞・不定冠詞）
第8回：レストランでの注文（不定冠詞の4格）
第9回：レストランでの注文（否定冠詞の4格）
第10回：家族について（所有冠詞）
第11回：家族について（人称代名詞）
第12回：趣味・余暇活動（不規則変化動詞）
第13回：趣味・余暇活動（命令形）
第14回：a：表現のまとめ、b：試験

3．履修上の注意

毎回辞書は必ずご持参下さい。継続的な取り組みが重要です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

予習の際は、個別の単語を日本語に翻訳し日本語で文章の意味を恣意的に再構成するといった方法を避け、出来るだけドイツ語の構造を解き明かす事に注力して下さい。予習時点で一応の訳を書き留めることは原文に対する一つの態度決定という意味でも重要です。

【復習】

ドイツ語表現は繰り返し復習し、覚えてしまいましょう。小テスト等の復習は必須です。

5．教科書

新倉真矢子他著『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語 ノイ』(郁文堂)

6．参考書

特に定めません。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを利用しての情報共有を行います。授業時間内にも随時課題内容に関するフィードバックを行います。演習課題に関して、個別の添削指導も行います。

8．成績評価の方法

定期試験（60％）＋平常点・授業の取り組み・小テスト（予復習の実践、訳出等の担当、単語テスト、単元テスト、独検）（40％）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＡⅡ

1単位	1年次	山口　真人

1．授業の概要・到達目標

週2回のドイツ語の授業のうち、もう一方のクラスではドイツ語の骨組みとも言える初級文法の学習を中心に進めていきます。そのため当授業では、コミュニケーションの手段としての言語学習をより強く意識し、ドイツ語の基本的発音の修得、初級レベルの日常会話表現に慣れ親しむ、単語力の増強を図る、言語の背景をなすドイツ語圏の国々の文化風土を視聴覚教材を通じて学ぶ、などなど、多角的にドイツ語を学習していきます。さらに、文法のテーマ別に作成された練習問題をできるだけ多く解くことで知識の定着に努め、文法クラスを有機的にバックアップします。

授業は一方向的な講義形式にとどまらず、教員が学生を指名し、テキストの音読や問いへの回答を求めます。また、定期的に学習事項の確認としての小テストを実施、あるいは課題提出を求めます。

(到達目標)

初等文法の知識を着実に身につけ、あわせて日常生活でよく用いる簡単な言い回しを勉強しながら、ドイツ語を読む力、聴きとる力、話す力を、総合的につけることを目指します。

1年生のうちにドイツ語検定試験の4級合格を目指す。

2．授業内容

第1回　：　ドイツ語学習における基本項目の確認と秋学期への導入
第2回　：　形容詞の格変化
第3回　：　話法の助動詞（1）
第4回　：　話法の助動詞（2）、未来形、
第5回　：　分離動詞と非分離動詞
第6回　：　zu不定詞と従属接続詞、再帰表現と再帰代名詞
第7回　：　動詞の三基本形、過去形
第8回　：　現在完了形
第9回　：　独検4級の問題に挑戦してみよう
第10回　：　独検4級の問題に挑戦してみようⅡ
第11回　：　ドイツの文化・歴史・芸術を学ぶ（1）
第12回　：　ドイツの文化・歴史・芸術を学ぶ（2）
第13回　：　副文と非人称表現
第14回　：　学期末課題と補足
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

提出課題としての練習問題をタイミングに応じて与えます。その出来を毎回個別に教員がチェックして平常点として積み重ね、学期末に総合して評価します。

文法クラスでの学習を復習するなかで生じた不理解、疑問、質問などは、この授業で練習問題を解いて理解を深めるなかで、解消していってほしい。そのためにはどのような質問にも対応します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習・復習を十分にして授業に臨むこと。

5．教科書

「パノラマ・エクスプレス　初級ドイツ語ゼミナール」(白水社)を春学期に引き続き使用します。

なお、文法クラスで使用の教科書も毎回持参のこと。

6．参考書

テーマ内容に応じて適宜指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回課題として出す練習問題や学期末試験などは、実施後に授業内にて解説を行います。

8．成績評価の方法

平常点(40%)、中間試験(20%)、学期末試験(40%)などを総合的に勘案して評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＡⅡ

1単位	1年次	石原　竹彦

1．授業の概要・到達目標
春学期に引き続き、この講座ではドイツ語Bの文法の授業で学習した事項を確認しながら、日常での会話表現を習得します。学習範囲はドイツ語技能検定４級と一部は３級の出題範囲に相当します。語彙を広げ簡単な挨拶、自己紹介ができるようになるのが狙いです。

ドイツ語技能検定４級の合格をめざします。

2．授業内容
第１回　春学期の復習
第２回　話法の助動詞
第３回　休暇の予定について話してみる
第４回　贈り物をする
第５回　洋服を買いに行く
第６回　前置詞のまとめ
第７回　場所、位置を説明する
第８回　道案内をしてみる
第９回　分離動詞 再帰動詞のまとめ
第10回　zu 不定詞のまとめ
第11回　１日のスケジュールを説明する
第12回　過去形と現在完了形のまとめ
第13回　受動態と関係代名詞のまとめ
第14回　aモジュール 試験 b モジュール 正答解説

3．履修上の注意
授業は連続して休まないようにしましょう。宿題をやってこなかったり、寝ていたり、ただそこに座っているだけでは出席にはなりません。授業には積極的に参加してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

5．教科書
『ドイツ語、私の好きなことば』、南はるつ著、同学社、2026年
会話練習用のプリント、独検対応のプリントを用意する。

6．参考書
独和辞典

7．課題に対するフィードバックの方法
課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meijiを用いることもあります。

8．成績評価の方法
授業への貢献度２０％、ドイツ語技能検定の結果２０％、試験６０％
３分の２以上の出席が期末試験を受験する条件です。
出席の条件をクリアしたうえで、小テスト、試験の結果から総合的に評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＡⅡ

1単位	1年次	相原　　剣

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
発音や文法・構文等をしっかりと確認しながら、会話体のドイツ語に取り組んでいきます。ドイツ語の総合力を養うために、各種プレゼンテーション機器を利用した立体的な授業を展開します。サッカーや映画や音楽、ファッション等、同時代のドイツ語圏の文化事象やアクチュアルなテーマも適宜取り上げていきたいと思います。
【到達目標】
会話表現の基礎とその前提となる基本的な文法事項の徹底的な習得を目指します。ドイツ語を単なる語学の知識で終わらせず、楽しむ事も目標とします。
Web コンテンツの拡大と通信インフラの整備に伴い、地理的に離れた場所に居ながらにしてドイツ語圏の情報に直接アクセスすることが容易になってきました。この状況を活かし、様々なメディア・ツールを利用してドイツ語の総合力を高めることもその目的とします。

2．授業内容
第１回：春学期のまとめ、復習
第２回：休暇の予定（話法の助動詞・許可・可能・義務）
第３回：休暇の予定（話法の助動詞・意思・願望、準話法）
第４回：贈り物（自動詞と３格）
第５回：贈り物（３格と４格）
第６回：場所や位置の説明（３・４格支配の前置詞・３格）
第７回：場所や位置の説明（３・４格支配の前置詞・４格）
第８回：１日の行動、時刻（分離動詞）
第９回：１日の行動、時刻（zu不定詞、再帰代名詞）
第10回：身体の症状、過去について（過去形）
第11回：身体の症状、過去について（現在完了形）
第12回：天候に関する表現（従属の接続詞）
第13回：天候に関する表現（比較級・最上級、非人称表現）
第14回：a：表現のまとめ、b：試験

3．履修上の注意
毎回辞書は必ずご持参下さい。継続的な取り組みが重要です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
【予習】
予習の際は、個別の単語を日本語に翻訳し日本語で文章の意味を恣意的に再構成するといった方法を避け、出来るだけドイツ語の構造を解き明かす事に注力して下さい。予習時点で一応の訳を書き留めることは原文に対する一つの態度決定という意味でも重要です。
【復習】
ドイツ語表現は繰り返し復習し、覚えてしまいましょう。小テスト等の復習は必須です。

5．教科書
新倉真矢子他著『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語 ノイ』（郁文堂）

6．参考書
特に定めません。

7．課題に対するフィードバックの方法
Oh-o! Meiji システムを利用しての情報共有を行います。授業時間内にも随時課題内容に関するフィードバックを行います。演習課題に関して、個別の添削指導も行います。

8．成績評価の方法
定期試験（60％）＋平常点・授業の取り組み・小テスト（予復習の実践、訳出等の担当、単語テスト、単元テスト、独検）（40％）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＢⅠ

1単位	1年次	山口　真人

1．授業の概要・到達目標

教科書に沿って、春学期はアルファベートから始め、ドイツ語文法の二本柱である動詞の人称変化、および冠詞・名詞・形容詞の格変化を中心に学んでいきます。ドイツ語初級文法における基礎項目をひととおり習得することを目標とします。

ドイツ語と英語はもともと根っこが同じ言語ですので、似ている単語も多く、また文法的にも英文法と比較対照することで理解が早まると思います。ドイツ語文法は英語以上に体系的で、それゆえ基礎から一歩一ずつ着実に積み重ねて学んでいくことが重要です。

授業は一方向的な講義形式にとどまらず、練習問題を多く解くことで理解を深めていきます。その際は受講生のなかから指名し、回答を添削していく方式をとります。またタイミングを見計らって小テストを実施します。

2．授業内容

1回：導入
2回：アルファベートと基礎的単語による発音の習得
3回：動詞の現在人称変化（1）
4回：動詞の現在人称変化（2）
5回：名詞と冠詞（1）：名詞の性と格、定冠詞
6回：名詞と冠詞（2）：不定冠詞、名詞の複数形
7回：名詞と冠詞（3）：所有と否定の冠詞、人称代名詞
8回：動詞の現在人称変化（1）
9回：動詞の現在人称変化（2）
10回：命令法
11回：前置詞（1）：2格・3格・4格支配
12回：前置詞（2）：3・4両格支配
13回：ドイツ語圏の文化に学ぶ
14回：まとめ

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

教科書や練習問題プリントの予習・復習を十分にして、授業に臨むこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を事前に読み込むことや、基礎単語の暗記。授業後の復習としての練習問題への取り組み、その他課題の提出など。

5．教科書

「プラッツ　初級ドイツ語講座」(白水社刊)

6．参考書

独和辞典は必ず入手のこと。授業内で辞書については指導解説します。

7．課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回課題として出す練習問題や学期末試験などは、実施後に授業内にて解説を行います。

8．成績評価の方法

平常点(40%)、中間試験(20%)、学期末試験(40%)などを総合的に勘案して評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＢⅠ

1単位	1年次	石原　竹彦

1．授業の概要・到達目標

この講座ではドイツ語の基礎文法を「読む」・「書く」を中心に学習します。ドイツ語特有の発音、挨拶表現、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞、助動詞、分離動詞をあつかいます。これはドイツ語技能検定４級の出題範囲に対応します。またドイツ語の日常会話レベルの文章を読解します。

春学期終了時にはドイツ語で自己紹介や道案内ができるようになっているはずです。

2．授業内容

第１回　文字と発音
第２回　動詞の現在人称変化
第３回　語順など
第４回　様々な疑問文
第５回　sein　名詞の性と格変化
第６回　定冠詞と不定冠詞の用法
第７回　格の用法　haben
第８回　不規則動詞
第９回　命令形　人称代名詞
第10回　名詞の複数形　定冠詞の仲間
第11回　不定冠詞の仲間　einとkein
第12回　２格支配、３格支配、４格支配の前置詞
第13回　３、４格支配の前置詞　前置詞の様々な用法
第14回　aモジュール：試験　bモジュール：正答解説

3．履修上の注意

授業は連続して休まないようにしましょう。宿題をやってこなかったり、寝ていたり、ただそこに座っているだけでは出席にはなりません。授業には積極的に参加してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

5．教科書

『ドイツ語、私の好きなことば』、南はるつ著、同学社、2026年

6．参考書

独和辞典は必ず必要です。どの辞書が良いのかについては授業中に説明します。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meijiを用いることもあります。

8．成績評価の方法

授業への貢献度20%、小テスト20%、試験60%
３分の２以上の出席が期末試験を受験する条件です。
出席の条件をクリアしたうえで、小テスト、試験の結果から総合的に評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＢⅠ

1単位	1年次	相原　剣

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

ドイツ語Aの授業との有機的なリンケージを意識しながら、各文法事項の理解を確実なものにするとともに、習得した文法事項が基本的なドイツ語の表現のなかでどのように機能しているかを確認していきます。

春学期は､動詞の現在人称変化（ドイツ語では､主語の人称や数によって動詞が変化します｡)、名詞と冠詞の格変化（ドイツ語では、名詞に男性･女性･中性という性別があります。冠詞はその性別や格によって変化します。ドイツ語は文法が論理的でわかりやすいため、基本さえおさえてしまえば非常に取り組みやすく、より高度なスキルを身につけることも容易な言語だと思います。）といった事項からスタートします。

【到達目標】

ドイツ語の基礎文法をしっかりと身につける事を目標とします。まずは独検５級を楽々合格出来る力を身につけます。

2．授業内容

第１回：ドイツ語のアルファベット・発音等
第２回：現在人称変化
第３回：動詞の位置
第４回：sein, haben, werden
第５回：並列の接続詞
第６回：定冠詞
第７回：不定冠詞・否定冠詞
第８回：名詞の複数形
第９回：人称代名詞
第10回：不定冠詞類
第11回：定冠詞類
第12回：不規則変化動詞の現在人称変化
第13回：命令形
第14回：a：文法まとめ、b：試験

3．履修上の注意

毎回辞書は必ずご持参下さい（辞書については初回授業でご紹介します)。継続的な取り組みが重要です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

予習の際は、個別の単語を日本語に翻訳し日本語で文章の意味を恣意的に再構成するといった方法を避け、出来るだけドイツ語の構造を解き明かす事に注力して下さい。予習時点で一応の訳を書き留めることは原文に対する一つの態度決定という意味でも重要です。

【復習】

文法事項で未消化の部分があれば十分に復習をし、学習したドイツ語をしっかりと分析できるようにしておきましょう。小テスト等の復習は必須です。

5．教科書

新倉真矢子他著『ゲナウ！ グラマティック ノイ』（郁文堂）

6．参考書

特に定めません。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを利用しての情報共有を行います。授業時間内にも随時課題内容に関するフィードバックを行います。演習課題に関して、個別の添削指導も行います。

8．成績評価の方法

定期試験（60％）＋平常点・授業の取り組み・小テスト（予復習の実践、訳出等の担当、単語テスト、単元テスト、独検）（40％）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語ＢⅡ

1単位	1年次	山口　真人

1．授業の概要・到達目標

教科書に沿って、秋学期はドイツ語検定試験(独検)の受験とその４級合格を視野に入れ、春学期の学習事項の総復習から始めて、話法の助動詞、過去の表現(過去形および現在完了形)、副文表現などを中心に学んで、ドイツ語初級文法における基礎項目をひととおり習得することを目標とします。

ドイツ語と英語はもともと根っこが同じ言語ですので、似ている単語も多く、また文法的にも英文法と比較対照することで理解が早まると思います。ドイツ語文法は英語以上に体系的で、それゆえ基礎から一歩一ずつ着実に積み重ねて学んでいくことが重要です。

授業は一方向的な講義形式にとどまらず、練習問題を多く解くことで理解を深めていきます。その際は受講生のなかから指名し、回答を添削していく方式をとります。またタイミングを見計らって小テストを実施します。

2．授業内容

１回：導入
２回：春学期の総復習
３回：数詞と時刻表現
４回：話法の助動詞（１）
５回：話法の助動詞（２）
６回：複合動詞
７回：動詞の三基本形と完了形（１）
８回：動詞の三基本形と完了形（２)、過去形
９回：独検の過去問を解く（１）
10回：独検の過去問を解く（２）
11回：ドイツ語圏の文化を学ぶ（クリスマス企画）
12回：ドイツ語圏の文化を学ぶ 続（クリスマス企画）
13回：再帰表現、副文とzu不定詞
14回：まとめ

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

教科書や練習問題プリントの予習・復習を十分にして、授業に臨むこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書を事前に読み込むことや、基礎単語の暗記。授業後の復習としての練習問題への取り組み、その他課題の提出など。

5．教科書

「プラッツ　初級ドイツ語講座」(白水社刊)を春学期に引き続いて使用します。

6．参考書

テーマ内容に応じて授業内で明示します。

7．課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回課題として出す練習問題や学期末試験などは、実施後に授業内にて解説を行います。

8．成績評価の方法

平常点(40%)、中間試験(20%)、学期末試験(40%)などを総合的に勘案して評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語BⅡ

1単位	1年次	石原　竹彦

1．授業の概要・到達目標
春学期に引き続き、この講座ではドイツ語の基礎文法を「読む」・「書く」を中心に学習します。分離動詞、話法の助動詞、zu不定詞、再帰表現、過去形、受動態、関係代名詞など、ドイツ語技能検定３級の出題範囲を学習します。

秋学期終了時にはグリムなど平易なドイツ語で書かれた文章を読めるようになっているはずです。

2．授業内容
第１回　前期の内容を復習
第２回　分離動詞
第３回　分離動詞と話法の助動詞
第４回　話法の助動詞
第５回　従属接続詞
第６回　再帰表現　zu不定詞の名詞的用法
第７回　再帰動詞 zu不定詞の形容詞的　副詞的用法
第８回　現在完了形
第９回　現在完了形（分離動詞　非分離動詞）と過去形
第10回　形容詞の格語尾
第11回　受動態
第12回　比較表現
第13回　関係代名詞
第14回　a：試験　b：正答解説

3．履修上の注意
授業は連続して休まないようにしましょう。宿題をやってこなかったり、寝ていたり、ただそこに座っているだけでは出席にはなりません。授業には積極的に参加してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

5．教科書
『ドイツ語、私の好きなことば』、南はるつ著、同学社、2026年

6．参考書
独和辞典

7．課題に対するフィードバックの方法
課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meijiを用いることもあります。

8．成績評価の方法
授業への貢献度20%、小テスト10%、試験70%
３分の２以上の出席が期末試験を受験する条件です。
出席の条件をクリアしたうえで、小テスト、試験、授業への貢献度から総合的に評価します。
春学期に引き続きこの講座では、１年次に学習した文法事項を復習しながら、さらに「読む力」、「書く力」のレベルアップをはかります。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN121N

ドイツ語BⅡ

1単位	1年次	相原　剣

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
ドイツ語の基礎文法をしっかりと身につける事を目標とします。ドイツ語Aの授業との有機的なリンケージを意識しながら、各文法事項の理解を確実なものにするとともに、習得した文法事項が基本的なドイツ語の表現のなかでどのように機能しているかを確認していきます。
秋学期には、より高度で発展的な事項を扱っていきます。ドイツ語検定試験（独検）の対策も、授業のなかで随時行っていきます。
【到達目標】
ドイツ語の基礎文法をしっかりと身につける事を目標とします。１２月に実施される独検４級（さらには３級）合格で、身に付いたドイツ語のスキルを実感できるようにしましょう。

2．授業内容
第１回：話法の助動詞の用法
第２回：未来形
第３回：前置詞
第４回：再帰代名詞・再帰動詞
第５回：分離動詞・非分離動詞
第６回：zu不定詞
第７回：従属の接続詞
第８回：動詞の３基本形
第９回：過去形・現在完了形
第10回：受動態
第11回：形容詞の変化
第12回：形容詞・副詞の比較変化
第13回：関係代名詞
第14回：a：接続法、b：試験

3．履修上の注意
毎回辞書は必ずご持参下さい。継続的な取り組みが重要です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
【予習】
予習の際は、個別の単語を日本語に翻訳し日本語で文章の意味を恣意的に再構成するといった方法を避け、出来るだけドイツ語の構造を解き明かす事に注力して下さい。予習時点で一応の訳を書き留めることは原文に対する一つの態度決定という意味でも重要です。
【復習】
文法事項で未消化の部分があれば十分に復習をし、学習したドイツ語をしっかりと分析できるようにしておきましょう。小テスト等の復習は必須です。

5．教科書
新倉真矢子他著『ゲナウ！ グラマティック ノイ』（郁文堂）

6．参考書
特に定めません。

7．課題に対するフィードバックの方法
Oh-o! Meiji システムを利用しての情報共有を行います。授業時間内にも随時課題内容に関するフィードバックを行います。演習課題に関して、個別の添削指導も行います。

8．成績評価の方法
定期試験（60%）＋平常点・授業の取り組み・小テスト（予復習の実践、訳出等の担当、単語テスト、単元テスト、独検）（40%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN221N

ドイツ語演習Ⅰ

2単位	2年次	関口　裕昭

1．授業の概要・到達目標

ドイツ語を週2時間、1年間学習したレベルの既修者を対象にして、読む・書く・聴く・話すのバランスの取れたドイツ語学力の養成に努めるクラスです。1年後の達成レベルとしては、ドイツ語検定3級合格を確実にし、2級の合格も狙えるレベルを想定しています（12月に行われる3級の受験を特別な理由がない限り、受験してもらいます。またその対策も行っています。受験料は学部から補助が出ますのでそれを利用してください）

春学期の前半は、1年時に学んだ文法事項をスピード感をもって復習しながら未修の項目（クラスにより異なるでしょうが、受動態、関係代名詞、形容詞の格変化、接続法）を丁寧に学び、基礎力を確実にします。問題演習を中心にします。これと並行して、ドイツ映画の鑑賞と簡単な会話練習を取り入れます。

2．授業内容

第１回　ガイダンス＋復習①（L1動詞の現在人称変化、L2 名詞の性と冠詞）
第２回　復習②（L3 人称名詞の格変化、不規則動詞、命令法）
第３回　復習③（L4 漢詩類の格変化、名詞の複数形）
第４回　復習④（L5 前置詞、接続詞）
第５回　復習⑤（L6 分離動詞、話法の助動詞）
第６回　復習⑥（L7 再帰動詞、zu不定詞）
第７回　復習⑦（L8 動詞の3基本形、過去形、esの用法）
第８回　ドイツ映画鑑賞①（未定）、会話練習
第９回　復習⑧（L9 完了時制、男性弱変化動詞）
第10回　L10 受動態、分詞①
第11回　L10 受動態、分詞②
第12回　L11 関係代名詞、比較①
第13回　L11 関係代名詞、比較②
第14回　ドイツ映画鑑賞②、会話練習

3．履修上の注意

このクラスは1年間週2時間ドイツ語を学んだ人、もしくは同程度の語学力を持つ学生を対象にしています。受講者は必ず紙媒体の独和辞典を入手し、毎回持参すること。授業中の電子辞書の利用は認めておりません。（もちろん、便利なので、旅行などではどんどん使ってください。）その理由はドイツ語の学習、ひいては外国語の学習の根幹に関わることで、最初の授業で説明します)。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業開始まで、これまでに学んだ文法事項を復習しておいてください。

5．教科書

『ドイツ語の基礎―新しい視点から』（今井敦・中根勝美・林英哉・森口大地著、同学社）

6．参考書

最初の授業で示します。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜指示します。

8．成績評価の方法

出席＋普段の授業の参加度・小テスト（60%）＋学期末試験（40%）

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN221N

ドイツ語演習Ⅱ

2単位	2年次	関口　裕昭

1．授業の概要・到達目標

ドイツ語を1年以上学び、さらに力をつけたい人のためのクラスです。読み、下書き、話し、聞くの4つの分野においてバランスの取れた語学力の養成に努めますが、特に読解力の錬磨に力を注ぎます。具体的な目標をもって学習を進め、終了時に少なくとも独検3級に合格できるレベル、可能なら2級合格をめざします。前期のシラバスにも書いたように、12月に行われる独検3級を受験し、全員合格することを目標にします。

年末にはドイツ履修者を対象にしたクリスマスの会で小さな劇を上演します(ドイツ語の簡単な劇。前年度は『ヘンゼルとグレーテル」のドイツ語＋日本語劇を行いました)。この授業は履修者は少ないので、みんなが仲良くなり、いろいろな催しもあります。朝早くて大変ですが、ドイツ語が好きな人は絶対に履修する価値はあると思います。

2．授業内容

文学を中心とするさまざまなテクストを読み、日本語に訳す練習を毎回行います。併せて映画のセリフを聞き取ったり、簡単な会話ができるようになる練習、独作文も随時取り入れます。

第１回　文法の復習と強化 「接続法」①
第２回　文法の復習と強化 「接続法」②
第３回　「モーツァルトの手紙」（＋会話練習）
第４回　グリム童話「カエルの王さま」（＋ヒアリング）
第５回　シュピリ「ハイジ」
第６回　リルケの詩「秋の日」（＋会話練習）
第７回　ゲーテ『若きウェルテルの悩み』（＋映画鑑賞）
第８回　ことわざ・引用・アフォリズム（＋会話練習）
第９回　プロイスラー『クラバート』（＋映画鑑賞）
第10回　カフカ『変身』（＋映画鑑賞）
第11回　ツェラン「死のフーガ」
第12回　ヴァイツゼッカー大統領「1985年5月8日の講演」（＋ヒアリング）
第13回　マン『ヴェニスに死す』(＋映画鑑賞）
第14回　まとめ

3．履修上の注意

ドイツ語を1年以上学び、独検4級に合格したレベルの学生を対象とします。毎回、紙媒体の辞書を持参してください。また10回以上出席しないと単位は取得できません。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

自分でこれまで学習したことをよく復習して、文法の基礎を固めておいてください。

5．教科書

『ドイツ語を読む(Lesebuch Deutsch)』(Susanne Schermann､相原剣）朝日出版社

6．参考書

授業中に紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜指示します。

8．成績評価の方法

出席と平常点（小テストを含む）50%＋期末試験50%

9．その他

フランス語

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＡＩ

1単位	1年次	永倉　千夏子

1．授業の概要・到達目標
〈概要〉
フランス語の基本的な構造を学び、読む、書く、聞く、話すの基礎的運用を身につける。

〈到達目標〉
教科書の例文または同じレベルの文を聞き、読み、書き、応答できる。

2．授業内容
第１回：導入、アルファベ、発音と綴り字、基本的な挨拶、
第２回：主語人称代名詞、動詞etre、数詞１～10、国籍、身分、職業を言う
第３～４回：名詞の性数、不冠詞、形容詞１、提示の表現、動詞avoir、「誰か」「何か」を聞き、答える
第５～６回：第１群規則動詞、定冠詞、否定文、好き嫌いを聞く、答える
第７回：中間まとめ試験
第８回：指示形容詞、動詞faire, descendre、疑問文、形容詞２、日付を聞き、答える。数詞11～40、月の名前
第９～10回：動詞aller, venir、前置詞と定冠詞の縮約、命令形、交通手段を聞く、答える
第11回：所有形容詞、強勢形、疑問形容詞、数詞41～100、色、「どの～」「どんな～」を聞く、答える
第12～13回：部分冠詞、第２群規則動詞、動詞vouloir、欲しいものを聞く、答える
第14回：a：定期試験
b：全体の振り返りと試験の解答解説

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
授業中の口頭、筆記での応答、演習への参加、課題提出が平常点となる。
基本的な解説は毎回、授業の前にパワーポイントなどでクラスウェブに提示される。
必ずダウンロードし予習をすること。
授業の後は、クラスウェブから課題を提出すること。
予習、授業、課題提出の際には辞書が必須である。
秋学期に初級フランス語AIIを履修のこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
クラスウェブに提示されたパワーポイント、pdfなどの授業資料をダウンロードし、視聴し、指示に従って例題に取り組む。
授業に参加後は、指示された課題をpdfファイルでクラスウェブから提出する。
仏和辞典は必須である。

5．教科書
「ピエールとユゴー［コンパクト版］(DVD付き)」、小笠原洋子著、白水社
購入の際は、コンパクト版であることを確認すること。

6．参考書
辞書は、次のもののうちいずれかまたは同等の電子版を必ず用意すること。(必ずしも最新版である必要はなく、古いものでも構わない)
プチ・ロワイヤル仏和辞典 第５版（旺文社）(小型版あり)
クラウン仏和辞典 第７版（三省堂）
ベーシッククラウン仏和・和仏辞典 小型版（三省堂）
ディコ仏和辞典[新装版]（白水社）
プログレッシブ仏和辞典 第２版（小学館）

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内で解答できなかったものはクラスウェブの「授業内容・資料」欄にアップされる。
質問・連絡等の宛先は、課題にメールアドレスが記載されている。

8．成績評価の方法
定期試験４０％＋平常点６０％
平常点は、毎週の課題提出、授業中の発表などからなる。

9．その他
クラウン、ル・ディコ、プチ・ロワイヤル、プログレッシヴなど仏和中辞典を用意すること。(各辞書の単語数など詳しい違いは初回授業資料に記載する)

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＡＩ

1単位	1年次	西村　美穂

1．授業の概要・到達目標
やさしいフランス語の文章を音読しながら、フランス語の仕組みを理解する。フランス語の聞き取りにも取り組み、コミュニケーション能力を高める。そしてフランス語検定を目指しながら、フランス文化への理解も深めたい。はじめはアルファベから。

2．授業内容
① テクスト音読
② 文法確認
③ 仏会話・歌・詩などの聞きとり・音読
④ フランス語の暗記

［第１回］　アルファベ 数字
［第２回］　綴り字の読み方復習
［第３回］　挨拶をする①
［第４回］　挨拶をする②
［第５回］　家族を紹介する①
［第６回］　家族を紹介する②
［第７回］　一日の生活について話す①
［第８回］　一日の生活について話す②
［第９回］　自分の住んでいる町を紹介する①
［第10回］　自分の住んでいる町を紹介する②
［第11回］　未来について話す①
［第12回］　未来について話す②
［第13回］　まとめ
［第14回］　ａ．試験（レポートまたは発表）ｂ．解説

3．履修上の注意
教室で指示する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テクストの音声を聴き、声に出して読む。

5．教科書
« C'est à vous ! », Asako Yokomichi, Édition ASAHI, 2020.

6．参考書
教室で指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題等は基本、Oh-o!Meiji システムを利用する。また最終授業日に試験を実施し、同日に解説を説明または公開する。

8．成績評価の方法
平常点（課題・小テストを含む）60%、試験40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＡⅠ

1単位	1年次	パジェス，クリストフ

1．授業の概要・到達目標
　この授業は、フランス語で自己表現ができるようになることを目的とした、フランス語会話クラスです。
　限られた文法知識の中で、日常的な話題について自然に聞く・話すことができるようになることを目指しています。
　授業は、発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成され、各レッスンで取り上げられる話題について、自然なフランス語での会話の仕方やボキャブラリーを学びます。ビデオを使用して、フランスの文化についても学びます。仏検受験準備も行います。
　必要に応じて日本語でも説明します。

2．授業内容
4/16　第1回　イントロダクション
4/23　第2回　レッスン 1
フランス語の基礎
4/30　第3回　レッスン 2
あなたは日本人ですか？
5/7　第4回　レッスン 3
今住んでいるところや出身地について話す
5/14　第5回　レッスン 4
交通手段について話す
5/21　第6回　レッスン 5
アルバイトについて話す
5/28　第7回　レッスン 6
ペットなどについて話す
6/4　第8回　レッスン 7
家族について話す
6/11　第9回　レッスン8
家事について話す
6/18　第10回　レッスン 9
時間について話す
6/25　第11回　レッスン 10
食べ物について話す
7/2　第12回　レッスン 11
科目・先生について話す
7/9　第13回　レッスン 12
クラブ活動について話す
7/16　第14回
前期のまとめ
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
授業への積極的参加を最も重視します。授業の予習と復習があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：授業前に音声教材を聞いておくこと
復習：語彙と例文を記憶しておくこと

5．教科書
Moi, je… コミュニケーション A1（出版社：ALMA France-Japan Editeur）
ISBN 978-4-905343-33-2
（新刊）

6．参考書
無し

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内で一緒に答え合わせをします。

8．成績評価の方法
平常点（授業への積極的な参加＋小テスト）100%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＡⅡ

1単位	1年次	永倉　千夏子

1．授業の概要・到達目標
〈概要〉
フランス語の基本的な構造を学び、読む、書く、聞く、話すの基礎的運用を身につける。

〈到達目標〉
教科書の例文または同じレベルの文を聞き、読み、書き、応答できる。

2．授業内容
第1回：非人称構文、直接目的語の人称代名詞、動詞pouvoir、時刻を聞く、答える
第2～3回：動詞prendre、間接目的語の人称代名詞、代名動詞、値段を聞く、答える
第4～5回：近接未来、近接過去、中性代名詞、料理を選ぶ
第6回：比較級、最上級、序数詞、比較する
第7回：中間まとめ試験
第8～9回：過去分詞、助動詞avoirの複合過去、曜日、過去のことを話す1
第10回：助動詞etreの複合過去、数詞200 ～ 10000、過去のことを話す2
第11回：半過去、複合過去と版過去の使い分け、理由を聞く、答える
第12回：単純未来、近接未来と単純未来、四季、未来のことを話す
第13回：補足：条件法現在、願望を聞く、答える
第14回：a：定期試験
　　b：全体の振り返りと試験の解答解説

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
授業中の口頭、筆記での応答、演習への参加、課題提出が平常点となる。
基本的な解説は毎回、授業の前にパワーポイントなどでクラスウェブに提示される。
必ずダウンロードし予習をすること。
授業の後は、クラスウェブから課題を提出すること。
予習、授業、課題提出の際には辞書が必須である。
春学期にフランス語AIを履修のこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
クラスウェブに提示されたパワーポイント、pdfなどの授業資料をダウンロードし、視聴し、指示に従って例題に取り組む。
授業に参加後は、指示された課題をpdfファイルでクラスウェブから提出する。
仏和辞典は必須である。

5．教科書
「ピエールとユゴー［コンパクト版］（DVD付き）」小笠原洋子著、白水社
購入の際には、コンパクト板であることを確認のこと

6．参考書
辞書は、次のもののうちいずれかまたは同等の電子版を必ず用意すること。（必ずしも最新版である必要はなく、古いものでも構わない）
プチ・ロワイヤル仏和辞典 第5版（旺文社）（小型版あり）
クラウン仏和辞典 第7版（三省堂）
ベーシッククラウン仏和・和仏辞典 小型版（三省堂）
ディコ仏和辞典[新装版]（白水社）
プログレッシブ仏和辞典 第2版（小学館）

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内で解答できなかったものはクラスウェブの「授業内容・資料」欄にアップされる。
質問・連絡等の宛先は、課題にメールアドレスが記載されている。

8．成績評価の方法
定期試験４０％＋平常点６０％
平常点は、毎週の課題提出、授業中の発表などからなる。

9．その他
クラウン、ル・ディコ、プチ・ロワイヤル、パスポートなど仏和中辞典を用意すること。（各辞書の違いは初回授業時に説明）

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＡⅡ

1単位	1年次	西村　美穂

1．授業の概要・到達目標
　やさしいフランス語の文章を音読しながら、フランス語の仕組みを理解する。フランス語の聞き取りにも取り組み、コミュニケーション能力を高めてゆく。そしてフランス語検定（５級・４級）に備えながら、フランス文化への理解も深めたい。

2．授業内容
① テクスト音読
② 文法確認
③ 仏会話・歌・詩などの聞きとり・音読
④ フランス語の暗記

［第１回］　復習
［第２回］　過去について話す①
［第３回］　過去について話す②
［第４回］　過去について話す③
［第５回］　過去について話す④
［第６回］　状況を説明する①
［第７回］　状況を説明する②
［第８回］　比較する①
［第９回］　比較する②
［第10回］　反省を述べる①
［第11回］　反省を述べる②
［第12回］　願望を述べる①
［第13回］　願望を述べる②
［第14回］　ａ．試験（レポートまたは発表）ｂ．解説

3．履修上の注意
教室で指示する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テクストの音声を聴き、声に出して読む。

5．教科書
« C'est à vous ! », Asako Yokomichi, Édition ASAHI, 2020.

6．参考書
教室にて指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題等は基本、Oh-o!Meiji システムを利用する。また最終授業日に試験を実施し、同日に解説を説明または公開する。

8．成績評価の方法
平常点（課題・小テストを含む）60%、定期試験40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＡⅡ

1単位	1年次	パジェス，クリストフ

1．授業の概要・到達目標
　この授業は、フランス語で自己表現ができるようになることを目的とした、フランス語会話クラスです。
　限られた文法知識の中で、日常的な話題について自然に聞く・話すことができるようになることを目指しています。
　授業は、発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成され、各レッスンで取り上げられる話題について、自然なフランス語での会話の仕方やボキャブラリーを学びます。ビデオを使用して、フランスの文化についても学びます。仏検4級、5級を目指します。
　必要に応じて日本語でも説明します。

2．授業内容
9/24　第１回　前期の復習
10/1　第２回　レッスン 13
週末の過ごし方について話す
10/8　第３回　レッスン 14
休暇中の活動について話す
10/15　第４回　レッスン 15
経験について話す
10/22　第５回　レッスン 16
地理や食文化について話す
11/5　第６回　レッスン 17
時間について話す
11/12　第７回　レッスン 18
好みについて話す
11/19　第８回　レッスン 19
総復習 1
11/26　第９回　レッスン20
総復習 2
12/3　第10回　レッスン 21
人を誘う
12/10　第11回　レッスン 22
買い物をする
12/17　第12回　レッスン 23
レストランを予約する
1/14　第13回　レッスン 24
道を尋ねる
1/21　第14回
後期のまとめ

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意
授業への積極的参加を最も重視します。授業の予習と復習があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：授業前に音声教材を聞いておくこと
復習：語彙と例文を記憶しておくこと

5．教科書
Moi, je… コミュニケーション A1（出版社：ALMA France-Japan Editeur）
ISBN 978-4-905343-33-2
（新刊）

6．参考書
無し

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内で一緒に答え合わせをします。

8．成績評価の方法
平常点（授業への積極的な参加＋小テスト）100%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＢⅠ

1単位	1年次	**増田　晴美**

1．授業の概要・到達目標

今日、様々な民族が共生・対立する世界情勢の中で、問題を発見し解決する柔軟な思考方法を獲得するには、「グローバル・ランゲージ＝英語」以外の言語が担う文化や表現形式を識ることが重要である。フランス語は、国際的な外交言語・作業言語であるため、フランス語を介したコミュニケーション能力を身につけたいと考える人は少なくないだろう。

本授業では、「ことばの仕組み＝文法」を理解し、フランス語で表現するための基礎を身につけ、英語圏（anglophone）とは異なるフランス語圏（francophone）の存在に慣れ親しむことを目的とする。

2．授業内容

第１回　アルファベ, 綴り字の読み方
第２回　名詞の性と数, 不定冠詞
第３回　部分冠詞、定冠詞
第４回　Il y aを始めとする慣用表現
第５回　主語人称代名詞、規則動詞について
第６回　基本動詞の直説法現在
第７回　否定形、疑問文、指示形容詞
第８回　形容詞の位置その他、名詞・形容詞の複数形
第９回　形容詞につく不定冠詞　aller, venirの直説法現在
第10回　冠詞の縮約、形容詞の女性形
第11回　疑問形容詞、さまざまな不規則動詞の直説法現在（１）
第12回　命令形、所有形容詞、さまざまな不規則動詞の直説法現在（２）
第13回　過去分詞と直説法複合過去
第14回　a: まとめ　b: 筆記試験形式による理解度の確認

3．履修上の注意

・教科書は必ず用意すること。学期開始時に教科書チェックを行う。
・度重なる注意にも関わらず教科書を用意しない場合は単位「不可」とする。
・辞書は紙の辞書，電子辞書のどちらでも可。
・授業の進行を妨げるような講義途中の入室，退出，私語等を慎むこと。場合によっては減点や単位「不可」の対象とする。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・ふだんから、フランス発、あるいはヨーロッパ発の情報・ニュースに関心を持つようにするとよい。
・授業に先立ち、前回学んだことを復習しておくことが望ましい。

5．教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著（白水社）

6．参考書

特に指定なし。辞書は紙の辞書、電子辞書のどちらでも可。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内に簡易な小テストを行った場合は、次の授業時に返却し、解説を行う。

8．成績評価の方法

授業と定期試験の総合評価とする（試験40%、授業内の活動60%）。
なお、定期試験の得点が30%に満たない場合は、上の総合評価とは無関係に「不可」とする。

9．その他

授業内容は、進度や習熟度等、必要に応じて調整することがある。

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＢⅠ

1単位	1年次	**宮川　慎也**

1．授業の概要・到達目標

<人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう>。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

この授業では、アルファベや綴り字の読み方から始めて、初級文法の前半程度の知識を身につけ、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。到達目標は以下のようです。

・日常生活に必要な程度のフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになるための文法を身につけます。
・国際的な分野で活躍できる視野を養います。
・資格を増やすため、フランス語検定の受験準備をも念頭に置いて進めます。

2．授業内容

各回の内容は、文法事項で示すと次のようになります。

第１回　アルファベの読み方、綴り字の読み方
第２回　名詞の性と数、不定冠詞
第３回　部分冠詞、定冠詞
第４回　Il y aなどの慣用表現
第５回　主語人称代名詞、規則動詞（―er動詞と―ir動詞）
第６回　基本動詞の直説法現在
第７回　否定形、疑問文に対する答え、指示形容詞
第８回　形容詞の位置、形容詞の女性形、名詞の複数形・形容詞の複数形
第９回　形容詞の前の不定冠詞（複数）　des→de、不規則動詞 aller, venirの直説法現在
第10回　冠詞の縮約（à+定冠詞, de+定冠詞）、形容詞の女性形
第11回　疑問形容詞、不規則動詞 faire, prendre mettre, attendreの直説法現在
第12回　命令形、所有形容詞、不規則動詞 partir, vouloir, pouvoir, devoirの直説法現在
第13回　過去分詞、直説法複合過去
第14回　a　期末試験 / b　正答解説

3．履修上の注意

受講姿勢（問題演習に取り組む姿勢など）も考慮するので、テストの苦手な人はその点で頑張りましょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う課題文を、できるかぎり音読しましょう。
また、動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、繰り返し復習しましょう。

5．教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著（白水社）

6．参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。なお、辞書の選び方は初回授業やクラスウェブで説明します。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じてOh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

8．成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点（受講態度など）を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。
なお、仏検の合格は成績に加算するので、合格者は速やかに申し出て下さい。

9．その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＢⅠ

1単位	1年次	**八木　　淳**

1．授業の概要・到達目標

《授業の概要》

フランス語の初級文法を説明します。まず文法を項目ごとに詳しく説明し、それに関する練習問題を解いてもらいます。その後、練習問題の答え合わせをし、詳細な解説を行います。

《授業の到達目標》

本授業では以下の能力・知識を身につけることを目指します。

（1）フランス語の文章読解や会話に必要な初級文法の習得を目ざします。「フランス語ＢⅠ」では、文法の入門から初級文法の前半つまり過去形の一つである「複合過去」までを扱います。

（2）文法規則を覚えるだけでなく、練習問題を解くことにより習熟度を高めて行きます。

（3）平易な文章が理解できるよう、例文や問題文の和訳にも力を入れ、応用力を養います。

（4）教科書の例文や問題文の音読をすることにより、フランス語の発音がうまくできるようにします。

（5）授業内でフランス語の検定試験（実用フランス語検定試験いわゆる仏検）の受験準備も行います。秋試験（11月）で5級または4級が受験できるようなレベルを目指します。

2．授業内容

フランス語の初級文法の前半を習得します。文法事項の説明をし、練習問題を解きながら知識の定着を図り、日常会話、簡単な読み物の読解に応用できるような能力を養います。また基本的な単語や短文を正確に音読できるよう、発音の練習も行います。

以下の項目に従って文法事項を説明し、練習問題の演習を通して確認して行きます。

第１回：男性名詞、女性名詞、名詞の複数形を説明し、練習問題を通して確認します。

第２回：不定冠詞と部分冠詞を説明し、練習問題を通して確認します。

第３回：定冠詞を説明し、練習問題を通して確認します。

第４回：提示表現（Voici, Voilà/C'est, Ce sont/ Il y a）の用法を説明し，練習問題を通して確認します。

第５回：主語人称代名詞および規則動詞（―er動詞と―ir動詞）を説明し，練習問題を通して確認します。

第６回：疑問文の作り方を説明し、練習問題を通して確認します。

第７回：êtreとavoirの直説法現在および否定形を説明し，練習問題を通して確認します。

第８回：疑問文に対する答えおよび指示形容詞を説明し、練習問題を通して確認します。

第９回：形容詞の位置と女性形を説明し、練習問題を通して確認します。

第10回：名詞の複数形・形容詞の複数形および形容詞の前のdesの変化を説明し、練習問題を通して確認します。

第11回：不規則動詞 aller, venirの直説法現在および冠詞の縮約（à+定冠詞, de+定冠詞）を説明し、練習問題を通して確認します。

第12回：所有形容詞と疑問形容詞を説明し、練習問題を通して確認します。

第13回：命令形を説明し、練習問題を通して確認します。

第14回：過去形の一つである複合過去を説明し、練習問題を通して確認します。

3．履修上の注意

語学では独善的にならず、人から間違いを直されたり、色々な表現を教えられたりしながら習得することが大切です。次回授業の範囲を予告しますので、教科書を読み予習してください。また授業をよく聞いてノートを取り、その上で適宜、習得した事項を復習することも必要です。授業への学生の積極的な参加を望みます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業の終わりにその時間に習った文法事項をまとめます。合わせて解いておくべき練習問題を指定します。課題にはしませんが復習に役立ててください（復習は一時間程度）。

また、次回の授業で扱う項目を予告します。スムーズに理解できるよう、どのような事項を学習するか目を通しておいてください(予習は一時間程度)

5．教科書

『《新版》ル・フランセ』、斉藤昌三著、白水社。

6．参考書

『コレクション、フランス語』シリーズ、田島宏編、白水社。

『もっと知りたいフランス』、斎藤広信他著、駿河台出版社。

7．課題に対するフィードバックの方法

中間試験、期末試験の後、同日の授業内で詳しい問題解説を行います。

8．成績評価の方法

中間試験（１回、40％）、期末試験（40％）、平常点（20％）で評価します。中間試験および期末試験の問題はテキストに基づいて出題し、基礎的知識と理解力を試すものとします。なお，仏検合格者については評価に加点します。また、平常点は、授業内への参加度、貢献度に基づいて評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＢⅡ

1単位	1年次	**増田　晴美**

1．授業の概要・到達目標

今日、様々な民族が共生・対立する世界情勢の中で、問題を発見し解決する柔軟な思考方法を獲得するには、「グローバル・ランゲージ＝英語」以外の言語が担う文化や表現形式を識ることが重要である。フランス語は、国際的な外交言語・作業言語であるため、フランス語を介したコミュニケーション能力を身につけたいと考える人は少なくないだろう。

本授業では、「ことばの仕組み＝文法」を理解し、フランス語で表現するための基礎を身につけ、英語圏（anglophone）とは異なるフランス語圏（francophone）の存在に慣れ親しむことを目的とする。

2．授業内容

第１回　形容詞・副詞の比較の表現（1）

第２回　形容詞・副詞の比較の表現（2）

第３回　特殊な比較の表現、動詞 voir, savoir, dire, recevoirの直説法現在

第４回　関係代名詞について

第５回　疑問代名詞について

第６回　人称代名詞について

第７回　受動態の表現

第８回　指示代名詞や強調構文

第９回　代名動詞について

第10回　非人称構文の確認

第11回　直説法単純未来

第12回　中性代名詞 le, en, y

第13回　直説法半過去

第14回　a: まとめ　b: 筆記試験形式による理解度の確認

3．履修上の注意

・教科書は必ず用意すること。学期開始時に教科書チェックを行う。

・度重なる注意にも関わらず教科書を用意しない場合は単位「不可」とする。

・辞書は紙の辞書，電子辞書のどちらでも可。

・授業の進行を妨げるような講義途中の入室，退出，私語等を慎むこと。場合によっては減点や単位「不可」の対象とする。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・ふだんから、フランス発、あるいはヨーロッパ発の情報・ニュースに関心を持つようにするとよい。

・毎回の授業で学んだことをその週のうちに復習しておくのが望ましい。

5．教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著（白水社）

6．参考書

特になし。辞書は紙の辞書、電子辞書のどちらでも可。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内に簡易な小テストを行った場合は、次の授業時に返却し、解説を行う。

8．成績評価の方法

授業と定期試験の総合評価とする（試験40％、授業内の活動60％）。なお、定期試験の得点が30%に満たない場合は、上の総合評価とは無関係に「不可」とする。

9．その他

授業内容は、進度や習熟度等、必要に応じて調整することがある。

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＢⅡ

1単位	1年次	宮川　慎也

1．授業の概要・到達目標

<人間の尊厳を大切にしましょう。多様性を尊重しましょう>。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

春学期の後を受けて、この授業では、様々な時制の出てくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった簡単な文章が読めるようになることを目指します。到達目標は以下のようです。

・日常生活に必要な程度のフランス語を、聞き話し、読み書きできるようになるための文法を身につけます。
・国際的な分野で活躍できる視野を養います。
・資格を増やすため、フランス語検定5級、4級の取得を目指します。

2．授業内容

各回の内容は、文法事項で示すと次のようになります。

第１回　形容詞・副詞の比較級
第２回　形容詞・副詞の最上級
第３回　特殊な優等比較級・最上級、不規則動詞 voir, savoir, dire, recevoirの直説法現在
第４回　関係代名詞
第５回　疑問代名詞
第６回　人称代名詞、直接目的補語と過去分詞の一致
第７回　受動態
第８回　指示代名詞、強調構文
第９回　代名動詞
第10回　非人称構文
第11回　直説法単純未来
第12回　中性代名詞 le, en, y
第13回　直説法半過去
第14回　a　期末試験 / b　正答解説

3．履修上の注意

受講姿勢（問題演習に取り組む姿勢など）も考慮するので、テストの苦手な人はその点で頑張りましょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う課題文を、できるかぎり音読しましょう。
また、動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、繰り返し復習しましょう。

5．教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著（白水社）

6．参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じてOh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

8．成績評価の方法

試験…100％。ただし、平常点（受講態度など）を、20％程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。
なお、仏検の合格は成績に加算するので、合格者は速やかに申し出て下さい。

9．その他

Ⅱの履修にはⅠを履修中または修得済みであることが必要です。
教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー：(IC)LAN131N

フランス語ＢⅡ

1単位	1年次	八木　　淳

1．授業の概要・到達目標

《授業の概要》

フランス語の初級文法の後半を説明します。各文法項目ごとに練習問題を解いてもらった後、答え合わせをするとともに詳しい解説を行います。

《授業の到達目標》

本授業では以下の能力・知識を身につけることを目指します。

（1）フランス語の文章読解や会話に必要な初級文法の習得を目ざします。「フランス語ＢⅡ」では,「形容詞と副詞の比較級と最上級」から「条件法現在」までの文法事項を扱います。
（2）文法規則を覚えるだけでなく、練習問題を解くことにより習熟度を高めて行きます。
（3）平易な文章が理解できるよう、例文や問題文の和訳にも力を入れ、応用力を養います。
（4）教科書の例文や問題文を音読することにより、フランス語の発音がうまくできるようにします。
（5）授業内でフランス語の検定試験（実用フランス語検定試験いわゆる仏検）の４級ないし５級の取得に向け、試験対策を行います。

2．授業内容

フランス語の初級文法の後半を習得しながら、様々な表現を練習します。文法事項の説明をし、練習問題を解きながら知識の定着を図り、日常会話、簡単な読み物の読解に応用できるような能力を養います。また基本的な単語や短文を正確に音読できるよう、発音の練習も行います。

以下の項目に従って文法事項を説明し、様々な表現を含んだ練習問題の演習を通して確認して行きます。

第１回：直説法複合過去を復習します。もう一度作り方を説明した後、練習問題を通して確認します。
第２回：形容詞・副詞の比較級および特殊な優等比較級を説明し、練習問題を通して確認します。
第３回：形容詞・副詞の最上級および特殊な優等最上級を説明し、練習問題を通して確認します。
第４回：関係代名詞（QUI, QUE, DONT, OU）を説明し、練習問題を通して確認します。
第５回：疑問代名詞を説明し、練習問題を通して確認します。
第６回：人称代名詞および直接目的補語と過去分詞の一致を説明し、練習問題を通して確認します。
第７回：受動態を説明し、練習問題を通して確認します。
第８回：代名動詞を説明し、練習問題を通して確認します。
第９回：非人称構文を説明し、練習問題を通して確認します。
第10回：直説法単純未来を説明し、練習問題を通して確認します。
第11回：中性代名詞（le, en, y）を説明し、練習問題を通して確認します。
第12回：直説法半過去を説明し、練習問題を通して確認します。
第13回：複合過去と半過去の違いを説明し、きちんと使い分けられるよう練習問題を通して確認します。
第14回：条件法現在を説明し、練習問題を通して確認します。

3．履修上の注意

語学では独善的にならず、人から間違いを直されたり、色々な表現を教えられたりしながら習得することが大切です。次回授業の範囲を予告しますので、教科書を読み予習してください。また授業をよく聞き、その上で適宜、習得した事項を復習することも必要です。授業への学生の積極的な参加を望みます。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業の終わりにその時間に習った文法事項をまとめます。あわせて解いておくべき練習問題を指定します。課題にはしませんが復習に役立ててください（復習時間一時間程度）。

また，次回の授業で扱う項目を予告します。スムーズに理解できるよう、どのような事項を学習するか目を通しておいてください（予習時間一時間程度）。

5．教科書

『《新版》ル・フランセ』、斉藤昌三著、白水社。

6．参考書

『コレクション、フランス語』シリーズ、田島宏編、白水社。
『もっと知りたいフランス』、斎藤広信他著、駿河台出版社。

7．課題に対するフィードバックの方法

中間試験、期末試験の後、同日の授業内で詳しい問題解説を行います。

8．成績評価の方法

中間試験（１回、40％）、期末試験（40％）、平常点（20％）で評価します。中間試験および期末試験の問題はテキストに基づいて出題し、基礎的知識と理解力を試すものとします。なお,仏検合格者については評価に加点します。また、平常点は、授業内への参加度、貢献度に基づいて評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN231N

フランス語演習Ⅰ

2単位	2年次	パジェス，クリストフ

1．授業の概要・到達目標

この授業は、「読む、書く」だけでなく、「聞く、話す（発音）」を含めた基本的なフランス語のコミュニケーション能力をバランスよく習得するクラスです。フランスの日常生活において想定される様々なテーマを用いながら、基本的な会話文を応用することによって、自分の考えを発信することができる表現力を身につけることを目標としています。

1年生で学んだことを生かしながら、より応用力を深めるクラスです。

2．授業内容

4/16　第1回　レッスン1
きみは日本人？①
4/23　第2回　レッスン1
きみは日本人？②
4/30　第3回　レッスン2
きみはバイトしてるの？①
5/7　第4回　レッスン2
きみはバイトしてるの？②
5/14　第5回　レッスン3
スポーツは好き？①
5/21　第6回　レッスン3
スポーツは好き？②
5/28　第7回　レッスン4
どこでお昼食べるの？①
6/4　第8回　レッスン4
どこでお昼食べるの？②
6/11　第9回　レッスン5
兄弟姉妹はいる？①
6/18　第10回　レッスン5
兄弟姉妹はいる？②
6/25　第11回　レッスン6
あなたのお姉さんは、どんな感じですか？①
7/2　第12回　レッスン6
あなたのお姉さんは、どんな感じですか？②
7/9　第13回　レッスン7
ふだん、夜は何してる？①
7/16　第14回　レッスン7
ふだん、夜は何してる？②

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

授業への積極的参加を最も重視します。授業の予習と復習があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に音声教材を聞いておくこと。ボキャブラリーをなるべく暗記しておくこと。

5．教科書

『ぜんぶ話して！改訂版　Dis-moi tout ! Nouvelle édition』/レナ・ジュンタ／清岡智比古　白水社　2021年
ISBN : 978-4-560-06140-4

6．参考書

無し

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内で一緒に答え合わせをします。

8．成績評価の方法

平常点（授業への積極的な参加＋小テスト）100%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN231N

フランス語演習Ⅱ

2単位	2年次	パジェス，クリストフ

1．授業の概要・到達目標

この授業は、「読む、書く」だけでなく、「聞く、話す（発音）」を含めた基本的なフランス語のコミュニケーション能力をバランスよく習得するクラスです。フランスの日常生活において想定される様々なテーマを用いながら、基本的な会話文を応用することによって、自分の考えを発信することができる表現力を身につけることを目標としています。

1年生で学んだことを生かしながら、より応用力を深めるクラスです。

2．授業内容

9/24　第1回　レッスン8
ふだん、朝は何食べる？①
10/1　第2回　レッスン8
ふだん、朝は何食べる？②
10/8　第3回　レッスン9
週末は、どこに行く？①
10/15　第4回　レッスン9
週末は、どこに行く？②
10/22　第5回　レッスン10
お母さんとよく電話する？①
11/5　第6回　レッスン10
お母さんとよく電話する？②
11/12　第7回　レッスン11
家を何時に出る？①
11/19　第8回　レッスン11
家を何時に出る？②
11/26　第9回　レッスン12
パリでは、7月はどんな天気？①
12/3　第10回　レッスン12
パリでは、7月はどんな天気？②
12/10　第11回　レッスン13
この前の夏、何した？①
12/17　第12回　レッスン13
この前の夏、何した？②
1/14　第13回　レッスン14
今朝、何時に起きた？①
1/21　第14回　レッスン14
今朝、何時に起きた？②

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

授業への積極的参加を最も重視します。授業の予習と復習があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業前に音声教材を聞いておくこと。ボキャブラリーをなるべく暗記しておくこと。

5．教科書

『ぜんぶ話して！改訂版　Dis-moi tout ! Nouvelle édition』/レナ・ジュンタ／清岡智比古　白水社　2021年
ISBN : 978-4-560-06140-4

6．参考書

無し

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内で一緒に答え合わせをします。

8．成績評価の方法

平常点（授業への積極的な参加＋小テスト）100%

9．その他

スペイン語

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＡＩ

1単位	1年次	山本　昭代

1．授業の概要・到達目標
≪授業の概要≫
この講義では、スペイン語の日常レベルの会話とそのために必要な文法の基礎を学びます。挨拶、自己紹介、買い物などの日常生活に必要な現在時制での表現が中心となります。同時にスペイン語が話されるさまざまな国や地域の文化や習慣についても触れ、言語が話される社会の背景についても理解を深めていきます。
≪授業の到達目標及びテーマ≫
観光やホームステイなどで、日常的な意思疎通が可能になるレベルを目指します。
言語は他者を知るための窓口です。語学の学習を通じて未知のスペイン語世界に触れてみてください。スペイン・中南米の音楽・映画・文学・歴史など、多様で多彩なスペイン語世界にきっと魅了されるはずです。

2．授業内容
第１回：イントロダクション（授業イントロダクション、スペイン語の概要解説）
第２回：文字と発音
第３回：Lección 1「ほら、ここにカフェテリアがあります」①
第４回：Lección 1「ほら、ここにカフェテリアがあります」②
第５回：Lección 2「スペイン語を話しますか?」①
第６回：Lección 2「スペイン語を話しますか?」②
第７回：Lección 3「私は日本人です」①
第８回：Lección 3「私は日本人です」②
第９回：Lección 4「電車で大学に行きます」①
第10回：Lección 4「電車で大学に行きます」②
第11回：Lección 5「パエリアを食べたい」①
第12回：Lección 5「パエリアを食べたい」①
第13回：文法補足
第14回：まとめと試験

3．履修上の注意
授業には必ず教科書、辞書、ノートないしはルーズリーフを持参すること。
出席が全講義回数の３分の２に満たないものは、期末試験を受ける資格はないものとします。病気・部活動・就職活動など、やむを得ない事情で欠席した場合は、それを証明できるものを提示してください。
遅刻は0.5回欠席とします。遅刻は原則40分まで。それ以降は欠席とみなします。
電車遅延の場合、遅延証などの提示により１期につき3回までは認めますが、それ以上は遅刻ないし欠席とみなします。遅延の多い路線の人はあらかじめそれを見込んで早めの電車で来るように心がけてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
宿題は基本的に毎回出ます。
授業には必ず予習して臨み、出版社のサイトで録音を聞き、自分で発音練習をするようにしましょう。

5．教科書
『新・エストレリータ　―スペイン語入門コース―　¡Mira, la nueva estrellita!』栗林ゆき絵　ほか著　(朝日出版社)

6．参考書
特になし。
辞書は必ず購入してください。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
平常点（30点）、試験点（70点）の合算により成績判定を行います。
平常点は授業への参加度、小テスト、授業態度（私語、居眠り、その他授業の妨げとなる行為があれば減点）によって算出します。

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＡＩ

1単位	1年次	バリエントス　ロドリ

1．授業の概要・到達目標
スペイン語の基礎と正しい発音を学び、簡単なスペイン語で会話をすることができるようになることを目指します。

2．授業内容
第１回：a. イントロダクション
　　b. アルファベット、発音、アクセントのルール、挨拶
第２回：主語代名詞、名詞
第３回：動詞ser
第４回：動詞estar
第５回：形容詞、serとestarの使い分け
第６回：冠詞、存在を表すhay
第７回：数字（0-900）、目的語につくa
第８回：規則動詞
第９回：時刻の表現、否定文と疑問文、hayとestarの使い分け
第10回：間接目的語・直接目的語の人称代名詞
第11回：不規則動詞１（一人称単数形が不規則な動詞）
第12回：不規則動詞２（tener、venir、ir、decir等）、tenerとirを使った表現
第13回：所有形容詞、天候の表現
第14回：a. 春学期末試験
　　b. 春学期まとめ

3．履修上の注意
課題に取り組み、授業中積極的にスペイン語を話すこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
あらかじめ教科書をよく読んで新しい項目を調べ、不明な点については質問を準備してくること。授業で出された宿題や課題は必ずやってくること。

5．教科書
『イデアル　改訂新版（Ideal ― edición renovada ―）』宇野和美、平井素子（同学社）

6．参考書
授業時に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時に口頭で行う。

8．成績評価の方法
試験（50%）、口頭小テスト・小テスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価します。

9．その他
出席が３分の２に満たない場合は評価対象外とします。授業時の携帯電話等の電子機器・インターネットの使用は禁止します。

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＡⅡ

1単位	1年次	山本　昭代

1．授業の概要・到達目標
≪授業の概要≫
スペイン語ＡⅠに引き続き、日常レベルの会話力の習得を目指します。現在時制に加えて過去時制など、より幅広い表現力を養い、語彙も広げていきます。スペイン語が話されるさまざまな国や地域の文化や習慣などについても触れ、言語が話される社会の背景についても理解を深めていきます。
≪授業の到達目標及びテーマ≫
観光、ホームステイ、友人との会話やチャットなどに必要な作文ができるレベルを目指します。
言語は他者を知るための窓口です。語学の学習を通じて未知のスペイン語世界に触れてみてください。スペイン・中南米の音楽・映画・文学・歴史など、多様で多彩なスペイン語世界にきっと魅了されるはずです。

2．授業内容
第1回：授業イントロダクション、ＡⅠの復習
第2回：Lección6 ラテン音楽が好きです①
第3回：Lección6 ラテン音楽が好きです②
第4回：Lección 7 先月スペインに旅行しました①
第5回：Lección 7 先月スペインに旅行しました②
第6回：Lección8 どこへも行けなかった①
第7回：Lección8 どこへも行けなかった②
第8回：Lección9 ピアノを弾きながら休暇を過ごしていました①
第9回：Lección9 ピアノを弾きながら休暇を過ごしていました②
第10回：Lección10 朝6時に起きます①
第11回：Lección10 朝6時に起きます②
第12回：Lección11 スペインに行ったことはありますか？①
第13回：Lección11 スペインに行ったことはありますか？②
第14回：まとめと試験
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
授業には必ず教科書、辞書、ノートないしはルーズリーフなどを持参すること。
出席が全講義回数の３分の２に満たないものは、期末試験を受ける資格はないものとします。病気・部活動・就職活動など、やむを得ない事情で欠席した場合は、それを証明できるものを提示してください。
遅刻は0.5回欠席とします。遅刻は原則40分まで。それ以降は欠席とみなします。
電車遅延による遅刻は、遅延証などの提示により３回まで認めますが、それ以降は遅刻ないし欠席とカウントします。遅延の多い路線の人はあらかじめ早めの電車で来るように心がけてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
宿題はほぼ毎回出ます。授業には十分に予習して臨み、出版社のサイトで録音を聞き、自分で発音練習をするようにしましょう。

5．教科書
『新・エストレリータ　スペイン語入門 ¡Mira, la nueva estrellita!』朝日出版社、栗林ゆき絵ほか著。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
平常点30点、試験点70点の割合で評価を行う。平常点には、授業への参加度、小テスト、授業態度等が含まれる。

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＡⅡ

1単位	1年次	バリエントス　ロドリ

1．授業の概要・到達目標
基本的な文法事項を理解し、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指します。

2．授業内容
第1回：a: イントロダクション
　　b: 春学期の復習、時を表す表現
第2回：たくさんmuchoと少しpoco、所有形容詞後置形
第3回：不規則動詞（語幹母音変化動詞）
第4回：不定詞と目的語認証代名詞、指示形容詞
第5回：再帰代名詞を伴う動詞
第6回：不定詞と再帰代名詞
第7回：不定詞を使った動詞の表現
第8回：指示詞、再帰代名詞を伴う動詞のその他の用法、その他のse
第9回：gustar型動詞
第10回：比較表現
第11回：〈a+人〉とgustar型動詞
第12回：前置詞＋人称代名詞
第13回：不規則な比較の表現
第14回：a: 秋学期末試験
　　b: 秋学期まとめ

3．履修上の注意
言語を学ぶ際に音読することは大切であるので、積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
あらかじめ教科書をよく読んで新しい項目を調べ、不明な点については質問を準備してくること。授業で出された宿題や課題は必ずやってくること。

5．教科書
『イデアル　改訂新版（Ideal ー edición renovada ー）』宇野和美、平井素子（同学社）

6．参考書
適宜指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業時に口頭で行う。

8．成績評価の方法
試験（50%）、口頭小テスト・小テスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価します。

9．その他
出席が３分の２に満たない場合は評価対象外とします。また、授業時の携帯電話等の電子機器・インターネットの使用は禁止します。

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅠ

1単位	1年次	有田　美保

1．授業の概要・到達目標
スペイン語の基礎を学ぶ。スペイン語は母語話者数・学習者数ともに世界有数の言語であり、大変有用な言語である。本授業は入門者向けであり、スペイン語ＡⅠと連携しつつ、文法の理解・習得と作文に焦点をあてる。動詞の直説法現在の活用とその他の基礎的な文法事項を学び、それらを用いた短い文を作ることができるようになることを目標とする。

2．授業内容
第1週　アルファベート、発音、あいさつ表現
第2週　英語のbe動詞にあたる表現（ser動詞）
第3週　英語のbe動詞にあたる表現（ester動詞）
第4週　英語のbe動詞にあたる表現まとめ
第5週　指示詞・所有形容詞・疑問詞
第6週　規則動詞（-ar動詞）
第7週　規則動詞（-er/ir動詞）
第8週　不規則動詞（dar/ver/ir）
第9週　不規則動詞（hacer）
第10週　不規則動詞（tener）
第11週　不規則動詞（hacer/tener まとめ）
第12週　不規則動詞（querer/venir）
第13週　不規則動詞（conocer/saber/poder）
第14週　a：まとめ、b：試験

3．履修上の注意
講義内容を復習し、都度100％の理解をもって進むことが語学学習には不可欠である。よって、毎回の出席と復習をかねた宿題遂行を特に重んじている。任意的な課題の機会も応用し、この言語を一歩ずつ確実に自分のものにしていこう！
○欠席した場合の次回参加は各人で授業内容（含　宿題）をフォローアップしていることを前提とする。授業回数３分の１以上の欠席者は評価対象外となるが、「特別な理由」（診断書のある疾病、立証書類で客観性の認められる就職活動や学業活動、冠婚葬祭等）による欠席は都度教員に相談のこと。理由を申し述べることのない３連続欠席の場合、便宜上、教員のリストから抹消する。
○「自分はこれまで何回欠席していますか？」、「ＸＸ月ＸＸ日に遅刻したのですが、欠席扱いになっていますか？」等の出欠歴の照会をお断りする。
○教員連絡用アドレスm-arita@obirin.ac.jp(欠席に関する連絡は不要。欠席授業の内容や課題確認も含め返信していない。)
○再試験・単位授与のためのレポート等は認めない。
○板書の撮影、授業の録音等、教員が許可しない電子機器の使用を禁じ、違反を減点する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストのふろくを用いて、毎回の授業範囲の単語を暗記すること。学習したスペイン語文はかならず家で音読すること。

5．教科書
『Paso doble　～　Primer paso』有田美保　（弘学社）　￥2200（価格未定）
（今回教科書改訂を行なっているため、大学生協より正規に購入のこと。前年度版や複写・撮影画像等での授業参加は認めていない。）
※近年、アマゾンやメルカリといったフリマアプリより旧版の中古本を購入した学生が授業進行を混乱させるケースがあるため、前もって厳禁を言い渡しておく。

6．参考書
配布プリントを補助教材として常時携帯のこと

7．課題に対するフィードバックの方法
直接返却及び学内システムを使用

8．成績評価の方法
試験の得点（小テストと期末試験の合計得点を100点換算したもの）から、欠席・遅刻、宿題・欠席のフォローアップ未遂行・態度不良、教科書（本体）を持参しない受講、貧困な内容の提出物などに対し減点（最大30点）、積極的な質問、優秀な提出物などに対し加点（最大10点）したうえで最終評価を出します。60点以下の者には単位を授与しません。

9．その他
楽器をマスターするのと同様に、語学もまたスクーリングだけで身につくものではありません。できるだけ毎日スペイン語に触れると、次回クラスでの感触が全然違います。毎授業たった数個の重要ポイントを確実に身に付けることにより、語学は『誰にでも、必ず』習得できると考えます。語学好きの者は更なる西語学習や別言語へのチャレンジを、苦手意識のある者はそれを打破する機会となることを期待します！

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅠ

1単位	1年次	稲森　広朋

1．授業の概要・到達目標
スペイン語の基本文法と簡単な表現を学ぶ。スペイン語初学者や学び直したい受講生を対象とする。また、ビデオ等の副教材も積極的に活用することで学習した項目の定着を図る。言語習得を目的とした講座であるが、その背景となる文化や社会についても適宜、紹介していく予定。

2．授業内容
第１回：イントロダクション（スペイン語の世界）
第２回：アルファベット、単語の読み方、アクセント
第３回：主格人称代名詞、名詞の性数、冠詞
第４回：動詞serとestar、形容詞
第５回：動詞hay、動詞haberと動詞estarの使い分け、前置詞
第６回：直説法現在（-ar動詞）（-er動詞）（-ir動詞）
第７回：第6回までの復習と小テスト
第８回：疑問文、否定文、否定疑問文
第９回：指示形容詞、指示形容詞、指示代名詞
第10回：中性指示代名詞、動詞saberと動詞conocerの使い分け
第11回：語幹母音変化動詞（1）
第12回：語幹母音変化動詞（2）
第13回：関係詞que
第14回：a：まとめ
　　b：試験

3．履修上の注意
語学学習は反復練習が大切なので、毎回、予習と復習に取り組むことが望ましい。尚、初学者には予習と復習のポイントは授業内に指示する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

5．教科書
『初めてのスペイン語』、内田千重子・尾尻希和・稲森広朋 共著、同学社

6．参考書
参考書は使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーの全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。

8．成績評価の方法
平常点（30%）、試験点（70%）の合算によって成績判定を行う。

9．その他
初回の授業でいくつか辞書を紹介するので、２回目以降の授業には必ず持参すること。

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅠ

1単位	1年次	福原　弘識

1．授業の概要・到達目標
　この授業は、初めてスペイン語を学習する学生を対象とし、直説法現在形の基本文法についての学習をおこなう。また、小テストをおこない語彙力を増やしていく。
　スペイン語の発音から学びはじめ、現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とする。
　スペイン語は、綴りと発音の関係が明確で、比較的発音しやすいので、最初の段階では簡単なように思えるかもしれない。しかし文法面では、動詞の活用、性数一致など、覚えること・難しい点も少なくないので、復習を繰り返し、一歩一歩着実に進んでいけるように取り組んでほしい。

2．授業内容
1　イントロダクション、アルファベットなど
2　第1課：名詞の性数と冠詞など ― 小テスト：挨拶[p.10]
3　第1課：主格人称代名詞、動詞serなど ― 小テスト：数（0-10）[p.9]
4　第2課：所有形容詞前置形、指示形容詞など ― 小テスト：国名国籍[p.9]
5　第2課：形容詞、数1-100など ― 小テスト：主格人称代名詞と動詞serの活用[p.14]
6　第3課：動詞estar、場所の表現など ― 小テスト：数（1-100）[p.18]
7　第3課：動詞tener、第4課：直説法現在規則動詞など ― 小テスト：主格人称代名詞と動詞estarの活用[p.20]
8　第4課：hay、時刻表現など ― 小テスト：動詞tenerの活用[p.22]
9　第5課：動詞ir、主な前置詞、疑問詞(1)など ― 小テスト：直説法現在規則動詞の意味と活用[p.24]
10　第5課：動詞ver, hacer, poner, salir、疑問詞(2)など ― 小テスト：5課の動詞の意味と活用[p.28, 30]
11　第6課：直接目的格代名詞、語幹母音変化動詞など ― 小テスト：曜日と月[p.30]
12　第6課：不定詞表現、目的格人称代名詞の位置など ― 小テスト：疑問詞の表現[p.28, 30]
13　第7課：間接目的格代名詞など ― 小テスト：語幹母音変化動詞の意味と活用[p.32]
14a　期末考査
14b　授業全体の振り返りと試験の正答解説
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
授業には必ずテキストと辞書を持参すること。辞書は必ず購入してもらいます。
間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。
言語はまず第一に音声ですから、声に出すことが何よりも大事です。スペイン語は堂々とした言語ですので、大きい声を出してください。教科書にあるすべての文を音読してくることを求めます。練習問題や課題を自宅でやってくる必要があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。
復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。

5．教科書
『エル　オリソンテ（Español en el horizonte)』エウヘエオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治著　白水社、2500円（税別）

6．参考書
第1回目のイントロダクションで辞書と参考書を紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
学期末テスト70％、小テスト15％、授業への参加度15％として総合的に評価する。

9．その他
語学を学ぶことにはコツコツと地道な積み上げが必要です。覚えることを疎かにせず、積極的に取り組んでほしい。
オフィスアワー：月曜日/水曜日12：30-13：30

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅠ

1単位	1年次	山本　昭代

1．授業の概要・到達目標
　スペイン語の入門者を対象として、基本的な発音・挨拶から、現在時制を用いた日常会話レベルまでの文法を学びます。基本的な語彙を身につけ、また辞書を引きながら文を読み、短い作文や会話ができるようになることを目指します。
　言語は他者を知るための窓口です。語学の学習を通じて未知のスペイン語世界に触れてみてください。スペイン・中南米の音楽・映画・文学・歴史など、多様で多彩なスペイン語世界にきっと魅了されるはずです。

2．授業内容
第１回　イントロダクション、Lección 1音楽学校の新学期の教室で（1）
第２回　Lección 1　音楽学校の新学期の教室で（2）
第３回　Lección 2　ホセのバルで（1）
第４回　Lección 2　ホセのバルで（2）
第５回　Lección 3　再び、ホセのバルで（1）
第６回　Lección 3　再び、ホセのバルで（2）
第７回　Lección 4　クララの部屋で（1）
第８回　Lección 4　クララの部屋で（2）
第９回　Lección 5　学校からの帰り道で（1）
第10回　Lección 5　学校からの帰り道で（2）
第11回　Lección 6　朝、ホセのバルで（1）
第12回　Lección 6　朝、ホセのバルで（2）
第13回　復習
第14回　復習、考査
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
授業には必ずテキスト、辞書、ノートないしはルーズリーフなどを持参すること。授業には積極的に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。
出席が全講義回数の３分の２に満たないものは、期末試験を受ける資格はないものとします。病気・部活動・就職活動など、やむを得ない事情で欠席した場合は、それを証明できるものを提示してください。
遅刻は0.5回欠席とします。遅刻は原則40分まで。それ以降は欠席とみなします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
宿題は毎回出ます。予習・復習は必ず行うこと。テキストの音声は繰り返し聴き、自分で聞き取りや発音練習をするようにしてください。

5．教科書
『響く音!　スペイン語』　木村琢也著　（朝日出版社）

6．参考書
とくになし。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
平常点30点、試験点70点の割合で評価を行います。平常点には、小テスト、授業への参加度、授業態度等が含まれます。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅡ

1単位	1年次	有田　美保

1．授業の概要・到達目標
スペイン語ＢⅠに引き続き、この言語の基礎を学ぶ。スペイン語は国際社会において大きな存在感を持つ言語であり、学ぶ価値のある言語である。本授業は初級者向けであり、スペイン語ＡⅡと連携しつつ、文法の理解･習得と作文に焦点をあてる。復習の後、点過去･線過去・未来・過去未来等の活用とその他の文法事項を学び、それらを用いた文を作ることができるようになることを目標とする。

2．授業内容
第1週　直接目的格代名詞
第2週　間接目的格代名詞
第3週　目的格代名詞仕上げ
第4週　向き違いの動詞（1）
第5週　向き違いの動詞（2）
第6週　向き違いの動詞（3）
第7週　再帰表現（自分自身に及ぶ動作）
第8週　再帰表現（変意・相互）
第9週　再帰表現（受身・無人称）
第10週　再帰表現（まとめ）・比較
第11週　ふたつの過去形（基礎）
第12週　ふたつの過去形（応用）
第13週　未来・過去未来形と完了時制
第14週　a：まとめ、b：試験

3．履修上の注意
講義内容を復習し、都度100％の理解をもって進むことが語学学習には不可欠である。よって、毎回の出席と復習をかねた宿題遂行を特に重んじている。任意的な課題の機会も応用し、この言語を一歩ずつ確実に自分のものにしていこう！
○欠席した場合の次回参加は各人で授業内容（含　宿題）をフォローアップしていることを前提とする。授業回数3分の1以上の欠席者は評価対象外となるが、「特別な理由」（診断書のある疾病、立証書類で客観性の認められる就職活動や学業活動、冠婚葬祭等）による欠席は都度教員に相談のこと。理由を申し述べることのない3連続欠席の場合、便宜上、教員のリストから抹消する。
○「自分はこれまで何回欠席していますか？」、「ＸＸ月ＸＸ日に遅刻したのですが、欠席扱いになっていますか？」等の出欠歴の照会をお断りする。
○教員連絡用アドレスm-arita@obirin.ac.jp（欠席に関する連絡は不要。欠席授業の内容や課題確認も含め返信していない。）
○再試験・単位授与のためのレポート等は認めない。
○板書の撮影、授業の録音等、教員が許可しない電子機器の使用を禁じ、違反を減点する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストのふろくを用いて、毎回の授業範囲の単語を暗記すること。学習したスペイン語文はかならず家で音読すること。

5．教科書
『Paso doble　～　Primer paso』有田美保　（弘学社）　￥2200（価格未定）
（今回教科書改訂を行なっているため、大学生協より正規に購入のこと。前年度版や複写・撮影画像等での授業参加は認めていない。）
※近年、アマゾンやメルカリといったフリマアプリより旧版の中古本を購入した学生が授業進行を混乱させるケースがあるため、前もって厳禁を言い渡しておく。

6．参考書
配布するプリントを補助教材と考えて常に携帯すること。

7．課題に対するフィードバックの方法
直接返却及び学内システムを使用

8．成績評価の方法
試験の得点（小テストと期末試験の合計得点を100点換算したもの）から、欠席・遅刻、宿題・欠席のフォローアップ未遂行・態度不良、教科書（本体）を持参しない受講、貧困な内容の提出物などに対し減点（最大30点）、積極的な質問、優秀な提出物などに対し加点（最大10点）したうえで最終評価を出します。60点以下の者には単位を授与しません。

9．その他
本言語の学習を通し、英文法に対して別の視点から理解を深めることができるようになったり、他のラテン語系に触れたときになんとなく理解できたり…といったような言語学的な直感が磨かれるならこの上ない幸せです。スペイン語が諸君にとって、スペイン・ラテンアメリカという広大な地域に飛び立つ際の目に見えない翼となり、また他者と違った個性を発揮するための強力なツール・発信法となってくれることを願います！ Viva el Espan~ol!
＜Ⅱの履修にはⅠの単位修得が必要である＞

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅡ

1単位	1年次	稲森　広朋

1．授業の概要・到達目標
スペイン語の基礎を学び終えた受講生が、更に発展的な内容を学習する場とする。スペイン語の様々な用法を学習し、一連の内容を盛り込んだ表現の反復練習を行う。ビデオ等の副教材も適宜活用し、学習内容の強化を目指す。

2．授業内容
第1回：イントロダクション（スペイン語の世界）
第2回：目的格人称代名詞
第3回：gustar型動詞
第4回：再帰動詞（1)、時間表現
第5回：再帰動詞（2)、前置詞格人称代名詞
第6回：否定語、不定語
第7回：第6回までの復習と小テスト
第8回：過去分詞の用法、直説法現在完了
第9回：現在分詞の用法、現在進行形
第10回：比較級（1）
第11回：比較級（2）
第12回：直説法点過去（1）
第13回：直説法点過去（2）
第14回：a：まとめ
　　b：試験

3．履修上の注意
スペイン語BIを受講した者、または同等の語学力がある受講生が望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

5．教科書
『初めてのスペイン語』、内田千重子・尾尻希和・稲森広朋 共著、同学社

6．参考書
参考書は使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーの全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。

8．成績評価の方法
平常点（30%）、試験点（70%）の合算によって成績判定を行う。

9．その他
辞書は必ず持参すること。

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅡ

1単位	1年次	**福原　弘識**

1．授業の概要・到達目標
　この授業は、現在形を学んでいることを前提に、現在完了形や過去形など新しい時制を学び、スペイン語の基礎を固めると同時に、表現や理解の幅を広げていく。また、小テストをおこない語彙力を増やしていく。
　スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とする。
　学んだ知識を用いて積極的に表現し、意欲をもって予復習に取り組み、検定受検など自分なりの目標を定め、スペイン語力の向上に努めてほしい。

2．授業内容
1　イントロダクション、第7課：動詞dar, decir, traer、動詞oír, venir, saber, conocerなど
2　第7課：天候表現など、第8課：再帰動詞など － 小テスト：7Aの動詞の意味と活用[p.36]
3　第8課：再帰動詞のその他の用法、義務表現など － 小テスト：7Bの動詞の意味と活用[p.38]
4　第9課：前置詞格人称代名詞、動詞gustarなど － 小テスト：再帰動詞の活用と意味[p.40]
5　第9課：gustar型動詞、所有形容詞後置形など － 小テスト：再帰動詞の活用と意味[p.42]
6　第10課：比較級、最上級など － 小テスト：8課の表現[p.40, 42]
7　第10課：不定語･否定語､感嘆文など － 小テスト:9課の表現[p.44, 46]
8　第11課：直説法点過去規則動詞、数101-9000など － 小テスト：10課の表現[p.48, 50]
9　第11課：直説法点過去不規則活用動詞など － 小テスト：点過去規則動詞の活用と意味[p.52]
10　第12課：直説法線過去など － 小テスト：点過去不規則動詞の活用と意味[p.54]
11　第12課：点過去と線過去、直接話法･間接話法など － 小テスト：線過去動詞の活用と意味[p.56]
12　第13課：過去分詞、直説法現在完了など － 小テスト：数（101-9000）の単語[p.52]
13　第13課：過去分詞のその他の用法、数10000- － 小テスト：過去分詞の活用と意味[p.60]
14a　期末考査
14b　授業全体の振り返りと試験の正答解説
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
授業には必ずテキストと辞書を持参すること。辞書は必ず購入してもらいます。
間違えることを恐れず、積極的に授業に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。
言語はまず第一に音声ですから、声に出すことが何よりも大事です。スペイン語は堂々とした言語ですので、大きい声を出してください。教科書にあるすべての文を音読してくることを求めます。練習問題や課題を自宅でやってくる必要があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：次回の授業範囲についてあらかじめテキストの未修単語の意味を調べてから出席する。
復習：わからないことがあれば次回の授業で質問できるよう、疑問点と不明点を整理する。また、課題は必ず日本語の意味まで調べてくること。さらに、言語習得に音読は欠かせないため、テキストのスペイン語の文を音読すること。

5．教科書
『エル　オリソンテ（Español en el horizonte)』エウヘエオ・デル・プラド、齊藤華子、仲道慎治著　白水社、2500円（税別）

6．参考書
授業内で随時指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
学期末テスト70％、小テスト15％、授業への参加度15％として総合的に評価する。

9．その他
語学を学ぶことにはコツコツと地道な積み上げが必要です。覚えることを疎かにせず、積極的に取り組んでほしい。
オフィスアワー：月曜日/水曜日12：30-13：30

科目ナンバー：(IC)LAN141N

スペイン語ＢⅡ

1単位	1年次	**山本　昭代**

1．授業の概要・到達目標
≪授業の概要≫
スペイン語ＢⅠに引き続き、日常レベルの会話力の習得を目指します。現在時制に加えて過去時制など、より幅広い表現力を養い、語彙も広げていきます。スペイン語が話されるさまざまな国や地域の文化や習慣などについても触れ、言語が話される社会の背景についても理解を深めていきます。
≪授業の到達目標及びテーマ≫
観光、ホームステイ、友人との会話やチャットなどに必要な作文ができるレベルを目指します。
言語は他者を知るための窓口です。語学の学習を通じて未知のスペイン語世界に触れてみてください。スペイン・中南米の音楽・映画・文学・歴史など、多様で多彩なスペイン語世界にきっと魅了されるはずです。

2．授業内容
第１回：授業イントロダクション、ＢⅠの復習
第２回：B1の復習
第３回：Lección 7　好きな作曲家（1）
第４回：Lección 7　好きな作曲家（2）
第５回：Lección 8 食事の時間について（1）
第６回：Lección 8 食事の時間について（2）
第７回：Lección 9 和声学の試験（1）
第８回：Lección 9 和声学の試験（2）
第９回：Lección 10 マヌエルの誕生日（1）
第10回：Lección 10 マヌエルの誕生日（2）
第11回：Lección 11 クララのピアノ歴（1）
第12回：Lección 11クララのピアノ歴（2）
第13回：復習
第14回：復習、考査
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
授業には必ず教科書、辞書、ノートないしはルーズリーフなどを持参すること。
出席が全講義回数の３分の２に満たないものは、期末試験を受ける資格はないものとします。病気・部活動・就職活動など、やむを得ない事情で欠席した場合は、それを証明できるものを提示してください。
遅刻は0.5回欠席とします。遅刻は原則40分まで。それ以降は欠席とみなします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
宿題はほぼ毎回出ます。授業には十分に予習して臨んでください。テキストの音声を繰り返し聞き、自分で発音練習をするようにしましょう。

5．教科書
「響く音!　スペイン語」朝日出版社、木村琢也著。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
平常点30点、試験点70点の割合で評価を行う。平常点には、授業への参加度、小テスト、授業態度等が含まれる。

9．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)LAN241N

スペイン語演習Ⅰ

2単位	2年次	**山本　昭代**

1．授業の概要・到達目標
スペイン語の基本的な文法項目を直説法現在から点過去・線過去までひととおり終えている人を対象としたクラスです。これまで習った文法項目を復習しながら、さらに語彙を増やし、新しい表現を学んでいきます。同時にスペイン語が話される国々の歴史や文化にも関心を深めることを目標とします。
受講者のレベル・希望に応じて講義内容を修正することもあります。

2．授業内容
スペインと中南米各国のユネスコ世界遺産を巡りながら、1年次に学んだ文法を復習し、さらに新しい表現を学んでいきます。スペイン語圏各地の魅力的な古代遺跡や歴史都市などを巡りながら、歴史や文化に思いをはせてみましょう。
第１回　イントロダクション／授業について。
第２回　Lección 1　グラナダ
第３回　Lección 1　グラナダ
第４回　Lección 2　セビージャ
第５回　Lección 2　セビージャ
第６回　Lección 3　ハバナ
第７回　Lección 3　ハバナ
第８回　Lección 4　テオティワカン
第９回　Lección 4　テオティワカン
第10回　Lección 5　ティカル
第11回　Lección 5　ティカル
第12回　Lección 6　マチュピチュ
第13回　Lección 6　マチュピチュ
第14回　まとめ、考査

3．履修上の注意
授業には必ず予習をして臨んでください。また必ず辞書を持参すること。授業には積極的に参加し、わからないことがあれば遠慮なく質問してください。
出席が全講義回数の３分の２に満たないものは、期末試験を受ける資格はないものとします。病気・部活動・就職活動など、やむを得ない事情で欠席した場合は、それを証明できるものを提示してください。
遅刻は0.5回欠席とします。遅刻は原則40分まで。それ以降は欠席とみなします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
指示されたページの訳や練習問題は必ずやって来てください。
また取り上げられているテーマについて、インターネットなどであらかじめ調べておきましょう。

5．教科書
『世界遺産を訪ねて　改訂版』禅野美穂　ほか著　朝日出版社　2021年 ISBN:978-4-255-550-688

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
期末試験60％、平常点40％。平常点には、予習、授業への参加度、授業態度などが含まれます。
成績評価の割合は、状況によって変更の可能性もあります。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN241N

スペイン語演習Ⅱ

2単位	2年次	**山本　昭代**

1．授業の概要・到達目標
春学期にスペイン語演習1を学んだ人のためのクラスです。
同じ教科書の後半を学びます。初級文法のおさらいをしながら、語彙を増やし、さらに新しい文法項目を学びます。
辞書を引きながらさまざまな長文が読めるようになることを目指します。

2．授業内容
第１回　前期の復習
第２回　Lección 7　メキシコ市
第３回　Lección 7　メキシコ市
第４回　Lección 8　クスコ
第５回　Lección 8　クスコ
第６回　Lección 9　ポトシ
第７回　Lección 9　ポトシ
第８回　Lección 10　ラ・サンティシマ・トリニダー
第９回　Lección 10　ラ・サンティシマ・トリニダー
第10回　Lección 11　ガラパゴス諸島
第11回　Lección 11　ガラパゴス諸島
第12回　Lección 12　ラパ・ヌイ国立公園
第13回　Lección 12　ラパ・ヌイ国立公園
第14回　後期のまとめ、試験

3．履修上の注意
授業には必ず予習をして臨んでください。また辞書は毎回必ず持参してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストの指示されたページを自分であらかじめ読み、練習問題を解いておいてください。授業では、わからなかった点を確認する、あいまいだった点を明確にし、さらに掘り下げるために授業はあると認識してください。テキストの背景にある歴史や文化的な事柄に関してもぜひ調べてきてください。

5．教科書
『世界遺産を訪ねて改訂版』　禅野美穂ほか著　朝日出版社　2021年

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
期末試験60％、平常点40％。平常点には、予習、授業への参加度、授業態度などが含まれます。

9．その他

中国語

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＡⅠ

1単位	1年次	大山　潔

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
会話中心の授業です。
一、文法事項
　1．発音：
　　中国語表音ローマ字表記――ピンイン、声調、声母、韻母
　2．文型：
　　"是"の文
　　"有"の文（「所有」と「所在」を表す）
　　動詞述語の文
　　疑問詞疑問文
　　省略疑問文
　　形容詞述語の文
　　数量を聞く文（"几"と"多少"）
　3．人称代名詞、指示代名詞、副詞、量詞、数字、助動詞：想
　4．修飾を導く"的"
　5．日付・時刻の表現
　6．アスペスト助詞　"了"（「完了」を表す）
二、各文法項目を用いた読解・聞き取り・会話・作文
三、中国社会・歴史・文化・風習、音楽、食習慣
【到達目標】
　中国語の発音の構成とその難しさを理解し、正確な発音を身につけることができます。
　同じ漢字ではあっても表現の相違があることを理解し、中国特有の簡体字を学習します。
　名前や年齢、住所、家族などのごく簡単な自己紹介ができ、他人の紹介を聞き取れます。
　パソコンによる中国語の漢字入力できます。
　中国社会、文学、食習慣、スポーツ、音楽、日中交流などを通して、中華文化圏に接します。

2．授業内容
1．概説　中国語とは何か
2．発音（1）
　　1. 声調
　　2. 声調の組み合わせ
3．発音（2）
　　3. 単母音
　　4. 子音
4．発音（3）
　　5. 複合母音
　　6. nとngを伴う母音
5．第1課　你是中国人吗？
　　1. 人称代名詞
　　2. "是"の文
6．第2課　这是什么？
　　1. 指示代名詞（1）
　　2. 疑問詞疑問文
　　3. "的"の用法（1）
　　4. 副詞
7．第1課／2課の復習（応用）
8．第3課　你去哪儿？
　　1. 動詞の文
　　2.「所有」を表す"有"
　　3. 省略疑問の"呢"
　　4. 練習問題
9．第4課　这个包多少钱？
　　1. 量詞
　　2. 指示代名詞（2）
　　3. 形容詞の文
　　4. "几"と"多少"
10. 第3課／4課の復習（応用）
11. 第5課　你晚上有事吗？
　　1. 数字
　　2. 日付・時刻を表す語
　　3.「動詞の時点」を表す表現
12. 第6課　你吃饭了吗？
　　1.「完了」を表す"了"
　　2.「所在」を表す"在"
　　3. 助動詞（1）"想"
13. 第5／6課の復習（応用）

3．履修上の注意
1. 病欠や学校行事のために欠席となった場合、授業前のメール連絡が必要です。
2. 無断欠席は、1回につき、最終成績から、3点減点となります。
3. 正当な理由はなく試験日に試験を受けなかった場合、別の時間に再試験を受けることは可能ですが、最高得点は60点とします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
各課の動画を前もって観る必要があります。授業の後、各課の課題を必ずやって復習することです。

5．教科書
『中国語初めての一歩』白水社、2200円
竹島金吾監修・尹景春／竹島毅著
ISBN9784560069257

6．参考書
三省堂『超級クラウン中日辞典』
小学館『中日辞典』

7．課題に対するフィードバックの方法
提出された課題に訂正を入れます。

8．成績評価の方法
最終成績は100点満点で、60点以上を合格とします。
最終成績は、課題の提出（一課につき3点満点）は30%、試験やテストは70%ですが、しかし、欠席による減点があります。

9．その他
教育用ソフトウェア
1. 中国語翻訳 - Weblio翻訳
　http://translate.weblio.jp/chinese/
2. DeepL（ディープエル）
　DeepL翻訳：世界一高精度な翻訳ツール
　https://www.deepl.com/translator
3. 百度翻译-200种语言互译、沟通全世界！ (baidu.com)
　https://fanyi.baidu.com/
4. 白水社 中国語辞典 - Weblio日中中日辞典
　http://cjjc.weblio.jp/cat/cgkgj
5. 簡体字ピンイン変換
　どんと来い、中国語 (dokochina.com)
　http://dokochina.com/simplified.php

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＡⅠ

1単位	1年次	喬　志航

1．授業の概要・到達目標
　基礎中国語の入門編であり、中国語の基礎づくりを目的に、まずは正しい発音を身につけてもらうことが重要である。それから基礎語彙を中心に簡単な会話を習得してから、さらに文法要項を反映させる基本文型へと進めていく。
　語学の学習とともに中国の歴史や現代中国事情についても紹介したりしていく予定である。

　現代中国語の発音の特徴や基礎文型などを習得することを目標とする。
　基本的なものを聞いて理解し、話せるように、「聞く」・「話す」・「読む」という基礎的要項に到達できるよう期待する。

2．授業内容
第1回ａ：イントロダクション
　　ｂ：発音の基本知識（声調と単母音）
第2回：発音の基本知識（複母音）
第3回：発音の基本知識（子音）
第4回：発音の基本知識（鼻音を伴う母音）
第5回：第1課
第6回：第2課
第7回：第3課
第8回：中間試験
第9回：第4課
第10回：第5課
第11回：第6課
第12回：第7課
第13回：第8課
第14回ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説

3．履修上の注意
積極的にとりくむことを求める。
語学習得には、特に出席率が重要である。
また授業中、ノートを取ることも試験準備に不可欠である。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
事前学習：テキスト本文を読了する。
事後学習：テキスト単語・文法を振り返る。

5．教科書
『シンプルチャイニーズ北京』（文法編）、早稲田大学理工学術院中国語部会著、朝日出版社。

6．参考書
授業中に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
課題を課する予定は特にないが、授業の進行により、必要が生じた場合、授業中に説明する。

8．成績評価の方法
平常点（授業への貢献度、中間試験など）、期末試験に基づいて評価する。平常点40%、期末試験60%。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＡⅠ

1単位	1年次	鈴木　仁麗

1．授業の概要・到達目標

中国語の正しい発音を繰り返し練習して身につけ、基礎的な文法を学びながら、簡単な中国語の文章を読めるようにすることを目指します。

2．授業内容

1　発音（1）
2　発音（2）
3　発音（3）
4　発音（4）
5　5課（人称代名詞　動詞述語文）
6　5課復習　6課（名詞述語文）
7　6課復習　7課（代名詞、存在）
8　7課復習
9　8課（経験、連動文）
10　8課復習　9課（形容詞述語文、年齢）
11　9課復習　10課（選択疑問文、動詞重ね型）
12　10課復習　11課（完了、時刻と時間、時量補語）
13　11課復習
14　a：考査、b：正答解説

3．履修上の注意

授業のはじめに前回の確認テストを行い、それを平常点として加算していくことにします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の確認テストに備えて、復習をしっかり行うことを望みます。
復習のために宿題をだすこともあります。

5．教科書

楊凱栄・張麗群『身につく中国語「改定新版」』白帝社，2021年，２３００円

6．参考書

特になし

7．課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業及びクラスウェブ等を活用して実施する

8．成績評価の方法

授業内での確認小テスト（出席点を含む）　２０％
定期考査　８０％

9．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＡⅡ

1単位	1年次	大山　　潔

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
会話中心の授業です。
1. 前置詞"在"、"离"、"从"、"跟"、"给"
助動詞：'得"、"得"、"能"、"会"
反復疑問文、選択疑問文、「存在」を表す"有"の文
「過去の経験」を表す「过」
「動作の進行」を表す"在～呢"
「時間量」を表す語
様態補語
方向補語
動詞の重ね型
倒置表現
比較の表現
2. 各文法項目を用いた読解・聞き取り・会話・作文
3. 中国社会・歴史・文化・国際関係、中国人の生活習慣
【到達目標】
自分や他人を簡単に紹介する。その内容を聞き取り、書きとることができる。
400語程度の語彙数がある。
中国社会・生活・文化について理解を深め、自国との比較を通して、異文化に対する開かれた心を得る。

2．授業内容

1．イントロダクション
2．第7課　你家有几口人？
1. 介詞（1）"在"、"离"
2.「存在」を表す"有"
3. 反復疑問文
3．第7課の復習（応用）
4．第8課　你从几点开始打工？
1.「時間量」を表す語
2. 助動詞（2）"得"
3. 介詞（2）"从"
5．第8課の復習（応用）
6．第9課　你去过美国吗？
1.「過去の経験」を表す「过」
2. 助動詞（2）"得"
3. 介詞（2）"跟"、"给"
7．第9課の復習（応用）
8．第10課　你会唱歌吗？
1. 助動詞（3）"能"、"会"
2.「動作の様態」をいう表現
3. 動詞の重ね型
9．第10課の復習（応用）
10．第11課　你在干什么呢？
1.「動作の進行」を表す"在～呢"
2.「～しに来る、～しに行く」の表し方
3. 選択疑問の"還是"
4. 目的語を文頭に出す表現
11．第11課の復習（応用）
12．第12課　祝你旅途愉快！
1.「比較」の表現
2. "的"の用法（2）
3. 2つの目的語をとる動詞
4. 目的語が主述句のとき
13．第12課の復習（応用）
14．試験

3．履修上の注意

1. 病欠や学校行事のために欠席となった場合、授業前のメール連絡が必要です。
2. 無断欠席は、1回につき、最終成績から、3点減点となります。
3. 正当な理由はなく試験日に試験を受けなかった場合、別の時間に再試験を受けることは可能ですが、最高得点は60点とします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

各課の動画を前もって観る必要があります。
授業の後、各課の課題を必ずやって復習することです。

5．教科書

『中国語初めての一歩』白水社、2200円
竹島金吾監修・尹景春／竹島毅著
ISBN9784560069257

6．参考書

三省堂『超級クラウン中日辞典』
小学館『中日辞典』

7．課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に訂正を入れます。

8．成績評価の方法

この授業の評価は、
課題の提出が30%、
テスト、発表、プレゼンなど70%。
欠席による減点がありますのでご注意してください。
最終成績は上記の点数の合計100点満点で、60点以上を合格とします。

9．その他

教育用ソフトウェア
1. 中国語翻訳 - Weblio翻訳
http://translate.weblio.jp/chinese/
2. DeepL（ディープエル）
DeepL翻訳：世界一高精度な翻訳ツール
https://www.deepl.com/translator
3. 百度翻译-200种语言互译、沟通全世界！ (baidu.com)
https://fanyi.baidu.com/
4. 白水社 中国語辞典 - Weblio日中中日辞典
http://cjjc.weblio.jp/cat/cgkgj
5. 簡体字ピンイン変換
どんと来い、中国語 (dokochina.com)
http://dokochina.com/simplified.php

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＡⅡ

1単位	1年次	喬　志航

1．授業の概要・到達目標

基礎中国語の入門編であり、中国語の基礎づくりを目的に、まずは正しい発音を身につけてもらうことが重要である。それから基礎語彙を中心に簡単な会話を習得してから、さらに文法要項を反映させる基本文型へと進めていく。

語学の学習とともに中国の歴史や現代中国事情についても紹介したりしていく予定である。

現代中国語の発音の特徴や基礎文型などを習得することを目標とする。

基本的なものを聞いて理解し、話せるように、「聞く」・「話す」・「読む」という基礎的要項に到達できるよう期待する。

2．授業内容

第１回：春学期授業内容の復習
第２回：第９課
第３回：第10課
第４回：第11課
第５回：第12課
第６回：第9－12課　ヒアリング、会話の練習
第７回：中間試験
第８回：第13課
第９回：第14課
第10回：第15課
第11回：第16課
第12回：第13-16課　ヒアリング、会話の練習
第13回：総復習
第14回ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説

3．履修上の注意

積極的にとりくむことを求める。
語学習得には、特に出席率が重要である。
また授業中、ノートを取ることも試験準備に不可欠である。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

事前学習：テキスト本文を読了する。
事後学習：テキスト単語・文法を振り返る。

5．教科書

『シンプルチャイニーズ北京』（文法篇）、早稲田大学理工学術院中国語部会著、朝日出版社。

6．参考書

授業中に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題を課する予定は特にないが、授業の進行により、必要が生じた場合、授業中に説明する。

8．成績評価の方法

平常点（授業への貢献度、中間試験など）、期末試験に基づいて評価する。平常点50%、期末試験50%。

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＡⅡ

1単位	1年次	鈴木　仁麗

1．授業の概要・到達目標

中国語の発音を繰り返し練習し、基礎的な文法を引き続き学習しながら、簡単な中国語を書くことができ、文章を読んで意味が理解できるようにすることを目指します。

2．授業内容

1　12課（疑問詞疑問文，使役文）
2　12課復習
3　13課（助動詞，量詞）
4　13課復習
5　14課（進行形，結果補語，金銭）
6　14課復習
7　15課（方位詞，程度補語，様態補語）
8　15課復習
9　16課（二重目的語ほか）
10　16課復習
11　17課（方向補語ほか）
12　17課復習
13　18課（経験，疑問詞不定用法）
14　ａ：考査、ｂ：正答解説

3．履修上の注意

授業のはじめに前回学んだことについての簡単な確認テストを行い、それを平常点として加算していくことにします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

確認テストの準備のために毎回きちんと復習することを望みます。
復習のために宿題をだすこともあります。

5．教科書

楊凱栄・張麗群『身につく中国語「改定新版」』白帝社，2021年，２３００円

6．参考書

特になし

7．課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業及びクラスウェブ等を活用して実施する

8．成績評価の方法

授業内での確認小テスト（出席点を含む）　２０％
定期考査　８０％

9．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＢⅠ

1単位	1年次	斉　　金英

1．授業の概要・到達目標
中国語の発音（ピンインや声調）をしっかりと身につけた上で、基礎的な文法や初歩的な聴く、書く、話す総合的な応用能力を習得することを目標とする。

2．授業内容
第１回　第1課　声調・単母音・複母音
第２回　第2課　子音
第３回　第3課　鼻母音・軽声
第４回　第4課　声調変化・挨拶言葉
第５回　復習・小テスト
第６回　第5課　“吗”疑問文
第７回　第6課　動詞述語文
第８回　第7課　指示代詞
第９回　第8課　疑問詞疑問文
第10回　復習・小テスト
第11回　第9課　形容詞述語文
第12回　第10課　所有を表す“有”・量詞
第13回　第11課　文末の“了”・時点時刻
第14回　a: まとめ　b: 期末試験

3．履修上の注意
・語学の学習には日頃のこつこつとした努力が必要である。毎回の授業内容を復習する習慣を身につけてください。
・授業で会話練習を通して応用能力を鍛える。また、定期的に小テストを行う。
・授業に1回欠席で1点減点される。
・疑問があったらいつでも気軽に質問してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の授業内容を復習する習慣を身につけて欲しい。復習方法として、音声を聞きながらリピートし、聞き取れた内容を書き取ることをお勧めする。

5．教科書
『改訂版　大学生のための初級中国語24回』、杉野元子・黄漢青著、(白帝社)。

6．参考書
『講談社パックス中日・日中辞典』、相原茂編、(講談社)。電子辞書でもよい。

7．課題に対するフィードバックの方法
小テストの解説を授業中に行う。

8．成績評価の方法
期末試験50%、平常点（授業中に行う小テスト）40%、授業への参加度10%で評価する。授業に1回欠席で1点減点される。

9．その他
授業進度は状況により適宜に調整することがある。

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＢⅠ

1単位	1年次	三澤　三知夫

1．授業の概要・到達目標
　この授業では中国語の基礎（発音・聞く・話す・読む）を習得することを目的とします。具体的な到達目標は、自己紹介・日常会話ができ、中国人に自分の意思が伝えられるようになることです。

2．授業内容
1　動詞述語文
2　否定の副詞
3　疑問文
4　是の構文
5　形容詞述語文
6　量詞
7　主述述語文・疑問詞疑問文
8　結果補語
9　動態助詞
10　前置詞
11　連動文
12　比較文
13　助動詞
14　ａ講義　ｂ期末試験

3．履修上の注意
漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味が分かることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
1　習った発音を自宅で繰り返す。
2　単語をおぼえる。
3　中国語作文

5．教科書
加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』（東方書店）

6．参考書
辞書及び参考書は授業中に紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
定期試験80%、小テスト10%、平常点10%。
平常点は授業への取り組み等による。

9．その他
連絡先は以下のとおりです。
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＢⅡ

1単位	1年次	斉　　金英

1．授業の概要・到達目標
中国語の発音（ピンインや声調）をしっかりと身につけた上で、基礎的な文法や初歩的な聴く、書く、話す総合的な応用能力を習得することを目標とする。

2．授業内容
第1回　第12課　連動文
第2回　第13課　方位詞・存在を表す“有”“在”
第3回　第14課　動詞の後ろの“了”・前置詞“给”
第4回　第15課　経験の“过”・前置詞“跟”
第5回　第16課　前置詞“从”・“到”
第6回　第17課　助動詞“会”・“能”
第7回　復習・小テスト
第8回　第18課　比較文・“多”+形容詞
第9回　第19課　“是～的”構文・100以上の数字
第10回　第20課　状態補語・“有点儿”
第11回　第21課　方向補語・進行の“在”
第12回　第22課　結果補語・処置文・助動詞“可以”
第13回　復習・小テスト
第14回　a: まとめ　b: 試験

3．履修上の注意
・語学の学習には日頃のこつこつとした努力が必要である。毎回の授業内容を復習する習慣を身につけてください。
・授業で会話練習を通して応用能力を鍛える。定期的に小テストを行う。
・授業に1回欠席で1点減点される。
・疑問があったらいつでも気軽に質問してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の授業内容を復習する必要がある。復習方法として、音声を聞きながらリピートし、聞き取れた内容を書き取ることをお勧めする。

5．教科書
『改訂版　大学生のための初級中国語24回』、杉野元子・黄漢青著、(白帝社)。

6．参考書
『講談社パックス中日・日中辞典』、相原茂編、(講談社)。電子辞書でもよい。

7．課題に対するフィードバックの方法
小テストの解説を授業中に行う。

8．成績評価の方法
期末試験50%、平常点（授業中に行う小テスト）40%、授業への参加度10%で評価する。授業に1回欠席で1点減点される。

9．その他
授業進度は状況により適宜に調整することがある。

科目ナンバー：(IC)LAN161N

中国語ＢⅡ

1単位	1年次	三澤　三知夫

1．授業の概要・到達目標
現代中国語の標準語（普通話）で、簡単なあいさつ文や会話ができるようになることを目的とします。そのために中国語の発音記号（ピンイン）を見て、正確に発音できるようになること、また簡体字に習熟することが必要となります。

2．授業内容
1　状態補語
2　地の使い方
3　可能補語
4　数量補語
5　時間・場所・方法の強調
6　処置文
7　使役文
8　兼語文
9　動作の進行
10　受動文
11　疑問詞の呼応文
12　就と才
13　又と再
14　a講義　b期末試験

3．履修上の注意
漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味が分かることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
1　習った発音を自宅で繰り返す。
2　単語をおぼえる。
3　中国語作文

5．教科書
加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語』（東方書店）

6．参考書
辞書も含めて教場で紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

8．成績評価の方法
定期試験80%
小テスト10%
平常点10%
平常点は授業への取り組み等による。

9．その他
連絡先は以下のとおりです。
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN261N

中国語演習Ⅰ

2単位	2年次	大山　潔

1．授業の概要・到達目標
文法と会話を総合的に学習する中級中国語の授業です。
【履修資格】
2年次以上ですが、「初級以上の語学力」を有することが望ましい。「初級以上」とは「平易な中国語を聞き、話すことができる」というレベルですが、目安としては、中国語Ⅰ・Ⅱを履修したこと、あるいは中国語検定4級、あるいはHSK検定1級程度以上と考えていただければ結構です。
【授業の概要】
（1）文法
1. 文型
主述述語文、連動文、存現文、“是～的”の強調説明文
複文（関連詞 “因为”、“就”、“要是” を用いる文型）
2. 助動詞：“可以”、“要”、“会”
3. 補語
様態補語、結果補語
4. “了”の三つの用法（完了、変化、強調）。
5. 副詞“有点儿”、疑問詞“怎么”の用法
（2）「聞く」「話す」「書く」の力を全面的に養う練習を行いながら、簡単な講読物を取り入れ、読解能力を一段と高める。
（3）音声教材・映像資料なども積極的に活用しながら、中国語の歴史と現状、中国社会・生活について学ぶ。
【到達目標】
日常生活や身近な話題に関する作文ができる。
買い物、旅行先での単語を使ったやり取りなど、日常生活や身近な話題に関する会話ができる
会話・作文に必要な情報にアクセスすることができる
300語程度の語彙数がある。

2．授業内容
1．イントロダクション
2．第1課　中国に行こう！（1）…P10 ～ 11
1. 助動詞“可以”“要”。
2. 主述述語文。
3. 目的語が主述句のとき。
3．第2課　ジャスミン茶を飲もう！（1）…P14 ～ 15
1. “的”の用法。
2. 原因と理由を表す“因为”
3. 文末の助詞“吧”“呢”
4．第1課／2課の復習（応用）
5．第3課　友だちをつくろう！（1）…P16 ～ 17
1. 連動文
2. “是～的”の文
3. 疑問詞“怎么”
6．第3課の復習（応用）
7．第4課　長城に登ろう！（1）…P22 ～ 23
1. “了”の三つの用法。
2. 副詞“就”。
8．第5課　卓球を楽しもう！（1）…P26 ～ 27
1. 様態補語。
2.「可能性の予測」を表す“会”。
3.「仮定」を表す“要是”
9．第5課の復習（応用）
10. 第6課　漢字を覚えよう！（1）…P30 ～ 31
1. 結果補語（1）
2. 副詞“有点儿”
11. 第6課の復習（応用）
12. 第7課　街を歩こう！（1）…P34 ～ 35
1. 存現文。
2. 主語がフレーズのとき。
3. “ ～了～了”の用法。
13. 第7課の復習（応用）
14. 期末試験

3．履修上の注意
1. 病欠や学校行事のために欠席となった場合、授業前のメール連絡が必要です。
2. 無断欠席は、1回につき、最終成績から、3点減点となります。
3. 正当な理由はなく試験日に試験を受けなかった場合、別の時間に再試験を受けることは可能ですが、最高得点は60点とします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
各課の動画を前もって視聴する必要があります。授業の後、各課の課題を必ずやって復習すること。

5．教科書
尹景春／竹島　毅『中国語つぎへの一歩』
白水社、2010年3月10日、2200円
ISBN9784560069233

6．参考書
三省堂『超級クラウン中日辞典』
小学館『中日辞典』

7．課題に対するフィードバックの方法
提出された課題に訂正を入れます。

8．成績評価の方法
この授業の評価は、
課題の提出が30%、
テスト、発表、プレゼンなど70%。
欠席による減点がありますのでご注意してください。
最終成績は上記の点数の合計100点満点で、60点以上を合格とします。

9．その他
教育用ソフトウェア
1. 中国語翻訳 - Weblio翻訳
http://translate.weblio.jp/chinese/
2. DeepL（ディープエル）
DeepL翻訳：世界一高精度な翻訳ツール
https://www.deepl.com/translator
3. 百度翻译-200种语言互译、沟通全世界！ (baidu.com)
https://fanyi.baidu.com/
4. 白水社 中国語辞典 - Weblio日中中日辞典
http://cjjc.weblio.jp/cat/cgkgj
5. 簡体字ピンイン変換
どんと来い、中国語 (dokochina.com)
http://dokochina.com/simplified.php

科目ナンバー：(IC)LAN261N

中国語演習Ⅱ

2単位	2年次	大山　潔

1．授業の概要・到達目標
文法と会話を総合的に学習する中級中国語の授業です。
【履修資格】
2年次以上ですが、「初級以上の語学力」を有することが望ましい。「初級以上」とは「平易な中国語を聞き、話すことができる」というレベルですが、目安としては、中国語Ⅰ・Ⅱを履修したこと、あるいは中国語検定4級、あるいはHSK検定1級程度以上と考えていただければ結構です。
【授業概要】
1. 文法事項
◆ 文型
使役、受け身、“把”の構文
◆ 補語
方向補語、可能補語、結果補語
◆ アスペスト：“着”（状態の持続を表す）
◆ 強調表現、疑問詞の不定用法、未来への変化
2. 音声教材・映像資料なども積極的に活用しながら、中国語の歴史と現状、中国社会・生活について学ぶ。
3. 中国語でプレゼンテーションをします。
【到達目標】
買い物、旅行先での単語を使ったやり取りなど、日常生活や身近な話題に関する会話ができる。
プレゼンを通して、インターネットにある様々な手段を知り、使い、調べ、創り、情報を発信し、受け取るスキルを勉強し実践し、クラスメート間のコミュニケーションを深める。
570語程度の語彙数がある。

2．授業内容
1. イントロダクション
★プレゼンテーション①　PCによる作文の説明
2. 第8課　中国映画を見よう！（1）…P38 ～ 39
1. 状態の持続を表す“着”。
2. 副詞“再”。
3. 疑問詞の不定用法
3. 第8課の復習（応用）
4. 第9課　チャイナドレスを買おう！（1）…P42 ～ 43
1. 方向補語。
2. 使役を表す“让”。
5. 第9課の復習（応用）
6. 第10課　中華を食べよう！（1）…P46 ～ 49
1. 可能補語。
2. 強調表現。
7. 第10課の復習（応用）
★プレゼンテーション②　作文第1稿の提出
8. 第11課　西遊記を読もう！（1）…P50 ～ 51
1. 結果補語。
2.「受け身」を表す“被”。
9. 第11課の復習（応用）
10. ★プレゼンテーション③　作文の音読練習
11. 第12課　春節を祝おう！（1）…P54 ～ 55
1. “快～了”の用法。
2. “把”の構文。
12. 第12課の復習（応用）
13. 期末試験
14. ★プレゼンテーション④　発表

3．履修上の注意
1. 病欠や学校行事のために欠席となった場合、授業前のメール連絡が必要です。
2. 無断欠席は、1回につき、最終成績から、3点減点となります。
3. 正当な理由はなく試験日に試験を受けなかった場合、別の時間に再試験を受けることは可能ですが、最高得点は60点とします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
各課の動画を前もって視聴する必要があります。授業の後、各課の課題を必ずやって復習すること。

5．教科書
尹景春／竹島　毅『中国語つぎへの一歩』
白水社、2010年3月10日、2200円
ISBN9784560069233

6．参考書
三省堂『超級クラウン中日辞典』
小学館『中日辞典』

7．課題に対するフィードバックの方法
提出された課題に訂正を入れます。

8．成績評価の方法
この授業の評価は、
課題の提出が30%、
テスト、発表、プレゼンなど70%。
欠席による減点がありますのでご注意してください。
最終成績は上記の点数の合計100点満点で、60点以上を合格とします。

9．その他
教育用ソフトウェア
1. 中国語翻訳 - Weblio翻訳
http://translate.weblio.jp/chinese/
2. DeepL（ディープエル）
DeepL翻訳：世界一高精度な翻訳ツール
https://www.deepl.com/translator
3. 百度翻译-200种语言互译、沟通全世界！ (baidu.com)
https://fanyi.baidu.com/
4. 白水社 中国語辞典 - Weblio日中中日辞典
http://cjjc.weblio.jp/cat/cgkgj
5. 簡体字ピンイン変換
どんと来い、中国語 (dokochina.com)
http://dokochina.com/simplified.php

韓国語

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＡＩ

1単位	1年次	金　　鉉洙

1．授業の概要・到達目標

春学期はハングル文字や発音から基礎的な文法事項を学んでいきます。授業においては文法事項の修得に重点を置きながら、会話能力の向上を目指します。日常生活における簡単な会話ができること、ハングル検定５級レベルへの到達を目標にします。（この授業は韓国語ＢＩとリレー形式で行われます。）

2．授業内容

第１回：ａ：イントロダクション（韓国語と文字の歴史）
　　ｂ：母音字
第２回：子音字
第３回：パッチム
第４回：文字と発音の復習
第５回：第10課　私は学生です。
第６回：第11課　これは何ですか。
第７回：第12課　銀行はどこにありますか。
第８回：韓国文化紹介
第９回：第13課　学校で何をしますか。
第10回：第14課　天気はどうですか。
第11回：第15課　週末に何をしますか。
第12回：第16課　どこに住んでいらっしゃいますか。
第13回：第17課　趣味は何ですか。
第14回：ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説
※講義内容は進度状況などにより変更することがあります。

3．履修上の注意

・授業には必ず出席すること。なお、原則として1/3以上欠席した学生の単位は認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・小テストを適宜実施するので、その準備を兼ねて習った文法や語彙などをしっかり覚えるようにしてください。

5．教科書

李昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語初級　講義ノート　第２版』白帝社、2024.

6．参考書

随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行われる小テスト等については、授業中に解説する。

8．成績評価の方法

学期末テストの成績70%、平常点（授業態度・小テスト・宿題）30%

9．その他

※担当教員の連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＡＩ

1単位	1年次	李　　興淑

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、ハングルの書き方、発音、文法の基礎的な知識を習得します。初級の文法と文型に徹底的に取り組み、会話の実践演習も行います。
【到達目標】
韓国語の基礎知識をマスターし、「話す」「聞く」能力を養い、簡単な挨拶や基礎的な会話ができるようになることです。同時に、韓国語の学習を通じて、韓国文化への理解を深めます。ハングル能力検定試験5級レベルの実力を身につけることを目指します。

2．授業内容

第１回　イントロダクション
　　a：韓国語について　b：韓国語の学習全般について
第２回　基本母音
第３回　子音（１）
第４回　子音（２）
第５回　複合母音
第６回　パッチム
第７回　発音の変化
第８回　１課　主格助詞
第９回　２課　否定形（１）
第10回　３課　指示代名詞と方向位置を表す助詞
第11回　４課　文末のハムニダ体
第12回　５課　文末のヘヨ体
第13回　視聴覚教材（映画）を活用し、韓国語を学ぶ。
第14回　a：まとめ　b：期末試験

3．履修上の注意

この授業は韓国語ＢＩ（金1限・李興淑）と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、解決してから次に進むように心掛けましょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

5．教科書

『即！実践　楽しもう韓国語』（北原スマ子監修・金孝珍著、白帝社、2017年）　ISBN：978-4-86398-277-2

6．参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ（学習履歴）」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

8．成績評価の方法

期末試験60%、平常点（小テスト・課題・授業への参加度など）40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＡⅡ

1単位	1年次	金　　鉉洙

1．授業の概要・到達目標

春学期授業で学んだ学習内容をベースに不規則活用用言や連体形などの表現を身につけることで、韓国語の表現力の幅をより豊かにしていきます。授業においては文法事項の修得に重点を置きながら、会話能力の向上を目指します。日常生活における簡単な会話ができること、ハングル検定5級レベルへの到達を目標にします。（この授業は韓国語ＢⅡとリレー形式で行われます。）

2．授業内容

第１回：春学期授業の総復習①
第２回：春学期授業の総復習②
第３回：第18課　誕生日はいつですか。
第４回：第19課　１個でいくらですか。
第５回：第20課　授業は何時からですか。
第６回：第21課　写真を撮りました。
第７回：韓国文化紹介
第８回：第22課　どこに行かれますか。
第９回：第23課　どこで会いましょうか。
第10回：第24課　何がしたいですか。
第11回：初級文法の総復習①
第12回：初級文法の総復習②
第13回：初級・中級レベルの助詞のまとめ
第14回：ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説
※講義内容は進度状況などにより変更することがあります。

3．履修上の注意

・授業には必ず出席すること。なお、原則として1/3以上欠席した学生の単位は認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・小テストを適宜実施するので、その準備を兼ねて習った文法や語彙などをしっかり覚えるようにしてください。

5．教科書

李昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語初級　講義ノート　第２版』白帝社、2024.

6．参考書

随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行われる小テスト等については、授業中に解説する。

8．成績評価の方法

学期末テストの成績70%、平常点（授業態度・小テスト・宿題）30%

9．その他

※担当教員の連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＡⅡ

1単位	1年次	李　　興淑

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
「韓国語ＡⅠ」に引き続き、初級程度の文法、文型、会話文などを学習します。
【到達目標】
初級レベルでの会話や作文ができるようになることを目標にします。また、ハングル能力検定試験5級レベルの実力を身につけることを目指します。

2．授業内容

第１回　７課　漢数詞と会話文の語尾（１）
第２回　７課　漢数詞と会話文の語尾（２）
第３回　８課　固有数詞と丁寧表現
第４回　９課　過去形
第５回　10課　尊敬形（１）
第６回　11課　希望、試みの表現
第７回　12課　理由、意志、推量の表現
第８回　13課　尊敬形（２）
第９回　14課　仮定、理由の表現
第10回　15課　許可、禁止の表現
第11回　16課　意図、丁寧な依頼表現
第12回　視聴覚教材（映画）を活用し、韓国語を学ぶ。
第13回　17課　ㅇ不規則
第14回　ａ：まとめ　ｂ：期末試験

3．履修上の注意

この授業は韓国語ＢⅡ（金1限・李興淑）と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、解決してから次に進むように心掛けましょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

5．教科書

『即！実践　楽しもう韓国語』（北原スマ子監修・金孝珍著、白帝社、2017年）　ISBN：978-4-86398-277-2

6．参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ（学習履歴）」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

8．成績評価の方法

期末試験60%、平常点（小テスト・課題・授業への参加度など）40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＢⅠ

1単位	1年次	金　　鉉洙

1．授業の概要・到達目標

春学期はハングル文字や発音から基礎的な文法事項を学んでいきます。授業においては文法事項の修得に重点を置きながら、会話能力の向上を目指します。日常生活における簡単な会話ができること、ハングル検定５級レベルへの到達を目標にします。（この授業は韓国語ＡⅠとリレー形式で行われます。）

2．授業内容

第１回：ａ：イントロダクション（韓国語と文字の歴史）
　　ｂ：母音字
第２回：子音字
第３回：パッチム
第４回：文字と発音の復習
第５回：第10課　私は学生です。
第６回：第11課　これは何ですか。
第７回：第12課　銀行はどこにありますか。
第８回：韓国文化紹介
第９回：第13課　学校で何をしますか。
第10回：第14課　天気はどうですか。
第11回：第15課　週末に何をしますか。
第12回：第16課　どこに住んでいらっしゃいますか。
第13回：第17課　趣味は何ですか。
第14回：ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説
※講義内容は進度状況などにより変更することがあります。

3．履修上の注意

・授業には必ず出席すること。なお、原則として1/3以上欠席した学生の単位は認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・小テストを適宜実施するので、その準備を兼ねて習った文法や語彙などをしっかり覚えるようにしてください。

5．教科書

李昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語初級　講義ノート　第２版』白帝社、2024.

6．参考書

随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行われる小テスト等については、授業中に解説する。

8．成績評価の方法

学期末テストの成績70%、平常点（授業態度・小テスト・宿題）30%

9．その他

※担当教員の連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＢⅠ

1単位	1年次	李　　興淑

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
初めて韓国語を学ぶ学生を対象に、ハングルの書き方、発音、文法の基礎的な知識を習得します。初級の文法と文型に徹底的に取り組み、会話の実践演習も行います。
【到達目標】
韓国語の基礎知識をマスターし、「話す」「聞く」能力を養い、簡単な挨拶や基礎的な会話ができるようになることです。同時に、韓国語の学習を通じて、韓国文化への理解を深めます。ハングル能力検定試験5級レベルの実力を身につけることを目指します。

2．授業内容

第１回：イントロダクション（韓国語の学習にあたって）
第２回：子音（読み書き）
第３回：母音（読み書き）
第４回：子音と母音のまとめ
第５回：バッチム（読み書き）
第６回：発音１（発音練習）
第７回：1課　私はイ・ドンミンです。
第８回：2課　専攻は何ですか。
第９回：3課　図書館の横にあります。
第10回：4課　土曜日はアルバイトをします。
第11回：5課　韓国映画が好きですか。
第12回：6課　あまり遠くありません。
第13回：視聴覚教材（映画)を活用し、韓国語を学ぶ。
第14回：a：まとめ　b：期末試験

3．履修上の注意

この授業は韓国語ＡⅠ（火１限・李興淑）と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、解決してから次に進むように心掛けましょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

5．教科書

『即！実践　楽しもう韓国語』（北原スマ子監修・金孝珍著、白帝社、2017年）　ISBN：978-4-86398-277-2

6．参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ（学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

8．成績評価の方法

期末試験60%、平常点（小テスト・課題・授業への参加度など）40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＢⅡ

1単位	1年次	金　　鉉洙

1．授業の概要・到達目標

春学期授業で学んだ学習内容をベースに不規則活用用言や連体形などの表現を身につけることで、韓国語の表現力の幅をより豊かにしていきます。授業においては文法事項の修得に重点を置きながら、会話能力の向上を目指します。日常生活における簡単な会話ができること、ハングル検定5級レベルへの到達を目標にします。（この授業は韓国語ＡⅡとリレー形式で行われます。）

2．授業内容

第１回：春学期授業の総復習①
第２回：春学期授業の総復習②
第３回：第18課　誕生日はいつですか。
第４回：第19課　１個でいくらですか。
第５回：第20課　授業は何時からですか。
第６回：第21課　写真を撮りました。
第７回：韓国文化紹介
第８回：第22課　どこに行かれますか。
第９回：第23課　どこで会いましょうか。
第10回：第24課　何がしたいですか。
第11回：初級文法の総復習①
第12回：初級文法の総復習②
第13回：初級・中級レベルの助詞のまとめ
第14回：ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説
※講義内容は進度状況などにより変更することがあります。

3．履修上の注意

・授業には必ず出席すること。なお、原則として1/3以上欠席した学生の単位は認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・小テストを適宜実施するので、その準備を兼ねて習った文法や語彙などをしっかり覚えるようにしてください。

5．教科書

李昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語初級　講義ノート　第２版』白帝社、2024.

6．参考書

随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行われる小テスト等については、授業中に解説する。

8．成績評価の方法

学期末テストの成績70%、平常点（授業態度・小テスト・宿題）30%

9．その他

※担当教員の連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN171N

韓国語ＢⅡ

1単位	1年次	李　　興淑

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
「韓国語ＢⅠ」に引き続き、初級程度の文法、文型、会話文などを学習します。
【到達目標】
初級レベルでの会話や作文ができるようになることを目標にします。また、ハングル能力検定試験5級レベルの実力を身につけることを目指します。

2．授業内容

第１回：7課　誕生日はいつですか。
第２回：8課　7時から9時までです。
第３回：9課　先週の土曜日コンサートに行きました。
第４回：10課　本当にお若くみえますね。
第５回：11課　連休の時、何をしたいですか。
第６回：12課　道がとても混んで遅れました。
第７回：13課　両親が日本へ旅行に行きました。
第８回：14課　少し早く出発しましょうか。
第９回：15課　一度食べてみてもいいですか。
第10回：16課　景福宮に行こうと思います。（１）
第11回：16課　景福宮に行こうと思います。（２）
第12回：視聴覚教材（映画）を活用し、韓国語を学ぶ。
第13回：17課　とても忙しくて連絡もできませんでしたね。
第14回：a：まとめ　b：期末試験

3．履修上の注意

この授業は韓国語ＡⅡ（火１限・李興淑）と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、解決してから次に進むように心掛けましょう。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

5．教科書

『即！実践　楽しもう韓国語』（北原スマ子監修・金孝珍著、白帝社、2017年）　ISBN：978-4-86398-277-2

6．参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ（学習履歴）」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

8．成績評価の方法

期末試験60%、平常点（小テスト・課題・授業への参加度など）40%

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN271N

韓国語演習Ⅰ

2単位	2年次	金　鉉洙

1．授業の概要・到達目標

初級レベルを終えた人を対象とします。

授業においては初級レベルの文法事項の復習を適切に行いながら、テキストに沿って初中級レベルの文法事項や表現などを身につけていきます。日常生活における会話や作文、読解能力の向上を目指し、ハングル検定４級レベルへの到達を目標とします。

2．授業内容

第１回：初級文法事項の復習
第２回：第２課　銀行に行こうと思います。(文法)
第３回：第２課　銀行に行こうと思います。(練習)
第４回：第３課　明日何するつもりですか。(文法)
第５回：第３課　明日何するつもりですか。(練習)
第６回：第５課　キムチは辛いです。(文法)
第７回：第５課　キムチは辛いです。(練習)
第８回：第６課　どこで撮った写真ですか。(文法)
第９回：第６課　どこで撮った写真ですか。(練習)
第10回：第７課　歌を歌いました。(文法)
第11回：第７課　歌を歌いました。(練習)
第12回：第９課　両替できますか。(文法)
第13回：第９課　両替できますか。(練習)
第14回：ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説
※講義内容は進度状況などにより変更することがあります。

3．履修上の注意

・授業には必ず出席すること。なお、原則として1/3以上欠席した学生の単位は認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・小テストを適宜実施するので、その準備を兼ねて習った文法や語彙などをしっかり覚えるようにしてください。

5．教科書

李昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅰ講義ノート』白帝社、2014.

6．参考書

随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行われる小テスト等については、授業中に解説する。

8．成績評価の方法

学期末テストの成績80%、平常点（授業態度・小テスト・宿題）20%

9．その他

※担当教員への連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)LAN271N

韓国語演習Ⅱ

2単位	2年次	金　鉉洙

1．授業の概要・到達目標

春学期同様、初中級レベールの文法事項の習得に力点を置きます。授業においては初級レベルの文法事項の復習を適切に行いながら、テキストに沿って初中級レベルの文法事項や表現などを身につけていきます。日常生活における会話や作文、読解能力の向上を目指し、ハングル検定４級や3級レベルへの到達を目標とします。

2．授業内容

第１回：第10課　着いたら電話します。(文法/練習)
第２回：第11課　雨が降っているようです。(文法/練習)
第３回：第13課　窓が開いています。(文法)
第４回：第13課　窓が開いています。(練習)
第５回：第14課　写真を撮ってもいいですか。(文法)
第６回：第14課　写真を撮ってもいいですか。(練習)
第７回：第15課　何時まで行けばいいですか。(文法)
第８回：第15課　何時まで行けばいいですか。(練習)
第９回：第17課　ソウルに行ってみたことがありますか。(文法)
第10回：第17課　ソウルに行ってみたことがありますか。(練習)
第11回：第18課　心配しないで下さい。(文法/練習)
第12回：第19課　今日は忙しいですが、明日会いましょうか。(文法)
第13回：第19課　今日は忙しいですが、明日会いましょうか。(練習)
第14回：ａ：期末試験
　　ｂ：正答解説
※講義内容は進度状況などにより変更することがあります。

3．履修上の注意

・授業には必ず出席すること。なお、原則として1/3以上欠席した学生の単位は認めない。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・小テストを適宜実施するので、その準備を兼ねて習った文法や語彙などをしっかり覚えるようにしてください。

5．教科書

李昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅰ　講義ノート』白帝社、2014.

6．参考書

随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業中に行われる小テスト等については、授業中に解説する。

8．成績評価の方法

学期末テストの成績80%、平常点（授業態度・小テスト・宿題の成績）20%

9．その他

※担当教員への連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

タイ語

科目ナンバー：(IC)LAN191N

タイ語ＡⅠ

1単位	1年次	香ノ木　ウォララック

1．授業の概要・到達目標

本授業は入門者向けであり、「タイ語ＢⅠ」と並行し基礎会話や表現を中心に学習する。

発音記号を使用し、子音・母音・声調の発音し方を学び、挨拶・自己紹介・時間の言い方など日常でよく使う表現や語彙を学習する。「タイ語ＢⅠ」で学習した文法を含めて様々な表現や文型を使って簡単な文を作成し、会話の練習をする。視聴覚教材で「聞く」「話す」練習をする。

タイ語の正しい発音し方・基礎文型・語彙・表現の習得と、「聞く」と「話す」能力を身に付け、ネイティブと初歩的な会話ができることを目標とする。

2．授業内容

各回のテーマは次の通りである。

第１回：a.　イントロダクション
　　b.　タイ語の特徴の説明
第２回：子音・声調の発音練習・挨拶表現
第３回：第１課　語彙・自己紹介の表現・会話練習・リスニング
第４回：第２課　語彙・数字と数え方（1）・存在の動詞
第５回：第２課　会話練習・リスニング
第６回：第３課　語彙・時刻の言い方・数え方（2）
第７回：第３課　期間・値段の言い方
第８回：a.　第３課　会話練習・リスニング
　　b.　中間試験
第９回：第４課　語彙・目的・願望の表現
第10回：第４課　勧誘表現・電話の会話練習・リスニング
第11回：第５課　語彙・ものの所在・会話練習・リスニング
第12回：第６課　語彙・類別詞（1）・数え方（3）
第13回：第６課　依頼表現・買い物の会話練習・リスニング
第14回：a.　まとめ
　　b.　期末試験

3．履修上の注意

発音記号を使用しタイ語を学習する。タイ文字の学習に関しては､「タイ語BI」の授業で実施する。

「タイ語BI」との同時履修が望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回出席し、積極的に発音、会話やリスニングの練習をすること。

事前に、テキストの各課の語彙や文型の例文を確認して予習すること。

復習として、学習した項目や「練習A」を再度確認し、テキストに付いているCDを聞きながら例文や会話を繰り返して読み、発音の練習を行うこと。

5．教科書

1.『タイ語レッスン初級１』ブッサバー・バンチョンマニーら著
（スリーエーネットワーク）
2. 配布資料（補助教材）

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題や試験のフィードバックは基本的に授業時に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度15％、課題20％、中間試験30％、期末試験35％

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN191N

タイ語ＡⅡ

1単位	1年次	香ノ木　ウォララック

1．授業の概要・到達目標

本授業は初級者向けであり、「タイ語ＡⅠ」に引き続き基礎会話を中心に学習する。「タイ語ＢⅡ」と並行し様々な文型を使い会話やリスニングを練習する。

依頼や可能表現など基礎文型を使った簡単な文章により様々な場面に応じた会話練習をする。身体の部位や乗り物、類別詞の語彙を覚え、料理の注文や趣味、病状、感想、移動手段などについて話すことを練習する。視聴覚教材で「聞く」と「話す」練習をする。

「聞く」と「話す」能力を身に付け、様々な基礎文型と表現を使いこなし、ネイティブとタイ語で簡単な日常会話ができることを目標とする。

2．授業内容

各回のテーマは次の通りである。

第１回：a.　イントロダクション
　　b.　復習
第２回：第７課　語彙・趣味について
第３回：第７課　可能表現・理解を表す表現
第４回：第７課　会話練習・リスニング
第５回：第８課　語彙・類別詞（2）料理・物の注文
第６回：第８課　もらうの動詞・完了形の質問と答え
第７回：a.　第８課　会話練習・リスニング
　　b.　中間試験
第８回：第９課　語彙・体調に関する表現・許可表現
第９回：第９課　動作の禁止・丁寧な依頼表現
第10回：第９課　会話練習・リスニング
第11回：第10課　語彙・移動に関する表現
第12回：第10課　程度と頻度を表す副詞・意見を述べる
第13回：第10課　会話練習・リスニング、スピーキング
第14回：a.　まとめ
　　b.　期末試験

3．履修上の注意

発音記号を使用しタイ語を学習する。タイ文字の学習に関しては､「タイ語BII」 の授業で実施する。

「タイ語BII」との同時履修が望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回出席し、積極的に発音や会話、リスニングの練習をすること。

事前に、テキストの各課の語彙や文型の例文を確認して予習すること。

復習として、学習した項目や「練習A」を再度確認し、テキストに付いているCDを聞きながら例文や会話を繰り返して読み、発音の練習を行うこと。

5．教科書

1.『タイ語レッスン初級１』ブッサバー・バンチョンマニーら著
（スリーエーネットワーク）
2. 配布資料（補助教材）

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題や試験のフィードバックは基本的に授業時に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度15％、課題20％、中間試験30％、期末試験35％

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN191N

タイ語ＢⅠ

1単位	1年次	香ノ木　ウォララック

1．授業の概要・到達目標

本授業は入門者向けであり、「タイ語ＡⅠ」と並行しタイ語の基礎文法と文字の読み書きを中心に学習する。基礎的な文法を学びながら、タイ語は独自の文字を使っているため、タイ文字と文字の基本規則を学習する。

一回の授業の中で文法と文字を学習する。文法においては、タイ語の文章の構造を理解し、形容詞・疑問詞・類別詞の使い方や様々な基礎文法を学ぶ。タイ文字の学習は、タイ語に少し慣れてきた第３回から始まる。タイ語の子音文字・母音文字の読み方と書き方、それから文字の仕組みを学ぶ。文字の基本的な規則を学び、簡単な単語の読み書きを練習する。

タイ語の基礎文法の習得と、タイ文字が覚えられ簡単な単語が読み書きできるようになることを目標とする。

2．授業内容

各回のテーマは次の通りである。

第１回：a.　イントロダクション
　　b.　発音記号の説明と母音の練習
第２回：a.　子音・母音・声調の発音練習
　　b.　第１課　人称代名詞・所有表現
第３回：a.　第１課　指示代名詞
　　b.　文字とその仕組みの説明
第４回：a.　第２課　存在動詞・位置を表す前置詞
　　b.　文字：　長母音（字）
第５回：a.　第２課　疑問詞（１）・極性疑問文（１）
　　b.　文字：　子音（字）
第６回：a.　第３課　年月日曜日の言い方
　　b.　文字：　平音節と促音節・声調規則
第７回：a.　第３課　意思の助動詞・疑問詞（２）
　　b.　文字：　平音節１
第８回：a.　復習
　　b.　中間試験
第９回：a.　第４課　極性疑問文（２）
　　b.　文字：　平音節２
第10回：a.　第５課　所有動詞・ものの所在・現在進行形
　　b.　文字：　短母音（字）
第11回：a.　第５課　接続詞（動作の順次）・極性疑問文（３）
　　b.　文字：　促音節１
第12回：a.　第６課　類別詞の使い方
　　b.　文字：　促音節２
第13回：a.　第６課　並列・累加接続詞
　　b.　文字：　平音節３・促音節３
第14回：a.　まとめ
　　b.　期末試験

3．履修上の注意

発音記号を使用しタイ語を学習する。同時にタイ文字の読み書きや規則を学ぶ。
「タイ語ＡⅠ」との同時履修が望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回出席し、文章作成や文字の読み書きをよく練習すること。課題はしっかり取り組むこと。
文法学習において、事前にテキストの各課の解説を確認し説明と例文を読んで予習し、「練習B」を取り組んで復習すること。
文字学習において、子音字と母音字とその組み合わせ方を書いて練習し、学習した読み方の規則を復習し練習問題で単語を読むこと。

5．教科書

1.『タイ語レッスン初級１』ブッサバー・バンチョンマニーら著
（スリーエーネットワーク）
2. 配布資料（補助教材）

6．参考書

特に定めない

7．課題に対するフィードバックの方法

課題や試験のフィードバックは基本的に授業時に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度15％、課題20％、中間試験30％、期末試験35％

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN191N

タイ語ＢⅡ

1単位	1年次	香ノ木　ウォララック

1．授業の概要・到達目標

本授業は初級者向けであり、「タイ語ＢⅠ」に引き続きタイ語の基礎文法と文字の読み書きを中心に学習する。「タイ語ＡⅡ」と並行し授業を行う。

一回の授業の中で文法と文字を学習する。文法においては、助動詞や否定形、疑問語、質問文とその答え方など様々な基礎文法を学ぶ。また、簡単な文章作成を学習する。文字学習においては、タイ文字の基本規則を復習し、声調記号や二重子音の語、特殊な文字の読み方などを学び、簡単な単語と文章の読み書きを練習する。

基礎的な文法を理解し、タイ文字で書かれた簡単な単語と文章の読み書きができることを目標とする。

2．授業内容

各回のテーマは次の通りである。

第１回：a.　イントロダクション
　　b.　復習
第２回：a.　第7課　必要性・経験を表す助動詞
　　b.　声調記号（１）
第３回：a.　第7課　完了を表す助動詞・逆説の前置詞
　　b.　声調記号（２）
第４回：a.　第7課　極性疑問文（4）
　　b.　声調記号（３）
第５回：a.　第8課　依頼分・完了形の質問と答え
　　b.　様々な末子音
第６回：a.　第8課　無意志動詞・否定形
　　b.　真正二重子音
第７回：a.　文字の復習
　　b.　中間試験
第８回：a.　第9課　時制・疑問文のまとめ
　　b.　疑似二重子音（Ｇ１）
第９回：a.　第9課　過去・完了形の否定文
　　b.　疑似二重子音（Ｇ２）
第10回：a.　第9課　極性疑問文（５）
　　b.　高子音化・中子音化
第11回：a.　第10課　疑問詞（３）
　　b.　一字再読字
第12回：a.　第10課　疑問詞＋極性疑問文
　　b.　特殊な発音・記号・略字・数字
第13回：a.　第10課　接続詞・前置詞
　　b.　文字の読み方の練習
第14回：a.　まとめ
　　b.　期末試験

3．履修上の注意

発音記号を使用しタイ語を学習する。同時にタイ文字の読み書きや規則を引き続き学ぶ。
「タイ語ＡⅡ」との同時履修が望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回出席し、文章作成や文字の読み書きをよく練習すること。課題はしっかり取り組むこと。
文法学習において、事前にテキストの各課の解説を確認し説明と例文を読んで予習し、「練習B」と練習問題を取り組んで復習すること。
文字学習において、次回の授業の前に学習した規則を復習し、練習問題で様々な単語を読んで練習すること。

5．教科書

1.『タイ語レッスン初級１』 ブッサバー・バンチョンマニーら著
（スリーエーネットワーク）
2. 配布資料（補助教材）

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題や試験のフィードバックは基本的に授業時に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度15％、課題20％、中間試験30％、期末試験35％

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN291N

タイ語演習Ⅰ

2単位	2年次	香ノ木　ウォララック

1．授業の概要・到達目標

本授業は初級者向けであり、基礎タイ語を学び進め条件文や比較表現、因果関係の表現などの文型と会話の学習に重点を置く。視聴覚教材で簡単な会話や話を聞いて聴解の練習、様々な場面に応じた会話を練習する。読解の練習、タイ文字で日記などを書く。また、タイ語を学びながら学習した表現や会話から見たタイ文化を一緒に考える。

既習のタイ文字を使って初級レベルの文法、語法を学び進め様々な文型の理解力を高めながら、日常の出来事などをテーマに会話と文章作成ができることを目標とする。

2．授業内容

各回のテーマは次の通りである。

第１回：a.　イントロダクション
　　b.　復習
第２回：第11課　条件・仮定、疑問詞（４）（理由を聞く）
第３回：第11課　予測・動作の順番・会話練習
第４回：第12課　選択疑問文
第５回：第12課　時間の過ごし方・買い物する・会話練習
第６回：第13課　因果関係の表現、疑問詞＋極性疑問文（２）
第７回：第13課　感情を表す言葉・謝罪の表現・会話練習
第８回：読解
第９回：第14課　前後の順番を言う
第10回：第14課　禁止表現・命令形・会話練習
第11回：第15課　比較表現（１）（最上級・比較級）
第12回：第15課　比較表現（２）（原級）・依頼表現
第13回：第15課　チケットを買う・会話練習
第14回：a.　まとめ
　　b.　期末試験

3．履修上の注意

この科目を履修するにあたっては、前提として、タイ文字の読み書きの知識が必要です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回出席し、積極的に会話や学習した文型を練習すること。
タイ文字の読み方と意味を事前に確認し予習すること。
テキストのCDを聞いて、例文や会話を繰り返して読んで復習すること。

5．教科書

1.『タイ語レッスン初級2』ブッサバー・バンチョンマニーら著
（スリーエーネットワーク）
2. 配布資料（補助教材）

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題や試験のフィードバックは基本的に授業時に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度15％、課題25％、小テスト30％、期末テスト30％

9．その他

科目ナンバー：(IC)LAN291N

タイ語演習Ⅱ

2単位	2年次	香ノ木　ウォララック

1．授業の概要・到達目標

本授業は初級から中級へのクラスであり、「タイ語演習Ⅰ」に引き続き文型を学びながら文章作成、読解、聴解、会話の学習を重点に置く。読解において、タイの絵本や配布資料を教材として学習する。作文の作成能力を身に付け、自己の体験談や日本について簡単な作文を書く。学習したタイ語の表現の中から見たタイ文化を一緒に考える。実用タイ語検定試験4級の勉強法も学ぶ。また、視聴覚教材で様々な場面のタイ語を聞いて聴解や会話の練習をする。

初級から中級への学習レベルの文法や語法を学び進め、会話力と読解力の向上を目指し、様々な題目についての会話と聞き取りができることを目標とする。

2．授業内容

各回のテーマは次の通りである。

第１回：a.　イントロダクション・復習
　　b.　第16課　伝聞・義務表現
第２回：第16課　前置詞・アドバイスの会話練習
第３回：第17課　関係代名詞・接続詞
第４回：第17課　道順の説明の練習・道案内の会話練習
第５回：第18課　使役・因果関係
第６回：第18課　提案の表現・相談の表現・会話練習
第７回：第19課　指示表現と形容詞
第８回：第19課　美容室にて・会話練習
第９回：第20課　形容詞・副詞の変化
第10回：第20課　意見を求める表現・会話練習
第11回：読解（１）
第12回：読解（２）
第13回：タイ語検定試験の学習
第14回：a.　まとめ
　　b.　期末試験

3．履修上の注意

この科目を履修するにあっては、前提となる「タイ語演習Ⅰ」を修得したことが必要です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回出席し、積極的に会話と文章の読みを練習をすること。
テキストのCDを使用し、文型の例文や「練習A」、会話を聞いて発音の練習すること。
読解は、事前に文章の読み方と訳を準備しておくこと。

5．教科書

1.『タイ語レッスン初級2』ブッサバー・バンチョンマニーら著
（スリーエーネットワーク）
2. 配布資料（補助教材）

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題や試験のフィードバックは基本的に授業時に行う。

8．成績評価の方法

授業への貢献度15％、課題25％、小テスト30％、期末試験30％

9．その他

研究方法・実践科目群

情報リテラシー科目

科目ナンバー：(IC)INF141J

専門情報リテラシー（法情報）

２単位	１年次	**近藤　佐保子**

１．授業の概要・到達目標

コンピュータ技術が発達し、いろいろな領域に取り入れられていく中で、法にかかわる領域には、そうした技術がなかなか浸透しにくいとも言われてきました。そうは言っても、今では、法律に関することでも、Webを利用することで、いろいろなことがわかり、法を身近に感じることができるようになってきました。この科目では、法というものを通して今日の情報社会を見ていきたいと思います。

授業の前半では、昨今のサイバー法にかかわる判例のデータベースを検索して、どのような判例が出ているのかを調査しましょう。情報社会は急速に発展してきましたが、法制度+は、それほど急激には変わりにくいこともあって、過去の判例の中には適切であったのか、評価が分かれるものもあります。進展する情報社会の中で、それを規制する法はどのようなものであることが望ましいのか考えてみましょう。

また、授業の後半では、近年の犯罪白書、警視庁サイバー犯罪対策統計などのサイトを閲覧して、犯罪統計を調査しましょう。Ｅｘｃｅｌでのデータの分析の仕方を簡単に解説します。昨今のサイバー法犯罪などの動向を調べ、発表してみましょう。また、それを通じて、再犯防止のための施策も検討していきたいと思います。犯罪者の社会復帰を目指す現場のＤＶＤ視聴なども行う予定です。

本講義の到達目標は以下の通りです。

① 情報法に対する質的調査として、判例データベースが的確に検索できるようになる。
② サイバー法に係る判例を客観的に読み解く力を取得し、情報社会の望ましい在り方を考えられるようになる。
③ 法情報に対する量的調査として、犯罪白書などのデータへのアクセス、分析ができるようになる。前提として表計算ソフトによる統計解析の基礎的な手法を理解する。
④ 犯罪統計のデータ分析を通して、現状と課題を把握し、再犯防止の施策を考える力をみにつける。

２．授業内容

［第１回］イントロダクション　－法と情報のかかわり－
［第２回］法情報の検索（１）法情報はどこにあるのか（法律関係サイトの紹介）
［第３回］法情報の検索（２）判例データベースの検索（外部データベースの紹介）
［第４回］法情報の検索（３）昨今のサイバー法判例の検索と解説（著作権関連、名誉棄損関連など）
［第５回］法情報の検索（４）昨今のサイバー法判例の検索と解説（わいせつ罪関連、情報の不正入手、個人情報保護関連など）
［第６回］情報発信の技法（パワーポイント利用の確認）
［第７回］サイバー法関連判例の発表（各自が興味のある判例について報告）
［第８回］犯罪統計（１）犯罪統計に関するデータはどこにあるのか
［第９回］再犯の予防と社会復帰支援（社会復帰支援に関するＤＶＤ視聴など）
［第10回］犯罪統計（２）MS-Excelによる分析の手法（基礎的操作の確認）
［第11回］犯罪統計（３）MS-Excelによる分析の手法（数値データの分析の手法）
［第12回］犯罪統計（４）MS-Excelによる分析の手法（カテゴリーデータの分析の手法）
［第13回］犯罪統計（５）犯罪統計のデータに分析の手法を応用してみる
［第14回］犯罪統計に関する発表（犯罪統計データから各自が興味のあるテーマを選んで報告）

３．履修上の注意

リテラシー能力としては、本学科に設置されている「ICTベーシック」科目終了程度の能力を前提としています。
法律に関する知識があることは必須条件ではありませんが、なるべく日頃から法律に関心を持ち、特にサイバー法に関係する事例については、メディアなどに目を通すようにしておくと理解が進むでしょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

ＥｘｃｅｌとＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔについては、基本的な機能が使えることを前提としています。あまり慣れていない方が履修する場合は、授業の進行状況にしたがい、各自で練習してきてください。
講義の前半では、サイバー法関連の判例の解説を通して、情報社会における法システムのあり方を理解していきます。前回の内容は確認、理解してから毎回の講義に臨んでください。また判例検索で、進んだところまではもし抜けてしまったところがある場合、補って追いついてから次の授業に臨んでください。
講義の後半ではＥｘｃｅｌによるデータ整理の方法にも触れます。Ｅｘｃｅｌの課題を仕上げていきますが、もし授業の進行に遅れてしまった場合は、各自で補って追いついてから次の授業に臨んでください。

５．教科書

参考書として授業時に適宜紹介します。
その他、プリント・ファイルとして適宜配布します。

６．参考書

和田悟・近藤佐保子『インターネットコミュニケーション』培風館
夏井高人『ネットワーク社会の文化と法』日本評論社
いしかわまりこ・村井のり子・藤井康子『リーガル・リサーチ』（第５版）日本評論社
その他、授業中に適宜紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

各課題については、授業内またはOh-o ！ Meiji上で解説を行う。

８．成績評価の方法

授業への参加を20%程度、授業時に出題する複数回の課題20%程度、判例検索に関する報告と犯罪統計に関する報告を各30%程度とし、総合的に評価します。期末試験は行いません。

９．その他

科目ナンバー：(IC)INF141J

専門情報リテラシー（実験人間学）

２単位	１年次	**小久保　秀之**

１．授業の概要・到達目標

授業形式　実験演習・ゼミ形式
募集人員　24名程度
到達目標

インターネット時代は、何でも情報が手に入る代わりに実際に自分で試してみるという機会が不足がちです。
本演習では、人間がどのように視覚情報や聴覚情報を処理しているか、さらに心の状態が体にどのように影響するかを簡単な実験を通して学びます。

さらに、実験結果を整理・分析してレポートにまとめる方法を学びます。
実習テーマ

実験は５つのテーマがあります。各実験項目は２～３週にわたって行います。

1．錯視図形では、実験道具を自作し、視覚情報がどのように処理されているか学びます。
2．電子機器の使用による疲労では、パソコンやゲーム機を使う前後の疲労度の違いをフリッカー装置を使って測定します。
3．騒音と快・不快では、学内の数か所で騒音の大きさを測定し、快・不快の判断とどのように関係するかを調べます。
4．心身のリラックス状態では、嘘発見器にも使われている皮膚電気活動を測定します。
5．サーモグラフィの実習では体表面の温度分布を測定します。

２．授業内容

1　一般的留意事項、レポートの書き方、班分け
2　生体計測のいろいろ
3　錯視図形１
4　錯視図形２
5　電子機器の使用による疲労１
6　電子機器の使用による疲労２
7　騒音と快・不快１
8　騒音と快・不快２
9　心身のリラックス状態１
10　心身のリラックス状態２
11　心身のリラックス状態３
12　赤外線サーモグラフィの実習１
13　赤外線サーモグラフィの実習２
14　データ処理演習

３．履修上の注意

授業は日本語で行います。
実験結果をまとめるために、ワードとエクセルに関して次の技能が必要です。

1．ワードを使って文書の作成と図・表の作成、エクセルのグラフの貼り付けができること。
2．エクセルを使って、平均値の計算、グラフの作成ができること。

さらに、

3．正規分布の基礎知識（平均値、標準偏差、p値）を持っていると、より深く理解できます。
未学習の人は、確率統計の書籍を参考にしてください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

1．各実習を行う前に、教科書で実習内容をよく理解しておいてください。実験の手順や機器の操作法などを事前に把握しておくと、当日の実習が円滑に進みます。
2．実習によっては、はさみ、定規（20cm程度）、USBメモリが必要ですので持参するようにしてください。
3．原則として実習終了の２週間後がレポートの提出期限です。

５．教科書

『実験人間学 第３版』　小久保秀之　（DTP出版）　本体価格　１６００円

６．参考書

『サイコロとExcelで体感する統計解析』　石川幹人　（共立出版）
検定などデータの統計処理方法が未学習の人は次の本も参考にしてください。
なお、私が執筆した実習部分は教科書とほぼ同じです。
『未来をひらく心理学入門』　渡辺恒夫ほか　（八千代出版）

７．課題に対するフィードバックの方法

最初の提出レポートに対してコメントを付けるようにします。
また、随時、質問してください。

８．成績評価の方法

平常点（授業に対する取り組み）30%
レポート70%
なお、提出レポートの本数が半分に満たない場合は単位認定しません。

９．その他

実験があるので、遅刻しないようにお願いします。
実験ノートを作成し、実験の記録をつけるようにしてください。
データを持ち帰ることがあるので、USBメモリを持参してください。
欠席した場合は他の人からデータをもらってレポートを作成してください。

科目ナンバー：(IC)INF141J

専門情報リテラシー（社会統計）〔M〕

2単位	1年次	後藤　晶

1．授業の概要・到達目標
本講義では仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身に付ける。
具体的には、Google ColaboratoryとRを用いて、公的統計などのオープンデータを読み込み、データの抽出・集計・可視化の基礎を学ぶ。その上で、記述統計、クロス集計、相関分析、回帰分析といった手法を実践的に習得する。後半では、実験社会科学の視点を取り入れ、相関関係と因果関係の違いを理解した上で、実際の実験データを用いて介入効果を分析し、観察データだけでは見えない「因果関係」や「社会における人間の行動メカニズム」を科学的に捉える思考法を養う。
なお、本講義ではAIを活用しながら講義を行う。AIにコードを書かせる、エラーを修正させる、結果の解釈を補助させるといったAIとの協働方法についても考える機会として欲しい。
本講義の具体的な到達目標は以下の通りである。
1. データの分布、相関、因果関係など、統計的概念を直感的に理解し、公的統計や調査データを批判的に読み解く力を身に付ける。
2. Google ColabとRを用いて、データの前処理、可視化、記述統計、回帰分析など、一連のデータ分析プロセスを実行できるようになる。
3. 観察データと実験データの違いを理解し、実験社会科学におけるランダム化比較試験（RCT）の考え方を学ぶことで、因果関係を科学的に検証する方法の基礎を習得する。

2．授業内容
［第１講］イントロダクションとRの第一歩〔メディア授業（オンデマンド型）〕
講義の概要とGoogle Colabのセットアップ。Rを電卓として使い、変数、ベクトル、四則演算の基礎を触る。AIの活用方法についても解説する。
［第２講］統計の基礎概念と基本操作〔メディア授業（オンデマンド型）〕
平均、分散、標準偏差の意味を直感的に理解する。複雑なデータは使わず、単純な数列データで平均値、中央値、分散、標準偏差などの記述統計量を算出し、手計算と一致することを確認する。
［第３講］オープンデータとデータ抽出〔メディア授業（オンデマンド型）〕
データフレームから必要な情報を取り出す。e-Statなどのオープンデータの使い方を学ぶと同時に、社会全体で進みつつあるデータのオープン化のあり方についても紹介する。列選択、行抽出、並べ替えを使い、データを「切り出す」操作を学ぶ。
［第４講］グループ比較と集計〔メディア授業（オンデマンド型）〕
引き続き、e-Statなどのオープンデータを用いて、「男女別」「地域別」など、属性ごとにデータを要約する。グループ化と要約の出力を習得する。都道府県データを地方ブロックごとに集計し、平均値、中央値、分散、標準偏差などの記述統計量を比較する。
［第５講］データの可視化と基本的なグラフ〔メディア授業（オンデマンド型）〕
データの分布を可視化し、外れ値や全体像を把握する。ggplot2を用いてヒストグラムや箱ひげ図を作成する。
［第６講］質的データの分析：クロス集計〔メディア授業（オンデマンド型）〕
カテゴリ同士の関係を学ぶ。クロス集計表の作成と読み方、行パーセント・列パーセントの使い分けを学ぶ。特別な関数ではなく、グループ化と個数のカウントを組み合わせてクロス集計表を作る。独立性と連関係数の考え方も紹介する。
［第７講］２変数の関係：相関と散布図〔メディア授業（オンデマンド型）〕
量的データ同士の関係（相関）を見る。相関係数の意味と解釈方法を学ぶ。散布図を描き、相関係数を算出する。log変換など、スケールを変えてデータを眺める工夫を学ぶ。
［第８講］因果関係と相関関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕
相関関係の有無が必ずしも因果関係の有無を意味しないことを学ぶ。第3の変数（交絡因子）の存在を理解する。擬似相関の具体例を理解する。データを層別化して散布図を描くことで、隠れていた真の関係が存在することを理解する。
［第９講］データの結合と時系列データの可視化〔メディア授業（オンデマンド型）〕
複数のデータソースを組み合わせる方法と、時間軸を持つデータの扱い方を学ぶ。2つの異なる表を共通のキーで結合する方法を学ぶ。さらに、結合したデータを用いて、時間の経過とともに変化するデータ（人口推移、気温変化など）を折れ線グラフ（geom_line）で可視化する。
［第10講］データの傾向を読む：回帰分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕
データの傾向を直線（モデル）で説明する回帰分析について学ぶ。切片と傾きの意味を理解する。単回帰分析を行い、回帰直線を散布図に重ねて描く。
［第11講］実験社会科学と因果推論の考え方〔メディア授業（オンデマンド型）〕
社会科学における実験の役割について論じる。社会における人間の行動を科学するために、なぜ実験（介入）が必要なのか。RCT（ランダム化比較試験）によって因果関係が特定できるロジックを学ぶ。統計的検定の基本的な考え方（p値、「偶然では起こりにくい差」とは何か）についても触れる。
［第12講］実験データ分析（１）：注意力の検証〔メディア授業（オンデマンド型）〕
実際の実験データを分析する。具体的には、インターフェイスへの介入の有無が、注意チェック課題の正答率にどう影響したか、集計と可視化で検証する。処置群と対照群の比較から、介入効果を考察する。
［第13講］実験データ分析（２）：利他性の検証〔メディア授業（オンデマンド型）〕
引き続き、実際の実験データを分析する（後半）。具体的には、インターフェイスへの介入の有無が、利他行動を変化させたか、箱ひげ図やヒストグラムによる可視化で分布を比較し、グループ間の差を検討する。個人特性（性別、年齢など）による違いも探索的に分析する。
［第14講］問題演習：総合分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕
講義全体を振り返る。与えられたデータあるいは関心のある公的統計に対し、前処理→可視化→統計的検証までを一貫して行うレポートを作成する。

3．履修上の注意
この講義はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日に配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、確認テストの実施・リアクションペーパーの提出により理解度確認及び出席確認を行う。教員への質問・相談窓口として、メールアドレスを履修者に通知する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：講義で紹介される内容・キーワードについて確認する。
復習：演習問題を解く。講義で紹介された手法について、各自で分析を行い理解を深める。

5．教科書
オンライン資料を用意する

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法
講義内でリアクションペーパーに対するコメントを返す。

8．成績評価の方法
平常点：30%、確認テスト：40%、演習問題：30%
　平常点：講義前アンケート、リアクションペーパーなど、講義参加の積極性を評価する。
　確認テスト：毎回の講義での確認テストの解答を評価する
　演習問題：最後の演習問題の課題を評価する

9．その他
社会調査士資格＜C＞区分の認定科目であり、明治大学数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルの情報コミュニケーション学部における数理統計科目の1つである。
この講義は3年次のデータ解析論I/IIに繋がる講義であり、大学で学ぶデータサイエンスの基礎となる科目なので、ぜひ多くの皆さんに履修を薦めたい。

科目ナンバー：(IC)INF141J

専門情報リテラシー（心理統計）

2単位	1年次	清水　武

1．授業の概要・到達目標
≪授業の到達目標及びテーマ≫
　心理学で扱うデータと統計的検定を中心に、推測統計による分析法を学ぶ。各自でPCを操作しながら、基礎を身につける。
≪授業の概要≫
　心理学における実験や調査に使われる統計分析を、具体的な例題をもとに学ぶ。内容は統計的検定の基礎が中心となる。扱う題材としては、心理データが中心となる。講義ではエクセル及び統計ソフトSPSSを用いる。SPSSは調査や実験などのデータ解析専用ソフトウェアとして、そのプロセスを実践しながら調査実習や実験に対応できる統計情報処理を学習していく。同時に、データ加工（グラフ作成）、データを読み解く基礎力を養う。

2．授業内容
1　記述統計における要約統計量　簡単なデータからヒストグラムや度数表を作成、それらの代表値と散布度を計算する。
2　確率と期待値の（近似）計算、確率認識の錯誤。ギャンブルの例をとって確率や期待値の計算を行い、胴元が利益を得るからくりを理解する。ギャンブル実験を行ってツキやスランプを体験し、ビギナーズラックなどの現象が生まれる原因をつきとめる。
3　統計的検定の考え方…コイントス等の思考実験を通して仮説検定の考え方を学ぶ。
4　正規分布及びｚ値に基づく検定、有意水準の概念の把握。
5　標本調査の基礎：母集団と標本抽出…全数調査との違いを考え、標本の無作為抽出について考える。また推定値としての不偏推定量を学ぶ。
6　度数集計と適合性の検定
7　クロス集計表とカイ自乗分析
8　ｔ検定（対応あり・対応なし）による２つの平均値の差の検定…両側検定と片側検定の違いを理解し、また自由度の概念やｔの正規分布への収束を把握する。
9　相関係数…2変数の相関を学ぶ。相関するとはどういうことか。散布図を使って表現する。また、因果関係を解釈するときに、陥りやすい点を認識する。
10　実験法．心理学における実験計画の理論的背景と仮説検証の方法について学ぶ。実際に実験を実施する中で、無作為割り当てについて理解する。
11　一変量の分散分析と下位検定…心理学の実験や調査データを使いながら、間違いやすい点について注意しながら学ぶ。
12　被験者内要因計画の実験…被験者間要因を扱う時との違いに注目し、データ収集における問題点や分析時の問題について考える。
13　二要因の分散分析と交互作用の検討…心理学の実験データに基づいて、交互作用を理解し、実験計画の手法とともに理解する。
14　まとめと総復習…講義で学んだ内容を振り返り、まとめて総括とする。
授業方式
　講義と演習

3．履修上の注意
各自グループを組んで、共同で課題に取り組む。予備知識は必要ないが、PCを使った作業も必要となる。内容に関しては、適宜、各自で復習する必要がある。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予備知識は必要ないが、PCを使った作業も必要となる。内容に関しては、適宜、各自で復習する必要がある。

5．教科書
特に指定しない。

6．参考書
石川 幹人（1997）エクセルとサイコロで体感する統計、共立出版
山田剛史・村井潤一郎（2004）よくわかる心理統計、ミネルヴァ書房

7．課題に対するフィードバックの方法
毎週の講義にて直接、設題に対する回答を採点し、対話でのやり取りを通してフィードバックをおこなう。

8．成績評価の方法
平常点として、グループワークによる共同作業（30%）とその他の提出物(10%)、試験（60%）の実施を予定している。

9．その他
データに基づく実証科学の方法論に位置付けられるため、心理学Bと共に履修するのが望ましい。
社会調査士資格＜Ｄ＞区分の認定科目です。（選択必修）

科目ナンバー：(IC)INF141J

専門情報リテラシー（インタラクティブCG）

2単位	1年次	後藤田　洋伸

1．授業の概要・到達目標

インタラクティブ・コンピュータ・グラフィックスは、マウスなどの入力デバイスを用いて、コンピュータが生成する画像（グラフィックス; CG）を操作する方法を指します。インタラクティブという言葉からも想像できる通り、「マウスなどの操作が画像に影響を及ぼし、その画像を見てユーザはマウスをさらに動かす」などといった、人とコンピュータとの間の相互作用（インタラクション）を経て、時事刻々と変化する画像が生成されます。インタラクティブCGの典型的な応用例としては、コンピュータゲームを挙げることができます。近年では、インタラクティブアートの存在も、少しずつ知られるようになってきました。

この授業では、Processingというプログラミング言語を習得しながら、インタラクティブCGを生成するプログラムをいくつか作成してみます。ProcessingはJavaをベースにしたプログラミング言語で、図形の描画やマウス操作などのイベント処理が容易になるように工夫されています。実行環境のインストールも簡単で、プログラミングの経験がない人でも、気軽にインタラクティブCGの学習を始めることができます。授業の中では、他のプログラミング言語の習得時にも必要となるような「プログラミングの基礎知識」に加えて、アニメーションの作成方法やイベント処理、画像やその他のメディアの活用方法などの「インタラクティブCGに特有の知識」も学んでいきます。一通り知識の習得が終わったら、簡単なゲームを作ってみたり、インタラクティブアートを作ってみたりしてみます。

［到達目標］

・プログラミングの基礎知識を身につける。
・簡単なインタラクティブCGを作成できる。

2．授業内容

［第1回］　授業の概要説明 & Processingの導入
［第2回］　Processingの基本操作
［第3回］　基本図形を描画する
［第4回］　変数と繰り返し処理
［第5回］　アニメーション & イベント処理
［第6回］　アニメーション&イベント処理（続き）
［第7回］　座標系を操作する
［第8回］　画像やテキストを表示する
［第9回］　モーションを制御する
［第10回］　関数を活用する
［第11回］　オブジェクトを使ってプログラムを整理する
［第12回］　配列を使ってデータを整理する
［第13回］　これまでの知識を踏まえて、インタラクティブアートを作ってみる
［第14回］　簡単なゲームを作ってみる（「ブロック崩し」や「ブロック落とし」など）

3．履修上の注意

プログラミングの学習には、手を動かすことが欠かせません。自宅のコンピュータにもProcessingの開発環境を導入し、教科書や授業資料に記載されているコードを動かしてみて下さい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書に沿って授業を進めていきます。事前に教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。
［第2回］　テキストp.001-015
［第3回］　テキストp.017-037
［第4回］　テキストp.039-053
［第5回］　テキストp.055-067
［第6回］　テキストp.067-080
［第7回］　テキストp.081-094
［第8回］　テキストp.095-109
［第9回］　テキストp.111-127
［第10回］　テキストp.129-142
［第11回］　テキストp.143-155
［第12回］　テキストp.157-173
第13回以降は、クラスWebで配布される授業資料を読んでおいて下さい。
授業資料はすべてクラスウエブで公開します。

5．教科書

『Processingをはじめよう 第2版』Casey Reas、Ben Fry 著、船田 巧 訳、オライリージャパン（2016年）

6．参考書

『たのしいクリエイティブコーディング　Processingで学ぶコード×アート入門』Yu Zhang、Mathias Funk 著、杉本 達應 訳、BNN (2023年)
『Processing クリエイティブ・コーディング入門 ー コードが生み出す創造表現』田所 淳、技術評論社 (2017年)

7．課題に対するフィードバックの方法

教科書に沿って授業を進めている期間中（第2回から第12回の間）は、簡単な演習問題を授業資料につけておきます。演習問題の解説は、次回の授業の際に行いますが、わからないものがある場合には電子メールでの問い合わせにも対応します。また、クラスWebに質問箱も設置する予定です。

第13回以降の授業資料には、演習問題をつけない予定です。

8．成績評価の方法

授業への参加態度（40%）と、学期末のレポートの評価（60%）を合算します。授業への参加態度は、主に演習問題への取り組み状況を勘案して評価します。また、学期末のレポートについては、課題の内容を提示する際に、レポートの評価基準も合わせて提示します。

定期試験は実施しません。

9．その他

各々の履修生には、全授業回のうち3分の2以上の授業回に出席することを求めます。3分の2以上の出席が困難であると見込まれる場合には、履修をご遠慮下さい。

科目ナンバー：(IC)INF125J

ネットワーク技術Ⅰ

2単位	1年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

インターネットに代表される情報通信ネットワークの有効活用は極めて重要となっている。本授業ではこのような情報通信ネットワークの仕組みについて基本事項を習得し、理解を深めることを目的とする。具体的には、OSI参照モデル（ネットワークの機能をレイヤと呼ばれる階層に分けて表現したモデルの１つ）を取り上げ、ネットワークの仕組みを電気信号のレベルからアプリケーションのレベルまで学習する。

2．授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　ネットワークの概要
第３回　ネットワーク・モデル
第４回　レイヤ１（物理層）－通信における信号
第５回　レイヤ２（データリンク層）－直接接続された機器との通信
第６回　レイヤ３（ネットワーク層）－遠方の機器との通信、IPアドレス
第７回　レイヤ３（ネットワーク層）－ルーティング（通信経路の探索）の概要
第８回　レイヤ３（ネットワーク層）－ルーティングの実際、サブネット
第９回　レイヤ４（トランスポート層）－通信の信頼性の確保
第10回　レイヤ５（セッション層）、レイヤ６（プレゼンテーション層）、レイヤ７（アプリケーション層）の機能
第11回　セキュリティ
第12回　スイッチの高度な機能
第13回　ネットワークの管理
第14回　期末試験

3．履修上の注意

特になし。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答と解説をOh-o!Meijiで公開する。

8．成績評価の方法

定期試験 60%、小テスト 40%
基礎的知識、理解力

9．その他

・履修希望者は授業開始前に事前申込みすること。手続きの詳細は「履修手続きの注意等について」を参照すること。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF225J

ネットワーク技術Ⅱ

2単位	1年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

ネットワーク技術IIでは、主にルータおよびルーティングについて触れる。ルータは､ネットワーク間の通信を中継する通信機器であり、ルーティングはネットワーク上を流れる情報を相手先へ正しく届けるように制御することである。ここでは主にネットワークシミュレータを用いた実習を通して、ルータおよびルーティングの基本事項、設定方法、トラブルへの対処方法などを修得することを目的とする。

到達目標：
（１）ルータの機能および動作を説明することができる。
（２）ルータの設定を行うことができる。
（３）初歩的なネットワークトラブルを解決できる。

2．授業内容

第１回　ネットワーク技術Iの復習
第２回　ネットワークシミュレータの使い方
第３回　ルータの設定（１）－インターフェースの設定
第４回　ルータの設定（２）－PCの接続，ホスト名解決の設定
第５回　スタティック・ルーティング
第６回　ダイナミック・ルーティング－RIP（１）
第７回　ダイナミック・ルーティング－RIP（２）
第８回　デフォルトゲートウェイの冗長化
第９回　ルータの基本設定のまとめ
第10回　アクセス制御（１）－標準アクセス制御の設定
第11回　アクセス制御（２）－ワイルドカードマスク
第12回　アクセス制御（３）－拡張アクセス制御の設定
第13回　期末課題
第14回　ネットワーク技術IIのまとめ

3．履修上の注意

ネットワーク技術Ⅱは、ネットワーク技術Ⅰの単位取得を前提としている。
毎回、授業中にネットワークシミュレータを用いた実習を行う。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点 40%（実習への取り組み）
課題 60%（毎回の実習課題）
定期試験は行わない

9．その他

・履修希望者は授業開始前に事前申込みすること。手続きの詳細は「履修手続きの注意等について」を参照すること。
・ネットワーク技術Ⅱの履修は、ネットワーク技術Ⅰの単位取得を条件とする。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF225J

ネットワーク技術Ⅲ

2単位	1年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

ネットワーク技術Ⅲでは、より実際的なLANの設計・構築・管理方法の習得を目的とする。具体的には、複数台のルータを用いたより複雑なルーティング、LANスイッチングおよびそれを利用したバーチャルLANの実装について実習する。これらの実習を通して、LAN設計の方法論やアクセス制御などについて理解を深めることを図る。

到達目標：

（1）IPアドレスを無駄なく利用できる方法や技術を説明できる。
（2）スイッチの設定を行うことができる
（3）ルータとスイッチを組み合わせた小規模なネットワークを構築できる。

2．授業内容

第1回　ネットワーク技術Ⅱの復習
第2回　クラスレスルーティング
第3回　RIPv2－クラスレスルーティングの設定
第4回　OSPF（1）－リンクステート型の特徴とOSPFの仕組み
第5回　OSPF（2）－通信量削減の工夫
第6回　EIGRP－ハイブリッド型ルーティング・プロトコル
第7回　ルータの設定のまとめ
第8回　スイッチの概要
第9回　スパニングツリープロトコル
第10回　VLANの基礎
第11回　VLANトランキング
第12回　VLAN間ルーティング
第13回　期末課題
第14回　ネットワーク技術IIIのまとめ

3．履修上の注意

ネットワーク技術Ⅲは、ネットワーク技術Ⅱの単位取得を前提としている。
毎回、授業中にネットワークシミュレータを用いた実習を行う。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点 40%（実習への取り組み）
課題 60%（毎回の実習課題）
定期試験は行わない

9．その他

・履修希望者は授業開始前に事前申込みすること。手続きの詳細は「履修手続きの注意等について」を参照すること。
・ネットワーク技術Ⅲの履修は、ネットワーク技術Ⅱの単位取得が必要である。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF325J

ネットワーク技術Ⅳ

2単位	3年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

本講義ではWAN（Wide Area Network）の技術や理論、WAN設計の手順などについて実習を通して理解を深める。またネットワーク管理のための一般的な方策や監視方法、トラブル対処法を修得する。

到達目標

（1）小～中規模ネットワークの構築ができる。
（2）ネットワークのトラブルを解決することができる。

2．授業内容

第1回　ネットワークシミュレーターの基本操作
第2回　ネットワーク技術II・IIIの復習
第3回　リンクアグリゲーション
第4回　WAN接続
第5回　PPP接続
第6回　フレームリレー（1）－仕組み
第7回　フレームリレー（2）－複数拠点間の通信
第8回　NAT（アドレス変換）
第9回　NAPT（アドレス、ポート変換）
第10回　DHCP
第11回　無線LAN
第12回　IPv6
第13回　ネットワーク管理と管理ツール
第14回　まとめ

3．履修上の注意

ネットワーク技術Ⅳは、ネットワーク技術Ⅲの単位取得を前提としている。
ほぼ毎回、授業中に「ネットワークシミュレーター」を用いた実習を行う。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点 40%（実習への取り組み）
課題 60%（毎回の実習課題）
定期試験は行わない

9．その他

・ネットワーク技術Ⅳの履修は、ネットワーク技術Ⅲの単位取得を条件とする。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF125J

プログラミング実習Ⅰ

1単位	1年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

私たちがコンピュータを利用する場合、直接触れているのは物理的存在としてのコンピュータであるが、実際に操作しているのはコンピュータ上で動作しているソフトウェアである。したがって、コンピュータに対する理解を深めるためには、ソフトウェア（＝プログラム）がどのようなものであるのかを理解することが重要である。本実習の主目的はプログラミングを通してコンピュータの性質に対する理解を深めることにある。なお、本授業ではプログラミング言語としてPython言語を用いる。

2．授業内容

第1回　プログラムの作成と実行の手順
第2回　変数
第3回　キーボードからのデータ入力
第4回　制御文－条件分岐（if-else文）
第5回　制御文－条件分岐（if-elif-else文）
第6回　論理演算子
第7回　制御文－繰り返し（for文）
第8回　制御文－繰り返し（while文）
第9回　リスト
第10回　リストの操作
第11回　2次元リスト
第12回　辞書型
第13回　ファイルアクセス
第14回　まとめ

3．履修上の注意

毎回、課題のプログラムを作成する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点 40%（実習への取り組み）
課題 60%（毎回の実習課題）
定期試験は行わない
文法の基礎知識、プログラム作成力

9．その他

・履修希望者は授業開始前に事前申込みすること。手続きの詳細は「履修手続きの注意等について」を参照すること。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF125J

プログラミング実習Ⅰ

1単位	1年次	野口　喜洋

1．授業の概要・到達目標

現代では、あらゆる研究活動やビジネス活動がPC・携帯端末・クラウドを含む**ICT環境**という新しい情報（伝達）メディア上で展開されるようになりました。

ICTベーシックでは、ハードウェア、OS、アプリの利用法を中心とした授業が行われています。

しかし、PCの処理内容を指示する**プログラム**を自分で書き、動かすスキルを身につければ、**汎用情報処理装置**としてのICT環境の威力は100%自分のものにできます。どれか1種類であってもプログラミング言語を習得し、自分の目的をプログラムとして表現できる人は、アプリの使い方しか知らない人に比べ、**知的生活を営む上ではるかに優位に立てます**。現在、発展が著しい**人工知能(AI)**や**モノのインターネット(IoT)**も、自分の仕事や生活のために使いこなすことができます。

この授業では、現在**世界一学習者が多い**といわれる**Python言語**を用い、プログラミングの初歩を学びます。ICT環境における数値・文字情報の表現から始め、プログラムの考え方、言語の基本文法などを、演習を通じて習得してもらいます。

この授業の到達目標は、Pythonを用いて、
・与えられた**要求仕様**を満たすプログラムが書ける。
・わからないことをWeb上などで自ら調べ、解決できる。
ことです。これは、**自分の目的に沿った要求仕様を書き、プログラムとして実現する**というプログラミング実習Ⅰ／Ⅱの到達目標のちょうど折り返し点にあたります。

2．授業内容

第1回　イントロダクション、ICTにおける数値と文字の表現
第2回　プログラミングの準備：PythonとGoogle Colaboratoryの使い方
第3回　変数の使い方、データの入出力(input, print)
第4回　実行の流れの制御：条件分岐(if)、繰り返し(while)
第5回　データ構造（リスト）、実行の流れの制御：繰り返し(for)
第6回　ファイルからの入出力(open, readline, print, close)
第7回　課題レポート1：テキスト処理ツール
第8回　データ構造（集合・辞書）
第9回　新しい関数の定義(def)
第10回　新しいデータ構造設計（ToDoリスト）
第11回　課題レポート2：スケジュール管理ツール①
第12回　課題レポート2：スケジュール管理ツール②
第13回　正規表現
第14回　生成AI(Gemini)を使ったプログラミング
(生成AIやAPIによる情報収集における注意)
受講環境はGoogle Colaboratoryというクラウド環境ですから、第2回までに「Googleアカウント」の取得をお願いいたします（無料）。Gmailを利用されている方はそのアカウントが使えます。Colab自体は、無料でどこからでも利用でき、プログラミング学習に最適の環境です。

3．履修上の注意

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-o!Meijiの科目トップページにリンクがある「授業ポータル」（https://www.isc.meiji.ac.jp/~ri03037/meiji1.html）と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「何回目の授業」かを意識してください（各科目の表の最下行とは限らない）。

「課題レポート（この科目では2種類のプログラム）」の提出は、Oh-o!Meijiのレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。

各回の授業開始時には、ZOOMミーティング（ＯＯＨ：オンライン・オフィス・アワー）（https://zoom.us/j/92186023293）を開きますので、後述の案内を見て、参加していてください。パスコードは「987782」です。ミーティングのでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。

各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時にOh-o!Meijiの「クラスウェブ／出席送信」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「授業ポータル」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。

授業時間内の講師やTAさんへの質問・相談は、上記ミーティングの「グループチャット」で行います。TAさんや他の履修者からも読めるように、チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「画面共有」機能を利用してください。

授業時間外は、講師宛のメール（mailto:yamanoguchi.yo@nifty.com）で質問してください。回答までに2～3日かかる場合があります。

【情報コミュニケーション学部生対象：「ICTプログラミング（メディア授業）」との併願禁止】
私が担当する「プログラミング実習（対面授業）」と「ICTプログラミング（メディア授業）」は、どちらもpython言語の基本を学ぶ、実質的に同内容の授業です。
情報コミュニケーション学部のみなさんは基本的に、「プログラミング実習」を選択してください。ただし、その時限に他の受講を希望している方は、「ICTプログラミング」を選択してください。
私の授業でこの授業内容を対面で受講できるのは情報コミュニケーション学部のみなさんだけで、他学部のみなさんはメディア授業しか選択できません。どの授業も抽選で受講者を決めていますので、併願は他学部のみなさんの履修機会を奪ってしまいます。この事情を踏まえて適切な選択をお願いします。ただし、私の「プログラミング実習」と、他の先生が担当される「ICTプログラミング」は、授業内容が異なりますから、併願は自由です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習としてWeb講義資料の該当部分を読んでください。Web講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていなくても、全回分を読めます。オンデマンド型ビデオ教材もできるだけ前倒しで公開しますので、予習のために利用するか、授業時間前に視聴するのも自由です。ただし、その場合も上記の「ＯＯＨ：オンライン・オフィス・アワー」には出席してください。

また、授業中の理解が不十分なところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用して復習し、理解してください。

課題レポート（提出物を伴う課題）は、基本的には授業時間以外の作業を必要としませんが、テーマ決定・選択・素材探しなどは各自判断して行ってください。また、作業に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

5．教科書

情報演習33 ステップ30 Python［基礎編］ワークブック カットシステム
ISBN978-4-87783-837-9

6．参考書

「授業ポータル」からリンクされているWeb講義資料は、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自のPC画面を最大限活用するために、Web講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

7．課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、「連絡会(OOH)」内の「グループチャット」「画面共有」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

8．成績評価の方法

平常点（授業への参加度および貢献度）50%、課題レポート 50%。

出席の登録は、Oh-o!Meijiの「クラスウェブ／出席送信」機能を用いて行います。30分以上の遅延は「遅刻」扱いにします。「早退」の扱いはありません。

部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくだされば、出席扱いにします。

課題レポートの提出はOh-o!Meijiの「クラスウェブ／レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。

この授業では、定期試験は行いません。

9．その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、その分のWeb講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴して、キャッチアップ（他の履修者のレベルに追いつく）してから、次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習（予習・復習等）の内容」欄に示した方法で予習・復習するのと、内容的には同じです。

科目ナンバー：(IC)INF125J

プログラミング実習Ⅱ

1単位	1年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

私たちがコンピュータを利用する場合、直接触れているのは物理的存在としてのコンピュータであるが、実際に操作しているのはコンピュータ上で動作しているソフトウェアである。したがって、コンピュータに対する理解を深めるためには、ソフトウェア（＝プログラム）がどのようなものであるのかを理解することが重要である。本実習では、Python言語のより高度な機能について実習を行うことで、コンピュータに対する理解をさらに深めることを目的とする。

2．授業内容

第1回　プログラミング実習Ⅰの復習
第2回　関数－概要
第3回　関数－引数
第4回　関数－戻り値
第5回　関数－その他
第6回　変数の有効範囲、内包表記
第7回　クラス－概要
第8回　クラス－メソッド
第9回　クラス－継承
第10回　GUI－ボタン、ラベル、文字入力
第11回　GUI－選択ボタン
第12回　GUI－図形描画
第13回　グラフ作成
第14回　まとめ

3．履修上の注意

特になし。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

使用なし。

6．参考書

別途指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点40%　レポート60%　（定期試験は行わない）
文法の基礎的知識、プログラム作成力

9．その他

・プログラミング実習Ⅱの履修は、プログラミング実習Ⅰの単位取得が必要である。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF125J

プログラミング実習Ⅱ

1単位	1年次	野口　喜洋

1．授業の概要・到達目標

現代では、あらゆる研究活動やビジネス活動がPC・携帯端末・クラウドを含む**ICT環境**という新しい情報（伝達）メディア上で展開されるようになりました。

ICTベーシックⅠ/Ⅱでは、ハードウェア、OS、アプリの利用法を中心とした授業が行われています。

しかし、PCの処理内容を指示する**プログラム**を自分で書き、動かすスキルを身につければ、汎用情報処理装置としてのICT環境の威力は100%自分のものにできます。どれか1種類であってもプログラミング言語を習得し、自分の目的をプログラムとして表現できる人は、アプリの使い方しか知らない人に比べ、**知的生活を営む上ではるかに優位に立てます**。現在、発展が著しい**人工知能(AI)**や**モノのインターネット(IoT)**も、自分の仕事や生活のために使いこなすことができます。

この授業では、プログラミング実習ⅠでPython言語の基礎を学んだ学生を対象に、各種ライブラリを駆使して、**実用的なツール**や、**本格的なゲーム**の作成法を学びます。さらに最先端の**深層学習(ディープラーニング)**にも触れることで、プログラミングがもたらす無限大の可能性を感じ取ってもらいます。

この授業の到達目標は、Pythonを用いて、
・自分の目的を**要求仕様**として書ける。
・Web上などで自ら必要な**モジュール（ライブラリ）**を調べ、インストールして利用できる。
・自分がICT環境にさせたいことを**プログラムとして正確に表現**できる。
ことです。ここまでくれば、もう誰に習わずとも、プログラミングのスキルを将来にわたって**自身の知的生活のために**として役立てられます。

2．授業内容

［第1回］ａのみ：イントロダクション、GUIプログラミングとは〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第2回］2Dグラフィクスの基礎〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第3回］クラスとオブジェクト（クラス、オブジェクト変数、メソッド）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第4回］クラスとオブジェクト（図形クラスライブラリ）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第5回］tkinterライブラリの使い方〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第6回］課題レポート1：電卓プログラムの作成（ダミー電卓、整数電卓）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第7回］課題レポート1：電卓プログラムの作成（小数電卓、機能追加）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第8回］pygameライブラリの使い方、洞窟探検ゲーム〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第9回］ブロック崩しゲーム、ノベルゲーム〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第10回］課題レポート2：Pythonアプリコンテスト（チーム分けと企画立案）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第11回］課題レポート2：Pythonアプリコンテスト（開発着手）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第12回］課題レポート2：Pythonアプリコンテスト（コーディング、コンテンツ制作）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第13回］課題レポート2：Pythonアプリコンテスト（テスト、デバッグ、改良）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第14回］課題レポート2:Pythonアプリコンテスト（発表会､講評）〔メディア授業（オンデマンド型）〕

3．履修上の注意

この授業はメディア科目として開講されます。オンデマンド型ビデオ教材、Web講義資料、出席パスワード等の情報はすべて、Oh-o!Meijiの科目トップページにリンクがある「授業ポータル」(https://www.isc.meiji.ac.jp/~ri03037/meiji2.html) と、そこからリンクされている各回の「授業フォルダ」に配置します。「授業フォルダ」は原則として授業日の週初めに公開しますが、履修者の予習のために前倒しで公開することもありますので、履修者は「何回目の授業」かを意識してください（各科目の表の最下行とは限らない）。

「課題レポート（この科目では2種類のプログラム）」の提出は､Oh-o!Meijiのレポート機能で行います。締切日や、期限後提出の可否に注意してください。

各回の授業開始時には、ZOOMミーティング（ＯＯＨ：オンライン・オフィス・アワー）(https://zoom.us/j/92186023293) を開きますので、後述の案内を見て、参加していてください。パスコードは「987782」です。ミーティングのでは、授業の要点を解説するとともに、提出課題・アンケートなどの告知も行います。時間は10分程度です。

各回の出席確認は、このミーティングへの参加と、同時にOh-o!Meijiの「クラスウェブ／出席送信」機能を用いて行います。各回の出席パスワードは、上記「授業ポータル」に記述されています。出席送信の30分以上の遅延は「遅刻」扱いになるので注意してください。「早退」の扱いはありません。

授業時間内の講師やTAさんへの質問・相談は、上記ミーティングの「グループチャット」で行います。TAさんや他の履修者からも読めるように､チャットへの投稿は必ず「全員」宛にしてください。また、文章だけでは説明しにくい場合には、積極的に「画面共有」機能を利用してください。

授業時間外は、講師宛のメール（mailto:yamanoguchi.yo@nifty.com）で質問してください。回答までに2～3日かかる場合があります。

【情報コミュニケーション学部生対象：「ICTプログラミング（メディア授業）」との併願禁止】
私が担当する「プログラミング実習（対面授業）」と「ICTプログラミング（メディア授業）」は、どちらもpython言語の基本を学ぶ、実質的に同内容の授業です。
情報コミュニケーション学部のみなさんは基本的に、「プログラミング実習」を選択してください。ただし、その時限に他の受講を希望している方は、「ICTプログラミング」を選択してください。
私の授業でこの授業内容を対面で受講できるのは情報コミュニケーション学部のみなさんだけで、他学部のみなさんはメディア授業しか選択できません。どの授業も抽選で受講者を決めていますので、併願は他学部のみなさんの履修機会を奪ってしまいます。この事情を踏まえて適切な選択をお願いします。ただし、私の「プログラミング実習」と、他の先生が担当される「ICTプログラミング」は、授業内容が異なりますから、併願は自由です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習としてWeb講義資料の該当部分を読んでください。Web講義資料はページ上下端のリンクメニューで全体を行き来できますから、「授業フォルダ」が公開されていなくても、全回分を読めます。オンデマンド型ビデオ教材もできるだけ前倒しで公開しますので、予習のために利用するか、授業時間前に視聴するのも自由です。ただし、その場合も上記の「ＯＯＨ：オンライン・オフィス・アワー」には出席してください。

また、授業中の理解が不十分なところは、過去回のオンデマンド型ビデオ教材を活用して復習し、理解してください。

課題レポート（提出物を伴う課題）は、基本的には授業時間以外の作業を必要としませんが、テーマ決定・選択・素材探しなどは各自判断して行ってください。また、作業に時間がかかった場合は、授業時間外でキャッチアップしてください。

5．教科書

プログラミング実習Ⅰと同じです。
情報演習33 ステップ30 Python［基礎編］ワークブック カットシステム
ISBN978-4-87783-837-9

6．参考書

「授業ポータル」からリンクされているWeb講義資料は、授業中に解説していない詳細な内容まで含んでいますので、必ず全体を読んでください。各自のPC画面を最大限活用するために、Web講義資料をあらかじめ印刷することを推奨します。

7．課題に対するフィードバックの方法

提出された「課題レポート」については、各回の「授業フォルダ」を用いたファイル共有や、「連絡会(OOH)」内の「グループチャット」「画面共有」などを用いてフィードバックを返すことがあります。

8．成績評価の方法

平常点（授業への参加度および貢献度）50%、課題レポート 50%。

出席の登録は、Oh-o!Meijiの「クラスウェブ／出席送信」機能を用いて行います。30分以上の遅延は「遅刻」扱いにします。「早退」の扱いはありません。

部活動のイベント、就職活動、感染症などによる欠席時には、事後に申し出てくだされば、出席扱いにします。

課題レポートの提出はOh-o!Meijiの「クラスウェブ／レポート」機能を利用して行います。添付ファイルの容量制限にご注意ください。

この授業では、定期試験は行いません。

9．その他

前回欠席者のための説明やフォローは、時間の制約もあり、授業中には十分にできません。欠席した場合は、その分のWeb講義資料を読み、オンデマンド型ビデオ教材を視聴して、キャッチアップ（他の履修者のレベルに追いつく）してから､次回の授業に臨んでください。このシラバスの「準備学習（予習・復習等）の内容」欄に示した方法で予習・復習するのと、内容的には同じです。

科目ナンバー：(IC)INF321J

アルゴリズム実習Ⅰ

1単位	3年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

アルゴリズムとは問題の解法であり、アルゴリズムの違いによって処理効率は大きく異なる。そのため、コンピュータで問題解決を図る際、適切なアルゴリズムの選択・創出が極めて重要である。この適切な判断をするためには、それぞれのアルゴリズムの特徴を正しく理解していること、および問題を正しく理解・分析し、適切にモデル化することが重要である。この授業では代表的なアルゴリズムについて、実際にプログラムを作成しながら学習を進めていく。プログラミング言語としてはPythonを用いる。

本授業の目的はアルゴリズムの理解を通して論理的分析能力や論理的モデルの構築能力の育成を図ることである。

2．授業内容

第1回　アルゴリズムとは
第2回　PAD図
第3回　フラグ
第4回　スタック（1）－基礎
第5回　スタック（2）－迷路探索
第6回　キュー：迷路探索
第7回　再帰（1）－概要
第8回　再帰（2）－ゲーム
第9回　ソート（1）－バブルソート
第10回　ソート（2）－クイックソート
第11回　データ探索（1）－2分探索法
第12回　データ探索（2）－ハッシュ法
第13回　文字列探索
第14回　まとめ

3．履修上の注意

アルゴリズム実習Ⅰは、プログラミング実習ⅠおよびⅡの単位取得を前提としている。
毎回、課題のプログラムを作成する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点 40%（実習への取り組み）
課題 60%（毎回の実習課題）
定期試験は行わない

9．その他

・履修希望者は授業開始前に事前申込みすること。手続きの詳細は「履修手続きの注意等について」を参照すること。
・アルゴリズム実習Iの履修は、プログラミング実習ⅠおよびⅡの単位取得を条件とする。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

科目ナンバー：(IC)INF321J

アルゴリズム実習Ⅱ

1単位	3年次	山崎　浩二

1．授業の概要・到達目標

プログラムの処理効率を向上させるには、処理の手順を工夫することに加え、処理するデータを問題に適した形で表現することが重要である。このデータの表現形式のことをデータ構造と呼ぶ。適切なデータ構造を選択するためには、問題を正しく分析、理解することが必要である。この授業では代表的なアルゴリズムについて、実際にプログラムを作成しながら学習を進めていく。プログラミング言語としてはPythonを用いる。

本授業の主目的は、データ構造の理解を通して論理的分析能力の育成を図ることである。プログラミング言語としてはPythonを用いる。

2．授業内容

第1回　正規表現
第2回　グラフ作成
第3回　表形式データの処理（1）
第4回　表形式データの処理（2）
第5回　簡単な画像処理
第6回　線形計画法
第7回　ダイクストラ法
第8回　モンテカルロ法
第9回　遺伝的アルゴリズム：基礎
第10回　遺伝的アルゴリズム：ナップサック問題
第11回　巡回セールスマン問題：貪欲法
第12回　巡回セールスマン問題：2-opt法
第13回　機械学習
第14回　まとめ

3．履修上の注意

アルゴリズム実習Ⅱの履修は、アルゴリズム実習Ⅰの単位取得を前提としている。
毎回、課題のプログラムを作成する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

Oh-o!Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。
復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。

5．教科書

オンライン上の資料を使用する。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対してOh-o!Meijiでコメントする。

8．成績評価の方法

平常点 40%（実習への取り組み）
課題 60%（毎回の実習課題）
定期試験は行わない

9．その他

・履修希望者は授業開始前に事前申込みする。手続きの詳細は「履修手続きの注意等について」を参照すること。
・アルゴリズム実習Ⅱの履修は、アルゴリズム実習Ⅰの単位取得が必要である。
・質問や連絡等についてはOh-o!Meijiのアンケートでも受け付ける。

日本語表現科目

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅰ

2単位	1年次	吉野　泰平

1．授業の概要・到達目標

本授業は、大学生活で必要となる論述文の作成法を身につけ、実践することを目標とする。現在、あらゆる学問分野はその専門性を保ちつつも、他の分野と連携・協働することで、分野の枠組みを超えた、かつてない新しい知を生み出している。参加者それぞれが、多様な背景をもつ他の参加者や講師との対話をとおして、自らが関心をもつテーマについて考えを深め、幅広い読者にむけて自らの意見を言語で表現することは、時代の受容に応えるばかりでなく、私たちの知的営みを豊かにする機会となるだろう。本授業が、参加者の今後の大学生活だけではなく、卒業後の社会人生活を彩りあるものにしていく最初のステップとなることを企図している。

2．授業内容

本授業では、「書くこと」、特に論述文と呼ばれる論理的な文章形式に焦点を絞り、目的や状況に応じた文章の構成や思考の組み立て方を学習し、日本語での作文技術を習得する。

大学生活において論述文を書く機会としてすぐに思いつくのは、レポートや卒業論文の執筆であろう。しかし、論述文を書くのは大学時代だけではない。社会に出てからも、私たちは論述文を書き続けることになる。なぜなら、論述文とは、私たちが日々出会う自分とは異なる考えや経験、背景を持つ人々に対して、自分の考えを正確に、わかりやすく伝えるための基礎となる文章の形だからである。そこで、本授業では、授業で課されるレポートを例に、どのように自分の思考を組み立てて文章にすればよいのかを実践的に学習する。そのことを通して、最終的に論理的な日本語の文章の書き方を身につけることが、本授業の目的である。

第１回：イントロダクション「論述文とは何か？」
第２回：論述文の構成要素を学習する
第３回：論証方法を学習する
第４回：事実と意見の区別を学習する
第５回：文献調査を行う
第６回：アウトラインを作成する
第７回：アウトラインを再検討する
第８回：レポートの構想を発表する
第９回：パラグラフ・ライティングを行う
第10回：引用の仕方を学習する
第11回：わかりやすい文章の書き方を学習する
第12回：論述文作成の流れを振り返る
第13回：レポートを推敲する
第14回：レポートの相互批評を行う
なお、授業の詳しい内容は状況に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

「1.授業の概要・到達目標」にも示したように、ⅠとⅡの内容ははっきりとは分割せず、また時には学習上の効果を考慮して順序を入れ替えて進める場合もある。したがって、Ⅰ・Ⅱの両方を通年で履修することが望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・授業で宿題が課されることがある。宿題や発表が課された場合には、次週の授業の前にかならず準備を行うこと。
・授業時間内にグループで課題に取り組むことがある。

5．教科書

特に定めない。授業内でプリントを配布する。

6．参考書

適宜指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内において口頭またはコメント記入の形で行う。

8．成績評価の方法

毎回の授業への取り組みと課題提出、および期末レポートの内容を以て評価する。
・授業への取り組み・課題　60%
・学期末レポート　40%
なお、学期末レポート未提出の者は不合格とする。また、課題、レポートともに指定した方法以外で提出することは認めない。

9．その他

連絡先アドレス：taihe.yoshino@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅰ

2単位	1年次	内藤　まりこ

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

私たちは日々の生活の中で，日本語で表現された様々な文章を読み，日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は，他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み，「レポート」や「卒業論文」を執筆する。

それでは，「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも，なぜ，大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？

「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では，説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば，大学卒業後に出会う，自分とは異なる考えや経験，背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し，自分の考えをそれらの人々に論理的に，わかりやすく伝えることができるようになる。

具体的には，まず，論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び，自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い，他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお，論述文に加えて，小説，評論，随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。

「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって，言葉を介して他者の考えを理解し，自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。

【到達目標】

論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で，説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

2．授業内容

春学期は、日本語表現の「書くこと」に焦点を絞り、日本語表現の中でも「論述文」と呼ばれる論理的な文章の構成や思考の組み立て方を学習し、レポート・論文の書き方を体得する。

第１回　イントロダクション「論述文とは何か？」
第２回　文章の構成要素（内容）の学習
第３回　文章の構成要素（形式）の学習
第４回　調査方法の学習（図書館実習）
第５回　論証方法の体得
第６回　学期末レポートの構想発表（１）
第７回　学期末レポートの構想発表（２）
第８回　学期末アレポートの構想発表（３）
第９回　アウトラインの作成・更新の仕方の学習
第10回　パラグラフ・ライティングの学習
第11回　引用方法の学習
第12回　わかりやすい文章の書き方の学習
第13回　学期末レポートの完成
第14回　学期末レポートの相互批評

3．履修上の注意

・日本語表現Ⅱの履修には、日本語表現Ⅰの修得が必要である。
・ほぼ毎回課題の提出を求める。課題は成績評価の対象となる。
・グループに分かれて課題に取り組む場合がある。
・欠席をした場合は，次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し，授業プリントをダウンロードしておくこと。
・授業内容に関して疑問がある場合には、授業後に質問に来ること。
・多くの課題が設定されるので、授業外で相当の時間と労力をかける必要のある”タイパ”の悪い授業である。こうした負荷の高い授業であるが、課題に取り組むことを厭わず、真剣に取り組んでいた過去の受講生は著しい成長を遂げていた。論理的な思考を組み立て、説得力あるレポートや論文を書けるようになるために相当の努力を継続する意思のある学生にのみ受講をすすめる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・ほぼ毎週の授業で宿題が課される。宿題や発表が課された場合には、次週の授業の前にかならず準備を行うこと。

5．教科書

授業内でプリントを配布する。

6．参考書

・戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』NHKブックス954、2009年
・鹿島茂『勝つための論文の書き方』文藝春秋、2003年
・木下是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房、ちくまライブラリー 36、1990年

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパー、メール、個別面談

8．成績評価の方法

授業内で提出を求める課題・期末レポートの内容を以て評価する。
・課題文のアウトライン（2回）20%
・学期末レポートのアウトライン（3回）30%
・期末レポート 50%
なお，学期末レポート未提出の者は不合格とする。また，指定した方法以外で提出することは認めない。

9．その他

特になし

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅰ

２単位	１年次	**乗木　大朗**

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
私たちは日々の生活の中で、日本語で表現された様々な文章を読み、日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は、他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み、「レポート」や「卒業論文」を執筆する。
それでは、「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも、なぜ、大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？
「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では、説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば、大学卒業後に出会う、自分とは異なる考えや経験、背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し、自分の考えをそれらの人々に論理的に、わかりやすく伝えることができるようになる。
具体的には、まず、論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び、自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い、他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお、論述文に加えて、小説、評論、随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。
「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって、言葉を介して他者の考えを理解し、自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。

【到達目標】
論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で、説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

２．授業内容
本授業では、「書くこと」に焦点を絞り、目的や状況に応じた日本語での作文技術を学習します。春学期は日本語表現の中でも「論述文」と呼ばれる論理的な文章の形に焦点を絞り、文章の構成や思考の組み立て方を学習します。

第１回　導入――「論文」「レポート」とは何か
第２回　論述文の構成要素――「論文」「レポート」を知る
第３回　論点・仮説・論拠――問いの立て方
第４回　調査の方法
第５回　文献の読み方
第６回　アウトラインの作成
第７回　レポートの構想発表（１）
第８回　レポートの構想発表（２）
第９回　アウトラインの再検討
第10回　パラグラフ・ライティングの方法
第11回　論証の方法、引用の方法
第12回　レポート進捗報告、全体相談
第13回　わかりやすい文章にするために
第14回　レポートの相互批評、春学期総括

＊学習効果を高めるために、履修者の人数や学習状況などに応じて、授業内容を変更することがあります。

３．履修上の注意
・「日本語表現Ⅱ」（秋学期）と横断的に進行します。受講の際は、Ⅰ・Ⅱの両シラバスを確認してください。(「日本語表現Ⅱ」の履修には、「日本語表現Ⅰ」の修得が必要です。)
・授業時間内にグループで課題に取り組むことがあります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
・毎回の授業で課題が課されます。課題や発表が課された場合には、必ずすべて準備を行ったうえで次回授業に臨むこと。

５．教科書
とくに定めません。プリントを配布します。

６．参考書
・河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第４版』(慶應義塾大学出版会、2018)
・小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書、2018)
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』(慶應義塾大学出版会、2019)
・戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK ブックス、2022)
上記のほか、適宜授業内に指示します。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業の冒頭に、前回提出分の課題について、全体で共有しフィードバックを適宜行います。

８．成績評価の方法
参加姿勢30%、各回の課題30%、学期末レポート40%を中心に、総合的に判断します。欠席が全授業回数の３分の１を超過した場合、単位不可とします。また、期末レポート未提出の場合も、出席日数や課題の達成水準にかかわらず単位を認定しません。

９．その他
とくになし。

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅰ

２単位	１年次	**仲瀬　志保美**

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
現在、あらゆる学問分野はその専門性を保ちつつも、他の分野と連携・協働することで、分野の枠組みを超えた、かつてない新しい知を生み出している。参加者それぞれが、多様な背景をもつ他の参加者や講師との対話をとおして、自らが関心をもつテーマについて考えを深め、幅広い読者にむけて自らの意見を言語で表現することは、時代の受容に応えるばかりでなく、私たちの知的営みを豊かにする機会となるだろう。本授業が、参加者の今後の大学生活だけではなく、卒業後の社会人生活を彩りあるものにしていく最初のステップとなることを企図している。
【到達目標】
本授業では、「書くこと」に焦点を絞り、目的や状況に応じた日本語での作文技術を学習する。今学期は日本語表現の中でも「論述文」と呼ばれる論理的な文章の形に焦点を絞り、文章の構成や思考の組み立て方を学習する。とりわけ、大学生活で必要となる論述文の作成法を身につけ、実践することを目標とする。

２．授業内容
日本語表現Ⅰは大学生活や社会生活において必要とされる論述文の基礎を身につけることを目的とする。授業において資料の探し方・引用の仕方などの技術的なこと、また論理的な文章にするための思考の方法などを学び、レポートを作成する。自分と異なる考えを持つ人にかわりやすく正解に伝えるにはどうすればいいのか。学期を通し、他者を意識し多角的な視点から自分自身の思考を深めることを目指してほしい。
なお、授業内容は、場合によって変更することがある。
第１回　イントロダクション・レポートとは何か
第２回　ブレインストーミング
第３回　論点を決める
第４回　図書館利用・資料の選び方
第５回　パラグラフライティング
第６回　構成を考える・アウトライン作成
第７回　アウトラインピア・書誌情報の書き方
第８回　下書き（1）を書く・引用（１）
第９回　下書き（1）ピア・引用（２）
第10回　論証
第11回　下書き（2）を書く
第12回　レポート下書きピア
第13回　書き言葉を学ぶ
第14回　完成レポート相互評価

３．履修上の注意
・「授業の概要・到達目標」にも示したように、ⅠとⅡの内容ははっきりとは分割せず、また時には学習上の効果を考慮して順序を入れ替えて進める場合もある。従って、Ⅰ・Ⅱの両方を通年で履修する。
・授業時間内にグループで課題に取り組むことがある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
・配布プリント及び、返却課題を見直し、次回の課題の生かせるようにすること。
・レポート作成に向けて、テーマに沿った論文を読むこと。

５．教科書
プリントを配布する。

６．参考書
特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法
提出課題は授業内に解説、あるいはコメントをつけて返却する

８．成績評価の方法
課題・完成レポート・平常点を総合的に評価する。そのため授業に出席し、課題をきちんと作成し、レポートを完成させることが求められる。
課題60%　レポート30%　平常点（授業への取り組み）10%

９．その他
・毎回の授業の内容を積み重ねていくことで、最終レポートにつながる。講義を一方的に聞くのではなく、積極的に取り組むことが求められる。
・授業内での課題及び、レポートの向けての課題は締め切りを守ること。
・グループに分かれて課題に取り組む場合や、ペアになってお互いの文章を検討する場合がある。

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅰ

２単位	１年次	川島　みどり

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
私たちは日々の生活の中で，日本語で表現された様々な文章を読み，日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は，他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み，「レポート」や「卒業論文」を執筆する。
それでは，「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも，なぜ，大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？
「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では，説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば，大学卒業後に出会う，自分とは異なる考えや経験，背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し，自分の考えをそれらの人々に論理的に，わかりやすく伝えることができるようになる。
具体的には，まず，論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び，自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い，他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお，論述文に加えて，小説，評論，随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。
「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって，言葉を介して他者の考えを理解し，自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。
【到達目標】
論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で，説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

２．授業内容
日本語表現Ⅰは、大学生活や社会生活において必要不可欠な論述文の基礎を身につけることを目的としている。論述文を書くためには、自分の意見を他者に説得力をもって伝える力が必要となる。そのため、半期を通して、明快な文章の書き方、資料検索や引用方法など技術的な面はもちろん、どのように論を立てるかといった思考法も含め、論文・レポートの基礎を学び、4000字程度のレポート作成を行う。
履修者は、ペアワーク・グループワークでの議論を通して、他者の意見に耳を傾けつつ、自分の意見を練り上げていくという貴重な体験をすることになるだろう。一つの意見をまとめるためには、文章を読み、考え、書く作業を繰り返す。その中で、私たちを取り巻く社会の多様性をより深く認知し、「私の問題」として物事を「深く考える」ことを習慣づけてほしい。この授業に参加することで、問題と真摯に向き合い、自分の意見を明確に述べられるようになることが目指される。また、日本社会や国際社会と向き合う日本語使用者として「ことば」への関心を高め、自身の内面・思考をより豊かなものにするとともに、他者との円滑なコミュニケーションスキルを養おう。
第１回　aのみ イントロダクション
第２回　論述文とは何か（文章表現の基礎を学ぶ）
第３回　図書館活用法
第４回　論述文を読む・要約文
第５回　問題発見シート作成・テーマ発表
第６回　パラグラフアウトライン作成・仮目次作成
第７回　資料検索・収集・引用のレッスン
第８回　序章作成
第９回　レポート中間報告・意見交換
第10回　引用と論理展開
第11回　反論の構造
第12回　論述文における正確さ・悪文訂正
第13回　レポート下書き作成・推敲
第14回　レポート完成　相互評価

３．履修上の注意
「授業の概要・到達目標」にも示したように、ⅠとⅡの内容ははっきりとは分割せず、また時には学習上の効果を考慮して順序を入れ替えて進める場合もある。従って、Ⅰ・Ⅱの両方を通年で履修する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回、資料収集や文献レポートなど、次回授業までの課題を提示する。レポート完成のために必要なステップなので、積極的に取り組んでもらいたい。

５．教科書
特に定めない。各回、参考資料プリントを配付する。

６．参考書
『この1冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本』 石黒圭（日本実業出版社）
『大人のための国語ゼミ』 野矢茂樹（山川出版社）

７．課題に対するフィードバックの方法
各課題に関する講評を授業内で行う。また、論文作成等の課題に関しては、随時Oh-o! Meijiを通して個別にフィードバックを行うので、確認をしてほしい。

８．成績評価の方法
各授業提出課題、期末レポート、出席状況、授業への取り組み（リアクションシートや授業内の発言）などを総合的に評価する。
各課題提出　40%、出席・授業への取り組み　30%、期末レポート30%
科目の性質上、講義を一方的に聞くだけでは成り立たない。授業における到達目標を達成するためには、授業にきちんと出席し、課題提出やグループワークなど、積極的な取り組みが要求される。継続的かつ意欲的に参加してもらいたい。

９．その他

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅰ

２単位	１年次	熊澤　真沙歩

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
私たちは日々の生活の中で，日本語で表現された様々な文章を読み、日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は，他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み、「レポート」や「卒業論文」を執筆する。
それでは、「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも、なぜ、大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？
「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では，説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば、大学卒業後に出会う、自分とは異なる考えや経験、背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し、自分の考えをそれらの人々に論理的に、わかりやすく伝えることができるようになる。
具体的には、まず、論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び、自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い、他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお、論述文に加えて、小説、評論、随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。
「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって、言葉を介して他者の考えを理解し、自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。
【到達目標】
論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で、説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

２．授業内容
「書くこと」に焦点を絞る本授業では、論述文作成に向けて、どのように自分の思考を組み立て、論述文にすればよいのかを以下のような段階を踏みながら学習する。
第１回：イントロダクション：論述文を「書く」とは
第２回：論述文の構成要素を理解する
第３回：論証の技術を身につける
第４回：論点・仮説を組み立てる
第５回：文献を用いて調査する（図書館実習）
第６回：引用の仕方を学習する
第７回：アウトラインを作成する（1）
第８回：アウトラインを作成する（2）
第９回：レポートの構想を発表する（1）
第10回：レポートの構想を発表する（2）
第11回：パラグラフ・ライティングを行う
第12回：文章を推敲する
第13回：論述文作成の流れを振り返る
第14回：レポートを相互評価する
なお、各回の授業の詳細は、履修者の人数や学習状況などに応じて変更することがある。

３．履修上の注意
・日本語表現Ⅱの履修には、日本語表現Ⅰの修得が必要である。
・国籍や人種、ジェンダー等の属性によって学生を分け隔てることはしないという方針に同意したうえで履修する。
・授業時間内にグループワークに取り組むことがある。
・教員との連絡には、Oh-o! Meiji システムのアンケート機能を用いること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
・ほぼ毎回の授業で課題を出す。最低１回の個別発表がある。課題や発表が課された場合には、期日までに必ず準備を行うこと。
・やむをえず欠席した場合には、Oh-o! Meijiシステムから授業プリントをダウンロードし、各回の課題や次回授業に備えること。

５．教科書
特になし。

６．参考書
・戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』（NHKブックス954、2009年）
・木下是雄『レポートの組み立て方』（筑摩書房、ちくまライブラリー 36、1990年）
・飯田祐子・小平麻衣子編『ジェンダー×小説 ガイドブック 日本近現代小説の読み方』（ひつじ書房、2023年）

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中に口頭で講評や解説を行うほか、一部の課題に関しては個別にコメントや添削付きのファイルを返却する。

８．成績評価の方法
授業への参加度、各回の課題、および期末レポートを、概ね以下の割合で評価する。
・授業への参加度 20%
・各回の課題 40%
・期末レポート 40%
なお、期末レポート未提出の者は不合格とする。また、課題、レポートともに指定した方法以外で提出することは認めない。

９．その他
特になし。

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅱ

2単位	1年次	吉野　泰平

1．授業の概要・到達目標

本授業は、日本語の文章を精緻に読みとる方法を身につけることを目標とする。現在の学問状況は、一つの学問分野が自立して知を生みだすというよりはむしろ、さまざまな分野の研究者が協働して知を練り上げていく。そのため、社会科学分野に属する研究者が文学作品･研究を読み、文学研究者が歴史学や情報学の知見を得ている。自らの研究にかかわる文章にくわえて異分野の成果に触れることは、共同研究を可能にするのみならず、思いもよらぬかたちで自らの主張の構築に有益な方法論や知見をもたらすこともある。本授業では、社会学、情報学、文学、哲学などの文章表現を読むことで、筆者の問いとそれへの意味づけや書きぶり、同時代における位相を解釈する。そして、それぞれの文章表現にたいして自らの考えを口頭で発表したり、論述する練習を重ねる。参加者それぞれが、多様な意見を交錯させながら、文章に対する解釈を深化・多様化していくことが期待される。

2．授業内容

本授業では日本語を「読むこと」、特に論述文、および小説の文章に焦点を絞り、それぞれの形式的な特徴をふまえたうえで、それらを適切に読解し、批評する方法を学ぶ。

私たちが日常的に接する日本語の文章には、メールや手紙、広告、新聞やウェブサイトのニュース記事、学術論文や文学作品に至るまで、様々な形式がある。それらの文章はそれぞれ書かれた目的が異なり、また、それに応じて読み方も異なっている。そのため、それぞれの文章形式の特徴を把握しておくことは、読解に必須の条件ともいえる。ただし、それらの文章は、形式に応じた共通の読み方がある一方で、読む人によって受け取り方が異なるものでもある。それらの違いをもとに互いの考えを深めていくためには、自分とは異なる他者の解釈を正確に理解したうえで、自らがどのように解釈したのかをわかりやすく相手に伝えることが必要となるだろう。

そこで、本授業では、論述文の読解の方法を学習したうえで、学んだ概念を用いながら論述文を執筆する。そのことを通して、文章を読解し、社会の事象や文学をめぐる自らの解釈を表現する方法を身につけることが、本授業の目的である。

第１回：イントロダクション
第２回：社会科学・人文科学の論述文を読む①
第３回：社会科学・人文科学の論述文を読む②
第４回：社会科学・人文科学の論述文を読む③
第５回：社会科学・人文科学の論述文を読む④
第６回：期末レポートの構想と調査
第７回：アウトラインを作成する
第８回：文章の構造を読み解く
第９回：レポートの構想を発表する
第10回：論証方法を学習する
第11回：反論方法を学習する
第12回：レポート全体を読み返し推敲する
第13回：レポートの相互批評を行う
第14回：1学期の学習内容を振り返る
なお、授業の詳しい内容は状況に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

「1.授業の概要・到達目標」にも示したように、ⅠとⅡの内容ははっきりとは分割せず、また時には学習上の効果を考慮して順序を入れ替えて進める場合もある。したがって、Ⅰ・Ⅱの両方を通年で履修することが望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・授業で宿題が課されることがある。宿題や発表が課された場合には、次週の授業の前にかならず準備を行うこと。
・授業時間内にグループで課題に取り組むことがある。

5．教科書

特に定めない。授業内でプリントを配布する。

6．参考書

適宜指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業内において口頭またはコメント記入の形で行う。

8．成績評価の方法

毎回の授業への取り組みと課題提出、および期末レポートの内容を以て評価する。
・授業への取り組み・課題　60%
・学期末レポート　40%
なお､学期末レポート未提出の者は不合格とする。また､課題､レポートともに指定した方法以外で提出することは認めない。

9．その他

連絡先アドレス：taihe.yoshino@gmail.com

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅱ

2単位	1年次	内藤　まりこ

1．授業の概要・到達目標

【授業の概要】

私たちは日々の生活の中で，日本語で表現された様々な文章を読み，日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は，他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み，「レポート」や「卒業論文」を執筆する。

それでは，「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも，なぜ，大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？

「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では，説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば，大学卒業後に出会う，自分とは異なる考えや経験，背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し，自分の考えをそれらの人々に論理的に，わかりやすく伝えることができるようになる。

具体的には，まず，論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び，自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い，他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお，論述文に加えて，小説，評論，随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。

「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって，言葉を介して他者の考えを理解し，自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。

【到達目標】

論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で，説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

2．授業内容

秋学期は「読むこと」に焦点を絞り、論文を中心とするさまざまな日本語での文献を読み解く技術を身につける。その上で自ら研究対象を選び、授業で体得した日本語の文章の読解技術を用いてレポートを執筆する。

第１回　イントロダクション・春学期のレポートに関する個別講評（１）
第２回　学期末レポートの課題に提示される概念理解・春学期のレポートに関する個別講評（２）
第３回　文献批判の方法の体得（１)・春学期のレポートに関する個別講評（３）
第４回　文献批判の方法の体得（２)・春学期のレポートに関する個別講評（４）
第５回　文献批判の方法の体得（３)・春学期のレポートに関する個別講評（５）
第６回　文献批判の方法の体得（４)・学期末レポート構想発表（１）
第７回　論証の組み立て方の学習（１)・学期末レポート構想発表（２）
第８回　論証の組み立て方の学習（２)・学期末レポート構想発表（３）
第９回　論証の組み立て方の学習（３)・学期末レポート構想発表（４）
第10回　アウトラインの書き方の復習
第11回　パラグラフ・ライティングの復習
第12回　文献引用の方法の復習
第13回　学期末レポートの草稿完成
第14回　学期末レポートの相互批評

3．履修上の注意

・　日本語表現Ⅱの履修には、日本語表現Ⅰの修得が必要である。
・　授業時間内にグループで課題に取り組むことがある。
・　毎回の授業で宿題が課される。宿題や発表が課された場合には、次週の授業の前にかならず準備を行うこと。
・　欠席した場合には、Oh Meijiから授業プリントをダウンロードし、次回授業に備えること。
・　多くの課題が設定されるので、授業外で相当の時間と労力をかける必要のある"タイパ"の悪い授業である。こうした負荷の高い授業であるが、課題に取り組むことを厭わず、真剣に取り組んでいた過去の受講生は著しい成長を遂げていた。論理的な思考を組み立て、説得力あるレポートや論文を書けるようになるために相当の努力を継続する意思のある学生にのみ受講をすすめる。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

・ほぼ毎回の授業で宿題が課される。宿題や発表が課された場合には、次週の授業の前にかならず準備を行うこと。

5．教科書

授業内でプリントを配布する。

6．参考書

・　戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』NHKブックス954、2009年
・　鹿島茂『勝つための論文の書き方』文藝春秋、2003年
・　木下是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房、ちくまライブラリー 36、1990年

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパー、メール、個別面談

8．成績評価の方法

以下の要素を以て評価する。
・課題提出及び発表　50%
・学期末レポート　50%
(学期末レポートの未提出者は不合格とする。指定した方法以外での提出は認めない。)

9．その他

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅱ

2単位	1年次	乗木　大朗

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
私たちは日々の生活の中で、日本語で表現された様々な文章を読み、日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は、他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み、「レポート」や「卒業論文」を執筆する。
それでは、「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも、なぜ、大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？
「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では、説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば、大学卒業後に出会う、自分とは異なる考えや経験、背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し、自分の考えをそれらの人々に論理的に、わかりやすく伝えることができるようになる。
具体的には、まず、論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び、自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い、他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお、論述文に加えて、小説、評論、随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。
「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって、言葉を介して他者の考えを理解し、自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。

【到達目標】
論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で、説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

2．授業内容
秋学期は「読むこと」に焦点を絞り、さまざまな日本語での文献を読み解く技術を身につけます。その上で自ら研究対象を選び、授業で体得した日本語の文章の読解技術を用いてレポートを執筆します。とくに、人文学（諸芸術を含む）を学びながら、その今日的意義と可能性を考える時間にしたいと思います。

第１回　導入――春学期の確認と秋学期の展望
第２回　人文学（を学ぶこと）の意義
第３回　詩を読む
第４回　ルポルタージュを読む（１）
第５回　ルポルタージュを読む（２）
第６回　小説を読む（１）
第７回　小説を読む（２）
第８回　小説を読む（３）
第９回　レポートの構想発表
第10回　パラグラフ・ライティング、論証の準備
第11回　人文学・社会科学の論文を読む（１）
第12回　人文学・社会科学の論文を読む（２）
第13回　人文学・社会科学の論文を読む（３）
第14回　レポートの相互批評、全体総括

＊学習効果を高めるために、履修者の人数や学習状況などに応じて、授業内容を変更することがあります。

3．履修上の注意
・「日本語表現Ⅱ」の履修には、「日本語表現Ⅰ」の修得が必要です。(「日本語表現Ⅰ」（春学期）と横断的に進行します。)
・授業時間内にグループで課題に取り組むことがあります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の授業で課題が課されます。課題や発表が課された場合には、必ずすべて準備を行ったうえで次回授業に臨むこと。

5．教科書
とくに定めません。プリントを配布します。

6．参考書
・河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第4版』(慶應義塾大学出版会、2018)
・小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書、2018)
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第3版』(慶應義塾大学出版会、2019)
・戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK ブックス、2022)
上記はいずれも、「日本語表現Ⅰ」と同じ。そのほか、適宜授業内に指示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業の冒頭に、前回提出分の課題について、全体で共有しフィードバックを適宜行います。

8．成績評価の方法
参加姿勢30%、各回の課題30%、学期末レポート40%を中心に、総合的に判断します。欠席が全授業回数の３分の１を超過した場合、単位不可とします。また、期末レポート未提出の場合も、出席日数や課題の達成水準にかかわらず単位を認定しません。

9．その他
とくになし。

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅱ

2単位	1年次	仲瀬　志保美

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
現在の学問状況は、一つの学問分野が自立して知を生みだすというよりはむしろ、さまざまな分野の研究者が協働して知を練り上げていく。そのため、社会科学分野に属する研究者が文学作品・研究を読み、文学研究者が歴史学や情報学の知見を得ている。自らの研究にかかわる文章にくわえて異分野の成果に触れることは、共同研究を可能にするのみならず、思いもよらぬかたちで自らの主張の構築に有益な方法論や知見をもたらすこともある。本授業では、社会学、情報学、文学、哲学などの文章表現を読むことで、筆者の問いとそれへの意味づけや書きぶり､同時代における立相を解釈する。そして、それぞれの文章表現にたいして自らの考えを発表したり、論述したりする練習を重ねる。参加者それぞれが、多様な意見を交錯させながら、文章に対する解釈を深化・多様化していくことが期待される。
【到達目標】
「読むこと」に焦点を絞る本授業では、さまざまな形式による日本語表現の読解を通じて、日本語を取り巻く多様なテーマについて考察する。さらに、自らの思考を複数の表現形式にまとめる実践を行うことで、読解という営為に異なる角度から光を当てる。とりわけ、本授業は、日本語の文章を精緻に読みとる方法を身につけることを目標とする。

2．授業内容
日本語Ⅱは読解を中心とした授業となる。文学作品・論説文の読解を通し、感想ではなく、問題意識をもち、文章を批評することを目指す。また、文章の享受のしかたは人によって異なる。様々な解釈の可能性を見つけ、自分の考えを深めていってほしい。また春学期の授業を踏まえて、課題図書の解釈レポートを作成する。
なお、授業内容は、場合によって変更することがある。
第１回　イントロダクション（〈読む〉とは何か）/自由な読みの可能性を探る
第２回　ブックレビュー作成
第３回　質問・反論の仕方
第４回　文学作品を読む（1）
第５回　文学作品を読む（2）・資料の検索
第６回　文学作品を読む（3）・レポートの論点を考える
第７回　文学作品を読む（4）・構成を考える・アウトライン作成
第８回　文学作品を読む（5）・アウトラインピア
第９回　下書き（1）を書く・人文科学系の引用のルールを学ぶ
第10回　下書き（1）ピア・わかりやすい文章を書く（１）
第11回　下書き（2）を書く・わかりやすい文章を書く（２）
第12回　下書き（2）ピア・接続詞の練習
第13回　レポートの推敲
第14回　完成レポート相互評価

3．履修上の注意
・「授業の概要・到達目標」にも示したように、ⅠとⅡの内容ははっきりとは分割せず、また時には学習上の効果を考慮して順序を入れ替えて進める場合もある。従って、Ⅰ・Ⅱの両方を通年で履修する。
・授業時間内にグループで課題に取り組むことがある。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
・配布プリント及び、返却課題を見直し、次回の課題の生かせるようにすること。
・レポート作成に向けて、テーマに沿った論文を読むこと

5．教科書
プリントを配布する。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

8．成績評価の方法
課題・完成レポート・平常点を総合的に評価する。そのため授業に出席し、課題をきちんと作成し、レポートを完成させることが求められる。
課題60%　レポート30%　平常点（授業への取り組み）10%

9．その他
・毎回の授業の内容を積み重ねていくことで、最終レポートにつながる。講義を一方的に聞くのではなく、積極的に取り組むことが求められる。
・授業内での課題及び、レポートの向けての課題は締め切りを守ること。
・グループに分かれて課題に取り組む場合や、ペアになってお互いの文章を検討する場合がある。
・日本語表現Ⅱの履修には、日本語表現Ⅰの修得が必要である。

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅱ

２単位	１年次	川島　みどり

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
私たちは日々の生活の中で，日本語で表現された様々な文章を読み，日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は，他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み，「レポート」や「卒業論文」を執筆する。
それでは，「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも，なぜ，大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？
「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では，説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば，大学卒業後に出会う，自分とは異なる考えや経験，背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し，自分の考えをそれらの人々に論理的に，わかりやすく伝えることができるようになる。
具体的には，まず，論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び，自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い，他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお，論述文に加えて，小説，評論，随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。
「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって，言葉を介して他者の考えを理解し，自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。
【到達目標】
論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で，説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

２．授業内容
日本語表現Ⅱは読解を中心にした科目である。この授業は、単に文学作品を読むことが目的ではなく、小さな疑問を見過ごさずに追究する姿勢を養うことを主眼とする。素材となる作品から問題を見出し、自分の意見を構築する能力を養う。授業では、映像・小説・評論など多様な作品を取り上げ、多角的な解釈の可能性を学ぶ。単なる内容把握から一歩進んで、対象と深く向き合い、思考・批評し、自分の意見を確立する力を育てよう。
授業後半では、課題図書を深く読み込み、各自が説得力のあるひとつの見解を示す４０００字レポートを作成することになる。また、自分の意見を構築するにあたり、他者の視点は不可欠である。グループワークを通して、多くの人の意見に触れ、深く広く物事を把握していこう。読解は、多様な価値観との出会いでもある。自分を取り巻く社会構造を相対化し、異文化及び自国文化への関心を高めることにもつながるだろう。この授業を通して広い視野を獲得し、自分の思考を構築してもらいたい。
第１回　読解とは何か　短編を味わう
第２回　文章読解における情報の価値とは　映像表現から考える
第３回　映像を読む
第４回　文学作品を読む①
第５回　文学作品を読む②
第６回　a: レポート作成の基礎を確認する　b:レポートテーマ発表
第７回　a: 文学作品を読む③　b:レポートの構想・パラグラフアウトライン作成
第８回　a: 文学作品を読む④　b:レポート中間発表
第９回　a: 反論について　b: 論文作成
第10回　a: 引用のレッスン（復習）　b:論文作成
第11回　論文作成
第12回　論文作成
第13回　悪文訂正・推敲
第14回　aのみ 完成レポート相互評価

３．履修上の注意
「授業の概要・到達目標」にも示したように、ⅠとⅡの内容ははっきりとは分割せず、また時には学習上の効果を考慮して順序を入れ替えて進める場合もある。従って、Ⅰ・Ⅱの両方を通年で履修する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
各回、資料収集や文献レポートなど、次回授業までの課題を提示する。レポート完成のために必要なステップなので、積極的に取り組んでもらいたい。

５．教科書
特に定めない。各回プリントを配付する。

６．参考書
『この1冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本』 石黒圭（日本実業出版社）
『大人のための国語ゼミ』 野矢茂樹（山川出版社）

７．課題に対するフィードバックの方法
授業内で課題の講評を行う。また、論文作成の課題については、随時Oh-o! Meijiを通して個別にフィードバックを行うので、確認をしてほしい。

８．成績評価の方法
各授業提出課題、期末レポート、出席状況、授業への取り組み（リアクションシートや授業内の発言）などを総合的に評価する。
課題提出　40%、出席・授業への取り組み　30%、期末レポート30%
科目の性質上、講義を一方的に聞くだけでは成り立たない。授業における到達目標を達成するためには、授業にきちんと出席し、課題提出やグループワークなど、積極的な取り組みが要求される。継続的かつ意欲的に参加してもらいたい。

９．その他
日本語表現Ⅱの履修には、日本語表現Ⅰの修得が必要である。

科目ナンバー：(IC)LIN131J

日本語表現Ⅱ

２単位	１年次	熊澤　真沙歩

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
私たちは日々の生活の中で，日本語で表現された様々な文章を読み、日本語で文章を書いている。とりわけ大学生は，他者が著した「(学術) 論文」と呼ばれる文章を読み、「レポート」や「卒業論文」を執筆する。
それでは、「論文」や「レポート」とはどのような性質を持つ日本語表現なのだろうか？「論文」や「レポート」はどのように書けばよいのだろう？そもそも、なぜ、大学では「論文」や「レポート」という文章を書かなければならないのだろう？
「論文」や「レポート」は学術的な研究方法や意義に基づいて自分の意見の妥当性を論理的に証明する「論述文」と呼ばれる日本語表現である。本授業では，説得力のあるレポートの書き方と他者の執筆した論文の読解の仕方を実践的に学習する。論文やレポートに代表される論述文についての理解を深めることができれば、大学卒業後に出会う、自分とは異なる考えや経験、背景を持つさまざまな人々の考え方を的確に理解し、自分の考えをそれらの人々に論理的に、わかりやすく伝えることができるようになる。
具体的には、まず、論述文の構成要素やアウトラインの作り方を学び、自らが立てた問い（論点）に対する仮説の妥当性を論証するという論述文の論理の組み立て方を学習する。次に自らが立てた論点に対する仮説に基づき調査や分析を行い、他の受講生との議論や教員からの指導を通じて仮説の妥当性を検証する。最後に論理的な議論の流れを組み立てて学期末レポートを書き上げる。なお、論述文に加えて、小説、評論、随筆などの日本語表現を分析対象としてレポートを執筆する場合もある。
「論述文」を中心とする日本語表現の読み方・書き方を学ぶことによって、言葉を介して他者の考えを理解し、自らの考えを他者に伝えるという社会人に必須の言語能力を養っていただきたい。
【到達目標】
論述文を中心とする日本語表現の読み書き能力を体得した上で、説得力のあるレポートや卒業論文を書き上げられるようになること。

２．授業内容
「読むこと」に焦点を絞る本授業では、日本語表現の読解を通じて、どのように自分の思考を組み立て、論述文にすればよいのかを学習する。論述文作成に向けた情報収集と分析の方法を実践する。
第１回　イントロダクション:論述文を「読む」とは
第２回　小説を読む（1）
第３回　小説を読む（2）
第４回　書評を読む
第５回　論述文を読む（1）
第６回　論述文を読む（2）
第７回　論述文を読む（3）
第８回　アウトラインを作成する（1）
第９回　アウトラインを作成する（2）
第10回　序論を作成する
第11回　本論を作成する
第12回　結論を作成する
第13回　レポートの内容を発表する
第14回　レポートの推敲を行う
なお、各回の授業の詳細は、履修者の人数や学習状況などに応じて変更することがある。

３．履修上の注意
・日本語表現Ⅱの履修には、日本語表現Ⅰの修得が必要である。
・国籍や人種、ジェンダー等の属性によって学生を分け隔てることはしないという方針に同意したうえで履修する。
・授業時間内にグループワークに取り組むことがある。
・教員との連絡には、Oh-o! Meiji システムのアンケート機能を用いること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
・ほぼ毎回の授業で課題を出す。最低１回の個別発表がある。課題や発表が課された場合には、期日までに必ず準備を行うこと。
・やむをえず欠席した場合には、Oh-o! Meijiシステムから授業プリントをダウンロードし、各回の課題や次回授業に備えること。

５．教科書
特になし。

６．参考書
・戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』（NHKブックス954、2009年）
・木下是雄『レポートの組み立て方』（筑摩書房、ちくまライブラリー 36、1990年）
・飯田祐子・小平麻衣子編『ジェンダー×小説 ガイドブック 日本近現代小説の読み方』（ひつじ書房、2023年）

７．課題に対するフィードバックの方法
授業中に口頭で講評や解説を行うほか、一部の課題に関しては個別にコメントや添削ファイルを返却する。

８．成績評価の方法
授業への参加度、各回の課題、および期末レポートを、概ね以下の割合で評価する。
・授業への参加度20%
・各回の課題 40%
・期末レポート 40%
なお、期末レポート未提出の者は不合格とする。また、課題、レポートともに指定した方法以外で提出することは認めない。

９．その他
特になし。

クリエイション科目

科目ナンバー：(IC)ART131J

演劇学

2単位	1年次	中野　正昭

1．授業の概要・到達目標

人間は社会的動物だとされている。本授業では〈演劇〉を媒介としながら社会的なコミュニケーションの特性と機能を実践的に学習する。

具体的には、履修者が10人程のチームに分れ、各チームで演劇作品の制作プロジェクトを完遂する。制作にあたってはチーム内で各自の役割（台本、演出、演者）を決め、台本を作成し、稽古を繰り返し､最終的に上演（発表）を行う。発表後は各チーム内また他のチームと相互に合評会を行う。学期全体を通じて各自が発言、意見交換、討議、折衝、表現を重ねながら、集団作業に不可欠の様々なコミュニケーションを体験する。

なお、本授業の目標は演劇制作（集団作業）を手段とした社会的コミュニケションの理解及びその能力の向上であって、創作性や表現力を主体とする芸術的コミュニケーションではない。従って、演劇作品の芸術的な完成度ではなく、その過程を最も重視する。

2．授業内容

授業は〈準備作業〉〈台本作業〉〈上演作業〉の三つの段階を経ながら本番に向けて進めていく。毎回、チームでディスカッションとワーキング作業を重ねていくので、積極的に参加することが重要である。

準備作業
1．イントロダクション
2．グループ分け、各自の役割決定

台本作業
3．テーマと内容を考える
4．台詞の工夫
5．行動の工夫
6．条件・環境に応じた工夫
7．台本の修正
8．台本の完成

上演作業
9．見せる／見られる工夫
10. 稽古①
11. 稽古②
12. 通し稽古
13. 発表①
14. 発表②、合評会

3．履修上の注意

各自に授業外学習が必要なので、それを理解した上で履修すること。
欠席や遅刻はチームワークを乱し、他メンバーの迷惑になるので注意すること。
充分な理由なき欠席や遅刻は減点対象とする。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

各自が授業外学習として①台本担当は執筆、②演者は台詞覚え・所作の工夫、③演出担当は全体の進捗の把握等の作業を行う。

5．教科書

実践作業のため、特に教科書は用いない。必要に応じてoh-o meiji!でプリントを配付する。

6．参考書

必要に応じ授業内で紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

演劇発表の評価は学生間の相互採点＋教員の採点とし、採点結果は後日oh-o meiji!を通じてフィードバックを行う。

8．成績評価の方法

作品貢献度（各役割の貢献度と作品そのものの評価）50% +学期末レポート50%から総合的に評価する。
演劇発表（作品そのもの）の評価は学生間の相互採点方式で行う。

成績C評価は60点以上となる。したがって、発表してもレポート未提出、あるいはレポート提出でも発表欠席（特別な理由を除く）の場合は単位は取得できない。また通常の授業欠席は減点とする。台本提出が締め切りに遅れるなど事前に決められたルールが守れなかった場合はチーム全体から減点とする。

9．その他

科目ナンバー：(IC)ART141J

音楽論

2単位	1年次	増野　亜子

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】
人は原始からさまざまな機会に、さまざまな方法で音楽を生み出し、歌ったり、楽器を演奏したり、音とともに踊ったり、働いたり、眠ったりしてきた。世界中の人間にとって音楽は楽しみであるだけでなく、互いにコミュニケーションしながら生活し、社会を構築する上で重要な行為なのである。

この授業では講義形式で、視聴覚資料を参照し、さまざまな地域・時代の音楽及び音の文化を事例として扱いながら、人間と音楽、音楽と社会の関係について考える。具体的には(1)音楽は人々の生活や社会のあり方、宗教、世界観、思考方法や価値観をどのように反映し、あるいはそれらを形成してきたのか、(2)世界各地で伝承され、実践されているローカルな音楽文化は、相互にどのようなつながりをもっているのか、といった問いを考察する。 講義では狭義の「音楽」だけでなく、舞踊や芸能、儀礼などを含む、音響的な文化を幅広く扱う。また、授業では現代日本や欧米のポピュラー音楽や西洋クラッシック音楽以外の、世界の多様な音楽文化を積極的にとりあげる。授業を履修していなかったら出会わなかったかもしれない、未知の音楽や舞踊に触れ、その文化的な背景を探ることは異文化や多様な世界観を理解する糸口にもなり、また自身の音楽観を更新する機会にもなるはずだ。

【到達目標】
(1) 世界の多様な音楽文化に触れ、開かれた感性を身につける
(2) 音を受動的に聴いて楽しむだけでなく、学問の対象として知的に考察する視点を得る
(3) 音楽と社会の多様な関係性について幅広い事例を理解する

2．授業内容

第一回　音楽を文化として理解する
第二回　皆で歌うこと
第三回　音楽と宗教① イスラムの音楽観
第四回　音楽と宗教② ヒンドゥーの音楽観
第五回　音楽と宗教③ 儀礼における音楽と芸能
第六回　楽器の故郷 自然環境と音楽
第七回　楽器の故郷と旅① 琵琶
第八回　楽器の故郷と旅② 中南米
第九回　軍隊と音楽
第十回　音楽は役に立つ：バリの音楽と社会
第十一回　舞踊も役に立つ：ジャワの舞踊と社会
第十二回　音楽における「ローカル」と「グローバル」
第十三回　音と身体
第十四回　音楽とは何か

3．履修上の注意

この授業は基本的に講義形式である。履修に際して五線譜の解読力や楽器の演奏能力等は問わない。
講義の順番やタイトルは部分的に変更することがある。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：回ごとに指定する教科書のテキストに事前に目を通しておくこと
復習：講義中に紹介する動画やテキスト等を各自で視聴することが望ましい。
予習と復習を含めた授業時間外学習時間の目安は1時間程度である

5．教科書

特になし

6．参考書

徳丸吉彦監修・増野亜子編『民族音楽学12の視点』音楽之友社

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji上でリアクションや質問を受け付け、次回講義時に口頭でフィードバックする。

8．成績評価の方法

定期試験100%

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（ジャーナリズム）

２単位	１年次	**小田　光康**

１．授業の概要・到達目標
この授業は情報コミュニケーションのプロフェッショナルとしてのジャーナリストのコミュニケーション様式を学習することを主目的とする。国内外の重大事件・事故を題材としたワークショップを実施したうえで、これに関するドキュメンタリー映画を鑑賞し、ジャーナリズム分野のクリエイティブなコミュニケーション様式の概要を習得することを到達目標とする。
　ジャーナリズムのテーマとしては日本国内で最大の人為的な事故だった「日航ジャンボ機墜落事故」と、国内最大級の災害であった「阪神淡路大震災」、そして世界的な調査報道の金字塔として知られる「ペンタゴン・ペーパーズ事件」と「ウォータゲート事件」を扱う。

２．授業内容
第１回　イントロダクション：授業の目的、意義、方法、採点方法などについての説明
第２回　ジャーナリズムの基礎知識、ワークショップの進め方と発表方法、課題割り振りとグループ分け
第３回　課題プレゼンテーション発表会（日航ジャンボ機墜落事故）
第４回　映画『クライマーズハイ』にみる報道現場での記者のコミュニケーション（前半）
第５回　映画『クライマーズハイ』にみる報道現場での記者のコミュニケーション（後半）
第６回　課題プレゼンテーション発表会（阪神淡路大震災）
第７回　映画『阪神・淡路大震災から15年　神戸新聞』にみる取材報道現場での記者の葛藤（前半）
第８回　映画『阪神・淡路大震災から15年　神戸新聞』にみる取材報道現場での記者の葛藤（後半）
第９回　課題プレゼンテーション発表会（ペンタゴンペーパーズ事件）
第10回　映画『ペンタゴンペーパーズ』にみる取材報道現場での記者の調査活動（前半）
第11回　映画『ペンタゴンペーパーズ』にみる取材報道現場での記者の調査活動（後半）
第12回　課題プレゼンテーション発表会（ウォータゲート事件）
第13回　映画『大統領の陰謀』にみる取材報道現場での記者の取材源の秘匿行動（前半）
第14回　映画『大統領の陰謀』にみる取材報道現場での記者の取材源の秘匿行動（後半）、まとめ

３．履修上の注意
授業は各自の時事問題に関する基礎知識を前提としている。グループによるワークショップ形式授業なので新聞・テレビの主な報道の知識がないと協働学習はおろか、他の学生の成績面にも悪影響を及ぼすので、必ず準備して授業に臨むこと。また、ワークショップに積極的に参加し、他の学生と協力して学習を進めることが絶対的に求められていることを自覚すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
新聞記事やテレビのニュース番組は毎日必ず読んだり、観ておくこと。

５．教科書
特になし

６．参考書
特になし

７．課題に対するフィードバックの方法
テーマ発表や討論会の内容について参加した学生や教員からの質疑やコメントでフィードバックします。

８．成績評価の方法
毎回の授業の個人小レポート50%、グループ発表とその資料提出50%の２つで成績評価を行う。また授業の出席は単位修得の前提条件なので、授業の欠席が多い者はその時点で失格とする。

９．その他
2016年度以前入学生は原則、コミュニケーション基礎１の単位を修得していない者のみ履修可。
また、春学期・秋学期の連続履修は不可。

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（認知心理学）

２単位	１年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
(概要)
大学では、社会はどうあるべきか、人間は本来どのような存在なのかなどと、「大きなこと」を考える場です。ぜひ学生の皆さんで日常的に、率先して社会や人間について議論をかわしてもらいたいものです。そうした議論が出やすい雰囲気が学部内に高まってくることを希望しています。こうした背景のもと本講義では、認知心理学の諸テーマに触れ、それを通して協働学習の経験を積んでいきます。
(目標)
認知心理学のテーマについて、グループで議論して成果を発表します。自分自身を含めて人間について基礎的な知識を習得すること、そして、仲間との議論を通して深い理解に至る方法を学ぶことが、本授業の目標になります。

２．授業内容
クリエイティブ・コミュニケーション（認知心理学）
１）イントロダクション：授業の目的、意義、方法の確認
２）恐怖と不安
３）怒りと罪悪感
４）愛情と友情
５）好きと嫌い
６）嫉妬と後悔
７）自己呈示欲と承認
８）楽しさと笑い
９）悲しみと希望
10）信奉と懐疑心
11）驚きと好奇心
12）名誉と道徳感
13）幸福と無力感
14）記憶と判断

３．履修上の注意
グループによる協働学習を行なっていくので、グループに積極的に参加し、他の学生と協力して学習を進めることが要件になる。
そうした自覚をもって履修申請すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業資料による事前学習を前提としているので、必ず予習をして授業に臨むこと。
自分の勉学意欲をよく確認して履修申請すること。

５．教科書
石川幹人『人は感情によって進化した』ディスカヴァー
授業資料として抜粋して配布するので購入の必要はない。

６．参考書
道又ほか『認知心理学～知のアーキテクチャ』有斐閣
菊池聡『より良い思考の技法』放送大学

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業に加え、オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法
授業ごとの小レポート５割、グループ発表とその資料提出５割で成績評価を行う。
授業の出席は単位修得の前提条件なので、授業の欠席が多い者はその時点で失格とする。

９．その他
担当教員の講義「脳科学」「環境生物学」を受講しているとさらに理解が深まる。

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（社会学）

２単位	１年次	**出口　剛司**

１．授業の概要・到達目標

この授業では、新しい知識を生産するためのコミュニケーションの方法を学修します。具体的には、現代社会にとって重要な社会学的テーマを扱いながら、四つの能力を身につけることを到達目標とします。

１．自分で問いを立て、調べ、考察する能力
２．自らの考察の成果をまとめ、表現し、文章化する能力
３．仲間と議論しながら、自分自身の考察をさらに展開する能力
４．社会学的な視点から現代社会を分析する能力

２．授業内容

＊授業の進捗や参加者の理解度に合わせて変更することがあります。

第１回　クリエイティブ・コミュニケーションとは（知的生産のためのコミュニケーション）
第２回　21世紀はどんな社会か
第３回　自己論から現代社会を考える
第４回　集団と組織
第５回　集合行動と社会不安
第６回　レポートを書くコツを身につける（その１）
第７回　個人化・共同性・公共性
第８回　現代社会とジェンダー
第９回　現代社会における宗教
第10回　レポートを書くコツを身につける（その２）
第11回　情報とコミュニケーション
第12回　高齢化する社会と人間関係
第13回　病と医療の近代
第14回　まとめ

３．履修上の注意

社会学的なテーマを通して、大学で必要とされる考察、表現、討論する能力を身につけることをめざしますが、社会学以外の専門領域に関心をもっている学生も自由に参加できます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の該当箇所をよく読みし、不明な専門用語等については、事典などを使ってあらかじめ調べておきましょう。

５．教科書

船津衛・山田真茂留・浅川達人編著『21世紀社会とは何か』（恒星社厚生閣）

６．参考書

適宜紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出を指示した課題について、提出の翌週もしくは翌々週に全体講評を行う予定です。

８．成績評価の方法

前提として3分の2以上の出席を求めます。平常点50％（授業中指示したプレゼンや成果物）、学期末レポート50％とします。

９．その他

2016年度以前入学生は原則、春学期は「コミュニケーション基礎Ⅰ」、秋学期は「コミュニケーション基礎Ⅱ」の単位を修得していない者のみ履修可。
また、春学期・秋学期の連続履修は不可。

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（フランスと音楽）

２単位	１年次	**宮川　　渉**

１．授業の概要・到達目標

歌はふとした時に口ずさむことがあるように，私たちの生活に密着したものです。その意味で，ある地域の歌やそれが生まれた背景などを学ぶことは，その地域の人々，文化，考え方などを学ぶ上で大変有効であると考えられます。そこで，この授業ではフランス人がよく知っているシャンソンなどを取り上げて，歌詞の意味，作曲された背景などを学びつつ，実際に歌うことにも取り組む予定です。このような授業内容を踏まえて，授業の後半ではグループワークに取り組み，最終的にグループで選択したフランス語の歌、音楽、またはフランス文化に関するプレゼンテーションを行います。この授業では，このような歌、音楽を通じてフランス語，フランス文化への関心・理解を深めることを目標とします。

２．授業内容

１．イントロダクション
２．フランスと音楽（フランス音楽とは？）
３．フランスと音楽（フランスの歌とは？）
４．フランスと音楽（シャンソンの例①）
５．フランスと音楽（シャンソンの例②）
６．フランスと音楽（シャンソンの例③）
７．フランスと音楽（シャンソンの例④）
８．フランス文化（調査1）
９．フランス文化（調査2）
10．フランス文化（調査3）
11．フランス文化（調査4）
12．グループ発表
13．グループ発表
14．グループ発表

３．履修上の注意

講義内容は必要に応じて変更することがあります。フランス語を学んでいる必要はありませんが、語学や芸術分野などに関心がある人にお勧めする授業です。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業で扱う内容を復習し、次の授業内容の予習をすること。また授業で扱う内容、フランスの音楽などについて受講者自身でも調査すること。

５．教科書

特に定めない。

６．参考書

『フランス音楽史』 今谷和徳，井上さつき（春秋社）2010年
『フランス文化辞典』田村毅，塩川徹也，西本晃二，鈴木雅生編（丸善出版）2012年
『ポップ・フランセーフレンチポップスで学ぶフランス語ー』杉村裕史（駿河台出版社）2008年

７．課題に対するフィードバックの方法

課題や授業内容に関する質問や意見については、授業内でフィードバックする。

８．成績評価の方法

授業内での取り組み30％、プレゼン、レポート70％

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（ドイツの映画と音楽）

２単位	１年次	**相原　　剣**

１．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
音楽と映画を中心に、ドイツ語圏の同時代の文化を主要なテーマとします。更に、ファッション、スポーツ、アニメ、ゲームといった馴染みのある分野のトピックを取り上げ、ポップカルチャーの側面から言語圏のイメージを具体的なものにしていきたいと考えております。まずは出来るだけ多様なカルチャーに映像を通して触れていきましょう。
【到達目標】
直接的で身近な興味関心の対象から、歴史認識、環境問題、ダイバーシティ、インクルージョンといったアクチュアルな問題意識へと無理なく架橋していける環境を作りたいと思います。その際、よりリアルで同時代性のある情報収集の方法として、各種SNSに表れる文化事象を客観的・学問的な視座を以て取り扱うメディア・リテラシーの涵養もゼミの目的としたいと思います。映像を含めた各種プレゼンテーション技術を発表の実践のなかで身に着けていきましょう。

２．授業内容
第１回　イントロダクション、方法論の提示、グループワーク（個別テーマの枠組の検討）
第２回　個々の事象の体験・分析とディスカッション（提示例：ドイツの都市と食文化）
第３回　個々の事象の体験・分析とディスカッション（提示例：SNSとドイツ文化）
第４回　テーマ性を帯びた事象の分析とディスカッション（提示例：アートと環境問題）
第５回　グループワーク（個別テーマの枠組の構築）
第６回　グループワーク（作成ツールに関する情報共有とリテラシー）
第７回　グループワーク（個別テーマのブラッシュアップと連携構築）
第８回　グループワーク（個別テーマに対する批判的再検証）
第９回　グループ発表とディスカッション（構築した枠組に沿って）
第10回　グループ発表とディスカッション（構築した枠組に沿って）
第11回　グループ発表とディスカッション（構築した枠組に沿って）
第12回　グループ発表とディスカッション（横断的な分野について）
第13回　グループ発表とディスカッション（横断的な分野について）
第14回　まとめ及び課題に関するフィードバック
提示例は、一例です。個々の事象の体験・分析及びテーマは、皆さんの興味関心に応じて、その都度アップトゥデイトな内容になります。

３．履修上の注意
ドイツの文化に興味のある方の履修を望みます。音楽や映画についての予備知識は全く必要ありません。何よりも必要なものは、「想像力」と「好奇心」です。まず初回のイントロダクションで授業の進め方や目的についての説明を詳細に行います。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
【準備学習の内容】
様々な分野に日々関心を持ち、分からないことを恐れず、分からない事柄があれば、質問をしたり、「検索」をしてみましょう。
【復習すべき内容】
関連の文化事象について、さらに興味の幅を広げていきましょう。日々更新されるツールに関しての情報を精査し、実践的なスキルとリテラシーを身につけていきましょう。

５．教科書
随時プリント等を配布します。特に教科書は使用しません。

６．参考書
特に定めません。

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時間内に随時、個別の講評及び各自の発信の共有を行います。Oh-o! Meiji システムを利用しての補足等も行います。最終授業日には全体講評及び個別講評も行います。

８．成績評価の方法
平常点・授業内の取り組み６０％、発表・課題提出４０％
＊１回１回の授業内での取り組みを重視します。

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（スペイン・スペイン語圏，日本）

２単位	１年次	**結城　健太郎**

１．授業の概要・到達目標
スペイン語圏の広がりと、日本との関係について学び、この地域とそこに住む人々についての理解を深めます。大航海時代(大交易時代)のイベリア半島の国々の海外進出から、地球規模で広がった支配地域との関係、さらにその延長線上にある日本との関係について説明するとともに、現代におけるスペイン語圏と日本のかかわりについて扱い、これらについての知識を身に着けます。

２．授業内容
(受講者の興味や進度により、調整する可能性があります。)

第１回：授業の概要、進め方の説明、スペイン
第２回：スペイン語
第３回：イベリア半島史
第４回：東西交渉史
第５回：ジェノヴァとポルトガル
第６回：ポルトガルの西アフリカ探検
第７回：コロンブスと新大陸
第８回：ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路
第９回：マゼランとエルカノの航海
第10回：ポルトガルのアジア進出
第11回：アステカ王国とインカ帝国の征服
第12回：太平洋の探検
第13回：日本とスペイン・ポルトガル
第14回：スペイン・ポルトガルの時代の終わり、まとめ

３．履修上の注意
この授業では参加を重視するほか、履修者による調査・発表の機会を設けます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業後にレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば質問すること。また、復習用の課題を出題します。

５．教科書
教科書は定めません。レジュメを配布します。

６．参考書
必要に応じて紹介します

７．課題に対するフィードバックの方法
課題・レポート等は評価後に返却、正誤・コメント等を提示します。

８．成績評価の方法
授業への参加を４０％、課題等を３０％、各種テストを３０％として評価します。プレゼンテーション課題を実施した場合は、プレゼン２５％、参加２５％、課題２５％、各種テスト２５％とします。

９．その他
授業担当教員の連絡先はyuki.ken@gmail.comです。授業外でもスペイン語圏に関するニュースや文化に触れようとする積極性を持ってください。

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（行動経済学）

2単位	1年次	後藤　晶

1．授業の概要・到達目標

授業の概要：

行動経済学とは、いわゆる経済学とは異なり、実験や観察を通じて現実の人間の経済行動や意思決定を明らかにする学問であり、日常生活と非常に密接な関連がある。この授業では、ディスカッションおよびライトニングトーク（LT）を通じてコミュニケーション能力の養成を図ると同時に、行動経済学の基礎的な考え方の習得を目的とする。学期の前半では情報の認知が経済的意思決定に与える影響について、表現・直感・利益／損失の観点から検討する。さらに、行動経済学や心理学などの研究が指摘する幸福のあり方についても検討する。学期の後半では複数の主体の意思決定によって得られる結果が相互依存的に変化するゲーム理論的な状況において、理論から予測される行動と実際の人間の意思決定が異なることを実験を通じて学ぶこととする。

到達目標：

a. 積極的にディスカッションに参加することができる。
b. 科学的な根拠に基づいた意見を形成できる。
c. 他者への敬意をもって、意見を伝えることができる。
d. 行動経済学の考え方に基づいた意見をまとめることができる。

2．授業内容

［第1回］イントロダクション
［第2回］「人間」を考える：話題提供
［第3回］「人間」を考える：LT、表現と意思決定：話題提供
［第4回］表現と意思決定：LT、直感と意思決定：話題提供
［第5回］直感と意思決定：LT、利益・損失と人間：話題提供
［第6回］利益・損失と人間：LT、幸福と人間：話題提供
［第7回］幸福と人間：LT、ゲーム理論の考え方
［第8回］ゲーム理論の考え方：LT、「利他」を考える：話題提供
［第9回］「利他」を考える：LT、「協力」を考える：話題提供
［第10回］「協力」を考える：LT、「信頼」を考える：話題提供
［第11回］「信頼」を考える：LT、「ジレンマ」・「制度」を考える：話題提供
［第12回］「ジレンマ」・「制度」を考える：LT、行動経済学の使い方：話題提供
［第13回］ショートプレゼンテーションとディスカッション1
［第14回］ショートプレゼンテーションとディスカッション2
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意

この授業は毎回の授業におけるコミュニケーションを重視している。したがって、一回の欠席が評価に大きく影響する。また、毎回の授業の中で調査や実験を行いながら授業を展開していくため、積極的な姿勢での受講を望む。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

この授業では、授業の場で様々な調査・実験データを示したり、実験を実施しながらディスカッションを進めていく。予習として、指名された場合にライトニングトークを毎回4名が準備をすることになる。

復習として、毎回のリアクションペーパーを通じて、授業で学んだことの振り返りが求められる。

5．教科書

特に指定しない。教員が資料を用意する。

6．参考書

鈴木健編、『コミュニケーション・スタディーズ入門』大修館書店、2011年
これ以外の図書については随時紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

最終課題となるショートプレゼンテーションについては、教員からのフィードバックと学生からのフィードバックをオンライン上で公表する。詳細については講義内で説明する。

8．成績評価の方法

平常点：40%、ライトニングトーク：20%、ショートプレゼンテーション：40%

平常点：授業内実験への参加状況および最終リアクションペーパーの提出状況を評価する。

ライトニングトーク：割り振られた担当回の講義内容をもとに発表し、発表点を付与する。

ショートプレゼンテーション：第13講および第14講において、この授業で興味・関心を抱いた内容についてまとめて発表する。

なお、ライトニングトークおよびショートプレゼンテーションの担当回を欠席した場合は評価対象としない。

9．その他

行動経済学は経済学のみならず、心理学や社会学、人類学など人間の行動に関わる様々な領域と関連があるため、広く興味・関心を抱いて授業に望んでほしい。

2016年度以前入学生は原則、春学期は『コミュニケーション基礎Ⅰ』、秋学期は『コミュニケーション基礎Ⅱ』の単位を修得していない者のみ履修可とする。

また、春学期・秋学期の連続履修は不可である。

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（タイと歴史）

2単位	1年次	柿崎　一郎

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

この授業では、タイ語とタイの歴史の概要を理解することを目的とします。まず最初にタイ語とはどのような言語なのかを学び、次にタイの歴史の概要を勉強します。最後に、タイの歴史を題材としたタイ映画を鑑賞し、映画からタイ人の歴史観を考察します。

【到達目標】

タイ語の言語的特徴を学ぶとともに、タイの歴史の全体像を理解することを目標とします。

2．授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：タイ語の基本文型
第3回：タイ語の基本単語
第4回：タイ語の読み書き①　子音と母音
第5回：タイ語の読み書き②　声調記号と末子音
第6回：タイの歴史概要①　古代～16世紀後半
第7回：タイの歴史概要②　16世紀末～19世紀前半
第8回：タイの歴史概要③　19世紀後半～1920年代
第9回：タイの歴史概要④　1930年代～1940年代
第10回：タイの歴史概要⑤　1950年代～1980年代
第11回：タイの歴史概要⑥　1990年代～
第12回：映画「タウィポップ」背景の確認
第13回：映画「タウィポップ」鑑賞
第14回a：映画「タウィポップ」鑑賞、総括

3．履修上の注意

事前にタイ語の勉強をしていなくても履修可能です。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回何らかの課題（小テスト、発表準備、要約提出、レポート執筆など）を課しますので、あらかじめ準備してきてください。

5．教科書

『物語　タイの歴史』柿崎一郎（中公新書、2007年）

6．参考書

『教科書タイ語』柿崎一郎（めこん、2017年）

7．課題に対するフィードバックの方法

小テストや提出物を確認の上で返却します。

8．成績評価の方法

授業への貢献度（50%）、提出物（50%）で評価します。詳しくは授業初回に説明します。

9．その他

教員連絡先：kaki@yokohama-cu.ac.jp

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（マーケティング戦略）

２単位	１年次	久保田　達之助

１．授業の概要・到達目標
本講義はマーケティングの基礎を学び、実際に消費財メーカーがどのようなPR・宣伝戦略などのマーケテクング活動を行っているかを実践的に学びます。後半はグループワーク中心で講師と双方向に会話しながら課題に取り組み授業が進みます。
講師は大手旅行会社、大手化粧品会社で経営者とマーケティングのトップを経験しており、現在も大手日用品企業でマーケティングと経営を両立しているＣＭＯなので実践を中心にしたリアルな内容になります。また企業で生き抜く力を教授し創造力・プレゼンテーション能力・発言力・チャレンジ精神を身に付けてもらいます。

２．授業内容
第１回：イントロダクション：授業の目的、意義、方法、採点方法などを確認する
第２回：マーケティングの基礎１
第３回：マーケティングの基礎２
第４回：マーケティングの基礎３
第５回：実践マーケティング戦略１（グループ討議）
第６回：実践マーケティング戦略２（グループ討議）
第７回：実践マーケティング戦略３（グループ討議）
第８回：実践マーケティング戦略４（グループ討議）
第９回：実践マーケティング戦略５（グループ討議）
第10回：実践マーケティング戦略６（グループ討議）
第11回：実践マーケティング戦略７（グループ討議）
第12回：実践マーケティング戦略８（グループ討議）
第13回：実践マーケティング戦略９（グループ討議）
第14回：グループ発表
※グループワークの進み具合により内容を変更する場合あり。

３．履修上の注意
履修期間はグループ活動が中心な為、グループ員とのコミュニケーションが重要になります。好奇心を持って新たなことにチャレンジする意欲を求められます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
日頃の消費行動を常に何故購買したのか、何故買わなかったのかを履修期間は考えてもらいます。資料作成・調査など予習・復習が必要です。

５．教科書
特になし

６．参考書
「新規事業のつくり方講座～ふわっとしたアイデアをビジネスに変える仕組み」（カドカワ・ミニッツブック）著者：久保田達之助、電子書籍。

７．課題に対するフィードバックの方法
最終発表の解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

８．成績評価の方法
授業への参加度：５０％
グループの積極的な活動：５０％

９．その他
講師が新卒採用担当経験を踏まえ、将来の就活に対しての心構えや就活へのアドバイスを授業後時間の許す限り個別就活指導も行います。
2016年度以前入学生は原則、春学期は『コミュニケーション基礎Ⅰ』、秋学期は『コミュニケーション基礎Ⅱ』の単位を修得していない者のみ履修可。
また、春学期・秋学期の連続履修は不可。

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（韓国語とＫカルチャー）

２単位	１年次	金　　鉉洙

１．授業の概要・到達目標
授業の概要：
近年、現代韓国社会が世界に向けて発信する音楽、ドラマ、映画、文学などの文化（カルチャー）を総称したものとして「Kカルチャー」という言葉が使われている。世界に発信され、一定の支持を得ていると見られる「Kカルチャー」に対する理解を深めるために、本授業では主にドラマ・映画・音楽を中心に現代韓国の大衆文化の歴史（流れ）を振り返ってみる。なお、日本における韓国大衆文化の受容と消費について考えて見る。
本授業はワークショップ形式で行う。受講者の興味のあるテーマ別にグループを分け、グループ別の中間・最終報告を行い、それに対するディスカッションを実施する。なお、中間・最終報告は韓国の大学との交流授業で行う。
（※日本側の報告2回、韓国側の報告2回、計4回の交流授業を予定している。詳細な日程は初日の授業で配布する。）
到達目標：
①韓国大衆文化の大きな流れが理解できるようになる。
②コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上

２．授業内容
第１回：a. イントロダクション
　　b. グループ分け
第２回：a. グループ活動①
　　b. ディスカッション
第３回：a.グループ活動②
　　b. ディスカッション
第４回：グループ別中間報告とディスカッション（韓国の大学との交流授業①）
第５回：a. グループ活動④
　　b. ディスカッション
第６回：a. グループ活動③
　　b. ディスカッション
第７回：グループ別中間報告とディスカッション（韓国の大学との交流授業②）
第８回：a. グループ活動⑤
　　b. ディスカッション
第９回：a. グループ活動⑥
　　b. ディスカッション
第10回：グループ別最終報告とディスカッション（韓国の大学との交流授業③）
第11回：a. グループ活動⑧
　　b. ディスカッション
第12回：a. グループ活動⑦
　　b. ディスカッション
第13回：グループ別最終報告とディスカッション（韓国の大学との交流授業③）
第14回：まとめ
※交流授業の日程等は諸事情により変更する場合がある。

３．履修上の注意
・授業やグループ活動においては積極的に参加し、発言する必要がある。
・本授業はグループ活動が前提となる。従って授業には必ず出席すること。
　なお、原則として欠席3回目で単位は認めない。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
グループ活動による調査活動や報告準備等には積極的に参加することが求められる。

５．教科書
特にないが、必要に応じて授業中に適宜配布する。

６．参考書
随時紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
中間･最終報告については授業中にフィードバックを行う。

８．成績評価の方法
平常点30％＋グループ活動70％（アンケート作成、資料調査、中間・最終報告）
詳細については初回の授業でアナウンス、関連資料を配付する。

９．その他
※担当教員の連絡先：　kimhyunsoo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（中国と漢字）

２単位	１年次	**呉　　燕**

１．授業の概要・到達目標

漢字は表音文字と異なり、形・音・義三つの要素を一つの文字にまとめた独特な書記体系である。漢字の組み合わせによって成り立った漢字文化は中国文明の土台であるだけではなく、長い間東アジアから東南アジアにかけての広い地域に対して影響を与え続けてきた。この授業は、中国語そのものを学ぶ授業ではなく、漢字にまつわる多彩なことがらを通して、中国の生活習慣、文化風俗、広くは政治、宗教などについても概観し、漢字を基盤とする中国語はいかに中国人の独特な世界観と思考法に結びついているかを考えるチャンスを提供する。さらに、この授業を通して、漢字を共有する文化圏の歴史的なつながりを触れるとともに、この文化圏の一員である私たちに与えられた今日的課題を解決する視座を獲得することを目標とする。

２．授業内容

本講義は、講義形式が中心ですが、質疑応答しながら授業を進めていく。面接授業の場合､小グループでの討論や発表も行う予定もある。積極的な参加を期待する。
下記の授業内容は暫定的で、履修者の要望や関心に応じて調整したり、実際内容の割合によって増減したりする場合もある。
第一～ニ回：概論（漢字の基本と中国の世界観）
第三～四回：漢字の字形①：甲骨文字から楷書へ
第五～六回：漢字の字形②：書道の魅力
第七～八回：漢字の字音①：漢詩は吟ずべきもの
第九～十回：漢字の字音②：どうして北京の人は香港の映画を吹き替えなしで理解できないか
第十一～十二回：漢字の字義①：日中語彙の比較
第十三回：漢字の字義②：ネット流行語において漢字の現在
第十四回：期末プレゼンテーション
面接授業で履修者数が少ない場合、第十三回・十四回を履修者がグループを組んで発表するセッションにする。
授業内容は、実際授業の進捗状況に合わせて調整する。

３．履修上の注意

1. 授業中の論議やプレゼンテーションに対する積極的な取り組みが望ましい。なお、授業時間外の学習を前提として講義を行う。各自関心を持った事項については図書館の活用等を通じ自主的な学習を期待する。
2. 講義中の私語を慎むこと。
3. 講義開始後２０分以降入室禁止となる。3回欠席となると、平時点10点はなくなる。４回目の欠席には証明書類の提出が求められる。提出できなければ期末レポートの提出は不可となる。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

参考書目の文献の購読により各自で講義内容に対する理解を深めていくことが望まれる。

５．教科書

とくに指定しない。
授業の進捗状況に応じて、随時資料を配布する。

６．参考書

阿辻哲次　著､『漢字文化の源流』　丸善　2009年
笹原宏之　著､『漢字の現在』　三省堂　2011年
松岡榮志　著　『漢字をめぐる七つの物語～中国の文字改革１００年』　三省堂　2010年
藤堂明保　編集　『漢字源　改訂第六版』　学研プラス　2018年
藤堂明保　著　『漢字文化の世界』角川ソフィア文庫　2020年
落合淳思　著　『漢字の成り立ち：「説文解字」から最先端の研究まで』筑摩書房2014年
落合淳思　著　『漢字の字形～甲骨文字から篆書、楷書へ』　中央公論新社　2019年
斎藤希史　著　『漢字世界の地平　～私たちにとって文字とは何か』新潮社2014年
陳　力衛　著　『近代知の翻訳と伝播　～漢語を媒介に』　三省堂　2019年

７．課題に対するフィードバックの方法

課題や授業内容に対する質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

８．成績評価の方法

期末レポート（65%）、期末プレゼンテーション（25%）及び平常点（10%）より評価する。
４回の無断欠席で期末レポートの提出を不可となる。

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM111J

クリエイティブ・コミュニケーション（パフォーミング・アーツ）

２単位	１年次	**森田　ゆい**

１．授業の概要・到達目標

目標：
この授業は、ディベート討論を通して人の意見を聞く、自分の考えを発言する過程で、新しい知見や考え方を生み出すコミュニケーション技能を身に付けることを目標としています。
概要：
パフォーマンスとして日本の伝統芸能やクラシックバレエなどの舞台芸術を題材として学び、成立した時代、観客層、表現技法などの特徴を踏まえてディベートを行い、各パフォーマンスの位置づけについて論じます。
グループ内での討論、またグループによるプレゼンテーション発表を2回行います。

２．授業内容

第１回　イントロダクション：授業の目的、意義、進め方、成績評価の付け方についての説明
第２回　パフォーマンス（日本の伝統芸能、クラシックバレエ、コンテンポラリーダンスなどの舞台芸術を中心に扱います）の基礎知識
第３回　道成寺伝説／自分達で道成寺伝説を作品化した場合について論じる
第４回　作品『道成寺』　能楽と歌舞伎舞踊
第５回　作品『道成寺』　文楽と組踊、民俗芸能
第６回　発表準備
第７回　グループプレゼンテーション発表１　テーマ：伝統芸能を大学生に紹介する
第８回　〃
第９回　クラシックバレエからコンテンポラリーダンスへの流れ
第10回　作品『ボレロ』　踊り手による比較　（ジョルジュ・ドン／シルヴィ・ギエム／マイヤ・プリセツカヤ／吉田都と日本舞踊家／野村萬斎と日本舞踊家）
第11回　発表準備
第12回　グループプレゼンテーション発表２　テーマ：自由（パフォーマンスに関連する内容）
第13回　〃
第14回　個別プレゼンテーション　テーマ：この授業から学んだこと／他者の意見や発表から学んだこと
※講義内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

グループによる協同学習を行うので、積極的に他の学生と協力して学習を進める意志を持って参加してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

グループ発表に際して、各自で担当部分の準備を行います。

５．教科書

なし

６．参考書

『ようこそ伝統芸能の世界』森田ゆい著

７．課題に対するフィードバックの方法

提出物には原則的に翌週に総括をお伝えします。
プレゼンテーションには全員で評価を行い、その結果を公表します。

８．成績評価の方法

平常点：40%
プレゼンテーション（2回分）：40%
リアクションペーパー（毎回ではない予定）：20%

９．その他

科目ナンバー：(IC)ART111J

美学・芸術学

２単位	１年次	宮川　　渉

１．授業の概要・到達目標
社会が激変する20世紀以降、文学、美術、音楽などの芸術分野はそれまでの芸術の在り方とは大きく異なる形で発展してきた。そこで本授業の目的は、20世紀以降の芸術についての考察を行うことにより、今日の芸術への理解を深めることである。具体的には、メディア、創造性、言語、身体性など、テーマに基づいて考察を行うが、担当教員の専門が音楽であるため、音楽を中心に扱いつつ他の芸術分野についても論じる予定である。本授業を通じて、知識を身につけるだけでなく、創造的関心を高めることを到達目標とする。

２．授業内容
1．イントロダクション
2．20世紀以前の芸術
3．20世紀以降の芸術 グローバル化①
4．20世紀以降の芸術 グローバル化②
5．メディア①
6．メディア②
7．ポップカルチャー①
8．ポップカルチャー②
9．創造性①
10. 創造性②
11. 視覚と聴覚①
12. 視覚と聴覚②
13. 今日の芸術のあり方
14. まとめ

３．履修上の注意
視聴覚教材・資料を用いて様々な芸術作品を鑑賞する。講義内容は必要に応じて変更することがある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業中に配布するレジュメを予習復習に利用すること。

５．教科書
特に定めない。

６．参考書
『音楽する社会』　小川博司（勁草書房）1988年
『音楽する身体』　山田陽一編（昭和堂）2008年
『音楽史を学ぶ　古代ギリシャから現代まで』　久保田慶一編（音楽之友社）2017年
『美学への招待　増補版』　佐々木健一（中央公論新社）2019年
『「自分だけの答え」が見つかる 13歳からのアート思考』　末永幸歩（ダイヤモンド社）2020年

７．課題に対するフィードバックの方法
授業時間内にリアクションペーパーの全体講評を行う。

８．成績評価の方法
授業への取り組み20%、期末試験80%

９．その他

科目ナンバー：(IC)COM242J

身体コミュニケーションA

２単位	３年次	平山　満紀

１．授業の概要・到達目標
本授業は内容を1部と2部に分ける。予定としては、第1回～第9回は、一般教室で第1部の内容「セクシュアリティとコミュニケーション」を学ぶ。ここでは、セクシュアリティのさまざまなトピックに関する、学生同士のディスカッションを重視する。第10回～第14回は、多目的スポーツルーム（リバティタワー地下2階）で第2部の内容を学ぶ。ここでは、実際に身体を動かしながら、身体コミュニケーションの実習をおこなう。学生の強い要望などがあれば、第1部、第2部の時間配分の調整なども行うよてい。
「性はコミュニケーション」と言う人は多いが、日本の現実の性には、人が傷つくこと、不快になること、相手への不信感や疑念、また自分自身の身体に関する不安、などコミュニケーションができていないための問題が多く生じている。しかも、性は「下ネタ」「猥談」でしか語られなかったため、これらの問題はまじめに議論されることがなかった。
国際的な動向をみると、20世紀終わりから人権思想にもとづいた科学的なセクシュアリティ研究が進み、21世紀には、それにもとづいた包括的性教育が推進されている。日本はその動きに大きく立ち遅れているが、ここ数年は少しずつ人権を基盤とした考え方は浸透している。
この授業では、「下ネタ」「猥談」のもとで語られなかった現実を含め、日本人の性に関するコミュニケーションの問題状況を、人権思想と科学的な研究にもとづいて、とらえなおしていく。
性の多様性が近年社会的に理解されるようになってきたが、性に関するコミュニケーションは、多様性の理解のもとでなされなければならない。授業ではその理解を進めるため、オールジェンダーの学生たちがともにディスカッションをおこなう機会を多く設ける。
以下のような話題を取り上げる予定。
・自分の性的身体について、私たちはどのように認識して、どのように扱っているだろうか？
・人が性的主体になるとはどのようなことか？
・セクシュアルマイノリティへの気づかずにおこなっている差別とは？
・避妊に関するコミュニケーションの現状の問題をどのように乗り越えるか？
・性的同意とは？性的同意の意義はなにか？
・そのほか、学生の提案でセクシュアリティの他のトピックを取り上げることも可能。
到達目標は、現代日本社会のセクシュアリティのコミュニケーションの基本的状況を把握し、その問題点とその克服の方法を十分理解すること。

２．授業内容
第１回　イントロダクション　セクシュアリティとコミュニケーションの概観
第２回　避妊をめぐるコミュニケーション
第３回　性の多様性への理解を促すコミュニケーション（1）
第４回　性の多様性への理解を促すコミュニケーション（2）
第５回　幼児からはじまる性教育
第６回　思春期の性教育　日本でもこんな性教育があったら！！
第７回　性的同意を考える
第８回　痴漢 「性の文化」から性犯罪へ
第９回　セクハラ
第10回　ダンスのコミュニケーション（コンタクトインプロヴィゼーション）実践を通して考える
第11回　野口整体　実践を通して考える（1）
第12回　ダンスのコミュニケーション（ラテンペアダンス）（1）実践を通して考える
第13回　ダンスのコミュニケーション（ラテンペアダンス）（2）実践を通して考える
第14回　野口整体　実践を通して考える（2）総括

３．履修上の注意
第11回以降は、多目的スポーツルームでおこなう。動きやすい服装で参加してください（できるだけスカートではなく）。
履修者には積極的な姿勢を望みます。
欠席が５回以上（５回を含む）になる場合単位を認めません。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
身体コミュニケーションをとらえた動画を見たり、そのことの意味を語る文章を読む、自分の気付きを言葉にしてくるなどの学習を、そのつどの指示にしたがいおこなうこと。

５．教科書
毎回資料を配布します。特定の教科書は用いません。

６．参考書
ユネスコ編『改訂版　国際セクシュアリティ教育ガイダンス』明石書店　2020
関口久志『新版　性の幸せガイド』エイデル研究所　2017
村瀬幸浩監修、染谷明日香『オトコの子の「性」』合同出版　2015
朝日新聞「女子組」取材班『オトナの保健室』集英社
ほかそのつど紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーの内容を紹介し、さらに解説をおこなったり学生にディスカッションをしてもらったりする。

８．成績評価の方法
期末レポートを執筆してもらう。これが40%の比重。
加えて、授業の参加・授業内の議論への貢献度＋毎回書いてもらうレスポンスカードをあわせて60%の比重。
両者をあわせて100%の比重の総合評価を成績評価とする。

９．その他
授業内ではディスカッションを多くおこなうが、学生は自分の体験について話す必要はない。自分の体験を離れてセクシュアリティに関して、知識や考察に関して話せばよい。日本では公の場で性について語る機会が非常に少ないので、どのように発言するとよいか迷う方もいると思うが、この授業を練習の場として生かしてほしい。

科目ナンバー：(IC)COM241J

身体コミュニケーションA

2単位	2年次	田中　聡

1．授業の概要・到達目標

この授業は、実技を含み、そのほとんどは他者との接触をともなう。受講希望者は、その点に留意して選択されたい。

この授業でいう身体コミュニケーションは、ジェスチャーのような身体を用いた表現のことではなく、身体間に起こる出来事としての交感のことをさす。そのような出来事を検討しながら、身体や感覚、コミュニケーションについてとらえ直すことを、この授業の目的とする。

そのために、諸分野での研究を参考にし、また日本の古典、とくに『万葉集』の歌を題材として、古代人の感覚、身体観をできるだけ実感的に理解するようにつとめる。

そうすることで、現代人の狭く限定された感覚、身体観を相対化し、コミュニケーションするものとしての身体を見出し、私たち自身の生についてのとらえ直しをはかりたい。

2．授業内容

第1回：この授業で検討する「身体コミュニケーション」について
第2回：身体について論じられてきたこと
第3回：動物たちの認知、人間の認知
第4回：暗黙知と技術
第5回：コミュニケーションについて論じられてきたこと
第6回：感覚について論じられてきたこと
第7回：二つの「見る」
第8回：『万葉集』の「見ゆ」について
第9回：古典における「にほふ」
第10回：「触れる」と「さわる」
第10回：『万葉集』における「ふる」1　「振る」
第11回：『万葉集』における「ふる」2　「経る」「降る」
第12回：『万葉集』における「ふる」3　「触る」
第13回：「立つ」ことと「断つ」こと
第14回：まとめ　身体の多数性と創造性
＊ただし状況、必要に応じて講義内容、順序は変更する。

3．履修上の注意

実技に不都合のない、動きやすい服装で出席されたい。実技指導の都合上、受講者数は30人までとし、希望者が多い場合は抽選を行う。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

不定期に小レポートを課し、その課題により、授業内容の復習、あるいは次回の授業の準備となるようにする。

5．教科書

とくに定めない。

6．参考書

とくに定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に提出を求めたレポートは、次回に提出。その内容に対して提出回の次の回の授業中に応答する。なお疑問点などあればその場で、授業のあとで気づいた場合はぜひ次の回で質問されたい。

8．成績評価の方法

平常点60%　期末レポート40%
平常点は、出席数、および小レポートの内容による。

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM241J

身体コミュニケーションB

2単位	2年次	波照間　永子

1．授業の概要・到達目標

授業の概要

沖縄では、旧盆になると、太鼓をもった若者たちが勇壮な舞「エイサー」を披露する。にぎやかな舞と太鼓の響きは、先祖の霊をもてなし送り出すという重要な役割をもっている。また、その芸態の魅力は沖縄系移民によって世界各地に伝えられ、移住先の文化と融合し「新エイサー」New Eisaと呼ばれる新たな太鼓パフォーマンスを創造している。

本授業では、「エイサー」の実習を通して、身体によるコミュニケーション能力を身につけるとともに、受講生の感性を生かした作品づくり「創作法」を習得する。

到達目標

1 社会と芸能の関わりを、「身体による実践」を通して理解する。
2 グループワークによる創造活動を実践し、「身体」によるコミュニケーションの特性を考察する。

2．授業内容

第1回　イントロダクション（授業の目的・計画・評価の方法）
第2回　伝統的な「エイサー」の習得①
第3回　伝統的な「エイサー」の習得②
第4回　「新エイサー」の習得①
第5回　「新エイサー」の習得② 太鼓パフォーマンスの創作方法（作曲・編曲・選曲・構成など）
第6回　太鼓パフォーマンスの創作（グループワーク）①
第7回　太鼓パフォーマンスの創作（グループワーク）②
第8回　太鼓パフォーマンスの創作（グループワーク）③
第9回　太鼓パフォーマンスの創作（グループワーク）④
第10回　中間発表会と講評
第11回　太鼓パフォーマンス　リハーサル①
第12回　太鼓パフォーマンス　リハーサル②
第13回　成果発表会と講評
第14回　成果発表会記録映像鑑賞とレポート執筆
第2回～第10回では、上記の実技の前に次のテーマについて講義を実施する。
沖縄語，琉歌，踊りの歌詞
舞踊創作法（動きを構成する要素）
コミュニケーションの基礎理論
沖縄イメージの変容と芸能

3．履修上の注意

本授業は、実際に身体を通して学び、自らの表現の世界を拓くワークショップ型の授業なので、積極的な姿勢で参加すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

授業の内容に即し、課題を提示してレポートを提出してもらう。また、創作に際して短いフレーズの振付等、実技関連の課題を課すこともある。

5．教科書

授業時に必要な資料を配布する。

6．参考書

沖縄市企画部平和文化振興課編(1998)『エイサ-360度: 歴史と現在』沖縄全島エイサーまつり実行委員会
ほか、授業時に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法

授業時に執筆してもらう課題（小レポート）は、次の時間に講評する。中間レポート（授業時間外に執筆）は、第14回授業の前半で解説する。第14回の後半に実施する最終課題は、その日の課題提示の際に総評し執筆のガイドとする。

8．成績評価の方法

平常点：60%、レポート：20%、作品：20%

9．その他

科目ナンバー：(IC)ART211J

メディア・アート

2単位	2年次	畠中　実

1．授業の概要・到達目標

【授業概要】

コンピュータをはじめとする同時代のさまざまなメディア・テクノロジーを使用した芸術表現である「メディア・アート」について、それに先立つテクノロジーを使用した芸術表現など、その起源を遡行・参照することで、現在のメディア・アートが含む多様な表現の意味や意義を考察する。

「メディア・アートとは何か」といったことを、形式的に定義していくのではなく、さまざまな作品や事例にもとづいて講義を行なう。メディア・アートの前史としての美術における表現技法がどのように継承され、どのように変化してきたのかなど、広いパースペクティヴでメディア・アートをとらえていく。

【到達目標】

「メディア･アートにおける現在性とは何か」ということを､メディア･アートをとりまく文化的、社会的な周辺状況を踏まえながら考察することを通じて、同時代的メディア環境における表現のあり方ついて理解、思考できるようになること。また、メディア・アートが現代に固有の表現であるだけではなく、美術史の中にどのように位置づけられるのかを、美術のみならず科学技術史などの観点からも把握できるようにする。

2．授業内容

第1回：ガイダンス　メディア・アートとは何か？
第2回：メディア・アートはなぜそう呼ばれるか　メディア・アート のキーワード　1
第3回：メディア・アートはなぜそう呼ばれるか　メディア・アート のキーワード　2
第4回：メディア・アート前史としてのヴィデオ・アート　ナムジュン・パイク
第5回：マクルーハンはメディア・アート を予見したか
第6回：メディア･アート前史としてのヴィデオ･アート　ビル･ヴィオラ
第7回：インタラクティヴであることとはなにか
第8回：メディア・アートによる考古学　1　映像編
第9回：メディア・アートによる考古学　1　音楽編
第10回：インターメディアとパフォーマンス
第11回：音楽と美術のあいだ
第12回：夢の具現化　発明
第13回：20世紀美術とテクノロジー
第14回：メディア・アート の現在　AI、VR、メタヴァース

3．履修上の注意

今年度の本講義は対面で実施する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

講義において、キーワードや固有名、専門用語などが頻出するので、授業後に各自調べることと、配布プリントのテキストを読むこと。

5．教科書

毎回授業ごとに資料を配布する。

6．参考書

『メディア・アート原論』久保田晃弘、畠中実（フィルムアート社）2018年

7．課題に対するフィードバックの方法

授業冒頭に前回の課題についての説明を行なう。Oh-o! Meijiを介して個別に質問も対応できる（返答はすぐとはかぎらない)。

8．成績評価の方法

出席は、毎回の授業ごとの感想の提出によってとる。出席は6割以上あること。その上で､評価課題(レポート)をもって採点する(100%)。ただし、出席の足りないものには、その他提出物などで補填する。

9．その他

科目ナンバー：(IC)ART311J

デジタルアートA（デジタルアートⅠ）

2単位	3年次	宮川　渉

1．授業の概要・到達目標

情報社会の現在、音楽におけるコンピュータの役割も多様化している。その結果、音楽の創作は今までになく誰にでも気軽に取り組むことが可能になりつつある。

この講義では、テクノロジーを利用した音楽表現を習得する。まずは録音やオーディオ編集を中心に作業を進め、音楽制作ソフトを使って作品制作に取り組む。ここではこの方法論に基づくミュージック・コンクレートのコンセプトを理解する。次に楽譜作成ソフトの操作の習得などを通じて音楽理論を学ぶ。これらの経験を通じて個々の創造性を高めることを目指し、現在のテクノロジーの可能性と問題点などを検証する。

2．授業内容

（1）aのみ：イントロダクション
（2）音楽制作ソフト（1）
（3）ミュージック・コンクレート
（4）録音
（5）音楽制作ソフト（2）
（6）音楽制作ソフト（3）
（7）楽譜作成及び音楽制作ソフト（1）
（8）楽譜作成及び音楽制作ソフト（2）
（9）作品制作（1）
(10) 合評会（1）
(11) 音楽理論（1）
(12) 音楽理論（2）
(13) 作品制作（2）
(14) 合評会（2）

3．履修上の注意

音楽経験者か未経験者かは問わないが、音楽を制作するためには意欲と時間が必要である。講義内容は必要に応じて変更することがある。音楽制作ソフトは、Waveform Free、Studio One Prime、楽譜作成ソフトは、Musescoreを使用する予定であるが、これら以外のソフトを用いる可能性もある。また受講者が別のソフトを使用したい場合はそれを認めるが、その場合、自身で使用方法などを習得する必要がある。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

作業が中心の授業なので紹介する内容を復習するだけでなく、その成果をどのように自身の作品制作に生かせるかを意識して作業に取り組むこと。

5．教科書

特に定めない。

6．参考書

特に定めない。

7．課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは基本的には授業内で行うが、授業時間外にもOh-o!Meijiを活用して行うことがある。

8．成績評価の方法

平常点20%、授業への取り組み20%、課題制作60%

9．その他

秋学期のデジタルアートBの履修には、デジタルアートAを履修していること、またはデジタルアートAで学ぶことと同等の知識や実践経験があることを強く勧める。

科目ナンバー：(IC)ART316J

デジタルアートA〔M〕（デジタルアートⅠ）

2単位	3年次	佐野　典秀

1．授業の概要・到達目標

3DCGのモデリングの基礎、座標変換、テクスチャなどの表面設定、UVマッピング、回転体、掃引体の生成方法、立体の生成方法、立体の変形、複製の利用などについて講義する。

3DCGの基本的な概要を理解しながら実際の3DCG静止画像を作成できるようになることを到達目標とする。

2．授業内容

第１回：3DCGのモデリング、3DCG制作用ソフトウェアについて［メディア授業（オンデマンド型)］
第２回：基本立体（立方体、球、円柱･･･）の生成［メディア授業（オンデマンド型)］
第３回：回転体、掃引体［メディア授業（オンデマンド型)］
第４回：基本立体の変形［メディア授業（オンデマンド型)］
第５回：立体の移動、回転、拡大・縮小［メディア授業（オンデマンド型)］
第６回：表面設定①（色、質感）［メディア授業（オンデマンド型)］
第７回：表面設定②（テクスチャ・画像マッピング）［メディア授業（オンデマンド型)］
第８回：表面設定③（ＵＶマッピング）［メディア授業（オンデマンド型)］
第９回：材質設定［メディア授業（オンデマンド型)］
第10回：彫刻（スカルプト）の設定［メディア授業（オンデマンド型)］
第11回：立体の変形［メディア授業（オンデマンド型)］
第12回：実際の形状の制作［メディア授業（オンデマンド型)］
第13回：複製を利用する［メディア授業（オンデマンド型)］
第14回：3DCGのモデリングのまとめ［メディア授業（オンデマンド型)］

3．履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システムを通じて配信されるオンデマンド型で行います。

講義動画は原則毎週月曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該期間中の視聴を可能とします。

毎回の講義動画に対して、コンピュータを利用した作業を伴う課題作品の提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレス（履修者へ通知）と、Oh-o! Meiji の課題提出欄とコメント欄等を活用します。

本授業の履修者は自宅において、PCとインターネットに接続できる環境の準備をお願いします。大学の自習室も活用できますが、ご自宅での制作作業のために準備をしていただけると学習が進むと思います。

PCの3DCG制作を行う上での基本要求スペックは以下で確認してください。
・OS：64bit　(WindowsでもMacでもどちらでも可)
・CPU：2コア 2GHz以上
・メモリ：4GB RAM
・ディスプレイ：1280×720
・デバイス：マウス、トラックパッド、またはペン+タブレット
・グラフィックカード：1GBのRAM、OpenGL3.3を搭載したグラフィックカード

なお、授業内で解説する機能だけであれば、このような高スペックは必要としません。既にご自宅にPCがある人は、そのPCで十分です。OSはWindowsでも、Macでも対応しています。(ただし、Macの場合、授業解説の映像、および当該授業のWebの説明画面にてWindows版を使いますので、若干のご不便をおかけします。)

授業の内容は、次のURLから確認ください。第１講～第15講まで昨年の履修者の課題提出作品もご覧いただけます。(http://www.isc.meiji.ac.jp/~nsano/Digital_Art_I/DiA_I/DiA_1_15.html) 課題の提出先は、Oh-o! Meiji になります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、授業内容に沿った課題作品の提出を求めるので、該当する単元の当該授業のＷｅｂや参考図書等で授業内容を振り返りながら、課題作品を制作し提出すること（２時間)。また、次の回の内容について、該当する単元の当該授業のＷｅｂや参考図書等に目を通しておくこと（２時間)。

5．教科書

特に定めない。

6．参考書

加茂恵美子『Metasequoia 4 CGテクニックガイド』(工学社、2014年)
M design「作って学ぶ！　Blender入門」(SBクリエイティブ、2023年)

7．課題に対するフィードバックの方法

提出された課題について、優秀作品については当該授業のWebに掲載します。課題の解説は当該授業のWebとOh-o! Meiji システムを通じて配信します。

8．成績評価の方法

講義動画の視聴とクラスウエブのディスカッション機能の利用20%、各回の課題作品30%、期末最終課題作品50%　3DCGの特徴をしっかりと理解して作品制作に活かしているかを重視する。※対面形式での試験は行ないません。

9．その他

科目ナンバー：(IC)ART311J

デジタルアートB（デジタルアートⅡ）

2単位	3年次	宮川　　渉

1．授業の概要・到達目標

デジタルアートAに引き続きテクノロジーを利用した音楽表現を習得し、より広い表現力を身につける。ここではまずMIDIやシンセサイザーについて学ぶ。またこれらのテクノロジーを使用するための応用的な音楽理論を学習し、それらが電子音楽やポピュラー音楽などで、どのように活用されてきたかを理解する。履修者はこれらを身に付けるために、自分自身で選択した既存の楽曲のアレンジに取り組む。

次に映像と音楽の関係を実際に映像に音楽をつけることによって学びながら、現在、映像と音楽ではどのような表現が可能なのか、映画やメディアアートなどを題材に考察する。

2．授業内容

（１）aのみ：イントロダクション
（２）MIDI（１）
（３）MIDI（２）
（４）音楽理論（１）
（５）音楽理論（２）
（６）音楽理論（３）
（７）シンセサイザー
（８）サウンド編集（１）
（９）合評会（１）
(10）映像と音楽（１）
(11）映像と音楽（２）
(12）サウンド編集（２）
(13）作品制作
(14）合評会（２）

3．履修上の注意

講義内容は必要に応じて変更することがある。音楽制作ソフトは、Waveform Free、Studio One Primeを使用する予定である。オーディオ編集のためにAudacity、映像編集ソフトとしてAdobe Premiere Proを用いる。またこれら以外のソフトを用いる可能性もある。受講者が別のソフトを使用したい場合はそれを認めるが、その場合、自身で使用方法などを習得する必要がある。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

作業が中心の授業なので紹介する内容を復習するだけでなく、その成果をどのように自身の作品制作に生かせるかを意識して作業に取り組むこと。

5．教科書

特に定めない。

6．参考書

『現代音楽ｘメディアアート』　中村滋延（九州大学出版会）2008年
『Premiere Proよくばり入門 CC対応』　金泉太一（インプレス）2020年

7．課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは基本的には授業内で行うが、授業時間外にもOh-o!Meijiを活用して行うことがある。

8．成績評価の方法

平常点20%、授業への取り組み20%、課題制作60%

9．その他

デジタルアートBの履修には、デジタルアートAを履修していること、またはデジタルアートAで学ぶことと同等の知識や実践経験があることを強く勧める。

科目ナンバー：(IC)ART316J

デジタルアートB〔M〕(デジタルアートⅡ)

2単位	3年次	佐野　典秀

1．授業の概要・到達目標

3DCGのアニメーションの基礎、物体のさまざまな動き、パスアニメーション、ボーンの設定、オブジェクトの親子関係、キーフレームアニメーション、ＩＫ（インバースキネマティックス）、スケルトン・アニメーションなどについて講義する。

3DCGアニメーションの基本的な概要を理解しながら実際の3DCGアニメーションを作成できるようになることを到達目標とする。

2．授業内容

第１回：3DCGアニメーションについて、3DCGアニメーション制作ソフトウェアについて［メディア授業（オンデマンド型）］
第２回：直線移動する物体のアニメーション［メディア授業（オンデマンド型）］
第３回：回転する物体のアニメーション［メディア授業（オンデマンド型）］
第４回：振動する物体のアニメーション［メディア授業（オンデマンド型）］
第５回：蛇行移動する物体のアニメーション［メディア授業（オンデマンド型）］
第６回：大きさの変化する物体のアニメーション［メディア授業（オンデマンド型）］
第７回：パスアニメーション①（パス上を等速で移動）［メディア授業（オンデマンド型）］
第８回：パスアニメーション②（パス上を加減速して移動）［メディア授業（オンデマンド型）］
第９回：アーマチュアの設定［メディア授業（オンデマンド型）］
第10回：スケルトン・アニメーション①　ボーンを動かす［メディア授業（オンデマンド型）］
第11回：スケルトン・アニメーション②　ＩＫの利用［メディア授業（オンデマンド型）］
第12回：スケルトン・アニメーション③　モーションキャプチャ［メディア授業（オンデマンド型）］
第13回：アニメーション動画編集作業［メディア授業（オンデマンド型）］
第14回：３DCGアニメーションのまとめ［メディア授業（オンデマンド型）］

3．履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画をOh-o! Meiji システム通じて配信されるオンデマンド型で行います。

講義動画は原則毎週月曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該期間中の視聴を可能とします。

毎回の講義動画に対して、コンピュータを利用した作業を伴う課題作品の提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレス（履修者へ通知）と、Oh-o! Meiji の課題提出欄とコメント欄等を活用します。

本授業の履修者は自宅において、PCとインターネットに接続できる環境の準備をお願いします。授業で使用するソフトウェアは、Blenderです。Blenderの最新版はBlender Ver.5.0.1 ですが、私のホームページや、大学の教室のPCではVer.2.78 になります。BlenderはVer.2.8以降で大きく画面表示が変更になりました。もし、PCに慣れている方は、最新版Ver.5.0.1 でも結構ですが、初級者の方は、Ver.2.78のご利用をお薦めします。Blenderは無料ソフトウェアですので、ご自宅のPCにインストールして授業に備えましょう。次のURLからダウンロードできます。

Blende Ver.2.78（推奨）
(https://download.blender.org/release/Blender2.78/)
Windowの方は、「blender-2.78-windows64.zip」などを
MacOSの方は、「blender-2.78-OSX_10.6-x86_64.zip」などを
ダウンロードして解凍してインストールしましょう。
最新版 Blende Ver.5.0.1（PCとBlenderに慣れている方の場合）
以下から、Ver.5.0.1 がダウンロードできます。（LTS版はBlender Ver.4.5 LTS）
(https://www.blender.org/download/)
OSはWindowsでも、Macでも対応しています。
授業の内容は、次のURLから確認ください。第１講～第15講まで昨年の履修者の課題提出作品もご覧いただけます。(http://www.isc.meiji.ac.jp/~nsano/Digital_Art_II/DiA_II/DiA_2_14.html)
課題の提出先は、Oh-o! Meiji になります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、授業内容に沿った課題作品の提出を求めるので、該当する単元の当該授業のＷｅｂや参考図書等で授業内容を振り返りながら、課題作品を制作し提出すること（２時間）。また、次の回の内容について、該当する単元の当該授業のＷｅｂや参考図書等に目を通しておくこと（２時間）。

5．教科書

特に定めない

6．参考書

海川 メノウ『Blender 2.7ガイド& 3DCG 基本作品制作』（カットシステム、2014年）
藤堂十十『Blender 2.7 マスターブック　スカルプト＆シミュレーション編』（カットシステム、2015年）
大澤龍一『無料ではじめるBlender CG アニメーションテクニック ~3DCGの構造と動かし方がしっかりわかる【Blender 2.8対応版】』（技術評論社、2019年）

7．課題に対するフィードバックの方法

提出された課題について、優秀作品については当該授業のWebに掲載します。課題の解説は当該授業のWebとOh-o! Meiji システムを通じて配信します。

8．成績評価の方法

講義動画の視聴とクラスウエブのディスカッション機能の利用20%、各回の課題作品30%、期末最終課題作品50%　3DCGアニメーションの特徴をしっかりと理解して作品制作に活かしているかを重視する。　※対面形式での試験は行ないません。

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM361J

デジタルプレゼンテーション

2単位	3年次	久保田　達之助

1．授業の概要・到達目標

この授業は企業における新入社員で必要なスキルレベルのプレゼンテーションができるようにします。

企業ではひとりのチカラも必要ですが、チームでひとつのものを作成しやり遂げるチカラも必要です。

プレゼンのストーリー作り、情報の集め方や分析、聞き手の理解を促進するプレゼン資料の作成実習を行います。そして、プレゼンを行いフィードバックし、グループワークを通して、ディスカッション、まとめ方、質問や答え方などの実践的なコミュニケーションスキルも体得します。これらは、企業が人材に求める基本的なスキルであるとともに、社会生活においても役に立ちます。また就職活動においても面接スキルアップに役立ちます。

最終的には、自分の意見や主張を聞き手に伝えて、理解を得たり説得したりするプレゼンスキルと円滑なコミュニケーションスキルを身につけることが目的です。

3年生には就職の相談にも乗ります。

2．授業内容

第１回　イントロダクション（授業の内容と自己紹介）
第２回　企業における最新のプレゼン資料作成のポイント（１）
第３回　企業における最新のプレゼン資料作成のポイント（２）
第４回　個人課題と演習
第５回　グループ練習課題
第６回　発表
第７回　課題とグループワーク
第８回　グループワーク
第９回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　グループワーク
第13回　発表
第14回　発表
※授業の理解により内容の変更もあります。

3．履修上の注意

PowerPointを使えること。
積極的にコミュニケーションと取ること。
グループワークもあり、授業に参加できること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

資料作成等授業外での予習が必要になる。

5．教科書

特になし。
必要に応じて都度案内する。

6．参考書

7．課題に対するフィードバックの方法

最終発表の解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

8．成績評価の方法

授業への参加度：５０％
グループの積極的な活動：５０％

9．その他

現役大手企業取締役が指導する為、企業が求める人財育成を行う。講師は大手旅行会社、大手化粧品会社、大手日用品会社でマーケティング責任者を歴任。採用にも携わり就職活動のアドバイスも行う。

科目ナンバー：(IC)COM341J

非言語コミュニケーション

2単位	3年次	小山　慎治

1．授業の概要・到達目標

本授業は、人間のコミュニケーションにおいて言語メッセージ同様にメッセージとして機能する非言語行動について理解を深めることを目的とする。私たちはことばによるやり取りの際にも、相手の表情や身振り手振り、話しぶりなどから多くの情報を受け取っている。このような非言語メッセージが人間のコミュニケーションにどのような影響を及ぼすのかをコミュニケーション研究の知見や具体的な事例を通じて考えてもらいたい。授業ではコミュニケーションに関わる諸概念、理論等を学ぶが、適宜グループ活動を取り入れ、理論と実践両局面から非言語コミュニケーションへの理解が深まるよう配慮する。

2．授業内容

1　コース説明、「コミュニケーション」とは
2　「非言語コミュニケーション」とは
3　外見的特長
4　ジェスチャーと動作
5　表情・視線
6　音声
7　人コミュニケーションと非言語行動（非言語行動の実践と観察）
8　対人コミュニケーションと非言語行動（非言語行動の実践と観察＜2＞）
9　空間・テリトリーおよび接触・近接性
10　言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
11　言語メッセージと非言語メッセージの同調・補完
12　言語メッセージと非言語メッセージが相反する場合
13　文化と非言語コミュニケーション
14　まとめ

3．履修上の注意

授業においては、グループ活動を多く取り入れる予定である。積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布する資料を読んだ上で授業に参加すること。

5．教科書

特に指定しない。

6．参考書

V. P. リッチモンド・J. C. マクロスキー著（山下耕二編訳）『非言語行動の心理学』北大路書房、2006年

7．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー等の課題について、翌週の授業冒頭で講評を行う。

8．成績評価の方法

定期試験（60%）、クラスでの課題（20%）、平常点（20%）の割合で評価する。
なお、定期試験では、基礎的知識および非言語コミュニケーションをめぐる諸問題についての理解力を問う予定である。

9．その他

科目ナンバー：(IC)COM361J

メディア教育論

2単位	3年次	小田　光康

1．授業の概要・到達目標

この授業はこの授業はクォータ科目（学期前半集中開講）の対面授業とオンデマンド授業のハイブリッド型で、オンライン授業などメディアを活用した教育の基礎的な知識を学びます。昨今、世界的には米国のハーバード大学とＭＩＴが共同で開発したオンライン教育プラットフォームのedXがメディア教育のグローバルスタンダードになりつつあります。また、個人がネット上で様々な教材をアップロードして、簡単に学び合い、知識や経験を共有できる時代になりました。こうしたメディア教育を支えるのがメディア技術です。この授業ではオンデマンド授業でメディア技術の基礎的な知識を学習します。また、対面授業では発展途上国の子供たち向けの狂犬病予防のための簡単なメディア教材の開発実習を実施します。これらによりメディア教育の理論と実践の基礎知識を習得することを目標とします。

2．授業内容

第１回　ガイダンス（対面）　edXの衝撃と発展途上国の感染症・薬物乱用防止教育
第２回　メディア教育事例研究（対面）狂犬病予防のためのメディア教材開発
第３回　メディア教育の概要（オンライン）
第４回　メディアを利用した非言語的教育とオンライン教育の最前線（対面）
第５回　メディア教育システムの基礎知識（オンライン）(1) ハードウエア
第６回　メディア教材開発実習（対面）（狂犬病予防の要点と開発目標設定）
第７回　メディア教育システムの基礎知識（オンライン）(2) ソフトウエア
第８回　メディア教材開発実習（対面）（ソフトウエアと伝達手段・表現方法の設定）
第９回　メディア教育システムの基礎知識（オンライン）(3) データベース
第10回　メディア教材開発実習（対面）（コンテンツ開発1）
第11回　メディア教育システムの基礎知識（オンライン）(4) ネットワーク
第12回　メディア教材開発実習（対面）（コンテンツ開発2）
第13回　a メディア教育システムの基礎知識（オンライン）(5) インターネットの概要
　　b 期末試験(オンライン)(メディア教育システムの基礎知識)
第14回　期末発表（メディア教材開発の成果物）

3．履修上の注意

この授業はオンデマンド授業と対面授業のハイブリッド型メディア授業科目として開講される。オンデマンド授業は講義動画を原則毎週木曜日午前6時にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、当該学期中の視聴を可能とする。また、教員への質疑や学生同士の意見交換は並行して開講される対面授業の際に実施する。
この授業は情報科学と教育科学をベースにしているため、基本的に理科系の内容になります。ただし、これらの専門知識を学ぶものでなく、文系の学生でもその概要を学習することに焦点をあてています。またメディア教材開発ではアニメや漫画などで言語を使わずに教育内容を伝えるメディア教材を2−3人のグループで作成します。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

MoocsのedX（https://www.edx.org/）のイントロダクションの動画を視聴しておいてください。

5．教科書

毎回の授業中に配布します。

6．参考書

edX: WisconsinX. Introduction to Online Education & Course Planning

7．課題に対するフィードバックの方法

課題については質疑応答や教員からの指摘・助言でフィードバックをします。

8．成績評価の方法

各オンライン授業の小テストと期末試験（50%）と、期末発表（50%）で評価する。

9．その他

edXを活用して世界の大学のメディア教育を実感してください。

科目ナンバー：(IC)COM361J

メディア教育論

2単位	3年次	李　　知映

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
本講義は「人と人、街と街とをアートでつなぐ」ということが実現可能になるためにはどのようなことが必要になって行くのかについて総体的に理解することをめざす。都内で小規模な展覧会・アートプロジェクト・フェスティバル等を実施することを念頭に企画から制作、運営までのプロセスを実践的に学ぶ。都市空間に介入していきながら、一般的な展覧会等とは異なる手法で、アートと実社会を結びつけるキュレーションについて主体的に思考・実験していく機会とする。
【到達目標】
・現代アートにおけるさまざまな現象に目を向け、芸術とは何かをめぐる理論的な考察を深める。
・芸術文化領域をめぐる様々なイシューの中から、気になるテーマを設定、それにかかわる諸事情に関し説明することができる。
・受講生自らが展覧会等を立案して発表することによって、企画力を高めることができる。

2．授業内容
第1回：授業ガイダンス／自己紹介
第2回：「アート／芸術」とは？（授業形式：講義）
第3回：今の「現代アート」の動向①:リレーショナル･アート、ソーシャリー・エンゲイジド・アート
第4回：今の「現代アート」の動向②：パフォーマンス
第5回：「アート／芸術」の発表の場①：美術館／アートセンター
第6回：「アート／芸術」の発表の場②：アートプロジェクト
第7回：「アート／芸術」における時事問題をピックアップ
第8回：小テスト、小括
第9回：各自課題発表及びディスカッション（授業形式：ディスカッション）
第10回：各テーマに分かれディスカッション
第11回：グループワーク発表及びディスカッション①
第12回：グループワーク発表及びディスカッション②
第13回：グループワーク発表及びディスカッション③
第14回：総括

3．履修上の注意
1. 授業の進め方によってはテーマが前後する場合がある。
2. 授業の中で紹介する参考文献を読むように心かける。
3. 授業中の私語はかたく断る。3回目の注意を受けた場合は、その場で退席を要し当日は欠席と処理する。
4. 出席登録の際に、まだ出席してない学生にワンタイムパスワードを共有することは固く断る。発覚された場合は、頼んだ人ももちろん本人も欠席と処理する。
5. 履修者にはつねに積極的な参加を求める。講義中に教員から履修者へ質問を行なう場合もあるため、つねに集中力をもって受講すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
テキストは特に定めません。
授業で使うパワーポイント・スライドをPDFにして、授業後Oh-o! Meijiシステムで配布します。授業中で紹介された参考文献等を含め、復習することに心かけてください。

5．教科書
特に定めません。

6．参考書
『アートプロジェクト』、水曜社 、2014年
『アートプロジェクト運営ガイドライン』、公益財団法人東京都歴史文化財団、平成25年3月
『これからの美術がわかるキーワード100』、美術出版社、2019年
『はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック』、九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ、2019年
※このほか、授業中に適宜提示します。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業中に適宜反映します。

8．成績評価の方法
授業への参加度（40%）、小テスト・課題発表（30%）、グループワークディスカッション及び発表（30%）により、成績判定します。

9．その他
現状ではグループワークを想定していますが、受講生人数により個別学習にする可能性もあります。

科目ナンバー：(IC)COM361J

メディア教育論

2単位	3年次	内藤　まりこ

1．授業の概要・到達目標
【授業の概要】
現代社会において情報技術の高性能化や廉価化により、私たちはさまざまなメディアを手軽に入手し、それらを駆使して自らの表現活動を行うことができるようになりました。では、そうしたメディアの違いは、自分が表現しようとする内容に影響をもたらさないのでしょうか？
この問いに対して、メディア論の牽引者であるカナダの研究者マーシャル・マクルーハン（1911-1980）は「メディアはメッセージである」という名言を残し、メディア（媒体）は表現内容（メッセージ）の受け皿などでなく、表現内容そのものであるという応答をしています。
そこで、本授業では、メディア研究の学問領域の一つであるIntermedial Studies（間メディア研究）の議論を参照しながら、各メディアの表現方法や表現内容の共通点や違いや、異なるメディアを掛け合わせることで生じるメディア間の相互作用や新たな表現方法や表現内容について学びます（間メディア研究の体得編）。
次に、間メディア研究の中でも重要な概念とされる、メディアに表現される「フィクション」(fiction、虚構）に関する諸理論を学び（フィクション理論の体得編）、それらの理論を踏まえた実際のメディアを分析の仕方を学習します（作品の分析編１）。
受講生は、講義で学んだ理論を用いて単一もしくは複数のメディアで表現された作品の分析を実践します（作品の分析編２）。
【到達目標】
1.（間メディア研究の体得編）各メディアの特徴や諸メディア間の相互作用を理解する。
2.（フィクション理論の体得編）諸メディアに表現される虚構に関する理論を体得する。
3.（作品の分析編）理論を用いて単一もしくは複数のメディアで表現された作品の分析ができるようになる。

2．授業内容
第１回：オリエンテーション
〈間メディア研究の体得編〉
第２回：間メディア研究とは何か？
第３回：間メディア研究成立の背景、到達点と限界
第４回：間メディア研究の問題系1（メディア表象）
第５回：間メディア研究の問題系2（メディア越境）
第６回：間メディア研究の問題系3（メディア融合）
〈フィクション理論の体得編・作品の分析１編〉
第７回：メディアで表現される虚構に関する理論の概観
第８回：フィクション理論１:「メディアに何が表現されているか？」（意味論的アプローチ）
第９回：フィクション理論２:「メディアにどのように表象されているか？」（統語論的アプローチ）
第10回：フィクション理論３:「メディアに表象がどのように扱われているか？」（語用論的アプローチ）
〈作品分析の実践２編〉
第11回：作品分析の実践１
第12回：作品分析の実践２
第13回：作品分析の実践３
第14回：１学期の学習内容の振り返り

3．履修上の注意
・毎回の授業でリアクション・ペーパーなどの課題の提出を求める。
・多くの課題が設定されるので、授業外で相当の時間と労力をかける必要がある”タイパ”の悪い授業である。メディアに対する新たな見方を身につけるべく授業内容に熱心に取り組む意欲のある者にのみ受講を勧める。
・授業内でグループに分かれて課題に取り組む場合がある。
・履修者の人数によって学期中に個人発表を求める場合がある。
・欠席をした場合は，次週までにクラスウェブの「授業内容・資料」から授業内容を確認し，授業プリントをダウンロードしておくこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
・毎週、課題が課される。
・宿題の内容は、リアクション・ペーパー、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解などである。

5．教科書
毎週、授業プリントを配布する。

6．参考書
適宜、指示する。

7．課題に対するフィードバックの方法
授業内での応答、メール、クラスウェブでの添削

8．成績評価の方法
・授業内課題（リアクションペーパー他）40%
・学期末レポートもしくは学期末試験　60%

9．その他

リサーチリテラシー科目

科目ナンバー：(IC)STS161J

科学リテラシー

２単位	１年次	**石川　幹人**

１．授業の概要・到達目標
(概要)
科学リテラシーは、社会科学および自然科学、そして人文科学の研究の支えになるものです。科学的なものの見方・考え方、科学の営みの有効さと限界を学びます。そして、その成果を個人の生活や社会活動に生かすことを目指します。産業界の裏側の具体例をふまえながら解説します。
(到達目標)
次のような事柄が身に付きます。
・メディアによって科学情報がゆがんで伝わる現状の構造
・日常生活における科学的成果の寄与の度合い
・科学に対する適切な姿勢と科学的探究の重視
・怪しいニセ科学情報や悪徳問題商法の判別方法
将来、学術研究の方面に進む方は必須の授業です。

２．授業内容
○科学とは、科学リテラシーとは
（１）勉強と研究とのちがい
（２）難しい研究・やさしい研究
（３）疑似科学・ニセ科学の例
　～サプリメントは効かない？
○科学の歴史、研究方法論
（４）理論とデータ
（５）研究方法の種類
（６）研究手段としての論理
　～天動説はばかげた説ではなかった！
○仮説の立案と検証
（７）説明のあり方
（８）比較対象の設定
（９）実験と調査
　～間違わない仮設は悪い仮説だ！
○科学と社会
(10) 捏造の社会的背景、科学者倫理
(11) メディアの役割と科学ジャーナリズム
(12) 良好な科学コミュニケーションへ
　～科学は文明に多大の貢献をしている！
○まとめ
(13) 科学と宗教的信念
(14) 科学と非科学のあいだ

３．履修上の注意
科学リテラシーの「科学」とは理科や数学のことではありません。文科系・理科系の共通の基礎です。理科系が苦手な方こそ歓迎です。ふだんの学習があれば、期末定期試験は心配する必要はないでしょう。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
オーメイジで指定する授業資料にもとづいて十分な予習・復習をしたうえで、授業を着実にこなしてください。
予習・復習で生じた疑問に関しては、オーメイジのディスカッション機能で質疑応答を行います。

５．教科書
山本・石川『科学がつきとめた疑似科学』（エクスナレッジ）

６．参考書
「心理学研究法」、高野ほか、有斐閣アルマ
「リアリティの捉え方：社会学研究法」、今田高俊、有斐閣アルマ
「なぜ疑似科学が社会を動かすのか」、石川幹人、ＰＨＰ新書

７．課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業に加え、オーメイジのディスカッション機能で課題へのフィードバックをおこなう。

８．成績評価の方法
３回提出する小課題によって４割、期末試験（持込不可）によって６割の割合で評価する。
小課題や試験では、授業内容の本質的な理解の程度と、科学リテラシーの向上を評定する。
授業中に提出されたコメントシートの内容によって、＋αの加点をすることがある。

９．その他
オーメイジのディスカッション機能で学生どうしの議論をおこなう場を設ける。

科目ナンバー：(IC)MSM111J

数理リテラシー

２単位	１年次	**船越　正太**

１．授業の概要・到達目標
　この講義では、専門的な研究や社会生活で必要な数学の基礎理論を学ぶ。自然現象や社会現象をはじめ、さまざまな分野の現象を関数としてとらえ、関数の値の動きを分析する最も強力な手段である微分法について学ぶ。また、預貯金やローンの金利計算など日常生活で使われる数列の概念についても学ぶ。
　実用上の問題の数学的な本質を追求して、論理的に分析・表現し、解決すること、そしてその結果を他人に論理的に説明できることを到達目標とする。数学の勉強を通じて身に着けた数学的な考え方、論理的思考力は、一般社会に出て様々な仕事をする上で大きな助けになる。どの様な数学が必要な事柄であるかを見極めて、それらを道具として自由に使えるように、繰り返し練習して理解していくことが重要である。

２．授業内容
第１回：損益分岐点（企業の収益体質表す）
第２回：ドル・コスト平均法（定額購入法）
第３回：２次関数（独占市場での価格）
第４回：指数関数（急速に変化する関数）
第５回：対数関数（緩慢に変化する関数）
第６回：微分係数と導関数（最も効果的な科学研究の道具）
第７回：導関数の計算（複雑な関数を微分する）
第８回：いろいろな関数の導関数（ネイピア数とは何か）
第９回：微分法のまとめ
第10回：経済学での微分（利潤最大化）
第11回：数列（預金が倍になるのは何年後か）
第12回：漸化式（自然界に現れる数列）
第13回：関数の増減と極値問題（山の頂上は平ら）
第14回：総合演習
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意
　大学に入って、論理的思考力を身に付けたいなら数学を勉強するとよいでしょう。中学校程度の数学のみを仮定して講義を行い、高度な数学の予備知識は何も仮定しない。数学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
　講義資料と参考書を読んで予習した上で受講すること。講義のあったその日のうちに、基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。

５．教科書
　教科書は使用しない。

６．参考書
『例題と演習で学ぶ 文系のための数学入門 第４版』藤本佳久著（学術図書出版社）2017年
『経済学のための数学の基礎15講』小林幹著（新世社）2018年
『改訂版 経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐著（日本評論社）2013年

７．課題に対するフィードバックの方法
　演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

８．成績評価の方法
　定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の３分の２に満たない者は単位の認定を受けることができない。遅刻は３分の１回の欠席、30分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。就職活動（企業説明会参加を含む）のための授業欠席は公認欠席としては認めない。

９．その他

科目ナンバー：(IC)STA121J

統計学Ａ

２単位	１年次	**山岡　重行**

１．授業の概要・到達目標

我々の周囲には様々な数値情報があふれているが、その中には信頼できるものも、恣意的な欺瞞情報もある。統計学を学ぶ目的の一つは、欺瞞情報に惑わされない知識と判断力を身につけることである。統計学Ａでは、信頼できる情報と信頼できない情報を見分ける情報リテラシーの基礎を身につけるとともに、白書などの官庁が発表する統計資料や簡単な調査報告、フィールドワーク論文などを読み理解するための統計の基本的知識を身につけることを目的とする。

２．授業内容

1　質的データと量的データ
2　統計調査とデータの信頼性
3　尺度（変数）の種類：名義・順序・間隔・比例
4　統計が必要な理由
5　データの取り方：１次データ
6　データを表にまとめる：度数分布表
7　データを図にまとめる：ヒストグラム
8　データやグラフを読む：２次データ
9　分布の中心的傾向の特性値：平均値、中央値と最頻値
10　分布の変動の特性値：分散と標準偏差、変動係数
11　箱ひげ図による平均と散らばりの表示
12　クロス表と散布図
13　因果関係と相関関係：擬似相関、因果関係の誤解
14　まとめ

３．履修上の注意

授業中に練習問題を解くため、計算機が必要である。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に課題を出す。

５．教科書

岩淵千明編著「あなたもできるデータの処理と解析」福村出版

６．参考書

特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法

試験の点数を採点後に開示する。

８．成績評価の方法

定期試験の成績（90％）に平常点と課題点（10％）を加味して評価する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)STA131J

統計学Ｂ

２単位	１年次	**山岡　重行**

１．授業の概要・到達目標

統計学は与えられたいくつかのデータから未知の数値を推測したり、データ間の関係性を判断し最善の結果を生み出すための指針を得る、あるいは現在の状況から将来の結果を予測するための道具でもある。統計学Ｂではこのような推計・検定などデータ分析の基礎的な技術を身に付けることを目的とする。

２．授業内容

1　ランダム・サンプリング：標本の考え方
2　確率と確率分布：確率密度と確率・二項分布
3　階乗・順列・組み合わせ：古典的確率計算
4　正規分布：正規分布の性質と標準化
5　標本平均の分布と母平均の推定：統計的有意性・信頼係数と有意水準・上方信頼限界と下方信頼限界
6　ｔ分布と母平均の推定：小標本の場合の母平均の推定・区間推定と点推定
7　母標準偏差が未知で大標本の場合の母平均の推定
8　χ2分布と母標準偏差の推定
9　ｔ検定：二つの平均値の差の有意性検定の考え方
10　１要因の分散分析：実験計画・多重比較
11　１要因の分散分析：データに対応がある場合
12　χ2 検定：名義尺度データの分析・観測度数と期待度数・クロス表のχ2乗検定
13　相関分析：正の相関と負の相関・相関関係と因果関係
14　まとめ

３．履修上の注意

授業中に練習問題を解くため、計算機が必要。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に課題を出す。

５．教科書

岩淵千明編著「あなたもできるデータの処理と解析」福村出版

６．参考書

特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法

試験の点数を採点後に開示する。

８．成績評価の方法

定期試験の成績（90％）に平常点（10％）と課題点を加味して評価する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)STS111J

論理リテラシー

２単位	１年次	**船越　正太**

１．授業の概要・到達目標

この講義では、専門的な研究の土台になる論理学を学ぶ。論理は自分を表現して他者とコミュニケーションを取るための強力な手段で、論理によってのみ、私たちは「納得した」という感覚を得ることが出来る。「定理」と言われる論理法則を主張するためには、それが正しいことを「証明」することが必要で、その論理的な作業はあらゆる学問に本質的な影響を与えている。

論理的な思考と表現力を養成して、文章の構成や主張を把握し、推論の正誤を判定する事を到達目標とする。論理学の勉強を通じて身に着けた正確な論理性は、一般社会に出て様々な仕事をする上で大きな助けになる。

２．授業内容

第１回：論理学とは何か
第２回：推論の形式化と真理関数
第３回：基本的な真理関数
第４回：否定
第５回：連言と選言
第６回：条件法
第７回：逆・裏・対偶と推論
第８回：論理式
第９回：真理値分析とトートロジー
第10回：真理値分析と推論
第11回：命題論理の意味論と構文論
第12回：伝統的論理学
第13回：量化子と変項
第14回：述語と固有名、多重量化
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意

大学に入って、何か新しく学びたいなら論理学を勉強するとよいでしょう。予備知識は何も仮定しない。論理学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

講義資料と参考書を各自読んで予習した上で受講すること。講義のあったその日のうちに、基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。

５．教科書

教科書は使用しない。

６．参考書

『論理学 Logic: An Introduction』野矢茂樹著（東京大学出版会）1994年
『入門！論理学』野矢茂樹著（中公新書）2006年
『論理学をつくる』戸田山和久著（名古屋大学出版会）2000年

７．課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

８．成績評価の方法

定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の３分の２に満たない者は単位の認定を受けることができない。遅刻は３分の１回の欠席、30分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。就職活動（企業説明会参加を含む）のための授業欠席は公認欠席としては認めない。

９．その他

科目ナンバー：(IC)SOC251J

社会調査法Ａ

２単位	２年次	**大島　　岳**

１．授業の概要・到達目標

この授業では、社会調査の歴史を跡づけながら、社会調査の概説・社会調査の実際・社会調査の課題と応用の三点に着目し、社会調査全般の理解をめざします。全体をとおして、社会調査の歴史的経緯と理論的背景を論じつつ、各回で歴史的系譜に沿いながら具体的な社会調査の研究例をとりあげ、質的調査・量的調査のいずれも含めた社会調査のさまざまな技法と調査プロセスと調査実践の実際を学びます。
各領域における古典的調査とともに、社会調査における新たな動向や倫理的課題を学ぶことによって、社会調査を全般的に理解することをめざします。

２．授業内容

各回の講義題目は次のとおりです。
（１）系譜から学ぶ社会調査の目的と意義　―　リサーチ力をつちかうために
（２）社会調査のルーツとヨーロッパにおける先駆者たち
（３）貧困調査からの出発　―　イギリスの場合
（４）シカゴ学派とアメリカにおける質的調査の出発
（５）エスノグラフィーにおけるフィールドワーク
（６）量的調査：選挙と世論調査
（７）明治期の社会へのまなざし　―　日本における社会調査の萌芽
（８）調査時代の到来　―　大正期の社会へのまなざし
（９）農村調査と農村社会学の成立
（10）東京と社会調査―都市問題の調査
（11）自伝的社会（Auto/Biographical Society）におけるライフヒストリー/ストーリー研究
（12）トライアンギュレーションとしての社会調査と現代の社会問題①
（13）トライアンギュレーションとしての社会調査と現代の社会問題②
（14）社会調査の応用に向けて　―　調査実践における倫理の問題・自分の調査に取り組むために

３．履修上の注意

さまざまな社会調査研究を紹介する中で、受講者は自身が興味関心を抱いた社会調査研究作品をいくつか選び、今後の自身の調査研究の設計に向けた精読と、レポート執筆及び提出することを求めます。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：各回で教科書の内容を精読しておくことを求めます。
復習：各回でいくつかの社会調査研究作品を紹介します。毎回最低でも一冊に目を通し、授業で触れた事項に基づきながら、自分が調査をするならばどのように調査を構想・実施・分析するのかを常に考えること。さらに、社会調査が行われた時代的背景、そして現代社会とあなた自身との関連性を考えることのできる、社会学的想像力を養うことを求めます。

５．教科書

小林多寿子2018『系譜から学ぶ社会調査―20世紀の「社会へのまなざし」とリサーチヘリテージ』嵯峨野書院.

６．参考書

特に定めません。各回の授業時に、関連する研究作品を毎回数冊ずつ紹介します。中間・期末レポートで使用する必要が生じる可能性がありますので、しっかりと学習してください。

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体もしくは個別の講評を、次回以降の授業時に行います。社会調査では、さまざまな角度から複合的に捉える視点が重要になりますので、本授業ではリアクションペーパーの記入とフィードバックを重視し相互学習の機会を積極的に設けながら進めます。

８．成績評価の方法

平常点と提出レポートによる。
平常点：授業内容に関わるリアクション・レポート30％
中間レポート：自分自身の社会への＜まなざし＞をもとに社会調査事例の考察レポート30％
最終レポート：提出論文　40％

９．その他

社会調査士資格カリキュラムのA科目に対応しています。

科目ナンバー：(IC)SOC251J

社会調査法Ａ

２単位	２年次	**小山　慎治**

１．授業の概要・到達目標

この科目では、社会調査を実施する者が身につけるべき調査の基礎的事項を学ぶ。社会調査の歴史、倫理、調査にかかわる諸概念を概観することで、社会調査とは何か、その意義について考えることが主たる目的である。

２．授業内容

1　社会調査とは何か（1）
2　社会調査とは何か（2）
3　社会調査とは何か（3）
4　社会調査の方法
5　社会調査の企画
6　社会調査の設計（1）
7　社会調査の設計（2）
8　社会調査の設計（3）
9　データ収集の方法（1）
10　データ収集の方法（2）
11　データの整理
12　社会に氾濫する調査情報の概観
13　社会調査の社会的意義とその研究への活用
14　まとめ

３．履修上の注意

社会調査の方法論を学ぶ授業なので、クラスでは適宜グループワークを取り入れ、調査に関わる作業などを経験する機会を設けます。このようなクラス活動に積極的に関わろうとする学生を歓迎します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指示された資料に目を通し出席すること。

５．教科書

大谷信介ほか（著）『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房、2023年

６．参考書

授業内で紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー等の課題について、翌週の授業冒頭で講評を行う。

８．成績評価の方法

定期試験（60%）　クラスでの課題（20%）　平常点（20%）

９．その他

社会調査士資格＜A＞区分の認定科目（必修）です。

科目ナンバー：(IC)SOC251J

社会調査法Ｂ

２単位	２年次	**大島　　岳**

１．授業の概要・到達目標

本授業は、社会学的な問いに基づき、取り組もうとする社会調査の企画・設計から実施までの過程を具体的な研究例を概観することによって学びます。実際に資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理することで、実際に調査を行うための知識と技法の基礎を習得することを目指します。

２．授業内容

（1）イントロダクション　―　社会調査を学ぶ意義、目的とプロセス
（2）リサーチ・リテラシーをめざして：社会調査におけるデータの「質」
（3）社会調査の種類１　―　問いと仮説（仮の答え）をきたえる
（4）社会調査の種類２　―　ルポルタージュやYouTubeと社会調査研究の違い（社会調査の要件）
（5）調査企画と設計１　―　問題関心と事前調査／先行研究・関連論文レビューの重要性
（6）調査企画と設計２　―　調査の目的と問いの設定／調査方法の決め方と仮説の構成
（7）調査企画と設計３　―　調査票・質問文作成／ワーディングとプリテスト
（8）調査対象者の選定　―　全数調査と標本調査／フィールドワークやインタビューにおける対象者との出会いとラポール形成
（9）調査企画と設計演習　―　発表とフィードバック
(10) 調査の実施とデータ整理１　―　調査票の配布・回収／エディティング／コーディング／データクリーニング
(11) 調査の実施とデータ整理２　―　フィールドワーク／データ収集の方法／フィールドノーツの作成とコーディング
(12) 調査の実施と記録とデータ整理３　―　インタビューの事前準備と実施方法／トランスクリプトの作成、インタビューデータの分析
(13) 調査の実施と記録・データ整理演習　―　発表とフィードバック
(14) まとめ　―　調査の終え方と成果のまとめ：追加調査、調査レポートの作成、データ管理、調査協力者との関係、調査の活かし方と課題

３．履修上の注意

本授業では、社会調査Aで学習した基礎的な事項を基に、解明したい「問い」に適切に対応した社会調査の企画と設計から、実施までの方法と流れを具体的に学び、実際に調査を行うことを念頭におき調査の企画と設計を実践する予定です。そのため、毎回講義の内容に関連した課題があり約2回の受講者による発表を行い、講師や他の受講生からコメントを得る機会を設ける予定です。なお状況に応じて、先行研究や関連論文の調べ方についてデータベースや図書館を利用する予定です。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：調査の企画・創発、実施、データ分析と考察のプロセスを学ぶうえで、各回で教科書の内容を精読し実際に調査する積極的な学習を自ら行うことを求めます。書を持って街に出ましょう。
復習：調査の企画・創発、実施、データ分析と考察のプロセスを学ぶうえで、授業で学んだことをもとに実際に調査し分析する積極的な学習を自ら行うことを求めます。

５．教科書

佐藤郁哉2015『社会調査の考え方　上下』（東京大学出版会）.

６．参考書

特に定めない。適宜参考文献を紹介します。

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体もしくは個別の講評を、次回以降の授業時に行います。社会調査では、さまざまな角度から複合的に捉える視点が重要になりますので、本授業ではリアクションペーパーの記入とフィードバックを重視し相互学習の機会を積極的に設けながら進めます。

８．成績評価の方法

平常点40%、期末レポート60%。
・平常点：各回、リアクションペーパーの記入（または課題の提出）を求めます
・期末レポート：「社会調査のプロセスと方法を理解し、実際に社会調査の企画・設計・実査・データの整理を行うことができるようになること」を主眼に、2回の発表機会の内容をまとめたレポートとする予定です。

９．その他

社会調査士資格カリキュラムのB科目に対応しています。

科目ナンバー：(IC)SOC251J

社会調査法Ｂ

２単位	２年次	小山　慎治

１．授業の概要・到達目標

この科目では、社会調査の手法についての知識と、調査実施の際の留意点、報告書の執筆における留意点を学ぶ。調査の企画と設計、標本の抽出、調査の実施、データの記述と説明など、実際に行われた調査を具体例として、調査実施者に必要な方法論に関する知識を身につけることが主たる目的である。

２．授業内容

1　社会調査の設計
2　仮説の設定と調査
3　調査対象の決定と標本抽出
4　質的調査の実際（1）
5　質的調査の実際（2）
6　質的調査の実際（3）
7　量的調査の実際（1）
8　量的調査の実際（2）
9　量的調査の実際（3）
10　量的データの整理（1）
11　量的データの整理（2）
12　報告書の作成
13　社会調査における調査設計の重要性
14　まとめ

３．履修上の注意

社会調査の方法論を学ぶ授業なので、クラスでは適宜グループワークを取り入れ、調査に関わる作業などを経験する機会を設けます。このようなクラス活動に積極的に関わろうとする学生を歓迎します。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指示された資料に目を通し出席すること。

５．教科書

大谷信介ほか（著）『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房、2023年

６．参考書

授業内で紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー等の課題について、翌週の授業冒頭で講評を行う。

８．成績評価の方法

定期試験（60%）　クラスでの課題（20%）　平常点（20%）

９．その他

社会調査士資格<B>区分の認定科目（必修）です。

科目ナンバー：(IC)SOC355J

社会調査実習

２単位	３年次	大島　　岳

１．授業の概要・到達目標

質的調査は、社会の課題を明らかにするだけでなく、新しい生き方や働き方、創造的な挑戦、日常のなかで生まれる多様な工夫や実践をとらえることによって、これからの社会の姿を描き出すための大切な手がかりを与えてくれます。人びとの経験に丁寧に耳を傾けることに加え、実際に現場に身を置いて関係や行為の流れを注意深く観察することで、問題の発見だけでなく、未来に向けた可能性やアイデアを見いだすことができます。こうした「未来をひらく視点」を育てられることは、質的調査の大きな魅力のひとつです。

こうした創造的な視点が求められる背景には、現代社会の急速な変化があります。価値観・生活様式・テクノロジーがこれまでにない速度で変化し、人びとの経験や関係性も絶えず組み替えられています。生成AIが大量の情報を瞬時に整理し社会の可視化を進める一方で、多様化する生き方や親密性、周縁化されやすい経験、数字では捉えきれない感情や実践の背景を丁寧に理解する必要性はむしろ高まっています。こうした変化のただ中で、社会の「過去」や「現在」を現場でとらえ、見過ごされがちな声や実践を掘り起こす質的調査研究の重要性が増しています。

本授業は、質的調査法を用いて 多様性（diversity）と親密性（intimacy）を軸とした社会調査を自ら企画・実践することを目的とします。ジェンダー、セクシュアリティ、国籍・民族、病いや障がい、格差、世代、宗教や価値観など、受講者それぞれの関心に応じてテーマを設定し、現代社会の複雑さを人びとの語りと現場の状況を踏まえて理解する力を養います。

授業では、調査の企画、問いと先行研究の整理、調査方法と質問項目の設計、対象者や地域の選定、調査実施、フィールドノートやインタビュー・トランスクリプトの作成、データ整理、分析、最終報告書（エスノグラフィー）の執筆に至るまで、質的調査の一連のプロセスを体験的に学びます。

調査者として主体的に現場に向き合い、他者の語りに耳を傾け、社会に潜む構造や力学を自らの言葉で理解します。その過程を通じて、「社会を問う力」と「問いを鍛えるスキル」を身につけることを目指します。

２．授業内容

（1）授業の概要　―社会調査実習のためのイントロダクション、年次計画、グループ分け
（2）社会調査法の理解１　―フィールドワークの技法１
（3）社会調査法の理解２　―フィールドワークの技法２
（4）社会調査法の理解３　―フィールドワークの技法３
（5）調査を設計するとは　―過去の調査事例から
（6）調査の手法と課題　―過去の調査事例から
（7）先行研究の学習１　―　各自の関心に基づく
（8）先行研究の学習２　―　各自の関心に基づく
（9）プレ調査の実施
（10）プレ調査の振り返り
（11）調査の企画・対象地・対象者選定・問いの作成・調査項目の設定(1)
（12）調査の企画・対象地・対象者選定・問いの作成・調査項目の設定(2)
（13）調査の企画・対象地・対象者選定・問いの作成・調査項目の設定(3)
（14）前期のまとめと後期に向けての総合討論

（夏季休暇期間：各自調査実施）

（15）夏休み中のフィールドワーク/インタビュー経過確認
（16）データの整理1　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論
（＊以下、適宜追加調査実施）
（17）データの整理2　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論
（18）データの整理3　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論
（19）データの整理4　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論
（20）データの整理5　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論／進捗報告
（21）データの整理6　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論／進捗報告つづき
（22）データの整理7　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論
（23）データの整理8　―フィールドノート・インタビューデータの検討と討論
（24）報告書構成の確認・調査倫理上の再確認
（25）報告書草稿の確認・調査倫理上の再確認
（26）報告書原稿の検討・調査倫理上の再確認
（27）最終報告書の提出
（28）総括

３．履修上の注意

授業の内容とコミュニケーション密度が濃いことが本授業の特徴です。一般的に、一年間で社会調査の過程をひととおり終えることは困難であるため、夏季休暇期間など授業時間以外の時間を使用することがあります。なお、文献講読では各自最低一回のレジュメ発表を行い、話題提供とディスカッションを進めることを求めます。英語の得手不得手は問いません。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

予習：各回の指定文献の精読、発表の準備、各自の計画に基づいたフィールドワークやインタビュー調査の実施。
復習：授業でディスカッションした内容に基づき、自分の調査計画を精査し修正する地道な作業と、調査対象者のプライバシーや安全など人権の配慮と法令遵守が求められます。

５．教科書

大島岳 2023『HIVとともに生きる――傷つきとレジリエンスのライフヒストリー研究』青弓社.
佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法――問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社.
桜井厚・小林多寿子編 2005『ライフストーリー・インタビュー――質的調査入門』せりか書房.

６．参考書

Giddens, Anthony, 1992, The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies, Polity Press.（松尾精文・松川昭子訳、1995 『親密性の変容――近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム』（而立書房）.）
Oldenburg, Ray, 1989, The Good Place: Cafes、Coffee Shops, Bookstores、Bars, Hair Salons and Other Hangout at the Heart of Community, Da Capo Press.（忠平美幸訳、マイク・モラスキー解説, 2013『サードプレイス――コミュニテイの核になる「とびきり居心地よい場所」』（みすず書房）.）
砂川秀樹, 2015,『新宿二丁目の文化人類学』（太郎次郎社エディタス）.
Baudinette,Thomas., 2021, Regimes of Desire: Young Gay Men, Media and Masculinity in Tokyo,（University Of Michigan Press）.

７．課題に対するフィードバックの方法

毎回、先週までの授業で不明点や疑問点を確認するとともに、今後の社会調査に向けた方針を確認するなど、講師及び受講者双方が積極的に相互フィードバックを行うことを重視します。

８．成績評価の方法

平常点40%、調査報告書60%

９．その他

社会調査士資格カリキュラムのG科目に対応しています。
ディスカッションや実際の調査を伴う授業となります。社会調査は、人が人に会って、人について理解するための社会科学的な方法です。そのため、協力者の人権の尊重、プライバシーの保護、法令の遵守の姿勢は欠かせません。責任をもち積極的に授業に関わることのできる学生の履修を歓迎します。

科目ナンバー：(IC)SOC355J

社会調査実習

2単位	3年次	小山　慎治

1．授業の概要・到達目標
本授業は、「大学生の対人コミュニケーション」を研究テーマとして、量的研究の方法論を習得することを目的とする。受講生は、研究テーマに関する文献研究、研究課題の設定、調査の企画および実施、調査で得られたデータの処理と数値の解釈等の過程を通じて、統計を用いた社会調査の一連の流れを経験する。春学期では、受講生のテーマに応じた試作版調査票の作成、およびそれに基づく心理測定尺度の構成が主たる課題となる。秋学期には、春学期に作成した尺度を用いた質問紙調査を実施し、適切且つ効率的なデータ収集の方法や、統計処理の方法を学んでいく。最終的に報告書を執筆することで、調査の流れを理解するとともに、調査のまとめ方を習得することも目指す。

2．授業内容
1　イントロダクション（授業の目的と年間の予定の説明）
2　量的調査のプロセスの概観
3　量的調査の事例
4　文献研究
5　文献研究（受講生による発表）
6　調査のデザイン（調査の目的、対象の明確化）
7　調査のデザイン（研究設問もしくは仮説の設定）
8　調査計画（変数の設定）
9　調査計画（データ収集方法の検討）
10　調査計画（サンプルの抽出方法、研究倫理等の説明）
11　調査票の作成（質問項目の検討）
12　調査票の作成（予備調査の実施）
13　調査票の作成（質問項目の整理）
14　調査の実施
夏期休暇中の課題：先行研究のまとめと調査の目的の文章化
15　調査の実施
16　データ入力
17　統計ソフト（SPSS）を使ったデータ処理の方法
18　データ・クリーニング
19　データ分析
20　データ分析2
21　受講生による分析結果の発表
22　統計結果の考察とディスカッション
23　表の作成
24　分析結果の文章化
25　報告書の作成
26　報告書の作成2
27　報告書の校正
28　報告書の完成と提出

3．履修上の注意
調査を実施する段階では、グループ単位での活動が中心となる。他の学生と良好な対人関係を築ける学生、対立が生じても根気よく話し合いができる学生を特に歓迎する。
また、データ解析論／データによる実証分析＜E＞を履修していることが望ましい。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
受講生は各自実習ノートを作成し、調査の企画、準備、実施に関して記録を残しておくこと。

5．教科書
特に指定しない。

6．参考書
大谷信介ほか（著）『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房、2023年
田中敏・山際勇一郎『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法」教育出版』、1992年

7．課題に対するフィードバックの方法
授業での課題は、最終的な報告書の原稿を段階的に執筆していくものである。これらすべての提出物について、個別に書面によるフィードバックを行う。

8．成績評価の方法
レポート（40%）　クラスでの課題（20%）　クラス貢献度（20%）　授業参加度（20%）
評価においては、調査のプロセスに関する基礎的知識が十分に習得できたか、レポートにおいて論理的な考察がなされているかといった観点を重視する。

9．その他
社会調査士資格＜G＞区分の認定科目です。(必修)

科目ナンバー：(IC)SOC351J

質的調査分析法

2単位	3年次	大島　　岳

1．授業の概要・到達目標
この授業では、質的調査研究の系譜をたどり、研究成果を概観しながら、複数の事例紹介と解説をとおして多様な社会調査分析方法の実際について学びます。質的調査の技法、調査対象の設定や調査計画からデータの収集整理、分析の方法をとりあげ、調査の進め方、調査の成果とその提示方法を具体的に検討し、社会調査分析の基礎力を身につけることをめざします。

2．授業内容
（1）イントロダクション　―　質的調査研究における社会調査法を学ぶために（全体の流れ）
（2）質的調査の考え方　―　何のための調査か、何が明らかにされるのか
（3）質的調査の系譜1　―　シカゴ学派と現代の都市研究
（4）質的調査の系譜2　―　人類学者と社会学者たちのエスノグラフィ―
（5）質的調査の系譜3　―　日本における生活史研究と近年の動向
（6）質的調査の技法1　―　出会う：多様なインタビュー法
（7）質的調査の技法2　―　聴く：オーラルヒストリーと歴史的出来事
（8）質的調査の技法3　―　観る：参与観察・考現学・ビジュアルエスノグラフィ
（9）質的調査の技法4　―　語る：バイオグラフィカル・メソッド―「人生」へのアプローチ
（10）質的調査の技法5　―　保存しまとめる：アーカイブズ調査とテキストマイニング
（11）質的データの分析と考察　1　―　フィールドノートとトランスクリプト
（12）質的データの分析と考察　2　―　ライフストーリー分析
（13）質的データの分析と考察　3　―「厚い記述」と生活世界
（14）調査実践の成果と倫理の問題　―　質的調査研究の動向と課題

3．履修上の注意
本授業では、受講者が今後自身の関心や問題意識に沿った具体的な調査研究を計画・実践するための基礎力を養う目的で、幅広く異なる方法を用いたいわゆる質的調査研究作品を解説してゆきます。そのため、講義全体で数冊の文献を講読し、当該研究で用いられている調査法の概要と特徴を理解しているか、リアクションペーパーの提出を求めます。文献は授業中に提示しますので、より学習を深めてください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習：各回で教科書の内容を精読しておくことを求めます。
復習：各回でいくつかの社会調査研究作品を紹介します。毎回最低でも一冊に目を通し、授業で触れた事項に基づきながら、自分が調査をするならばどのように質的調査の技法、調査対象の設定や調査計画からデータの収集整理、分析を進めていくかを常に考えることを求めます。

5．教科書
大島岳 2023『HIVとともに生きるーー傷つきとレジリエンスのライフヒストリー研究』青弓社.
小林多寿子2010『ライフストーリー・ガイドブック―ひとがひとに会うために』嵯峨野書院.

6．参考書
特に定めません。毎回数冊程度の参考文献を紹介します。

7．課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーの全体もしくは個別の講評を、次回以降の授業時に行います。社会調査では、さまざまな角度から複合的に捉える視点が重要になりますので、本授業ではリアクションペーパーの記入とフィードバックを重視し相互学習の機会を積極的に設けながら進めます。

8．成績評価の方法
平常点40%、期末レポート60%。
・平常点：各回、リアクションペーパーの記入（または課題の提出）を求めます。
・期末レポート：多様な社会調査分析方法の実際について「質的調査の技法、調査対象の設定や調査計画からデータの収集整理、分析の方法を習得すること」を内容とする予定です。

9．その他
社会調査士資格カリキュラムのF科目に対応しています。

科目ナンバー：(IC)STA371J

データ解析論Ⅰ

２単位	３年次	後藤　　晶

１．授業の概要・到達目標

授業の概要：

現代社会はデータに満ちあふれている。将来、どのような進路を選ぶにしろ、データから離れて生きていくことは困難な時代が訪れた。見方を変えれば、データとの付き合い方を知っていれば、他者よりも有利に生きていける可能性が高い。

この講義では、統計学の基礎を学び、「データを適切に分析する手法」の学修を目的としてフリーソフトであるRおよびJamoviを用いて、データの整理と実証分析の基礎を学ぶ。具体的には、RおよびJamoviの基本的な操作方法、データの加工、確率と確率変数、データの可視化の方法、クロス集計表の作成、単回帰分析とt検定について学ぶ．あわせて、科学における再現可能性の重要性について学ぶ。

なお、「データ解析論I」は「データ解析論II」とあわせて履修することで社会調査士資格＜Ｅ＞区分として認定される科目である。社会調査士取得を目指す学生は確認しておくこと。

到達目標：

1. 各統計手法について、その目的と意義を説明することができる。
2. 各統計手法について、各自で分析を実行できる。
3. 分析結果について、適切に他者に説明できる。

２．授業内容

【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】

［第１講］ イントロダクション
［第２講］ 基本的な操作方法と記述統計の算出（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第３講］ 基本的な操作方法と記述統計の算出（2）
［第４講］ データの加工（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第５講］ データの加工（2）
［第６講］ 確率と確率変数（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第７講］ 確率と確率変数（2）
［第８講］ データの可視化（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第９講］ データの可視化（2）
［第10講］ 実証分析の手続きと再現可能性･クロス集計表の作成（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第11講］ クロス集計表の作成（2）
［第12講］ 単回帰分析とt検定（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第13講］ 単回帰分析とt検定（2）
［第14講］ 振り返り・最終課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕
※ただし、履修者の状況により内容を一部変更することがある。

３．履修上の注意

・データ解析論Iに引き続き、データ解析論IIを履修することが望ましい。
・この科目ではBYOD（Bring Your Own Device）を前提とするためノートPCを持参すること。持っていない場合は履修前に事務室に相談すること。
・この科目ではR、RStudioおよびJamoviを用いる。初回の講義でインストールを作業を実施する。
・この科目は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。オンデマンド形式により実施する回については、毎週水曜日に講義動画を配信する。
・対面授業は、前回のオンデマンド形式の授業を受講していることを前提として問題演習を行うので、対面授業の日までに必ず受講すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の予習並びに復習が必要不可欠となる。資料の指定した箇所に目を通して授業に参加すること。

５．教科書

『データ分析のための統計学入門』マイン・チェティンカヤーランデル，デイビット・M.ディーツ．（オンラインで無料公開されている）
その他、配布資料を用意する。

６．参考書

『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ』、星野匡郎、田中久稔、（オーム社）
『R・Pythonによる 統計データ科学』、杉山高一、藤越康祝、（勉誠出版）
その他、適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

８．成績評価の方法

平常点20%、課題50%、最終課題30%
平常点：リアクションペーパー等の回答状況などの授業への積極性を評価する。
課題：毎回の授業内での演習課題の提出が必要となる。
最終課題：最後の授業で問題演習を行う。

９．その他

社会調査士資格＜Ｅ＞区分の認定科目である。＜Ｆ＞科目と選択必修であり、本講義は「データ解析論Ⅱ」と併せて履修することで＜Ｅ＞区分の認定科目として認定される。

また，明治大学数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルの情報コミュニケーション学部における数理統計科目の1つである．

科目ナンバー：(IC)STA371J

データ解析論Ⅱ

２単位	３年次	後藤　　晶

１．授業の概要・到達目標

授業の概要：

データ解析論IIでは、データ解析論Iで学んだ統計手法をもとに、フリーソフトであるRおよびJamoviを用いて、「因果関係の解明」をテーマとして発展的な分析手法について学ぶ。

具体的には、重回帰分析と分散分析、一般化線形モデルや因子分析、パス解析、構造方程式モデリング、クラスター分析といった分析手法や、ランダム化比較実験といった実験・調査・分析デザインに関わる応用的な話題に触れる。さらに、アドバンスなトピックとして傾向スコアマッチング、回帰不連続デザイン、操作変数法についても紹介する。

なお、「データ解析論II」は「データ解析論I」とあわせて履修することで社会調査士資格＜Ｅ＞区分として認定される科目である。社会調査士取得を目指す学生は確認しておくこと。

到達目標：

1. 各統計手法について、その目的と意義を説明することができる。
2. 各統計手法について、各自で分析を実行できる。
3. 分析結果について、適切に他者に説明できる。

２．授業内容

【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】

［第１講］ データ解析論Iの復習
［第２講］ 重回帰分析と分散分析（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第３講］ 重回帰分析と分散分析（2）
［第４講］ 重回帰分析と分散分析（3）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第５講］ 重回帰分析と分散分析（4）
［第６講］ 一般化線形モデル（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第７講］ 一般化線形モデル（2）
［第８講］ 因子分析（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第９講］ 因子分析（2）
［第10講］ パス解析・構造方程式モデリング（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第11講］ パス解析・構造方程式モデリング（2）
［第12講］ クラスター分析･ランダム化比較実験の考え方〔メディア授業（オンデマンド型）〕
［第13講］ 振り返り・最終課題
［第14講］ マッチング･回帰不連続デザイン･操作変数法〔メディア授業（オンデマンド型）〕
※ただし、履修者の状況により内容を一部変更することがある。

３．履修上の注意

・データ解析論Iの履修を前提とする。
・この科目ではBYOD（Bring Your Own Device）を前提とするためノートPCを持参すること。持っていない場合は履修前に事務室に相談すること。
・この科目は、クォーター（７週）完結型授業である。週に２コマの授業を、対面形式とオンデマンド形式にて実施する。オンデマンド形式により実施する回については、毎週水曜日に講義動画を配信する。
・対面授業は、前回のオンデマンド形式の授業を受講していることを前提として問題演習を行うので、対面授業の日までに必ず受講すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の予習並びに復習が必要不可欠となる。資料の指定した箇所に目を通して授業に参加すること。

５．教科書

『データ分析のための統計学入門』マイン・チェティンカヤーランデル，デイビット・M.ディーツ．（オンラインで無料公開されている）
その他、配布資料を用意する．

６．参考書

『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ』、星野匡郎、田中久稔、（オーム社）
『R・Pythonによる 統計データ科学』、杉山高一、藤越康祝、（勉誠出版）
その他、適宜紹介する。

７．課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でリアクションペーパーに対するコメントをする。

８．成績評価の方法

平常点20%、課題50%、最終課題30%
平常点：リアクションペーパー等の回答状況などの授業への積極性を評価する。
課題：毎回の授業内での演習課題の提出が必要となる。
最終課題：最後の授業で問題演習を行う．

９．その他

社会調査士資格＜Ｅ＞区分の認定科目である。＜Ｆ＞科目と選択必修であり、本講義は「データ解析論Ⅰ」と併せて履修することで＜Ｅ＞区分の認定科目として認定される。

海外留学科目群

科目ナンバー：(IC)ABR121J

国際交流（タイ）

2単位	1年次	コーディネーター 和田　悟

1．授業の概要・到達目標
【授業概要】
タイでの派遣研修を伴う国際交流プログラムです。「国際交流」というタイトルで尻込みする必要はありません。東南アジアの同世代の学生と「**日本語**」での交流を中心としつつ、多様性を認識し、互いの文化を尊重する態度を養うことを目指します。日本と異なる文化社会を体験することは、自国の文化への理解を深めることにもなります。
派遣研修においては、現地の大学でタイの学生と話合いテーマを決めて、合同で調査・発表を行います。日本への長期留学や日本語を活かす進路への明確な目的意識をもって勉学に取り組むタイの学生との交流は、参加学生自身の学びへの意欲にもつながるでしょう。
【到達目標】
この授業の到達目標は、異なる文化・社会を体験することで、多様性への認識、互いの文化を尊重する態度を養うこと、海外で働くことを自身のキャリアイメージとして捉えられるようになることである。
（参考）2025年度のタイ研修のガイダンス動画（約10分）：https://r.qrqrq.com/5Bi5hQq5

2．授業内容
【事前学習（1)】5月中旬または下旬の土曜を予定
第１回　イントロダクション（プログラムの概要・顔合わせ）
第２回　ASEANと日本について
【事前学習（2)】8月上旬を予定
第３回　タイの文化と研修先について
第４回　渡航・滞在時の留意点・安全対策について
【派遣研修（バンコク)】8月下旬～ 9月上旬（予定：8/24 ～ 9/7）
第10回　タイの社会・文化についての講義・実習
第11回　日タイの相違について現地調査･発表(タイ人学生とのグループワーク）(1)
第12回　日タイの相違について現地調査･発表(タイ人学生とのグループワーク）(2)
第13回　タイ文化社会の見学
【事後学習】
第14回　研修成果報告（10月上旬の土曜を予定）
※派遣期間中の項目は、便宜上、主なプログラムを時間数に応じて各回に振り分けたものです。

3．履修上の注意
８月下旬から９月上旬（8/24（月）～ 9/7（月））に約２週間のタイ派遣研修を行う予定です。単位修得のためには、この研修への参加が必須です。ただし、感染症の流行や政情不安などの安全上の問題で派遣が中止されるときには、オンラインでの交流・研修に切り替える場合があります。研修費用や日程、旅行保険への加入などの詳細は、別途ホームページなどで公開される、募集要項を参照してください（https://www.meiji.ac.jp/infocom/office/shorttermexchange.html)。研修費については学部からの補助が受けられる予定です。実際の研修費や助成金についても、別途募集要項を参照してください。
なお、履修申し込みなどは、通常の科目と異なり別途募集します。他の科目で履修上限単位数に達していても追加して履修できます。4月上旬のガイダンスなどに注意してください。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
この授業と関係する授業としては､「新興国事情」「クリエイティブ･コミュニケーション（タイと歴史)」などがあります。この授業における主な交流相手はタイで日本語を学ぶ学生です。交流は主に「日本語」を使います。「タイ語」の履修者は実践の機会になりますから、是非参加してもらいたいと思います。
タイとの学生交流では、グループでプレゼンテーションを準備するなど事前準備が必要な場合があります。充実した交流にするためにきちんと準備した上で参加してください。
また、交流経験から得たことなどを発表する報告会があります。

5．教科書
とくにありません。

6．参考書
佐原隆幸・徳永達巳『国際協力 アクティブ・ラーニング』弘文堂
川島博之『歴史と人口から読み解く 東南アジア』扶桑社新書
岩崎育夫『入門 東南アジア近現代史』講談社現代新書
柿崎 一郎『物語タイの歴史』中公新書ほか

7．課題に対するフィードバックの方法
この授業は少人数で行い、教員の引率があり、教員・学生との接触が緊密に行われます。さまざまなフィードバックは電子メールまたはLINEなどのSNSを利用し適宜行う予定です。

8．成績評価の方法
事前学習における活動状況 30%
派遣中の学習取り組み 50%
研修成果報告 および レポート 20%

9．その他
履修者の定員は20名程度とし、面接による選考を行う。
感染症の蔓延、政変・大規模災害など安全上の問題があり、渡航が不可能な場合には、派遣部分の学習について日本における講義・演習に代える場合がある。

科目ナンバー：(IC)ABR121J

国際交流（メディア）

2単位	1年次	コーディネーター 横田　貴之

1．授業の概要・到達目標
テレビは社会を覗きこむ窓ではなく、番組の制作者が混沌とした社会からネタを探し出し、わかりやすいよう再構成、視聴者に提示しているものである。海外でのロケ体験を通して、視聴者でなく取材者・制作者の視点からメディアリテラシーを学ぶとともに、国際感覚を身につける。
少人数のグループに分かれて、それぞれのグループで共通テーマのもと渡航先で取材、VTR制作。さらに帰国後、このVTRを使ってフジテレビの専用スタジオで番組制作（疑似生放送）を行う。一連の制作過程を通じてテレビの特性、限界、課題、可能性などを学び、メディアを見る目を養う。またこのプログラムでは海外を舞台に英語を使ってロケ取材するという高いハードルが設定されているが、それを乗り越える積極性とクリエイティビティを養うこともこのプログラムの目的である。

2．授業内容
（1）事前学習１:メディアリテラシー概論（テレビの特性を分析する）
（2）事前学習２:ロケ取材の準備（取材テーマを考え､リサーチする）
（3）事前学習３：ロケ取材の準備（構成案を考える）
（4）現地ロケ体験（取材アポ取り、演出プラン）
（5）現地ロケ体験（リサーチ、ロケハン）
（6）現地ロケ体験（取材　第１取材先）
（7）現地ロケ体験（取材　第２取材先）
（8）現地ロケ体験（取材　リポート、街録など）
（9）現地ロケ体験（取材　追加取材）
(10) 事後学習１：取材したVTR素材から構成原稿、オフラインシート作成（第１稿提出）
(11) 事後学習２：取材したVTR素材から構成原稿、オフラインシート作成（最終稿提出）
(12) 事後学習３：スタジオ展開を考える
(13) 専用スタジオ（フジテレビ湾岸スタジオ内）で番組を制作する
(14) 番組プレビュー（フジテレビ湾岸スタジオ内)、討論
＊講義内容は必要に応じて変更することがある。

3．履修上の注意
プログラムの詳細（渡航先や実施日程等）は募集要項を確認すること。
ワークショップ的なプログラムのため、積極的かつ主体的な授業への参加が求められる。実施は2026年２月～３月。東京での事前学習、渡航先でのロケ体験（８日間予定)、東京での事後学習（フジテレビ専用スタジオでの番組制作体験含む）を予定しているので、全行程に参加できる者のみ事前申込方法に沿って手続きをすること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
ニュース番組、情報番組などを意識的に見ることを推奨する。

5．教科書
特になし。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法
適宜制作物対して行います。

8．成績評価の方法
授業への積極的かつ主体的な参加度を評価

9．その他

科目ナンバー：(IC)ABR121J

国際交流（イギリス）

２単位	１年次	コーディネーター 坂本　祐太

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
国際交流（イギリス）は、英国の中心地に所在するロンドン大学アジア・アフリカ研究員（SOAS）が開催するサマープログラムに参加することを通し、英語力強化に加え英語を通した専門的知識（メディア入門・国際関係論など）の拡充を行うプログラムとなっています。プログラムへの参加のみならず事前学習及びプログラム終了後の成果報告を通して英国の言語・文化・歴史等への理解も深め、日常では得られない新たな視野を養ってください。
※「２.授業内容」における【派遣研修】は「３週（国際交流（イギリス）２単位)」･「６週（国際交流（イギリス）２単位×２＝４単位修得)」･「９週（国際交流（イギリス）２単位×３＝６単位修得)」いずれかを選択し履修することができます。
【到達目標】
・日本の英語教育において主流となっているアメリカ英語との差異を経験することで「World Englishes」と呼ばれる考え方への理解を深める。
・専門分野に関して英語で理解し、その理解を応用し発表する能力を養う。
・異文化（英国）への理解を深める。

２．授業内容
【事前学習】５月～７月頃
第１回　イントロダクション（プログラムの概要）
第２回　英国の文化・SOASに関して
第３回　渡英・滞在時の留意点など
【派遣研修】
※派遣時期は募集要項をご確認ください。
※下記は「３週（国際交流（イギリス）２単位)」の場合
（１週目）
第４回　英語の多様性＜１＞
第５回　異文化理解＜１＞
第６回　専門的知識の拡充＜１＞
（２週目）
第７回　英語の多様性＜２＞
第８回　異文化理解＜２＞
第９回　専門的知識の拡充＜２＞
（３週目）
第10回　英語の多様性＜３＞
第11回　異文化理解＜３＞
第12回　専門的知識の拡充＜３＞
※「６週（国際交流（イギリス）２単位×２＝４単位修得)」･「９週（国際交流（イギリス）２単位×３＝６単位修得)」を履修した場合は、第４回～第１２回の授業内容をより多く学習する（現地に長く滞在する）ことになる。
【事後学習】１０月
第13回　成果報告準備
第14回　成果報告
※講義内容は必要に応じて変更になることがある。

３．履修上の注意
本授業には英国への派遣が含まれており、単位取得のためには参加が必須です。参加費用及び詳細に関しては別途募集要項を参照してください。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
事前学習の際に準備学習について説明を行います。この授業と関連する科目として「異文化理解」「英語の文化と歴史」「多文化と相互理解」などがあるので、適宜履修を検討してください。

５．教科書
特になし

６．参考書
木下卓他『イギリス文化55のキーワード』ミネルヴァ書房
指昭博（編）『はじめて学ぶイギリスの文化と歴史』ミネルヴァ書房

７．課題に対するフィードバックの方法
事後学習で適宜フィードバックを行います。

８．成績評価の方法
事前学習での活動状況50%, 研修成果報告50%

９．その他
履修希望者は必ず別途配信する募集要項を必ず確認すること。

科目ナンバー：(IC)ABR126J

国際交流（世界のキャンパスから）〔M〕

２単位	１年次	コーディネーター 横田　貴之

１．授業の概要・到達目標
本科目は、情報コミュニケーション学部の教育方針に基づいて、みなさんが学際的かつ国際的な問題意識を早期から養うために設置されている。政治・経済・文化のグローバル化現象に伴って、学問はもはや一国単位では成立し得ない。一つの大学というローカルな枠組みに囚われていては、「世界の現在」「社会の現在」に多角的にアプローチすることは難しい。
この授業では、世界各地の様々な大学・研究所・国際機関などで最先端研究や国際業務に従事する外部講師約10名を招聘し（原則オンライン、場合によって対面)、本学部の教員がコーディネーターとなって分かりやすく研究・業務内容を紹介してゆく。みなさんの便宜を図って授業は原則として日本語で行われ、英語等の他言語で行われる場合にも適宜フォローする。また授業の内容は招聘する外部講師の研究･業務内容に応じて毎年更新される。これまで、メディア、音楽、ジェンダー、文学、政治、社会学、と扱うテーマは分野を超えて多岐にわたっている。
みなさんは世界のさまざまなキャンパスで、いったい何が問題として研究され、どのような授業が行われ、どのように仕事として実践されているのかを、日本にいながらにして知ることができるだろう。興味をもった分野を本学部で極めたり、将来的に国際機関で勤務するなどの選択肢もある。是非とも積極的に参加し、主体的に役立てて欲しい。

２．授業内容
決定次第、Oh-o!Meijiにて公開する。

３．履修上の注意
学部１、２年生を対象として想定しているが、３、４年生の履修も歓迎する。授業は原則としてオンラインで実施されるが、授業が対面で行われる場合は和泉キャンパスで行う。また、他学部の履修を認める。
この科目は、原則としてメディア授業科目として開講される。メディア授業の授業形態は、リアルタイムかオンデマンドであり、オンデマンドの場合は原則授業実施回となる水曜にOh-o!Meijiを通じて授業動画を配信する。対面形式の授業を実施する場合は、事前にOh-o!Meijiを通じて受講生に詳細を周知する。
なお、各回担当者が課す課題提出をもって出欠をカウントするとともに、受講生の理解度確認を行う。これらは、Oh-o!Meijiを通じて行われる。講義全体に関する質問・相談窓口については、初回ガイダンス時に授業コーディネーターへの連絡方法を周知する。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
新しいセッションの前に、次回のセッションのテーマを予告するので、各自で事前学習を進めておくことが望ましい。

５．教科書
特になし。

６．参考書
授業の中での指示に従うこと。

７．課題に対するフィードバックの方法
各回、課題に対する講評動画、もしくはコメントを提示する。

８．成績評価の方法
セッションごとに課されるリアクションペーパー 100%

９．その他

ウェルネス科目群

科目ナンバー：(IC)HES111J

ウェルネスA

2単位	1年次	奈良岡　佑南

1．授業の概要・到達目標

本授業は、様々なチームスポーツを通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。さらに健康・体力の維持向上だけでなく、友達づくりや仲間との信頼関係の構築を経験するとともに、生涯スポーツの楽しさや意義について考えていく。

基本技術の習得、種目のルールや歴史的背景の理解、自ら考え行動すること、チームでの活動に積極的に参加することを目標とする。

2．授業内容

第1回：イントロダクション（授業の進め方、諸注意）
第2回：バドミントン①
第3回：バドミントン②
第4回：バドミントン③
第5回：ソフトバレーボール①
第6回：ソフトバレーボール②
第7回：ソフトバレーボール③
第8回：ドッチビー①
第9回：ドッチビー②
第10回：ドッチビー③
第11回：バスケットボール①
第12回：バスケットボール②
第13回：バスケットボール③
第14回：まとめ、レポート提出

※必要に応じて内容を変更することがあります。

3．履修上の注意

1. 授業の2/3以上の出席で評価の対象とする。
2. 運動に相応しい服装とシューズで授業に出席すること。
3. 積極的に授業にとりくむこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1. 競技の特性やルールについて、教科書をもとに学習し、理解しておくこと。
2. 全員が共通の認識を持ってスムーズに授業に臨めるように準備しておく。
3. 各回で学習した内容は次週に活かせるようにしておく。

5．教科書

使用しない

6．参考書

使用しない

7．課題に対するフィードバックの方法

課題を出した際には、次週の授業時間内に口頭で講評や解説を行う。

8．成績評価の方法

授業への出席80%、レポート(10%)、授業態度(10%)

9．その他

科目ナンバー：(IC)HES113J

ウェルネスA

2単位	1年次	竹崎　一真

1．授業の概要・到達目標

現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態（全人的健康）」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態にするために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。

本授業では、ダンが提唱する「ウェルネス」を実践的に学ぶことに加えて、身体運動やスポーツの実践に不可欠な「身体の多様性」や「他者との共生」についての理解も高めていくことを目標とする。多様性に対する理解の高まりとともに、ユニバーサルデザイン（文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した設計）への取り組みが重要視されている今日、「ウェルネス」にもそうした考え方を導入することが求められている。そのため授業では、自己の身体への気づきを高めることを目的とした身体運動とスポーツの実践だけでなく、身体の多様性を学ぶことを目的とした障害者スポーツの実践や、他者との共生についての理解を深めるためのスポーツのルール開発を実践する。

2．授業内容

本授業では、いわゆる「競技スポーツ」ではなく、フィットネスやウォーキング、ライフキネティック、パラスポーツ、ニュースポーツなど、誰でも能力に関係なく参加できるスポーツ中心に行う。

<春学期：FR（フィットネスルーム）>	<秋学期：グラウンド>
第1回：イントロダクション（教室）	第1回：イントロダクション（教室）
第2回：体力測定	第2回：ライフキネティック①
第3回：体力測定	第3回：ライフキネティック②
第4回：FR利用者講習	第4回：キックベース
第5回：FR利用者講習	第5回：ティーベース
第6回：ウォーキング①	第6回：ソフトボール①
第7回：ウォーキング②	第7回：フライングディスク①
第8回：ヨガ・ストレッチ講習	第8回：フラッグフットボール
第9回：ヨガ・ストレッチ講習	第9回：救急救命講習（教室）
第10回：体幹トレーニング	第10回：ブラインドサッカー
第11回：救急救命講習	第11回：フライングディスク②
第12回：マシンを使ったトレーニング	第12回：ソフトボール②
第13回：マシンを使ったトレー技ング	第13回：ライフキネティック③
第14回：フィットネスと食事（教室）	第14回：フィットネスと食事（教室）

※授業内容は、天候により変更する可能性があります。

3．履修上の注意

運動に適した服装を着用すること。春学期は屋内用運動靴＋ウォーキングシューズ、秋学期は屋外用の運動靴を使用すること。体調管理を徹底すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

日常的に体を動かす習慣を身につけましょう。

5．教科書

使用しない。

6．参考書

使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎授業時に行います。

8．成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢（60点）、クラスメイトとの関わり方（20点）、期末レポート（20点）から総合評価する。

9．その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(IC)HES111J

ウェルネスB

2単位	1年次	竹崎　一真

1．授業の概要・到達目標
現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態（全人的健康）」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態にするために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。今日の体育・スポーツ科学では、このウェルネスを達成するには次の5領域を理解することが重要だとされている。
・情緒の領域：ストレスコントロール
・精神の領域：人生観や生きがい
・身体の領域：健全な身体育成、身体のあり方
・環境の領域：自然環境、社会環境、人間関係、平和
・価値の領域：価値の認識（その人の物の見方、考え方）
本授業では、①「身体運動の歴史的･文化的側面」②「身体の多様性」③「メンタルヘルス」④「近年の環境変化」にとりわけ着目し、講義やディスカッションを行うことで、この5領域についての理解を深めるとともに、ウェルネスに対する自分なりの考えを構築できるようにすることを目標とする。

2．授業内容
＜春学期・秋学期共通＞
第1回：イントロダクション（ウェルネスとは何か）
第2回：身体運動の歴史と文化①（遊戯とは何か）
第3回：身体運動の歴史と文化②（体育とは何か）
第4回：身体運動の歴史と文化③（部活動と社会）
第5回：身体の多様性①（健康／病）
第6回：身体の多様性②（ジェンダー・セクシュアリティ）
第7回：身体の多様性③（健常／障害）
第8回：メンタルヘルス①（心身の健康）
第9回：メンタルヘルス②（メンタルトレーニング）
第10回：メンタルヘルス③（メンタルウェルネス）
第11回：食事とウェルネス①（プロテインの歴史）
第12回：食事とウェルネス②（現代社会とプロテイン）
第13回：ウェルネスとデジタルテクノロジー（身体の可視化／不可視化）
第14回：まとめ
※授業内容は、変更する場合があります。

3．履修上の注意
毎回授業では、グループディスカッションを行う。感染対策を徹底すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
予習については、前週に指示するので各自準備をして授業に臨むこと。事前に授業に関わる資料を配布したり調べるべき課題を指定したりするので、それを読み自分なりの理解と考えを整理すること。

5．教科書
特になし。

6．参考書
特になし。授業中に適宜紹介する。

7．課題に対するフィードバックの方法
毎授業時に行います。

8．成績評価の方法
授業内容の理解度（リアクションペーパー）：10%
授業内でのディスカッション：20%
期末レポート：70%

9．その他
何かあれば、適宜授業中に伝える。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツA（ヨガ・護身術）

1単位	2年次	ソリドーワル，マーヤ

1．授業の概要・到達目標
『ヨガ・武道』
本授業においてヨガ、体幹運動と武道の動きを中心に体の使い方を学びます。ヨガはインドの代表的な運動文化で､特に柔軟性を強化し、体と心のバランスを目指すエクササイズです。空手道は中国拳法の影響を受けながら沖縄で展開し、1920年代から日本本土で普及と近代化してきた日本の武道です。現在の空手道は伝統武道、競技スポーツと護身術だけでなく、健康運動としても行われています。空手道を通じて全身の体力の強化ができ、身体感覚も高められます。柔道は1882年に嘉納治五郎に創始された武道です。柔道は投げ技と固め技を中心としますが、空手道の突きや蹴りに近い当て身技も伝われています。柔道の受け身は日常生活における転倒予防にも効果があるといわれています。本授業では健康運動を観点としながら空手道と柔道の基本動作を身に付けます。
ヨガ、体幹運動及び空手道や柔道等の武道の基本動作を行うことを通じて柔軟性と体力全体を強化すること及び身体感覚や身体意識意識の向上を本授業の到達目標です。

2．授業内容
（1）イントロダクション、柔軟運動の基礎
（2）柔軟運動の応用、体幹運動
（3）体幹運動とヨガの基本動作
（4）ヨガの太陽礼拝
（5）ヨガの流れを学ぶ
（6）ヨガの復習と中間発表
（7）空手道の基本動作
（8）空手道の形
（9）空手道の約束練習の基本
(10) 空手道の約束練習の応用
(11) 柔道の受け身と基本動作
(12) 柔道の基本動作と応用
(13) 護身術
(14) 本授業のまとめ、最終発表

3．履修上の注意
服装は運動しやすい格好、足元は基本的に素足とします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
体育実技の実施に相応しい服装を用意し、体調管理を十分行うようにして下さい。

5．教科書
特定の教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

6．参考書
使用しません。

7．課題に対するフィードバックの方法
実技に関するフィードバックは授業時に行います。また、レポート課題の評価に関するフィードバックはOh-o! Meiji のシステムを使って行います。

8．成績評価の方法
平常点50%、授業態度等30%、レポート20％から総合的に評価をします。本授業は実技授業のため、特に出席を重視します。30分未満の遅刻と見学は各々 3回で、30分以上の遅刻と早退は各々 1回で欠席 1回に相当します。

9．その他
受講にあたっては、当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツB（クライミング）

1単位	2年次	高梨　美奈

1．授業の概要・到達目標
実施種目：スポーツクライミング
授業概要：
クライミングは、これまで経験したことのない人、運動が得意な人もそうでない人でも、自分のペースで取り組めるスポーツです。
クライミングを通して、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。
クライミングは個人種目ですが、グループワークをメインに、「ボルダリング（高さ4mの壁を登る）」「ロープクライミング（ロープ・ハーネスを装着し、仲間のビレイで安全を確保しながら登る）」を中心に授業を展開します。
クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体への理解を深めます。自分で目標を立ててチャレンジすること、また他者を観察し他者から学ぶこと、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感得できることを目指します。
到達目標：
・クライミングの基本技術について理解し説明できる。
・ロープクライミングの技術を習得し、安全に行うことができる。
・ボルダリングの課題を作ることができる。
・ルートを正確に読むことができる。
・事故や怪我を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。
・スポーツを通じて仲間と協力や励まし合いコミュニケーションを活発にすることができる。
・生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。
・感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる

2．授業内容
使用施設：クライミングウォール
第1回：イントロダクション，クライミングのルールと安全管理、設備と用具について
第2回：クライミングの概要，安全対策
第3回：ボルダリング，基本的な登り方
第4回：グループワーク，フットワーク（足の置き方）
第5回：グループワーク，ホールドの持ち方、体の動かし方（ムーヴ）
第6回：グループワーク，ルートを読む（オブザベーション）
第7回：グループワーク，オリジナル課題を作る
第8回：グループワーク，ロープクライミング（安全システムを学ぶ）/ ボルダリング
第9回：グループワーク，ロープクライミング（ビレイを学ぶ）/ボルダリング
第10回：グループワーク，ロープクライミング（チームビレイ）/ボルダリング
第11回：目標設定，自分の目標を決めて登る
第12回：グループワーク，課題を作る
第13回：コンペティション，ボルダリングチーム対戦
第14回：まとめ、レポート提出
クラスメートとのコミュニケーションを重視し、グループによる活動を行います。

3．履修上の注意
1. 単位修得にあたっては、授業実施回数の**3 分の 2 以上**の出席が必要となります。
2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第 1 回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
3. 受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
4. 薄手の靴下を持参して下さい。
5. 自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
（予習）スポーツクライミングに関するルールおよびリスク・安全管理について理解する。
授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
授業後はリフレクションシートを記入すること。

5．教科書
使用しません。

6．参考書
使用しません。授業で資料を配布することがあります。
おすすめ 「完全図解スポーツクライミング教本」 東秀磯　著, 山と渓谷社

7．課題に対するフィードバックの方法
Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

8．成績評価の方法
1. 授業参加度や積極性（70%）
・授業に臨む姿勢（各自の課題への取り組み、授業に対する貢献度）
・グループワークへの参加度（他者に働きかけて自ら動く態度、他者を受容・尊重する態度）
・安全管理スキル
2．毎回のリフレクション及びレポート（30%）
毎回、目標を立て、自己分析を通じ課題を見つけ、目標達成度を評価する。
そのために毎回の授業を振り返るリフレクションシートを記入し、最終日にレポートを提出する。

9．その他
1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツB（日本舞踊）

1単位	2年次	森田　ゆい

1．授業の概要・到達目標
日本の民族衣装である着物（浴衣）を着て、日本の踊りを体験することにより、着物を着た所作や立ち居振る舞いと共にその身体表現の文化を学びます。
着物（浴衣）を自分で着る技術を習得し、国際交流の場において日本舞踊を披露できる能力を培うことを目指します。

2．授業内容
第1回：イントロダクション、着物の名称、扇子の名称、日本舞踊とは
第2回：浴衣の着方，日本舞踊の基礎
第3回：浴衣の着方，日本舞踊「菊づくし」（1）
第4回：浴衣の着方，日本舞踊「菊づくし」（2）
第5回：浴衣の着方，日本舞踊「菊づくし」（3）
第6回：浴衣の着方，日本舞踊「菊づくし」（4）
第7回：「菊づくし」まとめ・理解度の確認
第8回：日本舞踊と地唄舞概論（講義）
第9回：地唄舞「浮舟」（1）
第10回：地唄舞「浮舟」（2）
第11回：地唄舞「浮舟」（3）
第12回：地唄舞「浮舟」（4）
第13回：地唄舞「浮舟」（5）
第14回：「浮舟」まとめ・理解度の確認

3．履修上の注意
各自で足袋、できれば浴衣、帯を用意してください。
用意が難しい場合には、貸し出しが可能です。
（足袋は各自でご用意頂きます）

4．準備学習（予習・復習等）の内容
自宅で練習できるように音源をお渡し出来ます。
各自で適宜予習・復習をお願いします。

5．教科書
用いません。必要に応じてプリントを配布します。

6．参考書
使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法
発表の際に、受講生で評価をしあいます。その結果を翌週にお伝えします。

8．成績評価の方法
平常点50%、踊りの実技と着付けのテスト30%、授業への貢献度10%、講義授業の際のリアクションペーパー 10%で評価します。

9．その他
受講にあたっては、当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツB (ニュースポーツ)

1単位	2年次	竹崎　一真

1．授業の概要・到達目標

現在、世界保健機構（WHO）は、「健康」を「単に病気あるいは虚弱でないというだけでなく、肉体的、精神的、社会的に良好な状態(全人的健康)」として定義している。アメリカの医学者ハルバート・ダンはこの定義をさらに深め、より良い状態にするために、自己の身体への気づきを深め、QOL（生活の質）を追求する積極的な健康法である「ウェルネス」を提唱した。

本授業では、ダンが提唱する「ウェルネス」を実践的に学ぶことに加えて、身体運動やスポーツの実践に不可欠な「身体の多様性」や「他者との共生」についての理解も高めていくことを目標とする。多様性に対する理解の高まりとともに、ユニバーサルデザイン（文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人が利用できることを目指した設計）への取り組みが重要視されている今日、「ウェルネス」にもそうした考え方を導入することが求められている。そのため授業では、自己の身体への気づきを高めることを目的とした身体運動とスポーツの実践だけでなく、身体の多様性を学ぶことを目的とした障害者スポーツの実践や、他者との共生についての理解を深めるためのスポーツのルール開発を実践する。

2．授業内容

本授業では、いわゆる「競技スポーツ」ではなく、ライフキネティックやパラスポーツ、ニュースポーツなど、誰でも能力に関係なく参加できるスポーツ中心に行う。

＜授業場所：SR11＞
第1回：イントロダクション
第2回：ライフキネティック①
第3回：ライフキネティック②
第4回：ストレングス&コンディショニング
第5回：ユニホッケー①
第6回：ユニホッケー②
第7回：パターゴルフ
第8回：ドッチビー
第9回：ペタンク／ボッチャ
第10回：ユニホッケー③
第11回：フットサル
第12回：ブラインドサッカー
第13回：ライフキネティック③
第14回：まとめ
※授業内容は、状況に応じて変更することがあります。

3．履修上の注意

運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズを使用すること。体調管理を徹底すること。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

日常的な運動習慣を身につけましょう。

5．教科書

使用しない。

6．参考書

使用しない。

7．課題に対するフィードバックの方法

毎授業時に行います。

8．成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢（60点）、クラスメイトとの関わり方（20点）、期末レポート（20点）から総合評価する。

9．その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツB (ニュースポーツ)

1単位	2年次	高梨　美奈

1．授業の概要・到達目標

実施種目：ニュースポーツ（SR11）
本授業は、これまであまり経験したことのないスポーツを通じ、生涯にわたり様々なスポーツを楽しみ、心身の健康を保持増進するための能力を培うことを目的とする。
複数のスポーツ種目を実践しながら、スポーツの幅広さを学ぶと同時に、楽しく体を動かす場をつくる力を養う。
また、他者とのコミュニケーションを通じて、意思決定や課題解決の方法を考察し、個々の成長を促進する。
【到達目標】
1. スポーツ活動における安全管理や危機管理を認識しながら活動できる。
2. 種目ごとの特性を把握し、参加者とコミュニケーションを図りながら、スポーツを楽しむことができる。
3. グループワークにおいて、他者と試行錯誤しながら安心・安全に配慮した取り組みができる。

2．授業内容

使用施設：(スポーツルーム11)
アイスブレイク、ミニホッケー、アルティメット、パラスポーツ、インディアカ、ダブルダッチ、キンボール
上記実施種目より、1～2週毎に種目を変えて実施する。
毎回、簡単な技術練習の後、ミニゲームを行い、理解を深める。
第1回：コミュニケーションゲーム（互いを知り合う）
第2回：ボールゲーム
第3回：ホッケー
第4回：キンボール
第5回：キンボール
第6回：フライングディスク
第7回：アルティメット
第8回：ダブルダッチ
第9回：ダブルダッチ
第10回：パラスポーツ（シッティングバレーボール、ボッチャ）
第11回：インディアカ、ソフトバレーボール
第12回：ミニバスケットボール
第13回：ラケットスポーツ
第14回：まとめ、レポート提出

3．履修上の注意

1. 単位修得にあたっては、授業実施回数の**3 分の 2 以上**の出席が必要となります。
2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第 1 回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
3. 授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。
4. 受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。内履きも必ず持参して下さい。
   ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
5. 自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。
6. 本務の関係で、何回かの授業を対面からオンラインに切り替える場合があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

（予習）授業で行うスポーツ種目ルールおよびリスク・安全管理について理解する。
　　授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。

5．教科書

使用しません。

6．参考書

使用しません。
Oh-o!Meijiで紹介することがあります。

7．課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

8．成績評価の方法

1. 授業参加度や積極性（70%）
・授業に臨む姿勢（各自の課題への取り組み、授業に対する貢献度）
・グループワークへの参加度（他者に働きかけて自ら動く態度、他者を受容・尊重する態度）
・安全管理スキル
2．毎回のリフレクション及びレポート（30%）
毎回、目標を立て、自己分析を通じ課題を見つけ、目標達成度を評価する。そのために毎回の授業を振り返るリフレクションシートを記入し、最終日にレポートを提出する。

9．その他

1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2．受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツB（クライミング）

1単位	2年次	高梨　美奈

1．授業の概要・到達目標
実施種目：スポーツクライミング
授業概要：
クライミングは、これまで経験したことのない人、運動が得意な人もそうでない人でも、自分のペースで取り組めるスポーツです。
クライミングを通して、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。
クライミングは個人種目ですが、グループワークをメインに、「ボルダリング（高さ4mの壁を登る）」「ロープクライミング（ロープ・ハーネスを装着し、仲間のビレイで安全を確保しながら登る）」を中心に授業を展開します。
クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体への理解を深めます。
自分で目標を立ててチャレンジすること、また他者を観察し他者から学ぶこと、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感得できることを目指します。
到達目標：
・クライミングの基本技術について理解し説明できる。
・ロープクライミングの技術を習得し、安全に行うことができる。
・ボルダリングの課題を作ることができる。
・ルートを正確に読むことができる。
・事故や怪我を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。
・スポーツを通じて仲間と協力や励まし合いコミュニケーションを活発にすることができる。
・生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心を高めることができる。
・感情や自らの言動を客観的に振り返ることで、自分自身と向き合い、自己分析力を高めることができる

2．授業内容
使用施設：クライミングウォール
第１回：イントロダクション，クライミングのルールと安全管理、設備と用具について
第２回：クライミングの概要, 安全対策
第３回：ボルダリング，基本的な登り方
第４回：グループワーク, フットワーク（足の置き方）
第５回：グループワーク, ホールドの持ち方、体の動かし方（ムーヴ）
第６回：グループワーク, ルートを読む（オブザベーション）
第７回：グループワーク, オリジナル課題を作る
第８回：グループワーク, ロープクライミング（安全システムを学ぶ）/ ボルダリング
第９回：グループワーク, ロープクライミング（ビレイを学ぶ）/ボルダリング
第10回：グループワーク, ロープクライミング（チームビレイ）/ボルダリング
第11回：目標設定, 自分の目標を決めて登る
第12回：グループワーク, 課題を作る
第13回：コンペティション, ボルダリングチーム対戦
第14回：まとめ、レポート提出
クラスメートとのコミュニケーションを重視し、グループによる活動を行います。

3．履修上の注意
1. 単位修得にあたっては、授業実施回数の**3 分の 2 以上**の出席が必要となります。
2. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第 1 回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。
3. 受講の際は、動きやすい服装に着替え、爪を短く切ってきてください。ネイルやアクセサリーは怪我の恐れがあるため厳禁です。
4. 薄手の靴下を持参して下さい。
5. 自己や他者に対し危険を及ぼす行為と教員が判断した場合は、授業を見学あるいは退出していただく場合があります。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
（予習）スポーツクライミングに関するルールおよびリスク・安全管理について理解する。
授業に向けて健康管理・健康観察や安全対策の準備を行う。
（復習）授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。
授業後はリフレクションシートを記入すること。

5．教科書
使用しません。

6．参考書
使用しません。授業で資料を配布することがあります。
おすすめ 「完全図解スポーツクライミング教本」 東秀磯　著, 山と渓谷社

7．課題に対するフィードバックの方法
Oh-o!Meijiを利用します。
質問や連絡がある場合にはOh-o!Meijiのディスカッションを通じ、連絡して下さい。

8．成績評価の方法
1. 授業参加度や積極性（70%）
・授業に臨む姿勢（各自の課題への取り組み、授業に対する貢献度）
・グループワークへの参加度（他者に働きかけて自ら動く態度、他者を受容・尊重する態度）
・安全管理スキル
2．毎回のリフレクション及びレポート（30%）
毎回、目標を立て、自己分析を通じ課題を見つけ、目標達成度を評価する。
そのために毎回の授業を振り返るリフレクションシートを記入し、最終日にレポートを提出する。

9．その他
1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。
2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診してください。

科目ナンバー：(IC)HES243J

ウェルネス・スポーツB（スノーボード）

1単位	2年次	竹崎　一真

1．授業の概要・到達目標
冬期学外集中授業＜スノーボード＞3泊4日
【概要】
この授業は、学生同士の共同生活を伴う3泊4日のスノーボード実習です。
近年、人口減少とともにスノースポーツ産業が衰退しつつあるなかで、スノーボードは若者を中心に競技人口を増やしつつあります。しかしその一方で、ゲレンデでの事故やゲレンデ外での遭難、ゲレンデでのマナー違反などが後を絶たず、スノーボードを禁止するスキー場も出てきています。スノースポーツの文化を持続可能なものとするためにも、スノースポーツにおける安全やマナーを理解し、実践することは大切です。そのため本授業では、スノーボードの技術習得はもとより、ゲレンデや雪山でのマナーや安全、危機管理についてもゲレンデ内外で積極的に学びます。
またこの授業では、実技だけでなくスノースポーツの文化と歴史についても学びます。一大スポーツレジャー産業となっているスノースポーツがどのような社会的背景のものとに登場してきたのか、スキー場開発の歴史や雪国の文化についての理解を深めます。加えて、この授業は合宿形式での実習であるため、学生同士のソーシャルスキルを身につける機会とすることもこの実習の目的とします。
【到達目標】
1）基礎的なスノーボード技術を理解し、実践できる
2）雪山での活動技術を理解し、実践できる
3）集団生活の中でのソーシャルスキルが身についている
4）雪国の文化や社会、そして自然環境を理解している

2．授業内容
【授業内容】
レベル別スノーボード実習
スノースポーツの技術・安全・環境に関する講習
【開催時期】
２０２６年２月２３日－２６日
【実習地】
栂池高原スキー場
【宿泊先】
ペンション神戸っ子
【スケジュール】
・事前授業（12月中に実施予定）
・1日目
13：00 ～ 13：30 開講式
13：30 ～ 16：30 実習（スノーボード）
19：00 ～ 20：00 講義、ミーティング
・2日目
8：30 ～ 15：30 実習（スノーボード）
19：00 ～ 20：00 講義、ミーティング
・3日目
8：30 ～ 15：30 実習（スノーボード）
19：00 ～ 20：00 講義、ミーティング
・4日目
8：30 ～ 12：00 実習（スノーボード）
12：00 ～ 12：30 閉講式

3．履修上の注意
１．事前ガイダンスには必ず出席すること。
２．履修取り消しは原則受け付けない。
その他、実習中の注意事項については事前ガイダンスにてアナウンスします。

4．準備学習（予習・復習等）の内容
特になし。

5．教科書
特になし。

6．参考書
特になし。

7．課題に対するフィードバックの方法

8．成績評価の方法
事前ガイダンスへの出席（10％）、授業への取り組み姿勢（40％）、技能上達度（30％）、グループ行動状況（20％）から、総合的に評価します。

9．その他

科目ナンバー：(IC)HES343J

ウェルネス・スポーツC (バレーボール)

1単位	3年次	奈良岡　佑南

1．授業の概要・到達目標

本授業は、バレーボールを通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。さらに健康・体力の維持向上だけでなく、友達づくりや仲間との信頼関係の構築を経験するとともに、生涯スポーツの楽しさや意義について考えていく。

基本技術の習得、種目のルールや歴史的背景の理解、自ら考え行動すること、チームでの活動に積極的に参加することを目標とする。

2．授業内容

【バレーボール】
第1回：イントロダクション(授業の進め方、諸注意)
第2回：バレーボールの歴史及、用具の準備方法、基本動作
第3回：基本練習（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)、ミニゲーム
第4回：基本練習（サーブ・レシーブ)、ミニゲーム
第5回：基本練習（スパイク・トス・ブロック)、ミニゲーム
第6回：応用練習、リーグ戦①
第7回：応用練習、リーグ戦②
第8回：応用練習、リーグ戦③
第9回：応用練習、リーグ戦④
第10回：応用練習、トーナメント戦①
第11回：応用練習、トーナメント戦②
第12回：応用練習、トーナメント戦③
第13回：応用練習、トーナメント戦④
第14回：まとめ、レポート提出
※必要に応じて内容を変更することがあります。

3．履修上の注意

1. 授業の2/3以上の出席で評価の対象とする。
2. 運動に相応しい服装とシューズで授業に出席すること。
3. 積極的に授業にとりくむこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1. 競技の特性やルールについて、教科書をもとに学習し、理解しておくこと。
2. 全員が共通の認識を持ってスムーズに授業に臨めるように準備しておく。
3. 各回で学習した内容は次週に活かせるようにしておく。

5．教科書

使用しない

6．参考書

使用しない

7．課題に対するフィードバックの方法

課題を出した際には、次週の授業時間内に口頭で講評や解説を行う。

8．成績評価の方法

授業への出席80%、レポート(10%)、授業態度(10%)

9．その他

科目ナンバー：(IC)HES343J

ウェルネス・スポーツD (バスケットボール)

1単位	3年次	奈良岡　佑南

1．授業の概要・到達目標

本授業は、バスケットボールを通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。さらに健康・体力の維持向上だけでなく、友達づくりや仲間との信頼関係の構築を経験するとともに、生涯スポーツの楽しさや意義について考えていく。

基本技術の習得、種目のルールや歴史的背景の理解、自ら考え行動すること、チームでの活動に積極的に参加することを目標とする。

2．授業内容

【バスケットボール】
第1回：イントロダクション（授業の進め方、諸注意）
第2回：バスケットボールの歴史、用具の準備方法、基本動作
第3回：基本練習（パス、ドリブル、シュート)、ミニゲーム①
第4回：基本練習（パス、ドリブル、シュート)、ミニゲーム②
第5回：基本練習（パス、ドリブル、シュート)、ミニゲーム③
第6回：応用練習（1対1、2対2）ミニゲーム①
第7回：応用練習（1対1、2対2）ミニゲーム②
第8回：応用練習（1対1、2対2）ミニゲーム③
第9回：応用練習（3対3、ディフェンスの種類）ミニゲーム①
第10回：応用練習（3対3、ディフェンスの種類）ミニゲーム②
第11回：応用練習（3対3、ディフェンスの種類）ミニゲーム③
第12回：リーグ戦①
第13回：リーグ戦②
第14回：まとめ、レポート提出
※必要に応じて内容を変更することがあります。

3．履修上の注意

1. 授業の2/3以上の出席で評価の対象とする。
2. 運動に相応しい服装とシューズで授業に出席すること。
3. 積極的に授業にとりくむこと。

4．準備学習（予習・復習等）の内容

1. 競技の特性やルールについて、教科書をもとに学習し、理解しておくこと。
2. 全員が共通の認識を持ってスムーズに授業に臨めるように準備しておく。
3. 各回で学習した内容は次週に活かせるようにしておく。

5．教科書

使用しない

6．参考書

使用しない

7．課題に対するフィードバックの方法

課題を出した際には、次週の授業時間内に口頭で講評や解説を行う。

8．成績評価の方法

授業への出席80%、レポート(10%)、授業態度(10%)

9．その他

キャリアデザイン科目群

科目ナンバー：(IC)INS131J

キャリアデザイン（春学期）

２単位	１年次	コーディネーター 小田　光康

１．授業の概要・到達目標

「キャリア」という言葉は日本語にしにくい言葉で､あえて訳せば「職業生涯」となる。つまりキャリアとは、ある特定の時点での仕事やその成果を問題にするのではなく、過去・現在・将来というように時間が経過していく中で、仕事を中心に見た生涯のことを意味している。

このようなキャリアは、それぞれの人によって異なっていて、千人の人がいれば千とおりのキャリアが生まれ、しかもそのうちどのキャリアが優れているという性格のものでもない。なぜなら理想的なキャリアも、また人によって異なっているからである。キャリアデザインとは、各人が、それぞれの適性や興味、あるいは経験などをベースに、仕事（や活動）を中心としたそれぞれの生涯を設計することである。その中には、そのような生涯を実現するためには、現在あるいは近い将来、何をしたら良いかを考えることも含まれている。

この授業は、受講生が自らのキャリアをデザインしていくための糸口を見出だせるようになることを目標としている。そのために授業では、最初の１回では概論的な説明を行なうが、それ以降は、様々な分野で実際に活躍している人をゲストに招き、その経験などを話してもらうことにしている。これらをもとに、学生諸君が自らのキャリアをデザインしていくことを期待している。

２．授業内容

第１回は、この科目の担当教員が次の内容の講義を行なう。

「キャリアデザインとは何か」

第２回以降は、以下のゲストスピーカーによる講義である。

なお、それぞれ超多忙に活躍されている方々なので、開講順序の変更等もありうるが、その都度、Oh-o!Meiji等でアナウンスを行うので、注意されたい。

1　オリエンテーション「キャリアデザインとは何か」
2　フリーランスではたらくには
3　広告屋の背伸びのキャリアデザイン
4　肩書きは自分で作れ　Coの時代のキャリアデザイン
5　外資系企業で働くということ
6　旅から生まれる未知で豊かな生き方と仕事
7　英語でケンカできるキャリアの作り方
8　弁護士のこれまでと、これから
9　カルト問題専門のライターという仕事
10　スタートアップで働くということ～ＡＩ時代のキャリアデザイン～
11　テレビで働くということ～アナウンサーのコミュニケーション術～
12　企業コミュニケーション・広報という仕事
13　「茶の道」というキャリア
14　自分のキャリアは自分で創れ

３．履修上の注意

1．不可抗力以外の遅刻は欠席扱い、授業中の私語・居眠り、スーとフォンの使用等は厳禁。
2．受講態度が不良の場合、退室を命じ、その後の受講を認めず単位を付与しない。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

最近の就職活動、労働市場、起業に関する新聞記事等を読んでくること。

５．教科書

特定の教科書は使用しない。

６．参考書

平松庚三著『君は英語でケンカができるか? ～プロ経営者が教えるガッツとカタカナ英語の仕事術キャリアに揺れる』(クロスメディア・パブリッシング（インプレス)、2015)

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に随時対応する。

８．成績評価の方法

出席状況と、毎回の提出を課すレポート（Oh-o!Meijiクラスウェブアンケート）：70%
最終レポート：30%
※ただし、全体の11回以上の出席と、期限内のレポート提出は、単位取得の必要条件。30分未満の遅刻･早退は0.5出席とカウントする。30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。

９．その他

科目ナンバー：(IC)INS131J

キャリアデザイン（秋学期）

２単位	１年次	コーディネーター 小田　光康

１．授業の概要・到達目標

「キャリア」という言葉は日本語にしにくい言葉で､あえて訳せば「職業生涯」となる。つまりキャリアとは、ある特定の時点での仕事やその成果を問題にするのではなく、過去・現在・将来というように時間が経過していく中で、仕事を中心に見た生涯のことを意味している。

このようなキャリアは、それぞれの人によって異なっていて、千人の人がいれば千とおりのキャリアが生まれ、しかもそのうちどのキャリアが優れているという性格のものでもない。なぜなら理想的なキャリアも、また人によって異なっているからである。キャリアデザインとは、各人が、それぞれの適性や興味、あるいは経験などをベースに、仕事（や活動）を中心としたそれぞれの生涯を設計することである。その中には、そのような生涯を実現するためには、現在あるいは近い将来、何をしたら良いかを考えることも含まれている。

この授業は、受講生が自らのキャリアをデザインしていくための糸口を見出だせるようになることを目標としている。そのために授業では、最初の１回では概論的な説明を行なうが、それ以降は、様々な分野で実際に活躍している人をゲストに招き、その経験などを話してもらうことにしている。これらをもとに、学生諸君が自らのキャリアをデザインしていくことを期待している。

２．授業内容

第１回は、この科目の担当教員が次の内容の講義を行なう。

「キャリアデザインとは何か」

第２回以降は、以下のゲストスピーカーによる講義である。

なお、それぞれ超多忙に活躍されている方々なので、開講順序の変更等もありうるが、その都度、Oh-o!Meiji等でアナウンスを行うので、注意されたい。

1　イントロダクション「キャリアデザインとは何か」
2　英語でケンカできるキャリアの作り方
3　テレビで働くということ～アナウンサーのコミュニケーション術～
4　旅から生まれる未知で豊かな生き方と仕事
5　スタートアップで働くということ～ＡＩ時代のキャリアデザイン～
6　フリーランスではたらくには
7　肩書きは自分で作れ　Coの時代のキャリアデザイン
8　カルト問題専門のライターという仕事
9　弁護士のこれまでと、これから
10　外資系企業で働くということ
11　「茶の道」というキャリア
12　企業コミュニケーション・広報という仕事
13　広告屋の背伸びのキャリアデザイン
14　自分のキャリアは自分で創れ

３．履修上の注意

1．不可抗力以外の遅刻は欠席扱い、授業中の私語・居眠りは厳禁。
2．受講態度が不良の場合、退室を命じ、その後の受講を認めず、単位を付与しない。

４．準備学習（予習・復習等）の内容

最近の就職活動、労働市場、起業に関する新聞記事等を読んでくること。

５．教科書

特定の教科書は使用しない。

６．参考書

平松庚三著『君は英語でケンカができるか? ～プロ経営者が教えるガッツとカタカナ英語の仕事術キャリアに揺れる』(クロスメディア・パブリッシング（インプレス)、2015)

７．課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜対応します。

８．成績評価の方法

出席状況と、毎回の提出を課すレポート（Oh-o!Meijiクラスウェブアンケート）：70%
最終レポート：30%
※ただし、全体の11回以上の出席と、期限内のレポート提出は、単位取得の必要条件。30分未満の遅刻･早退は0.5出席とカウントする。30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。

９．その他

科目ナンバー：(IC)INS231J

インターンシップ入門

２単位	２年次	久保田　達之助

１．授業の概要・到達目標
【授業概要】
現役企業人講師による講義な為、企業が求める人材についてリアルな話が中心になる。就職協定撤廃により、早期から自己分析を行いキャリアについて考えることが求められる。受講生がインターンを受ける為の羅針盤になるように講義を行う。
【到達目標】
やりたい仕事を絞れ、どうすれば希望職種に就けるかを自分で考えられるレベルになる。

２．授業内容
第１回：イントロダクション
第２回：就職活動の取り巻く環境
第３回：自己実現とキャリアデザインについて考える
第４回：実践的企業活動（１）
第５回：実践的企業活動（２）
第６回：実践的企業活動（３）
第７回：実践的企業活動（４）
第８回：実践的企業活動（５）
第９回：実践的企業活動（６）
第10回：実践的企業活動（７）
第11回：実践的企業活動（８）
第12回：実践的企業活動（９）
第13回：実践的企業活動（10）
第14回：授業総括
＊講義内容は必要に応じて変更になることがあります。

３．履修上の注意
多くの企業人ゲストスピーカーが講義するので、受講態度が望ましくないと判断される学生に対して厳格に対応するので注意すること。講師は明治大学OBで現役大手消費財メーカー CMOなので、企業人から積極的に吸収したい学生のみ受講すること。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
授業中に指示した企業に関する業界研究を行い、理解を深めること。

５．教科書
特になし。担当教員の作成した資料に沿って講義を進める。

６．参考書
特になし。

７．課題に対するフィードバックの方法
期末レポートの解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

８．成績評価の方法
平常点60%、レポート40%
なお、平常点は出席状況、受講態度、質問の多さ等、参加姿勢から総合的に評価する。

９．その他

科目ナンバー：(IC)INS331J

実践キャリア支援講座

２単位	３年次	コーディネーター 坂本　祐太

１．授業の概要・到達目標
この授業のコンセプトは、「授業の中での就業体験」である。具体的には、毎回の授業に際して、協力企業３社（担当順に株式会社博報堂、TOPPAN株式会社、株式会社オプト）の社員が講師として出講し、大学の教室内で就業体験に準拠した授業を行うという新たな形態である。授業テーマである「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」について、学生は最前線の現場で活躍する企業の社員による最新の講義を受講し、問題解決型のワークに取り組むことによって、授業内でDXに関する実務に即した就業体験が可能となる。この授業の到達目標は、実際にビジネスの現場で取り扱う専門知識をワーク形式で体感的に学ぶことで、受講生にＤＸに関する知見を実践的に習得するとともに、受講生が職業観に関する意識を深め、自身のキャリア形成や将来的なキャリアアップについて主体的に考える力を涵養することである。

２．授業内容
【この科目はクォーター（７週）完結型授業です】
授業は、１週２コマ連続、７週に渡って実施し、ほとんどすべての日にワークや発表の時間があります。
・第１回　ＤＸに関する講義　担当：株式会社博報堂
・第２回　ＤＸに関するワーク・発表　担当：株式会社博報堂
・第３回　ＤＸに関する講義　担当：株式会社博報堂
・第４回　ＤＸに関するワーク・発表　担当：TOPPAN株式会社
・第５回　ＤＸに関する講義　担当：TOPPAN株式会社
・第６回　ＤＸに関するワーク・発表　担当：株式会社オプト
・第７回　ＤＸに関するワーク・発表　担当：株式会社オプト
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

３．履修上の注意
講義はグループワークが中心となるので、主体的な授業態度を求めます。特に欠席や遅刻はグループメンバーのみならず、協力企業の講師の方々にも大きな迷惑をかけることにもなるため、厳に慎んでください。当講義の履修期間中は、社会人の態度や目線を模して、高い意識をもった学生生活を心がけてください。
また、講義は最前線で働いている企業の社員と接する機会でもあります。学生という立場に甘んじて受け身になることなく、履修生からも積極的にコミュニケーションを取ることを求めます。
授業外の時間においても世の中のビジネスに対し高い感度を持ち、例えばウェブサイトなどで積極的に情報収集を行うなど、高い知的好奇心を発揮してください。そうした立ち居振る舞いが、当講義の学習成果を最大限高めることにもつながります。

４．準備学習（予習・復習等）の内容
特にないが、授業前後に指示する場合がある。

５．教科書
特になし。

６．参考書
参考資料を示す場合がある。

７．課題に対するフィードバックの方法
課題を課す場合、講評は次の回において講評・解説を示す。

８．成績評価の方法
授業への貢献度（小レポート含む）により評価する。

９．その他
特になし。

授業科目名索引

授業科目名	ページ数
ゼミナール科目群	
基礎ゼミナール	6～18
問題発見テーマ演習Ａ	20～33
問題発見テーマ演習Ｂ	34～46
問題分析ゼミナールⅠ	2024年度ゼミナール案内を参照
問題分析ゼミナールⅡ	
問題解決ゼミナールⅠ	
問題解決ゼミナールⅡ	
学際科目群	
情報コミュニケーション学入門Ａ	48
情報コミュニケーション学入門Ｂ	
情報コミュニケーション学	49
専門科目群	
社会科学	
家族社会学概論	52
環境と社会	52
経営学	53
憲法Ａ（憲法）	53
憲法Ｂ	54
コミュニティ論	54
ジェンダー論	55
市民社会と法Ⅰ	55
市民社会と法Ⅱ	56
社会学Ａ	56
社会学Ｂ	57
社会心理学Ａ〔Ｍ〕	57
社会心理学Ｂ〔Ｍ〕	58
情報社会と経済	58
情報倫理	59
政治学	59
組織論	60
犯罪と法Ⅰ	60
犯罪と法Ⅱ	61
法学	61
マクロ経済学	62
ミクロ経済学	62
メディア・リテラシー	63
人文科学	
異文化理解	65
英語文学Ａ（英米文学）	65
英語文学Ｂ（英米文学）	66
外国文学	66～67
言語学	67
宗教学	68
小集団コミュニケーション	68～69
新興国事情	69
心理学Ａ〔Ｍ〕	70
心理学Ｂ〔Ｍ〕	70
生命論Ａ〔Ｍ〕	71
生命論Ｂ〔Ｍ〕	71
西洋史概論〔Ｍ〕	72
地域文化論（基礎）	72
地誌学	73
地理学	73
哲学	74
東洋史概論	74
日本史概論（日本史概論Ａ）	75
日本文学	75
パブリック・スピーキング	76

授業科目名	ページ数
比較文化（基礎）Ａ	76
比較文化（基礎）Ｂ	77
メディア批評	77
歴史学（日本史概論Ｂ）	78
自然科学	
科学技術史	80
環境生物学〔Ｍ〕	80
情報科学	81
情報検索論	81
人類学Ａ	82
人類学Ｂ	82
地球環境科学	83
脳科学〔Ｍ〕	83
社会システム	
イノベーションの経済学（法と社会科学Ⅰ）	85
ＮＰＯ論	85
家族と法Ⅰ	86
家族と法Ⅱ	86
経済思想史	87
現代アメリカ政治論〔Ｍ〕（政策過程論）	87
現代行政と法Ａ（行政法と行政過程Ⅰ）	88
現代行政と法Ｂ（行政法と行政過程Ⅱ）	88
現代型犯罪と刑法Ⅰ	89
現代型犯罪と刑法Ⅱ	89
現代政治学Ⅰ	90
現代政治学Ⅱ	90
公共政策Ａ	91
公共政策Ｂ	91
コーポレート・ガバナンスⅠ	92
コーポレート・ガバナンスⅡ	92
国際開発論	93
国際関係論Ⅰ	93
国際関係論Ⅱ	94
国際経済論Ａ（国際経済論Ⅰ）	94
国際経済論Ｂ（国際経済論Ⅱ）	95
個人と国家（人権と憲法Ⅰ）	95
財産と法Ⅰ	96
財産と法Ⅱ	96
ジェンダーと法Ａ（ジェンダーと法Ⅰ）	97
ジェンダーと法Ｂ（ジェンダーと法Ⅱ）	97
ジェンダー・マネジメントⅠ	98
ジェンダー・マネジメントⅡ	98
社会思想史	99
社会福祉学Ａ	99
社会福祉学Ｂ	100
情報産業論	100
情報システム論	101
情報社会論Ａ	101
情報社会論Ｂ	102
情報政策論Ａ〔Ｍ〕（情報政策論Ⅰ）	102
情報政策論Ｂ（情報政策論Ⅱ）	103
情報法Ａ	103
情報法Ｂ	104
人権と政策（人権政策）	104
政治とメディア	105
ソーシャルビジネス論	105
組織と情報	106
知的財産法Ａ〔Ｍ〕（知的財産法Ⅰ）	106
知的財産法Ｂ〔Ｍ〕（知的財産法Ⅱ）	107

授業科目名索引

授業科目名	ページ数
犯罪社会学	107
ビジネスと法A〔M〕	108
ビジネスと法B〔M〕	108
ファイナンス論A（金融システム論Ⅰ）	109
ファイナンス論B（金融システム論Ⅱ）	109
紛争解決システム論Ⅰ	110
紛争解決システム論Ⅱ	110
マスコミュニケーション論A	111
マスコミュニケーション論B	111
メディアの歴史	112
メディア論	112
文化と表象	
アート・マネジメント	114
異文化コミュニケーション史	114
英語の文化と歴史	115
映像表現論	115～116
音楽表現論	116
記号論	117
近・現代史Ⅰ	117
近・現代史Ⅱ	118
言語態研究	118
言語表現論	119
広告論	119
ジェンダーと社会Ⅰ	120
ジェンダーと社会Ⅱ	120
ジャーナリズム論Ⅰ	121
ジャーナリズム論Ⅱ	121
社会文化史（社会文化史A）	122
情報社会と教育A	122
情報社会と教育B	123
情報社会と芸術	123
情報社会と出版	124
情報デザイン論	124
情報文化論	125
スポーツ・ジャーナリズム論	125
造形表現論	126
多文化と相互理解Ⅰ	126
多文化と相互理解Ⅱ	127
地域文化論（英語圏） A	127
地域文化論（英語圏） B	128
地域文化論（ドイツ）（地域文化論A（ドイツ））	128
地域文化論（フランス）（地域文化論A（フランス））	129
地域文化論（スペイン）（地域文化論D（スペイン））	129

授業科目名	ページ数
地域文化論（中国）（地域文化論C（中国））	130
地域文化論（朝鮮）（地域文化論C（朝鮮））	130
地域文化論（イスラーム）（地域文化論D（イスラーム））	131
超域文化論	131
日本文化論A	132
日本文化論B	132
比較文学・比較文化AⅠ	133
比較文学・比較文化AⅡ	133
比較文学・比較文化BⅠ	134
比較文学・比較文化BⅡ	134
ユニバーサルデザイン	135
倫理学	135
人間と環境	
意思決定論A（意思決定論Ⅰ）	137
意思決定論B（意思決定論Ⅱ）	137
異文化間コミュニケーション	138
科学技術と人間	138
家族社会学（家族社会学Ⅰ）	139
環境政策Ⅰ	139
環境政策Ⅱ	140
言語使用とディスコース（談話コミュニケーションⅡ）	140
コミュニケーション思想史	141
自然言語の生成モデル（談話コミュニケーションⅠ）	141
自然地理学	142
消費行動の心理学	142
情報社会と安全A	143
情報社会と安全B	143
情報と経済行動〔M〕	144
情報と職業	144
人口論	145
身体と意識	145
身体表現論	146
人文地理学	146
生命思想史Ⅰ〔M〕	147
生命思想史Ⅱ〔M〕	147
組織コミュニケーションA	148
組織コミュニケーションB	148
都市情報論	149
人間性心理学	149
認知科学Ⅰ	150
認知科学Ⅱ	150
ネットワーク社会論	151
パーソナリティ心理学	151

授業科目名索引

授業科目名	ページ数
不確実性下の人間行動	152
不思議現象の心理学	152
法コミュニケーション	153
リスク社会論	153
外国語科目群	
英語	
English Skills ＡⅠ	156～162
English Skills ＡⅡ	163～169
English Skills ＢⅠ	170～176
English Skills ＢⅡ	176～182
Speech & Debate Ａ（Speech & Debate Ⅰ）	183～184
Speech & Debate Ｂ（Speech & Debate Ⅱ）	184～185
Critical Reading	186～191
Critical Discussion	192～197
Critical Writing Ａ（Critical Writing Ⅰ）	197～198
Critical Writing Ｂ（Critical Writing Ⅱ）	199～200
English Seminar Ⅰ	200
English Seminar Ⅱ	201
英語コミュニケーションⅠ	201～202
英語コミュニケーションⅡ	202～203
英語音声学	203
ドイツ語	
ドイツ語ＡⅠ	205～206
ドイツ語ＡⅡ	206～207
ドイツ語ＢⅠ	208～209
ドイツ語ＢⅡ	209～210
ドイツ語演習Ⅰ	211
ドイツ語演習Ⅱ	211
フランス語	
フランス語ＡⅠ	213～214
フランス語ＡⅡ	214～215
フランス語ＢⅠ	216～217
フランス語ＢⅡ	217～218
フランス語演習Ⅰ	219
フランス語演習Ⅱ	219
スペイン語	
スペイン語ＡⅠ	221
スペイン語ＡⅡ	222
スペイン語ＢⅠ	223～224
スペイン語ＢⅡ	225～226
スペイン語演習Ⅰ	227
スペイン語演習Ⅱ	227
中国語	
中国語ＡⅠ	229～230
中国語ＡⅡ	230～231
中国語ＢⅠ	232
中国語ＢⅡ	233
中国語演習Ⅰ	234
中国語演習Ⅱ	234
韓国語	
韓国語ＡⅠ	236
韓国語ＡⅡ	237
韓国語ＢⅠ	238
韓国語ＢⅡ	239
韓国語演習Ⅰ	240
韓国語演習Ⅱ	240
タイ語	
タイ語ＡⅠ	242
タイ語ＡⅡ	242

授業科目名	ページ数
タイ語ＢⅠ	243
タイ語ＢⅡ	243
タイ語演習Ⅰ	244
タイ語演習Ⅱ	244
研究方法・表現実践科目群	
情報リテラシー科目	
専門情報リテラシー	247～249
ネットワーク技術Ⅰ	250
ネットワーク技術Ⅱ	250
ネットワーク技術Ⅲ	251
ネットワーク技術Ⅳ	251
プログラミング実習Ⅰ	252
プログラミング実習Ⅱ	253
アルゴリズム実習Ⅰ	254
アルゴリズム実習Ⅱ	254
日本語表現科目	
日本語表現Ⅰ	256～258
日本語表現Ⅱ	259～261
クリエイション科目	
演劇学	263
音楽論	263
クリエイティブ・コミュニケーション	264～269
美学・芸術学	270
身体コミュニケーションＡ	270～271
身体コミュニケーションＢ	271
メディア・アート	272
デジタルアートＡ（デジタルアートⅠ）	272～273
デジタルアートＢ（デジタルアートⅡ）	273～274
デジタルプレゼンテーション	274
非言語コミュニケーション	275
メディア教育論	275～276
リサーチリテラシー科目	
科学リテラシー	278
数理リテラシー	278
統計学Ａ	279
統計学Ｂ	279
論理リテラシー	280
社会調査法Ａ	280～281
社会調査法Ｂ	281～282
社会調査実習	282～283
質的調査分析法	283
データ解析論Ⅰ	284
データ解析論Ⅱ	284
海外留学科目群	
国際交流	286～287
ウェルネス科目群	
ウェルネスＡ	289
ウェルネスＢ	290
ウェルネス・スポーツＡ	290
ウェルネス・スポーツＢ	291～293
ウェルネス・スポーツＣ	294
ウェルネス・スポーツＤ	294
キャリアデザイン科目群	
キャリアデザイン	296
インターンシップ入門	297
実践キャリア支援講座	297